

SETSUNAN UNIVERSITY
SYLLABUS

2015 経済学部 授業計画
経済学科

經 濟 学 部

(学部略号：W)

Faculty of Economics

経済学科

(学科略号：W)

Department of Economics

経済学部 教育目標

経済学部経済学科は、経済学を基礎として幅広い見識と豊かな人間性を有し、現代の経済社会の諸問題に積極的に取り組むことのできる知的・専門的経済人を養成することを目的とする。

授 業 計 画

科目名	担当者	ページ
ア		
アジア経済史	八木 紀一郎	9
アメリカ経済・文化論	浅羽 良昌	11
イ		
インターンシップⅠ	石井 三恵 富岡 直美	309
インターンシップⅡ	石井 三恵	310
エ		
英語Ⅰa	近藤 未奈	189
英語Ⅰa	大原関 一浩	191
英語Ⅰa	岩永 道子	192
英語Ⅰa	岡 あゆみ	193
英語Ⅰa	松木園 久子	195
英語Ⅰa	崎 ミチアン	197
英語Ⅰa	李 孝聖	198
英語Ⅰb	近藤 未奈	200
英語Ⅰb	大原関 一浩	202
英語Ⅰb	岩永 道子	203
英語Ⅰb	岡 あゆみ	204
英語Ⅰb	松木園 久子	206
英語Ⅰb	崎 ミチアン	208
英語Ⅰb	李 孝聖	209
英語Ⅱa	松井 智子	211
英語Ⅱa	谷脇 康子	213
英語Ⅱa	ダンカン ホワト	215
英語Ⅱa	平尾 秀実	217
英語Ⅱa	松浦 茂寿	218
英語Ⅱa	有本 好一郎	219
英語Ⅱa	中本 明子	220
英語Ⅱb	松井 智子	222
英語Ⅱb	谷脇 康子	224
英語Ⅱb	ダンカン ホワト	226
英語Ⅱb	平尾 秀実	228
英語Ⅱb	松浦 茂寿	229
英語Ⅱb	有本 好一郎	230
英語Ⅱb	中本 明子	231
英語Ⅱb	金原 真由美	312
英語Ⅱb	本多 善	314
英語Ⅱc	松井 智子	316
英語Ⅱc	谷脇 康子	318
英語Ⅱc	ダンカン ホワト	320
英語Ⅱc	平尾 秀実	322
英語Ⅱc	松浦 茂寿	323
英語Ⅱc	有本 好一郎	324
英語Ⅱc	中本 明子	325
英語Ⅱd	金原 真由美	327
英語Ⅱd	本多 善	329
英語Ⅲa	曾我 直隆	331
英語Ⅲa	谷脇 康子	333

科目名	担当者	ページ
英語Ⅲa	スミザース 理恵	335
	担当者未定	
英語Ⅲb	曾我 直隆	336
英語Ⅲb	谷脇 康子	338
英語基礎会話a	ジョン カール	233
英語基礎会話a	ジョセフ シウンシ	234
英語基礎会話a	スコット ライリー	236
英語基礎会話a	アレン ニール	237
英語基礎会話a	ブライアン スレーター	238
英語基礎会話a	アイビス ウィリアム	239
英語基礎会話a	ブルース ライリー	240
英語基礎会話a	ショーン マクガバン	241
英語基礎会話a	ジョセフ シウンシ	243
英語基礎会話a	アレン ニール	245
英語基礎会話a	ブライアン スレーター	246
英語基礎会話a	ジョン カール	247
英語基礎会話a	アイビス ウィリアム	248
英語基礎会話a	ダニエル マリズ	249
英語基礎会話b	ジョン カール	251
英語基礎会話b	ジョセフ シウンシ	252
英語基礎会話b	スコット ライリー	254
英語基礎会話b	アレン ニール	256
英語基礎会話b	ブライアン スレーター	257
英語基礎会話b	アイビス ウィリアム	258
英語基礎会話b	ブルース ライリー	259
英語基礎会話b	ショーン マクガバン	260
英語基礎会話b	ジョセフ シウンシ	262
英語基礎会話b	アレン ニール	264
英語基礎会話b	ブライアン スレーター	265
英語基礎会話b	ジョン カール	266
英語基礎会話b	アイビス ウィリアム	267
英語基礎会話b	ダニエル マリズ	268
英語で学ぶ工学入門（ものづくり編）	森脇 俊道	340
エンプロイメントデザインⅠ	石井 三恵 水野 武	421
エンプロイメントデザインⅡ	石井 三恵 水野 武	423

カ

海外語学研修	齋藤 安以子	270
会計学入門	朴 景淑	12
会社法	高田 尚彦	13
開発経済学	内田 勝巳	14
観光学入門	持永 政人	15
観光学入門	野村 佳子	16
観光経済論	西川 浩平	17
観光交通論	牧野 邦昭	18
観光産業政策論	西川 浩平	19
観光産業における経営分析論	西川 浩平	20
観光産業における経営分析	西川 浩平	21
観光資源論	牧野 邦昭	22
観光人材論	持永 政人	23

科目名	担当者	ページ
観光ビジネス英語	野村佳子	24
観光マーケティング論	持永政人	25
観光旅行関連法規	持永政人	26
関西経済論	田中幹大	27

キ

基礎演習	八木紀一郎	28
基礎演習	平野泰朗	29
基礎演習	浅羽良昌	30
基礎演習	内田勝巳	31
基礎演習	久保廣正	32
基礎演習	後藤和子	33
基礎演習	朴景淑	34
基礎演習	蛭川雅之	35
基礎演習	持永政人	36
基礎演習	植杉大	37
基礎演習	岸田未来	38
基礎演習	田井義人	39
基礎演習	野口義直	40
基礎演習	野村佳子	41
基礎演習	牧野邦昭	42
基礎演習	郭進	43
基礎演習	田中鮎夢	44
基礎演習	西川浩平	45
基礎演習	名方佳寿子	46
北河内学－摂南大学と北河内を知る－	尾山廣	341
キャリアデザイン	水野武	425
キャリア特別講義	郭進	426
教育課程論	大野順子	433
教育経営論	朝日素明	435
教育原理	小山裕樹	437
教育実習Ⅰ	朝日素明	439
教職実践演習(中・高)	吉田佐治子	440
教育社会学	大野順子	442
教育心理学	吉田佐治子	444
教育相談	吉田佐治子	445
教育方法論	林茂樹	446
教師論	朝日素明	448
行政法	金谷重樹	47
金融論	植杉大	48

ケ

経営学	岸田未来	49
経済学入門(エコノミックリテラシー)	後藤和子	50
経済学入門(エコノミックリテラシー)	植杉大	51
経済キャリア入門	野村佳子	427
経済キャリア入門	田井義人	428
経済思想史	牧野邦昭	52
経済情報論	岸田未来	271
経済情報論	牧野邦昭	272
経済情報論	郭進	273
経済進化論	牧野邦昭	53

科目名	担当者	ページ
経済地理	野口義直	54
健康科学	藤林真美	343
現代ファイナンス論	蛭川雅之	55

コ

公益会計論	田井義人	56
公共経済学	平野泰朗	58
公共政策論	名方佳寿子	60
航空産業論	野村佳子	61
公衆衛生学	小堀栄子	345
国際協力論	内田勝巳	62
国際金融論	久保廣正	63
国際経済学入門	野口義直	64
国際経済学入門	田中鮎夢	66
国際経済論	野口義直	67
国際経済論	田中鮎夢	69
国際投資論	田中鮎夢	70
国際マーケティング論	岸田未来	71

サ

サービス産業論	西川浩平	72
財政学	名方佳寿子	73

シ

自然地理学	笠原俊則	346
社会科・公民科教育法Ⅰ	大野順子	450
社会科・公民科教育法Ⅱ	大野順子	452
社会科・地歴科教育法Ⅱ	井上正英	454
社会科・地歴科教育法Ⅰ	井上正英	456
社会学	武田祐佳	347
社会経済学Ⅰ	八木紀一郎	74
社会経済学Ⅰ	平野泰朗	75
社会経済学Ⅱ	八木紀一郎	77
社会と人権	有馬善一	348
	林田敏子	
	松島裕一	
社会保障論	西川浩平	79
就職実践基礎	亀田峻宣	350
就職実践基礎	亀田峻宣	351
就職実践基礎	西座由紀	352
就職実践基礎	橋本朗子	353
就職実践基礎	松田剛典	354
就職実践基礎	松田剛典	355
就職実践基礎	西座由紀	356
就職実践基礎	亀田峻宣	357
宿泊産業論	持永政人	80
商法	高田尚彦	81
人文地理学	木本浩一	358
心理学Ⅰ	山本雅代	360
心理学Ⅱ	山本雅代	361

科目名	担当者	ページ
ス		
数学基礎 I	高尾尚武	274
数学基礎 I	早味俊夫	275
数学基礎 I	高尾尚武	276
数学基礎 I	早味俊夫	277
数学基礎 II	西脇純一	278
数学基礎 II	早味俊夫	279
数学基礎 II	西脇純一	280
数学基礎 II	早味俊夫	281
数的能力開発	西座由紀	430
スポーツ科学実習 I	河瀬泰治	282
スポーツ科学実習 II	河瀬泰治	283

科目名	担当者	ページ
セ		
政治学	森康一	363
政治学概論 I	森康一	364
政治学概論 II	森康一	365
青少年育成ファシリテーター養成講座	浅野英一	366
生徒指導論	朝日素明	458
生物学	尾崎清和	367
西洋経済史	岸田未来	82
世界観光事情	浅羽良昌	83
世界の政治	森康一	368
世界の歴史	村上司樹	369
摂南経済ゲストレクチャー	八木紀一郎	84
専門演習 I	八木紀一郎	86
専門演習 I	平野泰朗	87
専門演習 I	内田勝巳	88
専門演習 I	久保廣正	89
専門演習 I	後藤和子	90
専門演習 I	朴景淑	91
専門演習 I	蛭川雅之	92
専門演習 I	持永政人	93
専門演習 I	植杉大	94
専門演習 I	岸田未来	95
専門演習 I	田井義人	96
専門演習 I	野口義直	97
専門演習 I	野村佳子	98
専門演習 I	牧野邦昭	99
専門演習 I	郭進	100
専門演習 I	田中鮎夢	101
専門演習 I	西川浩平	102
専門演習 I	名方佳寿子	103
専門演習 II (インターンシップ)	持永政人	104
専門演習 II (インターンシップ)	野村佳子	105
専門演習 II (上級ゼミ)	浅羽良昌	106
専門演習 II (上級ゼミ)	久保廣正	107
専門演習 II (上級ゼミ)	朴景淑	108
専門演習 II (上級ゼミ)	平野泰朗	109
専門演習 II (上級ゼミ)	蛭川雅之	110
専門演習 II (上級ゼミ)	牧野邦昭	111

科目名	担当者	ページ
専門演習 II (上級ゼミ)	郭進	112
専門演習 II (上級ゼミ)	田中鮎夢	113
専門演習 II (上級ゼミ)	名方佳寿子	114
専門演習 II (フィールド調査)	八木紀一郎	115
専門演習 II (フィールド調査)	内田勝巳	116
専門演習 II (フィールド調査)	後藤和子	117
専門演習 II (フィールド調査)	植杉大	118
専門演習 II (フィールド調査)	岸田未来	119
専門演習 II (フィールド調査)	田井義人	120
専門演習 II (フィールド調査)	野口義直	121
専門演習 II (フィールド調査)	西川浩平	122
専門日本語 F I	中岡樹里	284
専門日本語 F II	中岡樹里	285

科目名	担当者	ページ
ソ		
卒業研究	蛭川雅之	123
卒業研究	名方佳寿子	124
卒業研究	岸田未来	125
卒業研究	野口義直	126
卒業研究	郭進	127
卒業研究	牧野邦昭	128
卒業研究	八木紀一郎	129
卒業研究	浅羽良昌	130
卒業研究	平野泰朗	131
卒業研究	朴景淑	132
卒業研究	田井義人	133
卒業研究	植杉大	134
卒業研究	持永政人	135
卒業研究	野村佳子	136
卒業研究	西川浩平	137
卒業研究	田中幹大	138
卒業研究	田中鮎夢	139
卒業研究	内田勝巳	140

科目名	担当者	ページ
タ		
ダイバーシティとコミュニケーション	石井三恵	370

科目名	担当者	ページ
チ		
地域金融論	植杉大	141
地域経済入門	後藤和子	142
地域経済入門	郭進	143
地域産業論	内田勝巳	144
地域統合論	久保廣正	145
地域の持続的発展	田井義人	146
地域保健医療	田井義人	147
地域連携教育活動 I	浅野英一	371
地域連携教育活動 II	浅野英一	372
チームビルディング	水野武	373
地球環境経済	野口義直	149
地誌学	木本浩一	374
地方財政論	後藤和子	151
地方自治論	田井義人	152

科目名	担当者	ページ
中小企業論	田中幹大	153
地理学Ⅰ	笠原俊則	376
地理学Ⅱ	木本浩一	377
テ		
哲学Ⅰ	濱良祐	379
哲学Ⅱ	池田清	381
ト		
統計学	蛭川雅之	155
統計学	田中鮎夢	156
道德教育の研究	小山裕樹	459
特別活動の理論と方法	林茂樹	461
ニ		
日本経済史	平野泰朗	158
日本経済論	平野泰朗	160
日本語会話FⅠ	高井美穂	286
日本語会話FⅡ	高井美穂	287
日本国憲法	大仲淳介	382
日本語上級会話FⅠ	高井美穂	384
日本語上級会話FⅡ	高井美穂	385
日本語上級作文FⅠ	中岡樹里	386
日本語上級作文FⅡ	中岡樹里	387
日本語上級読解FⅠ	古川由理子	388
日本語上級読解FⅡ	古川由理子	389
日本語総合FⅠ	古川由理子	288
日本語総合FⅡ	古川由理子	289
日本語読解FⅠ	中岡樹里	290
日本語読解FⅡ	中岡樹里	291
日本語表現Ⅰ	丹下暖子	292
日本語表現Ⅰ	松繁弘之	293
日本語表現Ⅰ	丹下暖子	294
日本語表現Ⅰ	松繁弘之	295
日本語表現Ⅱ	丹下暖子	296
日本語表現Ⅱ	松繁弘之	297
日本語表現Ⅱ	丹下暖子	298
日本語表現Ⅱ	松繁弘之	299
日本語表現作文FⅠ	中岡樹里	300
日本語表現作文FⅡ	中岡樹里	301
日本語文法FⅠ	中岡樹里	302
日本語文法FⅡ	中岡樹里	303
日本産業史	田中幹大	162
日本事情FⅠ	門脇薫	304
日本事情FⅡ	門脇薫	305
日本の歴史	赤澤春彦	390
ノ		
農業経済論	野口義直	164
ハ		
犯罪被害者と法的救済	小野晃正	391

科目名	担当者	ページ
ヒ		
ビジネスイングリッシュⅠ	中野華子	393
ビジネスイングリッシュⅠ	Grant パーミンハム	394
ビジネスイングリッシュⅠ	松浦茂寿	395
ビジネスイングリッシュⅠ	谷脇康子	397
ビジネスイングリッシュⅡ	谷脇康子	398
ビジネスイングリッシュⅡ	Grant パーミンハム	399
ビジネス中国語	郭進	166
ビジネスマナー	富岡直美	400
フ		
ファイナンシャル・プランニング	植杉大	167
武道論	横山喬之	402
ホ		
貿易論	田中鮎夢	168
法学入門	大仲淳介	403
簿記原理Ⅰ	朴景淑	169
簿記原理Ⅱ	朴景淑	171
ホスピタリティ論	野村佳子	173
マ		
マーケティングと歴史	武居奈緒子	405
マクロ経済学Ⅰ	蛭川雅之	174
マクロ経済学Ⅰ	郭進	175
マクロ経済学Ⅱ	郭進	176
ミ		
ミクロ経済学Ⅰ	名方佳寿子	177
ミクロ経済学Ⅱ	名方佳寿子	178
身近な犯罪から自分、家族、まちを守る	中沼丈晃	406
民法	大川謙蔵	179
モ		
ものづくりインターンシップ基礎	奥野竜平	408
ものづくりインターンシップ基礎	川野常夫	410
ものづくりインターンシップ実践	奥野竜平	411
ものづくり海外インターンシップ	川野常夫	413
ヤ		
役立つ金融知力	陸川富盛	415
レ		
歴史学Ⅰ	赤澤春彦	417
歴史学Ⅱ	村上司樹	418
レジャー産業論	持永政人	181
ロ		
労働経済学	平野泰朗	182
労働法	前田剛志	184

專 門 科 目

科目名	アジア経済史	科目名(英文)	Asian Economic History
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	八木 紀一郎
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等	【科目】教科に関する科目(中学校 社会) 【施行規則に定める科目区分】日本史及び外国史 【教員免許状取得のための履修区分】選択 【科目】教科に関する科目(高等学校 地理歴史) 【施行規則に定める科目区分】外国史 【教員免許状取得のための履修区分】必修		

授業概要・目的	21世紀の世界経済の発展センターであるアジアの経済社会を歴史的な背景とともに理解できるようにする。その際、グローバルな視点と経済理論に裏打ちされた理解をもって、将来が展望できる歴史的認識に到達したい。
到達目標	中国・朝鮮から東南アジア、南アジア、中東と広がるアジア世界の経済を歴史的な背景とともに理解できるようにして、日本のアジアとの関係について長期的視点から考察できるようにする。 教科書のほか、図版や写真、統計などからそれぞれの年代でのアジアの経済事情を読み取れるようにする。
授業方法と留意点	講義形式であるが、資料を授業担当者のホームページに掲載することがある。 http://www.setsunan.ac.jp/~k-yagi/99_blank001.html
科目学習の効果(資格)	アジアにおいてビジネスをしたり観光したりする場合、現在の見かけだけにとらわれない、深みをもった認識ができる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	リオリエント? (東洋世界の復興?)	A・マディソンなどの長期経済統計をもとに、3世紀にわたる西洋経済の優位をへて、東洋の経済の中心的地位が回復されはじめていることを認識する。 参考書: アンドレ・グンダー・フランク『リリエント』藤原書店、アンガス・マディソン『経済統計で見る世界経済2000年史』政治経済研究所(絶版)	なぜ近代において西洋列強がアジアを支配できたのだろうか? この問いについていくつかの仮説を準備してください。
2	経済発展の論理	分業によるアダム・スミス型発展、科学技術・知識によるプロメテウス型発展、労働集約化によるボズラップ型発展、などの経済成長・発展(停滞)の論理を理解する。 参考書: 斎藤修(2008)、Deepak Lal(2001)	最近の中国やインドの経済成長はどのような発展の型に近いかを考えよう。
3	古代アジアの経済(中国、インド、ほか)	アジアの文化・伝統の源流となったBC4世紀からAD4世紀ごろの中国・インドの社会構造と経済	釈迦と孔子の言動・教説は当時の経済をどのように反映しているだろうか、また彼らの教えが仏教・儒教として発展していくなかで、経済に対する見方がどう変化しただろうか、考えよう。
4	東アジアの経済発展	隋・唐から宋・元・明・清初期の中国の経済発展と周辺国(日本、朝鮮)	日本が先進国としての中国からとりいれた制度・文物をあげて、それらが日本でどのように変わったかを考えよう。
5	南アジア・東南アジアの経済	カースト制度と村落内分業、仏教・ヒンズー教・ジャイナ教・イスラム教。東南アジアのヒンズー化	日本の文化のなかでインド起源のものを列挙して、その日本での変化について考えよう。
6	アジア域内交易と大航海時代	杉山『グローバル経済史入門』第1章	杉山『グローバル経済史入門』プロローグを読んでくこと。
7	近世東アジアの国際環境ー中国と日本	同上 第2章	
8	インドの植民地化とイギリス	同上 第3章	
9	「産業革命」から「バクス・ブリタニカ」へ	同上 第4章	「産業革命」は本当に「革命」であったのか? すべての国が同じような「産業革命」、同じような「資本主義」を経験するののか?
10	アジアの近代化	同上 第5章	明治維新による政権の転換が起きなかったとすれば、日本の近代化はどうなったかを考えてください。
11	アジア経済のモノカルチャー化と再編	同上 第6章	
12	両大戦間期の世界経済とアジア	同上 第7章	杉山 第8章を読んでおくこと。
13	アジアの社会主義と共産主義	中国革命と中国共産党。大躍進とト文化大革命。改革・開放への移行: 参考書: 吳敬レン『現代中国の経済改革』NTT出版(2007年)	中国の経済発展が国内格差の増大をもたらすのかどうかを考えよう。
14	アジアNIEsの躍進から新興経済の勃興へ	アジアNIEs。中国の高成長。インドにおける成長始動。日本との関係。世界経済の構造変動。	「開かれた地域主義」か、それとも「東アジア共同体」か? アジア経済の将来を考えよう。
15	世界経済史像の転換: ふたたびアジアの時代へ	杉山『グローバル経済史入門』エピローグ	アジアで先行した工業化に成功した日本は現在成熟化による困難に見舞われている。今後の世界経済にとって日本経済の積極的役割は何であり、それは東アジアのなかでどのように具体化されるのか、考えよう。

関連科目	日本経済史、西洋経済史、社会経済学
------	-------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	グローバル経済史入門	杉山伸也	岩波新書
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	10月末に提出させる中間レポート(30%)＋定期試験(70%)。知識の量だけでなく、アジア各国にも通じる経済的な論理が理解されていることが望ましい。			
学生への メッセージ	西洋に傾いた世界史の逆転がはじまりました。アジアの過去を知ることが、未来の可能性の認識につながる時代が来ました。アジアの人に「日本人は何もわかっていない」と言われないようにしましょう。教科書があります。			
担当者の 研究室等	1号館7階 八木教授室(経済学部)			
備考				

科目名	アメリカ経済・文化論	科目名(英文)	Economy and Culture of the U.S.
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	浅羽 良昌
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	アメリカは世界一の経済大国であるとともに、世界の文化の中心地でもある。そんなアメリカを目指して世界中の観光客がアメリカを訪れ、莫大なお金を使っている。本講義は、今やフランスやスペインとともに観光大国と呼ばれるようになったアメリカの状況を、観光客数や観光収支に焦点をあてて検討するものである。あわせてアメリカを訪れる魅力は世界一の経済力、自然観光資源、大衆文化であることから当然のことながら、アメリカの経済や自然環境そして文化についても論及する。
到達目標	受講生は、私の提示する資料を分析することにより、研究のやり方や楽しみ方が分かるはずである。判断能力が高められることを目標とする。
授業方法と留意点	教科書やプリント利用による講義型授業が基本であるが、一部講義に係る内容を映画やビデオで確認する。最後の15分は質疑応答の時間としたい。受講生の数にもよるが、学生による報告・発表の時間を設けたいと考えている。
科目学習の効果(資格)	旅行関係の資格に必要な観光学の素養が身につくはずである。

	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	講義の目的、進め方、評価方法などを説明する。	質問受付
2	アメリカとはどんな国か?	広大な国土と3億人の人口等について説明したい。	事前・テキスト予習	
3	国際観光(ツーリズム)、国際観光客(ツーリスト)とは?	ツーリズムとツーリストの説明をおこなう。	事前・テキスト予習	
4	観光・観光産業とは?(1)	国際観光を支える観光産業はどのような産業から構成されているかを説明する。	事前・テキスト予習	
5	観光・観光産業とは?(2)	観光産業がアメリカ経済にしめる大きさを説明する。	事前・テキスト予習	
6	アメリカ観光でお金を使っている国民はどこか?	カナダや日本やイギリスの国民がアメリカ旅行中に沢山のお金を使っていることを明らかにする。	事前・テキスト予習	
7	アメリカ人が海外旅行でお金を使っている国はどこか?	メキシコやカナダやイギリスでアメリカ人の海外旅行者がお金を使っていることを説明する。	事前・テキスト予習	
8	アメリカを訪れている国民はどこが多いか?	メキシコ、カナダ、イギリスそして日本の国民が多数アメリカを旅行しているとする。	事前・テキスト予習	
9	アメリカ人はどこの国を訪れているか?	メキシコをトップにカナダ、イギリス、ドミニカ共和国を訪れている。	事前・テキスト予習	
10	国際観光のメッカ・アメリカ、その拠点はどこか?	州別ではニューヨーク州、カリフォルニア州、フロリダ州、ネヴァダ州の人气が高い。	事前・テキスト予習	
11	国際観光のメッカ・アメリカ、その拠点はどこか?	都市別ではニューヨーク、ロサンゼルス、マイアミ、サンフランシスコの人气が高い。	事前・テキスト予習	
12	各国別のアメリカ人気の州・都市はどこか?	カナダ人、メキシコ人をはじめイギリス人、日本人などはどの州・都市へと向かっているか、それぞれの国民の好みを明らかにしたい。	事前・テキスト予習	
13	アメリカ経済の特徴?	工業大国から今やサービス大国へと変身しているアメリカの現状を説明する。	事前・テキスト予習	
14	アメリカ文化の特徴?	アメリカ文化の特徴を大衆文化とし、その典型である映画、ジャズ、ミュージカルについて説明する。	事前・テキスト予習	
15	復習とまとめ	本講義で説明してきたことを総括する。	事前・予習	

関連科目	観光学入門、アジア経済・文化論、ヨーロッパ経済・文化論、観光経済論
------	-----------------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	アメリカの国際観光経済	浅羽良昌	世界思想社
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	定期試験(90%)、授業中の発表(10%)で評価する。
----------	-----------------------------

学生へのメッセージ	私語はしないように。ただし、講義中の質問は大歓迎です。
-----------	-----------------------------

担当者の研究室等	1号館7階 浅羽教授室(経済学部)
----------	-------------------

備考	
----	--

科目名	会計学入門	科目名(英文)	Introduction to Accounting
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	朴景淑
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	企業には、株主、投資家、銀行などの債権者、取引先、従業員等、多様な利害関係者がある。この利害関係者に「経営活動結果」を報告するためのプロセスが会計である。この一連のプロセスは法的規制を受けながら、社会的制度として行われている。このような会計制度の基盤となる会計理論が会計学である。会計学入門では、会計とは何か、会計と企業との係わり、会計の種類などを初心者向けに概説する。会計学の基礎理論を修得することによって、【簿記原理Ⅰ・Ⅱ】「管理会計」など経営関連科目の基礎を構築することを目標とする。
到達目標	会計学の意義および会計(簿記)の基本的な用語を理解すること。また、簿記全体のプロセスがわかり、基本的な会計帳簿の作成が可能となることを本授業の到達目標とする。
授業方法と留意点	授業はパワー・ポイントと板書を並行する。必ず筆記の用意をすること。
科目学習の効果(資格)	本授業は経営分野すべての基礎である会計学の基礎知識の習得が可能な内容である。また、日商簿記・税理士・会計士・中小企業診断士、FP、SA等経営会計関連資格の基礎科目である。

	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	ガイダンス、講義概要	授業の進め方、15回の授業概要の説明	学期中の授業の流れを把握できること
2	会計学とは	会計学のフレームワークを説明、会計の分類および会計学における簿記の位置づけ等を述べる	レポート・演習・Quizテスト	
3	簿記とは、複式簿記の意義	簿記の意義、複式簿記、簿記を学ぶメリット	レポート・演習・Quizテスト	
4	決算書(財務諸表)	重要な財務諸表である貸借対照表と損益計算書の形式と読み方などについて学習する	レポート・演習・Quizテスト	
5	簿記の5要素	資産・負債・資本(純資産)と費用・収益	レポート・演習・Quizテスト	
6	簿記の全体的流れ	取引の記録から決算までの全体的な流れをみる(仕訳・転記・決算書(財務諸表)の作成までのプロセス)	レポート・演習・Quizテスト	
7	資産・負債・資本Ⅰ	「貸借対照表(財務状態を示す決算書)」の構成要素である「資産」「負債」「資本」の意義および、各グループには、どんな勘定科目があるのかについて学習する	レポート・演習・Quizテスト	
8	資産・負債・資本Ⅱ	「貸借対照表(財務状態を示す決算書)」の構成要素である「資産」「負債」「資本」の意義および、各グループには、どんな勘定科目があるのかについて学習する	レポート・演習・Quizテスト	
9	資産・負債・資本Ⅲ	「貸借対照表(財務状態を示す決算書)」の構成要素である「資産」「負債」「資本」の意義および、各グループには、どんな勘定科目があるのかについて学習する	レポート・演習・Quizテスト	
10	収益・費用Ⅰ	「損益計算書(経営成績を表す決算書)」の構成要素である「収益」と「費用」の勘定科目について学習する	レポート・演習・Quizテスト	
11	収益・費用Ⅱ	「損益計算書(経営成績を表す決算書)」の構成要素である「収益」と「費用」の勘定科目について学習する	レポート・演習・Quizテスト	
12	仕訳のルールⅠ	仕訳とは、仕訳のルール、仕訳の手続き(資産・負債・資本項目)	レポート・演習・Quizテスト	
13	仕訳のルールⅡ	仕訳の手続き(収益・費用項目)	レポート・演習・Quizテスト	
14	転記のルール	仕訳の結果を、各勘定科目元帳へ転記する手続きを学習する	レポート・演習・Quizテスト	
15	まとめ	14回の授業のまとめと質疑応答	レポート	

関連科目	「財務管理Ⅱ」「原価管理Ⅰ・Ⅱ」の基礎となる科目である。
------	------------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	平常点 40%、定期試験 60%
----------	------------------

学生へのメッセージ	本授業は内容が続いているので、授業内容の理解のためには欠席せず授業に参加することが大事。 ※「簿記原理Ⅰ・Ⅱ」、「管理会計」を履修予定の場合は、本科目を履修しておくことを勧める。
-----------	--

担当者の研究室等備考	1号館7階 朴教授室(経済学部)
------------	------------------

科目名	会社法	科目名(英文)	Corporate Law
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	高田 尚彦
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等		【科目】教科に関する科目(中学校 社会) 【施行規則に定める科目区分】「法学、政治学」 【教員免許状取得のための履修区分】選択 【科目】教科に関する科目(高等学校 公民) 【施行規則に定める科目区分】「法学(国際法を含む。)、政治学(国際政治を含む。)」 【教員免許状取得のための履修区分】選択	

授業概要・目的	会社法では、各種会社のうち株式会社を中心に会社法の講義を行います。株式会社の設立、株式、株式会社の機関について、その基本的な制度および概念を理解することに主眼を置き、理解しやすいように具体例を示しながら解説します。もちろん、法律科目であるから、条文についても適宜参照し、理解を深めることができるように説明を行います。
到達目標	会社法における各種会社の概念を理解し、その構成員たる社員の責任について異同点を理解する。 そのうえで、株式会社における株主の権利や会社の機関とその役割について理解する。 その際には、必ず条文を確認して、理解するように努めること。
授業方法と留意点	会社法の教科書に合わせて授業を進行します。必要に応じて補足資料を配布します。
科目学習の効果(資格)	会社就職後に必要な知識を習得できるとともに、各種試験(法学検定、法科大学院、公務員、公認会計士など)の対策となる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション、会社法総論	授業内容、授業の進め方、評価方法についての説明。 会社法の概要、会社の概念、会社の種類、会社法総論。	教科書 p. 1～p. 19 を読んでおくこと。
2	株式会社の設立	株式会社の設立総説、設立手続、設立の無効。	教科書 p. 20～p. 36 を読んでおくこと。
3	株式(1)	株式総説、株主名簿、株式の譲渡。	教科書 p. 37～p. 47 を読んでおくこと。
4	株式(2)	自己株式、株式の併合・分割・無償割当て、単元株式数、募集株式の発行、株券。	教科書 p. 47～p. 60 を読んでおくこと。
5	新株予約権	新株予約権の意義、新株予約権原簿、新株予約権の譲渡。	教科書 p. 60～p. 66 を読んでおくこと。
6	株式会社の機関(1)	株式会社の機関総説、株主総会、種類株主総会。	教科書 p. 66～p. 83 を読んでおくこと。
7	株式会社の機関(2)	役員等の選任および終任、取締役、取締役会、会計参与、監査役・監査役会、会計監査人。	教科書 p. 83～p. 114 を読んでおくこと。
8	株式会社の機関(3)	指名委員会等設置会社、監査委員会設置会社、役員等の責任、株主の差止請求権、株主代表訴訟。	教科書 p. 114～p. 146 を読んでおくこと。
9	計算、定款の変更、解散、清算	会計帳簿、計算書類、資本金と準備金、剰余金の配当、定款の変更、解散原因、解散の効果、通常清算、特別清算。	教科書 p. 147～p. 164 を読んでおくこと。
10	持分会社	持分会社の設立、社員、計算等。	教科書 p. 165～p. 183 を読んでおくこと。
11	社債	社債の種類、社債の発行、社債権者の権利、社債権者集会。	教科書 p. 184～p. 194 を読んでおくこと。
12	組織再編(1)	組織再編総説、合併の手続き、簡易合併、合併無効の訴え、合併対価の柔軟化、会社分割の意義、吸収分割と新設分割、分割手続、会社分割無効の訴え。	教科書 p. 195～p. 213 を読んでおくこと。
13	組織再編(2)	株式交換の意義、手続、株式交換の無効の訴え、株式移転の意義、手続、株式移転の無効の訴え、事業譲渡、事業の譲受け。	教科書 p. 213～p. 221 を読んでおくこと。
14	外国会社・雑則	外国会社、会社の解散命令、公告。	教科書 p. 222～p. 230 を読んでおくこと。
15	会社法まとめ	会社法総括。	会社法で学習したことを見直しておくこと。

関連科目	民法、商法。
------	--------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	新会社法の基礎(第3版)	加藤徹、相原隆、伊勢田道仁編	法律文化社
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法(基準)	原則として、定期試験の結果によって評価する。 その他講義中の発言も加味する。
----------	---

学生へのメッセージ	会社法は、条文が多く複雑な印象を受けますが、理解が進むにつれて経済に深く関わる新聞記事も理解できるようになってきます。積極的に授業に参加し、基本的知識を習得してください。最新版六法を必携のこと。
-----------	---

担当者の研究室等	11号館6階 法学部事務室
----------	---------------

備考	授業時間外の質問はメールにて受け付けて、後日回答する。 n-takada@pp.iij4u.or.jp まで、件名に科目名を入れて送信すること。
----	---

科目名	開発経済学	科目名(英文)	Development Economics
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	内田 勝巳
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	本授業は、世界の大多数を占める開発途上国の実態を理解し、経済開発理論を学ぶことにより、途上国問題を解決するための処方箋を考えることを目的とする。
到達目標	途上国の開発に関する経済理論・実態・政策を有機的に捉え考察する力を身につけることを到達目標とする。
授業方法と留意点	基本的に教科書に沿って、開発の課題、開発理論、課題への処方箋を紹介し、開発問題への取り組みについて考察を行う。
科目学習の効果(資格)	国際開発関係の仕事に従事する上での経済学的基礎知識が身につく。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	二重構造と失業	途上国の労働市場の二重経済論と失業について解説する	前回の復習と課題の提出
3	経済成長	経済成長を説明するモデルについて解説する	前回の復習と課題の提出
4	人的資源	人口の規模や質(1人当たりの能力)と経済発展の関係について解説する	前回の復習と課題の提出
5	都市化と集積	途上国の都市化現象について解説する	前回の復習と課題の提出
6	産業構造	経済成長に伴う産業構造の変化について解説する	前回の復習と課題の提出
7	農業	途上国の農業・農村の組織・制度について解説する	前回の復習と課題の提出
8	工業	工業部門が途上国の経済発展に占める役割について解説する	前回の復習と課題の提出
9	企業家と革新	途上国の経済発展に資する企業家の存在について解説する	前回の復習と課題の提出
10	開発戦略	戦後の開発経済理論と途上国の開発戦略について解説する	前回の復習と課題の提出
11	国際貿易	国際貿易と途上国の経済発展の関係について解説する	前回の復習と課題の提出
12	技術移転	途上国への技術移転と経済成長の関係について解説する	前回の復習と課題の提出
13	資本移動	外国資本の流入と途上国の経済発展との関係について解説する	前回の復習と課題の提出
14	マクロ安定化	途上国のマクロ不均衡とインフレーション発生メカニズムについて解説する	前回の復習と課題の提出
15	環境制約	環境制約の下での開発のあり方について解説する	前回の復習と課題の提出

関連科目	国際協力論
------	-------

番号	書籍名	著者名	出版社名
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
2			
3			

評価方法(基準)	期末試験 70%、授業での課題提出及び授業態度 30%の割合で総合的に評価する。
学生へのメッセージ	今、私たちが生きている世界には様々な問題が山積しています。開発経済学は、これらの問題を理解し解決策を見出すための糸口を与えてくれます。
担当者の研究室等	1号館7階 内田教授室(経済学部)
備考	

科目名	観光学入門	科目名(英文)	Basics to Tourism Studies
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	A B C D E F G H I J
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	持永 政人
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	少子高齢化の時代を迎え、交流人口増加が期待される観光は日本の重要政策に位置づけられ、今後ますますその必要性が高まってくると考えられます。この授業では観光経済を学ぶうえでの観光の基礎知識を習得することを目的とします。			
到達目標	観光振興の意義を理解し、観光現象について書かれた記事や文献を理解できるようになることを目標とします。			
授業方法と留意点	授業は毎回のテーマに沿った講義を中心に進めていきます。			
科目学習の効果(資格)	観光経済を学ぶ上での基礎知識の習得			
授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	観光と観光学	講義概要、授業のすすめ方、評価方法等の説明 観光とは何か？観光の定義、観光の果たす役割・意義を考える。	事後：配布資料の復習
	2	観光の歴史Ⅰ	観光の世界史・日本史を講義する。(古代～近世)	事後：配布資料の復習
	3	観光の歴史Ⅱ	観光の世界史・日本史を講義する。(近代～現代)	事後：配布資料の復習
	4	観光と行動	観光行動の形と仕組みについて考える。	事後：配布資料の復習
	5	観光と経済Ⅰ	観光の持つ経済的なインパクトを理解する。	事後：配布資料の復習
	6	観光と経済Ⅱ	経済の一般理論と観光市場の関係について理解する。	事後：配布資料の復習
	7	観光と観光情報	観光における情報の重要性を理解する。	事後：配布資料の復習
	8	観光と交通	交通が観光に果たす役割を考える。	事後：配布資料の復習
	9	観光と観光資源	観光資源の特徴と要件を理解する。	事後：配布資料の復習
	10	観光と観光施設	観光施設の区分とそれぞれの役割について理解する。	事後：配布資料の復習
	11	観光産業Ⅰ	旅行業の役割とこれからのあり方を講義する。	事後：配布資料の復習
	12	観光産業Ⅱ	航空産業の役割について理解する。	事後：配布資料の復習
	13	観光産業Ⅲ	宿泊業の特徴と役割を講義する。	事後：配布資料の復習
	14	観光地事例研究	日本を代表する観光地の事例を挙げ、その要件について考える。	事後：配布資料の復習
	15	新しい観光と観光政策及びこれまでのまとめ	新しい観光のあり方と課題は何か、また観光立国を推進する国の観光政策について講義する。 これまでの講義の補足とまとめ、質疑応答をする。	事後：配布資料の復習
関連科目	経済キャリア入門、観光人材論、観光マーケティング論			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法(基準)	定期試験50%、平常点(課題提出、小テスト、参加態度等)を総合的に評価します。			
学生へのメッセージ	観光はさまざまな形でニュースや記事にとりあげられています。普段から時事問題にも注意をしておいてください。			
担当者の研究室等	1号館7階 持永教授室(経済学部)			
備考				

科目名	観光学入門	科目名(英文)	Basics to Tourism Studies
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	K L M N O P Q R S T
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	野村 佳子
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	少子高齢化の時代を迎え、交流人口増加が期待できる観光は日本の重要政策に位置づけられ、今後ますます重要性が高まってくると考えられます。この授業では観光経済を学ぶうえでの観光の基礎知識を習得することを目的とします。			
到達目標	観光振興の意義を理解し、観光現象について書かれた文献や記事の内容を理解できるようになることを目標とします。			
授業方法と留意点	毎回のテーマに沿った講義を中心に進めていきます。			
科目学習の効果(資格)	観光経済を学ぶ上での基礎的な知識の習得。			
授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	イントロダクション	授業の概要と進め方および観光がなぜ注目されているのかについて講義する	事後：配布資料の復習
	2	観光と観光学	観光の定義、観光の意義を講義する	事後：配布資料の復習
	3	観光の歴史	観光の世界史・日本史を講義する	事後：配布資料の復習
	4	観光と情報	観光と情報のかかわりについて講義する	事後：配布資料の復習
	5	観光と環境	観光が自然や環境といかに関わっていくべきかについて講義する	事後：配布資料の復習
	6	観光と観光対象 (1)	観光の対象について講義する	事後：配布資料の復習
	7	観光と観光対象 (2)	観光の対象について講義する	事後：配布資料の復習
	8	観光と経済	観光の持つ経済的なインパクトを理解し、経済の理論で観光の市場を考える	事後：配布資料の復習
	9	観光と地域社会	観光と地域社会のつながりについて講義する	事後：配布資料の復習
	10	観光と旅行業	旅行業の役割とこれからのあり方について講義する	事後：配布資料の復習
	11	観光と交通	観光における交通の特徴と役割について講義する	事後：配布資料の復習
	12	観光と宿泊業	宿泊産業の特徴と役割について講義する	事後：配布資料の復習
	13	観光地事例研究	著名な観光地を取り上げて講義する	事後：配布資料の復習
	14	新しい観光	最近注目されている新しい観光について講義する	事後：配布資料の復習
	15	現代観光の課題と観光政策 まとめと補足	日本の持つ課題と観光政策について講義する 講義全体を通してのまとめと補足をを行う	事後：配布資料の復習
関連科目	経済キャリア入門			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法(基準)	定期試験(50%)と課題・小テスト・参加態度等の平常点(50%)を総合的に評価します。			
学生へのメッセージ	観光はさまざまな形でニュースや記事に取り上げられています。普段から時事問題にも注意をしておいてください。			
担当者の研究室等	1号館7階 野村准教授室 (経済学部)			
備考				

科目名	観光経済論	科目名(英文)	Tourism Economy
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	西川 浩平
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等	【科目】教科に関する科目(中学校 社会) 【施行規則に定める科目区分】「社会学、経済学」 【教員免許状取得のための履修区分】選択 【科目】教科に関する科目(高等学校 公民) 【施行規則に定める科目区分】「社会学、経済学(国際経済を含む。)」 【教員免許状取得のための履修区分】選択		

授業概要・目的	観光産業は世界のGDPの11%程度、総雇用の10%程度を担う重要な経済部門となっており、わが国においても、その重要性は高まってきている。本講義では、こうした現状を踏まえ、観光分野における需要、供給、制度について、ミクロ経済理論に基づきながら講義を進める。
到達目標	経済学的思考と知識に基づき、観光分野の動向を理解する能力を養う。
授業方法と留意点	授業は基本的に講義形式で行うが、随時講義中に確認および応用の問題を出す。
科目学習の効果(資格)	

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	観光とは?	観光の定義、観光産業に含まれる産業の範囲について学ぶ。	配布資料の復習。
3	観光産業における供給について(1)	観光産業における供給側の重要性を説明する。	配布資料の復習。
4	観光産業における供給について(2)	日本の旅行産業を対象に、当該市場の市場構造等について学ぶ。	配布資料の復習。
5	観光産業における供給について(3)	日本の交通産業を対象に、当該市場の市場構造等について学ぶ。	配布資料の復習。
6	観光産業における供給について(4)	日本の宿泊産業を対象に、当該市場の市場構造等について学ぶ。	配布資料の復習。
7	観光産業における供給について(5)	日本の飲食産業を対象に、当該市場の市場構造等について学ぶ。	配布資料の復習。
8	観光産業における需要(1)	需要の価格弾力性を用いて、価格と観光客数の関係を学ぶ。	特になし。
9	観光産業における需要(2)	需要の価格弾力性を踏まえたうえで、観光産業における価格差別化について学ぶ。	配布資料の復習。
10	観光産業における需要(3)	為替レートに着目し、為替レートの変動が観光客数に及ぼす影響について学ぶ。	配布資料の復習。
11	観光産業における需要(4)	需要の所得弾力性を用いて、所得と観光客数の関係を学ぶ。	配布資料の復習。
12	観光産業における需要(5)	観光産業を通じて、製品差別化について学ぶ。	配布資料の復習。
13	観光と規制(1)	経済学的にみた規制の意義・役割について学ぶ。	配布資料の復習。
14	観光と規制(2)	観光産業における規制の効果について学ぶ。	配布資料の復習。
15	観光政策の動向	近年の我が国で行われた観光政策を概観する。	配布資料の復習。

関連科目	観光学入門、ミクロ経済学
------	--------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法(基準)	定期試験(70%)、および中間試験(20%)の得点で評価する。
----------	---------------------------------

学生へのメッセージ	経済に関する情報はテレビや新聞等あらゆるメディアで提供されています。常にアンテナを張って興味・関心のあるテーマを見つけて下さい。
-----------	--

担当者の研究室等備考	1号館7階 西川講師室(経済学部)
------------	-------------------

科目名	観光交通論	科目名(英文)	Tourism and Transportation
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	牧野 邦昭
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	観光に欠かせない交通を経済学を用いて分析できるようになることを目標にする。			
到達目標	交通の経営、交通政策に理解を深める。			
授業方法と留意点	教科書を用いて講義を行う。			
科目学習の効果(資格)	関係する業界・公務員等の仕事に関心を持つことができる。			
授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	イントロダクション、経済学の復習	授業にあたって必要となる経済学の復習	事前：教科書に一通り目を通しておくこと 事後：授業の復習
	2	交通とは何か	交通サービスの特殊性	事前：教科書該当箇所の予習 事後：授業の復習
	3	交通データの分析	交通のデータの種類、データの見方	事前：教科書該当箇所の予習 事後：授業の復習
	4	交通の費用	交通の費用の分類とそれによる交通企業の行動の違い	事前：教科書該当箇所の予習 事後：授業の復習
	5	交通運賃の理論1	どのように交通運賃は決まるのか	事前：教科書該当箇所の予習 事後：授業の復習
	6	交通運賃の理論2	混雑をなくすにはどのような運賃が望ましいか	事前：教科書該当箇所の予習 事後：授業の復習
	7	交通運賃の理論3	ピーク・ロード・プライシングとラムゼイ運賃形成	事前：教科書該当箇所の予習 事後：授業の復習
	8	交通運賃の政策1	どのように公共交通の運賃は規制されているか	事前：教科書該当箇所の予習 事後：授業の復習
	9	交通運賃の政策2	交通機関における二部料金制度の意味	事前：教科書該当箇所の予習 事後：授業の復習
	10	規制政策1	交通規制はなぜ存在するのか	事前：教科書該当箇所の予習 事後：授業の復習
	11	規制政策2	規制緩和の経済理論	事前：教科書該当箇所の予習 事後：授業の復習
	12	交通投資	交通機関を整備した結果はどのように評価されるか	事前：教科書該当箇所の予習 事後：授業の復習
	13	外部補助と内部補助	交通機関の赤字はどのように埋められるべきか	事前：教科書該当箇所の予習 事後：授業の復習
	14	交通ネットワーク	ネットワークとしての交通を考慮に入れた場合、これまでの議論はどのように修正されるか	事前：教科書該当箇所の予習 事後：授業の復習
	15	交通を利用した観光	観光の一つの要素としての交通を考える	事後：授業の復習
関連科目	観光経済論、観光資源論、航空産業論			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	交通経済学入門	竹内健蔵	有斐閣
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法(基準)	定期試験70%、レポート30%で評価する。			
学生へのメッセージ	日頃よく使う交通について、経済学を用いて考えられるようにしましょう。			
担当者の研究室等	1号館7階 牧野准教授室(経済学部)			
備考				

科目名	観光産業政策論	科目名(英文)	Policies for Tourism Industries
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	西川 浩平
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	我が国を訪れる外国人観光客は1,000万人を超えたが、2020年の東京五輪に向け、さらなる増大が重要な政策課題となっている。本講義では、このような現状を踏まえ、産業政策の意味、必要性について講義する。
到達目標	経済学的思考と知識に基づき、我が国および諸外国で行われている産業政策を理解する能力を養う。
授業方法と留意点	授業は基本的に講義形式で行うが、随時講義中に確認および応用の問題を出す。
科目学習の効果(資格)	

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	ミクロ経済学の復習	需要曲線、供給曲線、消費者余剰、生産者余剰について復習する。	講義内容を復習する。
3	自然独占(1)	完全競争市場と独占市場における企業行動の違いを説明する。	講義内容を復習する。
4	自然独占(2)	自然独占が生じる理由およびその弊害を説明する。	講義内容を復習する。
5	共有資源	「共有地の悲劇」を例に、共有資源の問題点および政策的な対応について学ぶ。	講義内容を復習する。
6	公共財(1)	公共財の特性を説明し、公共財の供給において生じるフリーライダー問題について学ぶ。	講義内容を復習する。
7	公共財(2)	公共財の供給で議論される費用便益分析を説明する。	講義内容を復習する。
8	日本の観光産業	日本の観光産業の現状について、各種統計の数値を用いて学ぶ。	特になし。
9	外部性のある経済活動(1)	私的限界費用と社会的限界費用の概念を用いて、外部性が生じる理由および、その対応策について学ぶ。	講義内容を復習する。
10	外部性のある経済活動(2)	需要の所得弾力性、比較優位性の観点より、観光産業における各種政策の妥当性について学ぶ。	講義内容を復習する。
11	情報の不完全性(1)	情報が不完全な市場において、市場取引がどうなるかを学ぶ。	講義内容を復習する。
12	情報の不完全性(2)	情報が不完全な市場におけるシグナリング、逆選択といった現象について学ぶ。	講義内容を復習する。
13	市場支配力(1)	独占禁止法の内容を理解し、カルテル・談合が引き起こす経済的損失および企業がカルテル・談合を維持するインセンティブについて学ぶ。	講義内容を復習する。
14	市場支配力(2)	垂直的取引制限の価格制限に該当する再販売価格維持について学ぶ。	講義内容を復習する。
15	市場支配力(3)	再販売価格維持において言及される二重の限界かについて学ぶ。	講義した内容について復習する。

関連科目 観光学入門、観光経済学、公共政策論、産業組織論

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法(基準)	定期試験(70%)および小テスト(30%)の得点で評価する。
学生へのメッセージ	経済に関する情報はテレビや新聞等あらゆるメディアで提供されています。常にアンテナを張って興味・関心のあるテーマを見つけて下さい。
担当者の研究室等	1号館7階 西川講師室(経済学部)
備考	

科目名	観光産業における経営分析論	科目名(英文)	Buisiness Analysis in Tourism Industries
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	西川 浩平
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	有価証券報告書などの財務資料を通じた企業業績の把握は、産業・企業の動向を理解していく上で不可欠である。本講義では、経営学・産業組織論の諸手法を利用し、産業・企業の動向等を理解・検討する各種指標を学ぶことを目的とする。
到達目標	有価証券報告書等の資料を用いて企業業績および産業の動向を理解する能力を養う。
授業方法と留意点	授業は基本的に講義形式で行うが、随時講義中に確認および応用の問題を出す。
科目学習の効果(資格)	

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	財務諸表の仕組み(1)	経営分析で使用する貸借対照表と損益計算書の構造を学ぶ。	講義した内容について復習する。
3	財務諸表の仕組み(2)	企業活動の継続において重要な利益について、その計算方法、経済学的意義などを学ぶ。	講義した内容について復習する。
4	成長性の分析	企業の成長の度合いを示す指標を学ぶ。	講義した内容について復習する。
5	収益性の分析(1)	企業の収益を判断する際に用いる ROA について学ぶ。	講義した内容について復習する。
6	収益性の分析(2)	企業の収益を判断する際に用いる ROE について学ぶ。	講義した内容について復習する。
7	収益性の分析(3)	損益分析点分析を説明する。	講義した内容について復習する。
8	安全性の分析(1)	企業における利益とキャッシュの関係を生部。	講義した内容について復習する。
9	安全性の分析(2)	短期的な企業経営の安全性を測定する各種指標について学ぶ。	講義した内容について復習する。
10	安全性の分析(3)	長期的な企業経営の安全性を測定する各種指標について学ぶ。	講義した内容について復習する。
11	生産性の分析(1)	企業の生産性を判断する各種指標について学ぶ。	講義した内容について復習する。
12	生産性の分析(2)	企業内の各種資源が有効に利用されているかを示す各種指標を学ぶ。	講義した内容について復習する。
13	総合評価(1)	各種指標を用いて、企業経営を総合的に評価するレーダーチャートを学ぶ。	講義した内容について復習する。
14	総合指標(2)	指数法を用いて各種指標にウェイトを付け、企業経営を総合的に評価する。	講義した内容について復習する。
15	株主関連指標	企業経営を示す各種指標を用いて作成する指標を作成する。	講義した内容について復習する。

関連科目	特になし。
------	-------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	定期試験(70%)およびレポート(30%)の得点で評価する。
学生へのメッセージ	経済に関する情報はテレビや新聞等あらゆるメディアで提供されています。常にアンテナを張って興味・関心のあるテーマを見つけて下さい。
担当者の研究室等	1号館7階 西川講師室(経済学部)
備考	

科目名	観光産業における経営分析	科目名(英文)	Buisiness Analysis in Tourism Industries
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	西川 浩平
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	有価証券報告書などの財務資料を通じた企業業績の把握は、産業・企業の動向を理解していく上で不可欠である。本講義では、経営学・産業組織論の諸手法を利用し、産業・企業の動向等を理解・検討する各種指標を学ぶことを目的とする。
到達目標	有価証券報告書等の資料を用いて企業業績および産業の動向を理解する能力を養う。
授業方法と留意点	授業は基本的に講義形式で行うが、随時講義中に確認および応用の問題を出す。
科目学習の効果(資格)	

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	財務諸表の仕組み(1)	経営分析で使用する貸借対照表と損益計算書の構造を学ぶ。	講義した内容について復習する。
3	財務諸表の仕組み(2)	企業活動の継続において重要な利益について、その計算方法、経済的意義などを学ぶ。	講義した内容について復習する。
4	成長性の分析	企業の成長の度合いを示す指標を学ぶ。	講義した内容について復習する。
5	収益性の分析(1)	企業の収益を判断する際に用いる ROA について学ぶ。	講義した内容について復習する。
6	収益性の分析(2)	企業の収益を判断する際に用いる ROE について学ぶ。	講義した内容について復習する。
7	収益性の分析(3)	損益分析点分析を説明する。	講義した内容について復習する。
8	安全性の分析(1)	企業における利益とキャッシュの関係を生部。	講義した内容について復習する。
9	安全性の分析(2)	短期的な企業経営の安全性を測定する各種指標について学ぶ。	講義した内容について復習する。
10	安全性の分析(3)	長期的な企業経営の安全性を測定する各種指標について学ぶ。	講義した内容について復習する。
11	生産性の分析(1)	企業の生産性を判断する各種指標について学ぶ。	講義した内容について復習する。
12	生産性の分析(2)	企業内の各種資源が有効に利用されているかを示す各種指標を学ぶ。	講義した内容について復習する。
13	総合評価(1)	各種指標を用いて、企業経営を総合的に評価するレーダーチャートを学ぶ。	講義した内容について復習する。
14	総合指標(2)	指数法を用いて各種指標にウェイトを付け、企業経営を総合的に評価する。	講義した内容について復習する。
15	株主関連指標	企業経営を示す各種指標を用いて作成する指標を作成する。	講義した内容について復習する。

関連科目	特になし。
------	-------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	定期試験(70%)およびレポート(30%)の得点で評価する。
----------	--------------------------------

学生へのメッセージ	経済に関する情報はテレビや新聞等あらゆるメディアで提供されています。常にアンテナを張って興味・関心のあるテーマを見つけて下さい。
-----------	--

担当者の研究室等	1号館7階 西川講師室(経済学部)
----------	-------------------

備考	
----	--

科目名	観光資源論	科目名(英文)	Resources for Tourism
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	牧野 邦昭
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	観光の対象や観光行動の目的となる観光資源に関して、経済学や文化人類学等を利用した学際的な視点から講義を行い、観光の対象となる資源を意識的に作り出していくことの重要性和、資源とされる側(地域の人々の生活、環境、文化など)への配慮を常に持つことの重要性を共に考えてもらうことを目的とする。			
到達目標	観光資源となりうるものには様々なものがあることを理解する。また「観光する側」「観光を企画する側」だけでなく、「観光の対象とされる側」にも配慮した行動をとることができるようになる。			
授業方法と留意点	毎回プリントを配布し講義を行う。			
科目学習の効果(資格)				
授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	イントロダクション、資源とは何か	なぜ観光における資源が問題になるのかを考える。	事後：授業の復習
	2	自然	観光資源として自然を扱う場合の注意点、エコツーリズムの課題について考える。	事後：授業の復習
	3	農業	グリーンツーリズムの問題点について考える。	事後：授業の復習
	4	食べ物	特産品やB級グルメを利用した観光開発の課題を考える。	事後：授業の復習
	5	民俗芸能	エスニックツーリズムの問題点、地域の民俗芸能・伝統が観光化されることによって生じる課題について考える。	事後：授業の復習
	6	歴史	歴史を観光資源とする際の注意点・問題点について考える。	事後：授業の復習
	7	世界遺産	世界遺産の概要について理解を深めるとともに、世界遺産に指定されることによる諸問題について考える。	事後：授業の復習
	8	工業	近年注目を浴びている産業観光についての理解を深める。	事後：授業の復習
	9	スポーツ	スポーツをすることやスポーツイベントと観光との関係について認識する。	事後：授業の復習
	10	教育・学習	修学旅行や留学と観光との関係を考える。	事後：授業の復習
	11	コンテンツ	コンテンツ(小説、映画、TVドラマ、アニメ等)の舞台を巡る観光の現状について認識を深めるとともに、抱える課題について考える。	事後：授業の復習
	12	スピリチュアルなもの	最近流行しているパワースポット巡りなどについて課題を考える。	事後：授業の復習
	13	医療	メディカルツーリズムの課題を理解する。	事後：授業の復習
	14	交通	本来は移動の手段である交通が観光資源となる例を知るとともに、交通を観光資源とする場合の課題を考える。	事後：授業の復習
	15	不愉快なもの、まとめ	近年注目を集めているダークツーリズムについて理解を深め、まとめとして観光資源を利用した震災からの復興について考える。	事後：授業の復習
関連科目	観光交通論、観光経済論、観光産業政策論			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	観光人類学の挑戦	山下晋司	講談社
	2	観光経験の人類学	橋本和也	世界思想社
	3			
評価方法(基準)	定期試験70%、中間レポート30%で評価する。			
学生へのメッセージ	観光について批判的に見る視点も身に付けた上で「どのような観光のあり方が望ましいのか」を考えてください。			
担当者の研究室等備考	1号館7階 牧野准教授室(経済学部)			

科目名	観光人材論	科目名(英文)	Human Resources Management for Tourism Industries
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	持永 政人
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	観光業を支える重要な要素は人材である。この授業では観光業に雇用されるという「働き方」の基本的な特徴と、それを規定する制度についての知識を深めることを通して、観光における人材活用の意義と重要性を理解することを目的とします。			
到達目標	企業における人材管理の仕組みと観光企業における人材管理の特徴について理解できる。			
授業方法と留意点	授業は毎回のテーマに沿った講義を中心に進めていきます。			
科目学習の効果(資格)	観光における人材管理の特徴と重要性の理解			
授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	人材とは何か	講義概要、授業のすすめ方、評価方法等の説明 「人材」の意味と「人材」のありかたを考える。	事後：配布資料の復習
	2	観光の意義と仕事	何故観光があるのか、そこにはどんな仕事があるのかを理解する。	事後：配布資料の復習
	3	観光業における人材管理	観光業の多様性とそこでの人材の特徴について理解する。	課題作成
	4	人材管理の仕組みⅠ	人材を生かす仕組みの重要性と取り巻く環境について講義する。	事後：配布資料の復習
	5	人材管理の仕組みⅡ	企業の人材区分や格付けの仕組みについて講義する。	事後：配布資料の復習
	6	人材管理の仕組みⅢ	採用・配置・異動等の雇用管理の仕組みについて講義する。	事後：配布資料の復習
	7	人材管理の仕組みⅣ	人事評価・昇進・賃金管理の仕組みについて講義する。	事後：配布資料の復習
	8	人材管理の仕組みⅤ	労働時間管理・教育訓練等の仕組みについて講義する。	事後：配布資料の復習
	9	人材管理の仕組み(まとめ)	第4回～第8回のまとめ	事後：配布資料の復習
	10	「サービス」と観光人材	観光業の主な商品「サービス」について理解する。	事後：配布資料の復習 小テスト
	11	「ホスピタリティ」と観光人材	観光人材に求められる「ホスピタリティ」とは何かを理解する。	事後：配布資料の復習
	12	「顧客満足」と観光人材	「顧客満足」と観光人材の関わりについて考える。	事後：配布資料の復習
	13	観光と人材育成Ⅰ	観光人材の育成政策について理解する。	事後：配布資料の復習
	14	観光と人材育成Ⅱ	観光業界における人材育成の課題について考える。	課題作成
15	まとめ	これまでの講義の補足とまとめ、質疑応答をする。	事後：配布資料の復習	
関連科目	観光学入門、経済キャリア入門			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法(基準)	定期試験50%、平常点50%(課題作成、小テスト、参加態度等)を総合的に評価する。			
学生へのメッセージ	経済が成熟するにつれ、サービスを担う人材の重要性が高まります。特にサービスの比重の高い観光業での人材のあり方について一緒に考えましょう。			
担当者の研究室等	1号館7階 持永教授室(経済学部)			
備考				

科目名	観光ビジネス英語	科目名(英文)	Business English for Tourism Industries
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	野村 佳子
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	観光立国を目指す日本にとって人材育成は重要な課題です。英語でコミュニケーションができるということは観光関連産業に従事する人材の要件の一部に過ぎませんが、今後増え続けることが予想される外国人観光客に対応するために、サービスの現場では必ず求められる要素となっています。この授業では、旅行会社・航空会社・ホテルの現場での業務について理解を深めながら、実践的な英語を身につけることを目的とします。
到達目標	観光関連産業で使われる英語表現を身につけます。授業では各回に関連した観光実務も取り上げ、実務知識も学びます。
授業方法と留意点	実務で使われているナチュラルな英語を教材として使用します。サービスの現場で使われる英語は、通常の場合決まったパターンがあります。それらを覚えて応用することで実務に対応することができるようになりますので、授業には出席して、事後は必ず CD とテキストで復習をするようにしてください。
科目学習の効果(資格)	観光英検に準拠したテキストを使用しますので、観光英検対策になります。また、空港やホテル、旅行先などは TOEIC の場面設定としても使用されることが多いので、TOEIC 対策にもなります。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	業務と職員	CONVERSATION, LISTENING AND READING	事後：テキストの復習
3	搭乗する	CONVERSATION, LISTENING AND READING	事後：テキストの復習
4	出入国管理と税関にて	CONVERSATION, LISTENING AND READING	事後：テキストの復習
5	空港にて(1)	CONVERSATION, LISTENING AND READING	事後：テキストの復習
6	空港にて(2)	CONVERSATION, LISTENING AND READING	事後：テキストの復習
7	ホテル(1)	CONVERSATION, LISTENING AND READING	事後：テキストの復習
8	ホテル(2)	CONVERSATION, LISTENING AND READING	事後：テキストの復習
9	レストラン	CONVERSATION, LISTENING AND READING	事後：テキストの復習
10	観光	CONVERSATION, LISTENING AND READING	事後：テキストの復習
11	ショッピング	CONVERSATION, LISTENING AND READING	事後：テキストの復習
12	交通機関	CONVERSATION, LISTENING AND READING	事後：テキストの復習
13	問題と苦情	CONVERSATION, LISTENING AND READING	事後：テキストの復習
14	応用編	CONVERSATION, LISTENING AND READING	事後：テキストの復習
15	まとめ	WRAP-UP	事後：テキストの復習

関連科目	観光学入門、経済キャリア入門
------	----------------

番号	書籍名	著者名	出版社名
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
2			
3			

評価方法(基準)	定期試験(50%)と小テスト・受講態度等の平常点(50%)を総合的に評価します。
----------	--

学生へのメッセージ	英語が話せると様々な国の人とコミュニケーションを取ることができ、世界がぐっと広がります。これからますます外国人観光客が増えることが予想されますので、観光関連産業への就職を考えている学生は履修してください。実務知識も身につきます。
-----------	--

担当者の研究室等	1号館7階 野村准教授室(経済学部)
----------	--------------------

備考	
----	--

科目名	観光マーケティング論	科目名(英文)	Tourism Marketing
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	持永 政人
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	観光におけるマーケティングは主に生産と消費が同時進行する「サービス」を商品とするゆえ、物財のマーケティングとは異なるアプローチが必要である。本授業では観光業のマーケティングの本質と特殊性をさまざまなマーケティング事例に触れながら理解することを目的とします。			
到達目標	マーケティングの基礎理論を習得し観光分野での応用事例が理解できる。			
授業方法と留意点	授業は毎回のテーマに沿った講義を中心に進めていきます。			
科目学習の効果(資格)	観光業におけるマーケティングの基礎的な知識の習得			
授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	マーケティングとは何か	講義概要、授業のすすめ方、評価方法等の説明 マーケティングの基礎的な概念を理解する。	事後：配布資料の復習
	2	商品とマーケティング	売れる商品の特徴を理解する。	事後：配布資料の復習
	3	価格とマーケティング	価格設定の考え方を理解する。	事後：配布資料の復習
	4	流通チャネルとマーケティング	流通チャネルの役割について理解する。	事後：配布資料の復習
	5	プロモーションとマーケティング	プロモーションの役割について理解する。	事後：配布資料の復習
	6	マーケティング・ミックス(まとめ)	第1回～第5回のまとめ	事後：配布資料の復習
	7	観光とマーケティングⅠ	観光におけるマーケティングの特殊性を考える。	小テスト 事後：配布資料の復習
	8	観光とマーケティングⅡ	観光マーケティングの主体と対象を考える。	事後：配布資料の復習
	9	観光のマーケティングミックスⅠ	観光商品について考える。	レポート作成 事後：配布資料の復習
	10	観光のマーケティングミックスⅡ	観光における価格について考える。	事後：配布資料の復習
	11	観光のマーケティング・ミックスⅢ	観光におけるチャネル、プロモーションについて考える。	事後：配布資料の復習
	12	観光マーケティング事例Ⅰ	旅行業のマーケティングを考える	レポート作成 事後：配布資料の復習
	13	観光マーケティング事例Ⅱ	宿泊業のマーケティングを考える	事後：配布資料の復習
	14	観光マーケティング事例Ⅲ	観光地のマーケティングを考える	小テスト 事後：配布資料の復習
	15	まとめ	これまでの講義の補足とまとめ、質疑応答をする	事後：配布資料の復習
関連科目	観光学入門、レジャー産業論、宿泊産業論			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法(基準)	定期試験50%、平常点50%(レポート、小テスト、参加態度等)を総合的に評価する。			
学生へのメッセージ	観光の分野でも日々「顧客と市場の創造」が行われています。普段から経済関連のニュースを意識していると観光マーケティングも理解しやすいと思います。			
担当者の研究室等	1号館7階 持永教授室(経済学部)			
備考				

科目名	観光旅行関連法規	科目名(英文)	Laws and Regulations regarding Tourism Industries
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	持永 政人
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	観光における諸活動が法律とどのように関わっているかを網羅的に学ぶことによって、観光に携わる人が問題に直面した時に何を基準に考えよう対処すべきかを理解する。
到達目標	観光関連の法律を通して、現在の観光政策の意義を理解できる。
授業方法と留意点	まず、観光の諸活動に関わる法律を体系的に概観した上で、代表的な法律を個別に紹介、解説することで理解を深める。加えて旅行業務取り扱い管理者資格に必要な法律知識も解説する。

科目学習の効果(資格)	旅行業務取り扱い管理者資格の法律知識
-------------	--------------------

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	日本の観光関連法規整備の歴史	観光産業の発展と法整備の歴史を学ぶ。	事後：配布資料の復習
3	観光の基本政策と法規	観光法規とその背景となる政策について考える。	事後：配布資料の復習
4	観光に関する基本法	観光基本法、観光立国推進基本法等国の観光政策を担う法律を学ぶ。	事後：配布資料の復習、課題作成
5	国際観光振興に関する法律	外国人旅行者誘致に関連する法律(外国人観光旅客の振興に関する法律、関税法、旅券法等)について学ぶ。	事後：配布資料の復習
6	地域観光の促進を図る法律	観光の促進を図る法律(観光立国推進基本法、総合保養地域整備法等)を学ぶ。	事後：配布資料の復習
7	観光資源保護に関する法律	観光資源保護を図る法律(環境基本法、自然公園法、文化財保護法等)を学ぶ。	事後：配布資料の復習
8	観光産業育成・規制に関する法律	観光施設営業を規制する法律について学ぶ。(建築基準法、消防法、食品衛生法、公衆浴場法、風営法等)	事後：配布資料の復習
9	その他観光に関する法律	労務管理に関する法律(労働基準法、男女雇用機会均等法、パート労働法等)や休日・祝日に関する法律を学ぶ。	事後：配布資料の復習、課題作成
10	旅行業に関する法規	旅行業法、標準旅行約款について学ぶ。	事後：配布資料の復習
11	宿泊業に関する法規	旅館業法、モデル宿泊約款について学ぶ。	事後：配布資料の復習
12	旅行業務管理者に必要な知識Ⅰ	旅行業法、旅行業約款の具体的運用について学ぶ。	事後：配布資料の復習、課題作成
13	旅行業務管理者に必要な知識Ⅱ	旅行業法、旅行業約款の具体的運用等について学ぶ。	小テスト 事後：配布資料の復習、課題作成
14	観光立国に向けての法整備の在り方	今後の観光振興のための法整備の在り方を考える。	事後：配布資料の復習
15	まとめ	これまでの講義の補足、まとめと質疑応答	事後：配布資料の復習

関連科目	観光学入門、観光人材論
------	-------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法(基準)	定期試験50%、平常点50%(レポート、演習問題、授業の参加態度等)を総合的に評価する。
----------	--

学生へのメッセージ	観光業界に興味のある学生に適した内容です。
-----------	-----------------------

担当者の研究室等備考	1号館7階 持永教授室(経済学部)
------------	-------------------

科目名	関西経済論	科目名(英文)	Local Economy in KANSAI
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	田中 幹大
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	大阪を中心とした関西経済の諸特徴と問題点を理解する。関西経済の優位点と課題を把握するとともに、今後の展望を考えることのできる素地をつくることを目的とする。大阪・関西経済の歴史的発展過程を概観したうえで、その産業構造、地域開発・都市開発、産業政策のありようなどを講義する。
到達目標	①関西経済の歴史、現在抱えている関西経済の問題を理解すること。 ②関西特有の地域資源に着目して、今後の展開を展望できるようになること。
授業方法と留意点	レジュメ、パワーポイントによる解説と映像資料を使用する。
科目学習の効果(資格)	関西経済の歴史的経過と現在の諸特徴、抱える問題を把握できる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	日本のなかの関西経済	関西経済の現在の諸特徴を日本国内の他地域経済圏との比較などから把握する。	講義中に示した課題を検討してください。
2	近代関西経済の発展①ー近世から近代へ	近代移行期の関西経済について理解する。	講義中に示した課題を検討してください。
3	近代関西経済の発展②ー関西の企業家	関西で活躍した企業家とその活動を理解する。	講義中に示した課題を検討してください。
4	近代関西経済の発展③ー製造業	紡績業を中心とした製造業の展開について検討する。	講義中に示した課題を検討してください。
5	近代関西経済の発展④ー商業、金融、中小企業、労働者	商業と金融業の発展、中小企業集積の形成過程、労働者たちのありようについて検討する。	講義中に示した課題を検討してください。
6	近代関西経済の発展⑤ー「大大阪」と経済の地盤沈下	全国一の工業都市となり「大大阪」と言われるようになった背景とその後の戦時統制のなかでの経済地盤沈下について把握する。	講義中に示した課題を検討してください。
7	戦後の関西経済と産業の発展	戦後の関西経済の趨勢と産業発展の過程を把握する。	講義中に示した課題を検討してください。
8	関西経済と地域開発・都市開発	関西経済圏の工業基盤整備、都市開発過程を検討する。	講義中に示した課題を検討してください。
9	関西経済と繊維産業	戦前、関西経済の中心業種であった繊維産業の戦後の展開過程を把握する。	講義中に示した課題を検討してください。
10	関西経済と家電産業	在阪家電3社といわれる松下電器、シャープ、三洋電機の発展過程をみていく。	講義中に示した課題を検討してください。
11	関西経済とサービス産業	関西経済圏におけるサービス産業の発展と他地域圏のサービス業の比較からその特徴を把握する。	講義中に示した課題を検討してください。
12	関西経済と製造業	関西経済の特徴の一つである製造業の現状と問題点について理解する。	講義中に示した課題を検討してください。
13	関西経済と地域産業政策	関西経済圏各自治体の地域産業政策の展開について把握する。	講義中に示した課題を検討してください。
14	関西経済とグローバル化	グローバル化、新興市場の拡大のなかでの関西経済の位置を確認し、今後の役割を展望する。	講義中に示した課題を検討してください。
15	これまでのまとめ	近代から現在までの関西経済の展開過程を総括し、今後のあり方を考える。	講義中に示した配布物の該当箇所を読み直すこと。

関連科目	日本経済史、日本経済論、日本産業史
------	-------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法(基準)	定期試験 100%で評価する。
----------	-----------------

学生へのメッセージ	関西経済の今後の展開を創造するためには、これまでの歴史と正確な現状・課題認識が必要です。これらを養ってください。
-----------	--

担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
----------	--------------

備考	
----	--

科目名	基礎演習	科目名 (英文)	Basic Seminar
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	A
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	八木 紀一郎

教育職員免許法施行規則に定める科目区分等

授業概要・目的	本演習は、大学での学習に必要な基礎的能力を習得させるとともに、経済学の学習を通して後続学年での専門的な選択に備えさせることを目的とする。																		
到達目標	大学での学習を開始するにあたって必要な基礎知識（エコノミック・リテラシーとITリテラシー）を用いて自主的学習ができる。またある程度の英語の活用力を身につける。																		
授業方法と留意点	上記の目的達成のため、まず、大学から配布される『FIRST YEAR STUDY GUIDE』をもとに、大学での学習に必要とされる知識・技法を習得すると同時に、1回10分程度の数理能力向上テストを15回分行う。次に、経済学の基礎的な科目の学習および1年次の末に行わなければならないコース選択に備えて、それに必要な知識を得るための入門的な学習を行う。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>前半は、1) 授業の聴き方、ノートの取り方、情報収集のしかた、レポートの書き方、討論のしかた、プレゼンテーションの仕方を学ぶ。 2) 地域経済・観光経済・国際経済等の様々な分野で起こっている問題を取り上げ、自分（たち）でテーマを発見し、それを学期末にレポートにまとめ、プレゼンテーションをする。 3) 随時、「経済学入門」や「経済情報論」で教えられる基礎知識（エコノミック・リテラシーとITリテラシー）を少人数教育の場で確認する。 4) 環境問題を学習し、学習成果をレポートにまとめる。 5) 『FIRST YEAR STUDY GUIDE』を用いて研究倫理教育を行う。</p> <p>後半は、英和対訳の『Japan as it is 日本タテヨコ』を用いて、各自が興味を持つ分野について国際的な視野でもって自主的に調査し、その結果を説明できるようにする。</p>																		
関連科目	経済学入門（エコノミックリテラシー）、経済情報論																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>日本タテヨコ（和英対訳）</td> <td>学習研究社</td> <td>学習研究社</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	日本タテヨコ（和英対訳）	学習研究社	学習研究社	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	日本タテヨコ（和英対訳）	学習研究社	学習研究社																
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法（基準）	課題の発見・分担、資料収集・分析、レジュメおよびレポート作成・発表の達成度、討論・総括内容、課題へ取り組む姿勢、受講態度（私語・遅刻を含む）を総合的に評価する。																		
学生へのメッセージ	学習面にせよ、生活面にせよ、基礎演習の担当者に何でも相談して下さい。																		
担当者の研究室等	1号館7階																		
備考	出席日数が不足する者は、単位取得の資格を失う場合がある。																		

科目名	基礎演習	科目名 (英文)	Basic Seminar
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	B
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	平野 泰明
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	本演習は、大学での学習に必要な基礎的能力を習得させるとともに、経済学の学習を通して後続学年での専門的な選択に備えさせることを目的とする。																
到達目標	大学での学習を開始するにあたって必要な基礎知識（エコノミック・リテラシーとITリテラシー）を用いて自主的学習ができる。																
授業方法と留意点	上記の目的達成のため、まず、大学から配布される『FIRST YEAR STUDY GUIDE』をもとに、大学での学習に必要とされる知識・技法を習得すると同時に、1回10分程度の数理能力向上テストを15回分行う。次に、経済学の基礎的な科目の学習および1年次の末に行わなければならないコース選択に備えて、それに必要な知識を得るための入門的な学習を行う。																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	前半は、以下のことを行う。 1) 授業の聴き方、ノートの取り方、情報収集のしかた、レポートの書き方、討論のしかた、プレゼンテーションの仕方を学ぶ。 2) 地域経済・観光経済・国際経済等の様々な分野で起こっている問題を取り上げ、自分（たち）でテーマを発見し、それを学期末にレポートにまとめ、プレゼンテーションをする。 3) 随時、「経済学入門」や「経済情報論」で教えられる基礎知識（エコノミック・リテラシーとITリテラシー）を少人数教育の場で確認する。 4) 環境問題を学習し、学習成果をレポートにまとめる。 5) 『FIRST YEAR STUDY GUIDE』を用いて、研究倫理教育を行う。 後半は、グループ学習、ふる里（または地域）研究、見学演習等を行う。																
関連科目	経済学入門（エコノミックリテラシー）、経済情報論																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法（基準）	課題の発見・分担、資料収集・分析、レジュメおよびレポート作成・発表の達成度、討論・総括内容、課題へ取り組み姿勢、受講態度（私語・遅刻を含む）を総合的に評価する。																
学生へのメッセージ	学習面にせよ、生活面にせよ、基礎演習の担当者に何でも相談して下さい。																
担当者の研究室等	1号館7階 平野教授室（経済学部）																
備考	出席日数が不足する者は、単位取得の資格を失う場合がある。																

科目名	基礎演習	科目名 (英文)	Basic Seminar
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	C
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	浅羽 良昌
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	本演習は、大学での学習開始の基礎を確保させることと、後続学年での専門的な選択に備えさせるという二つの役割を有しています。																		
到達目標	大学での学習を開始するにあたって必要な基礎知識（エコノミック・リテラシーとITリテラシー）を用いて自主的学習ができる。資料や教科書の分析を通じ判断能力が身につくことを目標とします。																		
授業方法と留意点	本演習は、ゼミ形式の少人数教育によって、課題の発見・分担、資料収集・分析、レジュメおよびレポートの作成・発表、討論・総括という学習スタイルを進めます。前期は教材を利用して勉強をはじめますが、後期は自分の生まれた故郷を、観光地として是非ゼミ生仲間に訪れて欲しいと、資料収集・分析をおこないながら紹介してもらいます。最後にはレポートにまとめ提出してもらいます。なお、大学から配布する『FIRST YEAR STUDY GUIDE』を参照して下さい。あわせて、1回10分程度の数理能力向上テストを15回分を行います。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<ol style="list-style-type: none"> 1) 授業の聴き方、ノートを取り方、情報収集のしかた、レポートの書き方、討論のしかた、プレゼンテーションの仕方を学ぶ。 2) 地域経済・観光経済・国際経済等の様々な分野で起こっている問題を取り上げ、自分（たち）でテーマを発見し、それを学期末にレポートにまとめ、プレゼンテーションをする。 3) 随時、「経済学入門」や「経済情報論」で教えられる基礎知識（エコノミック・リテラシーとITリテラシー）を少人数教育の場で確認する。 4) 環境問題を学習し、学習成果をレポートにまとめる。 5) 『FIRST YEAR STUDY GUIDE』を用いて研究倫理教育を行う。 <p>大学での学習を開始するにあたって必要な基礎知識（エコノミック・リテラシーとITリテラシー）を確認するとともに、第2年次以降から学びはじめる専門基礎科目の学習を補完します</p>																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>日本が支える観光大国アメリカ</td> <td>浅羽良昌</td> <td>昭和堂</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	日本が支える観光大国アメリカ	浅羽良昌	昭和堂	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	日本が支える観光大国アメリカ	浅羽良昌	昭和堂																
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法（基準）	課題の発見・分担、資料収集・分析、レジュメおよびレポート作成・発表の達成度、討論・総括内容、課題への取り組む姿勢を総合的に判断します。																		
学生へのメッセージ	学習面にせよ、生活面にせよ、基礎演習の担当者に何でも相談して下さい。																		
担当者の研究室等	1号館7階 浅羽教授室																		
備考	出席日数が不足する者は、単位取得の資格を失う場合がある。																		

科目名	基礎演習	科目名 (英文)	Basic Seminar
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	D
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	内田 勝巳
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	本演習は、大学での学習に必要な基礎的能力を習得させるとともに、経済学の学習を通して後続学年での専門的な選択に備えさせることを目的とする。		
到達目標	大学での学習を開始するにあたって必要な基礎知識（エコノミック・リテラシーとITリテラシー）を用いて自主的学習ができる。		
授業方法と留意点	上記の目的達成のため、大学から配布される『FIRST YEAR STUDY GUIDE』をもとに、大学での学習に必要な知識・技法を習得すると同時に、1回10分程度の数理能力向上テストを行う。更に、2年次からの専門コースを選択するうえで必要な知識を得るための経済学の入門的な学習を行う。		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	1) 授業の聴き方、ノートの取り方、情報収集のしかた、レポートの書き方、討論のしかた、プレゼンテーションの仕方を学ぶ。 2) 地域経済・観光経済・国際経済等の様々な分野で起こっている問題を取り上げ、自分（たち）でテーマを発見し、それをレポートにまとめ、プレゼンテーションをする。 3) 「経済学入門」や「経済情報論」で教えらるる基礎知識（エコノミック・リテラシーとITリテラシー）を少人数教育の場で確認する。 4) 環境問題を学習し、学習成果をレポートにまとめる。 5) 『FIRST YEAR STUDY GUIDE』を用いて研究倫理教育を行う。		
関連科目	経済学入門（エコノミックリテラシー）、経済情報論および第1年次後期の専門基礎科目		
教科書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
評価方法（基準）	課題の発見・分担、資料収集・分析、レジュメおよびレポート作成・発表の達成度、討論・総括内容、課題へ取り組み姿勢、受講態度（私語・遅刻を含む）を総合的に評価する。出席日数が不足する者は、単位取得の資格を失う場合がある。		
学生へのメッセージ	学習面にせよ、生活面にせよ、基礎演習の担当者に何でも相談して下さい。		
担当者の研究室等備考	1号館7階 内田教授室（経済学部）		

科目名	基礎演習	科目名 (英文)	Basic Seminar
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	E
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	久保 廣正
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	本演習は、大学での学習に必要な基礎的能力を習得させるとともに、経済学の学習を通して後続学年での専門的な選択に備えさせることを目的とする。また、グローバル化が一段と進行するという環境の下、日本の産業は積極的に海外展開を図るようになっている。その際、日本の産業はどのような課題に直面し、どのように克服しようとしているのか、というテーマに関して研究することも本演習の目的とする。																		
到達目標	大学での学習を開始するにあたって必要な基礎知識（エコノミック・リテラシーとITリテラシー）を用いて自主的学習ができる。また、上記の木低で達成するための基礎学力を養うことも到達目標とする。																		
授業方法と留意点	上記の目的達成のため、まず、大学から配布される『FIRST YEAR STUDY GUIDE』をもとに、大学での学習に必要なとされる知識・技法を習得すると同時に、1回10分程度の数理能力向上テストを15回分行う。次に、経済学の基礎的な科目の学習および1年次の末に行わなければならないコース選択に備えて、それに必要な知識を得るための入門的な学習を行う。さらに、国際経済学に関する基礎的な文献を輪読する。また、論文・新聞・雑誌、さらには各種の統計を収集し、分析を行う。その際、常に経済社会の動きに興味を持ち、その背景・要因について自分で考えることに留意してもらいたい。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<ol style="list-style-type: none"> 1) 授業の聴き方、ノートの取り方、情報収集のしかた、レポートの書き方、討論のしかた、プレゼンテーションの仕方を学ぶ。 2) 地域経済・観光経済・国際経済等の様々な分野で起こっている問題を取り上げ、自分（たち）でテーマを発見し、それを学期末にレポートにまとめ、プレゼンテーションをする。 3) 随時、「経済学入門」や「経済情報論」で教えられる基礎知識（エコノミック・リテラシーとITリテラシー）を少人数教育の場で確認する。 4) 環境問題を学習し、学習成果をレポートにまとめる。 5) 『FIRST YEAR STUDY GUIDE』を用いて研究倫理教育を行う。 <p>なお、演習中に事前事後学習課題を指示する。</p>																		
関連科目	経済学入門（エコノミックリテラシー）、経済情報論																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法（基準）	課題の発見・分担、資料収集・分析、レジュメおよびレポート作成・発表の達成度、討論・総括内容、課題へ取り組む姿勢、受講態度（私語・遅刻を含む）を総合的に評価する。																		
学生へのメッセージ	学習面にせよ、生活面にせよ、基礎演習の担当者に何でも相談して下さい。																		
担当者の研究室等	1号館7階 久保教授室																		
備考	出席日数が不足する者は、単位取得の資格を失う場合がある。																		

科目名	基礎演習	科目名 (英文)	Basic Seminar
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	F
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	後藤 和子
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	本演習は、大学での学習に必要な基礎的能力を習得させるとともに、経済学の学習を通して後続学年での専門的な選択に備えさせることを目的とする。																		
到達目標	大学での学習を開始するにあたって必要な基礎知識（エコノミック・リテラシーとITリテラシー）を用いて自主的学習ができる。																		
授業方法と留意点	上記の目的達成のため、まず、大学から配布される『FIRST YEAR STUDY GUIDE』をもとに、大学での学習に必要とされる知識・技法を習得すると同時に、1回10分程度の数理能力向上テストを15回分行う。次に、経済学の基礎的な科目の学習および1年次の末に行わなければならないコース選択に備えて、それに必要な知識を得るための入門的な学習を行う。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<ol style="list-style-type: none"> 1) 授業の聴き方、ノートの取り方、情報収集のしかた、レポートの書き方、討論のしかた、プレゼンテーションの仕方を学ぶ。 2) 地域経済・観光経済・国際経済等の様々な分野で起こっている問題を取り上げ、自分（たち）でテーマを発見し、それを学期末にレポートにまとめ、プレゼンテーションをする。 3) 随時、「経済学入門」や「経済情報論」で教えられる基礎知識（エコノミック・リテラシーとITリテラシー）を少人数教育の場で確認する。 4) 環境問題を学習し、学習成果をレポートにまとめる。 5) 『FIRST YEAR STUDY GUIDE』を用いて研究倫理教育を行う。 																		
関連科目	経済学入門（エコノミックリテラシー）、経済情報論																		
教科書	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 10%;">番号</th> <th style="width: 40%;">書籍名</th> <th style="width: 30%;">著者名</th> <th style="width: 20%;">出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 10%;">番号</th> <th style="width: 40%;">書籍名</th> <th style="width: 30%;">著者名</th> <th style="width: 20%;">出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法（基準）	課題の発見・分担、資料収集・分析、レジュメおよびレポート作成・発表の達成度、討論・総括内容、課題へ取り組む姿勢、受講態度（私語・遅刻を含む）を総合的に評価する。																		
学生へのメッセージ	学習面にせよ、生活面にせよ、基礎演習担当者に何でも相談してください。																		
担当者の研究室等	1号館7階 後藤教授室																		
備考	出席日数が不足する者は、単位取得の資格を失う場合がある。																		

科目名	基礎演習	科目名 (英文)	Basic Seminar
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	G
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	朴 景淑

教育職員免許法施行規則に定める科目区分等

授業概要・目的	本演習は、大学での学習に必要な基礎的能力を習得させるとともに、経済学の学習を通して後続学年での専門的な選択に備えさせることを目的とする。																		
到達目標	大学での学習を開始するにあたって必要な基礎知識（エコノミック・リテラシーとITリテラシー）を用いて自主的学習ができる。																		
授業方法と留意点	上記の目的達成のため、まず、大学から配布される『FIRST YEAR STUDY GUIDE』をもとに、大学での学習に必要とされる知識・技法を習得すると同時に、1回10分程度の数理能力向上テストを15回分行う。次に、経済学の基礎的な科目の学習および1年次の末に行わなければならないコース選択に備えて、それに必要な知識を得るための入門的な学習を行う。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<ol style="list-style-type: none"> 1) 授業の聴き方、ノートの取り方、情報収集のしかた、レポートの書き方、討論のしかた、プレゼンテーションの仕方を学ぶ。 2) 地域経済・観光経済・国際経済等の様々な分野で起こっている問題を取り上げ、自分（たち）でテーマを発見し、それを学期末にレポートにまとめ、プレゼンテーションをする。 3) 随時、「経済学入門」や「経済情報論」で教えられる基礎知識（エコノミック・リテラシーとITリテラシー）を少人数教育の場で確認する。 4) 環境問題を学習し、学習成果をレポートにまとめる。 5) 『FIRST YEAR STUDY GUIDE』を用いて研究倫理教育を行う。 																		
関連科目	経済学入門（エコノミックリテラシー）、経済情報論																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>毎回、内容に応じて配布または指示がある</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	毎回、内容に応じて配布または指示がある			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	毎回、内容に応じて配布または指示がある																		
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法（基準）	課題の発見・分担、資料収集・分析、レジュメおよびレポート作成・発表の達成度、討論・総括内容、課題へ取り組む姿勢を総合的に評価する。																		
学生へのメッセージ	学習面にせよ、生活面にせよ、基礎演習の担当者に何でも相談して下さい。																		
担当者の研究室等	1号館7階 朴教授室																		
備考	出席日数が不足する者は、単位取得の資格を失う場合がある。																		

科目名	基礎演習	科目名 (英文)	Basic Seminar
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	H
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	蛭川 雅之
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	本演習は、大学での学習に必要な基礎的能力を習得させるとともに、経済学の学習を通して後続学年での専門的な選択に備えさせることを目的とします。		
到達目標	大学での学習を開始するにあたって必要な基礎知識（エコノミック・リテラシーとITリテラシー）を用いて自主的学習を行い、第2年次から履修を開始するコース専攻科目の準備とすることを目標とします。		
授業方法と留意点	上記の目的達成のため、まず、大学から配布される『FIRST YEAR STUDY GUIDE』をもとに、大学での学習に必要なとされる知識・技法を習得すると同時に、1回10分程度の数理能力向上テストを15回分を行います。次に、経済学の基礎的な科目の学習および1年次の末に行わなければならないコース選択に備えて、それに必要な知識を得るための入門的な学習を行います。		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	1) 授業の聴き方、ノートの取り方、情報収集のしかた、レポートの書き方、討論の仕方、プレゼンテーションの仕方を学びます。 2) 地域経済・観光経済・国際経済等の様々な分野で起こっている問題を取り上げ、自分（たち）でテーマを発見し、それを学期末にレポートにまとめ、プレゼンテーションを行います。 3) 随時、「経済学入門」や「経済情報論」で教えられる基礎知識（エコノミック・リテラシーとITリテラシー）を少人数教育の場で確認します。 4) 環境問題を学習し、学習成果をレポートにまとめる。 5) 『FIRST YEAR STUDY GUIDE』を用いて研究倫理教育を行う。		
関連科目	経済学入門（エコノミックリテラシー）、経済情報論および第1年次後期の専門基礎科目		
教科書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
評価方法（基準）	課題の発見・分担、資料収集・分析、レジュメおよびレポート作成・発表の達成度、討論・総括内容、課題へ取り組み姿勢、受講態度（私語・遅刻を含む）を総合的に評価します。		
学生へのメッセージ	学習面にせよ、生活面にせよ、基礎演習の担当者に何でも相談して下さい。		
担当者の研究室等	1号館7階 蛭川教授室（経済学部）		
備考	出席日数が不足する者は、単位取得の資格を失う場合があります。		

科目名	基礎演習	科目名 (英文)	Basic Seminar
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	I
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	持永 政人
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	本演習は、大学での学習に必要な基礎的能力を習得させるとともに、経済学の学習を通して後続学年での専門的な選択に備えさせることを目的とする。		
到達目標	大学での学習を開始するにあたって必要な基礎知識（エコノミック・リテラシーとITリテラシー）を用いて自主的学習ができる。		
授業方法と留意点	上記の目的達成のため、まず、大学から配布される『FIRST YEAR STUDY GUIDE』をもとに、大学での学習に必要とされる知識・技法を習得すると同時に、1回10分程度の数理能力向上テストを15回分行う。次に、経済学の基礎的な科目の学習および1年次の末に行わなければならないコース選択に備えて、それに必要な知識を得るための入門的な学習を行う。		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【授業テーマ・内容・方法・事前事後学習課題】</p> <p>1) 授業の聴き方、ノートの取り方、情報収集のしかた、レポートの書き方、討論のしかた、プレゼンテーションの仕方を学ぶ。</p> <p>2) 地域経済・観光経済・国際経済等の様々な分野で起こっている問題を取り上げ、自分（たち）でテーマを発見し、それを学期末にレポートにまとめ、プレゼンテーションをする。</p> <p>3) 随時、「経済学入門」や「経済情報論」で教えられる基礎知識（エコノミック・リテラシーとITリテラシー）を少人数教育の場で確認する。</p> <p>4) 環境問題を学習し、学習成果をレポートにまとめる。</p> <p>5) 『FIRST YEAR STUDY GUIDE』を用いて研究倫理教育を行う。</p>		
関連科目	経済学入門（エコノミックリテラシー）、経済情報論		
教科書	番号	書籍名	著者名 出版社名
	1		
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名 出版社名
	1		
	2		
	3		
評価方法（基準）	課題の発見・分担、資料収集・分析、レジュメおよびレポート作成・発表の達成度、討論・総括内容、課題へ取り組み姿勢、受講態度（私語・遅刻を含む）を総合的に評価する。		
学生へのメッセージ	学習面にせよ、生活面にせよ、基礎演習の担当者に何でも相談して下さい。		
担当者の研究室等	1号館7階 持永教授室（経済学部）		
備考	出席日数が不足する者は、単位取得の資格を失う場合がある。		

科目名	基礎演習	科目名 (英文)	Basic Seminar
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	J
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	植杉 大
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	本演習は、大学での学習に必要な基礎的能力を習得させるとともに、経済学の学習を通して後続学年での専門的な選択に備えさせることを目的とする。																		
到達目標	大学での学習を開始するにあたって必要な基礎知識（エコノミック・リテラシーとITリテラシー）を用いて自主的学習ができる。																		
授業方法と留意点	上記の目的達成のため、まず、大学から配布される『FIRST YEAR STUDY GUIDE』をもとに、大学での学習に必要とされる知識・技法を習得すると同時に、1回10分程度の数理能力向上テストを15回分行う。次に、経済学の基礎的な科目の学習および1年次の末に行わなければならないコース選択に備えて、それに必要な知識を得るための入門的な学習を行う。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<ol style="list-style-type: none"> 1) 授業の聴き方、ノートの取り方、情報収集のしかた、レポートの書き方、討論のしかた、プレゼンテーションの仕方を学ぶ。 2) 地域経済・観光経済・国際経済等の様々な分野で起こっている問題を取り上げ、自分（たち）でテーマを発見し、それを学期末にレポートにまとめ、プレゼンテーションをする。 3) 随時、「経済学入門」や「経済情報論」で教えられる基礎知識（エコノミック・リテラシーとITリテラシー）を少人数教育の場で確認する。 4) 環境問題を学習し、学習成果をレポートにまとめる。 5) 『FIRST YEAR STUDY GUIDE』を用いて研究倫理教育を行う。 																		
関連科目	経済学入門（エコノミックリテラシー）、経済情報論																		
教科書	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 10%;">番号</th> <th style="width: 45%;">書籍名</th> <th style="width: 30%;">著者名</th> <th style="width: 15%;">出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 10%;">番号</th> <th style="width: 45%;">書籍名</th> <th style="width: 30%;">著者名</th> <th style="width: 15%;">出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法（基準）	課題の発見・分担、資料収集・分析、レジュメおよびレポート作成・発表の達成度、討論・総括内容、課題へ取り組む姿勢、受講態度（私語・遅刻を含む）を総合的に評価する。																		
学生へのメッセージ	学習面にせよ、生活面にせよ、基礎演習の担当者に何でも相談して下さい。																		
担当者の研究室等	1号館7階植杉研究室																		
備考	出席日数が不足する者は、単位取得の資格を失う場合がある。																		

科目名	基礎演習	科目名 (英文)	Basic Seminar
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	K
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	岸田 未来

教育職員免許法施行規則に定める科目区分等

授業概要・目的	本演習は、大学での学習に必要な基礎的能力を習得させるとともに、経済学の学習を通して後続学年での専門的な選択に備えさせることを目的とする。																		
到達目標	大学での学習を開始するにあたって必要な基礎知識（エコノミック・リテラシーとITリテラシー）を用いて自主的学習ができる。																		
授業方法と留意点	上記の目的達成のため、まず、大学から配布される『FIRST YEAR STUDY GUIDE』をもとに、大学での学習に必要とされる知識・技法を習得すると同時に、1回10分程度の数理能力向上テストを15回分行う。次に、経済学の基礎的な科目の学習および1年次の末に行わなければならないコース選択に備えて、それに必要な知識を得るための入門的な学習を行う。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<ol style="list-style-type: none"> 1) 授業の聴き方、ノートの取り方、情報収集のしかた、レポートの書き方、討論のしかた、プレゼンテーションの仕方を学ぶ。 2) 地域経済・観光経済・国際経済等の様々な分野で起こっている問題を取り上げ、自分（たち）でテーマを発見し、それを学期末にレポートにまとめ、プレゼンテーションをする。 3) 随時、「経済学入門」や「経済情報論」で教えられる基礎知識（エコノミック・リテラシーとITリテラシー）を少人数教育の場で確認する。 4) 環境問題を学習し、学習成果をレポートにまとめる。 5) 『FIRST YEAR STUDY GUIDE』を用いて研究倫理教育を行う。 																		
関連科目	経済学入門（エコノミックリテラシー）、経済情報論																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法（基準）	課題の発見・分担、資料収集・分析、レジュメおよびレポート作成・発表の達成度、討論・総括内容、課題へ取り組む姿勢、受講態度（私語・遅刻を含む）を総合的に評価する。																		
学生へのメッセージ	学習面にせよ、生活面にせよ、基礎演習の担当者に何でも相談して下さい。																		
担当者の研究室等	1号館7階 岸田准教授室																		
備考	出席日数が不足する者は、単位取得の資格を失う場合がある。																		

科目名	基礎演習	科目名 (英文)	Basic Seminar
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	L
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	田井 義人
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	本演習は、大学での学習に必要な基礎的能力を習得させるとともに、経済学の学習を通して後続学年での専門的な選択に備えさせることを目的とする。																		
到達目標	大学での学習を開始するにあたって必要な基礎知識（エコノミック・リテラシーとITリテラシー）を用いて自主的学習ができる。																		
授業方法と留意点	<p>【前期】</p> <ul style="list-style-type: none"> 上記の目的達成のため、まず、大学から配布される『FIRST YEAR STUDY GUIDE』をもとに、大学で学習に必要とされる知識・技法を習得すると同時に、1回10分程度の数理能力向上テストを15回分を行う。 次に、経済学の基礎的な科目の学習及び1年次の末に行わなければならないコース選択に備えて、それに必要な知識をえるための入門的な学習を行う。 <p>【後期】</p> <ul style="list-style-type: none"> 経済学の基本的な2つの流れである近代経済学とマルクス経済学の考え方を習得する。 教科書を基本に大学で学ぶ経済学関連科目への興味を喚起させ具体的な履修計画作成の一助とする。 																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<ol style="list-style-type: none"> 1) 授業の聴き方、ノートの取り方、情報収集のしかた、レポートの書き方、討論のしかた、プレゼンテーションの仕方を学ぶ。 2) 地域経済・観光経済・国際経済等の様々な分野で起こっている問題を取り上げ、自分（たち）でテーマを発見し、それを学期末にレポートにまとめ、プレゼンテーションをする。 3) 随時、「経済学入門」や「経済情報論」で教えられる基礎知識（エコノミック・リテラシーとITリテラシー）を少人数教育の場で確認する。 4) 環境問題を学習し、学習成果をレポートにまとめる。 5) 『FIRST YEAR STUDY GUIDE』を用いて研究倫理教育を行う。 																		
関連科目	経済学入門（エコノミックリテラシー）、経済情報論																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>ゼミ開始時及び適宜指定する。</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>アメリカの高校生が読んでいる経済の教科書</td> <td>山岡道男 浅野忠克</td> <td>アスペクト</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>知識ゼロからのマルクス経済学入門</td> <td>的場昭弘</td> <td>幻冬舎</td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	ゼミ開始時及び適宜指定する。			2	アメリカの高校生が読んでいる経済の教科書	山岡道男 浅野忠克	アスペクト	3	知識ゼロからのマルクス経済学入門	的場昭弘	幻冬舎
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	ゼミ開始時及び適宜指定する。																		
2	アメリカの高校生が読んでいる経済の教科書	山岡道男 浅野忠克	アスペクト																
3	知識ゼロからのマルクス経済学入門	的場昭弘	幻冬舎																
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>ゼミ開始時及び適宜指定する。</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	ゼミ開始時及び適宜指定する。			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	ゼミ開始時及び適宜指定する。																		
2																			
3																			
評価方法（基準）	課題の発見・分担、資料収集・分析、レジュメおよびレポート作成・発表の達成度、討論・総括内容、課題へ取り組み姿勢、受講態度（私語・遅刻を含む）を総合的に評価する。																		
学生へのメッセージ	学習面にせよ、生活面にせよ、基礎演習の担当者に何でも相談して下さい。																		
担当者の研究室等	1号館7階 田井准教授室（経済学部）																		
備考	出席日数が不足する者は、単位取得の資格を失う場合がある。																		

科目名	基礎演習	科目名 (英文)	Basic Seminar
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	M
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	野口 義直
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	本演習は、大学での学習に必要な基礎的能力を習得させるとともに、経済学の学習を通して後続学年での専門的な選択に備えさせることを目的とする。																		
到達目標	大学での学習を開始するにあたって必要な基礎知識（エコノミック・リテラシーとITリテラシー）を用いて自主的学習ができる。																		
授業方法と留意点	上記の目的達成のため、まず、大学から配布される『FIRST YEAR STUDY GUIDE』をもとに、大学での学習に必要とされる知識・技法を習得すると同時に、1回10分程度の数理能力向上テストを15回分行う。次に、経済学の基礎的な科目の学習および1年次の末に行わなければならないコース選択に備えて、それに必要な知識を得るための入門的な学習を行う。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<ol style="list-style-type: none"> 1) 授業の聴き方、ノートの取り方、情報収集のしかた、レポートの書き方、討論のしかた、プレゼンテーションの仕方を学ぶ。 2) 地域経済・観光経済・国際経済等の様々な分野で起こっている問題を取り上げ、自分（たち）でテーマを発見し、それを学期末にレポートにまとめ、プレゼンテーションをする。 3) 随時、「経済学入門」や「経済情報論」で教えられる基礎知識（エコノミック・リテラシーとITリテラシー）を少人数教育の場で確認する。 4) 環境問題を学習し、学習成果をレポートにまとめる。 5) 『FIRST YEAR STUDY GUIDE』を用いて研究倫理教育を行う。 																		
関連科目	経済学入門（エコノミックリテラシー）、経済情報論																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法（基準）	課題の発見・分担、資料収集・分析、レジュメおよびレポート作成・発表の達成度、討論・総括内容、課題へ取り組む姿勢、受講態度（私語・遅刻を含む）を総合的に評価する。																		
学生へのメッセージ	何でも気さくに相談して下さい。																		
担当者の研究室等	1号館7階 野口准教授室（経済学部）																		
備考	出席日数が不足する者は、単位取得の資格を失う場合がある。																		

科目名	基礎演習	科目名 (英文)	Basic Seminar
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	N
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	野村 佳子
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	本演習は、大学での学習に必要な基礎能力を習得させるとともに、経済学の学習を通じて後続学年での専門的な選択の備えさせることを目的とする。		
到達目標	大学での学習を開始するにあたって必要な基礎知識（エコノミック・リテラシーとITリテラシー）を用いて自主的学習ができる。		
授業方法と留意点	上記の目的達成のため、まず、大学から配布される『FIRST YEAR STUDY GUIDE』をもとに、大学での学習に必要とされる知識・技法を習得すると同時に、1回10分程度の数理能力向上テストを15回分行う。次に、経済学の基礎的な科目の学習および1年次の末に行わなければならないコース選択に備えて、それに必要な知識を得るための入門的な学習を行う。		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<ol style="list-style-type: none"> 1) 授業の聴き方、ノートの取り方、情報収集のしかた、レポートの書き方、討論のしかた、プレゼンテーションのしかたを学ぶ。 2) 地域経済・観光経済・国際経済等の様々な分野で起こっている問題を取り上げ、自分（たち）でテーマを発見し、それを学期末にレポートにまとめ、プレゼンテーションをする。 3) 随時、「経済学入門」や「経済情報論」で教えられる基礎知識（エコノミック・リテラシーとITリテラシー）を少人数教育の場で確認する。 4) 環境問題を学習し、学習成果をレポートにまとめる。 5) 『FIRST YEAR STUDY GUIDE』を用いて研究倫理教育を行う。 		
関連科目	経済学入門（エコノミック・リテラシー）、経済情報論		
教科書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
評価方法（基準）	課題の発見・分担、資料収集・分析、レジュメおよびレポート作成・発表の達成度、討論・総括内容、課題へ取り組み姿勢、受講態度（私語・遅刻を含む）を総合的に評価する。		
学生へのメッセージ	学習面にせよ、生活面にせよ、基礎演習の担当者に何でも相談して下さい。		
担当者の研究室等	1号館7階 野村准教授室（経済学部）		
備考	出席日数が不足する者は、単位取得の資格を失う場合がある。		

科目名	基礎演習	科目名 (英文)	Basic Seminar
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	○
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	牧野 邦昭
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	本演習は、大学での学習に必要な基礎的能力を習得させるとともに、経済学の学習を通して後続学年での専門的な選択に備えさせることを目的とする。		
到達目標	大学での学習を開始するにあたって必要な基礎知識（エコノミック・リテラシーとITリテラシー）を用いて自主的学習を行うことで、第2年次から学びはじめるコース専攻科目に備えることができる。		
授業方法と留意点	上記の目的達成のため、まず、大学から配布される『FIRST YEAR STUDY GUIDE』をもとに、大学での学習に必要なとされる知識・技法を習得すると同時に、1回10分程度の数理能力向上テストを15回分行う。次に、経済学の基礎的な科目の学習および1年次の末に行わなければならないコース選択に備えて、それに必要な知識を得るための入門的な学習を行う。		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<ol style="list-style-type: none"> 1) 授業の聴き方、ノートの取り方、情報収集のしかた、レポートの書き方、討論のしかた、プレゼンテーションの仕方を学ぶ。 2) 地域経済・観光経済・国際経済等の様々な分野で起こっている問題を取り上げ、自分（たち）でテーマを発見し、それを学期末にレポートにまとめ、プレゼンテーションをする。 3) 随時、「経済学入門」や「経済情報論」で教えられる基礎知識（エコノミック・リテラシーとITリテラシー）を少人数教育の場で確認する。 4) 環境問題を学習し、学習成果をレポートにまとめる。 5) 『FIRST YEAR STUDY GUIDE』を用いて研究倫理教育を行う。 		
関連科目	経済学入門（エコノミックリテラシー）、経済情報論および第1年次後期の専門基礎科目		
教科書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
評価方法（基準）	課題の発見・分担、資料収集・分析、レジュメおよびレポート作成・発表の達成度、討論・総括内容、課題へ取り組み姿勢、受講態度（私語・遅刻を含む）を総合的に評価する。		
学生へのメッセージ	学習面にせよ、生活面にせよ、基礎演習の担当者になんでも相談してください。		
担当者の研究室等	1号館7階 牧野准教授室（経済学部）		
備考	出席日数が不足する者は、単位取得の資格を失う場合がある。		

科目名	基礎演習	科目名 (英文)	Basic Seminar
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	P
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	郭 進
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	本演習は、大学での学習開始の基礎を確保させることと、後続学年での専門的な選択に備えさせるという2つの役割を有している。		
到達目標	大学での学習を開始するにあたって必要な基礎知識（エコノミック・リテラシーとITリテラシー）を用いて自主的学習ができる。 ①学生が自分で経済問題を考え、分析する能力を身につける。②学生のプレゼンテーションの能力を高める。		
授業方法と留意点	ゼミ形式は少人数の授業である。課題の発見・分担、資料収集・分析、レジュメおよびレポートの作成・発表、討論・総括という学習スタイル。割り当てられた担当教員の指導のもとに修得させる。 まず、大学から配布される『FIRST YEAR STUDY GUIDE』をもとに、大学での学習に必要とされる知識・技法を習得すると同時に、1回10分程度の数理能力向上テストを15回分を行う。次に、経済学の基礎的な科目の学習および1年次の末に行わなければならないコース選択に備えて、それに必要な知識を得るための入門的な学習を行う。		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	大学での学習を開始するにあたって必要な基礎知識（エコノミック・リテラシーとITリテラシー）を確認するとともに、第1年次後期から学びはじめる専門基礎科目の学習を補完する。 1) 授業の聴き方、ノートの取り方、情報収集のしかた、レポートの書き方、討論のしかた、プレゼンテーションの仕方を学ぶ。 2) 地域経済・観光経済・国際経済等の様々な分野で起こっている問題を取り上げ、自分（たち）でテーマを発見し、それを学期末にレポートにまとめ、プレゼンテーションをする。 3) 随時、「経済学入門」や「経済情報論」で教えられる基礎知識（エコノミック・リテラシーとITリテラシー）を少人数教育の場で確認する。 4) 環境問題を学習し、学習成果をレポートにまとめる。 5) 『FIRST YEAR STUDY GUIDE』を用いて研究倫理教育を行う。		
関連科目			
教科書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
評価方法（基準）	課題の発見・分担、資料収集・分析、レジュメおよびレポート作成・発表の達成度、討論・総括内容、課題へ取り組む姿勢を総合的に評価する。		
学生へのメッセージ	学習面にしても、生活面にしても、基礎演習の担当者になんでも相談してください。		
担当者の研究室等	1号館7階 郭講師室		
備考	出席日数が不足する者は、単位取得の資格を失う場合がある。		

科目名	基礎演習	科目名 (英文)	Basic Seminar
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	Q
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	田中 鮎夢
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	本演習は、大学での学習に必要な基礎的能力を習得させるとともに、経済学の学習を通して後続学年での専門的な選択に備えさせることを目的とする。		
到達目標	大学で学び基本を習得すること。 大学での学習を開始するにあたって必要な基礎知識（エコノミック・リテラシーとITリテラシー）を用いて自主的学習ができる。		
授業方法と留意点	上記の目的達成のため、まず、大学から配布される『FIRST YEAR STUDY GUIDE』をもとに、大学での学習に必要とされる知識・技法を習得すると同時に、1回10分程度の数理能力向上テストを15回分行う。次に、経済学の基礎的な科目の学習および1年次の末に行わなければならないコース選択に備えて、それに必要な知識を得るための入門的な学習を行う。		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<ol style="list-style-type: none"> 1) 授業の聴き方、ノートの取り方、情報収集のしかた、レポートの書き方、討論のしかた、プレゼンテーションの仕方を学ぶ。 2) 地域経済・観光経済・国際経済等の様々な分野で起こっている問題を取り上げ、自分（たち）でテーマを発見し、それを学期末にレポートにまとめ、プレゼンテーションをする。 3) 随時、「経済学入門」や「経済情報論」で教えられる基礎知識（エコノミック・リテラシーとITリテラシー）を少人数教育の場で確認する。 4) 環境問題を学習し、学習成果をレポートにまとめる。 5) 『FIRST YEAR STUDY GUIDE』を用いて研究倫理教育を行う。 		
関連科目	経済学入門（エコノミックリテラシー）、経済情報論および第1年次後期の専門基礎科目		
教科書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
評価方法（基準）	課題の発見・分担、資料収集・分析、レジュメおよびレポート作成・発表の達成度、討論・総括内容、課題へ取り組み姿勢、受講態度（私語・遅刻を含む）を総合的に評価する。		
学生へのメッセージ	学習面にせよ、生活面にせよ、基礎演習の担当者に何でも相談して下さい。		
担当者の研究室等	1号館7階田中講師室		
備考	出席日数が不足する者は、単位取得の資格を失う場合がある。		

科目名	基礎演習	科目名 (英文)	Basic Seminar
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	R
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	西川 浩平
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	本演習は、大学での学習に必要な基礎的能力を習得させるとともに、経済学の学習を通して後続学年での専門的な選択に備えさせることを目的とする。																		
到達目標	大学での学習を開始するにあたって必要な基礎知識（エコノミック・リテラシーとITリテラシー）を用いて自主的学習ができる。																		
授業方法と留意点	上記の目的達成のため、まず、大学から配布される『FIRST YEAR STUDY GUIDE』をもとに、大学での学習に必要とされる知識・技法を習得すると同時に、1回10分程度の数理能力向上テストを15回分行う。次に、経済学の基礎的な科目の学習および1年次の末に行わなければならないコース選択に備えて、それに必要な知識を得るための入門的な学習を行う。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<ol style="list-style-type: none"> 1) 授業の聴き方、ノートの取り方、情報収集のしかた、レポートの書き方、討論のしかた、プレゼンテーションの仕方を学ぶ。 2) 地域経済・観光経済・国際経済等の様々な分野で起こっている問題を取り上げ、自分（たち）でテーマを発見し、それを学期末にレポートにまとめ、プレゼンテーションをする。 3) 随時、「経済学入門」や「経済情報論」で教えられる基礎知識（エコノミック・リテラシーとITリテラシー）を少人数教育の場で確認する。 4) 環境問題を学習し、学習成果をレポートにまとめる。 5) 『FIRST YEAR STUDY GUIDE』を用いて研究倫理教育を行う。 																		
関連科目	経済学入門（エコノミックリテラシー）、経済情報論																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法（基準）	課題の発見・分担、資料収集・分析、レジュメおよびレポート作成・発表の達成度、討論・総括内容、課題へ取り組む姿勢、受講態度（私語・遅刻を含む）を総合的に評価する。																		
学生へのメッセージ	学習面にせよ、生活面にせよ、基礎演習の担当者に何でも相談して下さい。																		
担当者の研究室等	1号館7階 西川講師室（経済学部）																		
備考	出席日数が不足する者は、単位取得の資格を失う場合がある。																		

科目名	基礎演習	科目名 (英文)	Basic Seminar
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	S
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	名方 佳寿子
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	本演習は、大学での学習に必要な基礎的能力を習得させるとともに、経済学の学習を通して後続学年での専門的な選択に備えさせることを目的とする。																		
到達目標	大学での学習を開始するにあたって必要な基礎知識（エコノミック・リテラシーとITリテラシー）を用いて自主的学習ができる。																		
授業方法と留意点	上記の目的達成のため、まず、大学から配布される『FIRST YEAR STUDY GUIDE』をもとに、大学での学習に必要とされる知識・技法を習得すると同時に、1回10分程度の数理能力向上テストを15回分行う。次に、経済学の基礎的な科目の学習および1年次の末に行わなければならないコース選択に備えて、それに必要な知識を得るための入門的な学習を行う。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<ol style="list-style-type: none"> 1) 授業の聴き方、ノートの取り方、情報収集のしかた、レポートの書き方、討論のしかた、プレゼンテーションの仕方を学ぶ。 2) 地域経済・観光経済・国際経済等の様々な分野で起こっている問題を取り上げ、自分（たち）でテーマを発見し、それを学期末にレポートにまとめ、プレゼンテーションをする。 3) 随時、「経済学入門」や「経済情報論」で教えられる基礎知識（エコノミック・リテラシーとITリテラシー）を少人数教育の場で確認する。 4) 環境問題を学習し、学習成果をレポートにまとめる。 5) 『FIRST YEAR STUDY GUIDE』を用いて研究倫理教育を行う。 																		
関連科目	経済学入門（エコノミックリテラシー）、経済情報論																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法（基準）	課題の発見・分担、資料収集・分析、レジュメおよびレポート作成・発表の達成度、討論・総括内容、課題へ取り組む姿勢、受講態度（私語・遅刻を含む）を総合的に評価する。																		
学生へのメッセージ	学習面にせよ、生活面にせよ、基礎演習の担当者に何でも相談して下さい。																		
担当者の研究室等	1号館7階 名方講師室																		
備考	出席日数が不足する者は、単位取得の資格を失う場合がある。																		

科目名	行政法	科目名(英文)	Administrative Law
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	金谷 重樹
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等	【科目】教科に関する科目(中学校 社会) 【施行規則に定める科目区分】「法学、政治学」 【教員免許状取得のための履修区分】選択 【科目】教科に関する科目(高等学校 公民) 【施行規則に定める科目区分】「法学(国際法を含む。)、政治学(国際政治を含む。)」 【教員免許状取得のための履修区分】選択		

授業概要・目的	私人の活動がいわゆる「私的自治の原則」を基盤としており、一定の法の柵の中であればその活動は個々人の自由な判断と責任に委ねられているのに対し、国や自治体による行政活動は必ず法に基づき、従って行われなければならないという「法治主義」ないし「法の支配」の下に置かれている。そこで、この授業では私人の活動と行政活動とが法的にどのように異なる扱いを受けているかについて、身近で具体的な事例を挙げながら、平易に解説する。
到達目標	行政法に関する基本的知識を習得し、公務員試験や各種資格試験に合格できる力の基礎を培う。
授業方法と留意点	プリントを配付します。配付したプリントは毎回、必ず、持参して下さい。 行政法という題名の法律は存在しません。そこで、授業は理論的な内容が多くなりますが、諸君においても、講義には必ず出席し、講義の内容を理解するように努力して下さい。
科目学習の効果(資格)	公務員を志望する諸君にとっては行政法は必須であり、また多くの国家試験においても行政法は必須です。また、民間企業にあっても、その営業活動が許可制の下に置かれるなど、行政法と密接な関連にあります。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	はじめに	行政の意味と様々な身近な行政活動	身近な行政について具体的に思い浮かべておくこと。
	2	法治主義・法の支配	私人の活動と行政主体の活動	事前にプリントを読んでおくこと。
	3	行政法の姿と形	成文法	事前にプリントを読んでおくこと。
	4	行政法の姿と形	不文法	事前にプリントを読んでおくこと。
	5	行政指導・行政上の契約	私人と同様の手法	事前にプリントを読んでおくこと。
	6	処分の意味と種類	契約との相違	事前にプリントを読んでおくこと。
	7	処分の効力	公定力、不可争力など	事前にプリントを読んでおくこと。
	8	拘束的計画、即時強制、強制調査	処分以外の公権力を行使して目的を実現する手法	事前にプリントを読んでおくこと。
	9	行政裁量	適正な行政裁量の確保	事前にプリントを読んでおくこと。
	10	行政上の義務違反に対する制裁	免許の取消処分などの説明	事前にプリントを読んでおくこと。
	11	行政上の強制執行	行政上の義務の履行を強制的に実現する手法	事前にプリントを読んでおくこと。
	12	国家賠償	行政上の損害賠償制度	事前にプリントを読んでおくこと。
	13	行政上の不服申立て	処分の取消しなどを行政機関に求める制度	事前にプリントを読んでおくこと。
	14	行政事件訴訟	処分の取消しなどを裁判所に求める制度	事前にプリントを読んでおくこと。
	15	まとめ	これまでの講義内容をまとめる	これまでの講義内容を復習しておくこと。

関連科目 憲法と民法総則は、履修するだけでなく、充分に理解しておくことが望ましいです。

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	なし		
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	適宜、指示します。		
	2			
	3			

評価方法(基準) 学期末の定期試験の結果によって評価します。試験内容は原則として、穴埋め又は○×方式です。

学生へのメッセージ とにかく私語をしないこと。私語は授業の進行と他学生の受講を妨害する悪質な行為であるから、私語を止めない学生は退室させます。

担当者の研究室等 11号館9階 金谷研究室

備考

科目名	金融論	科目名(英文)	Money and Banking
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	植杉 大
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	「金融論」は、経済学の応用分野の一つです。景気、金利や物価などがどのように金融システムの中で決定されているのか(マクロ的な金融論)、個人や企業、銀行や日本銀行などの各経済主体がどのように行動するのか(ミクロ的な金融論)を中心に、基礎的な部分を解説をしていきます。
到達目標	マクロ金融論・ミクロ金融論の理解を通じて、金融政策及びファイナンス理論に関する知識を深め、新聞の経済記事等の理解がスムーズに行えるようになる。
授業方法と留意点	基本的に講義形式をとります。第8回にマクロ的な金融論にかかわる範囲、第15回にミクロ的な金融論にかかわる範囲についての理解を問う試験を授業内で行います。
科目学習の効果(資格)	マクロ経済学・ミクロ経済学の理解補助 ERE(経済学検定試験)やFP(ファイナンシャルプランナー)をはじめとして、各種資格試験問題にも対応

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	金融論とは? / 45度線分析①	GDP 45度線モデル	45度線分析の概略を確認・復習
2	45度線分析②	消費関数 相対所得仮説 ライフサイクル仮説 恒常所得仮説	消費関数に関する議論の理解・復習
3	金利とマクロ経済 IS-LM分析①	利子率 投資の限界効率 投資関数 資産価格の決定式 トービンのq	資産価格の決定式をはじめとする各項目に関する理解・復習
4	金利とマクロ経済 IS-LM分析②	IS-LMモデル 金融・財政政策 流動性のわな	IS-LMモデルの理解・復習
5	物価とマクロ経済 AD-AS分析①	物価指数 AS曲線	AS曲線の導出方法の理解復習
6	物価とマクロ経済 AD-AS分析②	AD曲線 AD-ASモデル	AD曲線の導出方法及びAD-ASモデルの概略の理解・復習
7	為替レート	為替レートの決定理論 購買力平価説 裁定取引	為替レートの決定理論についての概略を理解・復習
8	まとめとテスト	7回までのまとめとテスト(試験範囲は第1~7回)	-----
9	ポートフォリオ理論	期待効用仮説 平均・分散アプローチ 効率性フロンティア 分離定理	統計学の基礎知識とポートフォリオ理論の概略を確認・復習
10	CAPM(資本資産評価モデル)	マーケットリスク・プレミアム リスクフリー・レート ベータ スワップレシオ	統計学の基礎知識とCAPMの概略の理解・復習
11	投資決定理論	NPV(ネット・プレゼント・ヴァリュー) B/S P/L キャッシュフロー 資本コスト	NPVの理解・復習
12	MM理論と企業財務政策	MM理論の第1命題 最適資本構成	MM理論の概略についての理解・復習
13	民間銀行の役割と行動	マネーサプライ 信用創造	信用創造のメカニズムについて理解・復習
14	日本銀行の役割と行動	ハイパワード・マネー 金融政策	各種金融政策とその波及効果について理解・復習
15	まとめとテスト	14回までのまとめとテスト(試験範囲は第9回~14回)	-----

関連科目	マクロ経済学・ミクロ経済学など。
------	------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	定期試験(60%) + 第8回・第15回に行われる試験(20%+20%)で評価します。
----------	---

学生へのメッセージ	経済を知るうえで金融の役割を理解するのは必須です。応用的な経済学の分野ですので、受講生は、極力マクロ経済学やミクロ経済学、統計学や経済数学(基礎的範囲)をすでに履修していることを強く望みます。
-----------	--

担当者の研究室等	1号館7階 植杉准教授室(経済学部)
----------	--------------------

備考	授業の第8回・第15回に行われる試験は必ず受験するようにしましょう。
----	------------------------------------

科目名	経営学	科目名(英文)	Business Administration
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	岸田 未来
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	資本主義社会における企業の役割を踏まえて、現代企業の経営活動を理解することを目標とする。具体的な企業の事例を取り上げながら、複雑に展開している企業の経営活動の仕組みと、そこに貫かれる法則性を理解する。
到達目標	経営学にかかわる用語の意味内容および企業活動の基本を理解できる。また経済事象として表れる様々な企業活動のあり方を説明できる。
授業方法と留意点	講義形式で授業を進める。現実の企業経営をイメージしてもらうために、資料等を多用する。毎回プリントを配布する。
科目学習の効果(資格)	日本経済新聞の企業経営に関する記事の意味内容やその背景を、より深く理解することができるようになる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	現代社会と企業の役割、企業を取り巻く経営環境	企業活動の原理および現代に特徴的な企業活動のあり方、市場と企業との関係について	配布プリントでの復習
3	市場における企業間の関係	企業同士が取り結ぶ関係、大企業間および大企業と中小企業との関係	配布プリントでの復習
4	経営戦略とは何か	経営戦略策定の流れ、事業戦略と経営戦略との関係	配布プリントでの復習
5	経営戦略と経営者の役割	経営者に求められる役割とは何か	配布プリントでの復習
6	株式会社の仕組み	企業の諸形態の中での株式会社の特徴について	配布プリントでの復習
7	株式会社制度と企業経営①	株式会社を成り立たせる諸制度および株式市場の機能について	配布プリントでの復習
8	株式会社制度と企業経営②	株式市場の変化が企業経営に及ぼす影響、コーポレート・ガバナンスについて	配布プリントでの復習
9	企業組織のデザイン①	企業経営と企業組織との関係	配布プリントでの復習
10	企業組織のデザイン②	事業環境の変化と企業組織の変遷	配布プリントでの復習
11	近代企業と経営管理①	現代の大企業はどのように成立したのか	配布プリントでの復習
12	近代企業と経営管理②	大企業の成立によって、経営管理のあり方はどのように変化したのか	配布プリントでの復習
13	経営管理の諸理論	企業経営に関する様々な理論の説明	配布プリントでの復習
14	日本的経営とは何か①	日本企業に特徴的な経営のあり方、日本的経営について	配布プリントでの復習
15	日本的経営とは何か②	近年における日本的経営の変化について、講義全体のまとめ	配布プリントでの復習

関連科目	中小企業論、国際マーケティング論
------	------------------

番号	書籍名	著者名	出版社名
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
2			
3			

評価方法(基準)	定期試験 80%、ミニレポート、授業参加度(質問、感想等) 20%の割合で総合的に評価する。
----------	--

学生へのメッセージ	ニュースや新聞などを通じて、日常的に企業経営に関する知識を得る努力をしてもらうと、より授業が身近に理解できると思います。
-----------	--

担当者の研究室等	1号館7階 岸田准教授室(経済学部)
備考	

科目名	経済学入門 (エコノミックリテラシー)	科目名 (英文)	Economic Literacy
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	A B C D E F G H I J
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	後藤 和子
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	経済学の導入教育として、専門科目に入るために不可欠な基礎的・基本的な知識と考え方に焦点を当てた「エコノミックリテラシー」を、現実の身近な経済事情や仕組みを事例として参照しながら、経済社会のつながりの中で理解することを目的とする。			
到達目標	経済学の基本的な考え方や用語を理解する。新聞の経済記事が読めるようになる。			
授業方法と留意点	基本的には講義形式で進めるが、時事問題や時の話題等について、経済学ではどのような考えでどのような分析が出来るのかを解説する。また、これらと並行して課題を課す。適宜、レジュメを配布する。			
科目学習の効果 (資格)	経済的思考と基礎知識を修得し、専門科目のための基礎力を養う。			
授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	何故経済学を勉強するのか？経済学の対象と経済学的考え方	経済学とは何か、授業の進め方、成績評価について説明する	講義内容の復習
	2	大きな社会問題、身近な経済問題 (1)	アベノミクスとは何かなど、身近な経済問題について考える	テキストの復習
	3	大きな社会問題、身近な経済問題 (2)	グローバル化が経済にどのような影響を与えているのか考える：TPP交渉とミッキーマウスなど	テキストの復習
	4	大きな社会問題、身近な経済問題 (3)	日本財政の現状：世界一の財政赤字	テキストの復習
	5	経済学的な発想とは (1)	効率とは？格差とは？均衡とは？	講義内容の復習、小テスト
	6	経済学的な発想とは (2)	需要と供給の世界：マイクロ経済学 (1)	講義内容の復習、
	7	経済学的な発想とは (3)	需要と供給の世界：マイクロ経済学 (2)	講義内容の復習
	8	経済学的な発想とは (4)	経済全体を丸ごとつかむ：マクロ経済学	講義内容の復習
	9	財政について考える (1)	現代財政の3つの機能	講義内容の復習
	10	まとめと中間テスト	中間テスト	講義内容の復習、中間テスト
	11	財政について考える (2)	増税と公債	講義内容の復習
	12	協力の科学としての経済学	ゲーム理論とは	講義内容の復習
	13	為替レートの決まり方	為替で確実に儲ける方法？	講義内容の復習
	14	成長戦略	イノベーションをどのように促進するか？	講義内容の復習
	15	まとめ	全体の総括	講義内容の復習
関連科目	マクロ経済学Ⅰ・Ⅱ、マイクロ経済学Ⅰ・Ⅱ			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	教養としての経済学	一橋大学経済学部	有斐閣
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	マイクロ経済学の力	神取道宏	日本評論社
	2	スティグリッツ 入門経済学第4版	ジョセフ・E・スティグリッツ/ カール・E・ウォルシュ	東洋経済新報社
	3			
評価方法 (基準)	定期試験、小テスト・中間テスト、授業への参加や発表に基づく総合評価による。授業への積極的参加 (私語は減点) を高く評価します。			
学生へのメッセージ	経済学的考え方の基礎を習得し、経済新聞も読めるようになりましょう。疑問点・わからない点があれば授業中かまいませんので聞いてください。			
担当者の研究室等	1号館7階 後藤教授室 (経済学部)			
備考	受講生の理解度によって、講義の内容と進行に変更がありうる。小テストや中間テストの時期も、学生の理解度に応じて変更がありうる。授業中に発表 (プレゼンテーション) を求めることもあります。			

科目名	経済学入門 (エコノミックリテラシー)	科目名 (英文)	Economic Literacy
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	K L M N O P Q R S T
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	植杉 大
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	経済学の導入教育として、専門科目に入るために不可欠な基礎的・基本的な知識と考え方に焦点を当てた「エコノミックリテラシー」を、現実の身近な経済事情や仕組みを事例として参照しながら、経済社会のつながりの中で理解することを目的とする。
到達目標	2年次配当科目である、マクロ経済学・ミクロ経済学で用いられる基礎的な概念や必要な知識を習得し、次学年への準備をおこなう。
授業方法と留意点	基本的にはテキストを中心とした講義形式で進めるが、時事問題や時の話題等について、経済学ではどのような考えでどのような分析が出来るのかを、配付資料を参照しながら解説する。また、これらと並行して小テストや課題を課す。
科目学習の効果 (資格)	経済学的思考と基礎知識を修得し、専門科目のための基礎力を養う。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	経済学の対象と考え方、学び方	授業の進め方、小テストと課題提出について、成績評価方法、経済記事の読み方、経済指標の探し方、主要経済統計の概説	インターネット活用法、日経新聞活用法、経済データ活用法
2	経済学とは何か	「経世済民」、経済学の歴史概説、生産要素、希少性、一物一価の法則、代替品について	—————
3	需要と供給	市場の仕組みと役割、需要曲線と供給曲線、市場価格、価格弾力性	各種の市場はどこに在るか?
4	経済学の生いたち	「見えざる手」、分業と労働生産性、交換価値、貨幣経済、比較優位	—————
5	失敗する市場	「冷静な頭脳と温かい心情」、効用、セーの法則、限界効用逓減の法則	小テスト
6	進化する経済学	経済学と科学的手法、経済学の「制度化」、専門化・職業化と有用性 様々な経済主体の最大化問題	—————
7	GDP、豊かさと幸せについて	ケインズの経済学、名目と実質のGDP(国内総生産)、GDPだけでない豊かさ	—————
8	まとめと中間テスト	第7回までの復習、中間テスト	中間テスト
9	効率性について	官から民へ、市場主義の1980年代、効率性と民営化	大きな政府と小さな政府
10	構造改革と効率性	構造改革と規制緩和、パレート効率性、民営化企業	民営化企業の現状と課題
11	市場と政府の役割と限界(1)	市場主義改革、財政金融政策による景気対策、公共投資と雇用政策、乗数効果	経済政策の有効性
12	市場と政府の役割と限界(2)	直接税と間接税、消費税、購買力平価、国税と地方税、不況対策としての減税	小テスト 減税の経済効果
13	戦後日本経済史	戦後復興、高度経済成長、技術革新、変動為替相場制移行と石油危機、バブル経済とその崩壊	—————
14	教育問題	制度改革と教育の再生、教育問題の経済的側面	—————
15	持続可能な社会	持続可能な仕組みへの模索、少子高齢化と福祉、地球温暖化とCO2排出規制、気候異変と気候安全保障、食料自給の国際経済	持続的発展への枠組み

関連科目	マクロ経済学Ⅰ・Ⅱ、ミクロ経済学Ⅰ・Ⅱ
------	---------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	定期試験(60%)、小テスト・中間テスト等(40%)に基づく総合評価による。
-----------	--

学生へのメッセージ	質問があれば気軽に来て下さい。
-----------	-----------------

担当者の研究室等備考	1号館7階 植杉准教授室 (経済学部)
------------	---------------------

科目名	経済思想史	科目名(英文)	History of Economic Ideas
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	牧野 邦昭
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等		【科目】教科に関する科目(高等学校 地理歴史) 【施行規則に定める科目区分】外国史	【教員免許状取得のための履修区分】選択

授業概要・目的	古代・中世の経済思想にも触れた上で、近代から現代にいたる経済思想の歴史を概説し、最後に日本の現実にもどって、経済思想と経済理論の意義について考える。経済学を学習するために必要な経済思想・経済学説・経済学者についての基礎知識を与えることを目的とする。
到達目標	抽象的に思われる思想や理論を社会・歴史の現実と結びつけて考える習慣が身につくこと。
授業方法と留意点	板書とプリントを用いた講義を主とする。
科目学習の効果(資格)	ミクロ経済学・マクロ経済学・社会経済学の基礎となる知識の習得と経済史、経済思想史への入門

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	経済思想史への招待、古代・中世の経済思想	経済思想とは何か、それをなぜ学ぶ必要があるのか、古代・中世の人びとは経済をどのように考えていたか	事前：教科書に通り目を通しておくこと 事後：授業の復習
2	近代の経済思想(アダム・スミス)	「経済学の父」スミスはどのようなことを主張したか	事前：教科書該当箇所の予習 事後：授業の復習
3	近代の経済思想(リカード1)	生産された物はどのように分配されるのか	事前：教科書該当箇所の予習 事後：授業の復習
4	近代の経済思想(リカード2)	なぜ貿易が行われるのか	事前：教科書該当箇所の予習 事後：授業の復習
5	近代の経済思想(マルクス1)	資本主義とはどのようなものか	事前：教科書該当箇所の予習 事後：授業の復習
6	近代の経済思想(マルクス2)	資本主義の矛盾とは何か	事前：教科書該当箇所の予習 事後：授業の復習
7	近代の経済思想(マーシャル1)	需要曲線と供給曲線とは何か	事前：教科書該当箇所の予習 事後：授業の復習
8	近代の経済思想(マーシャル2)	時間とともに需給の均衡はどう変化するのか	事前：教科書該当箇所の予習 事後：授業の復習
9	現代の経済思想(シュンペーター1)	新結合(イノベーション)とは何か	事前：教科書該当箇所の予習 事後：授業の復習
10	現代の経済思想(シュンペーター2)	なぜ景気循環が起きるのか	事前：教科書該当箇所の予習 事後：授業の復習
11	現代の経済思想(ケインズ1)	有効需要とは何か	事前：教科書該当箇所の予習 事後：授業の復習
12	現代の経済思想(ケインズ2)	政府は不況に対してどのようなことができるのか	事前：教科書該当箇所の予習 事後：授業の復習
13	現代の経済思想(フリードマン1)	政府の失敗とは何か	事前：教科書該当箇所の予習 事後：授業の復習
14	現代の経済思想(フリードマン2)	本当に困っている人のためになることは何か	事前：教科書該当箇所の予習 事後：授業の復習
15	日本の経済思想	江戸時代から現代まで、経済について日本人は何を考えてきたのか	事後：授業の復習

関連科目 経済学入門、西洋経済史、日本経済史、ミクロ経済学、マクロ経済学、社会経済学

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	最強の「経済理論」集中講義	藤田勝範	日本実業出版社
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	入門経済思想史 世俗的思想家たち	ロバート・L・ハイルブローナー、八木甫ほか訳	筑摩書房
2				
3				

評価方法(基準) 定期試験(100%)で評価する。

学生へのメッセージ 経済学は多くの人たちの努力によって作られてきました。その歴史を知ることで今の経済学や経済についても理解が深まります。

担当者の研究室等 1号館7階 牧野准教授室(経済学部)

備考

科目名	経済進化論	科目名(英文)	Evolutionary Economics
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	牧野 邦昭
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	経済の進化の原動力と言える「模倣」と「イノベーション」に焦点を当て、それらが経済を進化させる過程を理論的に理解するとともに、実際にどのように模倣とイノベーションが起きているのかを企業等の具体例を通じて学習する。
到達目標	どのようにイノベーションが起きているのかを理解し、それを実践できるようになる。
授業方法と留意点	プリントを用いて講義を行う。
科目学習の効果(資格)	社会人として実際に社会の現場で求められる学習や創造力はどのようなものであるかを理解し、職業選択に役立てられる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション、経済の進化とは	経済の進化とは何を意味するのか	事後：授業の復習
2	経済進化の思想1：シュンペーター	イノベーションはなぜ経済を進化させるのか	事後：授業の復習
3	経済進化の思想2：ハイエク	知識、ルール、慣習はなぜ重要なのか	事後：授業の復習
4	経済進化の思想3：タルド	模倣からどのように発明が生まれるのか	事後：授業の復習
5	経済進化の概要	第2回から第4回の授業を踏まえ、模倣とイノベーションの関係を通じた経済の進化の仕組みを考える	事後：授業の復習
6	事例1：運輸業	運輸業に見る模倣とイノベーションの関係	事後：授業の復習
7	事例2：航空産業	航空産業に見る模倣とイノベーションの関係	事後：授業の復習
8	事例3：銀行	銀行に見る模倣とイノベーションの関係	事後：授業の復習
9	事例4：飲食店	飲食店に見る模倣とイノベーションの関係	事後：授業の復習
10	事例5：食品産業	食品産業に見る模倣とイノベーションの関係	事後：授業の復習
11	事例6：ゲーム産業	ゲーム産業に見る模倣とイノベーションの関係	事後：授業の復習
12	事例7：コンピュータ産業	コンピュータ産業に見る模倣とイノベーションの関係	事後：授業の復習
13	事例8：コンビニ	小売業に見る模倣とイノベーションの関係	事後：授業の復習
14	事例9：自動車産業	自動車産業に見る模倣とイノベーションの関係	事後：授業の復習
15	まとめ、補足	これまでの授業のまとめと補足	事後：授業の復習

関連科目	経済思想史、経営学
------	-----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	模倣の法則	ガブリエル・タルド、池田祥英・村澤真保呂訳	河出書房新社
2	コピーキャット 模倣者こそがイノベーションを起こす	オーデッド・シェンカー、井上達彦監訳	東洋経済新報社	
3	模倣の経営学 偉大なる会社はマネから生まれる	井上達彦	日経BP社	

評価方法(基準)	定期試験(100%)で評価する。
----------	------------------

学生へのメッセージ	何か新しいことを生み出すためにはまず「学ぶ=真似ぶ」が必要です。
-----------	----------------------------------

担当者の研究室等備考	1号館7階 牧野准教授室(経済学部)
------------	--------------------

科目名	経済地理	科目名(英文)	Economic Geography
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	野口 義直
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等	【科目】教科に関する科目(中学校 社会) 【施行規則に定める科目区分】地理学(地誌を含む。) 【教員免許状取得のための履修区分】選択 【科目】教科に関する科目(高等学校 地理歴史) 【施行規則に定める科目区分】人文地理学及び自然地理学 【教員免許状取得のための履修区分】選択		

授業概要・目的	経済のグローバル化は、日本経済および地域経済に様々な影響をもたらしている。円高が進むもとの、日本の輸出製造業の大企業が海外へと生産拠点を展開して多国籍化をすすめ、経済の空洞化が危惧されている。高度な技術力で日本のものづくりを支え、地域経済の担い手となってきた中小企業は、大企業の多国籍化のもとで、再編と淘汰を余儀なくされている。国際競争力の強化を求める日本企業は、賃金コストの圧縮のため、非正規雇用の拡大を進めたが、労働者の収入の低下をもたらして国内消費を制限し、日本経済の成長を制約する要因となっている。国内消費が停滞し、デフレが長期化するもとの、国内流通業の再編が進行し、大手小売業への集約化が進行する一方で、各地の駅前商店街が衰退した。日米間の農産物貿易の自由化交渉は TPP 交渉に引き継がれ、零細農家の淘汰と農村地域経済の衰弱をもたらしている。経済のグローバル化が進行するもとの、これからの日本の国民経済と地域経済をどう立て直すのか。このような問題意識のもとに、この授業では経済のグローバル化とその日本社会への影響について、多様な側面から講義する。
---------	---

到達目標	経済グローバル化と日本経済の関わりについて、歴史的・具体的に分析する方法について学ぶ。
------	---

授業方法と留意点	教科書にしたがった講義形式で行う。必要に応じてレジュメや資料を配布するので、配布物をファイリングし、板書や講義のノートをとる習慣をつけること。
----------	---

科目学習の効果(資格)	
-------------	--

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	講義ガイダンス	講義概要、教科書紹介	—
2	日本の大企業のグローバル化と中小企業	教科書 第1章	事前・教科書予習
3	自動車産業のグローバル化とトヨタ生産システム	教科書 第2章	事前・教科書予習
4	アメリカ IT 企業のサービス化と国際分業体制	教科書 第3章	事前・教科書予習
5	アメリカ企業・政府によるグローバル化	教科書 第4章	事前・教科書予習
6	日本の流通の再編と寡占化	教科書 第5章	事前・教科書予習
7	グローバル化のもとの日本の労働者の状態	教科書 第8章	事前・教科書予習
8	日本における外国人労働者	教科書 第9章	事前・教科書予習
9	労使関係の日本-スウェーデン比較	教科書 第13章	事前・教科書予習
10	不安定化する世界農産物市場と日本の農業・食料	教科書 第10章	事前・教科書予習
11	地域間格差の拡大と日本財政	教科書 第11章	事前・教科書予習
12	グローバル化と税制改革	教科書 第12章	事前・教科書予習
13	グローバル化と伝統的共同体の解体	教科書 第14章	事前・教科書予習
14	現代資本主義の特徴と日本社会	教科書 序章	事前・教科書予習
15	まとめ		

関連科目	国際経済学入門、日本経済論
------	---------------

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	資本主義の現在-資本蓄積の変容とその社会的影響	豊福裕二編	文理閣
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法(基準)	課題提出(30%)、定期試験(70%)で総合評価する。
----------	-----------------------------

学生へのメッセージ	普段から新聞やテレビなどで、現実の経済の動きについて関心を持ってください。積極的に質問をしてください。
-----------	---

担当者の研究室等備考	1号館7階 野口准教授室(経済学部)
------------	--------------------

科目名	現代ファイナンス論	科目名(英文)	Modern Finance
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	蛭川 雅之
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	ファイナンスの基礎的な考え方を解説します。ファイナンス理論は数学・統計学が頻出することもあり、文系学生には一般に馴染みにくい分野です。ファイナンスの数量分析的側面を少しでも実用レベルに近づけるため、エクセルを利用した具体的な数値計算法にも時間を割いて解説する予定です。
到達目標	本講義では、ファイナンスの基礎的な概念の理解すること、およびエクセルを利用してファイナンスに関する数値計算を実行する技術を習得することの2点を目標とします。
授業方法と留意点	毎回の講義は事前に配布される講義ノートに沿って行われます。ノートを担当教員の個人ホームページからダウンロードし、一度目を通したうえで講義時に持参してください。また、エクセル・ファイル等を保存するため、各自USBメモリを用意するとよいでしょう。なお、個々の問題に関するエクセルの操作法は講義で一通り解説する予定ですが、時間に限りがあるため、詳細については教科書を参照することを強くお勧めします。
科目学習の効果(資格)	ファイナンスの基礎知識と(やや高度な)エクセル操作法が身に付きます。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	講義内容の説明、イントロダクション	ファイナンスの概観	教科書序章、講義ノート1(事前)
2	ファイナンスの基礎概念の計算	将来価値と現在価値、年金原価、均等返済	教科書第1章1～3節、講義ノート2(事前)
3	投資判断	正味現在価値(NPV)、内部収益率(IRR)	教科書第1章4～6節、講義ノート3(事前)
4	ポートフォリオ計算の基礎	収益率、期待値、分散、標準偏差	教科書第2章1～2節、講義ノート4(事前)
5	ポートフォリオ計算の基礎(続き)	共分散、相関係数、ポートフォリオ収益率の期待値・分散・標準偏差	教科書第2章3～4節、講義ノート4(事前)
6	効率的フロンティアと資本市場線(CML)	効率的フロンティア、無リスク資産、マーケット・ポートフォリオ、資本市場線(CML)	教科書第2章4節、講義ノート5(事前)
7	資本資産評価モデル(CAPM)	ベータ、資本資産評価モデル(CAPM)、証券市場線(SML)、効率的市場仮説	教科書第2章4～5節、講義ノート6(事前)
8	企業価値評価	加重平均資本コスト(WACC)、フリー・キャッシュ・フロー	教科書第3章1～4節、講義ノート7(事前)
9	企業価値評価(続き)	DCF法、APV法、類似企業比較法	教科書第3章5～6節・第5章6節、講義ノート7(事前)
10	最適資本構成と配当政策	MM(モジリアーニ=ミラー)理論、資金調達の方法	教科書第4章1～3節、講義ノート8(事前)
11	債券投資	債券の種類、利回り、格付、金利の期間構造	教科書第5章1～4節、講義ノート9(事前)
12	株式投資	株式の種類、株価モデル	教科書第5章5節、講義ノート10(事前)
13	デリバティブの理論	先物取引、スワップ取引、通貨スワップ債	教科書第6章1～3節、講義ノート11(事前)
14	オプション取引	オプションの価値、プット・コール・パリティ、ブラック=ショールズ=モデル、インプライド・ボラティリティ	教科書第6章4～5節・第7章1節、講義ノート12(事前)
15	リアル・オプション	リアル・オプションによるプロジェクト評価	教科書第7章3節、講義ノート13(事前)

関連科目: ミクロ経済学Ⅰ・Ⅱ、統計学で学んだ内容を事前に復習しておいてください。

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	道具としてのファイナンス	石野雄一	日本実業出版社
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法(基準): 宿題(3回、45%)、期末持ち帰り試験(55%)を総合的に評価します。宿題に関しては、タイプ打ちされたもののみ受け付けます(=手書きは不可とします)のでご注意ください。なお、宿題・試験の書式等詳細については講義中に説明します。

学生へのメッセージ: 疑問が生じたら、講義中、講義後を問わず、積極的に質問してください。疑問点を未解決のまま放置して得になることはありません。

担当者の研究室等: 1号館7階 蛭川教授室(経済学部)

備考:

科目名	公益会計論	科目名(英文)	Accounting of Public Utilities
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	田井 義人
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	<ul style="list-style-type: none"> 企業の財政状態や経営成績を把握するための財務会計と同様にバランスシート等を導入して、長期的な収支や事業実績を把握するため、発生主義や複式簿記を採用する自治体が増加している。 その意義について講義する。民間企業同様、自治体も経営責任が問われる時代であり、その情報提供手法である公(益)会計処理について理解する。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 企業会計は、発生主義、複式簿記を採用している。 国や多くの地方自治体は、現金主義、単式簿記を採用している。 両者の違いを理解し、東京都や大阪市が導入している複式簿記方式の会計の意義について理解する。 今後の国や地方自治体業務の説明責任を達成するための公益会計の果たす役割を理解する。
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> 公益を目的とした公会計は、国及び地方公共団体で行われている会計であり、地方自治法に基づき、詳細については条例・規則に規定され、一般会計、特別会計は、会計年度独立の原則を採用し、単年度会計、現金主義、単式簿記の処理を行っている。 地方自治体も経営責任が重視される。そこで新しい公会計では、民間企業と同様に発生主義、複式簿記の処理を求められつつある新しい公会計処理について講義する。
科目学習の効果(資格)	<ul style="list-style-type: none"> 地方自治体における予算・決算処理や会計処理体系など基本的な公会計知識を習得する。 複式簿記、発生主義会計処理を前提とする簿記、会計学等の受験科目がある資格試験における会計処理の理解の一助となる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	
			配布資料	「読む」
1	公益会計(公会計)とは簿記の常識	公会計とは何か、簿記とは何かについて講義する。	配布資料	「作る」-簿記の常識
2	会計の意義	会計の前提、基本ルール及び作成する財務諸表について講義する。	配布資料	「読む」-会計の常識
3	公会計の意義	公会計の対象、法及び現状と基準について講義する。	教科書	第1章 公会計の基礎
4	財務報告	財務報告、発生主義及び財務諸表の焦点、現金主義との比較等について講義する。	教科書	第2章 財務報告
5	財務諸表の構成要素-資産と負債	財務諸表の構成要素の定義、特徴及び資産、負債について講義する。	教科書	第3章 財務諸表の構成要素(1)-資産と負債
6	財務諸表の構成要素-収益と費用	(収入、歳入)と(支出、歳出)について講義する。	教科書	第4章 財務諸表の構成要素(2)-収益と費用
7	公的部門の業績評価	公的部門の評価について講義する。	教科書	第5章 公的部門の業績評価
8	中央政府会計-我が国の中央政府会計制度	中央政府における予算制度について講義する。	教科書	第6章 中央政府会計(1)-我が国の中央政府会計制度
9	中央政府会計-会計の姿とNPMによる予算編成改革の概要	予算制度の問題点と予算編成改革について講義する。	教科書	第7章 中央政府会計(2)-会計の姿とNPMによる予算編成改革の概要
10	地方政府会計-我が国の地方自治体会計の概要	地方自治体の会計制度の概要、予算・決算及び収入・支出等について講義する。	教科書	第8章 地方政府会計(1)-我が国の地方自治体会計の概要
11	地方政府会計-新公会計改革と財政健全化法	新地方公会計改革による財務諸表関係について講義する。	教科書	第9章 地方政府会計(2)-新公会計改革と財政健全化法
12	これまでのまとめ(習熟度等の検証)	これまでの一般会計についての理解と習熟度について試験またはレポート作成によって評価する。		第11回までの資料等
13	公営企業会計	公営企業会計について講義する。	教科書	第10章 公営企業会計
14	各国の政府会計-アメリカ	アメリカの公会計について講義する。GPRA(政府業績評価法)について講義する。	教科書	第11章 各国の政府会計(1)-アメリカ
15	各国の政府会計-イギリス	イギリスの公会計について講義する。ブレア政権での予算会計改革について講義する。	教科書	第12章 各国の政府会計(2)-イギリス

関連科目 地方自治法、財政法等の行政法関連の科目および簿記、会計学関係の科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	公会計	稲沢克祐	同文館出版
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	公会計改革 ディスクロージャが『見える行政』をつくる	公会計改革研究会編	日本経済新聞社
2				
3				

評価方法(基準) 定期試験(50%)、習熟度試験またはレポート(20%)、受講態度(30%)で総合評価する。

学生へのメッセージ

- 公務員を目指す場合、地方公共団体等が実施している基本的な会計処理や予算積算制度を理解するための講義です。
- しかし民間企業の会計処理との比較も行います。
- 税金がどのように会計処理されるのか、経済学部学生として公会計への関心を持って頂きたい。
- 簿記や会計学の講義を修得していることが望ましい。
- 勘定科目、仕訳、財務諸表の知識が必要です。

担当者の研究室等 1号館7階 田井准教授室(経済学部)

科目名	公共経済学	科目名(英文)	Public Economics
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	平野 泰朗
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等	【科目】教科に関する科目(中学校 社会) 【施行規則に定める科目区分】「社会学、経済学」 【教員免許状取得のための履修区分】選択 【科目】教科に関する科目(高等学校 公民) 【施行規則に定める科目区分】「社会学、経済学(国際経済を含む。)」 【教員免許状取得のための履修区分】選択		

授業概要・目的	社会には市場経済の展開だけでは実現できない社会全体の利益が存在する。それを実現するためには、公的部門の活動が不可欠であることを理解した上で、それを実現するさまざまな手段を学習する。
到達目標	経済政策のニュース、とくに、公共事業、環境対策、医療・福祉・教育サービスに関する政策のニュースを理解でき、それに対して自分なりの評価ができるようになる。
授業方法と留意点	講義形式で行う。 毎回レジュメを配布して、それをもとに、説明を行う。
科目学習の効果(資格)	経済政策に関するニュースが分かるようになる。 教員免許状の「教科に関する科目」の1つ。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	税と公債	公益を実現する最も強力な機関が、政府である。その政府の収入源の主なもの、税と公債である。ここでは、課税の基本原則、その種類、民間経済への影響を考察するとともに、公債の特徴、税との相違を考察する。	ノート、配布資料を読み返して復習する。
3	公共財とは何か: 純粋な公共財と純粋でない公共財	公共財は、私的財と比べてどのような特徴を有するのかを、さまざまな例を通して検討する。	ノート、配布資料を読み返して復習する。
4	外部性と環境問題	私的活動が他の人々に、市場を通さずに害を与える場合がある。環境汚染が、その典型例の1つである。それを外部性の問題という。これは、市場経済のルールだけでは制御しきれない。その場合、どのような対策があり得るか。まず、私的解決策のケースを検討する。	ノート、配布資料を読み返して復習する。
5	環境政策(1) 擬似市場メカニズムによる解決	環境政策において擬似的市場メカニズムを利用する方法(罰金・税金、補助金、取引許可書)について考察する。	ノート、配布資料を読み返して復習する。
6	環境政策(2) 規制と国際条約	環境政策において一国政府の取る各種の規制と規制の国際条約について考察する。	ノート、配布資料を読み返して復習する。
7	所得再分配と政府の役割: 平等と生存権	市場メカニズムが所得の不平等を解決できない理由を理解し、次に、それが、平等や正義とどう関わるかという政治哲学的問題を、経済学の視点から考察する。	ノート、配布資料を読み返して復習する。
8	社会保険と財政	所得再分配を実現する2つの方法、社会保険と財政のそれぞれの特徴を明らかにする。	ノート、配布資料を読み返して復習する。
9	公的年金	老後の所得保障等を公的に行う理由と、その多様な方式を明らかにする。	ノート、配布資料を読み返して復習する。
10	公的に供給される私的財(1) 医療	医療は、人の生存権に関わる財・サービスである。それゆえ、それは、しばしば公的に供給される。ここでは、その方法と課題を考察する。	ノート、配布資料を読み返して復習する。
11	公的に供給される私的財(2) 福祉と教育	福祉サービスや教育は、人の生存権・社会権に関わる財・サービスである。それゆえ、それは、しばしば公的に供給される。ここでは、その方法と課題を考察する。	ノート、配布資料を読み返して復習する。
12	失業問題と社会政策: 失業保険・職業紹介・職業訓練	失業対策は、一方で、労働者の生存権を保障するものとして、他方で、経済的・社会的秩序の安定化策として用いられるようになった。その手段としての、失業保険・職業紹介・職業訓練の方法と課題を学ぶ。	ノート、配布資料を読み返して復習する。
13	地域振興と地方分権	ここまで、主として公共空間を一国と想定してきたが、ここでは地域を公共空間としてみた場合の公益確保策について考察する。	ノート、配布資料を読み返して復習する。
14	民間の役割: 社会的企業とCSR	現代では、公的利益を実現する主体として、政府ばかりでなくNPOや企業も参加するようになってきた。その主体や活動	ノート、配布資料を読み返して復習する。

			の例として、社会的企業と CSR(企業の社会的責任)を取り上げ、その具体的方法を学ぶ。	
	15	まとめ	これまでの授業内容の総括と補足を行う。	これまでのノートと配布資料、参考文献などを読み、自らの理解を深める。
関連科目	財政学、公共政策論			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	2回あるいは3回、中間レポートを課します。レポート40%、定期試験60%で評価します。 なお、出席日数が不足する者は、単位取得の資格を失う場合がある。			
学生への メッセージ	政策がわれわれの生活に影響する度合いは、われわれが意識するよりも大きいものです。 その影響を及ぼす経路が分かると、政策関連のニュースもよく分かるようになります。年配者と話をするネタにも使えます。			
担当者の 研究室等	1号館7階 平野教授室(経済学部)			
備考				

科目名	公共政策論	科目名(英文)	Public Policy
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	名方 佳寿子
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	現実の経済において完全競争市場が成り立たない場合があります。授業ではその原因、それに伴う弊害を解決するための政府の役割と政府の具体的な財政支出、税金等の政策がどのように決定され住民の厚生に影響を与えるかを勉強していきます。
到達目標	市場では解決されない「公共財」「外部性」「所得格差」等の問題を理解し、政府の役割の意義と大切さを理解してもらう。
授業方法と留意点	授業はスライドと板書の両方を用いて行います。公共政策論では政府の役割を理論的に学ぶのに対し、財政学ではデータなどを用いて財政の現状を学びます。
科目学習の効果(資格)	ミクロ経済学で学んだ完全でない競争市場が何故生じるのか、またそのときの政府の役割について詳しく学ぶことができます。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	選挙と投票	選挙システムと投票制度について説明する。	講義ノートの復習
3	政党と政策	政党の行動や経済政策と政党との関連について説明する。	講義ノートの復習
4	外部性	市場がうまくいかない原因のひとつである外部性の問題について説明する。	講義ノートの復習
5	公共財	市場がうまくいかない原因のひとつである公共財の問題について説明する。	講義ノートの復習
6	政府支出の問題	政府支出のあり方や支出が拡大するメカニズムについて説明する。	講義ノートの復習
7	税金 I	税金の転嫁と帰着、最適課税論について説明する。	講義ノートの復習
8	税金 II	所得税と労働供給の関係について説明する。	講義ノートの復習
9	税金 III	消費税と個別消費税の比較について説明する。	講義ノートの復習
10	中間試験	第7回までの内容	第7回までの内容復習
11	公債	公債について説明する。	講義ノートの復習
12	再分配政策	個人間の再分配政策について説明する。	講義ノートの復習
13	地方分権化	地域経済の活性化のための政策について説明する。	講義ノートの復習
14	地域間再分配政策	国から地方への補助金(国庫支出金、地方交付税)について説明する。	講義ノートの復習
15	総括	14回の講義で学んだことを復習する。	講義ノートの復習

関連科目	ミクロ経済学 I・II、公共経済学、財政学
------	-----------------------

番号	書籍名	著者名	出版社名
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
2			
3			

評価方法(基準)	中間試験(30%)、定期試験(70%)で総合的に評価します。私語をする学生には教室からの退出・減点などの処置をとります。また授業態度が著しく悪い学生・不正行為を行った学生には定期試験の受験資格を認めません。
----------	---

学生へのメッセージ	疑問点・わからない点があれば授業中でもかまいませんので聞いてください。学生の積極的な取り組みを応援します。
-----------	---

担当者の研究室等備考	1号館7階 名方講師室(経済学部)
------------	-------------------

科目名	航空産業論	科目名(英文)	Airline Industries
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	野村 佳子
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	航空産業の発展は航空会社の戦略によるものだけでなく、国家の政策や国内外の情勢に大きく影響されますが、航空は観光にとって重要な要素であり、運賃や路線開設や撤退、便数計画などは観光客の動向に影響を及ぼします。本授業では大手航空会社の再建、LCCの台頭など、激動の真ただちにある航空産業を概観し、理解を深めることを目的とします。			
到達目標	航空産業の全体像を理解し、航空関連についての記事や文献の内容を理解できるようになることを目標とします。			
授業方法と留意点	毎回のテーマに沿った講義を中心に進めます。			
科目学習の効果(資格)				
授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	イントロダクション 航空輸送の歴史	授業の概要と進め方および航空輸送の歴史について講義を行う	事後：配布資料の復習
	2	国際航空輸送の制度的枠組み	航空輸送にかかわる規範および枠組みについて講義する	事後：配布資料の復習
	3	国際航空における規制緩和の流れ	アメリカ、ヨーロッパ、日本での航空政策の変遷について講義する	事後：配布資料の復習
	4	低コスト航空会社(LCC)	台頭著しいLCCについて講義する	事後：配布資料の復習
	5	航空会社間の連携(アライアンス)	航空会社間の連携について講義する	事後：配布資料の復習
	6	空港	日本の空港の現状と課題について講義する	事後：配布資料の復習
	7	航空安全	航空輸送の安全はどのように守られているのかについて講義する	事後：配布資料復習
	8	地球環境	航空と地球環境の関わりについて講義する	事後：配布資料復習
	9	航空事業の構造	航空事業の特性・基本構造について講義する	事後：配布資料復習
	10	航空運賃とレベニュー・マネジメント	国内線・国際線の運賃の特性と収益の最大化について講義する	事後：配布資料復習
	11	CSとブランド戦略	航空会社が重視するCS戦略とブランド戦略について講義する	事後：配布資料復習
	12	CRSとIT戦略	航空会社IT戦略とインターネットの影響について講義する	事後：配布資料復習
	13	マイレージとデータベースマーケティング	航空会社にとってのFFPの役割を講義する	事後：配布資料復習
	14	航空貨物	物流を支える航空貨物輸送について講義する	事後：配布資料復習
	15	これからの航空産業 まとめと補足	これからの航空産業のあり方について講義する	事後：配布資料復習
関連科目	観光学入門			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法(基準)	定期試験(50%)と課題提出・小テスト・受講態度等による平常点(50%)を総合的に評価します。			
学生へのメッセージ	LCCの躍進が話題にのぼることが多い現在、航空産業の動向に興味を持っている人は多いのではないのでしょうか。変化の著しい航空産業について理解を深め、今後のあるべき姿を考えていきましょう。			
担当者の研究室等	1号館7階 野村准教授室(経済学部)			
備考				

科目名	国際協力論	科目名(英文)	International Co-operation
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	内田 勝巳
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	国際開発協力の歴史、異なる開発協力主体(国際機関、先進国、NGOや社会的企業等の民間組織)による開発協力の特徴、地球規模の課題等、様々な切り口から国際協力の実態について学ぶことにより、国際協力に関する総合的な知識を身に付けることを目的とする。
到達目標	さまざまな国際協力のあり方を知ることにより、国際社会の課題を理解できるようになることを到達目標とする。
授業方法と留意点	講義を中心に行うが、課題の提出を通じて、講義内容について十分に理解し、国際協力に関する関心をより深めることを期待する。
科目学習の効果(資格)	国際協力の実務者になるために必要な基礎知識を身に付けることができる

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	IMFと世界銀行の金融支援:国際経済の安定と貧困削減戦略	ブレトンウッズ体制の下でIMFと世界銀行が途上国の開発に果たしてきた役割について解説する	前回の復習と課題の提出
3	国連開発機関とミレニアム開発目標(MDGs)	様々な国連開発機関の活動とミレニアム開発目標(MDGs)について解説する	前回の復習と課題の提出
4	DAC加盟国と新興国ドナー	先進国による開発援助委員会(DAC)の役割とDACに加盟していない中国等の新興国ドナーの途上国支援の特徴を解説する	前回の復習と課題の提出
5	日本の政府開発援助(ODA):歴史と理念	日本のODAの歴史と理念について解説する	前回の復習と課題の提出
6	市民社会とNGO	国際協力における市民社会の役割と非政府組織(NGO)の活動について解説する	前回の復習と課題の提出
7	自然災害と緊急人道支援	予測できない自然災害に対して国際社会はどのように対応しているのか解説する	前回の復習と課題の提出
8	平和構築:脆弱国家のガバナンス	政府の統治能力が弱く、国内で紛争等が起こっている国の復興支援や平和構築支援について解説する	前回の復習と課題の提出
9	包括的社会開発:貧困と社会的弱者	子供の権利、ジェンダー平等、障害とユニバーサルデザイン等、包括的な社会開発支援について解説する	前回の復習と課題の提出
10	地域統合:メコン流域開発	経済共同体の構築が進展するASEANのなかで経済開発の遅れたCLMV諸国への広域協力について解説する	前回の復習と課題の提出
11	地球環境問題と持続可能な開発	地球環境問題を中心に持続可能な社会に向けての国際協力のありかたについて解説する	前回の復習と課題の提出
12	民間企業の社会的責任(CSR)とBOPビジネス	世界で活動する多国籍企業の社会的責任(CSR)と途上国でのBOPビジネスについて解説する	前回の復習と課題の提出
13	世界を変える社会起業家:マイクロファイナンス	バングラデシュのグラミン銀行を創設したユヌス教授等、途上国開発に影響を与えた社会起業家について解説する	前回の復習と課題の提出
14	国際協力の管理と評価	多くの国際協力はプロジェクトの形で実施されるが、事業管理や事業評価はどのようになされているのか解説する	前回の復習と課題の提出
15	大学の知的貢献と開発教育	大学は国際協力にどのような貢献ができるのかについて考察する	前回の復習と課題の提出

関連科目	開発経済学
------	-------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	国際協力 新版—その新しい潮流	下村・辻・稲田・深川	有斐閣
2				
3				

評価方法(基準)	期末試験70%、授業での課題提出及び授業態度30%の割合で総合的に評価する。
----------	--

学生へのメッセージ	私たちは世界中の人々とのつながりの中で生きています。世界の国々や地域は多様性に富んでいます。受講生には、広く世界の出来事に関心を持ち、それぞれの国や人々の異なる文化や価値観を理解し、世界を多面的に見る力を養ってもらいたいと考えています。
-----------	--

担当者の研究室等	1号館7階 内田教授室(経済学部)
----------	-------------------

備考	
----	--

科目名	国際金融論	科目名(英文)	International Finance
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	久保 廣正
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	国際金融に関する制度および理論を解説し、国際金融現象に対する理解力と洞察力を高めることを目的とする。			
到達目標	激変する国際金融市場について、自ら判断できる能力を身に付ける。			
授業方法と留意点	指定した教科書を中心に講義する。授業に積極的に参加することを希望する。			
科目学習の効果(資格)	国際金融に関する記事やニュースを理解し、それに関して自分自身の意見を述べるができるようにする。			
授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	グローバル化するもの・カネ	グローバル化の経済学的意義について説明する。	授業の復習
	2	国際収支の見方	国際収支の作成方法と見方を解説する。	事前:教材の当該箇所の予習 事後:授業の復習
	3	国際資本移動はなぜ生じるか	国際資本移動が生じる経済学的理由を説明する。	事前:教材の当該箇所の予習 事後:授業の復習
	4	外国為替の仕組み	外国為替市場の仕組みを説明する。	事前:教材の当該箇所の予習 事後:授業の復習
	5	為替レートをみる	さまざまな為替レートについて説明する。	事前:教材の当該箇所の予習 事後:授業の復習
	6	円高・円安と貿易収支	円高・円安が貿易収支におよぼす影響について説明する。	事前:教材の当該箇所の予習 事後:授業の復習
	7	世界の通貨制度	さまざまな世界の通貨制度を解説する。	事前:教材の当該箇所の予習 事後:授業の復習
	8	購買力平価	為替レート決定理論の一つである購買力平価説を解説する。	事前:教材の当該箇所の予習 事後:授業の復習
	9	購買力平価は本当に成立するか。	購買力平価が現実の世界で成立するかどうかを検討する	事前:教材の当該箇所の予習 事後:授業の復習
	10	金利平価	為替レートの決定理論の一つである金利平価説を解説する。	事前:教材の当該箇所の予習 事後:授業の復習
	11	為替レート決定理論のフローからストックへ	なぜ為替レート決定理論がフローからストックへと転換したかを理論的に説明する。	事前:教材の当該箇所の予習 事後:授業の復習
	12	為替リスク	為替レート変動にともなう為替リスクについて解説する。	事前:教材の当該箇所の予習 事後:授業の復習
	13	為替レートの予想とニュース	為替レートの予想に関してニュースがどのような役割を果たすかを解説する。	事前:教材の当該箇所の予習 事後:授業の復習
	14	為替介入	外国為替市場に政府が介入する意味と限界について解説する。	事前:教材の当該箇所の予習 事後:授業の復習
	15	まとめと総括	まとめをし、質問があれば答える。	事前:教材全体の復習 事後:全体の講義を参考に繰り返し復習する。
関連科目	国際経済論			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	国際金融のしくみ第4版	秦・本田・西村	有斐閣
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法(基準)	中間試験(20%)、定期試験(80%)を総合的に判定する。			
学生へのメッセージ	国際金融現象に関心をもつようにし、疑問点や不明点については、積極的に質問することを歓迎する。			
担当者の研究室等	1号館7階 久保教授室(経済学部)			
備考				

科目名	国際経済学入門	科目名 (英文)	Introduction to International Economics
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	A B C D E F G H I J
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	野口 義直
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等	【科目】教科に関する科目 (中学校 社会) 【施行規則に定める科目区分】「社会学、経済学」 【教員免許状取得のための履修区分】選択 【科目】教科に関する科目 (高等学校 公民) 【施行規則に定める科目区分】「社会学、経済学 (国際経済を含む。)」 【教員免許状取得のための履修区分】選択		

授業概要・目的	初めて経済学を学ぶ初学者が、経済のグローバル化が進展する 21 世紀の世界経済と日本経済について、おおよそのイメージを獲得することが、この授業の目的である。この授業では、経済のグローバル化について、商品の生産と流通に関わる実体経済分野と、貨幣の貸し借りや投資に関わる金融分野とに分けて、グローバル化の推進主体や諸制度、グローバル化によって発生した諸問題について講義する。さらに、経済のグローバル化が日本経済 (国民経済) にどのような影響を及ぼしているか講義する。
到達目標	この授業に参加する学生の目標は、第一に、現代のグローバル経済と日本経済の関係について学び、これから大学で経済学を学ぶモチベーションを高めることである。第二に、大学の講義でのノートの取り方について学び、基礎的な学習方法を身につけることである。
授業方法と留意点	教科書の内容解説を主とする講義形式で行う。しっかりと教科書を予習し、疑問点を明確にしながら授業に臨んでもらいたい。ノートを評価対象とするので、ノートのとり方を身につけること。
科目学習の効果 (資格)	

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	講義ガイダンス	講義概要、教科書の紹介	-
2	経済活動のグローバル化	グローバル化の推進主体 貿易・投資を支える諸制度 グローバルな生産ネットワークの統治構造	教科書 (p.10-21) の予習
3	経済活動のグローバル化	小売業のグローバルな活動 金融グローバル化の二面性 巨額の外国為替取引の謎	教科書 (p.22-33) の予習
4	経済活動のグローバル化	中小企業の役割 グローバル化下の基盤技術産業 グローバル化と税の公平性	教科書 (p.34-45) の予習
5	経済活動のグローバル化	BRICs と NEXT11 BOP ビジネスと貧困 開発援助を通して見る世界 グローバル化と食料・農業問題	教科書 (pp.46-63) の予習
6	「金融化」する現代資本主義	経済の金融化とは何か 国際金融市場の不安定化と世界金融恐慌 金融の証券化は万能薬か?	教科書 (p.65-77) の予習
7	「金融化」する現代資本主義	デリバティブとは 投機としてのデリバティブ 金融自由化の原動力 規制の民営化	教科書 (p.78-95) の予習
8	「金融化」する現代資本主義	銀行のビジネスモデルの変容 影の銀行システム 機関投資家の台頭	教科書 (p.96-107) の予習
9	「金融化」する現代資本主義	中小企業の資金繰りはなぜ厳しいのか 家計の債務増大 異次元緩和が増幅する国際市場のリスク	教科書 (p.108-121) の予習
10	新自由主義と日本経済	日本経済の構造変化 日本経済の「成長戦略」 株主価値重視の経営	教科書 (p.122-135) の予習
11	新自由主義と日本経済	不安定雇用の増大 正規雇用の長時間労働 女性の労働	教科書 (p.136-147) の予習
12	新自由主義と日本経済	なぜ賃金が下がり続けるのか 所得格差の拡大 労働組合とは何か	教科書 (p.148-159) の予習
13	新自由主義と日本経済	アベノミクスと異例の金融政策 貯蓄から投資へ 公共経済と日本経済	教科書 (pp.160-171) の予習
14	新自由主義と日本経済	エネルギー問題のゆくえ	教科書 (pp.172-177) の予習
15	まとめ	講義のまとめ	

関連科目 経済地理、西洋経済史、アジア経済史、日本経済史、地球環境経済、農業経済論、社会経済学 I、II、アメリカ経済・文化論、アジア経済・文化論、ヨーロッパ経済・文化論

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	図説 経済の論点	柴田努、新井大輔、森原康仁編	旬報社
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	資本主義の現在 資本蓄積の変容とその社会的影響	豊福裕二編	文理閣
2			
3			

評価方法 (基準)	ノート提出(30%)、定期試験(70%)の結果をふまえて、総合的に評価する。 なお出席日数が不足する者は、単位取得の資格を失う場合がある。
学生への メッセージ	経済学は、現実の経済活動について生き生きとしたイメージを得るところから始まります。学生は経済生活を実際に経験しないので、経済についてイメージをもちにくく、経済学はとっつきにくいものです。しかし、君たちが将来経験する就職活動は、自分を労働力市場に投げ出し、販売するという経済活動です。そして、君たちの個人的な人生に大きな意味を持つ就職活動は、世界経済に連動した日本企業の動向に大きく影響を受けます。就職活動を開始するまでに、自分の個人的人生に影響を与える世の中の経済的な動きについて、ある程度の見通しをもつことを目指して、これから経済学を学ぶモチベーションを高めてほしい、と思います。
担当者の 研究室等	1号館7階 野口准教授室(経済学部)
備考	

科目名	国際経済学入門	科目名(英文)	Introduction to International Economics
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	K L M N O P Q R S T
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	田中 鮎夢
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等	【科目】教科に関する科目(中学校 社会) 【施行規則に定める科目区分】「社会学、経済学」 【教員免許状取得のための履修区分】選択 【科目】教科に関する科目(高等学校 公民) 【施行規則に定める科目区分】「社会学、経済学(国際経済を含む。)」 【教員免許状取得のための履修区分】選択		

授業概要・目的	現代の国際経済、国際貿易論・国際金融論の概要を講義し、国際経済学の基礎を固める。
到達目標	国際経済学の基本を習得し、国際経済に関する新聞記事を読めるようになること。
授業方法と留意点	講義形式で行うが、講義時間内に問題演習を行う。
科目学習の効果(資格)	公務員試験(警察・消防、地方上級)の試験範囲を扱う。

回数	授業テーマ	内容・方法 等		事前・事後学習課題
1	国際貿易理論	自由貿易論	保護貿易論 リカード理論 関税分析	講義内容の復習
2	国際貿易機関	GATT	GATT のラウンド WTO	講義内容の復習
3	国際収支	国際収支統計		講義内容の復習
4	日本の貿易・投資	輸出入	海外投資	講義内容の復習
5	通貨制度	金本位制	管理通貨制	講義内容の復習
6	戦後の国際通貨制度	ブレトンウッズ体制	為替相場 円高・円安の影響 貿易収支と為替 利子率と為替 円相場の変化	講義内容の復習
7	日本の対外経済協定	経済協定の種類	FTA RTA EPA	講義内容の復習
8	地域経済統合	NAFTA	MERCOSUR ASEAN APEC	講義内容の復習
9	EU	EUの歴史	EUの組織	講義内容の復習
10	先進国の政策協調	OECD	サミット G20	講義内容の復習
11	南北問題	南北格差	UNCTAD 南南問題 累積債務問題 ODA	講義内容の復習
12	なぜ貧しい国が存在するのか	経済発展とは何か 源泉	経済発展の 多面的な経済発展	講義内容の復習
13	貧困削減	質的側面としての貧困 方	貧困の捉え方 貧困削減政策	講義内容の復習
14	貿易の原因	世界と日本の貿易 比較優位論	貿易の原因	講義内容の復習
15	貿易政策	貿易政策の実態 影響	貿易政策の	講義内容の復習

関連科目	経済学入門、ミクロ経済学、マクロ経済学
------	---------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	はじめて学ぶ国際経済	浦田秀次郎・小川英治・澤田康幸	有斐閣
2				
3				

評価方法(基準)	平常点 40% (小テスト等)、定期試験 60%の割合で評価する。受講態度(私語等)によって、減点を行う。不正行為には厳正な措置をとる。小テストを475回程度実施予定。
----------	--

学生へのメッセージ	意欲ある学生を歓迎します。
-----------	---------------

担当者の研究室等	1号館7階田中講師室
----------	------------

備考	受講生の理解度に応じて、講義内容・講義進度には変更がありえる。
----	---------------------------------

科目名	国際経済論	科目名(英文)	International Economics
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	A B C D E F G H I J
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	野口 義直
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等	【科目】教科に関する科目(中学校 社会) 【施行規則に定める科目区分】「社会学、経済学」 【教員免許状取得のための履修区分】選択 【科目】教科に関する科目(高等学校 公民) 【施行規則に定める科目区分】「社会学、経済学(国際経済を含む。)」 【教員免許状取得のための履修区分】選択		

授業概要・目的	初めて経済学を学ぶ初学者が、経済のグローバル化が進展する21世紀の世界経済と日本経済について、おおよそのイメージを獲得することが、この授業の目的である。この授業では、経済のグローバル化について、商品の生産と流通に関わる実体経済分野と、貨幣の貸し借りや投資に関わる金融分野とに分けて、グローバル化の推進主体や諸制度、グローバル化によって発生した諸問題について講義する。さらに、経済のグローバル化が日本経済(国民経済)にどのような影響を及ぼしているか講義する。
到達目標	この授業に参加する学生の目標は、第一に、現代のグローバル経済と日本経済の関係について学び、これから大学で経済学を学ぶモチベーションを高めることである。第二に、大学の講義でのノートの取り方について学び、基礎的な学習方法を身につけることである。
授業方法と留意点	教科書の内容解説を主とする講義形式で行う。しっかりと教科書を予習し、疑問点を明確にしながら授業に臨んでもらいたい。ノートを評価対象とするので、ノートのとり方を身につけること。
科目学習の効果(資格)	

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	講義ガイダンス	講義概要、教科書の紹介	-
2	経済活動のグローバル化	グローバル化の推進主体 貿易・投資を支える諸制度 グローバルな生産ネットワークの統治構造	教科書(p.10-21)の予習
3	経済活動のグローバル化	小売業のグローバルな活動 金融グローバル化の二面性 巨額の外国為替取引の謎	教科書(p.22-33)の予習
4	経済活動のグローバル化	中小企業の役割 グローバル化下の基盤技術産業 グローバル化と税の公平性	教科書(p.34-45)の予習
5	経済活動のグローバル化	BRICsとNEXT11 BOPビジネスと貧困 開発援助を通して見る世界 グローバル化と食料・農業問題	教科書(pp.46-63)の予習
6	「金融化」する現代資本主義	経済の金融化とは何か 国際金融市場の不安定化と世界金融恐慌 金融の証券化は万能薬か?	教科書(p.65-77)の予習
7	「金融化」する現代資本主義	デリバティブとは 投機としてのデリバティブ 金融自由化の原動力 規制の民営化	教科書(p.78-95)の予習
8	「金融化」する現代資本主義	銀行のビジネスモデルの変容 影の銀行システム 機関投資家の台頭	教科書(p.96-107)の予習
9	「金融化」する現代資本主義	中小企業の資金繰りはなぜ厳しいのか 家計の債務増大 異次元緩和が増幅する国際市場のリスク	教科書(p.108-121)の予習
10	新自由主義と日本経済	日本経済の構造変化 日本経済の「成長戦略」 株主価値重視の経営	教科書(p.122-135)の予習
11	新自由主義と日本経済	不安定雇用の増大 正規雇用の長時間労働 女性の労働	教科書(p.136-147)の予習
12	新自由主義と日本経済	なぜ賃金が下がり続けるのか 所得格差の拡大 労働組合とは何か	教科書(p.148-159)の予習
13	新自由主義と日本経済	アベノミクスと異例の金融政策 貯蓄から投資へ 公共経済と日本経済	教科書(pp.160-171)の予習
14	新自由主義と日本経済	エネルギー問題のゆくえ	教科書(pp.172-177)の予習
15	まとめ	講義のまとめ	

関連科目 経済地理、西洋経済史、アジア経済史、日本経済史、地球環境経済、農業経済論、社会経済学I、II、アメリカ経済・文化論、アジア経済・文化論、ヨーロッパ経済・文化論

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	図説 経済の論点	柴田努、新井大輔、森原康仁編	旬報社
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	資本主義の現在 資本蓄積の変容とその社会的影響	豊福裕二編	文理閣
2			
3			

評価方法 (基準)	ノート提出(30%)、定期試験(70%)の結果をふまえて、総合的に評価する。 なお出席日数が不足する者は、単位取得の資格を失う場合がある。
学生への メッセージ	経済学は、現実の経済活動について生き生きとしたイメージを得るところから始まります。学生は経済生活を実際に経験しないので、経済についてイメージをもちにくく、経済学はとっつきにくいものです。しかし、君たちが将来経験する就職活動は、自分を労働力市場に投げ出し、販売するという経済活動です。そして、君たちの個人的な人生に大きな意味を持つ就職活動は、世界経済に連動した日本企業の動向に大きく影響を受けます。就職活動を開始するまでに、自分の個人的人生に影響を与える世の中の経済的な動きについて、ある程度の見通しをもつことを目指して、これから経済学を学ぶモチベーションを高めてほしい、と思います。
担当者の 研究室等	1号館7階 野口准教授室(経済学部)
備考	

科目名	国際経済論	科目名(英文)	International Economics
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	K L M N O P Q R S T
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	田中 鮎夢
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等	【科目】教科に関する科目(中学校 社会) 【施行規則に定める科目区分】「社会学、経済学」 【教員免許状取得のための履修区分】選択 【科目】教科に関する科目(高等学校 公民) 【施行規則に定める科目区分】「社会学、経済学(国際経済を含む。)」 【教員免許状取得のための履修区分】選択		

授業概要・目的	現代の国際経済、国際貿易論・国際金融論の概要を講義し、国際経済学の基礎を固める。
到達目標	国際経済学の基本を習得し、国際経済に関する新聞記事を読めるようになること。
授業方法と留意点	講義形式で行うが、講義時間内に問題演習を行う。
科目学習の効果(資格)	公務員試験(警察・消防、地方上級)の試験範囲を扱う。

回数	授業テーマ	内容・方法 等		事前・事後学習課題
		1	国際貿易理論	
2	国際貿易機関	GATT	GATT のラウンド WTO	講義内容の復習
3	国際収支	国際収支統計		講義内容の復習
4	日本の貿易・投資	輸出入	海外投資	講義内容の復習
5	通貨制度	金本位制	管理通貨制	講義内容の復習
6	戦後の国際通貨制度	ブレトンウッズ体制	為替相場 円高・円安の影響 貿易収支と為替 利子率と為替 円相場の変化	講義内容の復習
7	日本の対外経済協定	経済協定の種類 RTA	FTA EPA	講義内容の復習
8	地域経済統合	NAFTA	MERCOSUR ASEAN APEC	講義内容の復習
9	EU	EUの歴史	EUの組織	講義内容の復習
10	先進国の政策協調	OECD	サミット G20	講義内容の復習
11	南北問題	南北格差	UNCTAD 南南問題 累積債務問題 ODA	講義内容の復習
12	なぜ貧しい国が存在するのか	経済発展とは何か 源泉	経済発展の 多面的な経済発展	講義内容の復習
13	貧困削減	質的側面としての貧困 方	貧困の捉え 方 貧困削減政策	講義内容の復習
14	貿易の原因	世界と日本の貿易 比較優位論	貿易の原因	講義内容の復習
15	貿易政策	貿易政策の実態 影響	貿易政策の	講義内容の復習

関連科目 経済学入門、ミクロ経済学、マクロ経済学

番号	書籍名	著者名	出版社名
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
2			
3			

評価方法(基準) 平常点 40% (小テスト等)、定期試験 60%の割合で評価する。受講態度(私語等)によって、減点を行う。不正行為には厳正な措置をとる。小テストを475回程度実施予定。

学生へのメッセージ 意欲ある学生を歓迎します。

担当者の研究室等 1号館7階田中講師室

備考 受講生の理解度に応じて、講義内容・講義進度には変更がありえる。

科目名	国際投資論	科目名(英文)	International Investment
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	田中 鮎夢
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	「国際投資」は、「国際貿易」と並んで重要な役割を果たしている。また両者は密接な関係にある。そうした点に留意し、国際経済学を復習しつつ、現代の国際投資の姿を理論・実証両面で理解することを目指す。
到達目標	グローバル化している日本経済、世界経済について理解できるようになること。

授業方法と留意点	適宜資料を配布する。講義時間内に演習を行う。
----------	------------------------

科目学習の効果(資格)	公務員試験の教養経済相当の知識を扱う。
-------------	---------------------

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	グローバル経済時代の日本と国際投資	アジア経済との一体化が進む日本	講義内容の復習 小テスト①
3	グローバル経済時代の日本と国際投資	国境を越える人	講義内容の復習
4	グローバル化で変わる日本経済の構造と国際投資	輸入によって変わる国内流通 会計基準の国際化 国際化の中の株式市場	講義内容の復習
5	世界経済の潮流と国際投資	世界を駆け巡るマネー 発展途上の 躍進 地域経済化	講義内容の復習
6	グローバル経済化と直接投資	中国へ向かう直接投資 外資系企業 と中国 危機感を強める東南アジア	講義内容の復習 小テスト②
7	グローバル経済化と直接投資	なぜ外国直接投資は拡大するのか 直接投資の双方向性	講義内容の復習
8	日本経済と外国直接投資	日本の外国直接投資の推移 対内直接投資	講義内容の復習
9	日本経済と外国直接投資	日本経済の構造改革と対内直接投資 海外からの企業誘致を求められる 地方経済	講義内容の復習
10	直接投資の様々な形態	低賃金志向型の直接投資 資源開発型 の直接投資 市場密着型の直接投資	講義内容の復習 小テスト③
11	直接投資の様々な形態	販売拠点への直接投資 貿易摩擦や 通商政策がらみの直接投資 グローバル・ネットワーク の構築と直接投資	講義内容の復習
12	多国籍企業の行動原理	多国籍企業と企業内貿易 移転価格 資金調達と為替リスク	講義内容の復習
13	ホスト・カントリーへの影響	日本の直接投資による雇用創出効果 直接投資を通じた技術移転 直接投資の促進策としての の輸入制限 租税や関税等による優遇 策 直接投資に対する規制政策 先進国における直接投資 規制 直接投資が受け入れ国の 貿易に及ぼす影響	講義内容の復習 小テスト④
14	母国への影響	雇用に対する影響 貿易に対する 影響	講義内容の復習
15	総括	これまでの講義内容を復習する	講義内容の復習 小テスト⑤

関連科目	国際経済論、国際金融論、ミクロ経済学、マクロ経済学
------	---------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	ゼミナール国際経済入門 改訂3版	伊藤元重	日本経済新聞社
2				
3				

評価方法(基準)	平常点40%(小テスト等)、定期試験60%の割合で評価する。受講態度(私語等)によって、減点を行う。不正行為には厳正な措置をとる。
----------	---

学生へのメッセージ	意欲のある学生を歓迎します。
-----------	----------------

担当者の研究室等	1号館7階田中講師室
----------	------------

備考	受講生の理解度に応じて、講義内容・講義進度(小テスト日程・回数)には変更がありえる。
----	--

科目名	国際マーケティング論	科目名(英文)	International Marketing
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	岸田 未来
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	企業活動の目的の一つは、新規市場を開拓し、既存の市場においては他社に対する支配的な地位を確立することである。本講義の目的は、そのような市場を対象とした活動の一つとして、生成・発展してきた宣伝・広告、ブランド戦略、市場調査などの多様なマーケティング活動の役割を、企業の国際的な経営活動の観点から明らかにすることである。講義では、企業による国際的なマーケティング活動を、市場環境の変化と関連付けながら体系的に理解することを目標とする。
到達目標	国際マーケティングにかかわる用語を理解し、グローバルな企業活動においてマーケティング活動の果たす重要性について説明できる。
授業方法と留意点	講義形式で行う。必要に応じて資料や映像などを使用する。
科目学習の効果(資格)	現代企業のグローバルな経営活動を理解し、国際マーケティングに関連する諸問題について分析できるようになる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	現代企業とマーケティング活動の役割	講義に関するガイダンス、マーケティングとは何か、国際マーケティングの役割について	配布プリントでの復習
2	現代マーケティングの基本概念	現代マーケティングにおける STP とマーケティング・ミックス	配布プリントでの復習
3	企業活動のグローバル化と国際マーケティング	多国籍企業の成長とマーケティング活動、国際マーケティングの特徴	配布プリントでの復習
4	グローバル・マーケットと STP	世界の市場におけるセグメンテーションと、当該国市場でのターゲティング・ポジショニング	配布プリントでの復習
5	グローバルな市場参入戦略	参入方法の決定基準と参入方法の選択	配布プリントでの復習
6	国際マーケティングと製品政策①	複数国市場に対応した製品開発戦略	配布プリントでの復習
7	国際マーケティングと製品政策②	製品政策における世界同一商品戦略と現地適応化戦略	配布プリントでの復習
8	国際マーケティングと価格政策①	生産の多国籍化と国際価格設定	配布プリントでの復習
9	国際マーケティングと価格政策②	グローバルな価格設定の諸要因と価格政策のマネジメント	配布プリントでの復習
10	国際マーケティングと流通政策①	流通の国際化とグローバル・サプライチェーン	配布プリントでの復習
11	国際マーケティングと流通政策②	各国における流通チャネルの開拓とグローバル小売の役割	配布プリントでの復習
12	国際マーケティングとプロモーション政策①	国際プロモーション戦略の多様性	配布プリントでの復習
13	国際マーケティングとプロモーション政策②	プロモーション政策における文化問題と各国の広告規制	配布プリントでの復習
14	企業の国際ブランド戦略	国境を越えるブランドを作り出す企業戦略とマーケティング活動	配布プリントでの復習
15	新規市場の創出とマーケティング活動	途上国市場におけるマーケティング活動	配布プリントでの復習

関連科目	経営学
------	-----

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法(基準)	定期試験 80%、授業中に行うミニレポートや授業参加態度(質問、感想等)(20%)を総合的に評価する。
----------	---

学生へのメッセージ	企業経営に関連するニュースや記事を、普段から意識的にフォローしておくことをお勧めします。
-----------	--

担当者の研究室等備考	1号館7階 岸田准教授室(経済学部)
------------	--------------------

科目名	サービス産業論	科目名(英文)	Service Industries
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	西川 浩平
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	経済学の理解において価格は重要な役割を担っている。製造業については、メーカー、卸売業者、小売業者等との取引を通じて、ある程度定型的に価格は決定しているが、サービス産業については定型に当てはまらない分野が多々ある。本講義では、この定型に当てはまらない産業に着目し、当該産業の現状を概観した上で、価格決定プロセスおよび、当該プロセスが採用された経済的根拠について学習する。
到達目標	経済学的思考と知識に基づき、我が国におけるサービス産業の価格決定プロセスを通じて、当該産業の現状と課題を理解する能力を養う。

授業方法と留意点	授業は基本的に講義形式で行うが、随時講義中に確認および応用の問題を出す。
----------	--------------------------------------

科目学習の効果(資格)	
-------------	--

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	イントロダクション	サービス産業について学ぶ意義、講義の進め方、評価について説明する。	講義した内容について復習する。
	2	サービスの定義	サービスの用語と系譜について学習する。	講義した内容について復習する。
	3	ミクロ経済学の復習(1)	完全競争市場、独占市場における価格の決定方法について復習する。	講義した内容について復習する。
	4	ミクロ経済学の復習(2)	寡占市場における価格の決定方法について復習する。	講義した内容について復習する。
	5	電力市場(1)	電力市場の現状および課題について学習する。	講義した内容について復習する。
	6	電力市場(2)	電力市場で採用されている総括原価方式について学習する。	講義した内容について復習する。
	7	電力市場(3)	インセンティブ規制であるヤードスティック規制、プライスキップ規制について学習する。	講義した内容について復習する。
	8	電力市場(4)	電力市場における発送電分離について学習する。	講義した内容について復習する。
	9	医療市場(1)	医療市場の現状および課題について学習する。	講義した内容について復習する。
	10	医療市場(2)	医療の価格を決定する診療報酬制度について学習する。	講義した内容について復習する。
	11	医療市場(3)	医療における価格規制が医師や患者の行動に及ぼす影響を学習する。	講義した内容について復習する。
	12	医療市場(4)	包括支払い方式と出来高払い方式のメリット、デメリットを学習する。	講義した内容について復習する。
	13	タクシー産業(1)	タクシー市場の現状および課題について学習する。	講義した内容について復習する。
	14	タクシー産業(2)	タクシー市場における価格規制の変遷を学習する。	講義した内容について復習する。
	15	タクシー産業(3)	タクシー市場の価格規制の緩和が及ぼした影響について学習する。	講義した内容について復習する。

関連科目	ミクロ経済学、産業組織論。
------	---------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	定期試験(70%)およびレポート(30%)の点数で評価する。
----------	--------------------------------

学生へのメッセージ	経済に関する情報はテレビや新聞等あらゆるメディアで提供されています。常にアンテナを張って興味・関心のあるテーマを見つけて下さい。
-----------	--

担当者の研究室等	1号館7階 西川講師室(経済学部)
----------	-------------------

備考	
----	--

科目名	財政学	科目名(英文)	Public Finance
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	名方 佳寿子
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	日本における予算制度、歳出と歳入、税金のあり方、公債の特徴、地方財政制度について説明し、現在の日本が直面している財政の状況、財政赤字、高齢化に伴う社会保障、地方分権等の問題についての理解を深めます。
到達目標	現在の日本の財政が直面している財政赤字、社会保障、所得税・消費税・法人税などの税金の問題を具体的な数字を見ることによって理解し、一国民として今後の日本の将来を考えてもらう。
授業方法と留意点	授業はスライドと板書の両方を用いて行います。財政学ではデータなどを用いて財政の現状を学ぶのに対し、公共政策論では政府の役割を理論的に学びます。
科目学習の効果(資格)	私達の身近な問題である、財政赤字、税金、社会保障の問題が詳しくわかります。また公務員試験の勉強にも役立ちます。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	財政論とは？	財政学の考え方と財政の役割について説明する。	講義ノートの復習
	2	予算原則と予算制度	日本の予算制度について説明する。	講義ノートの復習
	3	歳出と歳入	我が国の財政事情について説明する。	講義ノートの復習
	4	社会保障制度	年金・医療保険・生活保護等について説明する。	講義ノートの復習
	5	各国の財政事情	先進国の財政事情について説明する。	講義ノートの復習
	6	税金	直接税・間接税の特徴について説明する。	講義ノートの復習
	7	租税原則と財政投融资制度	租税制度のあるべき姿と財政投融资改革について説明する。	講義ノートの復習
	8	我が国の租税制度 I	所得税、支出税、法人税について説明する。	講義ノートの復習
	9	我が国の租税制度 II	消費税、贈与税、最近の税制改革について説明する。	講義ノートの復習
	10	中間試験	第7回までの授業内容	第7回までの授業内容復習
	11	公債	我が国の公債について説明する。	講義ノートの復習
	12	公債の理論	公債による経済的な影響について説明する。	講義ノートの復習
	13	地方財政 I	国と地方の役割分担について説明する。	講義ノートの復習
	14	地方財政 II	地方税と補助金(国庫支出金、地方交付税)について説明する。	講義ノートの復習
	15	総括	14回の講義で学んだことを復習する。	講義ノートの復習

関連科目 公共政策論、公共経済学

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準) 中間試験(30%)、定期試験(70%)で総合的に評価します。座席指定を行います。私語をする学生には教室からの退出・減点などの処置をとります。また授業態度が著しく悪い学生・不正行為を行った学生には定期試験の受験資格を認めません。

学生へのメッセージ 疑問点・わからない点があれば授業中でもかまいませんので聞いてください。学生の積極的な取り組みを応援します。

担当者の研究室等 1号館7階 名方講師室(経済学部)

備考

科目名	社会経済学 I	科目名 (英文)	Social Economics I
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	A B C D E F G H I J
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	八木 紀一郎
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等	【科目】教科に関する科目 (中学校 社会) 【施行規則に定める科目区分】「社会学、経済学」 【教員免許状取得のための履修区分】選択 【科目】教科に関する科目 (高等学校 公民) 【施行規則に定める科目区分】「社会学、経済学 (国際経済を含む。)」 【教員免許状取得のための履修区分】必修		

授業概要・目的	「資本主義」とよばれる現在の経済システムの基本要素とその現状について基礎的な理解を与える。
到達目標	「資本主義」とよばれる現在の経済システムのしくみとそのもとで生じる経済問題・社会問題に対して基本的な理解をもち、将来についての見通しをもてるようにする。
授業方法と留意点	教科書を常時用いた講義です。
科目学習の効果 (資格)	現代の経済を理解するための常識が身に付きます。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
			1
2	経済学者の資本主義にたいする見方	教科書第1章後半	1年配当授業「経済思想史」のノートをよみかえしてください。
3	資本主義の基本要素	教科書第2章前半	資本主義でない社会、たとえば「共産主義」では経済の基本要素はどうなるでしょうか？
4	資本主義の社会的機構	教科書第2章後半	資本主義の経済が円滑に営まれるための制度を整備するのは誰でしょうか？
5	生産・価値・利潤	教科書第3章前半	資本主義の経済にとって利潤の役割は何でしょうか？
6	貨幣経済と競争	教科書第3章後半	競争と独占を対比して、双方の長所・短所をあげ、資本主義のもとでの競争の利点を説明しなさい。
7	資本主義の成立	教科書第4章前半	日本でどのように資本主義が成立したか、「日本経済史」のノートを読み返してください。
8	19世紀の資本主義	教科書第4章後半	資本主義は労働者を幸福にしたのでしょうか、不幸にしたのでしょうか？
9	20世紀資本主義	教科書第5章前半	20世紀資本主義と19世紀のその違いを説明しなさい。
10	21世紀に入る資本主義	教科書第5章後半	情報化と環境・エネルギー制約は資本主義をどう変化させるでしょうか？
11	資本主義の多様性	教科書第6章前半	資本主義の国ごとの差異がどのようにして生まれたかを考えてみましょう。
12	米国・日本・欧州・中国	教科書第6章後半	米国、日本、欧州、中国の企業の構造と経営の違いを考えましょう。
13	新しい技術・労働・企業・市場	教科書第7章前半	ICT技術によって市場のあり方が変わった例をあげてその社会的影響を考えましょう。
14	資本主義にとっての難問	教科書第7章後半	市場による調整が困難な場合、どのような代案があるか考えましょう。
15	総括	総括討論	この授業の全体を振り返って、資本主義の社会制度がこれからどのように変わっていくかを考えてみましょう。

関連科目	社会経済学 II
------	----------

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	図解雑学 資本主義のしくみ	八木紀一郎/宇仁宏幸	ナツメ社
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 (基準)	中間レポート1回 (30%) + 定期試験 (70%)
-----------	-----------------------------

学生へのメッセージ	これは経済の常識を学ぶ授業です。急に難しくはなりませんが、1章ごとに経済のイメージを確立していきましょう。
-----------	---

担当者の研究室等備考	1号館7階、八木教授室 (経済学部)
------------	--------------------

科目名	社会経済学 I	科目名 (英文)	Social Economics I
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	K L M N O P Q R S T
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	平野 泰朗
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等		【科目】教科に関する科目 (中学校 社会) 【施行規則に定める科目区分】「社会学、経済学」 【教員免許状取得のための履修区分】選択 【科目】教科に関する科目 (高等学校 公民) 【施行規則に定める科目区分】「社会学、経済学 (国際経済を含む。)」 【教員免許状取得のための履修区分】必修	

授業概要・目的	「資本主義」とよばれる現在の経済システムの基本要素とその現状について基礎的な理解を習得する。
到達目標	経済関連のニュースを理解し、自分の判断を持てるようになる。
授業方法と留意点	教科書を用いた講義。 教科書を、第1回から必ず持参すること。
科目学習の効果 (資格)	経済関連のニュースが分かる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	経済学者の資本主義に対する見方	アダム・スミス、マルクス、ウェーバーなどの資本主義の見方を学び、資本主義をみるポイントがいくつかあることを学ぶ。	教科書第1章後半を予習・復習する。
3	資本主義の基本要素	市場による調整と雇用関係という資本主義の基本要素を、「所有」や「社会的分業」という視点から見直す。	教科書第2章前半を予習・復習する。
4	資本主義の社会的機構	資本主義における社会的制度 (株式会社、流通機構、銀行、国家など) がどのようなものであるかを学ぶ。	教科書第2章後半を予習・復習する。
5	生産・価値・利潤	まず、社会の人々が生存し続けるには、経済的にどのような条件が満たされねばならないかを考察する。これを、社会的再生産の観点という。それを理解した上で、個々の商品の価値 (価格) とそこから生まれる利潤がどのようなものかを考える。	教科書第3章前半を予習・復習する。
6	市場経済と競争	様々な市場 (財市場、労働市場、金融市場) における競争のあり方とその結果を学習する。	教科書第3章後半を予習・復習する。
7	資本主義の成立	資本主義の成立過程を、歴史的に理解する。	教科書第4章前半を予習・復習する。
8	19世紀の資本主義	19世紀の資本主義と20世紀以降の資本主義は、同じ資本主義でも異なる。19世紀の資本主義の特質を、企業間関係、労働・雇用、貨幣・金融、国家および国際関係の観点から学ぶ。	教科書第4章後半を予習・復習する。
9	20世紀資本主義	20世紀資本主義の成長局面の特徴を、企業間関係、労働・雇用、貨幣・金融、国家および国際関係の観点から学ぶ。	教科書第5章前半を予習・復習する。
10	21世紀に入る資本主義	グローバル化の進展、金融資本の肥大化とバブルの形成、国家政策の効力低下、環境問題の深刻化などによって20世紀資本主義は、新しい局面に入りつつある。これらの諸問題を概観する。	教科書第5章後半を予習・復習する。
11	資本主義の多様性	資本主義は、国により異なる特質をもつ。そのような違いが生じる様々な要因を、検討する。	教科書第6章前半を予習・復習する。
12	米国・日本・欧州・中国	米国、日本、欧州、中国の社会・経済制度の違いを学ぶ。	教科書第6章後半を予習・復習する。
13	新しい技術・労働・企業・市場	新しい技術 (情報通信技術など) が労働様式、雇用関係、企業のあり方、取引関係などに与える影響を考える。	教科書第7章前半を予習・復習する。
14	資本主義にとっての難問	先進国における少子高齢化、新興国台頭による食料・資源問題、地球規模の環境問題、金融資本の肥大化による実体経済の混乱など、資本主義にとっての新たな難問を考察し、あり得べき解決策を考える。	教科書第7章後半を予習・復習する。
15	まとめ	これまでの授業を振り返り、重要点を確認し、足りなかった部分を補足する。	教科書をひととおり読み、自分の理解度をチェックする。

関連科目	経済思想史、社会経済学 II
------	----------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	図解雑学 資本主義のしくみ	八木紀一郎・宇仁宏幸	ナツメ社
	2			
	3			
参考書				

	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	何回か授業の終わり頃に、簡単な確認テストを行います。このとき、教科書・配付資料等を参照しても構いません。これも、評価対象とします。概ね、確認テスト40%、定期試験60%で評価します。 なお、出席日数が不足する者は、単位取得の資格を失う場合があります。			
学生への メッセージ	毎回、講義で教科書を参照しますので、教科書は、必ず買ってください。 この本では、一流の研究者が経済的事柄について分かりやすく書いています。したがって、まず、この本の図を見ながら、本文を読み返してください。くれぐれも、ウェブサイトだけを見るのはやめましょう。そこでは、ときどき、きわめて偏った説明がされています。			
担当者の 研究室等	1号館7階 平野教授室(経済学部)			
備考				

科目名	社会経済学Ⅱ	科目名(英文)	Social Economics II
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	八木 紀一郎
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等	【科目】教科に関する科目(中学校 社会) 【施行規則に定める科目区分】「社会学、経済学」 【教員免許状取得のための履修区分】選択 【科目】教科に関する科目(高等学校 公民) 【施行規則に定める科目区分】「社会学、経済学(国際経済を含む。)」 【教員免許状取得のための履修区分】選択		

授業概要・目的	現在の支配的な経済体制である資本主義を理論的に認識し、その制度と動態を理解する。マルクス経済学のうち現在に生きているエッセンスを生かして、現代の先端理論と結びつける授業です。
到達目標	現代の政治経済学の水準にふまえて、資本主義経済の理論を体系的に理解する。
授業方法と留意点	教科書による授業。担当者のホームページに自習用の参考資料を掲載します。 http://www.setsunan.ac.jp/~k-yagi/99_blank003.html
科目学習の効果(資格)	経済史・経済政策・経済理論各論の基礎として、これまで日本及び世界で蓄積された社会科学の業績を理解できるようになります。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	体制認識とは何か	モノの支配と価値の支配 賃労働に内在する権力関係 近代における「所有問題」	教科書補論
2	社会経済学の視点	社会経済学とは 社会的再生産の理論 資本主義の再生産	教科書第1章
3	市場のなかでの分業	ニーズの充足とその基礎 市場による調整と社会的調整 社会的分業を維持する価値	教科書第2章
4	市場のなかでの分業(2)	産業連関と価値体系 価値から価格へ	教科書第2章
5	貨幣のはたらき	社会化の形式としての貨幣 価値形態の発展 貨幣を介した交換による社会的再生産 貨幣の機能	教科書第3章
6	資本の登場	商業活動。資本の循環運動 労働力商品とその市場	教科書第4章
7	支配された生産	労働と生産 剰余価値の概念 剰余価値生産の社会的システム	教科書第5章
8	回転する資本	資本循環の3つの視点 資本の回転 再生産 成長と分配	教科書第6章
9	利潤と価格	生産価格 価値の生産価格への転化 利潤率は低下するか?	教科書第7章
10	競争と地代	市場価値と市場価格 競争と独占 地代	教科書第8章
11	商業	資本主義経済の上部展開 商業資本の自立化と商業利潤	教科書第7章
12	金融	金融資本 貸付資本と資産市場 利子と信用	教科書第9章
13	経済変動	市場的調整の失敗 景気循環と恐慌	教科書第10章
14	国家と世界市場	近代市民社会と階級 資本主義と国家 国家と国際経済 グローバリゼーション	教科書第11章
15	総復習	模擬試験方式による総復習	事前に模擬問題を配布するので、それを予習しておくこと。授業で解答を解説する。

関連科目	社会経済学Ⅰ
------	--------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	社会経済学	八木紀一郎	名古屋大学出版会
2				
3				

評価方法(基準)	中間レポート1回(30%) + 定期試験(70%)
----------	---------------------------

学生へのメッセージ	教科書はありますが、重要なところの説明はやはり授業を聞いてもらった方がいいでしょう。事前に教科書を読んできて、授業を聞いてもわからなくなったら、話の途中でもいいですから手をあげて質問してください。
担当者の	1号館7階 八木教授室(経済学部)

研究室等	
------	--

備考	
----	--

科目名	社会保障論	科目名(英文)	Social Security
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	西川 浩平
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	少子高齢化の進展もあり、年金、医療といった社会保障制度への関心は高まっている。本講義では、社会保障制度全般を対象に、その制度および現状を学ぶ。その上で、医療分野に着目し、患者、医師等の医療供給者の行動をミクロ経済学に基づき説明し、最終的に経済学視点から制度上の課題を把握できることを目標とする。			
到達目標	経済学的思考と知識に基づき、我が国における社会保障制度、特に医療分野の現状と課題を理解する能力を養う。			
授業方法と留意点	授業は基本的に講義形式で行うが、随時講義中に確認および応用の問題を出す。			
科目学習の効果(資格)				
授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	イントロダクション	社会保障学が意義および基礎となる概念について説明する。	講義した内容について復習する。
	2	社会保障の行財政	社会保障制度財政方式および運営主体を説明する。	講義した内容について復習する。
	3	社会保障に関する指標	世代間不平等の程度を測る各種指標を説明する。	講義した内容について復習する。
	4	年金保険	老後の生活において不可欠な年金制度の制度を学ぶ。	講義した内容について復習する。
	5	雇用保険・労災保険	現代社会において不可避な現象ともいえる失業に関連する雇用保険の制度・現状を説明する。	講義した内容について復習する。
	6	生活保護	近年受給世帯の増加が指摘される生活保護制度の制度と現状を説明する。	講義した内容について復習する。
	7	医療保険(1)	医療サービス需要の決定要因について学ぶ。	講義した内容について復習する。
	8	医療保険(2)	医療サービス需要の弾力性について学ぶ。	講義した内容について復習する。
	9	医療保険(3)	医療サービスの効率的な供給について学ぶ。	講義した内容について復習する。
	10	医療保険(4)	医療サービスの費用について学ぶ。	講義した内容について復習する。
	11	医療保険(5)	医療サービスの需要と供給の関係について学ぶ。	講義した内容について復習する。
	12	医療保険(6)	医療サービスにおける供給者誘発需要について学ぶ。	講義した内容について復習する。
	13	医療保険(7)	医療サービスにおける政府の役割の重要性について学ぶ。	講義した内容について復習する。
	14	介護保険(1)	介護保険制度の誕生を歴史的に視点より学ぶ。	講義した内容について復習する。
	15	介護保険(2)	介護保険制度における現状の課題を抽出し、その対応策について学ぶ。	講義した内容について復習する。
関連科目	特になし。			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法(基準)	定期試験(60%)およびレポート(40%)の得点で評価する。			
学生へのメッセージ	経済に関する情報はテレビや新聞等あらゆるメディアで提供されています。常にアンテナを張って興味・関心のあるテーマを見つけて下さい。			
担当者の研究室等	1号館7階 西川講師室(経済学部)			
備考				

科目名	宿泊産業論	科目名(英文)	Lodging Industries
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	持永 政人
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	観光産業の中核を構成する宿泊産業の今日的な動向と問題点を学ぶことを通して、観光立国日本における宿泊産業の経済的、社会的意義を理解する。			
到達目標	宿泊産業における経営システムを理解し、宿泊施設の基礎的な経営分析ができる。			
授業方法と留意点	授業はホテルの事例を多用しながら、毎回のテーマに沿った講義を中心に進めていきます。			
科目学習の効果(資格)	宿泊関連産業動向の理解			
授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	概要説明	講義概要、授業の進め方、評価方法等の説明 プレテストの実施	事後：配布資料の復習
	2	宿泊産業とは何か	宿泊産業の産業領域について理解する。	事後：配布資料の復習
	3	宿泊産業の歴史Ⅰ	海外(欧州、米国)における宿泊産業の発展を振り返る。	事後：配布資料の復習
	4	宿泊産業の歴史Ⅱ	日本における宿泊産業の発展を振り返る。	事後：配布資料の復習
	5	観光と宿泊産業	観光における宿泊産業の位置づけと重要性について考える。	事後：配布資料の復習
	6	宿泊産業の種類	宿泊産業を形成する多様な各種業態について理解する。	事後：配布資料の復習
	7	宿泊産業に関わる法律	旅館業法、国際観光ホテル整備法等関連法令について学ぶ。	事後：配布資料の復習
	8	宿泊施設Ⅰ	国際的なホテル分類とその役割・特徴について学ぶ。	事後：配布資料の復習
	9	宿泊施設Ⅱ	国内におけるホテル分類とその役割・特徴について学ぶ。	事後：配布資料の復習
	10	宿泊施設の運営管理Ⅰ	主にホテルを例に宿泊産業の運営について学ぶ。	事後：配布資料の復習
	11	宿泊施設の運営管理Ⅱ	主にホテルの経営指標について学ぶ。	事後：配布資料の復習、演習問題提出
	12	宿泊施設の運営管理Ⅲ	宿泊施設の収益性分析について学ぶ。	事後：配布資料の復習、演習問題提出
	13	事例研究Ⅰ	宿泊関連企業の事例研究(1)	事後：配布資料の復習、演習問題提出
	14	事例研究Ⅱ	宿泊関連企業の事例研究(2)	小テスト 事後：配布資料の復習
	15	宿泊産業の将来展望とまとめ	これまでの講義の補足とまとめ、質疑応答	事後：配布資料の復習
関連科目	観光学入門、観光マーケティング論、観光人材論			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法(基準)	定期試験50%、平常点50%(演習問題提出、小テスト、授業の参加態度等)を総合的に評価する。			
学生へのメッセージ	宿泊産業は観光において重要な役割を果たすだけでなく、地域経済にも大きなインパクトを持ちます。地域経済専攻の方にも興味深いと思います。			
担当者の研究室等	1号館7階 持永教授室(経済学部)			
備考				

科目名	商法	科目名(英文)	Commercial Law
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	高田 尚彦
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等		【科目】教科に関する科目(中学校 社会) 【施行規則に定める科目区分】「法学、政治学」 【教員免許状取得のための履修区分】選択 【科目】教科に関する科目(高等学校 公民) 【施行規則に定める科目区分】「法学(国際法を含む。)、政治学(国際政治を含む。)」 【教員免許状取得のための履修区分】選択	

授業概要・目的	商法は、一般法である民法の特別法であり、企業関係に特有な法規の総体とし、企業を商法の中心概念と考えています。企業とは、一定の計画に従い継続的意図をもって営利行為を実現する独立の経済単位のことであり、会社形態をとっていなくても、この要件を満たせば企業といえます。授業では、企業活動に関与する者にとり必要とされる商法の基本的知識を習得できるように講義を行います。
到達目標	商法の基本概念である商人概念および商行為概念について理解する。 そのうえで、様々な商行為について理解する。 その際には、基本法である民法を意識しつつ理解を深めること。
授業方法と留意点	教科書に合わせて授業を進行します。必要に応じて補足資料を配布します。
科目学習の効果(資格)	会社就職後に必要な知識を習得できるとともに、各種試験(法学検定、法科大学院、公務員、公認会計士など)の対策となる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション、商法の意義	授業内容、授業の進め方、評価方法についての説明。 商法の意義、商法の法源、隣接法との関係。	教科書第1部第1章(p.1~p.12)を読んでおくこと。
2	商法の適用範囲を画する基本概念	商法の基本概念、商人の意義、商行為、商人資格。	教科書第1部第2章(p.13~p.25)を読んでおくこと。
3	商号	商号の意義、商号の選定、商号の登記、商号権の保護、商号の譲渡、名板貸。	教科書第1部第3章(p.27~p.38)を読んでおくこと。
4	商業登記	商業登記の意義・手続・効力、会社の登記および公告。	教科書第1部第4章(p.39~p.48)を読んでおくこと。
5	商業帳簿	商業帳簿の意義・種類・保存義務。	教科書第1部第5章(p.49~p.54)を読んでおくこと。
6	商業使用人と代理商	商業使用人の意義、支配人・その他の商業使用人、代理商。	教科書第1部第6章(p.55~p.65)を読んでおくこと。
7	営業・事業の譲渡・賃貸借・経営委任	営業の意義、営業所、営業の譲渡、営業の賃貸借・経営委任。	教科書第1部第7章(p.67~p.76)を読んでおくこと。
8	商行為に関する通則	商行為通則の意義、商行為の営利性、商事契約の成立、商事債権。	教科書第2部第1章(p.77~p.86)を読んでおくこと。
9	商事売買取引	商事売買契約の成立、受領商品保管義務、商品の引き渡し、商品の受領と支払い。	教科書第2部第2章(p.87~p.91)を読んでおくこと。
10	リース・フランチャイズ	リース取引、特約店・フランチャイズシステム。	教科書第2部第3章(p.93~p.96)を読んでおくこと。
11	仲立ちと取次ぎ	仲立人、問屋、準問屋、運送取扱人。	教科書第2部第4章(p.97~p.106)を読んでおくこと。
12	運送取引	物品運送、旅客運送。	教科書第2部第5章(p.107~p.118)を読んでおくこと。
13	倉庫取引	倉庫業の意義、倉庫寄託契約、倉庫業者の権利・義務。	教科書第2部第6章(p.119~p.123)を読んでおくこと。
14	場屋取引	場屋取引の意義、場屋営業者の責任。	教科書第2部第7章(p.125~p.128)を読んでおくこと。
15	金融取引と決済	匿名組合、交互計算。	教科書第2部第8章(p.129~p.133)を読んでおくこと。

関連科目	民法、会社法。
------	---------

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	やさしい商法総則・商行為法(第三版)	山下眞弘	法学書院
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法(基準)	原則として、定期試験の結果によって評価する。 その他講義中の発言も加味する。
----------	---

学生へのメッセージ	商法は、商法総則と商行為法に大別されます。授業では、民法に関する知識にも触れながら分かりやすく説明します。積極的に授業に参加し、基本的知識を習得してください。
-----------	---

担当者の研究室等	11号館6階 法学部事務室
----------	---------------

備考	授業時間外の質問はメールにて受け付けて、後日回答する。 n-takada@pp.iij4u.or.jp まで、件名に科目名を入れて送信すること。
----	---

科目名	西洋経済史	科目名(英文)	Western Economic History
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	岸田 未来
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等	【科目】教科に関する科目(中学校 社会) 【施行規則に定める科目区分】日本史及び外国史 【教員免許状取得のための履修区分】選択 【科目】教科に関する科目(高等学校 地理歴史) 【施行規則に定める科目区分】外国史 【教員免許状取得のための履修区分】必修		

授業概要・目的	資本主義はヨーロッパの封建社会の中から誕生し、その後世界へと広まっていった。資本主義のシステムを理解するため、なぜヨーロッパのイギリスにおいて最初に資本主義が発展したのか、またその後の世界的な資本主義システムの展開において、イギリスからアメリカへの覇権の交代が、なぜ、いかにして生じたのかを明らかにする。 本講義では、中世末期から20世紀にかけての、西欧およびアメリカにおける資本主義経済の長期的な発展プロセスを、体系的に理解することを目標とする。
到達目標	西洋経済史にかかわる用語の意味内容を理解し、西欧およびアメリカを事例に、資本主義の長期的な発展プロセスの主要なモメントを説明することができる。
授業方法と留意点	講義形式で授業を進める。毎回プリントを配布する。
科目学習の効果(資格)	西欧に端を発する資本主義の世界的な発展史を理解し、よって日本およびアジア地域の経済発展の歴史的位相への理解を深めることができる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	西洋経済史の課題	西洋経済史を学ぶ意義、西洋経済史の対象、授業の進め方・評価方法などの説明	配布プリントでの復習
2	中世ヨーロッパの社会と経済	レーン制と荘園制を基礎におく封建社会	配布プリントでの復習
3	中世末期のヨーロッパを取り巻く世界	ヨーロッパの拡大と植民地、市場経済の広まり	配布プリントでの復習
4	イギリス産業革命前夜の経済と社会	商業革命と生活スタイルの変化	配布プリントでの復習
5	イギリス産業革命	綿業を中心とした工業化の進展	配布プリントでの復習
6	ヨーロッパ大陸における後発国の工業化	ドイツにおける工業化の進展	配布プリントでの復習
7	パックス・ブリタニカ	イギリス帝国の世界的な支配体制	配布プリントでの復習
8	アメリカ資本主義の発達	イギリス植民地経済からの発展と国民国家形成	配布プリントでの復習
9	新産業の登場と19世紀後半の「大不況」	19世紀後半の世界的大恐慌が資本主義各国にもたらした影響、独占体制の成立	配布プリントでの復習
10	20世紀「福祉国家」と社会政策の源流	「労働者」の台頭と社会政策の展開	配布プリントでの復習
11	第一次世界大戦とヨーロッパ経済	アメリカとヨーロッパの新たな結びつき	配布プリントでの復習
12	1920年代のアメリカ経済の繁栄	大衆消費社会の出現	配布プリントでの復習
13	1930年代の大不況と西欧諸国	世界大恐慌とナチズムの台頭	配布プリントでの復習
14	第二次世界大戦とアメリカ資本主義の台頭	東西冷戦とアメリカによる戦後資本主義体制の再編と強化	配布プリントでの復習
15	パックス・アメリカーナの20世紀	第二次大戦後のアメリカを中心とする資本主義体制の発展と現状	配布プリントでの復習

関連科目	日本経済史
------	-------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	定期試験80%、ミニレポート・授業参加度(質問・感想等)20%の割合で総合的に評価する。
----------	--

学生へのメッセージ	短期的な視野のみではなく長期的に資本主義の生成・発展を考えたい、また日本と西欧との比較に関心があるという人の受講を、特に歓迎します。
-----------	--

担当者の研究室等	1号館7階 岸田准教授室(経済学部)
----------	--------------------

備考	
----	--

科目名	世界観光事情	科目名(英文)	International Tourism
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	浅羽 良昌
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	国際観光による人間の移動が今や地球規模でおこなわれている。本講義の目的は、人々がどこからどこへ旅行しているかを各国別のデータをベースに明らかにし、その詳細や背景、さらには要因を検討することを通じ、世界の観光事情の一端を明らかにすることにある。
到達目標	受講生は、私が提示する資料を分析することにより、研究のやり方が分かるはずである。高い判断能力が身につくことを目標とする。
授業方法と留意点	教科書やプリント利用が中心であるが、講義の内容からして映画やビデオの利用も考えたい。受講生の数にもよるが、学生による報告・発表の時間も設けたい。
科目学習の効果(資格)	旅行関係の資格に必要な観光学の素養が身に付くはずである。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	国際観光時代到来の推移と理由	国際観光時代はいつ訪れたのか、その理由は何なのかについて説明したい。	事前・テキスト予習
3	魅力的な観光国はどこか?(1)	フランス、アメリカ、スペインなどが人気の高い観光国になっている。	事前・テキスト予習
4	魅力的な観光国はどこか?(2)	上記3カ国の魅力はどこにあるのか?	事前・テキスト予習
5	海外旅行好きの国民はどこか?(1)	ドイツ、アメリカ、イギリスの国民の海外旅行熱が特に高いことを説明する。	事前・テキスト予習
6	海外旅行好きの国民はどこか?(2)	上記3カ国の国民はこの国を訪れているのか、その理由なども説明したい。	事前・テキスト予習
7	国際観光で一番お金を稼いでいる国はどこか?(1)	アメリカが断トツに国際観光収入の多いことを明らかにする。次にスペインが続いている。	事前・テキスト予習
8	国際観光で一番お金を稼いでいる国はどこか?(2)	日本や韓国やドイツは観光でお金を稼ぎだしているか?それぞれの国の事情・背景をさぐる。	事前・テキスト予習
9	観光産業のウエイトの高い国はどこか?(1)	スペイン、フランス、イタリアそしてアメリカなどが該当国にあたる。観光産業の経済規模にしろめるウエイトなどから判断したい。	事前・テキスト予習
10	観光産業のウエイトの高い国はどこか?(2)	上記の4カ国の事情や背景を考える。あわせて日本や韓国やドイツなどはどうなのか、その辺の事情・背景もあわせて考えたい。	事前・テキスト予習
11	観光途上国日本のゆくえ(1)	観光・観光産業の発展に遅れをとった日本の事情や背景について説明したい。	事前・テキスト予習
12	観光途上国日本のゆくえ(2)	観光大国日本への課題を検討する。	事前・テキスト予習
13	国際観光の国別比較	国際観光の特徴を、フランス、アメリカ、スペイン、ドイツ、日本などについて比較的に説明する。	事前・テキスト予習
14	国際観光のゆくえ	国際観光は世界経済の繁栄と世界の平和とに支えられている。世界平和の維持に向けて各国が協力する必要があるが今後益々大きくなっていくことを説明する。	事前・テキスト予習
15	復習とまとめ	講義で説明してきたことを総括する。	事前・テキスト予習

関連科目	観光経済論 観光産業政策論 観光資源論 レジャー産業論
------	-----------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	国際観光論	浅羽良昌	昭和堂
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	観光白書	観光庁	株式会社 コミュニカ
	2			
	3			

評価方法(基準)	定期試験(90%)、授業中の報告(10%)で評価する。
----------	-----------------------------

学生へのメッセージ	私語はしないように。ただし、講義中の質問は大歓迎です。
-----------	-----------------------------

担当者の研究室等	1号館7階 浅羽教授室(経済学部)
----------	-------------------

備考	
----	--

科目名	摂南経済ゲストレクチャー	科目名 (英文)	Setsunan Guest Lectures
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	八木 紀一郎
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	地域経済、観光経済、現代経済、経済思想などの基本トピックにかかわって、担当教員のガイドのもとに、ゲスト講師を招いて授業を行います。トピックとしては、「地域経済の国際化とグラスルーツ活動」「観光産業の未来」「国際金融危機と関西経済」「新しい経済思想と経済理論」などを考えています。 生きた経済の現実の課題と活動にふれて考える態度を育成することが目的です。
到達目標	社会人講師のレクチャーを聴いて、そななか(こめられたメッセージをつかむとともに、とりあつかわれたトピックについて自分で調べて、自分の意見を含むレポートがかけられるようにする。
授業方法と留意点	それぞれのゲストのレクチャーの前に、担当教員が事前レクチャーを行い、受講者に予習をさせます。⇒ゲストによるレクチャーを受講⇒翌週、ゲストのレクチャーを聴いて考えたこと調べたことをもとに討論し、最後にレポートにまとめ提出します⇒必要な場合、補足のレクチャー、レポートの返却と講評を行います。(レポートが試験のかわりになります。必ず提出してください。)
科目学習の効果(資格)	現場における課題を知って実践的態度を身につけることができます。簡単なレポートを書く訓練にもなります。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	4月8日(水) 3時限 この授業についての全体的説明	1. この授業の運営の仕方を説明し、昨年のゲストレクチャーの内容を紹介します。	授業担当者のホームページ内のこの授業のページ (http://www.setsunan.ac.jp/~k-yagi/list1007.html) を閲覧して、過去の年度の授業の様子を知る。 2. 福島県飯館村についてインターネットや書籍で調べる。
2	4月15日(水) 3時限 事前レクチャー1	寝屋川市と北河内地域の産業 第1回ゲスト・レクチャーの事前レクチャー	
3	4月22日(水) 3時限 ゲスト1: 田邊司郎さん (寝屋川自動車教習所代表取締役社長)	地域における企業と若者の役割	事前: 田邊さんのお話に自分の調査結果や自分の考えを加えて第1回感想レポートを準備する。
4	4月29日(水) 3時限 事後討論1	討論と補足的レクチャー。それを取り入れて、感想レポートを完成して提出する。	第1回のレポート提出(授業時間中)
5	5月13日(水) 3時限 事前レクチャー2		
6	5月20日(水) 3時限 ゲスト2: 芝川能一さん (おおさか創造千島財団理事長・千島土地株式会社代表取締役社長)	文化と自然による都市環境の再生	第2回レポートを準備する。
7	5月27日(水) 3時限 事後討論2 事前レクチャー3	討論と補足的レクチャー。それを取り入れて、感想レポートを完成して提出する。	第2回のレポート提出(授業時間中)
8	6月3日(水) 3時限 ゲスト: キャサリン・テイラーさん (オーストラリア領事)	日本とオーストラリア: 経済と青年交流	
9	6月10日(水) 3時限 事後討論3	討論と補足的レクチャー。レポートを完成して提出する。	第3回のレポート提出(授業時間中)
10	6月17日(水) 3時限 事前レクチャー4	和歌山県と由良町	
11	6月24日(水) 3時限 ゲスト4: 岡真治さん (和歌山県由良町副町長)	過疎化に悩む地方経済の活性化	第4回感想レポートの準備
12	7月1日(水) 3時限 事後討論4 事前レクチャー5	討論と補足的レクチャー。それを取り入れて、感想レポートを完成して提出する。	第4回感想レポート提出
13	7月8日(水) 3時限 ゲスト5: 丸山武志さん (日本総研上席主任研究員・摂南大学招聘研究員)	地域活性化と日本経済	
14	7月15日(水) 3時限 事後討論5	討論と補足的レクチャー。それを取り入れて、感想レポートを完成して提出する。	第5回感想レポート提出
15	7月22日(水) 3時限 最終討論	もっとも印象深かったレクチャーについて、グループに分かれて討議する。 そのうえで5つのレクチャー全体から学んだことを最終レポートとして提出する。	おしまい! 期末テストはありません。

関連科目 地域経済入門、観光学入門、国際経済入門

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	討論への参加度 20%、レクチャーに関して提出されるレポート 80%で総合評価します。			
学生への メッセージ	資料や学生レポートの講評などを担当者のホームページに掲載しますので、それを利用して予習・復習してください。 http://www.setsunan.ac.jp/~k-yagi/list1007.html			
担当者の 研究室等	1号館7階 八木教授室(経済学部)			
備考				

科目名	専門演習 I	科目名 (英文)	Seminar I
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	八木 紀一郎
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	テーマは「制度の経済学と地域・観光政策」で、成熟した経済社会のもとで持続的な発展を可能にする制度・政策と地域経済のあり方を探求する。その際、制度経済学の新しい理論と現場の創造的な実践に注目する。		
到達目標	フィールドワーク（現地調査）のところがまえ、アンケート調査の仕方、調査結果の分析法についての基礎知識を得るとともに、制度の経済学の視点から地域と観光を探求できるようにする。		
授業方法と留意点	前期のおわり（7月）に今年度ゼミ論の作成計画書を提出、後期に商店街調査を上回生とともに全員で実施します。後期のおわり（1月）にゼミ論を提出しプレゼンテーションを行う。		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<ol style="list-style-type: none"> 1. 地域経済・観光経済研究の基礎として制度経済学および経済地理学の基本的な考え方を学ぶ。 2. 欧州・北米・アジア地域における地域統合の進展とそのもとの地域政策・観光政策の実態を学ぶ。 3. 過疎地域および都市地域における地域政策・観光資源開発を現地で考える予備的なフィールド調査を経験する。夏休み終わりに近隣郊外都市ないし和歌山県の現地観光資源体験調査、秋に商店街調査を実施する。 4. 併せて、研究倫理教育を行う。 		
関連科目			
教科書	番号	書籍名	著者名
	1	初めてでもできる社会調査・アンケート調査とデータ解析（第2版）	安藤明之
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
評価方法（基準）	演習での分担レポートや学習成果+学外フィールド調査への参加+年度末のゼミ論とプレゼンテーション		
学生へのメッセージ			
担当者の研究室等	1号館7F		
備考	専門演習の開始にあたって学習・研究上の誠実性・倫理・ルールについての基準を学んでもらいます。		

科目名	専門演習 I	科目名 (英文)	Seminar I
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	平野 泰朗
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	これまで日本経済がどのように成長していったか、そして、これからはどのように発展してゆくのか。こうした疑問を解き明かすため、労使関係、企業間関係、金融、国際関係における様々な制度の役割を踏まえて現状を分析し、答えを見つけてゆく。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> ゼミでの集団学習を通じて、聴く力、伝える力、まとめる力をつける。 課題研究を通じて、課題発見力、情報収集力、論理的思考力をつける。 		
授業方法と留意点	<ol style="list-style-type: none"> まず、直接付き合い合っている人間関係以外の世界で何が起きているかを知ることから学習を始めます。そのために、共通の入門的な教材（小説、新聞・雑誌記事、大学生のレポート等）を使い、様々な分野（経営、仕事、就職活動、IT技術の社会・経済への影響、海外事情等）での課題が何かを学びます。 次に、以下の学習をします。まず、経済ニュースから各自が興味深いと思う話題を取り上げ、それについての経済学的解説を加えます。次に、ふる里や関心のある地域を選び、その地域の特徴を調べ、地域が抱える課題を調べます。最後に、2～3人のグループに分かれ、グループ独自の研究課題を設定し、それを調べます。 		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<ol style="list-style-type: none"> テーマ・内容は、課題発見力をつけるため、基本的には自分で決めます。 しかし、初期の段階では、経済・社会問題への関心度が低いので、教員が多数のテーマを列挙し、その中から選ぶという方法も併せて行います。 方法については、個人別学習とグループ学習を併用して行います。 一度の発表で終わりというわけではないので、討論中に受けた質問や指摘を次回発表で答えられるように事後学習をします。 併せて、研究倫理教育を行います。 		
関連科目			
教科書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
評価方法 (基準)	事前学習の度合い、個人学習の成果（プレゼンテーション、レジユメのまとめ方など）、集団学習への貢献度（質問、提案、議論のまとめなど）をもとに総合的に評価します。 なお、出席日数が不足する者は、単位取得の資格を失う場合がある。		
学生へのメッセージ			
担当者の研究室等	1号館7階 平野教授室		
備考			

科目名	専門演習 I	科目名 (英文)	Seminar I
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	内田 勝巳
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	テーマは「国際開発協力」で、開発途上国の持続的な発展を可能にする地域・観光開発のあり方を探求する。その際、経済開発理論と援助機関の現場での実践に注目する。		
到達目標	論文の作成に必要な形式や論理的思考に関する基礎的知識を身につけて、次年度以降のフィールド調査および卒業論文作成の準備が円滑に行えるようになることを到達目標とする。		
授業方法と留意点	前期のおわり（7月）に今年度ゼミ論の作成計画書を提出、後期のおわり（1月）にゼミ論を提出しプレゼンテーションを行う。		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	1) 経済開発理論と国際開発協力の実態を学び、今後の開発途上国の地域・観光開発のあり方について考える。 2) 特定の開発途上国とその関心分野の具体的な研究計画を立て、当該国の経済社会開発を考えるためのフィールド調査を企画する。 3) 併せて、研究倫理教育を行う。		
関連科目	開発経済学、国際協力論		
教科書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
評価方法 (基準)	ディスカッション、プレゼンテーション、レポート（ゼミ論）等で総合的に評価する。ゼミ対抗プレゼン大会への参加者は高く評価する。		
学生へのメッセージ	演習を通じて自ら関心のあるテーマの学習を深めていってください。		
担当者の研究室等備考	1号館7階 内田教授室（経済学部）		

科目名	専門演習 I	科目名 (英文)	Seminar I
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	久保 廣正
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	まず、国際経済学の基礎的文献を輪読する。その後、わが国産業がどのように国際展開を図ろうとしているのか、国際社会にどのように日本をアピールしようとしているのかについて情報収集する。		
到達目標	わが国産業の未来を考えるうえで基礎的な学力を養成することを到達目標とする。		
授業方法と留意点	基礎的な文献を輪読した後、最近のわが国産業に関する論文、雑誌、さらには各企業のHPなどにより情報収集を行う。また、こうした情報に基づき、経済学・経営学の手法を用いて、わが国産業の将来について考える。常に、産業界の動向について興味を持ち、情報収集に心がけてもらいたい。		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	わが国産業の将来をテーマとする。本演習中には、国際経済学・経営学の基礎理論を学び、得られた情報について分析を行い、わが国産業の将来を考える分析力を養成する。演習中に事前事後の学習課題を指示する。併せて、研究倫理教育を行う。		
関連科目			
教科書	番号	書籍名	著者名
	1	国際経済学をつかむ第2版	石川・椋・菊地
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
評価方法 (基準)	本演習に取り組む姿勢、さらには分析結果について評価する。		
学生へのメッセージ			
担当者の研究室等	1号館7階 久保教授室		
備考			

科目名	専門演習 I	科目名 (英文)	Seminar I
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	後藤 和子
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	テーマは、文化経済をキーワードとして地域や観光への理解を深めることである。初年度は、文化経済学の基礎理論や、文化産業・クリエイティブ産業の理論と現実を学び、文化と地域経済との関わりについて、探求することを目指す。		
到達目標	基礎的な理論を理解するとともに、文献や論文の検索、現地調査の準備ができるようになる。経済学部のプレゼンテーション大会に参加する。		
授業方法と留意点	前期終了時に、今年度ゼミ論文の作成計画を提出、後期に、文化産業の現場を視察する。1月には、グループに分かれてプレゼンテーション大会の準備をする。		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<ol style="list-style-type: none"> 1、文化経済や文化市場の基礎的な理論を学ぶ 2、文化産業やクリエイティブ産業の理論と実態を学ぶ 3、文化産業の集積と地域、文化による都市や地域の再生など、文化と地域の関わりや可能性を学生自らが探求するアクティブ・ラーニングを目指す。 4、併せて、研究倫理教育を行う。 		
関連科目			
教科書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
評価方法 (基準)	演習への出席状況、演習での分担レポートや学習成果、フィールドワークへの参加、ゼミ論文とプレゼンテーションを総合的に評価する。		
学生へのメッセージ			
担当者の研究室等	1号館7階 後藤教授室		
備考	演習の主体は学生です。積極的な参加を求めます。また、演習を通して将来の仕事への展望が持て、社会人としての基本的なスキルを身につけられるように頑張りましょう。 他のゼミとの合同ゼミや、現地調査等も行う予定です。		

科目名	専門演習 I	科目名 (英文)	Seminar I
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	朴 景淑
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	3年・4年時の上級研究のための基礎知識と研究レポートの作成・ディスカッション・プレゼンのための基礎を習得させる。			
到達目標	①会計学の基礎の演習 ②研究レポートの書き方、ディスカッションによる研究の調整・発展テクニックの習得 ③プレゼンのスキルを身につける			
授業方法と留意点	①必ず授業へ参加し、またディスカッションに参加すること ②本授業は講義タイプではなく、学生参加型のゼミですので積極的に参加すること。			
授業テーマ・内容、方法・事前、事後 学習課題	毎週のテーマに合わせて、レポート・演習・発表準備などを告知する併せて、研究倫理教育を行う。			
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	テストは無し 毎回のゼミ参加・演習・レポート・発表等を総合的に評価する。			
学生へのメッセージ				
担当者の研究室等	1号館7階 朴教授室			
備考	積極さが必要			

科目名	専門演習 I	科目名 (英文)	Seminar I
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	蛭川 雅之
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	「興味のある話題や疑問に関してデータを収集し、統計学・計量経済学的手法を応用してその疑問に自分なりの答えを出す」ことをテーマにしています。疑問は広く経済学・ファイナンスに関連のあることであれば何でも構いません（地域・観光・国際経済に直接関連するものであればなお結構です）。			
到達目標	専門演習Ⅱで学ぶ回帰分析を理解するのに必要となる統計学の基礎を身につけることを目標とします。			
授業方法と留意点	レジュメおよびレポートの作成・発表、討論・総括という学習スタイルをとります。授業中は積極的に発言するよう心がけてください。			
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	計量経済学の基礎となる統計学を学習します。具体的には、基礎科目「統計学」で使用されるものより少々高度な教科書の輪読を行います。また、卒業研究のテーマ選びやコンピュータを使ったデータ解析も開始したいと思います。併せて、研究倫理教育を行います。			
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	課題の発見・分担、資料収集・分析、レジュメおよびレポート作成・発表の達成度、討論・総括内容、課題へ取り組む姿勢を総合的に評価します。			
学生へのメッセージ	何事にも前向きな姿勢を持ち続けてください。			
担当者の研究室等備考	1号館7階 蛭川教授室（経済学部）			

科目名	専門演習 I	科目名 (英文)	Seminar I
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	持永 政人
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	参考文献購読、学外視察、業界関係者のレクチャー等により地域・観光産業の概要を理解する。同時に社会人としての一般常識を習得する。		
到達目標	学外活動等から得た地域・観光に関する情報を活用し、主体的にプランを作成、実践できる。		
授業方法と留意点	授業の一環として、学外の施設を訪問したり、学外の方を招いたりすることが多いので、摂大生として節度ある行動と変則的なゼミ運営に留意すること。		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	前期：文献購読、レクチャー等、 後期：学外視察、学外活動を行い、3年次専門演習Ⅱで行うインターンシップに必要な基礎的な知識や素養を習得する。 併せて、研究倫理教育を行う。		
関連科目			
教科書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
評価方法 (基準)	課題の発見・資料収集・分析、レジュメおよびレポート・発表の内容、ゼミ活動・課題解決への取り組み姿勢等を総合的に評価する。		
学生へのメッセージ			
担当者の研究室等	1号館7階 持永教授室（経済学部）		
備考			

科目名	専門演習 I	科目名 (英文)	Seminar I
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	植杉 大
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	地域経済を円滑に運営するために地域金融機関に求められる役割とは何か、地域の利便性・収益性等が地域不動産価格にどのように反映されるかなど、地域の発展にはこれらを総合的に勘案する思考が必要である。本専門演習では、これらを分析するために必要な知識について、グループ学習及びフィールド調査等を通じて学習する。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 地域経済の問題点について基本的な認識を持つ。 2. 地域経済における地域金融機関の取り組みについて事例研究する。 3. 次年度に向けて自分の関心を確立する。 			
授業方法と留意点	グループ学習を中心とする。テーマの設定、必要となる資料・参考文献の収集、学習した内容及びその考察に関する報告、プレゼンテーションといった一連の作業を経験することを通じて、基礎的な知識と方法論を身につける。			
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	グループ学習を行うに当たり、随時指示する。併せて、研究倫理教育を行う。			
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	出席、ゼミ参加の積極性、レポート、プレゼンテーションなどを総合的に勘案して決定する。			
学生へのメッセージ				
担当者の研究室等備考	1号館7階植杉研究室			

科目名	専門演習 I	科目名 (英文)	Seminar I
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	岸田 未来
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	企業経営のありかたは国によって異なるが、その違いを生み出す社会の制度的・文化的要因とは何であろうか。またその差異は、企業にとって競争優位を生み出しうるのか。これらの点を主に日本企業と欧米企業との比較検討を通じて考える。		
到達目標	基本的な文献を読解し、また自分で関連するテーマについての十分な情報収集を行うことができる。得られた知識を理論的な認識へと発展させる分析力を身に付け、それらを他人へと伝える効果的なプレゼンテーションやレポート作成を行うことができる。他人の意見を理解し、また自らの見解を説得力を持って展開させ、有効な議論を行うことができる。		
授業方法と留意点	文献や資料の輪読・検討を行う。工場見学や企業訪問を行う。後期の終りに一年間の学習内容をレポートとしてまとめる。		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<ol style="list-style-type: none"> 1. 企業経営のイメージを得るための基礎的な学習を行う。 2. 自分で選んだ対象企業について、資料を収集し、さまざまな角度から分析を行う。 3. 各自の学習成果を報告・検討する。 4. 研究倫理教育を行う。 		
関連科目			
教科書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
評価方法 (基準)	授業への参加状況 (発表、発言、調査への取り組みなど) で評価する。		
学生へのメッセージ			
担当者の研究室等	1号館7階 岸田准教授室		
備考			

科目名	専門演習 I	科目名 (英文)	Seminar I
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	田井 義人
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎演習内容を踏まえて地域経済分析の理解を深める。 ・地域における経済活性化の取り組みとして情報化、地域コミュニティ醸成の必要性及び地域保健医療の環境整備の必要性について考察する。 ・また、地域の特色を活かした地域振興や地域資源、施設の活用について視察や訪問によって学ぶ。 ・少子高齢化や社会保障の社会情勢への対応の視点から保健福祉医療関係等の施設見学や地域振興の視点から現地調査等についてもゼミ生が主体的に実施することを奨励する。 		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・授業概要・目的に述べた施設見学や現地調査の情報から専門演習Ⅱで研究する内容への理解を深めることを到達目標とする。 		
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎演習で理解を深めた近代経済学とマルクス経済学の考え方を踏まえ地域経済活性化の手段としての保健福祉医療関係や地域振興の役割について習得する。 ・また、これらの事業について視察や配布資料によって議論を行う。 		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<ul style="list-style-type: none"> ・地域経済活性化への保健福祉医療と地域振興等の重要性を考える。 ・中央集権的な経済構造によって高度成長期を経て、現在は地域を中心に経済が沈静化しつつある。 ・地域は地域振興の活性化や保健福祉医療事業の活性化によって事業展開がローカルからグローバル化することが可能であることを配布資料の輪読や議論によって学ぶ。 ・フィールドワークや日経ビジネス等の雑誌から現状の課題への対応策について、検証し、まとめ、プレゼンテーション等の手法により報告・議論する。 ・併せて、研究倫理教育を行う。 		
関連科目	基礎演習 専門演習Ⅱ 卒業研究		
教科書	番号	書籍名	著者名 出版社名
	1	ゼミ開始時及び適宜指定する。	
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名 出版社名
	1	ゼミ開始時及び適宜指定する。	
	2		
	3		
評価方法 (基準)	課題の発見・分担、資料収集・分析、レジュメ及びレポート作成・発表の達成度、討論・総括内容、課題へ取り組む姿勢を総合的に評価する。		
学生へのメッセージ	<ul style="list-style-type: none"> ・ゼミへの参加は、議論によって自らの考えをまとめ話す力を醸成します。醸成された知識を学生間で交換することでコミュニケーション能力が修得出来ます。 ・従ってゼミへの参加は、自らの成長と共に「就活力」の向上が望めます。 ・出席を重視します。 		
担当者の研究室等	1号館7階 田井准教授室 (経済学部)		
備考	地域の経済活動を支える保健福祉医療事業だけでなく地域振興の事業への関心を持ち、ゼミ生自ら地域の事業への調査を通じての研究・発表を期待する。		

科目名	専門演習 I	科目名 (英文)	Seminar I
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	野口 義直
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	ゼミのテーマ：環境問題と現代社会 21世紀は環境の世紀であり、企業の活動も資源・環境の制約や諸制度からは逃れられない。本ゼミでは、政府の環境政策、企業の環境戦略、産業再編の相互関係について分析し、日本経済についての認識を深める。			
到達目標	ゼミ活動を通じた自発的な学び、大学らしい学びがスタートする。 大学のゼミ活動、最終的には卒論執筆に必要となる、研究を遂行するための基礎的能力について学び、これが学士力、社会人基礎力と共通することを理解する。 「ビブリオ・バトル」(書評会)を適宜開催し、プレゼン能力の向上をはかる。			
授業方法と留意点	学生自身がテーマを決め、調査・研究・発表を行い、学士力を身につける。			
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	前期には、入門的なテキストを輪読して、レジュメ作成と発表の基本的な技術を習得する。 後期には、各自が興味のある研究テーマを決定し、情報収集とレポート発表をおこなう。 併せて、研究倫理教育を行う。			
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法(基準)	演習への参加状況(出席、レポート提出、発表など)			
学生へのメッセージ	大学時代はあっという間です。目標をもって努力し、自分の力を高めて下さい。			
担当者の研究室等	1号館7階 野口准教授室(経済学部)			
備考	ゼミ参加者は「地球環境経済」の講義に出席すること。			

科目名	専門演習 I	科目名 (英文)	Seminar I
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	野村 佳子
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	本演習では観光関連産業とさまざまな観光について研究を進めていくための基礎力を身につけることを目的とします。具体的にはサービス・マネジメントの理論研究とさまざまな観光の形について、文献研究を中心に進めていきますが、より理解を深めるために学外研修や視察なども行います。また、実務で必要とされる英語についても基礎力が身に付くよう工夫をしていきます。			
到達目標	次年度以降の研究の基礎として、サービス・マネジメントの理論を身につけ、新しい観光の形について理解を深めることを目標とします。			
授業方法と留意点	文献購読や事例研究の他、ゲストによるレクチャーや学外研修なども行いますので、マナーを守り、大学生としての自覚を持って授業に臨んでください。ゼミの運営においても、各自責任感を持って積極的に協力すること。			
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	観光関連産業を理解するためにサービス・マネジメントの理論を学び、その後、さまざまな観光の形についても研究を進めます。具体的には、文献による理論の研究とサービス産業の事例研究・学外研修等により授業を進めていきます。併せて、研究倫理教育を行います。			
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	サービス・マネジメント入門 第3版	近藤隆雄	生産性出版
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	レポート・課題提出、発表内容、参加態度等を総合的に評価します。			
学生へのメッセージ	さまざまなことに積極的に挑戦してください。失敗してもそこから学ぶことは多くあります。			
担当者の研究室等備考	1号館7階 野村准教授室 (経済学部)			

科目名	専門演習 I	科目名 (英文)	Seminar I
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	牧野 邦昭
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	3年次以降のゼミでの学習・研究に必要な「読解力」「要約力」「プレゼンテーション能力」「ディスカッション能力」を身につける。また知識としては交通問題を経済学的に分析する。			
到達目標	交通問題を経済学的に分析できるようになる。			
授業方法と留意点	前期では個人で、後期ではゼミ全体で一つのテーマについてまとめる。 また、必要に応じて時事問題について議論したり数理能力テストも行う。			
授業テーマ・内容、方法・事前、事後 学習課題	授業全体を通じて3年次以降で必要となる技術と知識を習得していく。輪読を中心とするが適宜見学に行くことも考慮している。併せて、研究倫理教育を行う。			
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	なぜタクシーは動かなくてもメーターが上がるのか	竹内健蔵	NTT 出版
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	発表内容及びそれを基にした質問や意見の表明の内容、議論への参加の態度などを総合的に評価する。無断欠席が多い場合単位が与えられない場合があるので注意すること。			
学生へのメッセージ				
担当者の研究室等	1号館7階 牧野准教授室 (経済学部)			
備考				

科目名	専門演習 I	科目名 (英文)	Seminar I
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	郭 進
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	本演習はプロ野球・オリックス野球クラブとの教育協定に基づく授業が行われる。今年度は『オリックス・バファローズから見た日本のプロ野球』という研究課題に取り組んでいる。		
到達目標	①学生が自分で経済問題を考え、分析する能力を身につける。②学生のプレゼンテーションの能力を高める。		
授業方法と留意点	パソコン室で基本的な統計手法を学びながら、フィールド調査やヒアリング調査も行う。		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	本演習では、オリックス・バファローズの球団職員を講師に招き、実体験を交えた野球ビジネスを解説いただくとともに、球団へのヒアリング調査を実施。そして、今後京セラドームでの球場調査も実施するなどして、プロ野球に関する情報の収集と分析を行う予定です。これらを通じて、プロ野球の問題点を経済学の視点から分析する能力を高めていきたい。さらに、研究成果を球団側の方にプレゼンテーションを実施する。併せて、研究倫理教育を行う。		
関連科目			
教科書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
評価方法 (基準)	課題の発見・分担、資料収集・分析、レジュメおよびレポート作成・発表の達成度、討論・総括内容、課題へ取り組む姿勢を総合的に評価する。		
学生へのメッセージ	フィールド調査に積極的に参加してほしい。		
担当者の研究室等	一号館7階 郭講師室		
備考			

科目名	専門演習 I	科目名 (英文)	Seminar I
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	田中 鮎夢
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	各自の研究の報告を行っていく。 同時に卒業研究に必要な知識・技術の習得を目指す。		
到達目標	記述統計、散布図、相関分析、回帰分析を行い、論文を作成できること。		
授業方法と留意点	受講生各位に報告を求める。		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後 学習課題	国際経済学等に関連するテーマについて、受講生各位が研究報告を行い、現状と課題を分析する。 併せて、研究倫理教育を行う。		
関連科目	統計学、計量経済学		
教科書	番号	書籍名	著者名
	1	講義中に適宜指示する。	
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1	講義中に適宜指示する。	
	2		
	3		
評価方法 (基準)	平常点 (受講態度等) に加えて、報告・課題によって、評価を行う。基準にみえない者には単位を与えない。		
学生へのメッセージ	欠席の際は、欠席届を提出すること。		
担当者の研究室等	1号館7階田中講師室		
備考	出席日数が不足する者は、単位取得の資格を失う場合がある。 他のゼミと連携して、学習する場合がある。		

科目名	専門演習 I	科目名 (英文)	Seminar I
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	西川 浩平
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	市場にはヒットする商品が存在する一方、全く売れない商品も存在する。この売れる商品と売れない商品の違いを分析するに当たり、経済学は貴重な知見を提供する。当ゼミの目的は、これまで蓄積されてきた経済学の知見を用いて、商品ヒットにつながった要因を分析することにある。		
到達目標	商品ヒットにつながった要因を分析するに当たり必要とされる、マイクロ経済学、計量経済学的能力を身につける。		
授業方法と留意点	ゼミ形式の少人数教育によって、課題の発見・分担、資料収集・分析、レジュメおよびレポートの作成・発表、討論・総括という学習スタイルを割り当てられた担当教員の指導のもとに修得する。		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	前期では、主に経済学、経営学で蓄積されてきた、新商品普及に関する文献を学習する。 後期は特定の市場データを用いて、売れる商品と売れない商品で何が異なっているのかを分析するため、エクセル等の表計算ソフトを用いたデータ処理の手法を学ぶ。 最終的に分析結果をまとめ、プレゼンテーションを行う。 併せて、研究倫理教育を行う。		
関連科目	マイクロ経済学、産業組織論、統計学		
教科書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
評価方法 (基準)	課題の発見・分担、資料収集・分析、レジュメおよびレポート作成・発表の達成度、討論・総括内容、課題へ取り組む姿勢を総合的に評価する。		
学生へのメッセージ			
担当者の研究室等	1号館7階 西川講師室		
備考			

科目名	専門演習 I	科目名 (英文)	Seminar I
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	名方 佳寿子
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	この授業では4つのことを目標とする。第1に経済政策に関するテキストを輪読し、学生にPower Pointを用いて発表してもらい、文章をまとめる能力とプレゼン能力をつけてもらう。第2に、SPI対策として練習問題を行う。第3に、新聞記事で取り上げられているテーマについて学生同士で議論してもらい、ディスカッション能力をつけてもらう。第4に、データの分析の仕方、グラフの作成の仕方について学ぶ。																		
到達目標	Powerpointを使ったプレゼン能力、ディスカッション能力、パソコンを使ったデータ分析の能力を身につけてもらう。																		
授業方法と留意点	基本的には学生によるプレゼン、ディスカッション、データ分析をメインに行います。学生同士での結束を高めるために、できるだけグループでの活動を行います。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後 学習課題	<p>前期</p> <p>1. 新聞記事を読んで日本でおきている経済に関する問題点を調べてもらいます。学生にはグループでPowerPointを使って発表してもらい、プレゼン能力を身につけてもらいます。</p> <p>2. また身近でおきているテーマを取り上げグループでディスカッションをします。これによって社会人に必要な考える能力・Discussion能力を身につけてもらいます。</p> <p>後期：データ分析の仕方を学びます。具体的にはパソコン室でExcelを使い、データの分布やデータ間の関係性について学習します。これによりデータ分析能力とExcelのスキルを身につけてもらいます。</p> <p>併せて、研究倫理教育を行います。</p>																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法 (基準)	プレゼン (30%)、ディスカッション (20%)、データ分析 (50%) で総合評価する。																		
学生へのメッセージ																			
担当者の研究室等備考	1号館7階 名方講師室																		

科目名	専門演習Ⅱ（インターンシップ）	科目名（英文）	Internship Activities
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	4	履修区分	選択必修科目
学期	通年	授業担当者	持永 政人
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	就業体験と前後の業界・企業研究を通して、観光および地域における諸課題を実践的に探り、理解する。さらにその過程で社会人基礎力、就業力の強化も目的とする。		
到達目標	4週間以上の就業体験とそれに基づいた業界・企業に関するレポート作成・発表ができる。		
授業方法と留意点	8月から9月にかけて観光関連企業、地方自治体等へ長期就業体験を実施。その後就業体験で得た課題や解決策についてのレポートを作成し、発表する。		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	就業体験に必要な一般常識を習得するため、企業人によるレクチャーや企業訪問、マナー講座等を行った後就業体験を実施する。レポートについては必要に応じ派遣先企業へフィードバックする。併せて、研究倫理教育を行う。		
関連科目			
教科書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
評価方法（基準）	レポート、ゼミ活動への参加態度、インターンシップ先からのフィードバック等を総合的に評価する。		
学生へのメッセージ			
担当者の研究室等	1号館7階 持永教授室（経済学部）		
備考			

科目名	専門演習Ⅱ（インターンシップ）	科目名（英文）	Internship Activities
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	4	履修区分	選択必修科目
学期	通年	授業担当者	野村 佳子
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	インターンシップ実習の他、派遣前教育・派遣後教育を行います。派遣前教育としては、社会人として必要な常識やマナーを身につけるほか、実習先の業界・企業の研究を行います。夏期の約1ヶ月の実習期間中は、設定した課題に対して、自分なりの解決法を見つけることを念頭に就業体験を行います。実習終了後は実習内容と問題意識などをまとめ、成果をプレゼンテーションします。また専門演習Ⅰおよびインターンシップ実習で学んだことを卒業研究につなげていくように指導します。																		
到達目標	インターンシップ実習を通して観光経済・地域経済に関する各人の課題に対する考えをまとめること、そして、社会人として求められるマナーや能力を身につけることを目標とします。																		
授業方法と留意点	インターンシップ実習を充実したものにするため、必要に応じて実習先のゲストによるレクチャーなども取り入れていきます。社会人として求められる常識やマナーを身につけると同時に、ゼミ運営にも積極的に協力してください。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	インターンシップ派遣前教育・実習・派遣後教育を行います。特に前期の派遣前教育は実際に企業で実習を行うために必要なことを学びますので、授業で学んだことはしっかり復習して確実に身につけるようにしてください。併せて、研究倫理教育を行います。																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法（基準）	レポート・課題提出、発表内容、参加態度、インターンシップ実習先からの評価・フィードバック等を総合的に評価します。																		
学生へのメッセージ	取り組む姿勢の違いによって、身につくことも違ってきます。一つでも多くのことを学ぶ、という貪欲な姿勢で、積極的に授業に参加し、実習にも取り組んでください。																		
担当者の研究室等備考	1号館7階 野村准教授室（経済学部）																		

科目名	専門演習Ⅱ（上級ゼミ）	科目名（英文）	Seminar II (Advanced Course)
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	4	履修区分	選択必修科目
学期	通年	授業担当者	浅羽 良昌
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	観光立国を目指して出発した日本ですが、前途多難な日々が続いています。本演習では、観光庁の提示している「宿泊旅行調査報告」のデータ等を分析しながら、都道府県別で一番多く旅行者を受け入れているところはどこか、少ないところはどこか、外国人旅行者を最も多く受け入れているところはどこか、少ないところはどこか、これら日本観光に関わることについて調査・研究をおこないます。さらに近畿地方における主要都市別の受け入れ旅行者数の比較についても検討します。																
到達目標	提示した資料等を各自が理解・分析出来るようになり、判断能力が高まることを目標とする。																
授業方法と留意点	まずはテキストを輪読することからはじめます。日本観光の基礎的素養を身につけた後、各自がそれぞれ卒論のテーマを見つけ、そのテーマにそって資料を集め、調査・分析をおこないます。その成果を報告・発表し、議論を進めながら、さらに密度の濃い内容に仕上げていきます。学年末にはレポート（卒論の一部）を提出してもらいます。																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	1 日本観光に関する都道府県別比較 2 近畿地方の主要都市別比較 テキストの事前・予習は必要不可欠です。 併せて、研究倫理教育を行います。																
関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>地域観光戦略</td> <td>額賀信</td> <td>B&T ブックス</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	地域観光戦略	額賀信	B&T ブックス	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1	地域観光戦略	額賀信	B&T ブックス														
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>観光白書</td> <td>観光庁</td> <td>株式会社 コミュニカ</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	観光白書	観光庁	株式会社 コミュニカ	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1	観光白書	観光庁	株式会社 コミュニカ														
2																	
3																	
評価方法（基準）	レポート（卒論の一部）の内容、報告内容、授業態度の3点を総合的に評価します。																
学生へのメッセージ																	
担当者の研究室等																	
備考	積極的にゼミに参加することを臨みます。																

科目名	専門演習Ⅱ（上級ゼミ）	科目名（英文）	Seminar II (Advanced Course)
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	4	履修区分	選択必修科目
学期	通年	授業担当者	久保 廣正
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	国際経済学に関する文献を輪読する。そのうえで、わが国の産業、サービス業、とりわけ観光業がどのように国際展開を図ろうとしているのか、国際社会にどのように日本をアピールしようとしているのかについて情報収集し、分析を行う。		
到達目標	観光業の未来を考える上で必要な学力を身に付けることを到達目標とする。		
授業方法と留意点	文献を輪読した後、最近の観光業に関する論文、雑誌、さらには観光業に属する各社のHPなどにより情報収集を行う。また、こうした情報に基づき、経済学・経営学的手法を用いて、わが国観光業の将来について考える。常に、業界の動向について興味を持ち、情報収集に心がけてもらいたい。		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	わが国観光業の将来をテーマとする。本演習中には、国際経済学・経営学の基礎理論を学び、得られた情報について分析を行い、わが国観光業の将来を考える。演習中に事前事後の学習課題を提示する。併せて、研究倫理教育を行う。		
関連科目			
教科書	番号	書籍名	著者名
	1	演習中に指示する。	
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
評価方法（基準）	本演習に取り組む姿勢、さらには分析結果について評価する。		
学生へのメッセージ			
担当者の研究室等備考			

科目名	専門演習Ⅱ（上級ゼミ）	科目名（英文）	Seminar II (Advanced Course)
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	4	履修区分	選択必修科目
学期	通年	授業担当者	朴 景淑
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	上級研究のための基礎知識と研究レポートの作成・ディスカッション・プレゼンのための基礎を習得させる。 また、卒業研究のための文献サーベイ、アンケート調査法、実地調査、データの収集・分析などの演習をする。			
到達目標	卒研作成のための調査方法および調査スキルを理解し、3年生の最後までは「卒業研究計画書」が作成できること			
授業方法と留意点	①必ず授業へ参加し、またディスカッションに参加すること ②本授業は講義タイプではなく、学生参加方のゼミですので積極的に参加すること			
授業テーマ・内容、方法・事前、事後 学習課題	毎週のテーマに合わせて、レポート・演習・発表準備などを告知する併せて、研究倫理教育を行う。			
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法（基準）	テストは無し 毎回のゼミ参加・演習・レポート・発表等を総合的に評価する。			
学生へのメッセージ				
担当者の研究室等	1号館7階 岸田准教授室			
備考	積極さが必要			

科目名	専門演習Ⅱ（上級ゼミ）	科目名（英文）	Seminar II (Advanced Course)
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	4	履修区分	選択必修科目
学期	通年	授業担当者	平野 泰明
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	これまで日本経済がどのように成長していったか、そして、これからはどのように発展してゆくのか。こうした疑問を解き明かすため、労使関係、企業間関係、金融、国際関係における様々な制度の役割を踏まえて現状を分析し、答えを見つけてゆく。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> ゼミでの集団学習を通じて、聴く力、伝える力、まとめる力をつける。 課題研究を通じて、課題発見力、情報収集力、論理的思考力をつける。 4年次の卒業研究に向けての準備をする。 		
授業方法と留意点	前半は、比較的広いテーマをいくつかのグループに分かれて、多面的に調査・研究する。その間、中間報告を何度か行い、最終的にレポートにまとめます。 後半は、前半期の学習をもとに、各自の研究テーマを暫定的であっても確定し、それに関する個人または個別グループごとの中間報告を定期的に行います。		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<ol style="list-style-type: none"> 前半の研究テーマは、原則的には、教員が用意したもの（例えば、スポーツビジネスの課題とその解決策、和食の産業的展開、日本のコンテンツ産業の特徴、観光産業振興の方策など）の中から選びます。特に、自発的に取り組みたいテーマがあれば、教員との話し合いにより、そのテーマの選択も可とします。 後半は、各人が卒業研究につながるテーマを選び、それを調べ、その成果を報告・討論しながら、研究を進めていきます。 併せて研究倫理教育を行います。 		
関連科目			
教科書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
評価方法（基準）	事前学習の度合い、個人学習の成果（プレゼンテーション、レジュメのまとめ方など）、集団学習への貢献度（質問、提案、議論のまとめなど）をもとに総合的に評価します。 なお、出席日数が不足する者は、単位取得の資格を失う場合がある。		
学生へのメッセージ			
担当者の研究室等			
備考			

科目名	専門演習Ⅱ（上級ゼミ）	科目名（英文）	Seminar II (Advanced Course)
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	4	履修区分	選択必修科目
学期	通年	授業担当者	蛭川 雅之
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	「興味のある話題や疑問に関してデータを収集し、統計学・計量経済学的手法を応用してその疑問に自分なりの答えを出す」ことをテーマにしています。疑問は広く経済学・ファイナンスに関連のあることであれば何でも構いません（地域・観光・国際経済に直接関連するものであればなお結構です）。		
到達目標	専門演習Ⅰで学んだ知識を回帰分析および実際のデータを用いた実証分析に応用できる水準に高めることを目標とします。		
授業方法と留意点	レジュメおよびレポートの作成・発表、討論・総括という学習スタイルをとります。授業中は積極的に発言するよう心がけてください。		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後 学習課題	計量経済学の初歩として回帰分析を中心に学習します。また、様々な分野での実証分析をテーマとする論文を討議し、計量分析の手法が実際のデータ分析にどのように応用されているのかを理解します。さらに、卒業研究のテーマ選びを本格化させ、必要なデータの入手方法など研究方法の詳細をつめるよう指導していく予定です。併せて、研究倫理教育を行います。		
関連科目			
教科書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
評価方法（基準）	課題の発見・分担、資料収集・分析、レジュメおよびレポート作成・発表の達成度、討論・総括内容、課題へ取り組む姿勢を総合的に評価します。		
学生へのメッセージ	何事にも前向きな姿勢を持ち続けてください。		
担当者の研究室等	1号館7階 蛭川教授室（経済学部）		
備考			

科目名	専門演習Ⅱ（上級ゼミ）	科目名（英文）	Seminar II (Advanced Course)
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	4	履修区分	選択必修科目
学期	通年	授業担当者	牧野 邦昭
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	専門的な知識を身につけるとともに、時事問題への関心、社会人として必要な基礎的能力を身に付けてもらう。		
到達目標	今年は特に交通問題について歴史・経済学の両面から理解を深める。		
授業方法と留意点	グループによる発表・議論に慣れてもらう。また時事問題や計算問題などに触れることで就職への対策も行う。		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	交通問題を経済学および歴史の面からテキストの輪読・見学によって学ぶ。グループ発表およびレポート提出をしてもらう。発表者以外の人にも必ず何か質問してもらう。併せて、研究倫理教育を行う。		
関連科目			
教科書	番号	書籍名	著者名
	1	定刻発車	三戸祐子
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
評価方法（基準）	発表内容及びそれを基にした質問や意見の表明の内容、議論への参加の態度などを総合的に評価する。無断欠席が多い場合単位が与えられない場合がある。		
学生へのメッセージ			
担当者の研究室等	1号館7階 牧野准教授室（経済学部）		
備考			

科目名	専門演習Ⅱ（上級ゼミ）	科目名（英文）	Seminar II (Advanced Course)
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	4	履修区分	選択必修科目
学期	通年	授業担当者	郭 進
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	本演習は、計量経済学的手法を用いて、実際の経済現象を観察し分析する力を養うことを目的とする。			
到達目標	演習では、経済理論（マクロ・ミクロ）の基礎知識を学習すると同時に、経済データの収集方法や処理方法などについても勉強する。さらに、地域経済や観光経済の実証分析を挑戦する。			
授業方法と留意点	統計学のテキストを定めて、統計学の理論を勉強すると同時に、コンピュータによる経済データの収集方法と処理方法についても学習する。さらに、ゼミ生が自ら興味を持つ課題を選び、プレゼンテーションを行う。			
授業テーマ・内容、方法・事前、事後 学習課題	2年次で学んだマクロ経済学とミクロ経済学の基礎理論をより深く理解するために、現実のデータを用いた実証分析を行う。そのために、統計学や計量経済学の基礎を学んだ上で、コンピュータによる実習を行う。特に、産業連関分析や回帰分析などの分析手法を用いて地域経済・観光経済における経済現象を計量化して分析する。併せて、研究倫理教育を行う。			
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法（基準）	課題の発見・分担、資料収集・分析、レジュメおよびレポート作成・発表の達成度、討論・総括内容、課題へ取り組む姿勢を総合的に評価する。			
学生へのメッセージ				
担当者の研究室等				
備考				

科目名	専門演習Ⅱ（上級ゼミ）	科目名（英文）	Seminar II (Advanced Course)
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	4	履修区分	選択必修科目
学期	通年	授業担当者	田中 鮎夢
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	各自の研究の報告を行っていく。 同時に卒業研究に必要な知識・技術の習得を目指す。		
到達目標	記述統計、散布図、相関分析、回帰分析を行い、論文を作成できること。		
授業方法と留意点	受講生各位に報告を求める。		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後 学習課題	国際経済学等に関連するテーマについて、受講生各位が研究報告を行い、現状と課題を分析する。 併せて、研究倫理教育を行う。		
関連科目	統計学、計量経済学		
教科書	番号	書籍名	著者名
	1	講義中に適宜指示する。	
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1	講義中に適宜指示する。	
	2		
	3		
評価方法 (基準)	平常点（受講態度等）に加えて、報告・課題によって、評価を行う。基準にみえない者には単位を与えない。		
学生への メッセージ	欠席の際は、欠席届を提出すること。		
担当者の 研究室等	1号館7階田中講師室		
備考	出席日数が不足する者は、単位取得の資格を失う場合がある。 他のゼミと連携して、学習する場合がある。		

科目名	専門演習Ⅱ（上級ゼミ）	科目名（英文）	Seminar II (Advanced Course)
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	4	履修区分	選択必修科目
学期	通年	授業担当者	名方 佳寿子
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	この授業では2つのことを目標とする。第1に前期においては学生をテーマごとにグループに分け論文を書いてもらう。後期にはそれを参考に自分の卒業論文のテーマを選び準備をしてもらう。第2に就職活動の準備をおこない、3年の後期から始まる就職活動に備えてもらう。		
到達目標	前期はグループで論文を作成する能力を身につけてもらう。後期には就職活動の万全な準備と卒業テーマの決定を目標とする。		
授業方法と留意点	学生同士での結束を高めるために、できるだけグループでの活動を行います。		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	授業は2つの内容から構成される。前期においてはまず学生をテーマごとにグループに分け、各グループで論文を書いてもらう。後期においては、前期の論文作成をもとに卒業論文のテーマを選び、大まかな流れ、筋道をみつけ4年の卒業論文の作成につなげてもらう。就職活動に関しては自己分析・面接の練習を授業の中で行い、論理的な思考・発表能力を身につけてもらう。その他に学生によるスピーチ、SPIの試験問題の勉強も行う。併せて、研究倫理教育を行う。		
関連科目			
教科書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
評価方法（基準）	前期のグループでの論文の内容（50%）と後期の卒業論文への準備（50%）で総合評価する。		
学生へのメッセージ			
担当者の研究室等			
備考			

科目名	専門演習Ⅱ（フィールド調査）	科目名（英文）	Seminar II (Field Research)
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	4	履修区分	選択必修科目
学期	通年	授業担当者	八木 紀一郎
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	<p>*都市と地方という対照的な場で、地域政策と観光政策がどのような可能性をもつかをフィールド調査によって学ぶ。 *クラスでは、下記教科書を輪読し、日本人のほんの昨日までの生活の仕方について知識を得る。 *到達目標は、地域経済・観光経済について自主的に探求・企画・行動する力を身につけることである。</p>		
到達目標	<p>テキストによって日本で観光経済および地域経済を学ぶ際に必須の、過去から現在に至る日本人の暮らしぶり生き方についての知識を得る。 フィールド調査を実行し、それによって得た結果をまとめ発表する能力を身につける。</p>		
授業方法と留意点	<p>*クラスでの教科書輪読、参加者のプレゼンテーションと討論、学外でのフィールド調査。 *フィールド調査はグループでの実施を推奨する。</p>		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後 学習課題	<p>*年度はじめ：フィールド調査のテーマをたてて、教員と討論し、調査計画をたてる。 *5-7月：フィールドを予備調査 *夏休み：フィールドの本格調査、地方でのゼミ合宿 *10-11月：商店街フィールド調査への参加、個人別のフィールド調査結果の発表、レポート執筆開始 *12-1月：レポートの発表および提出（卒業研究に結びつくものになるか） *併せて、研究倫理教育を行う。</p>		
関連科目			
教科書	番号	書籍名	著者名
	1	『明治大正史世相篇』	柳田國男
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
評価方法（基準）	教科書輪読の分担を含む演習での発表（30%）、ゼミでの協働したフィールド調査への参加（30%）、個人レポート（40%）		
学生へのメッセージ	観光経済や地域経済の授業もしっかりとって、その領域での専門性を身につけてください。		
担当者の研究室等	1号館7F		
備考	学年のはじめに、学習・研究上の倫理・誠実性を確認し、その基準を学習してもらいます。		

科目名	専門演習Ⅱ（フィールド調査）	科目名（英文）	Seminar II（Field Research）
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	4	履修区分	選択必修科目
学期	通年	授業担当者	内田 勝巳
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	適切な文献を探し、輪読する。フィールド調査を実施し報告書を完成させる。フィールド調査を通じて卒業論文の執筆に必要なデータや情報収集を行い卒業論文の執筆準備を行うことを目的とする。		
到達目標	文献購読や現地調査ができるようになる。自ら設定したテーマの調査分析及び論文執筆作法を身につけることを到達目標とする。		
授業方法と留意点	文献サーベイ及びフィールド調査によるファインディングをフィールド調査報告書（卒業論文ドラフト）として取りまとめ、プレゼンテーションと討論を行う。討論に参加しない学生及び調査報告書が完成しなかった学生の評価は低くなるので留意する必要がある。		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	4月：基本的な文献の購読 5-7月：各自の卒論テーマの設定と、文献サーベイ及びフィールド予備調査 8-9月：フィールド調査の実施 10-11月：フィールド調査結果に基づきフィールド調査報告書の執筆開始 12-1月：フィールド調査報告書の提出とプレゼンテーション併せて、研究倫理教育を行う。		
関連科目			
教科書	番号	書籍名	著者名
	1	文化政策の経済学	D. スロスビー
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
評価方法（基準）	受講態度（30%）、フィールド調査報告書（50%）、プレゼンテーション（20%） ゼミ対抗プレゼン大会出席者を高く評価する		
学生へのメッセージ	フィールド調査等、必要に応じて、ゼミ以外の時間帯にも個別／グループ指導を行います。 シラバスの内容は、学生の理解度やニーズに応じて変更することがあります。		
担当者の研究室等	1号館7階 後藤教授室（経済学部）		
備考	必要な文献は、適宜指示します。		

科目名	専門演習Ⅱ（フィールド調査）	科目名（英文）	Seminar II（Field Research）
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	4	履修区分	選択必修科目
学期	通年	授業担当者	後藤 和子
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	適切な文献を探し、輪読する。フィールド調査を実施し報告書を完成させる。フィールド調査を通じて卒業論文の執筆に必要なデータや情報収集を行い卒業論文の執筆準備を行うことを目的とする。		
到達目標	文献購読や現地調査ができるようになる。自ら設定したテーマの調査分析及び論文執筆作法を身につけることを到達目標とする。		
授業方法と留意点	文献サーベイ及びフィールド調査によるファインディングをフィールド調査報告書（卒業論文ドラフト）として取りまとめ、プレゼンテーションと討論を行う。討論に参加しない学生及び調査報告書が完成しなかった学生の評価は低くなるので留意する必要がある。		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	4月：基本的な文献の購読 5-7月：各自の卒論テーマの設定と、文献サーベイ及びフィールド予備調査 8-9月：フィールド調査の実施 10-11月：フィールド調査結果に基づきフィールド調査報告書の執筆開始 12-1月：フィールド調査報告書の提出とプレゼンテーション併せて、研究倫理教育を行う。		
関連科目			
教科書	番号	書籍名	著者名
	1	文化政策の経済学	D. スロスビー
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
評価方法（基準）	受講態度（30%）、フィールド調査報告書（50%）、プレゼンテーション（20%） ゼミ対抗プレゼン大会出席者を高く評価する		
学生へのメッセージ	フィールド調査等、必要に応じて、ゼミ以外の時間帯にも個別／グループ指導を行います。 シラバスの内容は、学生の理解度やニーズに応じて変更することがあります。		
担当者の研究室等	1号館7階 後藤教授室（経済学部）		
備考	必要な文献は、適宜指示します。		

科目名	専門演習Ⅱ（フィールド調査）	科目名（英文）	SeminarⅡ（Field Research）
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	4	履修区分	選択必修科目
学期	通年	授業担当者	植杉 大
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	地域経済を円滑に運営するために地域金融機関に求められる役割とは何か、地域の利便性・収益性等が地域不動産価格にどのように反映されるかなど、地域の発展にはこれらを総合的に勘案する思考が必要である。本専門演習では、これらを分析するために必要な知識について、グループ学習及びフィールド調査等を通じて学習する。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 前年度に確立された自分の研究テーマを深化させる。 2. フィールド調査を通じて、地域経済の問題点を考察し、自分なりの認識を持つ。 3. 次年度の卒業研究論文作成に向けて、必要な分析の方法を学習する。 			
授業方法と留意点	グループ学習を中心とする。テーマの設定、必要となる資料・参考文献の収集、学習した内容及びその考察に関する報告、それらに基づいたフィールド調査の企画・実行、グループ内での議論、プレゼンテーション作成といった一連の作業を行う。			
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	グループ学習を行うに当たり、随時指示する。併せて、研究倫理教育を行う。			
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法（基準）	出席、ゼミ参加の積極性、レポート、プレゼンテーションなどを総合的に勘案して決定する。			
学生へのメッセージ				
担当者の研究室等備考	1号館7階植杉研究室			

科目名	専門演習Ⅱ（フィールド調査）	科目名（英文）	Seminar II（Field Research）
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	4	履修区分	選択必修科目
学期	通年	授業担当者	岸田 未来
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	<p>テーマ 企業経営の国際比較</p> <p>企業経営のありかたは国によって異なるが、その違いを生み出す社会の制度的・文化的要因とは何であろうか。またその差異は、企業にとって競争優位を生み出しうるのか。これらの点を主に日本企業と欧米企業との比較検討を通じて考える。</p>																		
到達目標	<p>基本的な文献を読解し、また自分で関連するテーマについての十分な情報収集を行うことができる。フィールドワークを行うに当たっての企画や準備、またインタビュー調査などを自らおこなうことができる。得られた知識を理論的な認識へと発展させる分析力を身につけ、それらを他人へと伝える効果的なプレゼンテーションやレポート作成を行うことができる。他人の意見を理解し、また自らの見解を説得力を持って展開させ、有効な議論を行うことができる。</p>																		
授業方法と留意点	<p>自分の関心がある特定の国・地域の企業を取り上げるか、経営の比較を行う分野を設定し、レポートを作成する。可能な形でフィールド調査を行う。</p> <p>個人あるいはグループで、作成したレポートを発表・報告する。</p>																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<ol style="list-style-type: none"> 1. 経営の国際比較に関する文献を検討する。 2. フィールド調査の計画・準備・実行・事後調査を行う。 3. 各自の学習成果を報告・検討する。 <p>併せて、研究倫理教育を行う。</p>																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法（基準）	<p>授業への参加状況（発表、発言、調査への取り組みなど）で評価する。</p>																		
学生へのメッセージ																			
担当者の研究室等	<p>1号館7階 岸田准教授室</p>																		
備考																			

科目名	専門演習Ⅱ（フィールド調査）	科目名（英文）	Seminar II（Field Research）
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	4	履修区分	選択必修科目
学期	通年	授業担当者	田井 義人
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	<ul style="list-style-type: none"> ・専門演習Ⅰの内容を踏まえて地域経済分析の理解を深める。 ・地域経済における地域保健福祉医療だけでなく地域振興の活性化についても考察する。 ・それら通じて、卒業論文をまとめるための文章力の養成を行う。 ・また教科書及び資料によってアイデア創出のスキルを醸成する。 																
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・長期化する就職活動にも対応するコミュニケーション力向上と学生相互が議論できる課題と環境を構築して学生が、自立した意見表明が出来ること及び卒業研究に繋げる表現力・文章作成力の修得を到達目標とする。 																
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・専門演習Ⅰで理解を深めた経済学的視点を踏まえ地域経済活性化の手段としての施策について考察する。 ・教科書・参考資料の輪読を行う。さらに課題認識と課題対策の具体化を支援するフィールドワークからの考察、演習・発表を中心に行う。 ・前半は学生が選択した冊子を輪読し、分担した内容について意見表明による議論を行い、自立した意見発表の演習を行う。 ・演習後半には、4年次に本格化する就職活動に向けて、学生個々の進路に合わせた課題演習も実施していきたい。 																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>地域経済活性化策について考察する。フィールドワークを実施する目的と課題に対して事前に学習し、レジュメ作成またはプレゼンテーション資料を作成し、まとめ方を演習する。卒業論文のテーマに関わるフィールドワークをゼミ生に提案させ実施する。併せて、研究倫理教育を行う。</p>																
関連科目	<p>基礎演習 専門演習Ⅰ 卒業研究</p>																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>ゼミ開始時及び適宜指定する。</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	ゼミ開始時及び適宜指定する。			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1	ゼミ開始時及び適宜指定する。																
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>ゼミ開始時及び適宜指定する。</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	ゼミ開始時及び適宜指定する。			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1	ゼミ開始時及び適宜指定する。																
2																	
3																	
評価方法（基準）	<p>課題の発見・分担、資料収集・分析、レジュメ及びレポート作成・発表の達成度、討論・総括内容、課題へ取り組み姿勢を総合的に評価する。</p>																
学生へのメッセージ	<ul style="list-style-type: none"> ・ゼミへの参加によって議論に慣れ、社会に役立つ知識と知恵を修得することができる。 ・大学生時代しかこのような体験はできないので、時間を有意義に活用する習慣を修得して欲しい。 ・出席、議論参加を重視します。 																
担当者の研究室等	<p>1号館7階 田井准教授室（経済学部）</p>																
備考	<p>学生の積極的な参加意欲によるゼミ参加を奨励する。無断欠席は、厳重に対処する。</p>																

科目名	専門演習Ⅱ（フィールド調査）	科目名（英文）	Seminar II (Field Research)
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	4	履修区分	選択必修科目
学期	通年	授業担当者	野口 義直
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	<p>テーマ 環境問題と産業・企業 さまざまな環境問題への対応を迫られる産業・企業の実態について研究する。</p>			
到達目標	<p>研究・調査・発表についての基礎的な能力を高める。</p>			
授業方法と留意点	<p>関心がある環境問題と産業・企業の関わりについてテーマ設定し、調査レポートを作成する。 個人あるいは集団で、作成したレポートを発表・報告する。</p>			
授業テーマ・内容、方法・事前、事後 学習課題	<p>各自の問題意識による調査・研究を軸とする。 前期は、グループごとにテーマを設定し、調査・研究を行う。 後期は、卒業論文を意識し、個人ごとにテーマを設定して、調査・研究を行う。 併せて、研究倫理教育を行う。</p>			
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法（基準）	<p>授業への参加状況（発表、発言、調査への取り組みなど）で評価する。</p>			
学生へのメッセージ	<p>卒業論文の作成を意識し、テーマを選択するために、アンテナをはっておきましょう。</p>			
担当者の研究室等	<p>1号館7階 野口准教授室（経済学部）</p>			
備考				

科目名	専門演習Ⅱ（フィールド調査）	科目名（英文）	Seminar II（Field Research）
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	4	履修区分	選択必修科目
学期	通年	授業担当者	西川 浩平
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	観光産業は近年注目を集めている分野であるが、その制度・政策の妥当性・有効性について、経済学的な観点から十分に検討されているとはいえない。本ゼミの目的は、観光産業を含む経済政策全般を対象に、各産業における制度・政策を評価する手法を学び、その効果を定量的に示す能力を養うことにある。			
到達目標	産業における政策の効果を分析するに当たり必要とされる、ミクロ経済学、計量経済学の能力を身につける。			
授業方法と留意点	ゼミ形式の少数教育によって、課題の発見・分担、資料収集・分析、レジュメおよびレポートの作成・発表、討論・総括という学習スタイルを割り当てられた担当教員の指導のもとに修得する。			
授業テーマ・内容、方法・事前、事後 学習課題	観光政策を含む経済政策全般について、関心のある対象を各自が選定し、その産業特性等を調査する。この調査を踏まえ、仮説を立て、費用対効果分析や計量経済学の基本的な手法を用いて、仮説の妥当性を検証し、その成果を個人単位で発表する。仮説の提示、分析データの収集の過程で、必要に応じて企業へのインタビュー、アンケート調査等を実施する。 併せて、研究倫理教育を行う。			
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法（基準）	課題の発見、資料収集、分析、レジュメおよびレポート作成・発表の達成度、討論・総括内容、課題へ取り組む姿勢を総合的に評価する。			
学生へのメッセージ				
担当者の研究室等				
備考				

科目名	卒業研究	科目名 (英文)	Graduation Research
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	蛭川 雅之
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	専門演習Ⅰ・Ⅱ等で得た知識を活用して卒業研究を行い、成果を論文の形にまとめます。研究テーマは広く経済学・ファイナンスに関連のあることであれば何でも構いません(地域・観光・国際経済に直接関連するのであればなお結構です)。研究の進度に応じて、プロポーザル発表、中間発表などを随時実施する予定です。			
到達目標	専門演習Ⅰ・Ⅱでの学修成果を踏まえ、各自が設定した課題について調査・研究を進め、卒業論文として完成させることを最終目標とします。			
授業方法と留意点	授業の中で指示します。			
授業テーマ・内容、方法・事前、事後 学習課題	教員の指示に従ってください。			
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	調査・研究へ取り組む態度、卒業論文の内容等を総合的に評価します。			
学生への メッセージ	数字を使って物事を説明し、文章を書く訓練は社会に出てからきつと役に立つはずですが、わからないことは遠慮なく聞いてください。			
担当者の 研究室等	1号館7階 蛭川教授室(経済学部)			
備考				

科目名	卒業研究	科目名 (英文)	Graduation Research
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	名方 佳寿子
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	前期においては卒業論文の先行研究の読解、問題意識、現状分析についてプレゼン・文章の作成をしてもらいます。後期にはデータを集めて回帰分析をもらい、卒業研究を作成してもらいます。		
到達目標	現実の問題からテーマを見つける能力、情報収集能力、情報から仮説を構築し、データ分析で検証する能力を身につけてもらう。		
授業方法と留意点	就職活動で忙しいと思いますが、学生への出欠管理は厳格に行い、欠席の多い学生にはレポートなどのペナルティーをかせます。		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	前期においては卒業論文の先行研究を数本読んでもらい、学生にPowerpointを用いて発表してもらう。その先行研究をもとに自分が具体的にどのような内容について研究するのかも発表してもらう。後期には自分の選んだテーマについて必要なデータを探してもらい回帰分析を行ってもらう。その分析結果をもとに卒業論文を書いてもらう。また随時学生同士就職活動の状態について相談し、いいフィードバックをお互い得られるように取り計らう。		
関連科目			
教科書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
評価方法 (基準)	普段の授業態度 (出席、発言)、プレゼンの内容、回帰分析、卒業論文の内容から総合的に評価します。		
学生へのメッセージ			
担当者の研究室等			
備考			

科目名	卒業研究	科目名 (英文)	Graduation Research
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	岸田 未来
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	<p>テーマ 企業経営の国際比較</p> <p>企業経営のありかたは国によって異なるが、その違いを生み出す社会の制度的・文化的要因とは何であろうか。またその差異は、企業にとって競争優位を生み出しうるのか。これらの点を主に日本企業と欧米企業との比較検討を通じて考える。</p>																		
到達目標	<p>卒業論文のテーマとして有効な研究課題を設定できる。卒業論文作成に必要な文献を読解し、また自分で関連するテーマについての十分な情報収集を行うことができる。得られた知識を理論的な認識へと発展させる分析力を身に付け、それらを卒業論文としてまとめることができる。</p>																		
授業方法と留意点	<p>これまでのフィールド調査を踏まえて、卒業論文作成に向けて各自でテーマを設定し、資料収集や文献調査を行う。必要に応じて補足的なフィールド調査を行う。</p> <p>個人あるいは集団で卒業論文を作成し、発表する。</p>																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<ol style="list-style-type: none"> 1. 卒業論文に関連する文献を検討する。 2. 補足的なフィールド調査を行う。 3. 各自の卒業論文の内容を報告・検討する。 																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法 (基準)	<p>授業への参加状況 (発表、発言、調査への取り組みなど) で評価する</p>																		
学生へのメッセージ																			
担当者の研究室等備考	<p>1号館7階 岸田准教授室</p>																		

科目名	卒業研究	科目名 (英文)	Graduation Research
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	野口 義直
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	各人が選んだテーマに沿って、問題設定、論理展開（仮説、検証を含む）、結論からなる論文を書き上げることを到達目標とする。		
到達目標	卒論執筆を通して、課題発見、課題解決能力を高めることを目的とする。		
授業方法と留意点	各人あるいは各グループの中間報告を何度も行い、継続的な研究態度を身につける。 各人ごとの研究テーマが異なるので、テーマに応じた個別指導を行う。		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	各人が自ら選んだ研究テーマをもとに、学生と教員が相談・検討しながら授業計画を立てる。		
関連科目			
教科書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
評価方法 (基準)	演習への参加姿勢、準備状況、報告論文の完成度等を勘案して評価する。		
学生へのメッセージ	卒業論文は学生時代の自分の作品です。自分が真剣に取り組めるテーマを発見し、意欲的に取り組んで下さい。		
担当者の研究室等	1号館7階 野口准教授室（経済学部）		
備考			

科目名	卒業研究	科目名 (英文)	Graduation Research
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	郭 進
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	4年間の勉強の集大成としてこれまで学んだ経済理論、経済データの処理方法、実証分析の方法などをもとに、卒業論文を作成する。			
到達目標	ゼミ生が選んだ卒業論文テーマに沿って、問題設定、論理展開（実証分析を含む）、結論からなる論文を書き上げることを到達目標とする。			
授業方法と留意点	毎回の演習で、数名のゼミ生による論文作成の進度に関する報告を行い、論文の内容についてゼミ内で討論する。各人ごとの研究テーマが異なるので、テーマに応じた個別指導を行う。			
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	前期では各自の卒業論文のテーマを選定し、それに沿って調査や研究を行い、卒業論文を作成する準備を行う。後期では4年間の勉強の集大成としてこれまで学んだ経済理論、経済データの処理方法、実証分析の方法などをもとに、卒業論文を作成する。			
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	演習への授業態度、発表状況、論文の完成度等を考慮して評価する。			
学生へのメッセージ				
担当者の研究室等				
備考				

科目名	卒業研究	科目名 (英文)	Graduation Research
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	牧野 邦昭
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	これまで大学で学んできたことを基に個々の関心のある事柄について研究を行い、それを論文としてまとめる。			
到達目標	卒業研究論文を完成・提出する。			
授業方法と留意点	卒業研究論文を仕上げるための個別指導を中心とする。			
授業テーマ・内容、方法・事前、事後 学習課題	前期終了までに研究計画を策定し、後期に実際の論文の執筆を指導する。			
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	卒業研究論文の水準により可否を判定する。			
学生への メッセージ				
担当者の 研究室等	1号館7階 牧野准教授室 (経済学部)			
備考				

科目名	卒業研究	科目名 (英文)	Graduation Research
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	八木 紀一郎
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	ゼミ参加者の卒業研究を指導して、一定水準以上のものを作成させる。 卒研指導の合間に、日本経済の標準的な分析結果をとりあげ、経済学の基礎知識を確認するとともに、その応用の仕方を理解させる。		
到達目標	経済学の基礎知識の習得確認。自己の力によって、選択したテーマを掘り下げて探求し、その過程において既存資料の利用法、現場の人々との協力法を学ぶとともに、まとめた研究成果を発表・伝達するコミュニケーション力を身につける。		
授業方法と留意点	個人あるいは複数での卒業研究を、夏休み前の第一次発表と夏休み後の第二回発表を集団で検討する。自分でフィールドをえらび、実際に現場における調査をすることが望ましい。中間発表のあいまに『経済財政白書』を輪読して、経済学の基礎知識とその応用の仕方、また日本経済の実態について学ぶ。		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後 学習課題	学年はじめ：卒業研究計画の確認 週の時間としては、月曜第3時限および水曜第2時限に研究室でおこなう。 4-6月：第1次発表。7月末、第1次提出。 9-11月：第2次発表。12月 ゼミ討論大会		
関連科目			
教科書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
評価方法 (基準)	卒業研究の成果 (60%)、『経済財政白書』輪読および卒業研究のゼミ討論 (20%)、独自調査 (20%)		
学生へのメッセージ	卒業研究は学生にとって、得るところの多い、やりがいのある授業です。就活と並行しておこなうこととなりますから、できるだけ早く開始してください。		
担当者の研究室等	1号館7F		
備考	学年はじめに卒業研究の進め方にかかわって、研究上での誠実性と倫理を確認します。		

科目名	卒業研究	科目名 (英文)	Graduation Research
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	浅羽 良昌
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	3年次末に提出したレポートをベースに、各人の研究発表・議論を進めます。ゼミ生同志からの意見を参考にしながら、卒業論文の完成に向けてさらに研究を進めてもらいます。満足出来たと思える卒論を是非書いて頂きたい。			
到達目標	分析能力、判断能力、筆力能力が身につくはず。			
授業方法と留意点	卒業論文の中間報告と最終報告をへて卒業論文をまとめてもらいます。その間、構成や内容について指導をおこないます。参照すべき書物の紹介も各ゼミ生にアドバイスします。			
授業テーマ・内容、方法・事前、事後 学習課題	ゼミ生の卒論への取り組みや進展具合に応じて適切な指導をおこなう予定です。最終的には卒論としてまとめてもらえるように、工夫を重ねたいと考えます。			
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	完成した卒論の中身で評価します。			
学生へのメッセージ				
担当者の研究室等				
備考				

科目名	卒業研究	科目名 (英文)	Graduation Research
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	平野 泰朗
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	各人が選んだ研究テーマにしたがって調査・研究を行い、それをゼミで報告・討論する。また、そのことを通して、聴く力、伝える力、まとめる力をつけると同時に、課題発見力、情報収集力、論理的思考力をつけることを目的とする。																		
到達目標	各人が選んだテーマに沿って、問題設定、論理展開（仮説、検証を含む）、結論からなる論文を書き上げることを到達目標とする。																		
授業方法と留意点	週2回の授業の内、1回を全員参加の報告・質疑応答を中心に行い、他の1回を、個別指導に当てる。全員参加の場合、各人あるいは各グループの中間報告を何度も行い、プレゼンテーションや質疑応答の技術を学びながら、継続的な研究態度を身につける。また、各人ごとの研究テーマが異なるので、テーマに応じた個別指導を行う。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	各人が自ら選んだ研究テーマをもとに、学生と教員が相談・検討しながら授業計画を立てる。併せて、研究倫理教育を行う。																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法（基準）	演習への参加姿勢、準備状況、報告論文の完成度等を勘案して評価する。なお、出席日数が不足する者は、単位取得の資格を失う場合がある。																		
学生へのメッセージ																			
担当者の研究室等																			
備考																			

科目名	卒業研究	科目名 (英文)	Graduation Research
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	朴 景淑
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	<p>専門演習で習得した基礎知識と分析方法に基づき、上級ゼミで決めてきたゼミ生各自の卒業研究テーマについて、より深く調査・分析・考察を行いながら、ゼミでプレゼン・ディスカッションすることで研究を深めて卒業研究論文を作成する。 到達目標：ゼミ生各自のテーマに関する研究結果を卒業研究論文としてまとめて発表する。</p>			
到達目標	卒業研究論文の作成ができること			
授業方法と留意点	まず、ゼミは15回必ず参加し、ディスカッションに参加することで、自分の卒業研究テーマのみではなく、ゼミ生全員のテーマについても一緒に勉強できるようにする。授業は講義タイプではなく、学生参加方のゼミであるため積極的に参加すること。			
授業テーマ・内容、方法・事前、事後 学習課題	毎週のテーマに合わせて、レポート・演習・発表準備などを告知する。			
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	テストは無し 毎回のゼミ参加・演習・レポート・発表等を総合的に評価する。			
学生へのメッセージ				
担当者の研究室等	1号館7階 朴教授室			
備考	積極さが必要。			

科目名	卒業研究	科目名 (英文)	Graduation Research
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	田井 義人
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	<ul style="list-style-type: none"> ・ 専門演習Ⅱの内容を踏まえてフィールドワークによって得た知識や自ら選択した専門書籍からの知見及びインターンシップ等での体験、実地調査等によって卒業研究をまとめる。 ・ その作成支援を行う。 																		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 基礎演習、専門演習Ⅰ、Ⅱで修得した内容に基づき卒業研究をまとめ上げることを到達目標とする。 																		
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・ 週2回の卒業研究作成支援を行う。そのうち1回は、全員参加のゼミとし、ゼミ生相互の意見交換を行う。他の1回は、ゼミ生個別に卒業研究の作成指導を行う。 ・ 全員参加ゼミでは、教科書の輪読、意見交換を通じて卒業研究作成の共通スキルを養成する。個別ゼミでは、学生毎のテーマに沿った卒業研究作成指導を行う。 																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後、学習課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域経済活性化策について考察する。フィールドワークを実施する目的と課題に対して事前に学習し、レジュメ作成またはプレゼンテーション資料を作成し、まとめ方を演習する。 ・ 卒業論文のテーマに関わるフィールドワークをゼミ生に提案させ実施する。 																		
関連科目	基礎演習 専門演習Ⅰ 専門演習Ⅱ																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>ゼミ開始時及び適宜指定する。</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	ゼミ開始時及び適宜指定する。			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	ゼミ開始時及び適宜指定する。																		
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>ゼミ開始時及び適宜指定する。</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	ゼミ開始時及び適宜指定する。			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	ゼミ開始時及び適宜指定する。																		
2																			
3																			
評価方法 (基準)	<ul style="list-style-type: none"> ・ ゼミへの参加状況、卒業研究作成内容等によって総合的に評価する。 ・ 就職活動と大学での勉学の学生生活とを両立する姿勢を評価する。 ・ 課題提出、発表の活動の評価を重視する。 																		
学生へのメッセージ	<ul style="list-style-type: none"> ・ 卒業研究は大学での集大成である。単独での卒業研究をまとめるに際して学生間相互の議論によって進めることが重要である。 ・ 学生相互の議論による課題発見、必要な調査内容などを通じて卒業研究作成を奨励する。 ・ 論文作成スケジュールと就活の両立が必須である。卒業単位不足にならないよう講義受講計画を立て修学する必要がある。 																		
担当者の研究室等	1号館7階 田井准教授室 (経済学部)																		
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・ 就職活動対策と勉学を両立させ、大学生活の成果としての卒業研究をまとめることが社会人になるための第1段階であることを認識させる。 ・ 真摯に研究に取り組む姿勢を評価する。 																		

科目名	卒業研究	科目名 (英文)	Graduation Research
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	植杉 大
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	地域経済を円滑に運営するために地域金融機関に求められる役割とは何か、地域の利便性・収益性等が地域不動産価格にどのように反映されるかなど、地域の発展にはこれらを総合的に勘案する思考が必要である。本専門演習では、これらを分析するために必要な知識について、グループ学習及びフィールド調査等を通じて学習し、最終的に卒業研究論文をまとめる。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 前年度までに確立された自分の研究テーマをさらに深化させる。 2. フィールド調査を実施し、さらなる地域経済への考察を行うことで、認識を確立する。 3. 卒業研究論文の作成および卒業研究発表会への参加。 			
授業方法と留意点	グループ学習を中心とする。テーマの設定、必要となる資料・参考文献の収集、学習した内容及びその考察に関する報告、それらに基づいたフィールド調査の企画・実行、グループ内での議論、プレゼンテーション作成といった一連の作業を行う。			
授業テーマ・内容、方法・事前、事後 学習課題	グループ学習を行うに当たり、随時指示する。			
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	出席、ゼミ参加の積極性、レポート、プレゼンテーションなどを総合的に勘案して決定する。			
学生へのメッセージ				
担当者の研究室等 備考	1号館7階植杉研究室			

科目名	卒業研究	科目名 (英文)	Graduation Research
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	持永 政人
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	これまでの大学生活で学んだ知識や経験（インターンシップ等を含む）を生かし、卒業研究を行い、卒業研究レポートを作成する。		
到達目標	卒業研究レポートの完成		
授業方法と留意点	適宜、研究の進捗に応じた個別指導を行う。またゼミでの中間報告や全員参加の議論により研究内容の充実を図ること。		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後 学習課題	各自の興味と問題意識に応じて、地域または観光に関わるテーマを設定し、各自調査・研究を進める。またゼミでの議論を通して研究の質の向上を図る。		
関連科目			
教科書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
評価方法 (基準)	卒業研究レポートの内容及びゼミ活動への参加態度等を総合的に評価する。		
学生への メッセージ			
担当者の 研究室等	1号館7階 持永教授室（経済学部）		
備考			

科目名	卒業研究	科目名 (英文)	Graduation Research
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	野村 佳子
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	これまでの学びの集大成として、各人が選んだテーマに沿って、課題を設定、論理展開して、結論に至る卒業研究論文を作成します。		
到達目標	期限内に卒業研究を完成し、提出することを目標とします。		
授業方法と留意点	中間報告を何度も行い、ゼミ学生全員で討議します。執筆段階に応じて個別指導も行います。		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後 学習課題	各人の問題意識に基づき、観光または地域に関わるテーマを設定して研究を進めていきます。経過報告での学生間の議論を重視し、それを研究の質の向上につなげていくこと。		
関連科目			
教科書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
評価方法 (基準)	経過報告の内容および参加姿勢と卒業研究論文の内容により評価します。		
学生への メッセージ			
担当者の 研究室等	1号館7階 野村准教授室 (経済学部)		
備考			

科目名	卒業研究	科目名 (英文)	Graduation Research
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	西川 浩平
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	専門演習Ⅰ・Ⅱの学習を通じて関心をもったテーマについて、自身の見解を客観的に評価することを目的に、統計的手法を用いた卒業研究を執筆する。			
到達目標	自身が関心をもったテーマについて、経済理論、経験則に基づき仮説を立て、統計的手法を用いて仮説の妥当性を判断する能力を身につける。			
授業方法と留意点	ゼミ形式の少人数教育によって、課題の発見、資料収集・分析、卒業研究の作成・発表を割り当てられた担当教員の指導のもとに修得する。			
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	観光政策を含む経済政策全般について、関心のある対象を各自が選定し、その産業特性等を調査し、調査結果を踏まえた仮説を立てる。この仮説の妥当性を統計的手法を用いて定量的に評価し、その成果を卒業研究としてまとめる。			
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	執筆した卒業研究の内容で評価する。評価は、テーマの面白さ、データの特異性、用いた手法の妥当性、結果の解釈の4つの視点から行う。			
学生へのメッセージ				
担当者の研究室等				
備考				

科目名	卒業研究	科目名 (英文)	Graduation Research
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	田中 幹大
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	個人、あるいはグループで設定した課題についてフィールド調査、文献調査を行い、卒業研究を完成させる。		
到達目標	卒業研究を通じて、適切な課題設定力・情報収集力・文章作成力を得る。		
授業方法と留意点	卒業研究を進めるうえで必要な調査を設定して実行してもらう。		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後、学習課題	①テーマ、課題の発表 ②調査の設定、実行 ③中間発表 ④補足調査の設定、実行 ⑤卒業研究の作成		
関連科目			
教科書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
評価方法 (基準)	課題設定の妥当性、調査への取組み、発表内容、卒業研究の水準から評価する。		
学生へのメッセージ			
担当者の研究室等			
備考			

科目名	卒業研究	科目名 (英文)	Graduation Research
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	田中 鮎夢
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	卒業論文に向けて、各自の研究の報告を行っていく。 同時に卒業研究に必要な知識・技術の習得を目指す。		
到達目標	記述統計、散布図、相関分析、回帰分析を行い、論文を作成できること。		
授業方法と留意点	受講生各位に報告を求める。		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	経済学に関連するテーマについて、受講生各位が研究報告を行い、現状と課題を分析する。		
関連科目	統計学、計量経済学		
教科書	番号	書籍名	著者名
	1	講義中に適宜指示する。	
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1	講義中に適宜指示する。	
	2		
	3		
評価方法 (基準)	平常点 (受講態度等) に加えて、報告・課題・論文によって、評価を行う。基準にみえない者には単位を与えない。		
学生へのメッセージ	欠席の際は、欠席届を提出すること。		
担当者の研究室等	1号館7階田中講師室		
備考	出席日数が不足する者は、単位取得の資格を失う場合がある。 他のゼミと連携して、学習する場合がある。		

科目名	卒業研究	科目名 (英文)	Graduation Research
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	内田 勝巳
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	3年次に作成したフィールド調査報告書を下敷きに卒業論文を作成することが目的である。		
到達目標	卒業論文の作成及びプレゼンテーションを通じて、問題発見力、論理的思考力、文章作成力、説明・発表力を養い、高等教育履修者に対し社会が求める基礎能力を身に着けること。		
授業方法と留意点	卒業論文のテーマに応じ個別指導を行う。 必要な形式を満たしていない論文及び剽窃等の不正行為が認められる論文に対しては単位を与えないので留意すること。		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後 学習課題	各自の卒業論文のテーマに沿った論文指導を行う。 前期をめぐり卒業論文のドラフトが完成できるよう、授業の事前及び事後での自主的な卒業論文作成作業が求められる。 定められた授業時間帯以外でも柔軟に論文作成指導を行う。 11月から12月にかけて完成した卒業論文のプレゼンテーションを実施しプレゼンテーション力を評価する。		
関連科目			
教科書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
評価方法 (基準)	卒業論文の内容 (形式への準拠、独創性、論理展開・論文構成力、文章力、データ分析力、等) 及びプレゼンテーション力に基づき評価する。 卒業論文発表会への参加者は高く評価する。		
学生へのメッセージ	卒業研究は大学で学んだ専門知識に関連した自らの思索を記 (しめ) すことのできる貴重な機会です。多くの学生にとって、このような機会は人生に一度しかありません。卒業研究を通じて思考力を鍛錬してください。		
担当者の研究室等	1号館7階 内田教授室 (経済学部)		
備考			

科目名	地域金融論	科目名(英文)	Regional Banking
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	植杉 大
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	地域金融機関とは何か、地域経済と地域金融とのつながり、地域金融機関の現状における課題や問題点、地域経済を円滑に運営するために求められる役割は何かなど、地域金融機関に対する認識を深め、ひいては地域経済に対するより広い視野と洞察を持てるようになることが目的です。
到達目標	地域金融機関が地域経済において果たすべき役割を十分理解し、それら知識を応用して、自分の係わる地域におけるアイデアを形成することができるようになること。
授業方法と留意点	原則的に講義形式をとります。第8回と第14回にまとめテストを行います。
科目学習の効果(資格)	地域経済に対する、金融面からの理解を得ることができます。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション/地域金融論とは	地域金融に関する概論	-----
2	地域金融機関の制度的側面	地域金融を担う金融機関にはどのようなものがあるか、制度的な分類を行う。	授業の復習
3	地域金融機関のこれまで	地域金融機関の発展の経緯について概観すると同時に、地域金融機関のパフォーマンスについて説明を行う。	授業の復習
4	地域金融機関の抱える諸問題	現在、地域的、国内的、国際的に地域金融機関を取り巻く環境下で、どのような活動を行っているのかを理解する。	授業の復習
5	中小企業金融の役割・特徴	日本における中小企業金融の役割や特徴について概観する。	授業の復習
6	中小企業金融システムと銀行融資①	中小企業金融システムの外観と銀行融資に関する諸問題についての概略を説明する。	授業の復習
7	中小企業金融システムと銀行融資②	中小企業金融システムと銀行融資について、特に理論的側面に着目し、説明を行う。	授業の復習
8	まとめテスト・解説	テスト範囲は第2回から第7回まで	-----
9	リレーションシップ・バンキング①	リレーションシップ・バンキングとは何かを理解する。	授業の復習
10	リレーションシップ・バンキング②	リレーションシップ・バンキングは機能しているのか、強化されているのかを、事例に基づき検討する。	授業の復習
11	リレーションシップ・バンキング③	リレーションシップ・バンキングに関する様々な評価を比較検討し、現状の問題点等を認識する。	授業の復習
12	地域金融機関の新しい潮流①	国内的な問題を中心に、リレーションシップ・バンキングの可能性とその限界、地方銀行の合併の動向、地域活性化への取り組みなどを紹介する。	授業の復習
13	地域金融機関の新しい潮流②	第12回の続き、および地方銀行の海外展開の動向などを紹介する。	授業の復習
14	まとめテスト・解説	試験範囲は第9回から第13回まで	-----
15	講義のまとめと今後の学習について	講義のまとめを行うとともに、今後地域金融機関に関する認識を深めるための学習方法の紹介を行う。	-----

関連科目	地域経済論 金融論など
------	-------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	定期試験(60%) + まとめテスト2回分(20% + 20%) で評価します。
----------	--

学生へのメッセージ	気軽に質問に来てください。
-----------	---------------

担当者の研究室等	1号館7階 植杉准教授室(経済学部)
----------	--------------------

備考	ゲスト講師を招待しての特別授業を数回実施する予定です(詳細未定)。
----	-----------------------------------

科目名	地域経済入門	科目名(英文)	Introduction to Regional and Urban Economics
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	A B C D E F G H I J
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	後藤 和子
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	グローバル経済が進む中で地域経済は大きく変動しており、さまざまな観点から注目されている。地域経済学の入門として、この講義では地域経済学の基礎知識を修得する。この授業を履修することによって、グローバル化の中で地域経済をどのように活性化すべきか、観光にも応用できる地域経済学の基礎的素養を身につける。
到達目標	地域経済とは何か、基本的な理論や考え方が理解できるようになる。
授業方法と留意点	授業は、基本的に、前回の復習、本日の授業テーマの講義や学生による発表、授業内容に対応する課題の提示の順序で進めていく。
科目学習の効果(資格)	地域経済を理論と実証の両面から学び、地域経済の現状や政策を理解する。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	地域経済学の課題と地域経済の学び方について説明する。	授業後、アンケートを実施する。
2	地域経済学の課題	地域概念、グローバル化と地域経済について学習する。	課題の提出
3	日本の地域構造	産業構造の変化や情報化と地域構造の変化について学習する。	課題の提出
4	地域経済と所得形成	地域経済計算とその概念、地域所得の決定、地域の産業連関表について学習する。	課題の提出
5	産業連関分析	経済波及効果の算出方法を学習する。	課題の提出
6	地域成長の経済分析	需要主導型モデルと供給主導型モデルについて学習する。	課題の提出
7	地域間取引の理論	比較優位と地域間取引について学習する。	課題の提出
8	地域間格差と人口移動	地域間格差が存続する理由と地域間の人口移動について学習する。	課題の提出
9	産業の立地	工業立地論、空間的集積、外部経済について学習する。	課題の提出
10	小テストを行う都市システム	商圏分析、中心地理論について学習する。	小テストの内容の復習
11	商店街の活性化	日本の商業の課題、特に商店街空洞化の現状や問題点を知り、商店街活性化の成功事例について学習する。	課題の提出
12	都市の成立・発展	都市の形成・発展の要因について学習する。	課題の提出
13	地域政策	地域政策の目的と地域開発戦略、日本の地域・都市政策について学習する。	課題の提出
14	クリエイティブ・シティ	新しい都市戦略として、クリエイティブ・シティをとりあげ、地域活性化政策について学習する。	課題の提出
15	まとめ	授業全体のまとめを行う。	課題の提出

関連科目	経済学入門(エコノミックリテラシー)
------	--------------------

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	地域経済学入門	山田浩之・徳岡一幸	有斐閣
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法(基準)	定期試験、授業での提出課題、小テスト、授業への参加や発表を総合的に評価する。授業への積極的な参加(私語は減点)を高く評価します。
----------	--

学生へのメッセージ	地域経済学は幅広い学問領域です。授業では教科書に沿って、地域経済学の主要な項目をひとつひとつ履修することにより、地域経済学の体系的な知識を身につけることを目指します。また、実際の地域や政策に関する新しい動向も紹介します。観光や国際にも応用できるような力を身につけましょう。
-----------	--

担当者の研究室等	1号館7階 後藤教授室(経済学部)
----------	-------------------

備考	授業内容や小テストの時期は、学生の理解度に応じて変更することがあります。授業内で発表(プレゼンテーション)を求めることもあります。
----	---

科目名	地域経済入門	科目名(英文)	Introduction to Regional and Urban Economics
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	K L M N O P Q R S T
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	郭 進
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	グローバル経済が進む中で地域経済は大きく変動しており、さまざまな観点から注目されている。地域経済学の入門として、この講義では地域経済学の基礎知識を修得する。とりわけ、産業連関表の応用として、最近注目されている経済波及効果の分析を学習する。
到達目標	この授業を履修することによって、①地域経済学の基礎知識を身につける。②産業連関表のしくみおよび経済波及効果の分析を理解できる。③グローバル経済の中で地域経済の活性化の重要性を実感する。
授業方法と留意点	授業は基本的に、Review(前回の復習と練習問題の解説)、本日のポイント、内容(ポイントについて解説)、練習問題(内容に対応する課題)の形式で進めていく。
科目学習の効果(資格)	地域経済を理論と実証の両面から学び、実際の地域経済データを用いての数値分析の能力を身につける。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	地域経済学の課題と地域経済の学び方について説明する。	授業後、アンケートの実施。
2	地域の概念と基本地域メッシュ	地域の概念と地域メッシュについて説明する。	授業後、課題の提出
3	日本の地域構造と人口動態	日本の地域構造と人口動態について説明する。	授業後、練習問題の提出
4	地域経済計算とその概念	地域経済計算とその概念について説明する。	授業後、練習問題の提出
5	地域所得の決定	地域所得の決定について説明する。	授業後、練習問題の提出
6	産業分類と産業連関表	日本の産業分類と産業連関表の基本取引表について紹介する。	授業後、練習問題の提出
7	産業連関分析(1)	経済波及効果の算出方法について説明する。	授業後、課題の提出
8	産業連関分析(2)	経済波及効果の分析実例を紹介する。	授業後、練習問題の提出
9	まとめ、中間テスト	1回から8回までの内容のまとめと中間テスト。	1回から8回までの内容を復習すること。
10	地域間取引の理論	比較優位と地域間取引について説明する。	授業後、練習問題の提出
11	地域経済成長の理論(1)	移出基盤モデルについて説明する。	授業後、練習問題の提出
12	地域経済成長の理論(2)	特化係数法と基盤比率について説明する。	授業後、課題の提出
13	地域間格差と人口移動	統計分析の手法を用いて地域間格差を考察し、地域間格差と人口移動の関係について説明する。	授業後、練習問題の提出
14	産業の立地	工業立地論とホテリングモデルについて説明する。	授業後、練習問題の提出
15	地域政策について	地域政策の目的と地域開発戦略について説明する。	授業後、課題の提出

関連科目 特になし

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	地域経済学入門(新版)	山田浩之・徳岡一幸	有斐閣
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法(基準)	授業での提出課題 20%、小テスト 30%、定期試験 50%の割合で総合的に評価する。授業態度などによる平常点も考慮する。
学生へのメッセージ	地域経済学は幅広い学問領域であるが、授業中、学生諸君がイメージしやすい面白い題材を選択し、講義を行っていくと思う。
担当者の研究室等	1号館7階 郭講師室(経済学部)
備考	

科目名	地域産業論	科目名(英文)	Regional Industries
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	内田 勝巳
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	日本の地域産業は経済のグローバル化や人口減少社会の進展により構造変化を迫られている。本授業では、グローバル化した世界における産業立地と集積の理論を理解し、日本企業の立地行動について理論的に考察できるようになることを目的とする。
到達目標	産業立地と地域経済に関する理論・実態・政策を有機的に捉え考察する力を身につけることを到達目標とする。
授業方法と留意点	様々な産業立地と集積の理論を紹介し、日本の産業の現状と課題につき地域産業振興の視点から考察を行う。
科目学習の効果(資格)	公務員試験・資格試験に役立つ知識が身につく。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	農業立地の基礎理論	チューネンの農業立地論について解説する。	前回の復習と課題の提出
3	工業立地の基礎理論	ウェーバーの工業立地論について解説する。	前回の復習と課題の提出
4	商業・サービス業立地の基礎理論	クリスタラーとレッシュの中心地理論について解説する。	前回の復習と課題の提出
5	現代の立地理論	寡占間競争、複数工場の立地理論、空間価格理論について解説する。	前回の復習と課題の提出
6	立地調整論	工場の増強や縮小、工場の移転や閉鎖について解説する。	前回の復習と課題の提出
7	グローバル化と地域経済論	世界経済空間の理論及びグローバルとローカルの関係論について解説する。	前回の復習と課題の提出
8	産業のグローバル化	貿易、対外直接投資、海外現地生産の現状について解説した後、小テストを実施する。	前半の復習と課題の提出
9	多国籍企業の立地論	ヴァーノン等の多国籍企業の理論及び立地論について解説する。	前回の復習と課題の提出
10	オフィスの立地と世界都市論	情報・知識の地理的流動とハイマー等の世界都市の理論について解説する。	前回の復習と課題の提出
11	産業集積論	マーシャルとウェーバーの集積論とその系譜について解説する。	前回の復習と課題の提出
12	新経済地理論	クルーグマンの産業集積論について解説する。	前回の復習と課題の提出
13	産業クラスター論	ポーターの競争優位論と産業クラスターについて解説する。	前回の復習と課題の提出
14	グローバルな立地環境の整備	プライベート・ファイナンス・イニシアティブ(PFI)及び官民連携(PPP)による社会資本整備について解説する。	前回の復習と課題の提出
15	地域主義	地域主義の概念と、一村一品運動、社会起業家による地域イノベーション、企業のCSR活動について解説する。	前回の復習と課題の提出

関連科目	地域経済入門、都市経済論
------	--------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法(基準)	小テスト10%、期末試験60%、授業での課題提出及び授業態度30%の割合で総合的に評価する。
----------	--

学生へのメッセージ	グローバル化した世界における地域産業について、課題提出を通じて考えながら学びます。
-----------	---

担当者の研究室等備考	1号館7階 内田教授室(経済学部)
------------	-------------------

科目名	地域統合論	科目名 (英文)	Regional Integration
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	久保 廣正
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	世界的に主流となりつつある地域貿易協定を歴史的、制度的、理論的に解説し、これらの協定が日本経済および世界経済にどのような影響を与えるかについて、WTO（世界貿易機関）及び地域統合で先行している欧州連合（EU）を説明し、地域統合に対する理解力と洞察力をたかめることを目的とする。
到達目標	地域統合を巡る動きについて、自ら判断できる能力を身に付けることを到達目標とする。
授業方法と留意点	プリントと板書を中心に講義するが、授業に積極的に参加することを希望する。そのためには、対象とする経済問題に関心をもつことが必要である。
科目学習の効果（資格）	新聞などの経済統合に関する記事やニュースを理解し、それに関して意見を述べることができるようになる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	貿易の現状	わが国貿易の現状について説明する。	授業の復習
	2	貿易自由化	貿易自由化と経済統合との関係について説明する。	事前：教材の当該箇所の予習 事後：授業の復習
	3	経済統合の分類	経済統合の様々な形態を説明する。	事前：当該箇所の予習 事後：授業の復習
	4	経済統合の効果	上記の経済効果を説明する。	事前：当該箇所の予習 事後：授業の復習
	5	欧州連合（EU）1	EU 統合の歴史を説明する。	事前：当該箇所の予習 事後：授業の復習
	6	欧州連合（EU）2	EU の主要機関と意思決定プロセスを説明する。	事前：当該箇所の予習 事後：授業の復習
	7	欧州連合（EU）3	EU の通貨統合を説明する。	事前：当該箇所の予習 事後：授業の復習
	8	欧州連合（EU）4	ユーロ危機について説明する。	事前：当該箇所の予習 事後：授業の復習
	9	欧州連合（EU）5	日本と EU の経済関係について説明する。	事前：当該箇所の予習 事後：授業の復習
	10	東アジアの経済発展	東アジアの経済発展の特徴を説明する。	事前：当該箇所の予習 事後：授業の復習
	11	ASEAN 1	ASEAN の経済的側面を説明する。	事前：当該箇所の予習 事後：授業の復習
	12	ASEAN 2	ASEAN のを巡る経済動向を説明する。	事前：当該箇所の予習 事後：授業の復習
	13	WTO と FTA	WTO と FTA の関係を説明する。	事前：当該箇所の予習 事後：授業の復習
	14	日本の WTO・FTA 戦略	日本の WTO・FTA 戦略を説明する。	事前：当該箇所の予習 事後：授業の復習
	15	まとめと総括	まとめと総括をし、質問を受け付ける。	事後：授業の復習

関連科目	国際経済論
------	-------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	国際経済をつかむ第2版	石川・椋・菊地	有斐閣
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法（基準）	中間試験（20%）、定期試験（80%）を総合的に判定する。
----------	-------------------------------

学生へのメッセージ	経済問題・経済現象に関心をもつようにすること。疑問点や不明な点については、積極的に質問することを歓迎する。
-----------	---

担当者の研究室等	1号館7階 久保教授室（経済学部）
備考	

科目名	地域の持続的発展	科目名 (英文)	Sustainable Regional Development
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	田井 義人
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	<ul style="list-style-type: none"> ・都市部等への依存型社会から自律した住民での地域活動の重要性について講義する。 ・地方公務員が現在取り組んでいる行政と市民活動との協働について詳細に分析する。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・地域経済発展の契機となる地域活動について求められる考え方を修得する。 ・授業で得られた情報から地域の持続的発展に貢献する対策を考察できる知識を修得する。
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・地域を土地の境界によって規定される範囲だけでなく、住民活動や行政との協働活動等に必要エリアとして考察する。 ・住民にとって、安心・安全で住みやすい環境を構築する公共空間を地域と考え、地域での住民の取り組みが持続的に継続あるいは発展している事例に焦点をあて、それらを支える自助、公助そして共助へと展開するプロセスについて事例等に基づき講義する。
科目学習の効果 (資格)	<ul style="list-style-type: none"> ・大都市の発展過程を踏まえ、今後の地域の持続的発展には何が具体的に必要であるのかについて、自ら考える姿勢を養う効果を目的とする。 ・今後、議論が本格化されていく「大阪都」構想等広域行政圏に基づくまちづくりについての見識を養う。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	日本経済と地方自治体(財政赤字と地域再生)(ミレニアムプロジェクトの行方と電子自治体)	<ul style="list-style-type: none"> ・財政赤字の現状と電子自治体について考察する。 ・情報化の推進としての電子自治体構想について講義する。 	配布資料 第2回
3	日本経済と地方自治体(地域再生の必要性)	「地域再生とは」について「地域経済」の視点から講義する。	配布資料 第3回
4	地域再生とは(観光づくりの視点)	地域再生、地域経済活性化としての観光の概略を講義する。	配布資料 第4回
5	地域再生とは(地域産業の活性化)	地域産業、地域振興の視点で講義する。	配布資料 第5回
6	地域再生とは(地域雇用と人材活用)	地域での雇用及び人材活用について講義する。	配布資料 第6回
7	地域再生とは(行政のかかわり)	地域再生を支える行政サービスについて講義する。	配布資料 第7回
8	地域再生とは(まちづくりの視点)	地域再生に求められるまちづくりについて講義する。	配布資料 第8回
9	ITの活用(情報アクセシビリティ)	地方自治体におけるIT設計・活用について講義する。(情報活用ーアクセシビリティ)	配布資料 第9回
10	ITの活用(IT人材教育)	地方自治体におけるIT設計・活用について講義する。(ITの進展と地域における人材教育)	配布資料 第10回
11	ITの活用(個人情報保護)	地方自治体におけるIT設計・活用について講義する。(個人情報保護)	配布資料 第11回
12	ITの活用(情報セキュリティ)	地方自治体におけるIT設計・活用について講義する。(情報システムへの脅威への対応)	配布資料 第12回
13	まちづくりの議論 (PPP Public Private Partnershipとは)	PPPについての考え方を講義する。	配布資料 第13回
14	PPP推進の条件(自治体経営におけるPPPの活用)	自治体経営におけるPPPの活用について講義する。	配布資料 第14回
15	<ul style="list-style-type: none"> ・自治体と企業(事例研究) ・新たな「公益と営利」「官と民」の定義 	PPPの事例研究からPPPの視点について講義する。	配布資料 第15回

関連科目	「都市経済論」および地域関連科目
------	------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	適宜配布する資料		
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	地域経営の新しいパートナーシップ『PPPで始める実践 地域再生』	日本政策投資銀行地域企画チーム	ぎょうせい
	2			
	3			

評価方法 (基準)	定期試験 (50%)、習熟度試験またはレポート (20%)、受講態度 (30%) で総合評価する。
-----------	---

学生へのメッセージ	<ul style="list-style-type: none"> ・中央集権的な経済発展構造から地域経済活性化への社会構造の変化についての理解を深める。 ・特に地域社会におけるICTの利活用や地域振興について考察する。 ・少子高齢化社会の到来に向け、地域の発展を考える。 ・官民の役割分担、地域振興の有効性など主体的に考える習慣を修得して欲しい。
-----------	---

担当者の研究室等	1号館7階 田井准教授室(経済学部)
備考	

科目名	地域保健医療	科目名(英文)	Regional Health Service
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	田井 義人
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	<ul style="list-style-type: none"> ・地方自治体を中心に保健・医療・福祉は相互に連携し計画を策定しながら住民サービスの向上に努めている。 ・緊急性の視点から医療が優先され医療計画が、昭和60年12月の第1次医療法改正により制度化され、救急医療や感染症医療等への対応を明確化するため国、都道府県あるいは、市町村に対応すべき医療圏が割り当てられている。 ・これら地域医療に関する最新の取り組みおよび現状の課題等について説明する。 ・地域経済を支える地域医療について、課題認識と自ら考える姿勢を喚起することを目的とする。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・地域医療を理解するため、その基礎となる保健医療計画について大阪府を例にして理解する。 ・少子高齢化社会において、自ら判断し行動するための地域での保健医療に関する知識・教養を修得する。
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・保健・福祉・医療における総合的なサービス提供の根幹となる保健と医療の連携の必要性と意義について考察する。 ・大阪府保健医療計画に基づき、その必要性と意義について講義する。 ・さらに後半では現状の地域医療が直面する課題について考察する。 ・2013年度に改訂した大阪府保健医療計画講義に沿って講義する。
科目学習の効果(資格)	広域行政の視点も含め、地域経済を支える保健医療がどのように計画・実施されているかについて現状を把握するとともに今後の課題について考察する。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	
			事前	事後
1	大阪府保健医療計画について	医療計画策定の意義とその必要性および運用方針について講義する。	大阪府保健医療計画	第1章
2	保健医療提供体制の基本的な状況	大阪府における保健医療の提供体制の現状についてデータから考察する。	大阪府保健福祉計画	第2章 第1節
3	保健医療従事者の確保と資質の向上	医療へのニーズの拡大に伴いこれを支える医療従事者の確保と資質の向上が必要となる。専門職種別に、その現状と取り組みについて講義する。	大阪府保健医療計画	第2章 第2節
4	医療圏及び基準病床数	保健医療サービスを効率的に提供するにふさわしい地理的広がりとしての医療圏の設定とその範囲内での病床数の設定について考察する。	大阪府保健医療計画	第2章 第3節
5	大阪府における保健医療体制	大阪府下の医療体制の情報提供方法と病院の機能分担および連携について講義する。	大阪府保健医療計画	第3章 第1節 第2節
6	主要な事業ごとの保健医療体制(4疾病)	平成18年の改正医療法に基づく医療における4疾病5事業のうち4疾病への現状と医療体制について講義する。	大阪府保健医療計画	第3章 第3節
7	主要な事業ごとの保健医療体制(5事業)	平成18年の改正医療法に基づく医療における4疾病5事業のうち5事業への現状と医療体制について講義する。	大阪府保健医療計画	第3章 第3節
8	在宅医療の推進とその他の対策	4疾病5事業以外の重要な保健医療について講義する。	大阪府保健医療計画	第3章 第3節
9	保健医療提供体制と保健医療計画の評価および見直し	現状の保健医療提供体制の充実と評価および見直しについて講義する。	大阪府保健医療計画	第4章
10	保健・医療・福祉の総合的な取組	保健、医療、福祉は相互に連携することにより安心安全なまちづくりに貢献することが可能となる。その取り組みとして、それぞれの計画について講義する。	大阪府保健医療計画	第5章
11	健康危機管理体制の構築	地域防災計画と保健医療計画との関連について講義する。	大阪府保健医療計画	第6章
12	これまでのまとめ	大阪府保健医療計画の意義と今後について、まとめ及び習熟度について考察する。	大阪府保健医療計画	全章
13	自治体病院・地域医療に何が起きているのか。医師はなぜ病院から立ち去るのか。	地域医療を担う中核病院としての自治体病院の運営の視点から地域医療を考察する。	まちの病院がなくなる！？	第1章 第2章
14	自治体病院の経営はなぜ限界を抑えているのか。自治体病院の経営をどのように変革するのか。	自治体病院の現状の課題について講義する。	まちの病院がなくなる！？	第3章 第4章
15	地域医療再生への処方箋。病院PFIを考える。	地域医療再生の基幹となる自治体病院とその運営手段としてのPFIについて考察する。	まちの病院がなくなる！？	第5章 第6章

関連科目 地域医療、地域経済関係科目
メディカルツーリズムを検討するにあたり観光関係科目

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	大阪府保健医療計画(平成25年度～平成29年度)	大阪府	大阪府のホームページから取得
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	まちの病院がなくなる！？	伊関友伸	時事通信社
2	日本の医療制度がめざすもの	辻 哲夫	時事通信社
3			

評価方法 (基準)	定期試験 (50%)、習熟度試験またはレポート (20%)、受講態度 (30%) で総合評価する。
学生への メッセージ	実際の保健医療に関する行政施策についての基礎知識の修得を目指す。さらに今日、地域経済を支える地域医療が直面している課題について考察する。
担当者の 研究室等	1号館7階 田井准教授室 (経済学部)
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・地域医療の制度、仕組みについて知る必要性を修得してほしい。 ・医療は、事故や病気の際だけでなく安心・安全な経済活動や地域経済を支える仕組みであることの気づきを期待する。

科目名	地球環境経済	科目名(英文)	Global Environmental Economics
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	野口 義直
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	長い人類の歴史を通じて局地的な環境破壊はあったが、地球温暖化をはじめとする地球規模での環境問題が出現し、問題化したのは20世紀後半のことである。地球環境問題は、18世紀の産業革命より資本主義経済がもたらした巨大な生産力の発展(大量生産)と人類の消費能力の増大(大量消費)、自然界の処理能力を越える大量の廃棄物の発生(大量廃棄)に発生の根拠がある。20世紀後半より、人類は地球環境問題の存在を認識しはじめ、「持続可能な発展」(Sustainable Development)などの新たな概念も提起され、政府や国際機関による環境政策の展開、企業や研究機関による環境技術の革新が進められている。地球環境問題を克服し、持続可能な従来の資本主義経済の生産力構造と人々の生活様式をグローバルな規模で変革させることが、21世紀の大きな課題となっている。本講義では、以上のような地球環境問題と人類の経済活動との関係について講義する。
到達目標	環境問題と人間の経済活動の関わりについての理解を深める。
授業方法と留意点	配付資料にしたがった講義形式で行う。必要に応じてレジュメや資料を配布するので、配布物をファイリングし、板書や講義のノートをとる習慣をつけること。講義後、講義内容を自分の言葉で要約し、書きとどめておく力がつく。
科目学習の効果(資格)	環境社会検定試験(eco検定)(http://www.kentei.org/eco/index.html)

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	講義ガイダンス	講義の紹介。環境問題とは何か、環境問題と経済(採取-生産-消費-廃棄)との関係。環境経済学の諸潮流。	事後・質問提出
2	地球温暖化問題とその対策	地球温暖化問題とその対策。化石燃料の大量消費、低炭素社会、エネルギー技術革命、地球温暖化防止条約。視聴覚教材：NHK『未来への提言 ラジエンドラ・パチャウリー地球温暖化IPCCからの警告』。	事後・質問提出
3	原子力発電と放射性廃棄物問題	科学技術と人類社会。巨大テクノロジーの恩恵とリスク。視聴覚教材：NHK BS ドキュメンタリー『地下深く 永遠(とわ)に ~100,000年後の安全~』(2010年、デンマーク)。	事後・質問提出
4	環境問題と人類の経済活動	人類の経済活動(採取-生産-消費-廃棄)と自然環境の関係を考察する。人類史的な生産力発展の負の側面、環境破壊の可能性の増大。資本主義のもとでの生産力の飛躍的発展。	事後・質問提出
5	資本主義と環境問題(1) 大量生産の原因-なぜ資本主義のもとで生産力が飛躍的に発展するのか	営利企業が主体となる資本主義的生産活動の特殊性。営利=貨幣増殖を目的とする生産の無限性。生産性向上をめぐる個別企業間の不断の競争。	事後・質問提出
6	資本主義と環境問題(2) 科学技術の飛躍的発展-なぜ資本主義のもとで生産力が飛躍的に発展するのか	生産力の契機としての科学技術。科学技術の発展と利用の担い手としての資本主義的営利企業。未熟な科学技術を営利的利用することによる環境問題の深刻化と予防原則の提唱。環境に関する科学技術の発展は環境問題の発見と解決のための技術的条件もつくりだす。	事後・質問提出
7	資本主義と環境問題(3) 大量消費の原因-なぜ資本主義のもとで消費が飛躍的に拡大するのか	資本主義以前：自給自足的な狭い農民的消費→資本主義以後：賃金収入で生活手段を購入する賃金労働者による個人的消費の発展。仏レギュラシオン学派のフォーディズム概念。営利企業によるマーケティング活動と個人的消費の拡大、計画的陳腐化。	事後・質問提出
8	環境問題への対応を迫られる資本主義(1) 20世紀後半の環境保護運動・NGOの発展と環境政策の国際的展開	1960年代の公害や環境問題への自然科学者の警鐘、レイチェル・カーソン『沈黙の春』(1962年)のインパクト。ローマクラブ「成長の限界」(1972年)から、国連ブルントラント報告「持続可能な発展」(1987年)へ。国連の環境保護会議、環境保護条約。欧米各国の環境政策の展開。	事後・質問提出
9	環境問題への対応を迫られる資本主義(2) 自動車産業のエコカー開発競争	政府の環境政策が企業の環境技術革新(イノベーション)を促進する。アメリカの大気浄化政策と排ガス低減技術、低燃費技術の革新。電気自動車革命。	事後・質問提出
10	環境問題への対応を迫られる資本主義(3) エネルギー産業の構造変化	21世紀初頭、国際的な地球温暖化対策がエネルギー産業の構造転換を促進する。石炭、石油から天然ガスへ、様々な再生可能エネルギー(風力発電、太陽光発電、バイオ燃料等)の発展。	事後・質問提出

			ET 革命(エネルギー技術革命)をリードする IT 産業。																	
	11	環境問題への対応を迫られる資本主義(4) アメリカの鉛公害と環境政策に対する自動車、石油、農業関連産業の対応	環境問題の発生、環境政策の展開、諸産業の対応を、アメリカにおけるガソリン無鉛化を例として、具体的、歴史的に分析する。	事後・質問提出																
	12	持続可能性と経済学(1)	セーデルバウムの「持続可能性の経済学」。 持続可能性の概念は、貨幣価値に還元できない多様な価値基準を包含する。 経済人(homo economicus)への批判。	事後・質問提出																
	13	持続可能性と経済学(2)	「持続可能な発展」をめぐる多様なイデオロギー的立場と解釈。 市場主義的資本主義、エコロジック近代化、持続可能性。	事後・質問提出																
	14	持続可能性と経済学(3)	持続可能性(=人類社会と自然の安定的再生産を求める倫理)と資本主義(=自己目的的な永遠の経済成長を要求する経済システム)の関係。 人類社会の持続的発展と資本主義経済の持続的成長は両立するか、矛盾するか。資本主義のもとでの生産力発展は、環境問題を激化するか、解決するか。資本主義のもとで大量生産=大量消費=大量廃棄を克服することは可能か、不可能か。	事後・質問提出																
	15	講義のまとめ																		
関連科目	国際経済論、経済地理、農業経済論、社会経済学 I、II																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2																				
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2																				
3																				
評価方法 (基準)	課題提出(30%)、定期試験(70%)の結果をふまえて、総合的に評価する。 なお出席日数が不足する者は、単位取得の資格を失う場合がある。																			
学生への メッセージ	地球環境問題に関心をもって自ら学んで下さい。積極的な質問、授業への参加を期待します。																			
担当者の 研究室等	1号館7階 野口准教授室(経済学部)																			
備考																				

科目名	地方財政論	科目名(英文)	Local Public Finance
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	後藤 和子
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	経済学の理論と結びつけながら、基礎的な財政の仕組みと考え方を理解する。国と地方の財政関係及び、地方財政の経費と税収の仕組みと考え方、地方財政の現状と課題等を理解する。
到達目標	財政の機能、経費と税制、国と地方の財政関係の理論と課題等、基本的なことが理解できるようになる。 地方財政の基本的仕組みや現状、課題が理解できるようになる。 国や地方自治体の歳入の多くを占める税制についても、基本的な理論や仕組みを理解できるようになる。
授業方法と留意点	テキストとレジュメを使って授業を行うが、適宜課題も出し、発表してもらうこともある。
科目学習の効果(資格)	地方の経済にとって、地方財政は大きなウェイトを占めている。地方政府の歳入と歳出を通して、地域の現状や課題を読み解くことができるようになる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	
1	ガイダンス	地方財政とは何か、何を学ぶのか説明する		
2	政府の役割と地方政府の役割 (1) パレート効率性	パレート効率性等の概念を使って、政府の役割や地方政府の役割を学ぶ	復習	
3	政府の役割と地方政府の役割 (2) 公共財とパレート効率性、地方公共財	公共財の概念を使って政府や地方政府の役割を学ぶ	復習	
4	政府の役割と地方政府の役割 (3) 政府の機能配分論	国と地方政府の役割分担について学ぶ	復習	
5	地方財政の予算と収入(1)	地方予算の意義と課題、地方財政収入の構造と実態について学ぶ	復習	
6	地方財政の予算と収入(2)	地方税の体系について学ぶ	復習	
7	地方税と補助金の理論(1)	国と地方の財政関係について、地方交付税制度、地方譲与税、国庫支出金、地方債の仕組みを学ぶ	復習	
8	地方税と補助金の理論(2)	補助金の役割について、理論的に学ぶ。特に補助金の経済効果等について学ぶ	復習	
9	地方財政の経費(1)	地方経費の種類と構造について学ぶ	復習	
10	地方財政の経費(2)	教育費や、少子高齢化に関連した経費について学ぶ	中間テスト	
11	公共投資と地方財政	公共投資の現状、国と地方の役割、公共投資と地域活性化等について学ぶ	復習	
12	地方財政の現状	地方財政に関する改革の歴史及び現状について学ぶ	復習	
13	地方財政の健全化	地方財政の現状と、その健全化について学ぶ	復習	
14	地域づくりと地方財政	地域づくりと地方財政の関係、地域政策の転換等について学ぶ	復習	
15	まとめ	講義全体のまとめを行う	復習	

関連科目	財政学
------	-----

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	新しい地方財政論(有斐閣アルマ)	中井英雄ほか	有斐閣
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	財政の仕組みがわかる本(岩波ジュニア新書)	神野直彦	岩波
	2	Basic 地方財政論	重森暁・植田和弘編	有斐閣
	3			

評価方法(基準)	中間テスト、課題、期末テストで評価する
----------	---------------------

学生へのメッセージ	地方財政は、地域経済の大きな割合を占めています。地方財政を通して、地方の現状や課題をしっかりと理解しましょう。また、地方活性化の政策立案等にも、地方財政の知識は不可欠です。
-----------	--

担当者の研究室等	1号館7階 後藤教授室
----------	-------------

備考	講義内容や中間テスト時期は、受講生の理解度に応じて、変更することがある
----	-------------------------------------

科目名	地方自治論	科目名(英文)	Local Autonomy
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	田井 義人
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	<ul style="list-style-type: none"> ・国と地方は相互協力であって依存関係ではないということの認識が必要である。 ・そのため、住民自治と地方公共団体との関係を中心に考察するとともに中央集権と分権という視点から地方自治の現代的意義を考える。 ・組織や制度を講義するとともに法との関連も講義したい。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・地方自治の現状の制度を理解する。 ・地方公共団体の組織及び地方公務員の役割を理解する。 ・変化する社会状況において、自ら判断し行動するための地方自治に関する知識・教養を修得する。
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・地方自治の根拠となる地方自治制度について考察する。 ・地方自治の地方とは地方公共団体の区域とは限らず、ある一定の地域を意味することもある。国の出先機関としての地方公共団体から、地方自治は、国からの関与によらず、そこに住む住民の意思に基づき運営することとなった変遷について理解を深める。 ・2010年に総務省が取りまとめた「地方自治法技術改正の考え方」を講義内容に加え、未改正項目等、その現代的意義についても考察する。
科目学習の効果(資格)	<ul style="list-style-type: none"> ・公務員試験の対象となる。 ・地方自治体の職員を目指す場合の組織体系や歴史など基本的な知識を習得する。経済学における政府の役割、地方政府である地方自治体の役割を規定する基本法を中心に地方公務員の役割の理解を深める。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	地方自治の意義と法体系	地方自治の意義と法体系について概論を講義する。	教科書または参考書の目次を読んで概略をつかんでおく。 第一章
2	わが国の地方自治制度の変遷	地方自治制度の変遷について講義する。	教科書及び参考書を読んでおく。 第二章
3	地方自治体の種類	地方公共団体の種類と性格について講義する。	教科書及び参考書を読んでおく。 第三章
4	地方公共団体の区域	地方公共団体の区域について講義する。	教科書及び参考書を読んでおく。 第四章
5	地方公共団体の住民と住民自治	住民と地方自治について講義する。	教科書及び参考書を読んでおく。 第五章
6	地方公共団体の事務	地方公共団体の事務について講義する。	教科書及び参考書を読んでおく。 第六章
7	地方公共団体の立法	地方公共団体の立法権について講義する。	教科書及び参考書を読んでおく。 第七章
8	地方公共団体の議会	地方議会の本質、組織、権限、運営について講義する。	教科書及び参考書を読んでおく。 第八章
9	地方公共団体の執行機関1	地方公共団体の内部組織である執行機関について講義する。	教科書及び参考書を読んでおく。 第九章第一、二節
10	地方公共団体の執行機関2	地方公共団体の機関、長及び他の機関(議会と行政委員会)について講義する。	教科書及び参考書を読んでおく。 第九章第三、四節
11	地方公共団体の財務1	地方公共団体の財務(収支関係項目)について講義する。	教科書及び参考書を読んでおく。 第十章第一、二、三、四節
12	地方公共団体の財務2	地方公共団体の財務(資本的収支関係項目)について講義する。	教科書及び参考書を読んでおく。 第十章第五、六、七節
13	地方公共団体と他の主体との関係1	地方公共団体と国との関係について講義する。	教科書及び参考書を読んでおく。 第十一章第一節
14	地方公共団体と他の主体との関係2	地方公共団体の相互の関係について講義する。	教科書及び参考書を読んでおく。 第十一章第二節
15	地方公共団体の課題と展望	これまでの講義を踏まえ、地方自治の意義、さらに道州制の現代的意義について考察する。	教科書及び参考書を読んでおく。

関連科目	「地方自治と法(法学部)」等の行政法関連科目
------	------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	地方自治制度 第六次改訂版	久世公堯	学陽書房
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	新自治体学入門 市民力と職員力	森啓	時事通信社
	2			
	3			

評価方法(基準)	定期試験(50%)、習熟度試験またはレポート(20%)、受講態度(30%)で総合評価する。
----------	---

学生へのメッセージ	<ul style="list-style-type: none"> ・一般行政職だけでなく司書や議員などの地方公務員を目指す場合の基本的な制度や組織を理解するための講義です。 ・経済学部学生として地方行政事務の基本的な考え方への関心を持って頂きたい。 ・国家、地方とも公務員になるには、計画的な勉強が一定期間必要です。
-----------	---

担当者の研究室等備考	1号館7階 田井准教授室(経済学部)
------------	--------------------

科目名	中小企業論	科目名(英文)	Small and Medium-sized Enterprises
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	田中 幹大
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	現代日本の中小企業が抱えている諸問題・課題を学び、これからの中小企業のあり方、事業発展の可能性・展望を考えていく。特に製造業を中心に、その歴史を戦前から現在までの日本経済の発展との関わりで学ぶと同時に、中小企業に関わる個別テーマ(下請制、産業集積、政策、グローバル化との関係など)を検討する。
到達目標	①日本経済・社会のなかで果たしている中小企業の役割を理解すること。 ②中小企業が現在抱えている諸問題を理解すること。 ③今後の中小企業のあり方を考える上で検討すべき課題を理解すること。
授業方法と留意点	レジュメ、パワーポイントによる解説と写真・映像資料を使用する。
科目学習の効果(資格)	中小企業経営のイメージを豊富化させることができるとともに、現在の日本経済・世界経済のなかで中小企業が直面している問題を理解することができる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	中小企業の諸問題と可能性	1990年代以降から現在までの中小企業をとりまく経済環境を確認し、中小企業が抱える諸問題について検討する。	教科書を通覧しておくこと
2	日本経済の発展と中小企業①-戦前期-	在来産業の展開、公設試験研究機関の役割、中小工業集積形成を促した要因などを検討し、また、戦時下請政策の展開と帰結を整理する。	前回講義で指示した教科書の該当箇所を読了しておくこと
3	日本経済の発展と中小企業②-戦後復興期・高度成長期-	「二重構造」問題を中心に検討する。	前回講義で指示した教科書の該当箇所を読了しておくこと
4	日本経済の発展と中小企業③-安定成長期-	中小企業に対する評価、中小企業観の転換について検討する。	前回講義で指示した教科書の該当箇所を読了しておくこと
5	下請システムと中小企業①-「下請企業」から「サプライヤ」へ-	中小企業と下請システム、あるいはサプライヤシステムの関係について検討する。	前回講義で指示した教科書の該当箇所を読了しておくこと
6	下請システムと中小企業②-ピラミッド型分業構造と山脈型分業構造-	下請分業構造を全体としてどのように把握するのかについて、ピラミッド型分業構造把握の意義と問題点、および山脈型分業構造把握の意義について検討する。	前回講義で指示した教科書の該当箇所を読了しておくこと
7	産業集積と中小企業①-産業集積の類型と機能-	産業集積の代表的な類型と機能について検討する。	前回講義で指示した教科書の該当箇所を読了しておくこと
8	産業集積と中小企業②-産業集積と技術革新-	中小企業の技術革新をもたらす産業集積機能について、個別具体的な業種をとりあげて検討する。	前回講義で指示した教科書の該当箇所を読了しておくこと
9	産業集積と中小企業③-産業集積とクラスター-	産業集積とクラスターの異同について検討する。	前回講義で指示した教科書の該当箇所を読了しておくこと
10	中小企業政策①-中小企業政策の体系、高度成長期・安定成長期の中小企業政策-	中小企業政策はどのようなものがあるかを整理したうえで、中小企業基本法ができた背景、「知識集約化」「事業転換」「産業調整」の意味内容について検討する。	前回講義で指示した教科書の該当箇所を読了しておくこと
11	中小企業政策②-中小企業基本法改正、自治体の地域産業政策と中小企業振興基本条例-	中小企業基本法が改正された背景、自治体の地域産業政策の重要性、中小企業振興基本条例の意義について検討する。	前回講義で指示した教科書の該当箇所を読了しておくこと
12	グローバル化と中小企業	グローバル化が日本の中小企業にどのような影響を与えているか、またそのなかで日本の中小企業はどのような展望をもつべきかを検討する。	前回講義で指示した教科書の該当箇所を読了しておくこと
13	ネットワークと中小企業	中小企業連携が個別中小企業にとってどのような意味をもつのかを検討する。	前回講義で指示した教科書の該当箇所を読了しておくこと
14	ベンチャー企業と中小企業	「ベンチャー企業」と「中小企業」という用語の違いについて、またベンチャー支援策について検討する。	前回講義で指示した教科書の該当箇所を読了しておくこと
15	総括と展望	これまでの講義内容を整理し、中小企業の展開可能性について検討する。	授業中に指示した教科書の該当箇所を読み直すこと

関連科目	日本産業史、関西経済論
------	-------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	『新版 中小企業・ベンチャー企業論』	植田浩史、桑原武志、本多哲夫、義永 忠一、関智宏、田中幹大、林幸治	有斐閣
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準)	定期試験 100%
学生への メッセージ	写真や映像資料で具体的な中小企業のイメージを提供していきますので、自分なりの中小企業像をつくり、問題関心を深めて下さい。
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師室
備考	

科目名	統計学	科目名(英文)	Statistics
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	A B C D E F G H I J
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	蛭川 雅之
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	統計学の知識は、企業活動の把握・改善、あるいは政策の立案・評価などに欠かすことができません。本講義では、まず記述統計を解説した後、経済現象を数量的に分析したり仮説を検定したりするのに必要な統計的推論の考え方を概説します。
到達目標	記述統計および基礎的な数理統計の考え方を理解することを目標とします。なお、これらをできる限り直感的に理解できるよう、数学の使用を必要最小限に抑える方向で解説します。
授業方法と留意点	毎回の講義は事前に配布される講義ノートに沿って行われます。ノートを担当教員の個人ホームページからダウンロードし、一度目を通したうえで講義時に持参してください。また、電卓および講義で配布する分布表も忘れずに持参してください。さらに、必要に応じてエクセルを使ったデータ分析についても解説する予定です。
科目学習の効果(資格)	本講義で取り扱う統計学の考え方は、計量経済学やファイナンスを学ぶ上での基礎となります。また、統計検定など資格試験を準備するうえでの基礎知識も身に付きます。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	記述統計Ⅰ	度数分布、ヒストグラム	教科書第1講、講義ノート2(事前)
3	記述統計Ⅱ	平均、分散、標準偏差	教科書第2・3講、講義ノート3(事前)
4	記述統計Ⅲ	標準偏差のファイナンスへの応用	教科書第4・5・6講、講義ノート4(事前)
5	正規分布Ⅰ	正規分布の特性、正規分布表の読み方	教科書第7・8講、講義ノート5(事前)
6	正規分布Ⅱ	区間推定・仮説検定の考え方	教科書第9・10講、講義ノート6(事前)
7	自然界のデータは常に正規分布に従うか?	第6～7回の講義内容の補足	講義ノート7(事前)
8	第7週までのまとめ、中間試験	前半・総括; 後半・中間試験	第7週までの復習(事前)
9	母集団	母平均、母分散、母標準偏差	教科書第11・12講、講義ノート8(事前)
10	標本平均の考え方	大数の法則、母分散既知の場合の正規母集団の母平均に関する区間推定	教科書第13・14・15講、講義ノート9(事前)
11	カイ二乗分布Ⅰ	カイ二乗分布の特性、カイ二乗分布表の読み方、母平均既知の場合の正規母集団の母分散に関する区間推定	教科書第16・17講、講義ノート10(事前)
12	カイ二乗分布Ⅱ	標本分散とカイ二乗分布との関係、母平均未知の場合の正規母集団の母分散に関する区間推定	教科書第18・19講、講義ノート11(事前)
13	t分布	t分布の特性、t分布表の読み方、母分散未知の場合の正規母集団の母平均に関する区間推定	教科書第20・21講、講義ノート12(事前)
14	中心極限定理と正規近似Ⅰ	大数の法則、中心極限定理	講義ノート13(事前)
15	中心極限定理と正規近似Ⅱ	区間推定・仮説検定への応用	(同上)

関連科目	計量経済学、現代ファイナンス論など
------	-------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	完全独習 統計学入門	小島寛之	ダイヤモンド社
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法(基準)	宿題(4回、20%)、中間試験(30%)、定期試験(50%)を総合的に評価します。
----------	---

学生へのメッセージ	疑問が生じたら、講義中、講義後を問わず、積極的に質問してください。疑問点を未解決のまま放置して得になることはありません。
-----------	--

担当者の研究室等	1号館7階 蛭川教授室(経済学部)
備考	

科目名	統計学	科目名(英文)	Statistics
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	K L M N O P Q R S T
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	田中 鮎夢
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的 統計学の基礎の習得を目指す。具体的には、統計検定3、4級の範囲である、平均・分散・標準偏差・中央値、ヒストグラム、相関係数(記述統計学)、確率について、理解できるようになることを目指す。

到達目標 記述統計学の基本が理解できるようになること。

授業方法と留意点 教科書に従って、順に講義する。講義資料を適宜配布する予定である。また、講義時間内に問題演習を行う。

科目学習の効果(資格) 日本統計学会 統計検定4級「資料の活用」、統計検定3級「データの分析」の主要範囲を扱うことを目指す。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	1. 調査項目の種類と集計方法	§1.1 調査項目の分類 §1.2 質的変数の集計 §1.3 クロス集計	講義内容の予習・復習
2	2. さまざまなグラフ表現 <能力確認試験> (中卒程度の統計知識を問う試験実施)	§2.1 グラフ作成の目的 §2.2 統計グラフの特徴 §2.3 複数のグラフの組合せ §2.4 誤解を招きやすいグラフ表現	講義内容の予習・復習
3	3. 時系列データ	§3.1 時系列データの特徴を調べる §3.2 指数(指標)による表現 §3.3 折れ線グラフ作成上の注意点 §3.4 [補足] 対数の利用	講義内容の予習・復習
4	4. 度数分布とヒストグラム	§4.1 度数分布表の作成 §4.2 ヒストグラムと度数分布多角形 §4.3 分布の特徴の把握	講義内容の予習・復習
5	5. 分布の位置を表す代表値	§5.1 代表値の意味 §5.2 3つの代表値 §5.3 度数分布表からの平均の計算	講義内容の予習・復習
6	6. 5数要約と箱ひげ図	§6.1 分位数と5数要約 §6.2 データの散らばりを考える §6.3 複数のデータの分布を比較する §6.4 [補足] 要約表示と箱ひげ図	講義内容の予習・復習
7	7. 分散と標準偏差	§7.1 観測値の散らばりの程度 §7.2 単位の変換と平均値、分散、標準偏差 §7.3 変動係数で散らばりを考える §7.4 [補足] 総和記号(Σ)の使い方	講義内容の予習・復習
8	まとめ	これまでの講義内容を復習する	講義内容の予習・復習
9	8. 観測値の標準化とはずれ値	§8.1 個々の観測値の散らばりの程度 §8.2 データのはずれ値とその検出	講義内容の予習・復習
10	9. 相関と散布図	§9.1 2つの変数の関係 §9.2 層別散布図	講義内容の予習・復習
11	10. 相関係数	§10.1 相関関係を数値で表す §10.2 相関係数の注意点	講義内容の予習・復習
12	11. 確率の基本的な性質	§11.1 確率の意味 §11.2 同様に確からしい場合の確率の求め方 §11.3 事象と確率	講義内容の予習・復習
13	12. 反復試行と条件付き確率	§12.1 事象の独立性 §12.2 反復試行 §12.3 条件付き確率 §12.4 やや進んだ確率の話題 §12.5 [補足] 順列・組合せ	講義内容の予習・復習
14	13. 標本調査	§13.1 全数調査と標本調査 §13.2 母集団と標本 §13.3 無作為抽出法	講義内容の予習・復習
15	総括	これまでの講義内容を復習する	講義内容の予習・復習

関連科目 計量経済学

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	データの分析	日本統計学会	東京図書
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法(基準) 平常点40%、定期試験60%の割合で評価する。受講態度(私語等)によって、減点を行う。不正行為には厳正な措置をとる。

学生へのメッセージ 統計学は数学的科目であるため、論理の積み重ねを追えないといけない。毎回の出席を求める。

担当者の 研究室等	1号館7階田中講師室
備考	受講生の理解度に応じて、講義内容・講義進度には変更がありえる。 可能であれば、統計検定2級相当の内容（主に推測統計学）についても講義したい。

科目名	日本経済史	科目名(英文)	Japanese Economic History
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	平野 泰朗
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等	【科目】教科に関する科目(中学校 社会) 【施行規則に定める科目区分】日本史及び外国史 【教員免許状取得のための履修区分】選択 【科目】教科に関する科目(高等学校 地理歴史) 【施行規則に定める科目区分】日本史 【教員免許状取得のための履修区分】必修		

授業概要・目的	今日の日本経済システムを理解するために、近代化以降の日本の経済史を、産業化の発展段階、政治・経済・社会の諸制度の変化および国際環境の変化との関連で学習する。
到達目標	今の日本を理解するには、国際比較と歴史的考察が必要である。したがって、ここでは、歴史を過去の遠い事実として捉えるのではなく、今を理解する手段として活用できるようになることを到達目標とする。
授業方法と留意点	講義形式。毎回、レジュメを配布し、それに基づいて講義する。必要に応じて、参考資料を配付する。また、場合によって、視聴覚教材を使用する。
科目学習の効果(資格)	外国人に日本経済を説明するときに、理解を得やすい説明ができる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	幕末期の政治経済と開港	はじめに、なぜ歴史を学ぶかを聞いた後、幕末期の政治経済の状態と開港が日本の政治経済に与えた影響を学ぶ。	教科書を通覧しておくこと
2	明治維新	維新政府の誕生とその初期の政策(版籍奉還、廢藩置県、地租改正、秩禄処分等)を学ぶ。	ノートおよびレジュメを読み返し、同時に、教科書の当該箇所を読んで、当時の政治経済状況を知る。
3	殖産興業と松方財政	殖産興業の実態を理解した後、大隈財政と比較しながら松方財政の内容とそれが日本経済に与えた影響を学ぶ。	ノートおよびレジュメを読み返し、同時に、教科書の当該箇所を読んで、当時の政治経済状況を知る。
4	日清・日露戦争と日本経済	1890年代から1910年代の国際情勢と日本の政治経済との関係を学ぶ。	ノートおよびレジュメを読み返し、同時に、教科書の当該箇所を読んで、当時の政治経済状況を知る。
5	日本の産業革命(1)	日本の産業革命の実態を軽工業(綿業、絹業)を中心に学ぶ。	ノートおよびレジュメを読み返し、同時に、教科書の当該箇所を読んで、当時の政治経済状況を知る。
6	日本の産業革命(2)	日本の産業革命の実態を重工業(エネルギー・素材産業、機械工業、運輸業等)を中心に学ぶ。	ノートおよびレジュメを読み返し、同時に、教科書の当該箇所を読んで、当時の政治経済状況を知る。
7	第一次世界大戦と日本経済	第一次世界大戦前の日本の政治経済制度の特徴を理解し、大戦後に日本がどのように変化したかを学ぶ。	ノートおよびレジュメを読み返し、同時に、教科書の当該箇所を読んで、当時の政治経済状況を知る。
8	両大戦間期	第一次世界大戦と第二次世界大戦の間の時期に、日本経済は、本格的な経済成長を開始した。この時期の日本経済の概略を、国際的変化(機軸国アメリカの登場)と国内的变化(日本の労使関係の形成等)の視点から考察する。	ノートおよびレジュメを読み返し、同時に、教科書の当該箇所を読んで、当時の政治経済状況を知る。
9	昭和恐慌	1929年から始まった世界恐慌の影響が、日本経済を直撃した。これを昭和恐慌という。この昭和恐慌の中身を学ぶ。	ノートおよびレジュメを読み返し、同時に、教科書の当該箇所を読んで、当時の政治経済状況を知る。
10	高橋財政	昭和恐慌を沈静化しようとした高橋是清の経済政策の手法を学ぶ。	ノートおよびレジュメを読み返し、同時に、教科書の当該箇所を読んで、当時の政治経済状況を知る。
11	戦時経済	軍備拡張の政治方針に沿って、軍需主導による重化学工業化の道を歩んでいった日本経済を、その当時の国際環境(世界経済のブロック化)の中で理解する。	ノートおよびレジュメを読み返し、同時に、教科書の当該箇所を読んで、当時の政治経済状況を知る。
12	戦時経済(つづき)	戦時統制経済が戦後の日本経済システムの源流を形成した側面を、企業体制、労使関係、金融制度と企業間関係、政府企業間関係の4点にわたって学ぶ。	ノートおよびレジュメを読み返し、同時に、教科書の当該箇所を読んで、当時の政治経済状況を知る。
13	戦後経済改革(占領軍の対日政策)	日本の戦争行動を防ぐために、占領軍は、各種の対日政策をとった。ここでは、それを、内政・財政制度改革、財閥解体、労働改革、農地改革の4点にわたって学ぶ。	ノートおよびレジュメを読み返し、同時に、教科書の当該箇所を読んで、当時の政治経済状況を知る。
14	経済復興	第二次世界大戦後成立した冷戦体制のもとで、日本は、戦前の「富国強兵」から「強兵なき富国」へと国家の進むべき方向を転換した。ここでは、その端緒となった経済復興政策とその効果について学ぶ。	ノートおよびレジュメを読み返し、同時に、教科書の当該箇所を読んで、当時の政治経済状況を知る。
15	経済成長への出発	高度経済成長の基盤形成期(1952年から1960年)の特徴を学ぶ。	講義中に指示した教科書、配布物の当該箇所を読み直しておくこと

関連科目	日本経済論
------	-------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	『概説日本経済史 近現代〔第3版〕』	三和良一	東京大学出版会
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
-----	----	-----	-----	------

	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	授業の最後で、次回講義に関連する短いビデオ教材を見せることがあります。そこで知ったことと分からなかったことを、所定の用紙（「要点と質問」）に書いて提出してもらいます。それも評価の対象にします。 概ね、「要点と質問」30%、定期試験70%で評価します。			
学生への メッセージ	日本経済の歴史がイメージできるようになれば、現在の日本経済の理解がより一層進むのががんばってください。			
担当者の 研究室等	1号館7階 平野教授室			
備考				

科目名	日本経済論	科目名(英文)	Contemporary Japanese Economy
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	平野 泰朗
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等	【科目】教科に関する科目(中学校 社会) 【施行規則に定める科目区分】「社会学、経済学」 【教員免許状取得のための履修区分】選択 【科目】教科に関する科目(高等学校 公民) 【施行規則に定める科目区分】「社会学、経済学(国際経済を含む。)」 【教員免許状取得のための履修区分】選択		

授業概要・目的	現代日本経済の特徴を、企業システム、市場構造、金融システム、国際関係の諸側面において理解した上で、国民経済システムの全体像を理解する。受講生は、日常目にしやすい部門(小売、飲食業、旅行など)ばかりでなく、目につきにくい部門(製造、建設、卸売、事業所向けサービスなど)にも関心をもてるよう、視野を広げてほしい。
到達目標	日本経済に関するニュース(新聞、雑誌、インターネット・ニュース)に興味を持ち、それに関する情報を収集し、分析できるようになる。
授業方法と留意点	講義形式。毎回、レジュメを配布し、それに基づいて講義する。必要に応じて、参考資料を配布する。また、場合によって、視聴覚教材も使用する。
科目学習の効果(資格)	マスメディアにおける経済関係のニュースが、理解できるようになる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	日本的企業システム2: 労働編成様式	企業の労働編成様式のあり方次第で、生産のノウハウの中身が異なる。そこで、代表的な労働編成様式であるフォードシステムとフレキシブルな生産システムを取り上げ、両者の特徴を明らかにした上で、日本企業が後者に属することを学ぶ。	今回のレジュメとノートを、授業後確認する。
3	日本的企業システム3: 労働者の技能形成システム	企業を生産のノウハウを蓄積した集団ととらえると、そこでの労働者の技能形成が重要な意味をもつことが分かる。その技能形成システムの日本的特質を学ぶ。	仕事の上達とスポーツ・芸術の上達との共通点を考えてみましょう。
4	日本的企業システム4: 労使関係	企業を構成する三者(所有者・経営者・労働者)のうち、経営者と労働者の関係のあり方とその日本的特質(終身雇用・年功賃金・企業別組合)について学ぶ。	会社で働く場合と自営業で働く場合の違いを考えてみましょう。
5	日本的企業システム5: 企業統治とメインバンク	企業を構成する三者(所有者・経営者・労働者)のうち、経営者と所有者(株主・投資家)との関係のあり方の日本的特質を、株式相互持ち合いとメインバンク制を中心に学ぶ。	かつてのライブドア事件を調べてみましょう。また、同じ企業グループにいることは、どこで分かるか、考えてみましょう。
6	企業間関係: 系列と下請	企業対企業の取引関係(B to B)のあり方の日本的特徴を、長期的・継続的取引関係と捉え、その特徴を学ぶ。	「下請け」は外国にもあるか、調べてみましょう。
7	現代日本の流通: 供給主導から需要主導へ	戦後の日本の生産と流通の関係を、供給主導から需要主導への移行として捉え、流通に見られる日本経済の特徴を学ぶ。	卸売り企業は、どういうことをする企業なのか、調べてみましょう。また、コンビニの仕組みを調べてみましょう。
8	日本の金融1: 間接金融とメインバンク制	金融とは何かを実例に即して理解した上で、日本の金融システムが銀行中心の間接金融であったことと、その中でメインバンクと言われる銀行の役割について学ぶ。	利子は最終的に誰が支払うのか、考えてみましょう。
9	日本の金融2: 資金調達の変化と証券市場	間接金融中心であった日本の金融システムが、証券市場から資金を調達する直接金融に比重を移したことで、それが産業に与える影響について学ぶ。	株を買う目的には、どのようなものがあるか、教え上げてみましょう。
10	日本の成長体制と調整様式	高度経済成長期の特徴(投資主導型成長、キャッチアップ型成長、所得上昇と均等的所得分配)を理解した上で、それを可能にした様々な制度について学ぶ。	日本の高度経済成長と現在のアジア諸国の経済成長とを比較してみましょう。
11	輸出主導型成長	1970年代後半からの成長体制の特徴が輸出主導型成長に変化したことを、労働生産性上昇、賃金変化、為替レートの特徴から学ぶ。	日本の貿易収支を調べてみましょう。
12	海外直接投資と所得収支: マネーの台頭	多国籍企業化する日本企業の動向を確認しつつ、海外直接投資が日本の産業と国際収支に与える影響について学ぶ。	日本の貿易収支と所得収支を比べてみましょう。
13	グローバリゼーションと世界同時不況	1990年代から起こり始めた金融のグローバル化およびその後の金融危機の発生メカニズム、金融経済と实体经济の関連について学ぶ。	「リーマン・ショック」がどうして起きたのかを調べてみましょう。
14	日本型成長の転換	金融と生産活動のグローバル化とともに、日本経済が克服すべき課題も変化した。そのことを、輸出主導型成長の変容、アベノミクス、多国籍企業対国内企業、	「リーマン・ショック」後の日本経済の動向を調べてみましょう。

			食料・資源・インフラストラクチュア、 新輸出産業の創世の5点から理解する。	
	15	まとめ	これまでの講義のまとめと補足を行う。	授業で、新しく知ったことを文章で書いてみましょう。
関連科目	日本経済史			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	さまざまな資本主義	山田鋭夫	藤原書店
	2	資本主義の終焉と歴史の危機	水野和夫	集英社新書
	3			
評価方法 (基準)	<p>数度行われる小テストおよび定期試験により評価する。 小テストは、主に、ノートを確実に取っているかを確認するために行われる。 概ね、小テスト40%、定期試験60%で評価する。 なお、出席日数が不足する者は、単位取得の資格を失う場合がある。</p>			
学生への メッセージ	経済関係のニュースが分かるようになります。そうすれば、世の中を見る目が広くなるし、将来、職を探すのにも役に立つはず。			
担当者の 研究室等	1号館7階 平野教授室（経済学部）			
備考				

科目名	日本産業史	科目名(英文)	Japanese Industrial History
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	田中 幹大
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等	【科目】教科に関する科目(中学校 社会) 【施行規則に定める科目区分】日本史及び外国史 【教員免許状取得のための履修区分】選択 【科目】教科に関する科目(高等学校 地理歴史) 【施行規則に定める科目区分】日本史 【教員免許状取得のための履修区分】必修		

授業概要・目的	20世紀の日本経済の発展をもたらしたリーディング産業をとりあげ、その形成過程や発展・衰退要因、また、これからの日本のリーディング産業の創出、産業政策との関係について、理解してもらう。各時代の個別産業を取り上げて、それが日本のリーディング産業となっていく過程や衰退する過程について、生産組織と技術、国際的な競争関係などを中心に講義を進めていく。また、産業政策と産業発展との関連についても講義していく。
到達目標	①現在までの日本のリーディング産業の盛衰の歴史を理解すること ②今後のリーディング産業の創出を展望するにあたって、日本経済・社会が直面している課題を理解すること。
授業方法と留意点	レジュメ、パワーポイントによる解説と映像資料を使用する。
科目学習の効果(資格)	日本の産業史の全体像について把握できる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	日本産業史の概観	近代から現代までの日本の産業発展について概説する。	講義中に示した課題を検討してください。
2	産業発展モデルと日本のリーディング産業史ー日本産業史への接近ー	後発工業国日本ではどのようにして産業が発展し、リーディング産業が創出されてきたかを検討する。	講義中に示した課題を検討してください。
3	技術革新とリーディング産業	リーディング産業創出にとって不可欠な技術革新は日本ではどのような研究・開発体制のもとで行われたのか、また個別企業はどのようにして技術革新を行ってきたのかについて検討する。	講義中に示した課題を検討してください。
4	繊維産業史の概観①	戦前期の繊維産業の成長・発展過程を概観し、その要因について検討する。	講義中に示した課題を検討してください。
5	繊維産業史の概観②	戦後の繊維産業の衰退過程について概観し、その要因について検討する。	講義中に示した課題を検討してください。
6	繊維産業と産業調整政策	戦後、衰退していく繊維産業に対して、通商産業省はどのような政策を実行したかを検討する。	講義中に示した課題を検討してください。
7	重化学工業	重化学工業の技術革新や成長・発展がどのように行われたのかを概観する。	講義中に示した課題を検討してください。
8	日本における自動車産業の形成と発展	戦前から現在にいたる日本自動車産業の形成・発展過程を検討する。	講義中に示した課題を検討してください。
9	自動車産業とサプライヤシステム	日本の自動車産業の特徴であるサプライヤシステムについて検討する。	講義中に示した課題を検討してください。
10	自動車産業政策	戦後の通商産業省の自動車産業政策が、同産業の展開にとってどのような意味をもったかを検討する。	講義中に示した課題を検討してください。
11	新興国市場の拡大と日本産業	中国などの新興国市場の拡大の中で、日本の産業がどのようにグローバル・アジア展開をしているか検討する。	講義中に示した課題を検討してください。
12	国際競争の変化と日本産業①	日本の諸産業分野における国際競争力の低下現象について検討する。	講義中に示した課題を検討してください。
13	国際競争の変化と日本産業②	日本産業における技術的優位が国際競争力に結びついていない構造について検討する。	講義中に示した課題を検討してください。
14	これからのリーディング産業	これからのリーディング産業を創出するために行われている、さまざまな政策的取り組みの内容をみていく。	講義中に示した課題を検討してください。
15	まとめ	日本の産業史、リーディング産業創出の過程を踏まえたうえで、今後の日本の産業発展を展望する。	講義中に示した配布物の該当箇所を読み直すこと。

関連科目	日本経済史、日本経済論
------	-------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	授業初回に指示します。		
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	定期試験 100%で評価する。
----------	-----------------

学生へのメッセージ	日本の産業史を踏まえて、今後の産業発展の方向性を検討してください。
-----------	-----------------------------------

担当者の	7号館2階 非常勤講師室
------	--------------

研究室等	
備考	

科目名	農業経済論	科目名(英文)	Agricultural Economics
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	野口 義直
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	食糧生産を担う農業は、私たちの生活を支える基本的な産業である。伝統的に農業は地域共同体の再生産と一体の自給自足的な形態で営まれてきたが、現代の農業は商品作物の販売を目的とする商業的農業である。多国籍アグリビジネスによる途上国の農業支配は、途上国の伝統的な農村構造を解体し、単一の商品作物の生産に特化させて途上国農業を変容させた(モノカルチャー)。さらに、近年の日本農業は経済のグローバル化の影響を受けて国際競争にさらされている。また、農薬、遺伝子組み換え作物、バイオ燃料などの科学技術の発展は、農業そのもののあり方も大きく変容させるとともに、環境問題の懸念も引き起こしている。本講義では、このような現代の農業に関わる変化について概観し、現代の農業問題とその解決の処方箋を探求する。
到達目標	農業と食料に関する諸問題と経済構造についての認識を深める。
授業方法と留意点	視聴覚教材を活用した講義形式で行う。毎回の講義後にレポート課題の提出を求める。
科目学習の効果(資格)	特になし

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	――	――
2	グローバリゼーションと世界の農業(1) コーヒー豆から見えるグローバル経済	農産物価格の低迷と農業国の貧困、フェア・トレード運動。 視聴覚教材: BS 世界のドキュメンタリー「エチオピア コーヒー生産国の悲劇」2005年、イギリス。	事後・レポート提出
3	グローバリゼーションと世界の農業(2) 穀物の国際価格の変動と途上国の飢餓問題	世界の貧困層の基礎的食料であるインディカ米の価格高騰と飢餓問題。 視聴覚教材: BS 世界のドキュメンタリー「コム貿易の背徳」2010年、フランス。	事後・レポート提出
4	グローバリゼーションと世界の農業(3) 先進国企業による途上国の農地開発と伝統的農業の破壊	ランド・ラッシュ。アメリカ企業によるアフリカ・ニジェール川流域開発によって伝統的農業の基盤を奪われる住民たち 視聴覚教材: BS 世界のドキュメンタリー「収穫は誰のもの?」2012年、国際共同制作。	事後・レポート提出
5	持続可能な農業を目指して(1) 土地収奪型農業からの脱却 焼き畑農業	農業の前提条件である土壌の再生産、そのための森林の再生産 視聴覚教材: BS 世界のドキュメンタリー「豆の木が森を救う～焼き畑農業からの脱却」2012年、イギリス。	事後・レポート提出
6	持続可能な農業を目指して(2) 土地収奪型農業からの脱却 乾燥地における灌漑と塩害	オーストラリアにおける植林と土壌改良 視聴覚教材: BS 世界のドキュメンタリー「食糧増産へのチャレンジ 不毛の大地がよみがえる～オーストラリア」2011年、イギリス。	事後・レポート提出
7	農業の工業化(1) アメリカのトウモロコシ農業の工業化	遺伝子組み換え作物。トウモロコシの工業利用。バイオ・プラスチック、バイオ燃料。 視聴覚教材: BS 世界のドキュメンタリー「キング・コーン～トウモロコシの国を行く」2008年、アメリカ。	事後・レポート提出
8	農業の工業化(2) アメリカのバイオ燃料、トウモロコシは燃料か食料か	アメリカにおけるトウモロコシのバイオ燃料利用急増による穀物価格高騰 視聴覚教材: NHK スペシャル「ファンドマネーが食を操る～穀物高騰の裏で」2007年。	事後・レポート提出
9	農業の工業化(3) 新興国におけるバイオ燃料	ブラジル。サトウキビ原料のバイオ燃料産業育成による貧困対策。 インドネシアとマレーシア。パームオイル(椰子油)の生産拡大と熱帯雨林破壊、温暖化促進。 視聴覚教材: NHK スペシャル「ラテンアメリカの挑戦」2006年。NHK クローズアップ現代「地球温暖化 森林破壊を食い止める」2007年。	事後・レポート提出
10	嗜好品産業の国際マーケティングとその規制(1) タバコ産業	タバコ産業の国際マーケティング。先進国の喫煙規制強化と途上国マーケティングの強化。 視聴覚教材: BS 世界のドキュメンタリー「アジアをねらう国際タバコ産業」2011年、アメリカ。	事後・レポート提出
11	嗜好品産業の国際マーケティングとその規制(2) 砂糖産業と清涼飲料水メーカー	砂糖への依存と先進国の肥満問題 視聴覚教材: BS 世界のドキュメンタリー「世界を動かす砂糖産業」2005年、カナダ。	事後・レポート提出
12	TPP と日本農業(1) 日本の伝統的農業と農村	経済のグローバル化と日本の農村 農村部の基盤産業としての農業	事後・レポート提出

			農産物輸入自由化と食糧自給率の低下	
	13	TPP と日本農業(2) TPP をめぐる輸出製造業と国内農業の利害対立	視聴覚教材：NHK スペシャル「TPP交渉 どう攻める どう守る」2013年。	事後・レポート提出
	14	TPP と日本農業(3) 農業保護の是非、日本農業の国際競争力強化は可能か	農産物の自由貿易か、保護貿易か リカード対リストの経済理論上の対立	事後・レポート提出
	15	講義のまとめ	—————	事後・レポート提出
関連科目	経済地理、地球環境経済、国際経済論			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	学習態度 (30%)、課題提出 (70%) で総合的に評価する。			
学生への メッセージ	農業は、私たちの生活の基礎となる食糧供給や自然環境保全に関わる重要な産業分野です。 関心の高い学生の参加を求めます。			
担当者の 研究室等	1号館7階 野口准教授室 (経済学部)			
備考	テーマや視聴覚教材は、現実の情勢に応じて更新される場合がある。			

科目名	ビジネス中国語	科目名(英文)	Business Chinese
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	郭 進
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	この講義は、実用的な中国語コミュニケーション能力を身につけることを目的としている。		
到達目標	この授業を履修することによって、①発音、声調など中国語の基礎知識を習得できる。②挨拶から質問の仕方・答え方などビジネス場面で必要な中国語会話を身につける。③日中文化の違いの観点から日本語と中国語の表現の違いを理解できる。		
授業方法と留意点	聞く能力と話す能力を重視しながら、実践的な講義を行う。		
科目学習の効果(資格)	中国語検定試験		
授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等
	1	講義ガイダンス	コール教室における設備の使い方、講義の進め方を紹介する。
	2	発音(1)	表記の規則、単母音、声調などを紹介する。
	3	発音(2)	重母音、鼻母音、子音、声調の変化などを紹介する。
	4	呼称と挨拶	簡単な呼称とあいさつの仕方を紹介する。
	5	自己紹介	簡単な自己紹介の仕方を紹介する。
	6	質問の仕方	疑問や答えの表現を紹介する。
	7	買い物	数量や貨幣を表す語について紹介する。
	8	前半のまとめ、小テスト。	前半1-7回の内容をまとめる。後半は小テストを行う。
	9	方位の表現	場所と方位を表す語について紹介する。
	10	時間の表現	時刻と時間の長を表す語について紹介する。
	11	ホテルのフロントにて	ホテルの予約と手続きの表現を紹介する。
	12	タクシーに乗る	タクシーの乗り方を紹介する。
	13	試着と支払	買い物の仕方を紹介する。
	14	苦情を訴える	苦情の訴え方を紹介する。
	15	紛失届を出す、総まとめ	紛失届の出し方を紹介し、総まとめを行う。
			事前・事後学習課題
			授業後、アンケートを実施。
			講義中の問題を復習する。
			講義中の問題を復習する。
			講義中の問題を復習する。
			1-7回の内容を事前復習する。
			講義中の問題を復習する。
			講義中の問題を復習する。
			講義中の問題を復習する。
			講義中の問題を復習する。
			これまでの講義内容を復習する。
関連科目	特になし		
教科書	番号	書籍名	著者名
	1	1年生のコミュニケーション中国語	劉穎
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
評価方法(基準)	授業での提出課題50%、授業態度50%の割合で総合的に評価する。		
学生へのメッセージ	学習には積み重ねが大切ですので、毎回出席してください。疑問点や不明な点は積極的に質問してください。		
担当者の研究室等	1号館7階 郭講師室 (経済学部)		
備考			

科目名	ファイナンシャル・プランニング	科目名(英文)	Financial Planning
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	植杉 大
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	FP3級取得レベルの知識の習得			
到達目標	FP技能士の資格試験は毎年5月・9月・1月に実施されますが、夏期休暇中の授業の復習を通じて、9月試験の合格を目指します。			
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・原則的に講義形式です。 ・講義内で頻繁に問題演習を行います。 ・おおよそ講義2回に1回は確認テストを行います。成績評価にも関連しますので、確認テストは必ず受けるようにしてください。 			
科目学習の効果(資格)	FP3級の取得、FP2級の学習への予備的学習			
授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	ファイナンシャル・プランニングとは何か	ファイナンシャルプランニングおよびファイナンシャルプランナー(以下FP)に関する概要	特になし
	2	ライフプランニングと資金計画(1)	ライフプランニングの考え方・手法	第2回の復習
	3	ライフプランニングと資金計画(2)	公的年金制度	第3回の復習
	4	ライフプランニングと資金計画(3)	ライフプラン策定上の資金計画	第2回から第4回までの復習(第5回に確認テスト①)
	5	確認テスト① + リスク管理(1)	生命保険	第5回の復習
	6	リスク管理(2)	損害保険 第三の保険	第5回から第6回までの復習(第7回に確認テスト②)
	7	確認テスト② + 金融資産運用(1)	各種経済指標 マーケット環境の理解 投資信託	第7回の復習
	8	金融資産運用(2)	債券・株式 その他金融商品 金融資産に係る税金 ポートフォリオ運用	第7回から第8回までの復習(第9回に確認テスト③)
	9	確認テスト③ + タックスプランニング(1)	所得税制度 各種所得①	第9回の復習
	10	タックスプランニング(2)	各種所得② 所得税計算	第9回から第10回までの復習(第11回に確認テスト④)
	11	確認テスト④ + 不動産(1)	不動産の価格 不動産取引に係る法律 不動産登記	第11回の復習
	12	不動産(2)	不動産に係る関連法規(都市計画法・建築基準法など) 不動産に係る税金	第11回から第12回までの復習(第13回に確認テスト⑤)
	13	確認テスト⑤ + 相続・事業承継(1)	贈与・相続制度	第13回の復習
	14	相続・事業承継(2)	贈与・相続に係る税金	第13回から第14回までの復習(第15回に確認テスト⑥)
	15	確認テスト⑥ + 今後の学習について	期末テストについて 今後のFP学習について	特になし
関連科目	金融論・地域金融論など			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	パーフェクトFP技能士3級対策問題集・学科編(14~15年版)	きんざいファイナンシャル・プランナーズ・センター	きんざい
	2	パーフェクトFP技能士3級対策問題集・実技編(個人資産相談業務)(14~15年版)	きんざいファイナンシャル・プランナーズ・センター	きんざい
	3			
評価方法(基準)	確認テスト(計6回)60%、定期試験40%			
学生へのメッセージ	FP試験の範囲は非常に広範ですが、それだけ幅広いファイナンスや経済学の学習が可能です。これまで学んだ事項を、現実の生活に応用するための基礎力を学ぶことができますので、資格取得を目指すきっかけとして積極的に参加してください。			
担当者の研究室等	1号館7階 植杉准教授室(経済学部)			
備考	病欠その他都合により確認テストが受けられない場合には、理由を添えて、後日受けるようにしてください(もし受けないと、その回のテストは0点扱いとします)。 FP試験は年間3回あります(5月・9月・1月)ので、積極的に受験することを勧めます。			

科目名	貿易論	科目名(英文)	International Trade
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	田中 鮎夢
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	現代の国際経済を理解できるよう、国際貿易論の基礎を学ぶ。																																																																		
到達目標	国際貿易論の基本を習得し、国際貿易に関する新聞記事を読めるようになること。																																																																		
授業方法と留意点	講義形式で行うが、講義時間内に課題を課すことがある。																																																																		
科目学習の効果(資格)	公務員試験(警察・消防、地方上級)の試験範囲を扱う。																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>国際貿易論とは何か</td> <td>貿易利益</td> <td>講義内容の復習</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>国際貿易論の基礎</td> <td>機会費用と比較優位、貿易パターン</td> <td>講義内容の復習</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>リカード・モデル</td> <td>リカードモデルの設定</td> <td>講義内容の復習</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>リカード・モデルと現実</td> <td>リカードモデル、リカードモデルの妥当性</td> <td>講義内容の復習</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>ヘクシャー＝オーリン・モデル</td> <td>2生産要素のモデル</td> <td>講義内容の復習</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>ヘクシャー＝オーリン定理</td> <td>ヘクシャー＝オーリン・モデルの4つの定理</td> <td>講義内容の復習</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>新しい貿易理論</td> <td>規模の経済と財の多様性</td> <td>講義内容の復習</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>新しい貿易理論と現実</td> <td>産業間貿易</td> <td>講義内容の復習</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>空間経済学</td> <td>空間経済学とはなにか</td> <td>講義内容の復習</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>集積</td> <td>経済活動の集積</td> <td>講義内容の復習</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>貿易政策</td> <td>貿易政策の効果</td> <td>講義内容の復習</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>保護貿易</td> <td>保護貿易の実態と評価、政治経済学</td> <td>講義内容の復習</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>国際生産要素移動</td> <td>国際生産要素移動の姿、移民</td> <td>講義内容の復習</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>国際資本移動</td> <td>マクドゥーガル・ケンプ・モデル</td> <td>講義内容の復習</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>総括</td> <td>これまでの講義内容の復習</td> <td>講義内容の復習</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	1	国際貿易論とは何か	貿易利益	講義内容の復習	2	国際貿易論の基礎	機会費用と比較優位、貿易パターン	講義内容の復習	3	リカード・モデル	リカードモデルの設定	講義内容の復習	4	リカード・モデルと現実	リカードモデル、リカードモデルの妥当性	講義内容の復習	5	ヘクシャー＝オーリン・モデル	2生産要素のモデル	講義内容の復習	6	ヘクシャー＝オーリン定理	ヘクシャー＝オーリン・モデルの4つの定理	講義内容の復習	7	新しい貿易理論	規模の経済と財の多様性	講義内容の復習	8	新しい貿易理論と現実	産業間貿易	講義内容の復習	9	空間経済学	空間経済学とはなにか	講義内容の復習	10	集積	経済活動の集積	講義内容の復習	11	貿易政策	貿易政策の効果	講義内容の復習	12	保護貿易	保護貿易の実態と評価、政治経済学	講義内容の復習	13	国際生産要素移動	国際生産要素移動の姿、移民	講義内容の復習	14	国際資本移動	マクドゥーガル・ケンプ・モデル	講義内容の復習	15	総括	これまでの講義内容の復習	講義内容の復習
回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題																																																																
1	国際貿易論とは何か	貿易利益	講義内容の復習																																																																
2	国際貿易論の基礎	機会費用と比較優位、貿易パターン	講義内容の復習																																																																
3	リカード・モデル	リカードモデルの設定	講義内容の復習																																																																
4	リカード・モデルと現実	リカードモデル、リカードモデルの妥当性	講義内容の復習																																																																
5	ヘクシャー＝オーリン・モデル	2生産要素のモデル	講義内容の復習																																																																
6	ヘクシャー＝オーリン定理	ヘクシャー＝オーリン・モデルの4つの定理	講義内容の復習																																																																
7	新しい貿易理論	規模の経済と財の多様性	講義内容の復習																																																																
8	新しい貿易理論と現実	産業間貿易	講義内容の復習																																																																
9	空間経済学	空間経済学とはなにか	講義内容の復習																																																																
10	集積	経済活動の集積	講義内容の復習																																																																
11	貿易政策	貿易政策の効果	講義内容の復習																																																																
12	保護貿易	保護貿易の実態と評価、政治経済学	講義内容の復習																																																																
13	国際生産要素移動	国際生産要素移動の姿、移民	講義内容の復習																																																																
14	国際資本移動	マクドゥーガル・ケンプ・モデル	講義内容の復習																																																																
15	総括	これまでの講義内容の復習	講義内容の復習																																																																
関連科目	経済学入門、ミクロ経済学、マクロ経済学																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>基礎コース 国際経済学</td> <td>澤田康幸</td> <td>新世社</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	基礎コース 国際経済学	澤田康幸	新世社	2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	基礎コース 国際経済学	澤田康幸	新世社																																																																
2																																																																			
3																																																																			
評価方法(基準)	平常点40%(小テスト等)、定期試験60%の割合で評価する。受講態度(私語等)によって、減点を行う。不正行為には厳正な措置をとる。小テストを4?5回程度実施予定。																																																																		
学生へのメッセージ	意欲ある学生を歓迎します。																																																																		
担当者の研究室等	1号館7階田中講師室																																																																		
備考	受講生の理解度に応じて、講義内容・講義進度・小テストの回数には変更がありえる。																																																																		

科目名	簿記原理 I	科目名 (英文)	Principles of Bookkeeping I
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	朴 景淑
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	一定期間の経営成績を企業内外部の利害関係者に報告するための一連のプロセスが会計システムである。会計情報を作るための重要な手段が簿記であるため、簿記の基本を理解することで、実際の企業経営に必要となる財務管理の仕組みを把握する。簿記の基本的な手続きを理解し、日常的な取引の帳簿記録(仕訳)ができ、簿記における最終成果物である財務諸表の理解し、経営管理における財務管理の必要性の理解するよう講義・演習を行う。
到達目標	(1)簿記の基本的な手続き(特に、日常の手続き)の理解 (2)簿記における最終成果物である財務諸表の理解 (3)経営管理における財務管理の必要性の理解
授業方法と留意点	授業はパワーポイントと板書を利用する。授業は90分を一つの単位で、「理論説明」「演習」「確認テスト」として構成される。演習と確認テストを通じて、授業内容は、できるだけ、その時間内に理解できるようにしてください。
科目学習の効果(資格)	本授業は経営分野すべての基礎である会计学の基礎知識の習得が可能な内容である。また、日商簿記・税理士・会計士・中小企業診断士、FP、SA等経営会計関連資格の基礎科目である。

	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
		1	ガイダンス・簿記の概要	講義の進め方、講義の概要などを説明
授業計画	2	日常の手続き：現金・現金過不足	会計期間中に日常的に発生する取引の中で、現金と関連する取引について学習する	演習問題・確認テスト
	3	日常の手続き：当座預金・小口現金①	会計期間中に日常的に発生する取引の中で、当座預金と小口現金と関連する取引の仕組みを理解し、関連する取引を記録できるようにする	演習問題・確認テスト
	4	日常の手続き：当座預金・小口現金②	会計期間中に日常的に発生する取引の中で、当座預金と小口現金と関連する取引の仕組みを理解し、関連する取引を記録できるようにする	演習問題・確認テスト
	5	日常の手続き：手形①	手形の仕組、種類(約束手形・為替手形)、手形の裏書き、手形の割引など、手形と関連して発生する取引について学習する	演習問題・確認テスト
	6	日常の手続き：手形②	手形の仕組、種類(約束手形・為替手形)、手形の裏書き、手形の割引など、手形と関連して発生する取引について学習する	演習問題・確認テスト
	7	日常の手続き：手形③	手形の仕組、種類(約束手形・為替手形)、手形の裏書き、手形の割引など、手形と関連して発生する取引について学習する	演習問題・確認テスト
	8	その他の日常(期中)の取引①	期中に日常的に発生する取引の処理について学習する。 貸付金・借入金、手形貸付金・手形借入金、未収金・未払金、前払金・前受金、仮払金・仮受金、立替金・預り金、固定資産(減価償却費)、有価証券、商品券と他店商品券、配当金や利息等	演習問題・確認テスト
	9	その他の日常(期中)の取引②	期中に日常的に発生する取引の処理について学習する。 貸付金・借入金、手形貸付金・手形借入金、未収金・未払金、前払金・前受金、仮払金・仮受金、立替金・預り金、固定資産(減価償却費)、有価証券、商品券と他店商品券、配当金や利息等	演習問題・確認テスト
	10	その他の日常(期中)の取引③	期中に日常的に発生する取引の処理について学習する。 貸付金・借入金、手形貸付金・手形借入金、未収金・未払金、前払金・前受金、仮払金・仮受金、立替金・預り金、固定資産(減価償却費)、有価証券、商品券と他店商品券、配当金や利息等	演習問題・確認テスト
	11	その他の日常(期中)の取引④	期中に日常的に発生する取引の処理について学習する。 貸付金・借入金、手形貸付金・手形借入金、未収金・未払金、前払金・前受金、仮払金・仮受金、立替金・預り金、固定資産(減価償却費)、有価証券、商品券と他店商品券、配当金や利息等	演習問題・確認テスト
	12	その他の日常(期中)の取引⑤	期中に日常的に発生する取引の処理について学習する。 貸付金・借入金、手形貸付金・手形借入金、未収金・未払金、前払金・前受金、仮払金・仮受金、立替金・預り金、固定資産(減価償却費)、有価証券、商品券と他店商品券、配当金や利息等	演習問題・確認テスト
	13	総勘定元帳の締め切りプロセス	期中に日常的に発生する取引を記録した総勘定元帳の締め切りプロセスを学習	演習問題・確認テスト

			する。資産勘定科目・負債勘定科目・資本勘定科目の締め切りと次期繰り越しの手續きおよび、収益勘定科目と費用勘定科目の損益への振り替え手續きを理解する。																	
	14	試算表および精算表の理解	決算報告書である精算表の形式および内容を理解し、また精算表の作成過程である試算表を理解し、作成手續きを学習する。	演習問題・確認テスト																
	15	まとめ	講義のまとめおよび質疑応答	演習問題																
関連科目	「会計学入門」を履修していることが望ましい。 「簿記原理Ⅱ」「管理会計論」と関連する。																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3						
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2																				
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3						
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2																				
3																				
評価方法 (基準)	定期試験 60%、平常点 40% (授業中の演習・レポートなど) で総合的に評価する。																			
学生への メッセージ	講義内容は全てつながっており、継続的に受講しないと分からなくなる。 ※「簿記原理Ⅰ」を履修するためには、「会計学入門」を履修しているか、または、それに相当する基礎知識を習得していることが望ましい。																			
担当者の 研究室等	1号館7階 朴教授室 (経済学部)																			
備考																				

科目名	簿記原理Ⅱ	科目名(英文)	Principles of Bookkeeping II
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	朴 景淑
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	一定期間の経営成績を企業内外部の利害関係者に報告するための一連のプロセスが会計システムである。会計情報を作るための重要な手段が簿記であるため、簿記の基本を理解することで、実際の企業経営に必要な財務管理の仕組みを把握する。簿記の基本的な手続きを理解し、日常的な取引の帳簿記録(仕訳)と共に決算手続きができるよう、企業会計基準に沿って決算手続きを解説し演習を行う。
到達目標	1. 簿記の基本的な手続きの理解 2. 日常の手続き・決算手続きができること 3. 財務諸表(貸借対照表・損益計算書)の作成と解説ができること
授業方法と留意点	授業はパワーポイントと板書を利用する。授業は90分を一つの単位で、「理論説明」「演習」「確認テスト」として構成される。演習と確認テストを通じて、授業内容は、できるだけ、その時間内に理解できるようにしてください。
科目学習の効果(資格)	日商簿記・税理士・公認会計士・中小企業診断士、FP、SA等経営会計関連資格の基礎科目である。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス・簿記の全体の流れ	講義の進め方、講義の概要などを説明	授業全体における学習内容および流れの把握
2	商品取引 ①日常の取引の手続き	売買業において最も頻繁に発生する商品取引について学習する	演習問題・確認テスト
3	商品取引 ②決算時の手続き	商品取引と関連して、決算時に必要な手続きについて学習する	演習問題・確認テスト
4	商品取引 ③決算時の手続き	商品取引と関連して、決算時に必要な手続きについて学習する 繰越商品の整理・売上原価の計算・仕入勘定の整理	演習問題・確認テスト
5	収益・費用の決算手続き ①	繰延べ・見越しとは、費用の繰延べ・収益の繰延べ・費用の見越し・収益の見越しに関する決算整理仕訳と振替仕訳について学習する	演習問題・確認テスト
6	収益・費用の決算手続き ②	繰延べ・見越しとは、費用の繰延べ・収益の繰延べ・費用の見越し・収益の見越しに関する決算整理仕訳と振替仕訳について学習する	演習問題・確認テスト
7	精算表の作成 ①	決算整理事項を考慮したうえで、精算表を作成して、さらに、精算表から貸借対照表(B/S)と損益計算書(P/L)の作成演習を行う	演習問題・確認テスト
8	精算表の作成 ②	決算整理事項を考慮したうえで、精算表を作成して、さらに、精算表から貸借対照表(B/S)と損益計算書(P/L)の作成演習を行う	演習問題・確認テスト
9	勘定の締め切り ①	決算整理によって5要素に属する勘定の記録が正しくなったことを確認し、各勘定を締め切る手続きを演習する	演習問題・確認テスト
10	勘定の締め切り ②	決算整理によって5要素に属する勘定の記録が正しくなったことを確認し、各勘定を締め切る手続きを演習する	演習問題・確認テスト
11	財務諸表の作成 ①	決算整理が終わった後の、精算表に基づいて貸借対照表と損益計算書を作成する手続きを学習する	演習問題・確認テスト
12	財務諸表の作成 ②	決算整理が終わった後の、精算表に基づいて貸借対照表と損益計算書を作成する手続きを学習する	演習問題・確認テスト
13	伝票式会計と補助帳簿①	伝票式会計の意義と各種補助帳簿について学習する	演習問題・確認テスト
14	伝票式会計と補助帳簿②	伝票式会計の意義と各種補助帳簿について学習する	演習問題・確認テスト
15	まとめ	講義のまとめおよび質疑応答	演習問題

関連科目 「会計学入門」「簿記原理Ⅰ」「管理会計論」

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法(基準) 定期試験60%、平常点40%(授業中の演習・レポートなど)で総合的に評価する。

学生へのメッセージ 講義内容は全てつながっており、継続的に受講しないと分からなくなる。

	※「簿記原理Ⅱ」を履修するためには、「簿記原理Ⅰ」「会計学入門」を履修しているか、または、それに相当する基礎知識を習得していることが必要である。
担当者の 研究室等	1号館7階 朴教授室（経済学部）
備考	

科目名	ホスピタリティ論	科目名(英文)	Hospitality Management
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	野村 佳子
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	重要性が認識されているにもかかわらず、あいまいに捉えられることが多い「ホスピタリティ」について学習し、具現化するためにはどうすればよいのかを考えていきます。																																																																		
到達目標	ホスピタリティについて具体的なイメージを持ち、実現するための人材要件について理解を深めることを目標とします。																																																																		
授業方法と留意点	授業は講義中心に進めますが、理解を深めるための事例研究や演習なども行います。																																																																		
科目学習の効果(資格)																																																																			
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>イントロダクション</td> <td>授業の概要と進め方の説明およびホスピタリティ論への導入</td> <td>事後：配布資料の復習</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>ホスピタリティとは何か</td> <td>ホスピタリティの重要性と対象について講義する</td> <td>事後：配布資料の復習</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>ホスピタリティとコミュニケーション</td> <td>ホスピタリティとコミュニケーションとの関連について講義する</td> <td>事後：配布資料の復習</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>日本のホスピタリティ</td> <td>日本のホスピタリティの歴史と考え方について講義する</td> <td>事後：配布資料の復習</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>欧米のホスピタリティ</td> <td>欧米でのホスピタリティの歴史と考え方を講義する</td> <td>事後：配布資料の復習</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>ホスピタリティに関連する概念</td> <td>サービス、サービス品質、顧客満足等、ホスピタリティに関連する概念について講義する</td> <td>事後：配布資料の復習</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>宿泊産業、航空産業とホスピタリティ</td> <td>宿泊産業、航空産業ではホスピタリティをいかに実践しているのかについて講義する</td> <td>事後：配布資料の復習</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>事例研究 (1)</td> <td>ホスピタリティを実践している企業について研究する</td> <td>事後：レポート提出</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>事例研究 (2)</td> <td>ホスピタリティを実践している企業について研究する</td> <td>事後：レポート提出</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>ホスピタリティと人材</td> <td>ホスピタリティを具現化する人材の要件について講義する</td> <td>事後：配布資料の復習</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>演習</td> <td>テーマを決めて演習を行う</td> <td>事後：演習内容の復習</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>演習</td> <td>テーマを決めて演習を行う</td> <td>事後：演習内容の復習</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>演習</td> <td>テーマを決めて演習を行う</td> <td>事後：レポート提出</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>感情労働について</td> <td>感情労働者の特徴と組織における管理について講義する</td> <td>事後：配布資料の復習</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>まとめと補足</td> <td>講義を通してのまとめと補足を行う</td> <td>事後：レポート提出</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	イントロダクション	授業の概要と進め方の説明およびホスピタリティ論への導入	事後：配布資料の復習	2	ホスピタリティとは何か	ホスピタリティの重要性と対象について講義する	事後：配布資料の復習	3	ホスピタリティとコミュニケーション	ホスピタリティとコミュニケーションとの関連について講義する	事後：配布資料の復習	4	日本のホスピタリティ	日本のホスピタリティの歴史と考え方について講義する	事後：配布資料の復習	5	欧米のホスピタリティ	欧米でのホスピタリティの歴史と考え方を講義する	事後：配布資料の復習	6	ホスピタリティに関連する概念	サービス、サービス品質、顧客満足等、ホスピタリティに関連する概念について講義する	事後：配布資料の復習	7	宿泊産業、航空産業とホスピタリティ	宿泊産業、航空産業ではホスピタリティをいかに実践しているのかについて講義する	事後：配布資料の復習	8	事例研究 (1)	ホスピタリティを実践している企業について研究する	事後：レポート提出	9	事例研究 (2)	ホスピタリティを実践している企業について研究する	事後：レポート提出	10	ホスピタリティと人材	ホスピタリティを具現化する人材の要件について講義する	事後：配布資料の復習	11	演習	テーマを決めて演習を行う	事後：演習内容の復習	12	演習	テーマを決めて演習を行う	事後：演習内容の復習	13	演習	テーマを決めて演習を行う	事後：レポート提出	14	感情労働について	感情労働者の特徴と組織における管理について講義する	事後：配布資料の復習	15	まとめと補足	講義を通してのまとめと補足を行う	事後：レポート提出
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	イントロダクション	授業の概要と進め方の説明およびホスピタリティ論への導入	事後：配布資料の復習																																																																
2	ホスピタリティとは何か	ホスピタリティの重要性と対象について講義する	事後：配布資料の復習																																																																
3	ホスピタリティとコミュニケーション	ホスピタリティとコミュニケーションとの関連について講義する	事後：配布資料の復習																																																																
4	日本のホスピタリティ	日本のホスピタリティの歴史と考え方について講義する	事後：配布資料の復習																																																																
5	欧米のホスピタリティ	欧米でのホスピタリティの歴史と考え方を講義する	事後：配布資料の復習																																																																
6	ホスピタリティに関連する概念	サービス、サービス品質、顧客満足等、ホスピタリティに関連する概念について講義する	事後：配布資料の復習																																																																
7	宿泊産業、航空産業とホスピタリティ	宿泊産業、航空産業ではホスピタリティをいかに実践しているのかについて講義する	事後：配布資料の復習																																																																
8	事例研究 (1)	ホスピタリティを実践している企業について研究する	事後：レポート提出																																																																
9	事例研究 (2)	ホスピタリティを実践している企業について研究する	事後：レポート提出																																																																
10	ホスピタリティと人材	ホスピタリティを具現化する人材の要件について講義する	事後：配布資料の復習																																																																
11	演習	テーマを決めて演習を行う	事後：演習内容の復習																																																																
12	演習	テーマを決めて演習を行う	事後：演習内容の復習																																																																
13	演習	テーマを決めて演習を行う	事後：レポート提出																																																																
14	感情労働について	感情労働者の特徴と組織における管理について講義する	事後：配布資料の復習																																																																
15	まとめと補足	講義を通してのまとめと補足を行う	事後：レポート提出																																																																
関連科目	観光学入門、経済キャリア入門、観光人材論																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法(基準)	定期試験(50%)とレポート提出・演習への参加・受講態度等による平常点(50%)を総合的に評価します。																																																																		
学生へのメッセージ	業種や職種にかかわらずホスピタリティを具現化できる人材が求められています。ホスピタリティとは何なのか、どうすれば実現することができるのかを一緒に考えていきましょう。																																																																		
担当者の研究室等	1号館7階 野村准教授室(経済学部)																																																																		
備考																																																																			

科目名	マクロ経済学Ⅰ	科目名(英文)	Macroeconomics I
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	A B C D E F G H I J
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	蛭川 雅之
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等	【科目】教科に関する科目(中学校 社会) 【施行規則に定める科目区分】「社会学、経済学」 【教員免許状取得のための履修区分】必修 【科目】教科に関する科目(高等学校 公民) 【施行規則に定める科目区分】「社会学、経済学(国際経済を含む。)」 【教員免許状取得のための履修区分】必修		

授業概要・目的	マクロ経済学とは、経済全体の大きな動きを分析するための学問です。本講義ではマクロ経済学の基礎、とりわけ、国民所得、利子率、失業率、物価などの主要な経済変数がどのように決定され、どのように変動するかを解説します。
到達目標	基本的な経済変数間の相互関係および一国全体の経済変動のメカニズムを理解することを目標とします。
授業方法と留意点	毎回の講義は事前に配布される講義ノートに沿って行われます。ノートを担当教員の個人ホームページからダウンロードし、一度目を通したうえで講義時に持参してください。マクロ経済分析に必要な諸概念の理解を深めるため、必要に応じて数値例を用いた例題を解きながら講義を進めます。そのため、電卓も忘れずに持参してください。
科目学習の効果(資格)	現実の経済を読み解くための基礎知識が身に付きます。経済学検定試験など資格試験を準備するうえでの基礎知識も身に付きます。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	講義内容の説明、イントロダクション	マクロ経済学の概観	教科書第0章、講義ノート1(事前)
2	マクロ経済学のとらえ方Ⅰ	フローとストック、GDP、国民所得の三面等価	教科書第1章、講義ノート2(事前)
3	マクロ経済学のとらえ方Ⅱ	公的統計の概要、物価統計、雇用統計	講義ノート3(事前)
4	マクロ経済における需要と供給	経済成長率、寄与度、ケインズ派対新古典派	教科書第2章、講義ノート4(事前)
5	有効需要と乗数メカニズムⅠ	乗数プロセス、限界消費性向、消費関数	教科書第3章、講義ノート5(事前)
6	有効需要と乗数メカニズムⅡ	投資、政府支出、所得の決定、インフレ・デフレギャップ	(同上)
7	貨幣の機能と信用創造	中央銀行の役割、ハイパワード・マネー、信用乗数	教科書第4章、講義ノート6(事前)
8	第7週までのまとめ、中間試験	前半・総括；後半・中間試験	第7週までの復習(事前)
9	貨幣需要と利子率Ⅰ	貨幣の保有動機、貨幣需要関数、国債価格と金利	教科書第5章、講義ノート7(事前)
10	貨幣需要と利子率Ⅱ	貨幣の流通速度、貨幣数量式、ケンブリッジ方程式	(同上)
11	財政政策の基本的構造Ⅰ	公的部門、財政制度	教科書第6章、講義ノート8(事前)
12	財政政策の基本的構造Ⅱ	課税と乗数プロセス、財政収支と公債負担、リカードの等価定理	(同上)
13	財政・金融政策とマクロ経済Ⅰ	政策目標と政策手段、フィリップス曲線、裁量かルールか	教科書第7章、講義ノート9(事前)
14	財政・金融政策とマクロ経済Ⅱ	IS-LM分析、クラウディングアウト効果	(同上)
15	総需要と総供給	総需要曲線、総供給曲線	教科書第8章、講義ノート10(事前)

関連科目 マクロ経済学Ⅱ、現代ファイナンス論など

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	マクロ経済学(第2版)	伊藤元重	日本評論社
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法(基準)	宿題(4回、20%)、中間試験(30%)、定期試験(50%)を総合的に評価します。
学生へのメッセージ	疑問が生じたら、講義中、講義後を問わず、積極的に質問してください。疑問点を未解決のまま放置して得になることはありません。
担当者の研究室等	1号館7階 蛭川教授室(経済学部)
備考	

科目名	マクロ経済学 I	科目名 (英文)	Macroeconomics I
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	K L M N O P Q R S T
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	郭 進
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等	【科目】教科に関する科目 (中学校 社会) 【施行規則に定める科目区分】「社会学、経済学」 【教員免許状取得のための履修区分】必修 【科目】教科に関する科目 (高等学校 公民) 【施行規則に定める科目区分】「社会学、経済学 (国際経済を含む。)」 【教員免許状取得のための履修区分】必修		

授業概要・目的	この授業では、マクロ経済学の基礎、とりわけ、国民所得、失業率、利子率、物価等主要な経済変数・指標がどのように決定され、どのように変動するかを解説する。
到達目標	集計された経済変数間の関係に法則性を見だし、一国全体の経済変動のメカニズムを理解することを目標とする。
授業方法と留意点	授業は基本的に、Review (前回の復習と練習問題の解説)、本日のポイント、内容 (ポイントについて解説)、練習問題 (内容に対応する課題) の形式で進めていく。さらに、マクロ経済分析に重要な諸概念の理解を深めるため、数値例を用いた例題を解きながら講義を進める。
科目学習の効果 (資格)	マクロ経済学を学ぶことによって、日本経済および世界経済の動向を理解できる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	講義ガイダンス・マクロ経済学とは	マクロ経済学はどのような学問かについて解説する。	授業後、アンケートの実施。
2	GDPに関する基礎知識 (I)	付加価値の概念、GDP と GNP の区別について解説する。	授業後、課題の提出
3	GDPに関する基礎知識 (II)	GDP の三面等価と GDP デフレータについて解説する。	授業後練習問題の提出
4	マクロ経済学における需要と供給	需要、供給および均衡の概念について解説する。	授業後、課題の提出
5	有効需要と乗数メカニズム	有効需要原理と消費関数について解説する。	授業後練習問題の提出
6	国民所得の決定	国民所得はどのように決まるかについて解説する。	授業後練習問題の提出
7	インフレギャップとデフレギャップ	完全雇用 GDP、インフレギャップ及びデフレギャップについて解説する。	授業後練習問題の提出
8	利子率と投資	利子率と投資との関係について解説する。後半は小テストを行う。	授業前の復習
9	貨幣の機能と債券	貨幣の機能、貨幣と債券の関係について解説する。	授業後、課題の提出
10	貨幣の需要	貨幣の需要と貨幣需要曲線について解説する。	授業後練習問題の提出
11	中央銀行と貨幣の供給	中央銀行の機能と貨幣供給について解説する。	授業後、課題の提出
12	貨幣市場の均衡と利子率の決定	貨幣市場の均衡、利子率はどのように決まるのかについて解説する。	授業後練習問題の提出
13	金融政策の手段と効果	中央銀行による金融政策とその効果について解説する。	授業後、課題の提出
14	IS-LM 分析 (I)	財市場と貨幣市場との関係を考える IS-LM 分析について解説する。	授業後練習問題の提出
15	IS-LM 分析 (II)	IS-LM 分析に基づく財政政策と金融政策について解説する。	授業後、課題の提出

関連科目	マクロ経済学 II
------	-----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	授業での提出課題 20%、小テスト 30%、定期試験 50% の割合で総合的に評価する。授業態度などによる平常点も考慮する。
-----------	--

学生へのメッセージ	学習には積み重ねが大切ですので、毎回出席してください。疑問点や不明な点は積極的に質問してください。
-----------	---

担当者の研究室等	1号館7階 郭講師室 (経済学部)
備考	

科目名	マクロ経済学Ⅱ	科目名(英文)	Macroeconomics II
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	郭 進
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	本講義では、マクロ経済学Ⅰの授業内容を踏まえ、引き続きマクロ経済理論を学習する。特に経済政策、労働市場と失業、インフレーションとデフレーション、経済成長、国際マクロ経済学などのトピックスを取り上げて学習する。
到達目標	講義を履修することで、マクロ経済学における諸概念をより深く理解した上、様々な経済現象を自ら分析できる能力を身につける。
授業方法と留意点	授業は基本的に、Review(前回の復習と練習問題の解説)、本日のポイント、内容(ポイントの解説)、練習問題(内容に対応する課題)の形式で進めていきます。さらに、マクロ経済分析に必要な諸概念の理解を深めるため、値例を用いた例題を解きながら講義を進める。
科目学習の効果(資格)	中級レベルのマクロ経済学への橋渡しとなるように、マクロ経済学の理論を体系的に理解する。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	マクロ経済学Ⅱの内容の概略を紹介する。	授業後、アンケートの実施。
2	IS-LM分析の復習	IS-LM分析を復習し、その応用について解説する。	授業後練習問題の提出
3	マクロ経済政策の効果Ⅰ	マクロ経済学における財政政策について解説する。	授業後、課題の提出
4	マクロ経済政策の効果Ⅱ	マクロ経済学における金融政策について解説する。	授業後、課題の提出
5	労働市場と賃金率の決定	労働市場における需要曲線と供給曲線の導出及び賃金率の決定について解説する。	授業後練習問題の提出
6	マクロ経済学の総供給と総需要	労働市場から総供給の導出、IS-LM分析から総需要曲線の導出について解説する。	授業後、課題の提出
7	物価水準の決定	マクロ経済学における総需要と総供給による物価水準の決定について解説する。	授業後練習問題の提出
8	まとめ、中間テスト	前半のまとめと中間テストの実施。範囲は1回目から7回目の内容とする。	授業前、7回目までの内容を復習すること
9	AD-AS分析と経済政策	物価が変動するAD-AS分析における経済政策の効果、物価一定と仮定したIS-LM分析と比較して、その違いについて理解する。	授業後練習問題の提出
10	インフレーションとデフレーション	インフレーションとデフレーションの概念および物価指数について解説する。	授業後練習問題の提出
11	インフレ率と失業率の関係	フィリップス曲線を紹介し、インフレーションと失業の関係などを解説する。	授業後練習問題の提出
12	国際収支と海外部門の導入	国際収支表を理解し、海外部門を考慮する開放マクロ経済学について紹介する。	授業後練習問題の提出
13	為替レートの決定理論	為替レート概念、国際通貨制度、購買力平価理論などについて解説する。	授業後、課題の提出
14	IS-IM-BP分析と経済政策の有効性	海外部門を考慮したIS-LM-BP分析を学ぶ。開放マクロ経済学の下で、経済政策の有効性を再考する。	授業後練習問題の提出
15	まとめ、総合演習	重要なポイントのまとめ及び総合演習を行う。	授業後、課題の提出

関連科目	マクロ経済学Ⅰ
------	---------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法(基準)	授業での提出課題20%、中間テスト30%、定期試験50%の割合で総合的に評価する。授業態度などによる平常点も考慮する。
----------	---

学生へのメッセージ	学習には積み重ねが大切ですので、毎回出席してください。疑問点や不明な点は積極的に質問してください。
-----------	---

担当者の研究室等	1号館7階 郭講師室(経済学部)
----------	------------------

備考	マクロ経済学Ⅰを履修するのが望ましい。
----	---------------------

科目名	ミクロ経済学 I	科目名 (英文)	Microeconomics I
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	名方 佳寿子
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等	【科目】教科に関する科目 (中学校 社会) 【施行規則に定める科目区分】「社会学、経済学」 【教員免許状取得のための履修区分】必修 【科目】教科に関する科目 (高等学校 公民) 【施行規則に定める科目区分】「社会学、経済学 (国際経済を含む。)」 【教員免許状取得のための履修区分】必修		

授業概要・目的	ミクロ経済学は「選択の科学」です。本講義では、個々の経済主体 (=消費者、企業、政府) が様々な状況下でどのような選択 (もしくは意思決定) を行うかに焦点を当て、経済分析の枠組みを理解することを目標とします。ミクロ経済学の基礎、とりわけ消費者理論・企業理論・完全競争市場に重点を置いて解説します。
到達目標	市場における消費者と企業の行動や物価と生産量の決定の仕方を理解し、応用ミクロ経済学の範囲である労働経済学、産業組織論、国際経済学の基礎知識を習得する。
授業方法と留意点	授業はスライドと板書の両方を用いて行います。数式などは極力用いず、図やグラフなどを通じて理解を深めます。
科目学習の効果 (資格)	すべての経済学の基礎となる考え方が身に付きます。経済学検定試験など資格試験を準備するうえでの基礎知識も身に付きます。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	弾力性とその応用	消費者の需要の弾力性と生産者の供給の弾力性について説明する。	テキスト5章予習・復習
3	消費者選択の理論1 (無差別曲線、予算制約)	消費者の効用・予算がどのように表現されるのかを説明する。	テキスト21章予習・復習
4	消費者選択の理論2 (効用最大化、需要曲線の決定)	消費者が限られた予算の中で効用を最大化するためにどのように需要額を決定するかについて説明する。	テキスト21章予習・復習
5	競争市場における企業1	企業の生産活動について説明する。	テキスト13章予習・復習
6	競争市場における企業2	企業が利潤最大化をするためにどのように生産額を決めるかについて説明する。	テキスト14章予習・復習
7	消費者、生産者、市場の効率性	消費者余剰、生産者余剰、社会の厚生について説明する。	テキスト7章予習・復習
8	需要、供給、および政府の政策	政府が経済の厚生最大化のためとする価格規制や税金などの経済政策について説明する。	テキスト6章予習・復習
9	余剰分析の応用1 (課税の費用)	税金による経済厚生への影響について説明する。	テキスト8章予習・復習
10	中間試験	第7回までの授業内容	第7回までの授業内容復習
11	余剰分析の応用2 (国際貿易)	国際貿易が生じるメカニズムについて説明する。	テキスト9章予習・復習
12	独占	独占市場における企業の行動と経済厚生に対する影響について説明する。	テキスト15章予習・復習
13	寡占	寡占市場における企業の行動と経済厚生に対する影響について説明する。	テキスト16章予習・復習
14	外部性と公共財	市場が完全競争にならない原因である外部性・公共財の問題について説明する。	テキスト10章・11章予習・復習
15	総括	14回の講義で学んだことを復習する。	講義ノートの復習

関連科目: ミクロ経済学 II、公共政策論、産業組織論

番号	書籍名	著者名	出版社名
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
2			
3			

評価方法 (基準): 中間試験 (30%)、定期試験 (70%) で総合的に評価します。私語をする学生には教室からの退出・減点などの処置をとります。また授業態度が著しく悪い学生・不正行為を行った学生には定期試験の受験資格を認めません。

学生へのメッセージ: 疑問点・わからない点があれば授業中でもかまいませんので聞いてください。学生さんの積極的な取り組みを応援します。

担当者の研究室等: 1号館7階 名方講師室 (経済学部)

備考:

科目名	ミクロ経済学Ⅱ	科目名(英文)	Microeconomics II
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	名方 佳寿子
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	国際経済学、労働経済学、産業組織論、財政学等の応用ミクロ経済学の基礎となるミクロ経済学について学ぶ。とりあげるテーマはミクロ経済学Ⅰとほとんど同じであるが、数式や計算を通じてミクロ経済学Ⅰで学んだことに対する深い理解が得られることを目標とする。また新しいテーマとして①消費者の期待効用、②寡占市場における企業間の競争、③労働市場の3点を取り上げる。
到達目標	市場における消費者、企業、政府の行動を理解し、また市場の失敗である「公共財」「外部性」「寡占・独占」の問題を数式を使って解けるようにする。
授業方法と留意点	授業はスライドと板書の両方を用いて行います。レポート・定期試験は数式を用いた計算問題がほとんどであり、微分の知識が必要となります。
科目学習の効果(資格)	経済学検定試験や公務員試験の勉強に役立ちます。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	消費者の行動	消費者が限られた予算の中で効用を最大化するためにどのように需要額を決定するかについて説明する。	講義ノートの復習
3	消費者の期待効用	不確実性のもとでの消費者の行動について説明する。	講義ノートの復習
4	レポート1の説明	消費者の行動に関連する計算問題	講義ノートの復習
5	競争市場における企業の行動	競争市場における企業の利潤最大化行動について説明する。	講義ノートの復習
6	独占	独占市場における企業の行動と経済厚生に対する影響について説明する。	講義ノートの復習
7	寡占Ⅰ	寡占市場における企業の行動と経済厚生に対する影響について説明する。	講義ノートの復習
8	寡占Ⅱ	クールノー・ナッシュ均衡やカルテルについて説明する。	講義ノートの復習
9	レポート2の説明	企業の行動に関連する計算問題	講義ノートの復習
10	社会厚生	消費者余剰、生産者余剰、市場の効率性について説明する。	講義ノートの復習
11	外部性と公共財	市場が完全競争にならない原因である外部性・公共財の問題について説明する。	講義ノートの復習
12	労働市場	労働市場における需要と供給の均衡について説明する。	講義ノートの復習
13	レポート3の説明	社会厚生、外部性・公共財、労働市場に関連する計算問題	講義ノートの復習
14	レポートの解説	レポート1、2、3について解説する。	レポートの復習
15	総括	14回で行った講義内容を復習する。	講義ノートの復習

関連科目	ミクロ経済学Ⅰ、経済数学
------	--------------

番号	書籍名	著者名	出版社名
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
2			
3			

評価方法(基準)	レポート(30%)、定期試験(70%)で総合的に評価します。私語をする学生・授業態度が著しく悪い学生には教室からの退出・減点などの処置をとります。
----------	---

学生へのメッセージ	疑問点・わからない点があれば授業中でもかまいませんので聞いてください。学生の積極的な取り組みを応援します。
-----------	---

担当者の研究室等	1号館7階 名方講師室(経済学部)
----------	-------------------

備考	
----	--

科目名	民法	科目名(英文)	Civil Law
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	大川 謙蔵
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等	【科目】教科に関する科目(中学校 社会) 【施行規則に定める科目区分】「法学、政治学」 【教員免許状取得のための履修区分】選択 【科目】教科に関する科目(高等学校 公民) 【施行規則に定める科目区分】「法学(国際法を含む。)、政治学(国際政治を含む。)」 【教員免許状取得のための履修区分】選択		

授業概要・目的	法律とは、社会において生じる問題を解決するために使われるものである。そのような法律も、いくつかの形で分類がなされる。本講義で扱う民法とは、私人の間の問題等を規律するための規範であり、特に財産と家族の問題を扱っている。財産と家族の問題を扱う一番基本となる法律が民法である。 本講義では、この民法を理解するための概論として、法律学とはどのような学問であるのか、そして、その法律学の中で民法がどのように扱われているのかなど、法学を概観し、そこから具体的な民法の中身を簡単にはあるが把握していくことを予定している。
到達目標	民法全般、および民事法と呼ばれる私人間に問題について適用される法律の概観をつかむことができるようになる。
授業方法と留意点	講義形式で行う予定である。復習などのために資料を配布する。また、法律科目ですので、六法が必要です。
科目学習の効果(資格)	社会生活の基本法である民法の学習方法を知ることができ、民事法(民法、民事訴訟法、破産法等)が出題科目となっている各種資格試験の基礎となる知識を習得できる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	法律学および民法	法律科目というもののガイダンス、法律一般および民法の概要について確認する予定です。	新聞などから、目次も含め、教科書から興味を持っている部分を是非見つけてください。
2	民法と財産法総論	法律というものが対象としているものを大きく捉え、その中で民法典の役割を確認し、さらに財産法の内容を確認していく予定です。	1回目の内容から、自分の周りに存在する財産法と関連する問題を考えてみて下さい。
3	民法と契約という制度	契約という制度を通して、社会における法律関係を確認していく予定です。	現実の生活の中で、どのような契約をしているのかなどを把握してみてください。
4	民法における人という存在	契約をすることができるのは誰なのか、また単独では契約ができない人があるのかなどを確認する予定です。	これまでの経験から、法的に自分が置かれている立場を理解し、なぜ親の同意が必要だったのかを考えてください。
5	代理・時効	契約も単独でできない場合があります。その場合に、代わりに契約を行ってくれる人などの代理についてを確認し、また時効制度も確認する。	他人が自分のために契約をしてくれる便利さと怖さを確認してください。
6	契約の締結	契約を締結するとはどのようなことなのかを確認する予定です。	友達との約束についても法的に考えてみて下さい。
7	所有権を通しての物権	人が物を所持すること、すなわち支配すること、法律はどのように考えているのかを見ていく予定です。	他人が自分の物を返さないという経験がこれまでありましたか?これを、法的に考えてみてください。
8	不法行為①	他人に損害を与えてしまい、賠償をしなければならないことを、法的に見ていきます。	交通事故や約束違反によって生じた損害は、賠償により回復することができるのでしょうか。考えてみてください。
9	不法行為②	現代社会は進歩が激しく、法律も新しい局面に向かいあう必要が生じています。そこで、不法行為の制度をより多角的に見ていく予定です。	他人に損害賠償を請求するということの難しさを考えてみてください。
10	事務管理・不当利得	契約や不法行為とは異なった形で、他人との間で法的な関係が生じる場合をみます。	人情を法律でとらえることや、契約終了後の関係について考えてください
11	婚姻	婚姻がどのようにすると成立し、その結果どのような義務が生じるのかなどを見ていく予定です。	誰でも婚姻できるのか、婚姻する意味を考えてください。
12	離婚	離婚原因を確認し、離婚の際に生じる問題を確認していく。	国家が認める婚姻関係を解消することの重大性を今一度確認すること。
13	親子関係	親子は互いにどのような権利義務関係があるのか、また、子の扱いが異なる現状を確認する。	法律が完全に正義を実現しているのかどうかを考える重要な問題が出てきます(非嫡出子の問題)。それを考えること。
14	相続	相続の意義や誰が相続できるのかについて確認する。	法律がどのような範囲で相続を認めているのかを理解するため、家族というものを復習しておくこと。
15	遺言および講義のまとめ	相続における被相続人の意思を遺す方法やその問題点を確認する。	全体の復習をしておくこと。

関連科目 憲法、商法、会社法など、法律に関連する科目。

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	ロードマップ民法	遠藤隆幸・宮畑加奈子・足立文美 恵編	一学舎
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準)	原則として、定期試験の成績による。授業中に小テストを行う。
学生への メッセージ	民法は日常生活に関する規範である。したがって、民法法を学習することは、日常生活を法的観点から検討することでもある。
担当者の 研究室等	11号館9階 大川研究室
備考	授業の進行に応じて順序や内容を変更することもある。 なお、参考書「Visual Materials 民法」は今後の民法の学習に有用なので備えることが望ましい。

科目名	レジャー産業論	科目名(英文)	Leisure Industries
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	持永 政人
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	平均寿命の伸長に伴い、余暇活動の在り方が改めて問われています。この授業では日本人のレジャーの特徴を理解した上で、個別レジャー関連産業の動向を取り上げその意義と重要性を理解します。			
到達目標	日本でのレジャー産業の特徴と役割が理解できている。			
授業方法と留意点	授業は毎回のテーマに沿った講義を中心に進めていきます。			
科目学習の効果(資格)	レジャー関連産業動向の理解			
授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	レジャーとは何か	講義概要、授業の進め方、評価方法等の説明 レジャーの定義を理解する。	事後：配布資料の復習
	2	レジャーの種類	レジャー活動にはどのようなものがあるか理解する。	事後：配布資料の復習、課題作成
	3	レジャーの規模	日本におけるレジャー活動の経済的な規模を理解する。	事後：配布資料の復習
	4	わが国のレジャーの歴史Ⅰ	日本人のレジャー活動の発展を振り返る。	事後：配布資料の復習
	5	わが国のレジャーの歴史Ⅱ	日本人のレジャー活動の発展を振り返る。	事後：配布資料の復習
	6	レジャー関連産業とは何か	レジャー関連産業の領域を理解する。	事後：配布資料の復習、課題作成
	7	レジャー産業Ⅰ(スポーツ産業①)	スポーツ産業の特徴と動向を理解する。	事後：配布資料の復習
	8	レジャー産業Ⅱ(スポーツ産業②)	スポーツ産業の特徴と動向を理解する。	小テスト 事後：配布資料の復習
	9	レジャー産業Ⅲ(ゲーム産業)	ゲーム産業の特徴と動向を理解する。	事後：配布資料の復習
	10	レジャー産業Ⅳ(健康産業)	健康産業の特徴と動向を理解する。	事後：配布資料の復習、課題作成
	11	レジャー産業Ⅴ(外食産業①)	外食産業の特徴と動向を理解する。	事後：配布資料の復習
	12	レジャー産業Ⅵ(外食産業②)	旅行産業の特徴と動向を理解する。	事後：配布資料の復習
	13	レジャー産業Ⅶ(旅行業)	レジャー活動における旅行業の役割を考える。	事後：配布資料の復習
	14	今後のレジャー産業の展望	今後のレジャー産業の在り方考える。	小テスト 事後：配布資料の復習
	15	まとめ	これまでの講義の補足とまとめ、質疑応答	事後：配布資料の復習
関連科目	観光学入門			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法(基準)	定期試験50%、平常点50%(レポート提出、小テスト、授業参加態度等)を総合的に評価する。			
学生へのメッセージ	幅広い産業領域を扱うので、普段から経済関連ニュースに関心を持っておいってください。			
担当者の研究室等	1号館7階 持永教授室(経済学部)			
備考				

科目名	労働経済学	科目名(英文)	Labour Economics
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	平野 泰朗
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等	【科目】教科に関する科目(中学校 社会) 【施行規則に定める科目区分】「社会学、経済学」 【教員免許状取得のための履修区分】選択 【科目】教科に関する科目(高等学校 公民) 【施行規則に定める科目区分】「社会学、経済学(国際経済を含む。)」 【教員免許状取得のための履修区分】選択		

授業概要・目的	学生生活からは労働の実態とそこに起きる様々な問題は想像しにくいですが、すぐに就職問題として現実と直面する。本講義では、この労働の実態とそこでの課題について学習し、就職に関する知識と心構えを養う。労働問題のうち、ここでは主に、労働過程と労働市場における諸問題発生の原因と現状、及びありうる対策を学習する。
到達目標	仕事に必要な能力・意識がどんなもので、どのように獲得できるかを知る。同時に、職場で起こる労働問題がどのようなものであるかを理解することを通して、誤りの少ない職業選択ができるようになる。
授業方法と留意点	講義形式。毎回、レジュメを配布し、それにもとづいて講義する。必要に応じて参考資料を配布する。また、場合によって、視聴覚教材を使用する。その際、コメント文を書くことが多い。
科目学習の効果(資格)	人が働く上で直面する課題が分かる。また、働く上での基礎的能力が何であるかも理解できる。社会保険労務士試験に役立つ。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	若者の就職	まず、学生にとって身近な労働問題である就職を取り上げる。近年の就職は、若者にとって厳しい状況にあると言われていて、その理由と対応策を現役大学生のレポートなどから考察する。	配布資料や参考書を読む。
3	若者の就職(続き)	日本的雇用制度の中で、働き手に求められる能力・資質について、体育会系や「草食系」などのタイプを参考に考察する。	配布資料や参考書を読む。
4	労働市場の構造と機能	一般市場とは異なる労働市場の特徴を、需要サイド、供給サイド、政策の必要性の3点から考察する。	配布資料や参考書を読む。
5	日本的雇用と内部労働市場	企業内での職務・職階等の移動という形で起こる内部労働市場の特徴、実例、推進要因を学び、そこから、日本的雇用の特徴を見つける。	配布資料や参考書を読む。
6	労働者派遣と職業紹介	内部労働市場とは異なる労働力調整の方式として、外部労働市場がある。ここでは、職業紹介が重要な役割をもつ。歴史的考察から公共職業紹介所の意義を知る。併せて、それと類似の機能をもつ労働者派遣業の実態とその社会的影響を考察する。	配布資料や参考書を読む。
7	ブラック企業と日本的雇用の変質	労働者派遣に代表される非正規雇用の増大が日本的雇用の変質を表す主要な局面であるとするなら、ブラック企業の出現はその第二局面と言える。ブラック企業とは何かを考察した上で、日本的雇用システムとの関連を考察する。	配布資料や参考書を読む。
8	女性労働	女性雇用を巡る諸問題の実態を、データで確認する。併せて、女性雇用問題がなぜ起こるかについての説明理論をいくつか学び、それぞれの特徴と問題点を理解する。	配布資料や参考書を読む。
9	女性労働(続き)	女性雇用問題に対する対応を、政策(とくに男女雇用機会均等法)と企業の2側面から考察する。	配布資料や参考書を読む。
10	労働過程の本質と資本主義	人が働くとはどういうことかを、人類の歴史の中で考察する。次に、資本主義では、それがどのような形式をとって現れるかを考察する。最後に、資本主義での労働過程において、労働生産性の上昇こそが、労使双方にとって対立と妥協を処理する鍵となることを考察する。	配布資料や参考書を読む。
11	機械の導入と労働組織の変革	前回見た労働生産性上昇の方法として、2つの主要な方法である機械の導入と労働組織の変革の社会的影響を考察する。前者については機械と装置の区別を、後者についてはフォードシステムと多品種生産の区別を詳しく見る。	配布資料や参考書を読む。
12	技能形成と知的熟練	労働生産性上昇を個人個人の労働者の側からみると、いかに技能を高めるかという問題が視野に入ってくる。これが、技能形成問題である。まず、技能形成の2つの方法、OJTとOffJTを理解する。次に、現代の技能形成の問題である「知的熟練」について、その方法と課題を考察する。	配布資料や参考書を読む。

	13	労働問題と労働法制	第4回目の講義で指摘したように、労働問題を解決するには時として政策の介入が不可欠である。政策介入の基本は、労働法制にある。ここでは、労働時間、「名ばかり管理職」、労働組合に関する労働法制の意義と課題を考察する。	配布資料や参考書を読む。
	14	文系の仕事	経済学部の卒業生の大半が就くであろう文系の仕事を、「営業」と「総務」に分け学ぶ。次に両者に共通する非定型労働の特徴について考察する。	配布資料や参考書を読む。
	15	まとめ	これまでの講義全体を振り返って、重要な事項を再確認し、不足した説明を補足する。	講義ノート、参考書を読んで、定期試験に備える。
関連科目	経済キャリア入門			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	授業中に使用した教材に関するコメント文および定期試験により評価する。 概ね、コメント文40%、定期試験60%で評価する。 なお、出席日数が不足する者は、単位取得の資格を失う場合がある。			
学生への メッセージ	働く場でどんな問題が生じているのか、働く上でどんな能力が必要かについて、出来るだけ早く知っておいてください。 そうすれば、後で困りません。			
担当者の 研究室等	1号館7階 平野教授室(経済学部)			
備考				

科目名	労働法	科目名(英文)	Labor Law
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	前田 剛志
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等	【科目】教科に関する科目(中学校 社会) 【施行規則に定める科目区分】「法学、政治学」 【教員免許状取得のための履修区分】選択 【科目】教科に関する科目(高等学校 公民) 【施行規則に定める科目区分】「法学(国際法を含む。)、政治学(国際政治を含む。)」 【教員免許状取得のための履修区分】選択		

授業概要・目的	労働法は、個別的労働関係法、雇用保障法(労働市場法)、団体的労働関係法などに大きく分かれるといわれています。この授業では、個別的労働関係法に属する労働基準法と、団体的労働関係法に属する労働組合法を概観します。
到達目標	労使関係の理解に不可欠な労働基準法及び労働組合法の基本的内容を理解することを目標としています。そして、労働法制が経済と密接な関連性を持っていることを認識することも目標としています。
授業方法と留意点	講義は適宜配布するレジュメにしたがって行います。また、関連する判例や資料を指定することもあります。
科目学習の効果(資格)	労働基準監督官や公務員試験での出題が考えられます。また、社会保険労務士の資格取得のための必修科目でもあります。それらの試験を目標とされている方の学習の一助になればと考えています。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
			1
2	労働契約	・労働契約の解釈枠組 ・労働契約上の権利・義務	労働契約によって使用者と労働者にどのような権利・義務が発生するかを理解してください。
3	雇用関係の成立	・採用の自由 ・採用内定、内々定、試用 ・労働条件の明示	採用に至る各段階について労働法がどのような規定をおいているかを概観してみましょう。
4	雇用関係の展開①	・昇進、昇格、降格 ・配転 ・出向、転籍	日本企業は人事に対して広範な決定権限を持っているといわれています。その具体的な内容と問題点を理解してください。
5	雇用関係の展開②	・職場規律と懲戒	企業による懲戒の法的根拠、内容、種類などを理解してください。
6	雇用関係の終了	・解雇 ・解雇以外の終了事由 ・終了後の法規制	雇用関係が終了する事由にはどのようなものがあるかを概観してみましょう。
7	基本的労働条件①	・賃金の種類と体系 ・賃金請求権 ・賃金の法規制	労働条件のうちで最も重要なものの1つである賃金について、その内容を理解してください。
8	基本的労働条件②	・労働時間法制の意義と現状 ・労働時間制度の基本的枠組み ・労働時間制度の特則	賃金と並んで労働者にとって最も重要な労働条件の1つである労働時間について、労働法がどのような規制をしているか理解してください。
9	基本的労働条件③	・休暇	日本で法律上認められている休暇について、どのようなものがあるかを確認してください。
10	労働者の安全、健康の確保 年少者、女性の保護	・労働安全衛生 ・労災補償 ・年少者の保護 ・女性の保護	労働者が働くうえで安全や健康を確保することが、労働法の原点の1つです。そのために、労働法がどのような定めをしているかを確認してください。年少者、女性の保護についても概観します。
11	労働組合	・労働組合の要件 ・労働組合の組織と運営	労働組合がなぜ法的に保護されているのかの理由、労働組合の要件について理解してください。
12	労働協約	・労働協約の意義 ・労働協約の効力 ・労働協約の拡張適用(一般的拘束力) ・労働協約の終了	労働協約の意義と効力について理解してください。
13	労働者の団体行動	・争議行為の概念 ・団体行動の正当性 ・違法な争議行為とその責任 ・使用者の争議対抗行為	「争議行為」について、その内容やどのような場合に保障をうけることができるかを理解してください。
14	不当労働行為	・不当労働行為の趣旨 ・不当労働行為の成立要件 ・不当労働行為の救済	労働組合法7条に定められている不当労働行為の趣旨、内容、成立要件、救済方法を理解してください。
15	まとめ	これまでの講義で学習してきた内容を復習したり、あまり触れられなかった問題を補足したいと考えています。	今まで学んだことで自分自身がわかりにくかった部分がどこかを確認しておくこと。

関連科目	法学入門、日本国憲法、民法
------	---------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	労働法 [第10版]	菅野 和夫	弘文堂、2012年
	2	労働法 [第5版]	水町 勇一郎	有斐閣、2014年
	3	労働法 [第12版]	安枝 英紳/西村 健一郎	有斐閣、2014年

評価方法(基準)	学期末テストの成績と授業中に実施する確認テストによって総合的に評価します。ただし受講者が少ない場合、定期試験に代えてレポートを実施する可能性があります。
----------	--

学生へのメッセージ	現実社会では、労働の場面において、様々な問題が生じています。そして、それは、経営者側からも、労働者側からも、問題解決の必要性があります。労働関係に関する法律を学ぶことは、経済主体たる使用者、労働者の関係を学ぶことでもありますから、意識的・主体的に学習に取り組んでいただければと思います。
担当者の研究室等	11号館5階 法学部資料室（法学部非常勤講師室）
備考	学生の皆さんが興味をもったテーマやタイムリーな話題があれば、適宜授業のなかで取り上げたいと思います。また、講義中に適宜指名して質問を行うことがあります。どのような回答をしていただいても構いませんので、積極的にご回答下さい。

基礎科目

科目名	英語 I a	科目名 (英文)	English Ia
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	12
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	近藤 未奈
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	近年、企業のグローバル化が進む中、TOEIC Test (国際コミュニケーション英語能力テスト) の注目度は増しつつあります。この授業では、TOEIC Bridge や TOEIC Test をはじめとする英語資格試験に対応できる英語力を養成し、将来的な TOEIC 受験を視野に入れた総合的な英語の聞き取り力・語彙力・文法力を身につけることを目指します。また、自律的な英語学習習慣を身につけることも目的とします。
到達目標	英語基礎力を修得する TOEIC Bridge および TOEIC Test の出題形式に慣れ、得点アップにつなげることができる
授業方法と留意点	教科書を使用し、演習形式で行います。問題を解き、指名して解答を発表してもらいます。発音の練習もおこないます。適宜プリント教材も配布します。(授業計画は若干変更する場合があります) 毎回の小テストは、TOEIC Bridge や TOEIC Test 受験に向けての対策も兼ねています。毎週決まった分量の単語・語句を覚え、テストで達成度を確認することにより、全般的な英語力のアップにもつながります。真剣に取り組みましょう。 授業では英和辞書(電子辞書可/高校英語以上に対応できるレベルのもの)も使用するので、教科書と併せて毎回必ず持参すること。教科書と辞書は1回目の授業から使用する予定です。教科書の販売期間中に早めに購入してください。
科目学習の効果(資格)	日常生活やビジネスの場面における、英語を使ったコミュニケーション能力の向上 TOEIC や英検などの英語資格試験の得点につながる基礎英語力の向上

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	受講にあたってのオリエンテーション	受講上の諸注意(授業の進め方や各種テストについての説明など) TOEIC 模擬ミニテスト (Before Test) 実施	単語小テスト(1) 対策: 次回範囲 0001-0045
2	リスニング演習(オフィスで使う表現)	Before テスト、解答、文法・語彙・解き方の確認①	授業内容の予習復習 単語小テスト(2) 対策: 次回範囲 0046-0090
3	リスニング演習(オフィスで使う表現)	文法・語彙・解き方の確認②、After テスト	授業内容の予習復習 単語小テスト(3) 対策: 次回範囲 0091-0135
4	リーディング演習(告知やフライヤーを読む)	Before テスト、解答、文法・語彙・解き方の確認①	授業内容の予習復習 単語小テスト(4) 対策: 次回範囲 0136-0180
5	リーディング演習(告知やフライヤーを読む)	文法・語彙・解き方の確認②、After テスト	授業内容の予習復習 単語小テスト(5) 対策: 次回範囲 0181-0225
6	リスニング演習(買い物、注文)	Before テスト、解答、文法・語彙・解き方の確認①	授業内容の予習復習 単語小テスト(6) 対策: 次回範囲 0226-0270
7	リスニング演習(買い物、注文)	文法・語彙・解き方の確認②、After テスト	授業内容の予習復習 単語小テスト(7) 対策: 次回範囲 0271-0315
8	第1回復習テスト(予定) リーディング演習(ビジネスレター、雑誌記事)	Before テスト、解答、文法・語彙・解き方の確認①	授業内容の予習復習 単語小テスト(8) 対策: 次回範囲 0316-0360
9	リスニング演習(案内放送) リーディング演習(ビジネスレター、雑誌記事)	文法・語彙・解き方の確認②、After テスト	授業内容の予習復習 単語小テスト(9) 対策: 次回範囲 0361-0405
10	リスニング演習(ミーティング、イベントの告知)	Before テスト、解答、文法・語彙・解き方の確認①	授業内容の予習復習 単語小テスト(10) 対策: 次回範囲 0406-0450
11	リスニング演習(ミーティング、イベントの告知)	文法・語彙・解き方の確認②、After テスト	授業内容の予習復習 単語小テスト(11) 対策: 次回範囲 0451-0495
12	リーディング演習(電子メール、報告書)	Before テスト、解答、文法・語彙・解き方の確認①	授業内容の予習復習 単語小テスト(12) 対策: 次回範囲 0496-0523
13	リーディング演習(電子メール、報告書)	文法・語彙・解き方の確認②、After テスト	授業内容の予習復習 統一英語単語テストに向けての勉強
14	リスニング演習(授賞式、音声自動案内)	Before テスト、解答、文法・語彙・解き方の確認①	授業内容の予習復習 復習テスト対策
15	第2回復習テスト リスニング演習(授賞式、音声自動案内)	After テスト	授業内容の復習

関連科目	英語 Ib、基礎英語会話 a および b
------	----------------------

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	分析型 TOEIC テスト演習 (Before-After Practice for the TOEIC TEST)	Jonathan Lynch, 山本厚子, 渡辺香名子	セーラーズ・ブックス (SAGE PUBLISHING)
2	学校語彙で学ぶ TOEIC テスト 単語集 (The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test)		成美堂
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法(基準)	<ul style="list-style-type: none"> 授業への取り組み(投げかける質問に対する発言、演習解答の発表など) … 25% 小テスト(12回実施) … 15% 復習テスト(2回実施) … 30% 共通試験 … 30% (TOEIC Bridge … 20%、統一英語単語テスト … 10%) 以上を総合評価します。 原則として、出席率 80%以上(12回以上出席)の受講者のみを成績評価の対象とします。4回以上休んだ場合(正式な証明が可能な公休および大学指定の伝染病による欠席は除く)単位が取得できる見込みはありません。
----------	--

	<p>テキスト（教科書）を忘れた場合、また、携帯電話の使用、私語などの授業妨害行為、許可のない途中退室などの行為があった場合は、当該の授業における評価点をゼロとして扱います。</p> <p>その他の詳細は、第1回目の授業で詳しく説明します。受講予定者は必ず出席してください。</p>
学生へのメッセージ	<p>外国語は自分から学ぶ姿勢が重要です。毎回の予習・復習をしっかりとこなしてください。また、授業外の場面でも色々な分野での情報収集・知識習得に励んで下さい。eラーニング（リンガポルタ）を積極的に利用するなどして、学習の習慣づけができるよう心がけてください。学習成果の確認として、学内で実施される TOEIC IP 試験を受験するのも効果が大きいです。</p> <p>間違えることを恐れず、意欲的に授業に参加してくれることを期待しています。</p>
担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
備考	

科目名	英語 I a	科目名 (英文)	English Ia
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	34
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	大原 潤 一浩
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	英語を使うために必要となる基礎力（英文法と英単語）の習得をめざします。TOEIC/Bridge スコアアップにつながるように、演習形式の問題に取り組みながら、聞き取りや解説のポイントを学んでいきます。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 基本的な英文法事項の習得（品詞、時制、自動詞・他動詞、主語と動詞の一致、受動態、分詞） TOEIC/Bridge の問題形式に慣れる TOEIC テストに役立つ重要単語（Level 1）を習得する
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> 毎回最初に単語小テストを行う。 その後、教科書の各ユニットの文法事項を説明し、リスニング、リーディング問題に取り組む。事前に教員が指定した部分の問題を必ず解いてくること。 やむを得ない事情で欠席した場合も、予習の範囲や宿題の内容は、自己の責任でクラスメートに聞いて把握すること。
科目学習の効果（資格）	英文法、読解、単語の基礎力は、実践的な英語力の基盤になります。毎回の授業をこなし、着実な TOEIC スコアアップをめざしましょう。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	授業の概要説明	授業内容の復習 単語テスト準備 (0001-0038)
2	Unit 2 Daily Life	文法解説（品詞）、リスニング 単語テスト	Unit 2 前半の予習 単語テスト準備 (0039-0076)
3	Unit 2 Daily Life	リーディング 単語テスト	Unit 2 後半の予習 単語テスト準備 (0077-0114)
4	Unit 3 Airport	文法解説（時制）、リスニング 単語テスト	Unit 3 前半の予習 単語テスト準備 (0115-0152)
5	Unit 3 Airport	リーディング 単語テスト	Unit 3 後半の予習 単語テスト準備 (0153-0190)
6	Unit 4 Traffic	文法解説（自動詞・他動詞）、リスニング 単語テスト	Unit 4 前半の予習 単語テスト準備 (0191-0228)
7	Unit 4 Traffic	リーディング 単語テスト	Unit 4 後半の予習 単語テスト準備 (0229-0266)
8	Unit 5 Hotel	文法解説（主語と動詞の一致）、リスニング 単語テスト	Unit 5 前半の予習 単語テスト準備 (0267-0304)
9	Unit 5 Hotel	リーディング 単語テスト	Unit 5 後半の予習 単語テスト準備 (0305-0342)
10	Unit 6 Bank	文法解説（受動態）、リスニング 単語テスト	Unit 6 前半の予習 単語テスト準備 (0343-0380)
11	Unit 6 Bank	リーディング 単語テスト	Unit 6 後半の予習 単語テスト準備 (0381-0418)
12	Unit 7 Office	文法解説（不定詞・動名詞）、リスニング 単語テスト	Unit 7 前半の予習 単語テスト準備 (0419-0456)
13	Unit 7 Office	リーディング	Unit 7 後半の予習 統一単語テストのための復習
14	Unit 8 Meeting	文法解説（分詞）、リスニング	Unit 8 前半の予習 統一単語テストのための復習
15	Unit 8 Meeting	リーディング	Unit 8 後半の予習 統一単語テストのための復習

関連科目

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	イラスト・図解で学ぶ TOEIC テストはじめの一步 (Open the Gate for the TOEIC Test)	David P. Thompson 他	金星堂
2	学校語彙で学ぶ TOEIC テスト[単語集] (The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test)	西谷恒志	成美堂
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	共通試験 30% (TOEIC Bridge 20%、統一英語単語テスト 10%) 小テスト 20% 前期試験 40% 授業態度 10% (質問に対する回答、活動や課題への取り組み)
----------	--

学生へのメッセージ
単語力は全ての英語力の基礎となります。少しずつ、定期的に覚えれば、確かな英語力アップにつながります。

担当者の研究室等
備考

科目名	英語 I a	科目名 (英文)	English Ia
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	56
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	岩永 道子
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

基礎科目

授業概要・目的	高校までに学習した英単語と英文法の基本を復習しながら、ユニットごとに TOEIC テスト 頻出のテーマを学習し、無理なく TOEIC テストに慣れ親しむ。副教材の「The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test; WORD BOOK」を併用することでより確実な語彙力を身につけることができる。																																																																		
到達目標	TOEIC Test とはどのようなものか、という内容に慣れ、できれば、自分の客観的な英語運用能力を知りたい、という意欲を持つようになること。																																																																		
授業方法と留意点	毎回初めに単語集からの単語を 10 個板書し、小テストを行う。 その後テキストの一つの章の前半 (リスニングパート) あるいは後半 (リーディングパート) の問題演習を行う。リスニングのときは、1 回目は各自の答えを記入し、2 回目に関く前にはスクリプトを配布するので、答え合わせも兼ねながら解説をする。																																																																		
科目学習の効果 (資格)	授業に真剣に取り組めば、TOEIC や英検など資格試験の得点アップにつながる。																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>オリエンテーション</td> <td>授業内容、授業の進め方、成績評価の説明 テキスト Unit 1 前半</td> <td>Unit 1 Warm-up & Vocabulary Build-up</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>Unit 1 後半</td> <td>リーディング と 文法説明 Unit 1 の単語小テスト</td> <td>Unit 1 Vocabulary Build-up 単語集の指定された単語</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>Unit 2 前半</td> <td>Unit 2 リスニングパート</td> <td>Unit 2 Warm-up & Vocabulary Build-up 単語集の指定された単語</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>Unit 2 後半</td> <td>リーディングと文法説明 Unit 2 の単語小テスト</td> <td>Unit 2 の Vocabulary Build-up 単語集の指定された単語</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>(前回に) 別途配布したプリントによる、リーディング (1)</td> <td>自然科学の内容の英文のパスセージを読む。</td> <td>プリントは 1 週前に配布するので、その本文を予習として読んでおくこと。 単語集の指定された単語</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>Unit 3 前半</td> <td>リスニング</td> <td>Unit 3 Warm-up & Vocabulary Build-up 単語集の指定された単語</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>Unit 3 後半</td> <td>リーディングと文法説明 Unit 3 の単語小テスト</td> <td>Unit 3 Vocabulary Buildup 単語集の指定された単語</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>Unit 4 前半</td> <td>リスニング</td> <td>Unit 4 Warm-up & Vocabulary Build-up 単語集の指定された単語</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>Unit 4 後半</td> <td>リーディングと文法説明 Unit 4 の単語小テスト</td> <td>Unit 4 Vocabulary Build-up 単語集の指定された単語</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>(前回に配布した) プリント教材による、リーディング (2)</td> <td>自然科学の内容の英文パスセージを読む。</td> <td>自然科学の内容の英文パスセージを読む。 単語集の指定された単語</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>Unit 5 前半</td> <td>リスニング</td> <td>Unit 5 Warm-up & Vocabulary Build-up 単語集の指定された単語</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>Unit 5 後半</td> <td>リーディングと文法説明 Unit 5 の単語の小テスト</td> <td>Unit 5 Vocabulary Build-up 単語集の指定された単語</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>Unit 6 前半</td> <td>リスニング</td> <td>Unit 6 Warm-up & Vocabulary Build-up 単語集の指定された単語</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>Unit 6 後半</td> <td>リーディングと文法説明 Unit 6 の単語小テスト</td> <td>Unit 6 Vocabulary Build-up 単語集の指定された単語</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>前期の総括</td> <td>前期末まとめテストと解説</td> <td>前期学習事項</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	オリエンテーション	授業内容、授業の進め方、成績評価の説明 テキスト Unit 1 前半	Unit 1 Warm-up & Vocabulary Build-up	2	Unit 1 後半	リーディング と 文法説明 Unit 1 の単語小テスト	Unit 1 Vocabulary Build-up 単語集の指定された単語	3	Unit 2 前半	Unit 2 リスニングパート	Unit 2 Warm-up & Vocabulary Build-up 単語集の指定された単語	4	Unit 2 後半	リーディングと文法説明 Unit 2 の単語小テスト	Unit 2 の Vocabulary Build-up 単語集の指定された単語	5	(前回に) 別途配布したプリントによる、リーディング (1)	自然科学の内容の英文のパスセージを読む。	プリントは 1 週前に配布するので、その本文を予習として読んでおくこと。 単語集の指定された単語	6	Unit 3 前半	リスニング	Unit 3 Warm-up & Vocabulary Build-up 単語集の指定された単語	7	Unit 3 後半	リーディングと文法説明 Unit 3 の単語小テスト	Unit 3 Vocabulary Buildup 単語集の指定された単語	8	Unit 4 前半	リスニング	Unit 4 Warm-up & Vocabulary Build-up 単語集の指定された単語	9	Unit 4 後半	リーディングと文法説明 Unit 4 の単語小テスト	Unit 4 Vocabulary Build-up 単語集の指定された単語	10	(前回に配布した) プリント教材による、リーディング (2)	自然科学の内容の英文パスセージを読む。	自然科学の内容の英文パスセージを読む。 単語集の指定された単語	11	Unit 5 前半	リスニング	Unit 5 Warm-up & Vocabulary Build-up 単語集の指定された単語	12	Unit 5 後半	リーディングと文法説明 Unit 5 の単語の小テスト	Unit 5 Vocabulary Build-up 単語集の指定された単語	13	Unit 6 前半	リスニング	Unit 6 Warm-up & Vocabulary Build-up 単語集の指定された単語	14	Unit 6 後半	リーディングと文法説明 Unit 6 の単語小テスト	Unit 6 Vocabulary Build-up 単語集の指定された単語	15	前期の総括	前期末まとめテストと解説	前期学習事項
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	オリエンテーション	授業内容、授業の進め方、成績評価の説明 テキスト Unit 1 前半	Unit 1 Warm-up & Vocabulary Build-up																																																																
2	Unit 1 後半	リーディング と 文法説明 Unit 1 の単語小テスト	Unit 1 Vocabulary Build-up 単語集の指定された単語																																																																
3	Unit 2 前半	Unit 2 リスニングパート	Unit 2 Warm-up & Vocabulary Build-up 単語集の指定された単語																																																																
4	Unit 2 後半	リーディングと文法説明 Unit 2 の単語小テスト	Unit 2 の Vocabulary Build-up 単語集の指定された単語																																																																
5	(前回に) 別途配布したプリントによる、リーディング (1)	自然科学の内容の英文のパスセージを読む。	プリントは 1 週前に配布するので、その本文を予習として読んでおくこと。 単語集の指定された単語																																																																
6	Unit 3 前半	リスニング	Unit 3 Warm-up & Vocabulary Build-up 単語集の指定された単語																																																																
7	Unit 3 後半	リーディングと文法説明 Unit 3 の単語小テスト	Unit 3 Vocabulary Buildup 単語集の指定された単語																																																																
8	Unit 4 前半	リスニング	Unit 4 Warm-up & Vocabulary Build-up 単語集の指定された単語																																																																
9	Unit 4 後半	リーディングと文法説明 Unit 4 の単語小テスト	Unit 4 Vocabulary Build-up 単語集の指定された単語																																																																
10	(前回に配布した) プリント教材による、リーディング (2)	自然科学の内容の英文パスセージを読む。	自然科学の内容の英文パスセージを読む。 単語集の指定された単語																																																																
11	Unit 5 前半	リスニング	Unit 5 Warm-up & Vocabulary Build-up 単語集の指定された単語																																																																
12	Unit 5 後半	リーディングと文法説明 Unit 5 の単語の小テスト	Unit 5 Vocabulary Build-up 単語集の指定された単語																																																																
13	Unit 6 前半	リスニング	Unit 6 Warm-up & Vocabulary Build-up 単語集の指定された単語																																																																
14	Unit 6 後半	リーディングと文法説明 Unit 6 の単語小テスト	Unit 6 Vocabulary Build-up 単語集の指定された単語																																																																
15	前期の総括	前期末まとめテストと解説	前期学習事項																																																																
関連科目	TOEIC 関連科目																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>Welcome to the TOEIC TEST</td> <td>北原良夫</td> <td>朝日出版</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test</td> <td>Nishiya Koji</td> <td>成美堂</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	Welcome to the TOEIC TEST	北原良夫	朝日出版	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test	Nishiya Koji	成美堂	3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	Welcome to the TOEIC TEST	北原良夫	朝日出版																																																																
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test	Nishiya Koji	成美堂																																																																
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	前期末まとめテスト 50%、小テスト 20%、共通試験 30% (TOEIC Bridge20%、統一英語単語テスト 10%) で、総合的に評価します。																																																																		
学生へのメッセージ	単語集の単語は毎回、テキストの章のはじめ (リーディング、リスニングとも) の単語は 1 章が終わったら小テストする。語彙力の強化は TOEIC の得点アップにつながる。																																																																		
担当者の研究室等	7 号館 2 階 非常勤講師室																																																																		
備考	積極的に授業に参加して下さい。																																																																		

科目名	英語 I a	科目名 (英文)	English Ia
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	78
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	岡 あゆみ
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	この授業では、文法に関する知識、語彙力、読解力、聴解力など広く英語力の底上げを行い、TOEIC 300 点以上の実力 (TOEIC ブリッジ換算約 120 点) を目指す。 また、分量が多い TOEIC Test をできるだけストレスを感じずに受験できるような (もしくは長時間英語に触れる状況においてもストレスを感じないような) 英語に対する耐性も身につける。
到達目標	英語を実際に使うための語彙力、構文力に基づく読解力、聴解力、表現力、運用力から成る、総合的な英語運用能力を養うことができる。
授業方法と留意点	教科書は 2 冊あり、1 冊は TOEIC テストを受験する学生を対象に作られたもの (「TOEIC テスト総合実践演習」) を、もう 1 冊は単語集 (「学校語彙で学ぶ TOEIC テスト [単語集]」) を使用する。また、補助プリントも使用する。 基本的に 2 回の授業で「TOEIC テスト総合実践演習」の 1 課分を進む。各回の授業の冒頭では、「学校語彙で学ぶ TOEIC テスト [単語集]」を使用した単語テストも行う。また、授業の間や終了前には質疑応答時間を設けるので積極的に質問をしてほしい。 授業計画に沿った円滑な進行を実現するため、必ず予習した上で授業に臨んでほしい。具体的な復習・予習の内容については毎回の授業時に通知する。 授業には辞書も持参すること。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC テストでのスコアアップ。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション、Unit 1 Shopping	オリエンテーション、写真描写、応答、会話問題	事後学習・・・Unit1 の復習
	2	単語テスト、Unit1 Shopping	単語テスト (番号 1-38)、説明文、短文穴埋め-語彙・文法問題	事前学習・・・単語集の番号 1-38 を覚える。Unit1 の予習。 事後学習・・・Unit1 の復習
	3	単語テスト、Unit1 Shopping	単語テスト (番号 39-76)、長文穴埋め、読解問題	事前学習・・・単語集の番号 39-76 を覚える。Unit1 の予習。 事後学習・・・Unit1 の復習
	4	単語テスト、Unit2 Restaurant	単語テスト (番号 77-114)、写真描写、応答、会話、説明文問題	事前学習・・・単語集の番号 77-114 を覚える。Unit2 の予習。 事後学習・・・Unit2 の復習
	5	単語テスト、Unit2 Restaurant	単語テスト (番号 115-152)、短文穴埋め-語彙・文法問題、長文穴埋め、読解問題	事前学習・・・単語集の番号 115-152 を覚える。Unit2 の予習。 事後学習・・・Unit2 の復習
	6	単語テスト、Unit3 Entertainment	単語テスト (番号 153-190)、写真描写、応答、会話、説明文問題	事前学習・・・単語集の番号 153-190 を覚える。Unit3 の予習。 事後学習・・・Unit3 の復習
	7	単語テスト、Unit3 Entertainment	単語テスト (番号 191-228)、短文穴埋め-語彙・文法問題、長文穴埋め、読解問題	事前学習・・・単語集の番号 191-228 を覚える。Unit3 の予習。 事後学習・・・Unit3 の復習
	8	単語テスト、Unit4 Job Hunting	単語テスト (番号 229-266, 267-304)、写真描写、応答、会話、説明文問題	事前学習・・・単語集の番号 229-304 を覚える。Unit4 の予習。 事後学習・・・Unit4 の復習
	9	単語テスト、Unit4 Job Hunting	単語テスト (番号 305-342, 343-380)、短文穴埋め-語彙・文法問題、長文穴埋め、読解問題	事前学習・・・単語集の番号 305-380 を覚える。Unit4 の予習。 事後学習・・・Unit4 の復習
	10	単語テスト、Unit5 Hotel Stay	単語テスト (番号 381-418, 419-456)、写真描写、応答、会話、説明文問題	事前学習・・・単語集の番号 381-456 を覚える。Unit5 の予習。 事後学習・・・Unit5 の復習
	11	単語テスト、Unit5 Hotel Stay	単語テスト (番号 457-494, 495-523)、短文穴埋め-語彙・文法問題、長文穴埋め、読解問題	事前学習・・・単語集の番号 457-523 を覚える。Unit5 の予習。 事後学習・・・Unit5 の復習
	12	Unit6 Business	写真描写、応答、会話問題	事前学習・・・Unit6 の予習。 事後学習・・・Unit6 の復習
	13	Unit6 Business	説明文、短文穴埋め-語彙・文法問題	事前学習・・・Unit6 の予習。 事後学習・・・Unit6 の復習
	14	Unit6 Business	長文穴埋め、読解問題	事前学習・・・Unit6 の予習。 事後学習・・・Unit6 の復習
	15	Unit1~6 総括	振り返り・まとめ	事前学習・・・Unit1~6 の復習 事後学習・・・Unit1~6 の復習

関連科目 他の英語科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	TOEIC テスト総合実践演習	塩見 佳代子、Richard Silver、滝田 尚広	成美堂
	2	学校語彙で学ぶ TOEIC テスト【単語集】	西谷 恒志	成美堂
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	英和・和英辞典		
	2			
	3			

評価方法 (基準) 下記の評価項目を総合して最終的な成績を算出する。
授業態度、予習、復習…20%

	<p>TOEIC bridge・・・20%</p> <p>統一英語単語テスト・・・10%</p> <p>単語テスト・・・20%</p> <p>期末試験・・・30%</p> <p>成績評価に関するその他の詳細については第1回の授業で解説する。</p>
学生へのメッセージ	<p>積極的な授業態度を期待します。</p> <p>効率的な単語学習のためにeラーニング教材「リングポルタ」や単語帳の音声データを使用することをお勧めします。</p> <p>また、学内で実施されるTOEIC IP試験を受験して結果を残していきましょう。</p>
担当者の研究室等	7号館2階（非常勤講師室）
備考	授業時間内に質疑応答時間を設けるが、時間外で質問等がある場合は aymoka@gmail.com まで。

科目名	英語 I a	科目名 (英文)	English Ia
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	1112
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	松木園 久子
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	高校までに学習した内容を復習すると同時に、さらなる基礎英語力の修得を行う。教科書は TOEIC テストに準じた形式の問題を含んでいるので、TOEIC bridge、TOEIC テストに慣れ親しむことができるだろう。技能面では、特に読解力、聴解力の向上に力を入れる。加えて、語彙力については補助テキストを用い、授業時間内に学習、単語小テストを行う。
到達目標	文章を明確に読む読解力と、短い文を聞き取る聴解力を向上させる。 TOEIC bridge、TOEIC テストに慣れ親しむ。
授業方法と留意点	1～2回の授業で、教科書の1課分を学習する。予習を指示した箇所は、必ず辞書を引いて、問題を解いておくこと。授業では、文法の解説、重要な単語・熟語の指摘、間違えやすいパターンを解説する。各自で自分の苦手な箇所を見つけ出し、ノートを取るなど、積極的に弱点克服に努めること。必要に応じてプリント等（教員から配布）も使用する。毎回の授業時間内（終了前）に質問時間をとるので、積極的に活用してほしい。授業の前後には、必ず予習、復習することが必要である。 理解度を確保するために、学期中に小テストを2回行う。また統一英語単語テストに備えて、ほぼ毎回授業の冒頭で、単語小テストを行う。授業にはできるだけ辞書を持参すること。
科目学習の効果（資格）	TOEIC bridge、TOEIC テストのスコアアップを目指す。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス	授業の進め方、予習・復習の内容、成績の基準、受講にあたっての心構えまた教科書の構成などについて説明する。簡単な TOEIC の模擬テストを行う。	教科書 Unit 1 の予習。
2	Unit 1	リスニング：Part 1 写真描写問題① 人物+物・場所(1) リーディング：Part 5 短文穴埋め問題 ① 文法：代名詞、接尾辞・品詞	教科書 Unit 1 の復習および Unit 2 の予習。
3	Unit 2	リスニング：Part 1 写真描写問題② 人物+物・場所(2) リーディング：Part 5 短文穴埋め問題 ② 文法：前置詞、接続詞	教科書 Unit 2 の復習および Unit 3 の予習。
4	Unit 3	リスニング：Part 1 写真描写問題③ 物・風景 リーディング：Part 5 短文穴埋め問題 ③ 文法：動詞の形、時制	教科書 Unit 3 の復習および Unit 4 の予習。
5	Unit 4	リスニング：Part 2 応答問題① 時間、場所、人物 リーディング：Part 5 短文穴埋め問題 ④ 文法：関係代名詞・関係副詞、文の構造	教科書 Unit 4 の復習および Unit 5 の予習。
6	Unit 5	リスニング：Part 2 応答問題② 意見・意向 リーディング：Part 5 短文穴埋め問題 ⑤ 文法：比較・倒置、不定詞・分詞・動名詞	教科書 Unit 5 の復習および Unit 6 の予習。
7	Unit 6	リスニング：Part 2 応答問題③ 提案、依頼 リーディング：Part 5 短文穴埋め問題 ⑥ 語彙：動詞	教科書 Unit 1～6 までの復習。
8	小テストおよび短いリーディング	Unit 1～6 までの内容について小テストを行う。その後短い読み物(教員からプリントを配布)を用いて、リーディングの練習を行う。	教科書 Unit7 の予習。
9	Unit 7	リスニング：Part 2 応答問題④ 確認、経験・完了 リーディング：Part 5 短文穴埋め問題 ⑦ 語彙：名詞	教科書 Unit 7 の復習および Unit 8 前の予習。
10	Unit 8	リスニング：Part 2 応答問題⑤ 状況、原因・理由 リーディング：Part 5 短文穴埋め問題 ⑧ 語彙：形容詞・副詞	教科書 Unit 8 の復習および Unit 9 の予習。
11	Unit 9	リスニング：Part 2 応答問題⑥ 疑問文以外への応答 リーディング：Part 5 短文穴埋め問題 ⑨ 熟語：相関語句(1)	教科書 Unit 9 の復習および Unit 10 の予習。
12	Unit 10	リスニング：Part 3 会話問題① 話者の行動(1) リーディング：Part 5 短文穴埋め問題 ⑩ 熟語：相関語句(2)	教科書 Unit 10 の復習および Unit 11 の予習。
13	Unit 11	リスニング：Part 3 会話問題② 話者の行動(2) リーディング：Part 6 長文穴埋め問題 ① 文法：動詞の形・時制	教科書 Unit 11 の復習および Unit 12 の予習。
14	Unit 12	リスニング：Part 3 会話問題③ 話者の職業・所属 リーディング：Part 6 長文穴埋め問題 ② 文法：前置詞・接続詞	教科書 Unit 7～12 までの復習。
15	小テストおよび短いリーディング	Unit 7～12 までの内容について小テスト	前期で学んだ文法事項、TOEIC のポイントを復習。

	イング	トを行う。その後短い読み物(教員からプリントを配布)を用いて、リーディングの練習を行う。	
関連科目	他の英語科目		
教科書	番号	書籍名	著者名
	1	The TOEIC Test Practice with Core Vocabulary BOOK 2 学校語彙で学ぶ TOEIC テスト BOOK 2 (ISBN:9784791910939)	吉塚弘
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test: Word Book	
	2		
	3		
評価方法 (基準)	出席は毎回とり、4回以上欠席した場合は単位を認定しない。教科書に関して各学期中に合計2回の小テストを行い、定期試験は実施しない。成績は、TOEIC bridge (20%)、統一英語単語テスト(10%)、予習状況を含む平常点(30%)、小テスト(40%)、で評価する。		
学生への メッセージ	この授業はTOEIC形式の問題を中心に行いますが、あくまで基礎力の修得を重視します。それは、新聞・雑誌・論文・文学などすべての英語の基礎となるものです。気を抜かず、しっかり身につけましょう。受け身ではなく、各自が積極的に取り組んでくれることを期待しています。		
担当者の 研究室等	7号館2階 (非常勤講師室)		
備考			

科目名	英語 I a	科目名 (英文)	English Ia
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	1314
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	崎 ミチアン
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	高校までに学習した英単語と英文法の基本を活かしながら、ユニットごとに TOEIC テスト頻出のテーマを学習し、TOEIC テストに慣れ親しむ。副教材の「The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test; WORD BOOK」を併用することでより確実な語彙力を身につけることができる。
到達目標	資格試験 (TOEIC Bridge や TOEIC 等) の受験を促進するため、TOEIC 受験対策にむけて実践力が活かせるように、英語運用能力 (語彙力、読解力、聴解力、表現力等) を向上することを目標としています。
授業方法と留意点	毎回初めに単語集からの単語を 10 個板書し、小テストを行う。 その後テキストの一つの章の前半 (リスニングパート) あるいは後半 (リーディングパート) の問題演習を行う。リスニングのときは、1 回目は各自の答えを記入し、2 回目に関く前にはスクリプトを配布するので、答え合わせも兼ねながら解説をする。
科目学習の効果 (資格)	授業に真剣に取り組めば、TOEIC や英検など資格試験の得点アップにつながる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	Unit 1 後半	リーディング と 文法説明 Unit 1 の単語小テスト	Unit 1 Vocabulary Build-up 単語集の指定された単語
3	Unit 2 前半	Unit 2 リスニングパート	Unit 2 Warm-up & Vocabulary Build-up 単語集の指定された単語
4	Unit 2 後半	リーディングと文法説明 Unit 2 の単語小テスト	Unit 2 の Vocabulary Build-up 単語集の指定された単語
5	(前回は) 別途配布したプリントによる、リーディング (1)	自然科学の内容の英文のパスセージを読む。	プリントは 1 週前に配布するので、その本文を予習として読んでおくこと。 単語集の指定された単語
6	Unit 3 前半	リスニング	Unit 3 Warm-up & Vocabulary Build-up 単語集の指定された単語
7	Unit 3 後半	リーディングと文法説明 Unit 3 の単語小テスト	Unit 3 Vocabulary Buildup 単語集の指定された単語
8	Unit 4 前半	リスニング	Unit 4 Warm-up & Vocabulary Build-up 単語集の指定された単語
9	Unit 4 後半	リーディングと文法説明 Unit 4 の単語小テスト	Unit 4 Vocabulary Build-up 単語集の指定された単語
10	(前回は配布した) プリント教材による、リーディング (2)	自然科学の内容の英文パスセージを読む。	自然科学の内容の英文パスセージを読む。 単語集の指定された単語
11	Unit 5 前半	リスニング	Unit 5 Warm-up & Vocabulary Build-up 単語集の指定された単語
12	Unit 5 後半	リーディングと文法説明 Unit 5 の単語の小テスト	Unit 5 Vocabulary Build-up 単語集の指定された単語
13	Unit 6 前半	リスニング	Unit 6 Warm-up & Vocabulary Build-up 単語集の指定された単語
14	Unit 6 後半	リーディングと文法説明 Unit 6 の単語小テスト	Unit 6 Vocabulary Build-up 単語集の指定された単語
15	前期の総括	前期末まとめテストと解説	前期学習事項

関連科目	TOEIC 関連科目
------	------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	単語集 1 「学校単語で学ぶ TOEIC テスト【単語集】」 The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test, Word Book	西谷恒志	成美堂
2	First Time Trainer for the TOEIC Test (Student Book with Audio CD)	Chizuko Tsumatori, Masumi Tahira	Cengage Learning	
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準)	前期末まとめテスト 50%、小テスト 20%、共通試験 30% (TOEIC Bridge20%、統一英語単語テスト 10%) で、総合的に評価します。
学生へのメッセージ	単語集の単語は毎回、テキストの章のはじめ (リーディング、リスニングとも) の単語は 1 章が終わったら小テストする。語彙力の強化は TOEIC の得点アップにつながる。
担当者の研究室等	7 号館 2 階 非常勤講師室
備考	毎回の授業で積極的に参加することが大事です。

科目名	英語 I a	科目名 (英文)	English Ia
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	15
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	李 孝聖
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	近年、企業のグローバル化が進む中、TOEIC (国際コミュニケーション英語能力テスト) の注目度は増しつつあります。この授業では、TOEIC Bridge に対応できる英語力を養成し、将来的な TOEIC 受験を視野に入れた総合的な英語の聞き取り力・語彙力・文法力を身につけることを目指します。また、自律的な英語学習習慣を身につけることも目的とします。
到達目標	英語を学ぶ人は、単に英語を学ぶのではないことを理解した上で、次の4つのCを到達目標としましょう。 Content Communication Cognition Culture/Community 世界で起こっている様々な問題を英語で理解する 英語でお互いにコミュニケーションをする 内容や言語の学習について考える 学習する環境や仲間と協調する

授業方法と留意点	教科書を使用し、演習形式で行います。問題を解き、指名して解答を発表してもらいます。発音の練習もおこないます。適宜プリント教材も配布します。(授業計画は若干変更する場合があります) 毎回の小テストは、TOEIC Bridge や TOEIC Test 受験に向けての対策も兼ねています。毎週決まった分量の単語・語句を覚え、テストで達成度を確認することにより、全般的な英語力のアップにもつながります。真剣に取り組みましょう。 授業では英和辞書(電子辞書可/高校英語以上に対応できるレベルのもの)も使用するので、教科書と併せて毎回必ず持参すること。教科書と辞書は1回目の授業から使用する予定です。教科書の販売期間中に早めに購入してください。
----------	---

科目学習の効果(資格)	日常生活やビジネスの場面における、英語を使ったコミュニケーション能力の向上 TOEIC や英検などの英語資格試験の得点につながる基礎英語力の向上
-------------	---

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	受講にあたってのオリエンテーション	受講上の諸注意・授業の進め方や各種テストについての説明	単語小テスト(1)勉強: 範囲 0001-0045
	2	Stereotypes and Racism	リスニング演習・ディスカッション	授業内容の予習復習 単語小テスト(2)勉強: 範囲 0046-0090
	3	Information and Communication	文法学習・リーディング演習	授業内容の予習復習 単語小テスト(3)勉強: 範囲 0091-0135
	4	Information and Communication	リスニング演習・プレゼンテーション	授業内容の予習復習 単語小テスト(4)勉強: 範囲 0136-0180
	5	Culture and Fashion	文法学習・リーディング演習	授業内容の予習復習 単語小テスト(5)勉強: 範囲 0181-0225
	6	Culture and Fashion	リスニング演習・精読	授業内容の予習復習 単語小テスト(6)勉強: 範囲 0226-0270
	7	Health	文法学習・リーディング演習	授業内容の予習復習 単語小テスト(7)勉強: 範囲 0271-0315
	8	第1回復習テスト(予定) Health	リスニング演習	授業内容の予習復習 単語小テスト(8)勉強: 範囲 0316-0360
	9	Food	文法学習・リーディング演習	授業内容の予習復習 単語小テスト(9)勉強: 範囲 0361-0405
	10	Food	リスニング演習・聞き取り力の向上	授業内容の予習復習 単語小テスト(10)勉強: 範囲 0406-0450
	11	A Sound Material-Cycle Society	文法学習(形容詞・副詞)・リーディング演習	授業内容の予習復習 単語小テスト(11)勉強: 範囲 0451-0495
	12	A Sound Material-Cycle Society	リスニング演習・発音練習	授業内容の予習復習 単語小テスト(12)勉強: 範囲 0496-0523
	13	Global Warming	文法学習(接続詞・前置詞)・リーディング演習	授業内容の予習復習 統一英語単語テストに向けての勉強
	14	Global Warming	リスニング演習 アカデミックライティング	授業内容の予習復習 統一英語単語テストに向けての勉強
	15	前期末テスト(予定)		前期学習内容の総復習

関連科目	英語 Ib、基礎英語会話 a および b
------	----------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	CLIL 英語で学ぶ国際問題	笹島 茂	株式会社 三修社
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	<ul style="list-style-type: none"> ・授業への取り組み(発表・予習や復習) … 20% ・小テスト(※12回実施予定) … 20% ・復習テスト(※2回実施予定) … 30% ・TOEIC Bridge … 20% ・統一英語単語テスト … 10% 以上の達成度を総合評価します。 原則として、4回以上休んだ場合(正式な証明が可能な公休および大学指定の感染症による欠席は除く)単位が取得できる見込みはありません。テキスト(教科書)を忘れた場合、また私語などの授業妨害行為、許可のない途中退室などの行為があった場合は、当該の授業を欠席したものと扱います。 その他の詳細は、第1回目の授業で詳しく説明します。受講予定者は必ず出席してください。
----------	---

学生への	外国語は自分から学ぶ姿勢が重要です。毎回の予習・復習をしっかりとこなしてください。また、授業外の場面でも色々な分野での情報収集・知
------	---

メッセージ	識習得に励んで下さい。間違えることを恐れず、積極的に授業に参加してくれることを期待しています。
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師室
備考	

科目名	英語 I b	科目名 (英文)	English Ib
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	12
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	近藤 未奈
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

基礎科目

授業概要・目的	近年、企業のグローバル化が進む中、TOEIC Test (国際コミュニケーション英語能力テスト) の注目度は増しつつあります。この授業では、前期「英語 Ia」より引き続き、TOEIC Test をはじめとする英語資格試験に対応できる英語力を養成し、将来的な TOEIC 受験を視野に入れた総合的な英語の聞き取り力・読解力・文法力を身につけることを目指します。また、自律的な英語学習習慣を身につけることも目標とします。
到達目標	英語基礎力を修得する TOEIC Bridge および TOEIC Test の出題形式に慣れ、得点アップにつなげることができる
授業方法と留意点	教科書を使用し、演習形式で行います。問題を解き、指名して解答を発表してもらいます。発音の練習もおこないます。適宜プリント教材も配布します。(授業計画は若干変更する場合があります) 毎回の小テストは、TOEIC Test 受験に向けての対策も兼ねています。毎週決まった分量の単語・語句を覚え、テストで達成度を確認することにより、全般的な英語力のアップにもつながります。真剣に取り組みましょう。 授業では英和辞書(電子辞書可/高校英語以上に対応できるレベルのもの)も使用するので、教科書と併せて毎回必ず持参すること。教科書と辞書は1回目の授業から使用する予定です。前期「英語 Ia」で使用していたものを必ず持参してください。
科目学習の効果(資格)	日常生活やビジネスの場面における、英語を使ったコミュニケーション能力の向上 TOEIC や英検などの英語資格試験の得点につながる基礎英語力の向上

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	リーディング演習(機器の説明書、ニュースレター)	文法・語彙・解き方の確認②、After テスト	授業内容の予習復習 単語小テスト(2) 対策: 次回範囲 0556-0590
3	リスニング演習(電話での応対、天気予報)	Before テスト、解答、文法・語彙・解き方の確認①	授業内容の予習復習 単語小テスト(3) 対策: 次回範囲 0591-0625
4	リスニング演習(電話での応対、天気予報)	文法・語彙・解き方の確認②、After テスト	授業内容の予習復習 単語小テスト(4) 対策: 次回範囲 0626-0660
5	リーディング演習(ツアー案内、招待状)	Before テスト、解答、文法・語彙・解き方の確認①	授業内容の予習復習 単語小テスト(5) 対策: 次回範囲 0661-0695
6	リーディング演習(ツアー案内、招待状)	文法・語彙・解き方の確認②、After テスト	授業内容の予習復習 単語小テスト(6) 対策: 次回範囲 0696-0730
7	リスニング演習(会社でのプレゼンテーション)	Before テスト、解答、文法・語彙・解き方の確認①	授業内容の予習復習 単語小テスト(7) 対策: 次回範囲 0731-0765
8	第1回復習テスト(予定) リスニング演習(会社でのプレゼンテーション)	文法・語彙・解き方の確認②、After テスト	授業内容の予習復習 単語小テスト(8) 対策: 次回範囲 0766-0800
9	リーディング演習(求人広告、応募書類)	Before テスト、解答、文法・語彙・解き方の確認①	授業内容の予習復習 単語小テスト(9) 対策: 次回範囲 0801-0835
10	リーディング演習(求人広告、応募書類)	文法・語彙・解き方の確認②、After テスト	授業内容の予習復習 単語小テスト(10) 対策: 次回範囲 0836-0870
11	リスニング演習(技術的な問題への対応)	Before テスト、解答、文法・語彙・解き方の確認①	授業内容の予習復習 単語小テスト(11) 対策: 次回範囲 0871-0895
12	リスニング演習(技術的な問題への対応)	文法・語彙・解き方の確認②、After テスト	授業内容の予習復習 単語小テスト(12) 対策: 次回範囲 0896-0916
13	リーディング演習(スピーチと質疑応答)	Before テスト、解答、文法・語彙・解き方の確認①	授業内容の予習復習 統一英語単語テストに向けての勉強
14	TOEIC 模擬ミニテスト (After Test) 実施	模擬テスト解答・解説	授業内容の予習復習 復習テスト対策
15	第2回復習テスト リーディング演習(スピーチと質疑応答)	文法・語彙・解き方の確認②、After テスト	授業内容の復習

関連科目	英語 Ia、基礎英語会話 a および b
------	----------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	分析型 TOEIC テスト演習 (Before-After Practice for the TOEIC TEST)	Jonathan Lynch, 山本厚子, 渡辺香名子	センゲージラーニング
2	学校語彙で学ぶ TOEIC テスト 単語集 (The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test)		成美堂	
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法(基準)	<ul style="list-style-type: none"> ・授業への取り組み(投げかける質問に対する発言、演習解答の発表など) … 25% ・小テスト(12回実施) … 20% ・復習テスト(2回実施) … 35% ・共通試験(統一英語単語テスト) … 20% 以上を総合評価します。 原則として、出席率 80%以上(12回以上出席)の受講者のみを成績評価の対象とします。4回以上休んだ場合(正式な証明が可能な公休および大学指定の伝染病による欠席は除く)単位が取得できる見込みはありません。 テキスト(教科書)を忘れた場合、また、携帯電話の使用、私語などの授業妨害行為、許可のない途中退室などの行為があった場合は、当該の授
----------	---

	業における評価点をゼロとして扱います。 その他の詳細は、第1回目の授業で詳しく説明します。受講予定者は必ず出席してください。
学生への メッセージ	外国語は自分から学ぶ姿勢が重要です。毎回の予習・復習をしっかりとこなってください。また、授業外の場面でも色々な分野での情報収集・知識習得に励んで下さい。eラーニング（リングホルタ）を積極的に利用するなどして、学習の習慣づけができるよう心がけてください。学習成果の確認として、学内で実施される TOEIC IP 試験を受験するのも効果が大きいです。 間違えることを恐れず、意欲的に授業に参加してくれることを期待しています。
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師室
備考	

科目名	英語 I b	科目名 (英文)	English Ib
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	34
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	大原 一浩
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	前期に続き、英語を使うために必要となる基礎力（英文法と英単語）の習得をめざします。TOEIC/Bridge スコアアップにつながるように、演習形式の問題に取り組みながら、聞き取りや解説のポイントを学んでいきます。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 基本的な英文法事項の習得（可算名詞・不計算名詞、代名詞、関係詞、接続詞・前置詞、比較、仮定法） TOEIC/Bridge の問題形式に慣れる TOEIC テストに役立つ重要単語（Level 2）を習得する
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> 毎回最初に単語小テストを行う。 その後、教科書の各ユニットの文法事項を説明し、リスニング、リーディング問題に取り組む。事前に教員が指定した部分の問題を必ず解いてくること。 やむを得ない事情で欠席した場合も、予習の範囲や宿題の内容は、自己の責任でクラスメートに聞いて把握すること。
科目学習の効果（資格）	英文法、読解、単語の基礎力は、実践的な英語力の基盤になります。毎回の授業をこなし、着実な TOEIC スコアアップをめざしましょう。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	授業内容・方法説明	単語テスト準備 (0457-0494)
2	Unit 9 Meeting	文法解説（可算名詞・不計算名詞）、リスニング 単語テスト	Unit 9 前半の予習 単語テスト準備 (0495-0523)
3	Unit 9 Meeting	リーディング 単語テスト	Unit 9 後半の予習 単語テスト準備 (0524-0563)
4	Unit 10 Factory	文法解説（代名詞）、リスニング 単語テスト	Unit 10 前半の予習 単語テスト準備 (0564-0602)
5	Unit 10 Factory	リーディング 単語テスト	Unit 10 後半の予習 単語テスト準備 (0603-0641)
6	Unit 11 Order	文法解説（関係詞）、リスニング 単語テスト	Unit 11 前半の予習 単語テスト準備 (0642-0680)
7	Unit 11 Order	リーディング 単語テスト	Unit 11 後半の予習 単語テスト準備 (0681-0713)
8	Unit 12 Contract	文法解説（接続詞・前置詞）、リスニング 単語テスト	Unit 12 前半の予習 単語テスト準備 (0714-0753)
9	Unit 12 Contract	リーディング 単語テスト	Unit 12 後半の予習 単語テスト準備 (0754-0793)
10	Unit 13 Business	文法解説（比較）、リスニング 単語テスト	Unit 13 前半の予習 単語テスト準備 (0794-0833)
11	Unit 13 Business	リーディング 単語テスト	Unit 13 後半の予習 単語テスト準備 (0834-0874)
12	Unit 14 Health	文法解説（仮定法）、リスニング 単語テスト	Unit 14 前半の予習 単語テスト準備 (0875-0916)
13	Unit 14 Health	リーディング	Unit 14 後半の予習 統一単語テストのための復習
14	Unit 15 Post-Test	実践問題演習と解説	Unit 15 前半の予習 統一単語テストのための復習
15	Unit 15 Post-Test	実践問題演習と解説	Unit 15 後半の予習 統一単語テストのための復習

関連科目

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	イラスト・図解で学ぶ TOEIC テストはじめの一步 (Open the Gate for the TOEIC Test)	David P. Thompson 他	金星堂
2	学校語彙で学ぶ TOEIC テスト[単語集] (The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test)	西谷恒志	成美堂
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	統一英語単語テスト 20% 小テスト 20% 前期試験 40% 授業態度 20%（質問に対する回答、活動や課題への取り組み）
----------	---

学生へのメッセージ
単語力は全ての英語力の基礎となります。少しずつ、定期的に覚えれば、確かな英語力アップにつながります。

担当者の研究室等
備考

科目名	英語 I b	科目名 (英文)	English I b
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1 年	クラス	56
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	岩永 道子
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	高校までに学習した英単語と英文法の基本を復習しながら、ユニットごとに TOEIC テスト頻出のテーマを学習し、無理なく TOEIC テストに慣れ親しむ。副教材の「The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test; WORD BOOK」を併用することでより確実な語彙力を身につけることができる。
到達目標	TOEIC テストに 450 点取れることを目指す。
授業方法と留意点	毎回初めに単語集からの単語を 10 個板書し、小テストを行う。 その後テキストの一つの章の前半（リスニングパート）あるいは後半（リーディングパート）の問題演習を行う。リスニングのときは、1 回目は各自の答えを記入し、2 回目に聞く前にはスクリプトを配布するので、答え合わせも兼ねながら解説をする。
科目学習の効果（資格）	授業に真剣に取り組めば、TOEIC や英検など資格試験の得点アップにつながる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	Unit 7 前半	テキスト Unit 7 前半	Unit 7 Warm-up & Vocabulary Build-up
2	Unit 7 後半	リーディング と 文法説明 Unit 7 の単語小テスト	Unit 7 Vocabulary Build-up 単語集の指定された単語
3	Unit 8 前半	リスニング	Unit 8 Warm-up & Vocabulary Build-up 単語集の指定された単語
4	Unit 8 後半	リーディングと文法説明 Unit 8 の単語小テスト	Unit 8 の Vocabulary Build-up 単語集の指定された単語
5	(前回は)別途配布したプリントによる、リーディング (1)	自然科学の内容の英文のパスセージを読む。	プリントは 1 週前に配布するので、その本文を予習として読んでおくこと。 単語集の指定された単語
6	Unit 9 前半	リスニング	Unit 9 Warm-up & Vocabulary Build-up 単語集の指定された単語
7	Unit 9 後半	リーディングと文法説明 Unit 10 の単語小テスト	Unit 10 Vocabulary Buildup 単語集の指定された単語
8	Unit 11 前半	リスニング	Unit 11 Warm-up & Vocabulary Build-up 単語集の指定された単語
9	Unit 11 後半	リーディングと文法説明 Unit 11 の単語小テスト	Unit 11 Vocabulary Build-up 単語集の指定された単語
10	(前回は配布した)プリント教材による、リーディング (2)	自然科学の内容の英文パスセージを読む。	自然科学の内容の英文パスセージを読む。 単語集の指定された単語
11	Unit 12 前半	リスニング	Unit 12 Warm-up & Vocabulary Build-up 単語集の指定された単語
12	Unit 12 後半	リーディングと文法説明 Unit 12 の単語小テスト	Unit 12 Vocabulary Build-up 単語集の指定された単語
13	Unit 12 前半	リスニング	Unit 12 Warm-up & Vocabulary Build-up 単語集の指定された単語
14	Unit 12 後半	リーディングと文法説明 Unit 12 の単語小テスト	Unit 12 Vocabulary Build-up 単語集の指定された単語
15	後期の総括	後期末まとめテストと解説	後期学習事項

関連科目	TOEIC 関連科目
------	------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Welcome to the TOEIC Test	北原良夫	朝日出版
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	後期末まとめテスト 50%、小テスト 30%、共通試験 20% (統一英語単語テスト 20%) で、総合的に評価する。
-----------	---

学生へのメッセージ	単語集の単語は毎回、テキストのユニットが 1 つ終わるごとにウォームアップの単語の小テストを行う。語彙力のアップは TOEIC の得点アップにつながる。
-----------	--

担当者の研究室等	7 号館 2 階 非常勤講師室
----------	-----------------

備考	積極的に授業に参加して下さい。
----	-----------------

科目名	英語 I b	科目名 (英文)	English Ib
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	78
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	岡 あゆみ
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	この授業では、文法に関する知識、語彙力、読解力、聴解力など広く総合英語力の底上げを行い、TOEIC 400 点以上の実力 (TOEIC ブリッジ換算約 140 点) を目指す。 また、分量が多い TOEIC Test をできるだけストレスを感じずに受験できるような (もしくは長時間英語に触れる状況においてもストレスを感じないような) 英語に対する耐性も身につける。
到達目標	英語を実際に使うための語彙力、構文力に基づく読解力、聴解力、表現力、運用力から成る、総合的な英語運用能力を養うことができる。
授業方法と留意点	教科書は 2 冊あり、1 冊は TOEIC テストを受験する学生を対象に作られたもの (「TOEIC テスト総合実践演習」) を、もう 1 冊は単語集 (「学校語彙で学ぶ TOEIC テスト [単語集]」) を使用する。また、補助プリントも使用する。 基本的に 2 回の授業で「TOEIC テスト総合実践演習」の 1 課分を進む。各回の授業の冒頭では、「学校語彙で学ぶ TOEIC テスト [単語集]」を使用した単語テストも行う。また、授業の間や終了前には質疑応答時間を設けるので積極的に質問をしてほしい。 授業計画に沿った円滑な進行を実現するため、必ず予習した上で授業に臨んでほしい。具体的な復習・予習の内容については毎回の授業時に通知する。 授業には辞書も持参すること。

科目学習の効果 (資格)	TOEIC テストでのスコアアップ。
--------------	--------------------

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション、振り返り	オリエンテーション、Unit1~6 の振り返り	事後学習・・・Unit1~6 の復習
2	単語テスト、Unit7 Sports	単語テスト (番号 524-563)、写真描写、応答、会話、説明文問題	事前学習・・・単語集の番号 524-563 を覚える。Unit7 の予習。 事後学習・・・Unit7 の復習
3	単語テスト、Unit7 Sports	単語テスト (番号 564-602)、短文穴埋め-語彙・文法問題、長文穴埋め、読解問題	事前学習・・・単語集の番号 564-602 を覚える。Unit7 の予習。 事後学習・・・Unit7 の復習
4	単語テスト、Unit8 Education	単語テスト (番号 603-641)、写真描写、応答、会話、説明文問題	事前学習・・・単語集の番号 603-641 を覚える。Unit8 の予習。 事後学習・・・Unit8 の復習
5	単語テスト、Unit8 Education	単語テスト (番号 642-680)、短文穴埋め-語彙・文法問題、長文穴埋め、読解問題	事前学習・・・単語集の番号 642-680 を覚える。Unit8 の予習。 事後学習・・・Unit8 の復習
6	単語テスト、Unit9 Services	単語テスト (番号 681-713)、写真描写、応答、会話、説明文問題	事前学習・・・単語集の番号 681-713 を覚える。Unit9 の予習。 事後学習・・・Unit9 の復習
7	単語テスト、Unit9 Services	単語テスト (番号 714-753)、短文穴埋め-語彙・文法問題、長文穴埋め、読解問題	事前学習・・・単語集の番号 714-753 を覚える。Unit9 の予習。 事後学習・・・Unit9 の復習
8	単語テスト、Unit10 Housing	単語テスト (番号 754-793)、写真描写、応答、会話、説明文問題	事前学習・・・単語集の番号 754-793 を覚える。Unit10 の予習。 事後学習・・・Unit10 の復習
9	単語テスト、Unit10 Housing	単語テスト (番号 794-833)、短文穴埋め-語彙・文法問題、長文穴埋め、読解問題	事前学習・・・単語集の番号 794-833 を覚える。Unit10 の予習。 事後学習・・・Unit10 の復習
10	単語テスト、Unit11 Environment	単語テスト (番号 834-874)、写真描写、応答、会話、説明文問題	事前学習・・・単語集の番号 834-874 を覚える。Unit11 の予習。 事後学習・・・Unit11 の復習
11	単語テスト、Unit11 Environment	単語テスト (番号 875-916)、短文穴埋め-語彙・文法問題、長文穴埋め、読解問題	事前学習・・・単語集の番号 875-916 を覚える。Unit11 の予習。 事後学習・・・Unit11 の復習
12	Unit12 Vacation	写真描写、応答、会話問題	事前学習・・・Unit12 の予習 事後学習・・・Unit12 の復習
13	Unit12 Vacation	説明文、短文穴埋め-語彙・文法問題	事前学習・・・Unit12 の予習 事後学習・・・Unit12 の復習
14	Unit12 Vacation	長文穴埋め、読解問題	事前学習・・・Unit12 の予習 事後学習・・・Unit12 の復習
15	Unit7~12、総括	振り返り・まとめ	事前学習・・・Unit7~12 の復習 事後学習・・・Unit7~12 の復習

関連科目	他の英語科目
------	--------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	TOEIC テスト総合実践演習	塩見 佳代子、Richard Silver、 滝田 尚広	成美堂
2	学校語彙で学ぶ TOEIC テスト【単語集】	西谷 恒志	成美堂	
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	英和・和英辞典		
2				
3				

評価方法 (基準)	下記の評価項目を総合して最終的な成績を算出する。 授業態度、予習、復習…20%
-----------	--

	<p>統一英語単語テスト・・・20%</p> <p>単語テスト・・・20%</p> <p>期末試験・・・40%</p> <p>成績評価に関するその他の詳細については第1回の授業で解説する。</p>
学生へのメッセージ	<p>積極的な授業態度を期待します。</p> <p>効率的な単語学習のためにeラーニング教材「リングポルタ」や単語帳の音声データを使用することをお勧めします。</p> <p>また、学内で実施される TOEIC IP 試験を受験して結果を残していきましょう。</p>
担当者の研究室等	7号館2階（非常勤講師室）
備考	授業時間内に質疑応答時間を設けるが、時間外で質問等がある場合は aymoka@gmail.com まで。

科目名	英語 I b	科目名 (英文)	English I b
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1 年	クラス	1112
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	松木園 久子
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

基礎科目

授業概要・目的	高校までに学習した内容を復習すると同時に、さらなる基礎英語力の修得を行う。教科書は TOEIC テストに準じた形式の問題を含んでいるので、TOEIC bridge、TOEIC テストに慣れ親しむことができるだろう。技能面では、特に読解力、聴解力の向上に力を入れる。加えて、語彙力については補助テキストを用い、授業時間内に学習、単語小テストを行う。
到達目標	文章を明確に読む読解力と、短い文を聞き取る聴解力を向上させる。 TOEIC bridge、TOEIC テストに慣れ親しむ。
授業方法と留意点	1～2 回の授業で、教科書の 1 課分を学習する。予習を指示した箇所は、必ず辞書を引いて、問題を解いておくこと。授業では、文法の解説、重要な単語・熟語の指摘、間違えやすいパターンを解説する。各自で自分の苦手な箇所を見つけ出し、ノートを取るなど、積極的に弱点克服に努めること。必要に応じてプリント等（教員から配布）も使用する。毎回の授業時間内（終了前）に質問時間をとるので、積極的に活用してほしい。授業の前後には、必ず予習、復習することが必要である。 理解度を確認するために、学期中に小テストを 2 回行う。また統一英語単語テストに備えて、ほぼ毎回授業の冒頭で、単語小テストを行う。授業にはできるだけ辞書を持参すること。
科目学習の効果（資格）	TOEIC bridge、TOEIC テストのスコアアップを目指す。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	Unit 13	リスニング：Part 3 会話問題④ 時間、場所 リーディング：Part 6 長文穴埋め問題 ③ 語彙：動詞・名詞	教科書 Unit 13 の復習および Unit 14 の予習。
3	Unit 14	リスニング：Part 3 会話問題⑤ 目的・主題 リーディング：Part 6 長文穴埋め問題 ④ 語彙：形容詞・副詞	教科書 Unit 14 の復習および Unit 15 の予習。
4	Unit 15	リスニング：Part 3 会話問題⑥ 状況説明 リーディング：Part 7 読解問題・1 つの文書① 広告	教科書 Unit 15 の復習および Unit 16 の予習。
5	Unit 16	リスニング：Part 3 会話問題⑦ 原因・理由 リーディング：Part 7 読解問題・1 つの文書② メモ・通知	教科書 Unit 16 の復習および Unit 17 の予習。
6	Unit 17	リスニング：Part 3 会話問題⑧ 意見・提案、感想 リーディング：Part 7 読解問題・1 つの文書③ 手紙・Eメール(1)	教科書 Unit 17 の復習および Unit 18 の予習。
7	Unit 18	リスニング：Part 4 説明文問題① 話者、聞き手 リーディング：Part 7 読解問題・1 つの文書④ 手紙・Eメール(2)	教科書 Unit 13～18 までの復習。
8	小テストおよび短いリーディング	Unit 13～18 までの内容について小テストを行う。その後短い読み物(教員からプリントを配布)を用いて、リーディングの練習を行う。	教科書 Unit 19 の予習。
9	Unit 19	リスニング：Part 4 説明文問題② 時間、場所 リーディング：Part 7 読解問題・1 つの文書⑤ フォーム・スケジュール	教科書 Unit 19 の復習および Unit 20 の予習。
10	Unit 20	リスニング：Part 4 説明文問題③ 特定情報 リーディング：Part 7 読解問題・1 つの文書⑥ グラフ	教科書 Unit 20 の復習および Unit 21 の予習。
11	Unit 21	リスニング：Part 4 説明文問題④ 目的・主題 リーディング：Part 7 読解問題・1 つの文書⑦ 記事	教科書 Unit 21 の復習および Unit 22 の予習。
12	Unit 22	リスニング：Part 4 説明文問題⑤ 状況説明(1) リーディング：Part 7 読解問題・2 つの文書① 表と文書	教科書 Unit 22 の復習および Unit 23 の予習。
13	Unit 23	リスニング：Part 4 説明文問題⑥ 状況説明(2) リーディング：Part 7 読解問題・2 つの文書② メモ/記事と Eメール/手紙	教科書 Unit 23 の復習および Unit 24 の予習。
14	Unit 24	リスニング：Part 4 説明文問題⑦ 予定、予測 リーディング：Part 7 読解問題・2 つの文書③ 広告と手紙	教科書 Unit 19～24 までの復習。
15	小テストおよび短いリーディング	Unit 19～24 までの内容について小テストを行う。その後短い読み物(教員から	後期で学んだ文法事項、TOEIC のポイントを復習。

		プリントを配布)を用いて、リーディングの練習を行う。	
関連科目	他の英語科目		
教科書	番号	書籍名	著者名
	1	The TOEIC Test Practice with Core Vocabulary BOOK 2 学校語彙で学ぶ TOEIC テスト BOOK 2 (ISBN:9784791910939)	吉塚弘
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test: Word Book	
	2		
	3		
評価方法 (基準)	出席は毎回とり、4回以上欠席した場合は単位を認定しない。教科書に関して各学期中に合計2回の小テストを行い、定期試験は実施しない。成績は、統一英語単語テスト(20%)、予習状況を含む平常点(40%)、小テスト(40%)、で評価する。		
学生へのメッセージ	この授業はTOEIC形式の問題を中心に行いますが、あくまで基礎力の修得を重視します。それは、新聞・雑誌・論文・文学などすべての英語の基礎となるものです。気を抜かず、しっかり身につけましょう。受け身ではなく、各自が積極的に取り組んでくれることを期待しています。		
担当者の研究室等	7号館2階 (非常勤講師室)		
備考			

科目名	英語 I b	科目名 (英文)	English I b
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1 年	クラス	1314
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	崎 ミチアキ
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	高校までに学習した英単語と英文法の基本を復習しながら、ユニットごとに TOEIC テスト頻出のテーマを学習し、無理なく TOEIC テストに慣れ親しむ。副教材の「The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test; WORD BOOK」を併用することでより確実な語彙力を身につけることができる。
到達目標	資格試験 (TOEIC Bridge や TOEIC 等) の受験を促進するため、TOEIC 受験対策にむけて実践力が活かせるように、英語運用能力 (語彙力、読解力、聴解力、表現力等) を向上することを目標としています。
授業方法と留意点	毎回初めに単語集からの単語を 10 個板書し、小テストを行う。 その後テキストの一つの章の前半 (リスニングパート) あるいは後半 (リーディングパート) の問題演習を行う。リスニングのときは、1 回目は各自の答えを記入し、2 回目聞く前にはスクリプトを配布するので、答え合わせも兼ねながら解説をする。
科目学習の効果 (資格)	授業に真剣に取り組めば、TOEIC や英検など資格試験の得点アップにつながる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
			1
2	Unit 7 後半	リーディング と 文法説明 Unit 7 の単語小テスト	Unit 7 Vocabulary Build-up 単語集の指定された単語
3	Unit 8 前半	リスニング	Unit 8 Warm-up & Vocabulary Build-up 単語集の指定された単語
4	Unit 8 後半	リーディングと文法説明 Unit 8 の単語小テスト	Unit 8 の Vocabulary Build-up 単語集の指定された単語
5	(前回は) 別途配布したプリントによる、リーディング (1)	自然科学の内容の英文のパスセージを読む。	プリントは 1 週前に配布するので、その本文を予習として読んでおくこと。 単語集の指定された単語
6	Unit 9 前半	リスニング	Unit 9 Warm-up & Vocabulary Build-up 単語集の指定された単語
7	Unit 9 後半	リーディングと文法説明 Unit 10 の単語小テスト	Unit 10 Vocabulary Buildup 単語集の指定された単語
8	Unit 11 前半	リスニング	Unit 11 Warm-up & Vocabulary Build-up 単語集の指定された単語
9	Unit 11 後半	リーディングと文法説明 Unit 11 の単語小テスト	Unit 11 Vocabulary Build-up 単語集の指定された単語
10	(前回は配布した) プリント教材による、リーディング (2)	自然科学の内容の英文パスセージを読む。	自然科学の内容の英文パスセージを読む。 単語集の指定された単語
11	Unit 12 前半	リスニング	Unit 12 Warm-up & Vocabulary Build-up 単語集の指定された単語
12	Unit 12 後半	リーディングと文法説明 Unit 12 の単語の小テスト	Unit 12 Vocabulary Build-up 単語集の指定された単語
13	Unit 12 前半	リスニング	Unit 12 Warm-up & Vocabulary Build-up 単語集の指定された単語
14	Unit 12 後半	リーディングと文法説明 Unit 12 の単語小テスト	Unit 12 Vocabulary Build-up 単語集の指定された単語
15	後期の総括	後期末まとめテストと解説	後期学習事項

関連科目	TOEIC 関連科目
------	------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	後期末まとめテスト 50%、小テスト 30%、共通試験 20% (統一英語単語テスト 20%) で、総合的に評価する。
-----------	---

学生へのメッセージ	単語集の単語は毎回、テキストのユニットが 1 つ終わるごとにウォームアップの単語の小テストを行う。語彙力のアップは TOEIC の得点アップにつながる。
-----------	--

担当者の研究室等	7 号館 2 階 非常勤講師室
----------	-----------------

備考	毎回の授業で積極的に参加することと授業の事前学習が大事です。
----	--------------------------------

科目名	英語 I b	科目名 (英文)	English Ib
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	15
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	李 考聖
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	近年、企業のグローバル化が進む中、TOEIC（国際コミュニケーション英語能力テスト）の注目度は増しつつあります。この授業では、前期に引き続き、TOEIC Bridge に対応できる英語力を養成し、将来的な TOEIC 受験を視野に入れた総合的な英語の聞き取り力・語彙力・文法力を身につけることを目指します。また、自律的な英語学習習慣を身につけることも目的とします。
到達目標	英語は手段であり、道具です。この教科書を通じ、学び考えることは国際問題(Global issues)です。その内容を「自分の頭で考え、自ら活動し、自律して学ぶ」ことを目指し、英語の上達を支援します。この授業では「国際問題を学び、かつ英語を学ぶ」という二つの目標を設定しています。
授業方法と留意点	教科書を使用し、演習形式で行います。問題を解き、指名して解答を発表してもらいます。発音の練習もおこないます。適宜プリント教材も配布します。(授業計画は若干変更する場合があります) 毎回の小テストは、TOEIC 受験に向けての対策も兼ねています。毎週決まった分量の単語・語句を覚え、テストで達成度を確認することにより、全般的な英語力のアップにもつながります。真剣に取り組みしましょう。 授業では英和辞書(電子辞書可/高校英語以上に対応できるレベルのもの)も使用するので、教科書と併せて毎回必ず持参すること。前期で使用した教科書を引き続き使います。
科目学習の効果(資格)	日常生活やビジネスの場面における、英語を使ったコミュニケーション能力の向上 TOEICや英検などの英語資格試験の得点につながる基礎英語力の向上

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	Energy	リスニング演習・ライティング	授業内容の予習復習 単語小テスト(2)勉強：範囲 0556-0590
3	Energy	文法学習・リーディング演習	授業内容の予習復習 単語小テスト(3)勉強：範囲 0591-0625
4	Ecosystems and Humans	リスニング演習・ライティング	授業内容の予習復習 単語小テスト(4)勉強：範囲 0626-0660
5	Ecosystems and Humans	文法学習(比較)・リーディング演習	授業内容の予習復習 単語小テスト(5)勉強：範囲 0661-0695
6	Endangered Species	リスニング演習・情報収集法	授業内容の予習復習 単語小テスト(6)勉強：範囲 0696-0730
7	Endangered Species	文法学習(不定詞・動名詞)・リーディング演習	授業内容の予習復習 単語小テスト(7)勉強：範囲 0731-0765
8	第1回復習テスト(予定) International Relationships	リスニング演習・情報記録法	授業内容の予習復習 単語小テスト(8)勉強：範囲 0766-0800
9	International Relationships	文法学習(完了時制)・リーディング演習	授業内容の予習復習 単語小テスト(9)勉強：範囲 0801-0835
10	War and Peace	リスニング演習・リサーチスキル	授業内容の予習復習 単語小テスト(10)勉強：範囲 0836-0870
11	War and Peace	文法学習(受動態)・リーディング演習	授業内容の予習復習 単語小テスト(11)勉強：範囲 0871-0895
12	Human Rights	リスニング演習・批判的思考法	授業内容の予習復習 単語小テスト(12)勉強：範囲 0896-0916
13	Human Rights	文法学習(関係詞)・リーディング演習	授業内容の予習復習 統一英語単語テストに向けての勉強
14	Global Citizenship	リスニング演習・意味の推測	授業内容の予習復習 統一英語単語テストに向けての勉強
15	後期期末テスト(予定)	文法学習(仮定法)・リーディング演習	後期学習内容の総復習

関連科目 英語 Ia、基礎英語会話 a および b

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	CLIL 英語で学ぶ国際問題	笹島 茂	株式会社 三修社
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法(基準)

- ・授業への取り組み(発表・予習や復習)… 20%
- ・小テスト(※12回実施予定)… 20%
- ・復習テスト(※2回実施予定)… 40%
- ・統一英語単語テスト… 20%

以上の達成度を総合評価します。

原則として、4回以上休んだ場合(正式な証明が可能な公休および大学指定の伝染病による欠席は除く)単位が取得できる見込みはありません。テキスト(教科書)を忘れた場合、また私語などの授業妨害行為、許可のない途中退室などの行為があった場合は、当該の授業を欠席したものと扱います。

その他の詳細は、第1回目の授業で詳しく説明します。受講予定者は必ず出席してください。

学生へのメッセージ 外国語は自分から学ぶ姿勢が重要です。毎回の予習・復習をしっかりおこなってください。また、授業外の場面でも色々な分野での情報収集・知識習得に励んで下さい。間違えることを恐れず、積極的に授業に参加してくれることを期待しています。

担当者の研究室等 7号館2階 非常勤講師室

科目名	英語Ⅱa	科目名(英文)	EnglishⅡa
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	12
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	松井 智子
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	この授業では、TOEIC テスト用のテキストを使用して、TOEIC テストでのスコアアップ並びに総合的な英語運用能力の向上を目指します。TOEIC 形式の問題を実践的に解きながら、基本的な文法事項をおさらいし、頻出会話フレーズを身に付け、応用可能なリーディング・スキルを修得します。 学科の学習・教育目標との対応：[F]
到達目標	TOEIC リスニングセクションの頻出表現を学び、音声を瞬時に意味として把握できるようになる。 TOEIC リーディングセクションに頻出する基礎的な文法事項を確実にし、文法問題は高速で解答できるようになる。 TOEIC リーディングセクションの文書問題を実践的に解きながら、効率的に英文を読むスキルを身につける。 TOEIC 頻出重要単語・熟語を学び、語彙力を強化する。
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> 基本的に、2回の授業でテキスト1課分進む。補助プリントも用いる。 1課分が終わったら、確認のための小テストを行う。 リスニングの回では、ディクテーション・音読・ペアワークなども行う。 毎回、授業の冒頭で単語テストを行う(指定単語集より)。 毎回、英和辞典を必ず持参し、わからない単語を引けるようにすること。 授業時間内に、テキストの問題に実践的に取り組みながらスキルを身につけるため、予習より復習に重点をおいて自己学習すること。
科目学習の効果(資格)	英検・TOEICテストのスコアアップなど。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション 自分のレベルを知る	授業の内容と進め方、評価方法などについて説明する。 Pre-Testの実施	単語学習範囲：917-958 (Pre-Testの予習は不要です。評価対象としません)
	2	Unit 1 <Listening> 予定	単語テスト：917-958 Training Point 講義、演習、解説	単語学習範囲：959-999 テキストの復習
	3	Unit 1 <Reading> 動詞・5文型	単語テスト：959-999 Training Point 講義、演習、解説 小テスト：Unit 1	単語学習範囲：1000-1037 テキストの復習
	4	Unit 2 <Listening> 数量を尋ねる	単語テスト：1000-1037 Training Point 講義、演習、解説	単語学習範囲：1038-1079 テキストの復習
	5	Unit 2 <Reading> 名詞	単語テスト：1038-1079 Training Point 講義、演習、解説 小テスト：Unit 2	単語学習範囲：1080-1121 テキストの復習
	6	Unit 3 <Listening>命令・依頼	単語テスト：1080-1121 Training Point 講義、演習、解説	単語学習範囲：1122-1176 テキストの復習
	7	Unit 3 <Reading> 形容詞・副詞	単語テスト：1122-1176 Training Point 講義、演習、解説 小テスト：Unit 3	単語学習範囲：917-958(番号に注意) テキスト(第1回～第7回)の復習
	8	第7回までの復習 ミニ模試	単語テスト：917-958(番号に注意) 第7回までの学習項目についてふりかえり ミニ模試の実施、解説	単語学習範囲：959-999 テキストの復習
	9	Unit 4 <Listening>広告・宣伝	単語テスト：959-999 Training Point 講義、演習、解説	単語学習範囲：1000-1037 テキストの復習
	10	Unit 4 <Reading> フレーズリーディング	単語テスト：1000-1037 Training Point 講義、演習、解説 小テスト：Unit 4	単語学習範囲：1038-1079 テキストの復習
	11	Unit 5 <Listening> 時間を尋ねる	単語テスト：1038-1079 Training Point 講義、演習、解説	単語学習範囲：1080-1121 テキストの復習
	12	Unit 5 <Reading>動名詞	単語テスト：1080-1121 Training Point 講義、演習、解説 小テスト：Unit 5	単語学習範囲：1122-1176 テキストの復習
	13	Unit 6 <Listening>場所を尋ねる	単語テスト：1122-1176 Training Point 講義、演習、解説	単語自主学習 テキストの復習
	14	Unit 6 <Reading> to不定詞	Training Point 講義、演習、解説 小テスト：Unit 6	単語自主学習 テキストの復習
	15	総復習	第14回までの学習項目についてふりかえり	単語自主学習 テキスト(定期試験範囲)の復習

関連科目	英語Ⅱb
------	------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	THE TOEIC TEST TRAINER TARGET 470 (Revised Edition)	Masahiko Yamaguchi, George W. Pifer	CENGAGE Learning
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test: WORD BOOK (学校語彙で学ぶTOEICテスト【単語集】)	西谷恒志	成美堂
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法	(1) 統一英語単語試験 20%
------	------------------

(基準)	(2) 定期試験 40% (3) 小テスト 30% (4) 単語テスト 10% 以上の割合で総合的に評価する。なお、授業態度は減点方式とする。
学生へのメッセージ	TOEIC の得点獲得のテクニックに終わらず、ディクテーションや音読、フレーズリーディング、スキミングなどの練習を通して、トータルなコミュニケーション能力の向上を目指す内容です。TOEIC 形式の問題に実践的に取り組みながら、レベルアップを実感できるよう、一緒に学んでいきましょう。 単語学習には、単語集に付属の e-learning 教材（リングポルタ）を使用すると効果的です。TOEIC 受験もお勧めします。
担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・授業を妨げる行為や、ペアワークなどで他の受講者に迷惑をかける行為は、減点対象とします。 ・授業内容・進度は、受講生の学習状況を考慮して調整することもあります。 ・個別に質問等がある場合は、授業後すぐに教壇または7号館2階の非常勤講師室にて受け付けます。

科目名	英語Ⅱa	科目名(英文)	English I Ia
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	34
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	谷脇 康子
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	最新のニュース記事を取り扱った文献を読み、中学・高校で既習の文法事項を再確認と、基本的な読解力を身につけること。 適宜リスニング演習を行い、TOEICの問題形式に慣れ、スコアアップにつながる語彙・聞き取り技能を身につけること。
到達目標	中学・高校で既習した文法事項を再確認し、正しい語法を身につける。 まとまった文献の内容が正しく理解できる読解力を身につける。 TOEICに対応できる語彙・文法・聞き取り技能を向上させる。
授業方法と留意点	毎回授業の初めに単語テスト、もしくは聞き取りテストを行う。 テキスト本文は作業用紙による読解演習、練習問題は学生主体に解答を確認する。 授業の終わりに授業内容の理解度を診断する確認テストを行う。 授業中は作業・演習に集中してのぞむことが求められる。辞書必携。
科目学習の効果(資格)	TOEICスコアアップ

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	シルクロード、世界遺産に追加(1)	聞き取りテスト 作業用紙による読解演習	授業内容の復習 確認テスト
2	シルクロード、世界遺産に追加(2)	単語テスト(1)N0917-940 テキスト練習問題と解答	単語テストの準備 授業内容の復習 確認テスト
3	遺骸、最初のアメリカ人を説明(1)	単語テスト(2)N0941-966 聞き取りテスト 作業用紙による読解演習	単語テストの準備 授業内容の復習 確認テスト
4	遺骸、最初のアメリカ人を説明(2)	単語テスト(3)N0967-992 テキスト練習問題と解答	単語テストの準備 授業内容の復習 確認テスト
5	米国、国際条約への参加を目指し、地雷を撤去(1)	単語テスト(4)N0993-1017 作業用紙による読解演習	単語テストの準備 授業内容の復習 確認テスト
6	米国、国際条約への参加を目指し、地雷を撤去(2)	単語テスト(5)N01018-1039 聞き取りテスト テキスト練習問題と解答	単語テストの準備 授業内容の復習 確認テスト
7	女性名のハリケーン、被害がより深刻に	単語テスト(6)N01040-1063 作業用紙による読解演習	単語テストの準備 授業内容の復習 確認テスト
8	1回～7回授業の総復習 中間テスト	1回～7回授業の質問と回答 中間テスト	中間テストの準備
9	交代選手、最後の最後まで大きいインパクトを残す(1)	単語テスト(7)N01064-1089 作業用紙による読解演習	単語テストの準備 授業内容の復習 確認テスト
10	交代選手、最後の最後まで大きいインパクトを残す(2)	単語テスト(8)N01090-1112 聞き取りテスト テキスト練習問題と解答	単語テストの準備 授業内容の復習 確認テスト
11	有名選手のバットを作り続けた職人、引退を発表(1)	単語テスト(9)N01113-1137 作業用紙による読解演習	単語テストの準備 授業内容の復習 確認テスト
12	有名選手のバットを作り続けた職人、引退を発表(2)	単語テスト(10)N01138-1161 聞き取りテスト テキスト練習問題と解答	単語テストの準備 授業内容の復習 確認テスト
13	南スーダン、飢餓の危機に直面(1)	単語テスト(11)N01162-1176 作業用紙による読解演習	単語テストの準備 授業内容の復習 確認テスト
14	南スーダン、飢餓の危機に直面(2)	聞き取りテスト テキスト練習問題と解答	授業内容の復習 確認テスト
15	9回～14回授業の総復習 まとめのテスト	9回～14回授業の質問と回答 まとめのテスト	まとめのテストの準備

関連科目	他の英語科目全般
------	----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test	西谷恒志	成美堂
2	Meet the World English through Newspapers 2015	若有保彦	成美堂	
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法(基準)	統一英語単語テスト 20%、単語テスト 10%、確認テスト 20%、中間テスト 25%、まとめのテスト 25%
----------	---

学生へのメッセージ	授業はリズムカルにテンポよく進めます。集中力をきらさず一生懸命ついてきてください。
-----------	---

担当者の	7号館2階 非常勤講師室
------	--------------

研究室等	
備考	

科目名	英語Ⅱa	科目名(英文)	EnglishⅡa
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	56
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	ダンカン ホワイト
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	英文を効率的に読むための基本的な方法（事前読み、飛ばし読み、拾い読みなど）について理解する TOEIC形式の問題を実践的に解きながら、文法・読解・語彙など広く英語力の底上げをして、最終的にTOEIC400点以上取得することを目指す。 The course emphasis is on reading skills and the TOEIC in addition to broad cultural and intellectual comprehension and expression.
到達目標	The purposes of study in this class range from vocabulary enrichment and reading comprehension to deeper cultural understanding as applied to linguistic communication in all forms. The TOEIC is a way of self-assessment of progress.
授業方法と留意点	Each class will have explanation, assisted reading practice and some writing, all adapted to the skill levels of the students in the class.
科目学習の効果(資格)	TOEICテストのスコアアップ

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	TOEIC skills practice with extensive and intensive reading of the text for linguistic and cultural comprehension.	Task-based exercises with listening, speech, reading writing. Vocabulary practice.	Each class has points from in-class tasks, mini-tests, quizzes.
	2	TOEIC skills practice with extensive and intensive reading of the text for linguistic and cultural comprehension.	Task-based exercises with listening, speech, reading writing. Vocabulary practice.	Each class has points from in-class tasks, mini-tests, quizzes.
	3	TOEIC skills practice with extensive and intensive reading of the text for linguistic and cultural comprehension.	Task-based exercises with listening, speech, reading writing. Vocabulary practice.	Each class has points from in-class tasks, mini-tests, quizzes.
	4	TOEIC skills practice with extensive and intensive reading of the text for linguistic and cultural comprehension.	Task-based exercises with listening, speech, reading writing. Vocabulary practice.	Each class has points from in-class tasks, mini-tests, quizzes.
	5	TOEIC skills practice with extensive and intensive reading of the text for linguistic and cultural comprehension.	Task-based exercises with listening, speech, reading writing. Vocabulary practice.	Each class has points from in-class tasks, mini-tests, quizzes.
	6	TOEIC skills practice with extensive and intensive reading of the text for linguistic and cultural comprehension.	Task-based exercises with listening, speech, reading writing. Vocabulary practice.	Each class has points from in-class tasks, mini-tests, quizzes.
	7	TOEIC skills practice with extensive and intensive reading of the text for linguistic and cultural comprehension.	Task-based exercises with listening, speech, reading writing. Vocabulary practice.	Each class has points from in-class tasks, mini-tests, quizzes.
	8	TOEIC skills practice with extensive and intensive reading of the text for linguistic and cultural comprehension.	Task-based exercises with listening, speech, reading writing. Vocabulary practice.	Each class has points from in-class tasks, mini-tests, quizzes.
	9	TOEIC skills practice with extensive and intensive reading of the text for linguistic and cultural comprehension.	Task-based exercises with listening, speech, reading writing. Vocabulary practice.	Each class has points from in-class tasks, mini-tests, quizzes.
	10	TOEIC skills practice with extensive and intensive reading of the text for linguistic and cultural comprehension.	Task-based exercises with listening, speech, reading writing. Vocabulary practice.	Each class has points from in-class tasks, mini-tests, quizzes.
	11	TOEIC skills practice with extensive and intensive reading of the text for linguistic and cultural comprehension.	Task-based exercises with listening, speech, reading writing. Vocabulary practice.	Each class has points from in-class tasks, mini-tests, quizzes.
	12	TOEIC skills practice with extensive and intensive reading of the text for linguistic and cultural comprehension.	Task-based exercises with listening, speech, reading writing. Vocabulary practice.	Each class has points from in-class tasks, mini-tests, quizzes.
13	TOEIC skills practice with	Task-based exercises with	Each class has points from in-class tasks,	

		extensive and intensive reading of the text for linguistic and cultural comprehension.	listening, speech, reading writing. Vocabulary practice.	mini-tests, quizzes.
	14	TOEIC skills practice with extensive and intensive reading of the text for linguistic and cultural comprehension.	Task-based exercises with listening, speech, reading writing. Vocabulary practice.	Each class has points from in-class tasks, mini-tests, quizzes.
	15	TOEIC skills practice with extensive and intensive reading of the text for linguistic and cultural comprehension.	Task-based exercises with listening, speech, reading writing. Vocabulary practice.	Each class has points from in-class tasks, mini-tests, quizzes.
関連科目	なし			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	SCD Carnaval ISBN 978-4-990-5671-5-6	Richard Rowat	Weissman Press
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	In-class tasks, quizzes, mini-tests 40%, Final exam 40%, Vocabulary (Level 4) 20% 100点満点中60点以上で合格。			
学生への メッセージ				
担当者の 研究室等				
備考	All students should make the utmost effort to attend class regularly.			

科目名	英語Ⅱa	科目名(英文)	EnglishⅡa
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	78
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	平尾 秀実
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	ユニットごとにTOEICテスト頻出の Vocabulary や文法を学習し、無理なくTOEICテストに慣れ親しみます。単なる得点獲得のテクニックではなく、文法の基礎を確認しながらしっかりと読解力とコミュニケーション能力を身につけていきます。 学科の学習・教育目標との対応：「A」
到達目標	TOEIC 400 以上
授業方法と留意点	最初にTOEIC形式の Before Test を解いた後に、各問題のトピック、文法、語彙などを分析します。 次にもう一度 Before Test を前提とした After Test に挑戦して再度分析を行い、知識の定着を図ります。 さらに小テストとして、単語集またはテキストの指定された単語の書き取りテストを毎回行います。英語辞書必携
科目学習の効果(資格)	TOEICや英検など資格試験の得点アップにつながります。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	Orientation	講義内容、授業の進め方、成績評価の説明、英文の基本構造と品詞	教科書全体に目を通しておくこと
2	Unit 1 身の回りの物・場所の名称	Listening	単語集の指定された単語 (601~633) テキストの指定された単語
3	Unit 1 身の回りの物・場所の名称	Reading	単語集の指定された単語 (634~671) テキストの指定された単語
4	Unit 2 wh 疑問への応答	Listening	単語集の指定された単語 (672~710) テキストの指定された単語
5	Unit 2 wh 疑問への応答	Reading	単語集の指定された単語 (711~747) テキストの指定された単語
6	Unit 3 語句からの状況判断	Listening	単語集の指定された単語 (748~783) テキストの指定された単語
7	Unit 3 語句からの状況判断	Reading	単語集の指定された単語 (784~819) テキストの指定された単語
8	Unit 4 人物の動作表現	Listening	単語集の指定された単語 (820~853) テキストの指定された単語
9	Unit 4 人物の動作表現	Reading	単語集の指定された単語 (854~877) テキストの指定された単語
10	Unit 5 yes/no 疑問文への応答	Listening	単語集の指定された単語 (878~900) テキストの指定された単語
11	Unit 5 yes/no 疑問文への応答	Reading	単語集の指定された単語
12	Unit 6 会話表現からの状況判断	Listening	単語集の指定された単語
13	Unit 6 会話表現からの状況判断	Reading	単語集の指定された単語
14	Unit 7 選択・付加疑問文への応答	Listening	単語集の指定された単語
15	Unit 7 選択・付加疑問文への応答	Reading	定期試験の準備

関連科目 英語Ⅰa/b、英語Ⅱb/d、英語Ⅲa/b、TOEIC 関連科目

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	TOEIC Bridge: Training Tips	高山芳樹	南雲堂
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test		成美堂
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法(基準)	統一英語単語テスト20%、定期試験40%、小テスト10%、課題テスト20%、レポート10%
学生へのメッセージ	単語集の単語だけでなく、テキストの各ユニットにおける語彙は、英和辞書を使って予習しておいて下さい。語彙力が英語の上達に大きく影響します。
担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室、水曜日の昼休みの時間 金曜日の1と2限目の休み時間
備考	休まず積極的に授業に参加して下さい。努力は実ります。

科目名	英語Ⅱa	科目名(英文)	English IIa
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	910
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	松浦 茂寿
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	今までに学んできた基本文法知識を確認し、皆さんが受ける TOEICブリッジ受験に必要な解法テクニック、特に普段の努力を積み上げ必ず伸びる文法力及び読解力の更なる向上を目標とする。又、授業に平行してテスト受験に欠かせない語彙力向上も目指す。また、授業計画は進度によって変わる場合がある。 学科の学習・教育目標との対応：[C]
到達目標	「文法ルール及び語彙、毎日ちょっと覚えよう！」文法問題が解けるようになるには、1つでも多くの文法ルールを覚え、問題文にどの文法ルールが使われているか見抜くのが早道であり、毎日少しずつの努力が大きな結果につながる。単語と同じく、根気よく繰り返し覚え、1つでも多くの問題が解けるように頑張ろう。
授業方法と留意点	毎週、授業時に単語帳から単語テストを行う予定。今まで習ってきた語彙や文法知識を駆使し、一つでも多くの問題が解けることを望む。予習として次に進む分の練習問題を解いて授業に臨もう。特に4択問題は今まで習った文法ルール及び語彙を駆使し、「この選択肢はこう間違っているから違う」と分かる様になればしめたもの。授業で出てきた新しい単語や学んだ内容をくり返して覚えるのが上達への早道です！
科目学習の効果(資格)	TOEICブリッジ受験に必要な基本的事項の復習及び知識の養成。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業方法、提出物、評価方法についての説明	
2	Unit 1 Eating Out 文法：動詞	文法、語彙の各問題演習、答え合わせ	教科書 p. 1-5
3	Unit 1 Eating Out 文法：動詞	リーディング問題演習、答え合わせ	教科書 p. 6-8
4	Unit 2 Travel 文法：動詞の時制(1)	文法、語彙の各問題演習、答え合わせ	教科書 p. 9-13
5	Unit 2 Travel 文法：動詞の時制(1)	リーディング問題演習、答え合わせ	教科書 p. 14-16
6	Unit 3 Amusement 文法：動詞の時制(2)	文法、語彙の各問題演習、答え合わせ	教科書 p. 17-21
7	Unit 3 Amusement 文法：動詞の時制(2)	リーディング問題演習、答え合わせ	教科書 p. 22-24
8	Unit 4 Meetings 文法：代名詞	文法、語彙の各問題演習、答え合わせ	教科書 p. 25-29
9	Unit 4 Meetings 文法：代名詞	リーディング問題演習	教科書 p. 30-32
10	Unit 5 Personnel 文法：不定詞	リーディング問題演習、答え合わせ	教科書 p. 33-37
11	Unit 5 Personnel 文法：不定詞	文法、語彙の各問題演習、答え合わせ	教科書 p. 38-40
12	Unit 6 Shopping 文法：動名詞	リーディング問題演習、答え合わせ	教科書 p. 41-45
13	Unit 6 Shopping 文法：動名詞	リーディング問題演習、答え合わせ	教科書 p. 46-48
14	Unit 7 Advertisement Media 文法：冠詞、名詞(1)	文法、語彙の各問題演習、答え合わせ	教科書 p. 49-53
15	Unit 7 Advertisement Media 文法：冠詞、名詞(1)	リーディング問題演習、答え合わせ	教科書 p. 54-56

関連科目	なし
------	----

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Step-uo Skills for the TOEIC Test いま始めよう TOEIC テスト	北尾泰幸、林姿穂、西田晴美、ブライアンコバート編著	朝日出版社
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test 学校語彙で学ぶ TOEIC テスト (単語集)	西谷恒志	成美堂	
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法(基準)	定期試験、提出物、単語小テスト、平常点の合計 80%に統一単語テスト 20%を足して総合評価します。TOEICブリッジ及び単語テストを受験しなかった人は評価に大きく影響します。また、日頃の授業態度も重視します。授業内容は進度により変更になることがあります。
----------	--

学生へのメッセージ	「明るく、元気で、感動と発見を与える授業に！」私語をせず、マナーを守り、積極的に参加してクラス全体が一つになる様に、各自協力してもらいたい。折角、授業中に学んだことを暗記したままではすぐに忘れてしまいます。例えば英語で書かれた看板のメッセージ等を見ただけで指示が読めるように授業外で繰り返し学習するのが英語上達への早道です。教える側も学ぶ側も仲良く、楽しく、実りある半期になる事を祈る！
-----------	---

担当者の研究室等備考	7号館2階非常勤講師室 なし
------------	-------------------

科目名	英語Ⅱa	科目名(英文)	EnglishⅡa
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	1112
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	有本 好一郎
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	英語力向上にはこれまでの中学高校レベルの復習も欠かすことはできません。特に、資格(TOEIC、英検など)取得には読み書き、英文法のみならず、リスニングにも重点を置く必要があるため、毎回の授業で取り組みます。聴解力がつくと実感できますが、前向きに学習することが大前提です。資格取得に向けて前向きに受験してください。また授業担当者がアメリカで経験したことを写真で紹介することもあります。
到達目標	基礎的なリスニング力、語彙力、文法知識を習得することを目標にする。英語資格試験に積極的に挑戦すること。
授業方法と留意点	読解、文法問題、ディクテーションなどを多用し、語彙の習得、文法力向上、聴解力向上を図る。中高で英語に苦手意識を持った学生も初心に戻り、学習して欲しい。
科目学習の効果(資格)	TOEICの得点向上が期待できるので積極的に受験して欲しい。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス、TOEICの説明、英語クロスワードパズルなど	授業の進め方、評価方法、企業が要求するスコアなどを説明	教科書の予習、クロスワードパズルの暗記、英単語の暗記917-936
2	自己紹介についての文章を通して名詞の学習(固有名詞、複数形など)	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記、英単語の暗記937-956
3	家族、ペットについての文章を通して動詞の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記、英単語の暗記957-976
4	趣味についての文章を通して主語+動詞~の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記、英単語の暗記977-996
5	大学生活についての文章を通して人称代名詞の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記、英単語の暗記997-1016
6	食物についての文章を通して疑問詞の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記、英単語の暗記1017-1036
7	コンサートについての文章を通してHow+形容詞、副詞の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記、英単語の暗記1037-1056
8	中間試験	試験後、答え合わせを行い弱点を復習	教科書の予習復習、英単語の暗記1057-1076
9	道案内についての文章を通して助動詞の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記、英単語の暗記1077-1096
10	日本文化についての文章を通して助動詞の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記、英単語の暗記1097-1116
11	ジェスチャーについての文章を通して前置詞の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記、英単語の暗記1117-1136
12	観光案内についての文章を通して時制の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記、英単語の暗記1137-1156
13	ネットショッピングについての文章を通して進行形の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記、英単語の暗記1157-1176
14	E-mailについての文章を通して数字の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記
15	9-14回の復習とまとめ	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	期末試験の準備

関連科目	その他英語科目全般
------	-----------

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Forerunner to Power - Up English ISBN-13: 978-4523176244	JACET リスニング研究会	南雲堂
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	The Core Vocabulary for the TOEIC Test	西谷恒志	成美堂
2			
3			

評価方法(基準)	担当教員の評価80%、統一英語単語テスト20%で全体の評価を行う。
----------	-----------------------------------

学生へのメッセージ	英語習得には普段の努力が大切である、通学時にi-Pod等の録音機、ラジオ番組、コンピューターなどを積極的に活用し学習すること。
-----------	---

担当者の研究室等	7号館2階(非常勤講師室)
----------	---------------

備考	単語試験は「The Core Vocabulary for the TOEIC Test」から出題される範囲を受験すること。 単語番号917?1176までの範囲で期末に試験が行われます。
----	--

科目名	英語Ⅱa	科目名(英文)	EnglishⅡa
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	1314
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	中本 明子
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

基礎科目

授業概要・目的	ユニットごとにTOEICテスト頻出の Vocabulary や文法を学習し、無理なくTOEICテストに慣れ親しみます。単なる得点獲得のテクニックではなく、文法の基礎を確認しながらしっかりと読解力とコミュニケーション能力を身につけていきます。 学科の学習・教育目標との対応：「A」
到達目標	実用英語におけるコミュニケーション能力を身に付けます。
授業方法と留意点	最初にTOEIC形式のBefore Testを解いた後に、核問題のトピック、文法、語彙などを分析します。次にもう一度Before Testを前提としたAfter Testに挑戦して再度分析を行い、知識の定着を図ります。さらに小テストとして、単語集またはテキストの指定された単語の書き取りテストを毎回行います。
科目学習の効果(資格)	TOEICや英検など資格試験の得点アップにつながります。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	Orientation	講義内容、授業の進め方、成績評価の説明、英文の基本構造と品詞	教科書全体に目を通しておくこと
2	Unit 1	オフィスにて Listening Section (Before Test) Part 1~4	単語集の指定された単語 (917~953) テキストの指定された単語
3	Unit 1	オフィスにて Listening Section (After Test) Part 1~4	単語集の指定された単語 (954~992) テキストの指定された単語
4	Unit 2	現在完了形 Reading Section (Before Test) Part 5~7	単語集の指定された単語 (993~1028) テキストの指定された単語
5	Unit 2	現在完了形 Reading Section (After Test) Part 5~7	単語集の指定された単語 (1029~1063) テキストの指定された単語
6	Unit 3	スーパーマーケットにて Listening Section (Before Test) Part 1~4	単語集の指定された単語 (1064~1101) テキストの指定された単語
7	Unit 3	スーパーマーケットにて Listening Section (After Test) Part 1~4	単語集の指定された単語 (1102~1137) テキストの指定された単語
8	Unit 4	分詞形容詞 Reading Section (Before Test) Part 5~7	単語集の指定された単語 (1138~1176) テキストの指定された単語
9	Unit 4	分詞形容詞 Reading Section (After Test) Part 5~7	テキストの指定された単語
10	Unit 5	楽器演奏者 Listening Section (Before Test) Part 1~4	テキストの指定された単語
11	Unit 5	楽器演奏者 Listening Section (After Test) Part 1~4	テキストの指定された単語
12	Unit 6	形容詞と副詞 Reading Section (Before Test) Part 5~7	テキストの指定された単語
13	Unit 6	形容詞と副詞 Reading Section (After Test) Part 5~7	テキストの指定された単語
14	Unit 7	手荷物類 Listening Section (Before & After Test) Part 1~4	テキストの指定された単語
15	前期の総括	前期まとめテストと解説	テストの復習

関連科目 英語Ⅰa/b、英語Ⅱb/d、英語Ⅲa/b、TOEIC関連科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Before-After Practice for the TOEIC TEST	Jonathan Lynch、山本 厚子、渡辺 香名子	センテージ ラーニング社
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test - WORD BOOK -	西谷 恒志	成美堂	
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法(基準) 統一英語単語テスト20%、小テスト30%及び前期まとめテスト50%で、授業態度は減点方式とし、総合的に評価します。

学生への 単語集の単語だけでなく、テキストの各ユニットにおける語彙は、英和辞書を使って予習しておいて下さい。語彙力が英語の上達に大きく影響し

メッセージ	ます。
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師室
備考	休まず積極的に授業に参加して下さい。努力は実ります。

科目名	英語Ⅱb	科目名(英文)	English IIb
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	12
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	松井 智子
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

基礎科目

授業概要・目的	この授業では、TOEIC テスト用のテキストを使用して、TOEIC テストでのスコアアップ並びに総合的な英語運用能力の向上を目指します。TOEIC 形式の問題を実践的に解きながら、基本的な文法事項をおさらいし、頻出会話フレーズを身に付け、応用可能なリーディング・スキルを修得します。 学科の学習・教育目標との対応：[F]
到達目標	TOEIC リスニングセクションの頻出表現を学び、音声を瞬時に意味として把握できるようになる。 TOEIC リーディングセクションに頻出する基礎的な文法事項を確実にし、文法問題は高速で解答できるようになる。 TOEIC リーディングセクションの文書問題を実践的に解きながら、効率的に英文を読むスキルを身につける。 TOEIC 頻出重要単語・熟語を学び、語彙力を強化する。
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> 基本的に、2回の授業でテキスト1課分進む。補助プリントも用いる。 1課分が終わったら、確認のための小テストを行う。 リスニングの回では、ディクテーション・音読・ペアワークなども行う。 毎回、授業の冒頭で単語テストを行う（指定単語集より）。 毎回、英和辞典を必ず持参し、わからない単語を引けるようにすること。 授業時間内に、テキストの問題に実践的に取り組みながらスキルを身につけるため、予習より復習に重点をおいて自己学習すること。
科目学習の効果(資格)	英検・TOEIC テストのスコアアップなど。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業の内容と進め方、評価方法などについて説明する。	単語学習範囲：1177-1216
2	Unit 7 〈Listening〉 確認	単語テスト：1177-1216 Training Point 講義、演習、解説	単語学習範囲：1217-1257 テキストの復習
3	Unit 7 〈Reading〉 分詞	単語テスト：1217-1257 Training Point 講義、演習、解説 小テスト：Unit 7	単語学習範囲：1258-1297 テキストの復習
4	Unit 8 〈Listening〉 留守電	単語テスト：1258-1297 Training Point 講義、演習、解説	単語学習範囲：1298-1338 テキストの復習
5	Unit 8 〈Reading〉 スキャニング	単語テスト：1298-1338 Training Point 講義、演習、解説 小テスト：Unit 8	単語学習範囲：1339-1378 テキストの復習
6	Unit 9 〈Listening〉 アドバイス	単語テスト：1339-1378 Training Point 講義、演習、解説	単語学習範囲：1379-1419 テキストの復習
7	Unit 9 〈Reading〉 受動態	単語テスト：1379-1419 Training Point 講義、演習、解説 小テスト：Unit 9	単語学習範囲：1420-1459 テキスト（第1回～第7回）の復習
8	第7回までの復習 ミニ模試	単語テスト：1420-1459 第7回までの学習項目についてふりかえり ミニ模試の実施、解説	単語学習範囲：1460-1500 テキストの復習
9	Unit 10 〈Listening〉 誘い	単語テスト：1460-1500 Training Point 講義、演習、解説	単語学習範囲：1177-1216（番号に注意） テキストの復習
10	Unit 10 〈Reading〉 比較	単語テスト：1177-1216（番号に注意） Training Point 講義、演習、解説 小テスト：Unit 10	単語学習範囲：1217-1257 テキストの復習
11	Unit 11 〈Listening〉 申し出	単語テスト：1217-1257 Training Point 講義、演習、解説	単語学習範囲：1258-1297 テキストの復習
12	Unit 11 〈Reading〉 関係詞	単語テスト：1258-1297 Training Point 講義、演習、解説 小テスト：Unit 11	単語学習範囲：1298-1338 テキストの復習
13	Unit 12 〈Listening〉 講演者紹介	単語テスト：1298-1338 Training Point 講義、演習、解説	単語学習範囲：1339-1378 テキストの復習
14	Unit 12 〈Reading〉 スキミング	単語テスト：1339-1378 Training Point 講義、演習、解説 小テスト：Unit 12	単語学習範囲：1379-1419 テキストの復習
15	総復習	単語テスト：1379-1419 第14回までの学習項目についてふりかえり Post-test の実施、解説	テキスト（定期試験範囲）の復習 （Post-Test の予習は不要です。評価対象としません）

関連科目 英語Ⅱa

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	THE TOEIC TEST TRAINER TARGET 470 (Revised Edition)	Masahiko Yamaguchi, George W. Pifer	CENGAGE Learning
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test: WORD BOOK (学校語彙で学ぶ TOEIC テスト【単語集】)	西谷恒志	成美堂	
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準)	(1) 統一英語単語試験 20% (2) 定期試験 40% (3) 小テスト 30% (4) 単語テスト 10% 以上の割合で総合的に評価する。なお、授業態度は減点方式とする。
学生への メッセージ	TOEIC の得点獲得のテクニックに終わらず、ディクテーションや音読、フレーズリーディング、スキミングなどの練習を通して、トータルなコミュニケーション能力の向上を目指す内容です。TOEIC 形式の問題に実践的に取り組みながら、レベルアップを実感できるよう、一緒に学んでいきましょう。 単語学習には、単語集に付属の e-learning 教材（リンガポルタ）を使用すると効果的です。TOEIC 受験もお勧めします。
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師室
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・授業を妨げる行為や、ペアワークなどで他の受講者に迷惑をかける行為は、減点対象とします。 ・授業内容・進度は、受講生の学習状況を考慮して調整することもあります。 ・個別に質問等がある場合は、授業後すぐに教壇または7号館2階の非常勤講師室にて受け付けます。

科目名	英語Ⅱb	科目名(英文)	English IIb
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	34
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	谷脇 康子
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

基礎科目

授業概要・目的	最新のニュース記事を取り扱った文献を読み、中学・高校で既習の文法事項の再確認と、基本的な読解力を身につけること。適宜リスニング演習を行い、TOEICの問題形式に慣れ、スコアアップにつながる語彙・聞き取り技能を身につけること。			
到達目標	中学・高校で既習した文法事項を再確認し、正しい語法を身につける。 まとまった文献の内容が正しく理解できる読解力を身につける。 TOEICに対応できる語彙・文法・聞き取り技能を向上させる。			
授業方法と留意点	毎回授業のはじめに単語テスト、もしくは聞き取りテストを行う。 テキスト本文は作業用紙による読解演習、練習問題は学生主体に解答を確認する。 毎回授業のおわりに授業内容の理解度を診断する確認テストを行う。 授業中は集中して作業・演習にのぞむことが求められる。辞書必携。			
科目学習の効果(資格)	TOEICスコアアップ			
授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	羽生選手、勝利後に2011年3月の震災を振り返る(1)	聞き取りテスト 作業用紙による読解演習	授業内容の復習 確認テスト
	2	羽生選手、勝利後に2011年3月の震災を振り返る(2)	単語テスト(1)N01177-1201 聞き取りテスト テキスト練習問題と解答	単語テストの準備 授業内容の復習 確認テスト
	3	日本の日常生活が観光客を魅了(1)	単語テスト(2)N01202-1224 作業用紙による読解演習	単語テストの準備 授業内容の復習 確認テスト
	4	日本の日常生活が観光客を魅了(2)	単語テスト(3)N01225-1248 聞き取りテスト テキスト練習問題と解答	単語テストの準備 授業内容の復習 確認テスト
	5	就活中の人には現実的展望が必要(1)	単語テスト(4)N01249-1272 作業用紙による読解演習	単語テストの準備 授業内容の復習 確認テスト
	6	就活中の人には現実的展望が必要(2)	単語テスト(5)N01273-1296 聞き取りテスト テキスト練習問題と解答	単語テストの準備 授業内容の復習 確認テスト
	7	ほぼ盲目の男性、「人工眼」を得る	単語テスト(6)N01297-1322 作業用紙による読解演習	単語テストの準備 授業内容の復習 確認テスト
	8	1回～7回授業の総復習 中間テスト	1回～7回授業の質問と回答 中間テスト	中間テストの準備
	9	日本製スマホ、海外へ進出(1)	単語テスト(7)N01323-1347 作業用紙による読解演習	単語テストの準備 授業内容の復習 確認テスト
	10	日本製スマホ、海外へ進出(2)	単語テスト(8)N01348-1372 聞き取りテスト テキスト練習問題と解答	単語テストの準備 授業内容の復習 確認テスト
	11	タブレット、子供にも人気、しかし専門家は懸念(1)	単語テスト(9)N01373-1395 作業用紙による読解演習	単語テストの準備 授業内容の復習 確認テスト
	12	タブレット、子供にも人気、しかし専門家は懸念(2)	単語テスト(10)N01396-1418 聞き取りテスト テキスト練習問題と解答	単語テストの準備 授業内容の復習 確認テスト
	13	新ハローワーク、若者の定職探しを支援(1)	単語テスト(11)N01419-1453 作業用紙による読解演習	単語テストの準備 授業内容の復習 確認テスト
	14	新ハローワーク、若者の定職探しを支援(2)	単語テスト(12)N01454-1500 聞き取りテスト テキスト練習問題と解答	単語テストの準備 授業内容の復習 確認テスト
	15	9回～14回授業の総復習 まとめのテスト	9回～14回授業の質問と回答 まとめのテスト	まとめのテストの準備
関連科目	他の英語科目全般			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test	西谷恒志	成美堂
	2	Meet the World English through Newspapers 2015	若有保彦	成美堂
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法(基準)	統一英語単語テスト 20%、単語テスト 10%、確認テスト 20%、中間テスト 25%、まとめのテスト 25%			
学生へのメッセージ	授業はリズムカルにテンポよく進めます。集中力をきらさず一生懸命ついてきてください。			

担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師室
備考	



科目名	英語Ⅱb	科目名(英文)	English IIb
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	56
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	ダンカン ホワイト
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

基礎科目

授業概要・目的	英語Ⅱaで修得した読解スキルを活用しながら、さらに読解力を高めていくとともに語彙や文法を強化していきます。 TOEIC形式の問題を実践的に解きながら、文法・読解・語彙など広く英語力の底上げをして、最終的にTOEIC400点以上取得することを目指す。 This course focuses on reading skills, TOEIC, and vocabulary enrichment.			
到達目標	The course purposes are to sharpen reading skills, expand vocabulary and raise the level of scores in the TOEIC, all while enriching cultural and linguistic awareness.			
授業方法と留意点	Classes will use many task-based exercises for reading, listening, TOEIC and vocabulary.			
科目学習の効果(資格)	TOEICテストのスコアアップ			
授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	TOEIC, reading, vocabulary practice with cultural and linguistic appreciation.	Task-based exercises.	Regular in-class quizzes.
	2	TOEIC, reading, vocabulary practice with cultural and linguistic appreciation.	Task-based exercises.	Regular in-class quizzes.
	3	TOEIC, reading, vocabulary practice with cultural and linguistic appreciation.	Task-based exercises.	Regular in-class quizzes.
	4	TOEIC, reading, vocabulary practice with cultural and linguistic appreciation.	Task-based exercises.	Regular in-class quizzes.
	5	TOEIC, reading, vocabulary practice with cultural and linguistic appreciation.	Task-based exercises.	Regular in-class quizzes.
	6	TOEIC, reading, vocabulary practice with cultural and linguistic appreciation.	Task-based exercises.	Regular in-class quizzes.
	7	TOEIC, reading, vocabulary practice with cultural and linguistic appreciation.	Task-based exercises.	Regular in-class quizzes.
	8	TOEIC, reading, vocabulary practice with cultural and linguistic appreciation.	Task-based exercises.	Regular in-class quizzes.
	9	TOEIC, reading, vocabulary practice with cultural and linguistic appreciation.	Task-based exercises.	Regular in-class quizzes.
	10	TOEIC, reading, vocabulary practice with cultural and linguistic appreciation.	Task-based exercises.	Regular in-class quizzes.
	11	TOEIC, reading, vocabulary practice with cultural and linguistic appreciation.	Task-based exercises.	Regular in-class quizzes.
	12	TOEIC, reading, vocabulary practice with cultural and linguistic appreciation.	Task-based exercises.	Regular in-class quizzes.
	13	TOEIC, reading, vocabulary practice with cultural and linguistic appreciation.	Task-based exercises.	Regular in-class quizzes.
	14	TOEIC, reading, vocabulary practice with cultural and linguistic appreciation.	Task-based exercises.	Regular in-class quizzes.
	15	TOEIC, reading, vocabulary practice with cultural and linguistic appreciation.	Task-based exercises.	Regular in-class quizzes.
関連科目	なし			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	SCD Carnaval ISBN 978-4-9905671-5-6	Richard Rowat	Weissman Press
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法(基準)	In-class tasks, quizzes, mini-tests 40%, Final exam 40%, Vocabulary (Level 4) 20% 100点満点中60点以上で合格。			

学生への メッセージ	文章の目的を分析し、また組み立てや展開を理解する訓練を行ない、効率的な読みのできる読解力を養いましょう。 英語を毎日学習する習慣を身につけてください。
担当者の 研究室等	
備考	All students should make utmost efforts to attend every class.

科目名	英語Ⅱb	科目名(英文)	English IIb
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	78
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	平尾 秀実
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

基礎科目

授業概要・目的	ユニットごとにTOEICテスト頻出の Vocabulary や文法を学習し、無理なくTOEICテストに慣れ親しみます。単なる得点獲得のテクニックではなく、文法の基礎を確認しながらしっかりと読解力とコミュニケーション能力を身につけていきます。 学科の学習・教育目標との対応：「A」			
到達目標	TOEIC 450 以上			
授業方法と留意点	最初にTOEIC形式のBefore Testを解いた後に、各問題のトピック、文法、語彙などを分析します。 次にもう一度Before Testを前提としたAfter Testに挑戦して再度分析を行い、知識の定着を図ります。 さらに小テストとして、単語集またはテキストの指定された単語の書き取りテストを毎回行います。英語辞書必携			
科目学習の効果(資格)	TOEICや英検など資格試験の得点アップにつながります。			
授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	Orientation	講義内容、授業の進め方、成績評価の説明、英文の基本構造と品詞、前期学習事項の確認	教科書全体に目を通しておくこと
	2	Unit 8 日時・数量	Listening	単語集の指定された単語(1177~1202) テキストの指定された単語
	3	Unit 8 日時・数量	Reading	単語集の指定された単語(1203~1227) テキストの指定された単語
	4	Unit 9 人物や物の状態表現	Listening	単語集の指定された単語(1228~1252) テキストの指定された単語
	5	Unit 9 人物や物の状態表現	Reading	単語集の指定された単語(1253~1227) テキストの指定された単語
	6	Unit 10 発言に対する自然な応答	Listening	単語集の指定された単語(1278~1302) テキストの指定された単語
	7	Unit 10 発言に対する自然な応答	Reading	単語集の指定された単語(1303~1327) テキストの指定された単語
	8	Unit 11 語句からの状況判断(2)	Listening	単語集の指定された単語(1328~1352) テキストの指定された単語
	9	Unit 11 語句からの状況判断(2)	Reading	単語集の指定された単語(1353~1377) テキストの指定された単語
	10	Unit 12 否定疑問文に対する応答	Listening	単語集の指定された単語(1378~1402) テキストの指定された単語
	11	Unit 12 否定疑問文に対する応答	Reading	テキストの指定された単語(1403~1427)
	12	Unit 13 位置関係を表す表現	Listening	テキストの指定された単語(1428~1452)
	13	Unit 13 位置関係を表す表現	Reading	テキストの指定された単語(1453~1477)
	14	Unit 14 英語の語順	Listening	テキストの指定された単語(1478~1500)
	15	Unit 14 英語の語順	Reading	定期試験の準備
関連科目	英語Ⅰa/b、英語Ⅱb/d、英語Ⅲa/b、TOEIC 関連科目			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	TOEIC Bridge: Training Tips	高山芳樹	南雲堂
	2	The Core Vocabulary for the TOEIC Test		成美堂
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			成美堂
	3			
評価方法(基準)	統一英語単語テスト20%、定期試験40%、課題テスト20%、小テスト10%、レポート10%			
学生へのメッセージ	単語集の単語だけでなく、テキストの各ユニットにおける語彙は、英和辞書を使って予習しておいて下さい。語彙力が英語の上達に大きく影響します。			
担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室、水曜日の昼休みの時間、金曜日の1と2限目の休み時間			
備考	休まず積極的に授業に参加して下さい。努力は実ります。			

科目名	英語Ⅱb	科目名(英文)	English IIb
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	910
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	松浦 茂寿
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	前期に続き、今までに学んできた基本文法知識を確認し、皆さんが受ける TOEICブリッジ受験に必要な解法テクニック、特に普段の努力を積み重ねて必ず伸びる文法力及び読解力の更なる向上を目標とする。又、授業に平行してテスト受験に欠かせない語彙力向上も目指す。また、授業計画は進度によって変わる場合がある。 学科の学習・教育目標との対応：[C]
到達目標	「文法ルール及び語彙、毎日ちょっと覚えよう！」文法問題が解けるようになるには、1つでも多くの文法ルールを覚え、問題文にどの文法ルールが使われているか見抜くのが早道であり、毎日少しずつの努力が大きな結果につながる。単語と同じく、根気よく繰り返し覚え、1つでも多くの問題が解けるように頑張ろう。
授業方法と留意点	毎週、授業時に単語帳から単語テストを行う予定。今まで習ってきた語彙や文法知識を駆使し、一つでも多くの問題が解けることを望む。予習として次に進む分の練習問題を解いて授業に臨もう。特に4択問題は今まで習った文法ルール及び語彙を駆使し、「この選択肢はこう間違っているから違う」と分かる様になればしめたもの。授業で出てきた新しい単語や学んだ内容をくり返して覚えるのが上達への早道です！
科目学習の効果(資格)	TOEICブリッジ受験に必要な基本的事項の復習及び知識の養成。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	
1	前期の復習、オリエンテーション	授業方法、提出物、評価方法についての説明		
2	Unit 8 Daily Life 文法：冠詞・名詞(2)	文法、語彙の各問題演習、答え合わせ	教科書 p. 57-61	
3	Unit 8 Daily Life 文法：冠詞・名詞(2)	リーディング問題演習、答え合わせ	教科書 p. 62-64	
4	Unit 9 Office Work 文法：仮定法	文法、語彙の各問題演習、答え合わせ	教科書 p. 65-69	
5	Unit 9 Office Work 文法：仮定法	リーディング問題演習、答え合わせ	教科書 p. 70-72	
6	Unit 10 Business 文法：分詞	文法、語彙の各問題演習、答え合わせ	教科書 p. 73-78	
7	Unit 10 Business 文法：分詞	リーディング問題演習、答え合わせ	教科書 p. 79-82	
8	Unit 11 Traffic 文法：関係詞	文法、語彙の各問題演習、答え合わせ	教科書 p. 83-88	
9	Unit 11 Traffic 文法：関係詞	リーディング問題演習	教科書 p. 89-92	
10	Unit 12 Finance and Banking 文法：接続詞	文法、語彙の各問題演習、答え合わせ	教科書 p. 93-97	
11	Unit 12 Finance and Banking 文法：接続詞	リーディング問題演習、答え合わせ	教科書 p. 98-100	
12	Unit 13 Media 文法：前置詞	文法、語彙の各問題演習、答え合わせ	教科書 p.101-105	
13	Unit 13 Media 文法：前置詞	リーディング問題演習、答え合わせ	教科書 p. 106-108	
14	Unit 14 Health and Welfare	文法、語彙の各問題演習、答え合わせ	教科書 p. 109-113	
15	Unit 14 Health and Welfare	リーディング問題演習、答え合わせ	教科書 p. 114-117	

関連科目	なし
------	----

番号	書籍名	著者名	出版社名
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test 学校語彙で学ぶ TOEIC テスト (単語集)	西谷恒志	成美堂
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
2			
3			

評価方法(基準)	定期試験、提出物、単語小テスト、平常点の合計 80%に統一単語テスト 20%を足して総合評価します。TOEICブリッジ及び単語テストを受験しなかった人は評価に大きく影響します。また、日頃の授業態度も重視します。授業内容は進度により変更になることがあります。
学生へのメッセージ	「明るく、元気で、感動と発見を与える授業に！」私語をせず、マナーを守り、積極的に参加してクラス全体が一つになる様に、各自協力してもらいたい。折角、授業中に学んだことを暗記したままではすぐに忘れます。例えば英語で書かれた看板のメッセージ等を見ただけで指示が読めるように授業外で繰り返し学習するのが英語上達への早道です。教える側も学ぶ側も仲良く、楽しく、実りある半期になる事を祈る！
担当者の研究室等	7号館2階非常勤講師室
備考	なし

科目名	英語Ⅱb	科目名(英文)	English IIb
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	1112
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	有本 好一郎
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	英語力向上にはこれまでの中学高校レベルの復習も欠かすことはできません。特に、資格(TOEIC、英検など)取得には読み書き、英文法のみならず、リスニングにも重点を置く必要がありますので、毎回の授業で取り組みます。聴解力がつくな実感できますが、前向きに学習することが大前提です。資格取得に向けて前向きに受験してください。また授業担当者がアメリカで経験したことを写真で紹介することもあります。
到達目標	基礎的なリスニング力、語彙力、文法知識を習得を目標とする。英語資格試験に積極的に挑戦すること。
授業方法と留意点	読解、文法問題集、ディクテーションなどを多用し、語彙の習得、文法力向上、聴解力向上を図る。中高で英語に苦手意識を持った学生も初心に帰り、学習して欲しい。
科目学習の効果(資格)	TOEICの得点向上が期待できるので積極的に受験して欲しい。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス、TOEICの説明、英語クロスワードパズルなど	授業の進め方、評価方法、企業が要求するスコアなどを説明	教科書の予習、クロスワードパズルの暗記、英単語の暗記1177-1201
2	機内放送についての文章を通して、天候や時の表現の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記、英単語の暗記1202-1226
3	空港で放送される文章を通して接続詞の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記、英単語の暗記1227-1251
4	ホテルで使われる文章を通して不定詞の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記、英単語の暗記1252-1276
5	レストランで使われる文章を通して形容詞の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記、英単語の暗記1277-1301
6	買い物で使われる文章を通して頻度を表す副詞の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記、英単語の暗記1302-1326
7	野球についての文章を通して比較級の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記、英単語の暗記1327-1351
8	中間試験	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記、英単語の暗記1352-1376
9	ミュージカル鑑賞についての文章を通して完了形の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記、英単語の暗記1400-1424
10	旅行案内についての文章を通して受動態の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記、英単語の暗記1425-1449
11	問題解決についての文章を通して受動態の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記、英単語の暗記1450-1474
12	体調不良についての文章を通して分詞の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記、英単語の暗記1475-1500
13	電話の会話についての文章を通して動名詞の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記
14	別れの手紙の文章を通してセンスグループの学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記
15	9-14回の復習とまとめ	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	期末試験の準備

関連科目 他全ての英語科目

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Forerunner to Power - Up English	JACET リスニング研究会	南雲堂
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	The Core Vocabulary for the TOEIC Test	西谷恒志	成美堂
2			
3			

評価方法(基準)	担当教員の評価80%、統一英語単語テスト20%で全体の評価を行う。
学生へのメッセージ	英語習得には普段の努力が大切である、通学時にi-Pod等の録音機、ラジオ番組、コンピューターなどを積極的に活用し学習すること。
担当者の研究室等	7号館2階(非常勤講師室)
備考	

科目名	英語Ⅱb	科目名(英文)	English IIb
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	1314
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	中本 明子
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	ユニットごとにTOEICテスト頻出の Vocabulary や文法を学習し、無理なくTOEICテストに慣れ親しみます。単なる得点獲得のテクニックではなく、文法の基礎を確認しながらしっかりと読解力とコミュニケーション能力を身につけていきます。 学科の学習・教育目標との対応：「A」
到達目標	実践英語におけるコミュニケーション能力を身に付けます。
授業方法と留意点	最初にTOEIC形式のBefore Testを解いた後に、核問題のトピック、文法、語彙などを分析します。次にもう一度Before Testを前提としたAfter Testに挑戦して再度分析を行い、知識の定着を図ります。さらに小テストとして、単語集またはテキストの指定された単語の書き取りテストを毎回行います。
科目学習の効果(資格)	TOEICや英検など資格試験の得点アップにつながります。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	Orientation	講義内容、授業の進め方、成績評価の説明、英文の基本構造と品詞、前期学習事項の確認	教科書全体に目を通しておくこと
	2	Unit 8	受動態 Reading Section (Before Test) Part 5~7	単語集の指定された単語 (1177~1212) テキストの指定された単語
	3	Unit 8	受動態 Reading Section (After Test) Part 5~7	単語集の指定された単語 (1213~1248) テキストの指定された単語
	4	Unit 9	都会の風景 Listening Section (Before Test) Part 1~4	単語集の指定された単語 (1249~1284) テキストの指定された単語
	5	Unit 9	都会の風景 Listening Section (After Test) Part 1~4	単語集の指定された単語 (1285~1322) テキストの指定された単語
	6	Unit 10	前置詞 Reading Section (Before Test) Part 5~7	単語集の指定された単語 (1323~1360) テキストの指定された単語
	7	Unit 10	前置詞 Reading Section (After Test) Part 5~7	単語集の指定された単語 (1361~1395) テキストの指定された単語
	8	Unit 11	屋外労働者 Listening Section (Before Test) Part 1~4	単語集の指定された単語 (1396~1430) テキストの指定された単語
	9	Unit 11	屋外労働者 Listening Section (After Test) Part 1~4	単語集の指定された単語 (1431~1465) テキストの指定された単語
	10	Unit 12	自動詞と他動詞 Reading Section (Before Test) Part 5~7	単語集の指定された単語 (1466~1500) テキストの指定された単語
	11	Unit 12	自動詞と他動詞 Reading Section (After Test) Part 5~7	テキストの指定された単語
	12	Unit 13	屋外にて Listening Section (Before Test) Part 1~4	テキストの指定された単語
	13	Unit 13	屋外にて Listening Section (After Test) Part 1~4	テキストの指定された単語
	14	Unit 14	仮定法 Reading Section (Before & After Test) Part 5~7	テキストの指定された単語
	15	後期の総括	後期まとめテストと解説	テストの復習

関連科目	英語Ⅰa/b、英語Ⅱb/d、英語Ⅲa/b、TOEIC関連科目
------	--------------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Before-After Practice for the TOEIC TEST	Jonathan Lynch、山本 厚子、渡辺 香名子	センゲージ ラーニング社
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test - WORD BOOK -	西谷 恒志	成美堂
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	統一英語単語テスト20%、小テスト30%及び前期まとめテスト50%で、授業態度は減点方式とし、総合的に評価します。
学生への	単語集の単語だけでなく、テキストの各ユニットにおける語彙は、英和辞書を使って予習しておいて下さい。語彙力が英語の上達に大きく影響し

メッセージ	ます。
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師室
備考	休まず積極的に授業に参加して下さい。努力は実ります。

科目名	英語基礎会話 a	科目名 (英文)	Basic English Conversation a
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	1
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	ジョン カール
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	このコースにおいて、日常会話のスキルを身につけることがゴールです。基本的な語彙の会話における使用や、その他のアクティビティを学習します。また英語圏の文化、価値観、ライフスタイルなどについての知識を養います。
到達目標	相互コミュニケーション
授業方法と留意点	学生は毎回の授業にテキスト、ワークブック、ノートを持参すること。
科目学習の効果 (資格)	英会話スキル

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	Classroom Procedures, Topic Interview: Family	家族についてのインタビュー	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
	2	Unit 0 & 1: Essential English / Nice to meet you!	自己紹介、他己紹介	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
	3	Unit 2: Who are they talking about?	人の外見の特徴を述べる	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
	4	Unit 3: When do you start?	習慣について語る	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
	5	Topic Interview: House and Home	自宅についてのインタビュー	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
	6	Conversation Test Practice	会話テストの練習	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
	7	Conversation Test I	会話テスト 1	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
	8	Unit 4: Where does this go?	物の位置	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
	9	Unit 5: How do I get there?	道案内	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
	10	Unit 6: What happened?	過去の出来事について語る	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
	11	Topic Interview: Food	食べ物についてのインタビュー	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
	12	Speech: Self Introduction 3 minutes	3分スピーチ、自己紹介	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
	13	Conversation Test Practice	会話テストの練習	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
	14	Conversation Test I I	会話テスト 2	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
15	Achievement Test, Units 1-3	学習到達確認	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。	

関連科目	英語基礎会話 b
------	----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	English Firsthand 1 (4th edition) Student Book ISBN 9789880030598	Marc Helgesen	Pearson Longman
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	20% 会話テスト 1 20% 会話テスト 2 10% 課題、ノートチェック 20% スピーチ 15% 授業への取り組み 15% 学習到達確認
-----------	--

学生へのメッセージ	皆さん、英語を話すことを楽しんでください。Good Luck!
-----------	---------------------------------

担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
----------	--------------

備考	
----	--

科目名	英語基礎会話 a	科目名 (英文)	Basic English Conversation a
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	2
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	ジョセフ シウンシ
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

基礎科目

授業概要・目的	授業は全て英語で行います。 会話力、TOEICの単語力やテクニックを、ロールプレイやスピーチによって身に付けます。
到達目標	ビジネスで英語を使用する際に、培ったリスニング力やスピーキング力で、自信を持って話せるようにします。
授業方法と留意点	講義、演習、ロールプレイ、スピーチ。 ノートを取るのので、筆記用具を持参してください。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
3	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
4	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
5	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
6	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
7	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
8	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
9	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
10	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
11	英会話の練習 スピーチ作成	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
12	英会話の練習 スピーチ作成	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
13	英会話の練習 スピーチ作成	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
14	英会話の練習 スピーチ作成	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
15	スピーチ	スピーチ	ノートの再確認 宿題

関連科目	なし
------	----

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	なし		
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	なし		
	2			
	3			
評価方法 (基準)	授業への参加（ノートを取る、スピーキング、ロールプレイ、クイズ） 80% （※欠席、遅刻、授業中の私語や居眠りなど、受講態度は成績に反映します。） スピーチの評価（1分間の自己紹介、作文と暗記） 20%			
学生への メッセージ	頑張ってください。質問があれば、いつでも来てください。 授業はマナーを守って受けてください。			
担当者の 研究室等	7号館2階（非常勤講師室）			
備考				

科目名	英語基礎会話 a	科目名 (英文)	Basic English Conversation a
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	3
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	スコット ライリー
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	The aim of this course will be to provide an opportunity for students to practice and improve their everyday basic English communication skills. The class will cover speaking and listening skills. Students will work in pair and small groups practicing realistic everyday and complex English conversation. 基本的な英会話力の向上をめざす。ペアワークやグループワークなどを通じて、よりリアルな英会話ができるように毎回の授業で練習する。
到達目標	By the end of this course students should have acquired new techniques and vocabulary which will provide them with the skills and confidence to communicate successfully in English.
授業方法と留意点	Students will be encouraged to use and practice their newly acquired English speaking listening and comprehension skills in pairs or small groups. 毎回覚えたことを積極的に使用していくことが望まれる。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC などのスコアアップ

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	Review of summer holiday	Discussion of summer holiday activities.	Students should study the content of the days lesson
3	Likes	Expressing preferences.	Students should study the content of the days lesson
4	Dislikes	Expressing preferences.	Students should study the content of the days lesson
5	The future	Discussing future jobs, lifestyles and dreams.	Students should study the content of the days lesson
6	The Past	Discussing past experiences and leisure activities.	Students should study the content of the days lesson
7	Mid semester review and assessment	Review and consolidation of all skills studied and a short test.	Students should study the content of the days lesson
8	Describing people	Giving and receiving personal descriptions.	Students should study the content of the days lesson
9	Eating out and food	Discussing skills used in eating out and food types.	Students should study the content of the days lesson
10	Restaurant role play	Students practicing eating out in a restaurant situation.	Students should study the content of the days lesson
11	Review	Review and consolidation of all skills studied in the semester.	Students should study the content of the days lesson
12	What's that?	Review and consolidation of all skills studied in the semester.	Students should study the content of the days lesson
13	Dreams	Students will have an oral written and listening test.	Students should study the content of the days lesson
14	Review	Review	Students should study the content of the days lesson
15	Summer Holiday Plans	Discussing summer holiday plans	Students should study the content of the days lesson

関連科目	英語基礎会話 b
------	----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Smart Choice 1 2nd Edition ISBN 978-0-19-440737-3	Ken Wilson	Oxford University Press
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	スピーチ練習・・・20% 毎回の授業で行う小テスト・・・20% 宿題・・・40% 学習到達確認テスト・・・20%
-----------	---

学生へのメッセージ	Prepare for your future by studying today.
-----------	--

担当者の研究室等	7号館2階(非常勤講師室)
----------	---------------

備考	
----	--

基礎科目

科目名	英語基礎会話 a	科目名 (英文)	Basic English Conversation a
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	4
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	アレン ニール
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	学生は会話型英語の基本的な技術を開発する。 Students will develop basic skills in conversational English.			
到達目標	学生は教師のワークシートを使用する。 Students will use teacher worksheets. 組およびチーム仕事は使用される。 Pair and team work will be used.			
授業方法と留意点	出席および活動的な仕事は基本条件である。 Attendance and active work are the basic requirements. すべてのクラスの活動は英語で行なわれる。 All class activities will be conducted in English.			
科目学習の効果 (資格)				
授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	Exercises	Translation and group work	Students should study the content of the day's lesson
	2	Exercises	Translation and group work	Students should study the content of the day's lesson
	3	Exercises	Translation and group work	Students should study the content of the day's lesson
	4	Exercises	Translation and group work	Students should study the content of the day's lesson
	5	Exercises	Translation and group work	Students should study the content of the day's lesson
	6	Exercises	Translation and group work	Students should study the content of the day's lesson
	7	Exercises	Translation and group work	Students should study the content of the day's lesson
	8	Exercises	Translation and group work	Students should study the content of the day's lesson
	9	Exercises	Translation and group work	Students should study the content of the day's lesson
	10	Exercises	Translation and group work	Students should study the content of the day's lesson
	11	Exercises	Translation and group work	Students should study the content of the day's lesson
	12	Exercises	Translation and group work	Students should study the content of the day's lesson
	13	Exercises	Translation and group work	Students should study the content of the day's lesson
	14	Exercises	Translation and group work	Students should study the content of the day's lesson
	15	Exercises	Translation and group work	Students should study the content of the day's lesson
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Handouts distributed in class		
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	30% speech, 30% participation, 40% weekly quiz			
学生へのメッセージ				
担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室			
備考				

科目名	英語基礎会話 a	科目名 (英文)	Basic English Conversation a
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	5
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	ブライアン スレーター
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	The class will cover speaking and listening skills. Students will work in pair and small groups practicing realistic everyday and complex English conversation. 基本的な英会話力の向上をめざす。ペアワークやグループワークなどを通じて、よりリアルな英会話ができるように毎回の授業で練習する。
到達目標	The aim of this course will be to provide an opportunity for students to practice and improve their everyday basic English communication skills.
授業方法と留意点	Students will be encouraged to use and practice their newly acquired English speaking listening and comprehension skills in pairs or small groups. 毎回覚えたことを積極的に使用していくことが望まれる。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC などのスコアアップ

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	Review of summer holiday	Discussion of summer holiday activities.	Students should study the content of the days lesson
3	Likes	Expressing preferences.	Students should study the content of the days lesson
4	Dislikes	Expressing preferences.	Students should study the content of the days lesson
5	The future	Discussing future jobs, lifestyles and dreams.	Students should study the content of the days lesson
6	The Past	Discussing past experiences and leisure activities.	Students should study the content of the days lesson
7	Mid semester review and test	Review and consolidation of all skills studied and a short test.	Students should study the content of the days lesson
8	Describing people	Giving and receiving personal descriptions.	Students should study the content of the days lesson
9	Eating out and food	Discussing skills used in eating out and food types.	Students should study the content of the days lesson
10	Restaurant role play	Students practicing eating out in a restaurant situation.	Students should study the content of the days lesson
11	Review	Review and consolidation of all skills studied in the semester.	Students should study the content of the days lesson
12	What's that?	Review and consolidation of all skills studied in the semester.	Students should study the content of the days lesson
13	Dreams	Students will have an oral written and listening test.	Students should study the content of the days lesson
14	Review	Review	Students should study the content of the days lesson
15	Summer Holiday Plans	Discussing summer holiday plans	Students should study the content of the days lesson

関連科目	英語基礎会話 b
------	----------

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	English Firsthand 'Success' - The NEW English Firsthand Series (textbook) 978-988-00-3058-1		PEARSON Longman
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	辞書(英和・和英)を必ず持参すること Dictionary - book or electronic		
2			
3			

評価方法 (基準)	スピーチ練習・・・20% 毎回の授業で行う小テスト・・・20% 宿題・・・40% 学習到達確認テスト・・・20%
学生へのメッセージ	Prepare for your future by studying today.
担当者の研究室等	7号館2階(非常勤講師室)
備考	

基礎科目

科目名	英語基礎会話 a	科目名 (英文)	Basic English Conversation a
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	6
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	アイビス ウイリアム
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	授業は全て英語で行います。ロールプレイやテキスト演習の中で、日常やビジネスに役立つ英語を発音やイントネーションなどを含めた基礎から学び、会話を身に付けます。			
到達目標				
授業方法と留意点	テキスト演習、ロールプレイなど			
科目学習の効果 (資格)	英会話能力の向上、TOEIC のスコアアップ			
授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	自己紹介	自己紹介 授業の説明 テキスト演習 ロールプレイ	テキスト
	2	尋ね方	テキスト演習 ロールプレイ	テキスト
	3	電話応対	テキスト演習 ロールプレイ	テキスト
	4	電話応対	テキスト演習 ロールプレイ	テキスト
	5	体調表現	テキスト演習 ロールプレイ	テキスト
	6	予約	テキスト演習 ロールプレイ	テキスト
	7	接客応対	テキスト演習 ロールプレイ	テキスト
	8	中間テスト	Test	...
	9	スモールトーク	テキスト演習 ロールプレイ	テキスト
	10	場所の尋ね方	テキスト演習 ロールプレイ	テキスト
	11	道案内	テキスト演習 ロールプレイ	テキスト
	12	使い方の説明	テキスト演習 ロールプレイ	テキスト
	13	ホテルでのチェックイン	テキスト演習 ロールプレイ	テキスト
	14	買い物	テキスト演習 ロールプレイ	テキスト
	15	復習と学習到達度の確認	これまで学習した表現などを使用しながら復習を行い、同時に学習到達度のチェックを行う	なし
関連科目	なし			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	English In Common 1		Pearson
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	出席は単位取得の必要条件とする。最終的な成績は、単語テスト 20%、スピーチ評価 20%、授業への貢献度及び宿題 20%、学習到達度のチェック 40% を目安に評価する。			
学生へのメッセージ	「使える英語」に向けての「トレーニング」をやっつけていこうと思います。繰り返し練習し「考えなくてもできる」レベルまで身につけていくことが大切です。			
担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室			
備考				

科目名	英語基礎会話 a	科目名 (英文)	Basic English Conversation a
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	7
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	ブルース ライリー
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

基礎科目

授業概要・目的	This class will allow students to learn and apply the fundamentals of basic English conversation. The focus of this class is on practical application.			
到達目標				
授業方法と留意点	学生は毎回の授業にテキスト、ワークブック、ノートを持参すること。			
科目学習の効果 (資格)	英会話スキル			
授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	Orientation		学生は毎回の授業にテキスト、ワークブック、ノートを持参すること。
	2	Unit 1 part I	Text and Pairwork Activities	学生は毎回の授業にテキスト、ワークブック、ノートを持参すること。
	3	Unit 1 part II	Text and Pairwork Activities	学生は毎回の授業にテキスト、ワークブック、ノートを持参すること。
	4	Unit 2 part I	Text and Pairwork Activities	学生は毎回の授業にテキスト、ワークブック、ノートを持参すること。
	5	Unit 2 part II	Text and Pairwork Activities	学生は毎回の授業にテキスト、ワークブック、ノートを持参すること。
	6	Unit 3 part I	Text and Pairwork Activities	学生は毎回の授業にテキスト、ワークブック、ノートを持参すること。
	7	Unit 3 part II	Text and Pairwork Activities	学生は毎回の授業にテキスト、ワークブック、ノートを持参すること。
	8	Test	Text and Pairwork Activities	学生は毎回の授業にテキスト、ワークブック、ノートを持参すること。
	9	Unit 4 part I	Text and Pairwork Activities	学生は毎回の授業にテキスト、ワークブック、ノートを持参すること。
	10	Unit 4 part II	Text and Pairwork Activities	学生は毎回の授業にテキスト、ワークブック、ノートを持参すること。
	11	Unit 5 part I	Text and Pairwork Activities	学生は毎回の授業にテキスト、ワークブック、ノートを持参すること。
	12	Unit 5 part II	Text and Pairwork Activities	学生は毎回の授業にテキスト、ワークブック、ノートを持参すること。
	13	Unit 6 part I	Text and Pairwork Activities	学生は毎回の授業にテキスト、ワークブック、ノートを持参すること。
	14	Unit 6 part II	Text and Pairwork Activities	学生は毎回の授業にテキスト、ワークブック、ノートを持参すること。
	15	Test	Text and Pairwork Activities	学生は毎回の授業にテキスト、ワークブック、ノートを持参すること。
関連科目	英語基礎会話 b			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	English Firsthand 1	Marc Helgeses, Steven Brown, John Wiltshier	Pearson Longman
	2	English Firsthand 1 Workbook	Marc Helgeses, Steven Brown, John Wiltshier	Pearson Longman
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	Student grades will be based on class participation, homework, and in-class tests.			
学生へのメッセージ	Please participate fully and enjoy the class.			
担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室			
備考				

科目名	英語基礎会話 a	科目名 (英文)	Basic English Conversation a
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	8
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	ショーン マクガバン
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	In this class students will be able to improve their English listening and speaking ability and gain practice in reading and writing in English. In the speaking component, students will present brief presentations about themselves and topics of interest.			
到達目標	Students will use English to research, write and revise short reports. They will practice and present these 'mini reports' as short speeches. All written classwork and homework will be organised into a final comprehensive notebook report.			
授業方法と留意点	Reliable attendance and active participation are the two basic requirements for success in this course.			
科目学習の効果 (資格)				
授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	Introduction	Course overview	Arrive to class on time. Be ready to study and learn in English.
	2	Self introductions	Preparing mini reports	Revising classwork, studying vocabulary and gathering information to write about in the next class.
	3	Self introductions Part 2	Revising and proofreading mini reports for presentations	Revising classwork, studying vocabulary and gathering information to write about in the next class.
	4	Speeches	Presentations and active listening	Revising classwork, studying vocabulary and gathering information to write about in the next class.
	5	Cultural topics	Researching and preparing mini reports	Revising classwork, studying vocabulary and gathering information to write about in the next class.
	6	Cultural topics Part 2	Revising mini reports for presentations	Revising classwork, studying vocabulary and gathering information to write about in the next class.
	7	Speeches	Presentations and active listening	Revising classwork, studying vocabulary and gathering information to write about in the next class.
	8	Review	Organizing proofreading and revising comprehensive reports	Revising classwork, studying vocabulary and gathering information to write about in the next class.
	9	Social topics	Researching and preparing mini reports	Revising classwork, studying vocabulary and gathering information to write about in the next class.
	10	Social topics Part 2	Revising mini reports for presentations	Revising classwork, studying vocabulary and gathering information to write about in the next class.
	11	Speeches	Presentations and active listening	Revising classwork, studying vocabulary and gathering information to write about in the next class.
	12	Social topics	Researching and preparing mini reports	Revising classwork, studying vocabulary and gathering information to write about in the next class.
	13	Social topics Part 2	Revising mini reports for presentations	Revising classwork, studying vocabulary and gathering information to write about in the next class.
	14	Speeches	Presentations and active listening	Revising classwork, studying vocabulary and gathering information to write about in the next class.
15	Review	Organizing proofreading and revising comprehensive reports	...	
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Prints and teacher-prepared materials		
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	Students will be graded on reliable attendance with active participation, 50%; comprehensive notebook 30%; speeches 20%.			
学生へのメッセージ	All the classwork and all course assignments will be in English. Be prepared and willing to study and learn using English.			
担当者の研究室等	7号館5階 McGovern 研究室			

科目名	英語基礎会話 a	科目名 (英文)	Basic English Conversation a
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	9
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	ジョセフ シウンシ
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	授業は全て英語で行います。 会話力、TOEICの単語力やテクニックを、ロールプレイやスピーチによって身に付けます。
到達目標	ビジネスで英語を使用する際に、培ったリスニング力やスピーキング力で、自信を持って話せるようにします。
授業方法と留意点	講義、演習、ロールプレイ、スピーチ。 ノートを取るのので、筆記用具を持参してください。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	自己紹介	自己紹介 授業の説明 ロールプレイ	ノートの再確認 宿題
	2	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
	3	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
	4	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
	5	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
	6	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
	7	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
	8	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
	9	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
	10	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
	11	英会話の練習 スピーチ作成	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
	12	英会話の練習 スピーチ作成	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
	13	英会話の練習 スピーチ作成	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
	14	英会話の練習 スピーチ作成	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
	15	スピーチ	スピーチ	ノートの再確認 宿題

関連科目	なし
------	----

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	なし		
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	なし		
	2			
	3			
評価方法 (基準)	授業への参加（ノートを取る、スピーキング、ロールプレイ、クイズ） 80% （※欠席、遅刻、授業中の私語や居眠りなど、受講態度は成績に反映します。） スピーチの評価（1分間の自己紹介、作文と暗記） 20%			
学生への メッセージ	頑張ってください。質問があれば、いつでも来てください。 授業はマナーを守って受けてください。			
担当者の 研究室等	7号館2階（非常勤講師室）			
備考				

科目名	英語基礎会話 a	科目名 (英文)	Basic English Conversation a
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	10
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	アレン ニール
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	学生は会話型英語の基本的な技術を開発する。 Students will develop basic skills in conversational English.		
到達目標	学生は教師のワークシートを使用する。 Students will use teacher worksheets. 組およびチーム仕事は使用される。 Pair and team work will be used.		
授業方法と留意点	出席および活動的な仕事は基本条件である。 Attendance and active work are the basic requirements. すべてのクラスの活動は英語で行なわれる。 All class activities will be conducted in English.		
科目学習の効果 (資格)			
授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等
	1	Exercises	Translation and group work
	2	Exercises	Translation and group work
	3	Exercises	Translation and group work
	4	Exercises	Translation and group work
	5	Exercises	Translation and group work
	6	Exercises	Translation and group work
	7	Exercises	Translation and group work
	8	Exercises	Translation and group work
	9	Exercises	Translation and group work
	10	Exercises	Translation and group work
	11	Exercises	Translation and group work
	12	Exercises	Translation and group work
	13	Exercises	Translation and group work
	14	Exercises	Translation and group work
	15	Exercises	Translation and group work
事前・事後学習課題	Students should study the content of the day's lesson		
関連科目			
教科書	番号	書籍名	著者名
	1	Handouts distributed in class	
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
評価方法 (基準)	30% speech, 30% participation, 40% weekly quiz		
学生へのメッセージ			
担当者の研究室等	7号館5階メイソン研究室		
備考			

科目名	英語基礎会話 a	科目名 (英文)	Basic English Conversation a
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	11
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	ブライアン スレーター
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	The class will cover speaking and listening skills. Students will work in pair and small groups practicing realistic everyday and complex English conversation. 基本的な英会話力の向上をめざす。ペアワークやグループワークなどを通じて、よりリアルな英会話ができるように毎回の授業で練習する。
到達目標	The aim of this course will be to provide an opportunity for students to practice and improve their everyday basic English communication skills.
授業方法と留意点	Students will be encouraged to use and practice their newly acquired English speaking listening and comprehension skills in pairs or small groups. 毎回覚えたことを積極的に使用していくことが望まれる。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC などのスコアアップ

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	Introduction and review of semester I	Students will all skills studied in the first semester.	Students should study the content of the days lesson
2	Review of summer holiday	Discussion of summer holiday activities.	Students should study the content of the days lesson
3	Likes	Expressing preferences.	Students should study the content of the days lesson
4	Dislikes	Expressing preferences.	Students should study the content of the days lesson
5	The future	Discussing future jobs, lifestyles and dreams.	Students should study the content of the days lesson
6	The Past	Discussing past experiences and leisure activities.	Students should study the content of the days lesson
7	Mid semester review and test	Review and consolidation of all skills studied and a short test.	Students should study the content of the days lesson
8	Describing people	Giving and receiving personal descriptions.	Students should study the content of the days lesson
9	Eating out and food	Discussing skills used in eating out and food types.	Students should study the content of the days lesson
10	Restaurant role play	Students practicing eating out in a restaurant situation.	Students should study the content of the days lesson
11	Review	Review and consolidation of all skills studied in the semester.	Students should study the content of the days lesson
12	What's that?	Review and consolidation of all skills studied in the semester.	Students should study the content of the days lesson
13	Dreams	Students will have an oral written and listening test.	Students should study the content of the days lesson
14	Review	Review	Students should study the content of the days lesson
15	Summer Holiday Plans	Discussing summer holiday plans	Students should study the content of the days lesson

関連科目	英語基礎会話 b
------	----------

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	English Firsthand 'Success' - The NEW English Firsthand Series (textbook) 978-988-00-3058-1		PEARSON Longman
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	辞書(英和・和英)を必ず持参すること Dictionary - book or electronic		
2			
3			

評価方法 (基準)	スピーチ練習・・・20% 毎回の授業で行う小テスト・・・20% 宿題・・・40% 学習到達確認テスト・・・20%
学生へのメッセージ	Prepare for your future by studying today.
担当者の研究室等	7号館2階(非常勤講師室)
備考	

基礎科目

科目名	英語基礎会話 a	科目名 (英文)	Basic English Conversation a
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	12
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	ジョン カール
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	このコースにおいて、日常会話のスキルを身につけることがゴールです。基本的な語彙の会話における使用や、その他のアクティビティを学習します。また英語圏の文化、価値観、ライフスタイルなどについての知識を養います。
到達目標	相互コミュニケーション
授業方法と留意点	学生は毎回の授業にテキスト、ワークブック、ノートを持参すること。
科目学習の効果 (資格)	英会話スキル

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	Unit 0 & 1: Essential English / Nice to meet you!	自己紹介、他己紹介	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
3	Unit 2: Who are they talking about?	人の外見の特徴を述べる	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
4	Unit 3: When do you start?	習慣について語る	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
5	Topic Interview: House and Home	自宅についてのインタビュー	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
6	Conversation Test Practice	会話テストの練習	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
7	Conversation Test I	会話テスト 1	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
8	Unit 4: Where does this go?	物の位置	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
9	Unit 5: How do I get there?	道案内	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
10	Unit 6: What happened?	過去の出来事について語る	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
11	Topic Interview: Food	食べ物についてのインタビュー	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
12	Speech: Self Introduction 3 minutes	3分スピーチ、自己紹介	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
13	Conversation Test Practice	会話テストの練習	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
14	Conversation Test I I	会話テスト 2	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
15	Achievement Test, Units 1-6	学習到達確認	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。

関連科目	英語基礎会話 b
------	----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	English Firsthand 1 (4th edition) Student Book ISBN 9789880030598	Marc Helgesen	Pearson Longman
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準)	20%会話テスト1 20%会話テスト2 10%課題、ノートチェック 20%スピーチ 15%授業への取り組み 15% 学習到達確認
-----------	---

学生へのメッセージ	皆さん、英語を話すことを楽しんでください。Good Luck!
-----------	---------------------------------

担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
----------	--------------

備考	
----	--

科目名	英語基礎会話 a	科目名 (英文)	Basic English Conversation a
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	13
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	アイビス ウイリアム
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	<p>The aim of this course will be to provide an opportunity for students to practice and improve their everyday basic English communication skills. The class will cover speaking and listening skills. Students will work in pair and small groups practicing realistic everyday and complex English conversation.</p> <p>基本的な英会話力の向上をめざす。ペアワークやグループワークなどを通じて、よりリアルな英会話ができるように毎回の授業で練習する。</p>																																																																		
到達目標																																																																			
授業方法と留意点	<p>Students will be encouraged to use and practice their newly acquired English speaking listening and comprehension skills in pairs or small groups.</p> <p>毎回覚えたことを積極的に使用していくことが望まれる。</p>																																																																		
科目学習の効果 (資格)	TOEIC などのスコアアップ																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>Introduction and review of semester I</td> <td>Students will all skills studied in the first semester.</td> <td>Students should study the content of the days lesson</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>Review of summer holiday</td> <td>Discussion of summer holiday activities.</td> <td>Students should study the content of the days lesson</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>Likes</td> <td>Expressing preferences.</td> <td>Students should study the content of the days lesson</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>Dislikes</td> <td>Expressing preferences.</td> <td>Students should study the content of the days lesson</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>The future</td> <td>Discussing future jobs, lifestyles and dreams.</td> <td>Students should study the content of the days lesson</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>The Past</td> <td>Discussing past experiences and leisure activities.</td> <td>Students should study the content of the days lesson</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>Mid semester review and test</td> <td>Review and consolidation of all skills studied and a short test.</td> <td>Students should study the content of the days lesson</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>Describing people</td> <td>Giving and receiving personal descriptions.</td> <td>Students should study the content of the days lesson</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>Eating out and food</td> <td>Discussing skills used in eating out and food types.</td> <td>Students should study the content of the days lesson</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>Restaurant role play</td> <td>Students practicing eating out in a restaurant situation.</td> <td>Students should study the content of the days lesson</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>Review</td> <td>Review and consolidation of all skills studied in the semester.</td> <td>Students should study the content of the days lesson</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>What's that?</td> <td>Review and consolidation of all skills studied in the semester.</td> <td>Students should study the content of the days lesson</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>Dreams</td> <td>Students will have an oral written and listening test.</td> <td>Students should study the content of the days lesson</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>Review</td> <td>Review</td> <td>Students should study the content of the days lesson</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>Summer Holiday Plans</td> <td>Discussing summer holiday plans</td> <td>Students should study the content of the days lesson</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	Introduction and review of semester I	Students will all skills studied in the first semester.	Students should study the content of the days lesson	2	Review of summer holiday	Discussion of summer holiday activities.	Students should study the content of the days lesson	3	Likes	Expressing preferences.	Students should study the content of the days lesson	4	Dislikes	Expressing preferences.	Students should study the content of the days lesson	5	The future	Discussing future jobs, lifestyles and dreams.	Students should study the content of the days lesson	6	The Past	Discussing past experiences and leisure activities.	Students should study the content of the days lesson	7	Mid semester review and test	Review and consolidation of all skills studied and a short test.	Students should study the content of the days lesson	8	Describing people	Giving and receiving personal descriptions.	Students should study the content of the days lesson	9	Eating out and food	Discussing skills used in eating out and food types.	Students should study the content of the days lesson	10	Restaurant role play	Students practicing eating out in a restaurant situation.	Students should study the content of the days lesson	11	Review	Review and consolidation of all skills studied in the semester.	Students should study the content of the days lesson	12	What's that?	Review and consolidation of all skills studied in the semester.	Students should study the content of the days lesson	13	Dreams	Students will have an oral written and listening test.	Students should study the content of the days lesson	14	Review	Review	Students should study the content of the days lesson	15	Summer Holiday Plans	Discussing summer holiday plans	Students should study the content of the days lesson
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	Introduction and review of semester I	Students will all skills studied in the first semester.	Students should study the content of the days lesson																																																																
2	Review of summer holiday	Discussion of summer holiday activities.	Students should study the content of the days lesson																																																																
3	Likes	Expressing preferences.	Students should study the content of the days lesson																																																																
4	Dislikes	Expressing preferences.	Students should study the content of the days lesson																																																																
5	The future	Discussing future jobs, lifestyles and dreams.	Students should study the content of the days lesson																																																																
6	The Past	Discussing past experiences and leisure activities.	Students should study the content of the days lesson																																																																
7	Mid semester review and test	Review and consolidation of all skills studied and a short test.	Students should study the content of the days lesson																																																																
8	Describing people	Giving and receiving personal descriptions.	Students should study the content of the days lesson																																																																
9	Eating out and food	Discussing skills used in eating out and food types.	Students should study the content of the days lesson																																																																
10	Restaurant role play	Students practicing eating out in a restaurant situation.	Students should study the content of the days lesson																																																																
11	Review	Review and consolidation of all skills studied in the semester.	Students should study the content of the days lesson																																																																
12	What's that?	Review and consolidation of all skills studied in the semester.	Students should study the content of the days lesson																																																																
13	Dreams	Students will have an oral written and listening test.	Students should study the content of the days lesson																																																																
14	Review	Review	Students should study the content of the days lesson																																																																
15	Summer Holiday Plans	Discussing summer holiday plans	Students should study the content of the days lesson																																																																
関連科目	英語基礎会話 b																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>English In Common 1</td> <td></td> <td>Pearson</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	English In Common 1		Pearson	2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	English In Common 1		Pearson																																																																
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	<p>スピーチ練習・・・20%</p> <p>毎回の授業で行う小テスト・・・20%</p> <p>宿題・・・40%</p> <p>学習到達確認テスト・・・20%</p>																																																																		
学生へのメッセージ	Prepare for your future by studying today.																																																																		
担当者の研究室等	7号館2階(非常勤講師室)																																																																		
備考																																																																			

科目名	英語基礎会話 a	科目名 (英文)	Basic English Conversation a
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	14
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	ダニエル マリンズ
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	In this course students will continue to develop the basic skills in vocabulary and grammar to communicate effectively in English. Students will work in pairs and small groups and practice English in a variety of realistic situations.
到達目標	
授業方法と留意点	Regular attendance and active participation are the two basic requirements for success in this course. All class activities will be conducted in English.
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	Unit 0: - Introductions - Key phrases for classroom interaction and learning	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework (http://www.sconlinepractice.com) corresponding to the unit studied in class. Students must repeat each exercise until they get a score of 100% in at least nine of the ten unit exercises.
	2	Unit 1: - Describe a vacation - Agree and disagree with others - Understand activities and plans - Understand a travel article	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework (http://www.sconlinepractice.com) corresponding to the unit studied in class. Students must repeat each exercise until they get a score of 100% in at least nine of the ten unit exercises.
	3	Unit 1: - Describe a vacation - Agree and disagree with others - Understand activities and plans - Understand a travel article	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework (http://www.sconlinepractice.com) corresponding to the unit studied in class. Students must repeat each exercise until they get a score of 100% in at least nine of the ten unit exercises.
	4	Unit 2: - Understand and give opinions - Use -ing, -ed adjectives - Understand descriptions of relaxing activities - Understand short movie reviews	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework (http://www.sconlinepractice.com) corresponding to the unit studied in class. Students must repeat each exercise until they get a score of 100% in at least nine of the ten unit exercises.
	5	Unit 2: - Understand and give opinions - Use -ing, -ed adjectives - Understand descriptions of relaxing activities - Understand short movie reviews	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks. Units 1 & 2 Test.	Complete online homework (http://www.sconlinepractice.com) corresponding to the unit studied in class. Students must repeat each exercise until they get a score of 100% in at least nine of the ten unit exercises.
	6	Unit 3: - Talk about personal experiences - Use the present perfect - Understand interviews about sports - Understand an article about extreme sports	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework (http://www.sconlinepractice.com) corresponding to the unit studied in class. Students must repeat each exercise until they get a score of 100% in at least nine of the ten unit exercises.
	7	Unit 3: - Talk about personal experiences - Use the present perfect - Understand interviews about sports - Understand an article about extreme sports	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework (http://www.sconlinepractice.com) corresponding to the unit studied in class. Students must repeat each exercise until they get a score of 100% in at least nine of the ten unit exercises.
	8	Review Units 1-3: Conversation: Two friends talking about music. Reading: "Jen Jones, extreme sports enthusiast"	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework (http://www.sconlinepractice.com) corresponding to the unit studied in class. Students must repeat each exercise until they get a score of 100% in at least nine of the ten unit exercises.
	9	Unit 4: - Describe places - Use superlative adjectives - Understand a geography game show	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework (http://www.sconlinepractice.com) corresponding to the unit studied in class. Students must repeat each exercise until they get a score of 100% in at least nine of the ten unit exercises.

		- Understand an article about dangerous animals		
	10	Unit 4: - Describe places - Use superlative adjectives - Understand a geography game show - Understand an article about dangerous animals	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks. Units 3 & 4 test.	Complete online homework (http://www.sconlinepractice.com) corresponding to the unit studied in class. Students must repeat each exercise until they get a score of 100% in at least nine of the ten unit exercises.
	11	Unit 5: - Describe special cultural events - Use clauses with before, after, and when - Understand different New Year's traditions - Understand an article about famous festivals	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework (http://www.sconlinepractice.com) corresponding to the unit studied in class. Students must repeat each exercise until they get a score of 100% in at least nine of the ten unit exercises.
	12	Unit 5: - Describe special cultural events - Use clauses with before, after, and when - Understand different New Year's traditions - Understand an article about famous festivals	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework (http://www.sconlinepractice.com) corresponding to the unit studied in class. Students must repeat each exercise until they get a score of 100% in at least nine of the ten unit exercises.
	13	Unit 6: - Talk about suggestions and obligations - Use should and have to - Understand people giving advice - Understand an article about managing stress	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework (http://www.sconlinepractice.com) corresponding to the unit studied in class. Students must repeat each exercise until they get a score of 100% in at least nine of the ten unit exercises.
	14	Unit 6: - Talk about suggestions and obligations - Use should and have to - Understand people giving advice - Understand an article about managing stress	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks. Units 5 & 6 test	Complete online homework (http://www.sconlinepractice.com) corresponding to the unit studied in class. Students must repeat each exercise until they get a score of 100% in at least nine of the ten unit exercises.
	15	Review Units 4-6 Conversation: A friend telling another friend about his vacation plans Reading: "The Marathon: The Greatest Test"	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	...
関連科目	Drama, Skills training, English Presentation			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Smart Choice : Second Edition Level 1 Student Book with Online Practice 2,940 円 (ISBN-13: 9780194407373)	Wilson, K.	Oxford University Press
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	Class Participation / Online homework assignments (5%) Unit review tests (3x25%) Introduction speech (20%)			
学生へのメッセージ	If you have any queries or need advice about your successful completion of the course, feel free to contact me anytime. I may also be able to answer your questions regarding overseas travel or 'homestays' - particularly in Australia - should you have any.			
担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室			
備考	http://elt.oup.com/student/smartchoice/ Practice grammar and vocabulary with fun games, and practice pronunciation with songs and karaoke.			

科目名	英語基礎会話 b	科目名 (英文)	Basic English Conversation b
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	1
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	ジョン カール
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	このコースにおいて、日常会話のスキルを身につけることがゴールです。基本的な語彙の会話における使用や、その他のアクティビティを学習します。また英語圏の文化、価値観、ライフスタイルなどについての知識を養います。
到達目標	相互コミュニケーション
授業方法と留意点	学生は毎回の授業にテキスト、ワークブック、ノートを持参すること。
科目学習の効果 (資格)	英会話スキル

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	Essential English Review, Classroom Procedures, Summer Vacation (Topic Interview: Vacations)	夏休みについて語る	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
2	Unit 7: Occupations	仕事について語る	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
3	Unit 8: What's playing?	娯楽について語る	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
4	Unit 9: What are you going to do?	予定について語る	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
5	Topic Interview: School	大学についてのインタビュー	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
6	Conversation Test Practice	会話テストの練習	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
7	Conversation Test I	会話テスト 1	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
8	Unit 10: How much is this?	買い物について語る	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
9	Unit 11: How do you make it?	手順を説明する	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
10	Unit 12: Opinions and Music	好みについて語る	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
11	Topic Interview: Work	仕事についてインタビュー	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
12	Speech: My Dream, My Future 3 minutes	3分スピーチ、私の夢	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
13	Conversation Test Practice	会話テストの練習	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
14	Conversation Test I I	会話テスト 2	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
15	Achievement Test, Units 7-12	学習到達確認	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。

関連科目	英語基礎会話 b
------	----------

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	English Firsthand 1 (4th edition) Student Book ISBN 9789880030598	Marc Helgesen	Pearson Longman
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 (基準)	20%会話テスト 1 20%会話テスト 2 10%課題、ノートチェック 20%スピーチ 15%授業への取り組み 15% 学習到達確認
-----------	---

学生へのメッセージ	皆さん、英語を話すことを楽しんでください。Good Luck!
-----------	---------------------------------

担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
----------	--------------

備考	
----	--

科目名	英語基礎会話 b	科目名 (英文)	Basic English Conversation b
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1 年	クラス	2
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	ジョセフ シウンシ
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

基礎科目

授業概要・目的	授業は全て英語で行います。 会話力、TOEICの単語力やテクニックを、ロールプレイやスピーチによって身に付けます。
到達目標	ビジネスで英語を使用する際に、培ったリスニング力やスピーキング力で、自信を持って話せるようにします。
授業方法と留意点	講義、演習、ロールプレイ、スピーチ。 ノートを取るので、筆記用具を持参してください。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	自己紹介	自己紹介 授業の説明 ロールプレイ	ノートの再確認 宿題
	2	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
	3	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
	4	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
	5	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
	6	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
	7	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
	8	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
	9	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
	10	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
	11	英会話の練習 スピーチ作成	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
	12	英会話の練習 スピーチ作成	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
	13	英会話の練習 スピーチ作成	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
	14	英会話の練習 スピーチ作成	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
	15	スピーチ	スピーチ	ノートの再確認 宿題

関連科目	なし
------	----

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	なし		
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	なし		
	2			
	3			
評価方法 (基準)	授業への参加（ノートを取る、スピーキング、ロールプレイ、クイズ） 80% （※欠席、遅刻、授業中の私語や居眠りなど、受講態度は成績に反映します。） スピーチ（日本の経済や産業、文化などについて1.5分間、作文と暗記） 20%			
学生への メッセージ	頑張ってください。質問があれば、いつでも来てください。 授業はマナーを守って受けてください。			
担当者の 研究室等	7号館2階（非常勤講師室）			
備考				

科目名	英語基礎会話 b	科目名 (英文)	Basic English Conversation b
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	3
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	スコット ライリー
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	The aim of this course will be to provide an opportunity for students to practice and improve their everyday basic English communication skills. The class will cover speaking and listening skills. Students will work in pair and small groups practicing realistic everyday and complex English conversation. 基本的な英会話力の向上をめざす。ペアワークやグループワークをしながらよりリアルな状況で英会話ができるようにする。
到達目標	By the end of this course students should have acquired new techniques and vocabulary which will provide them with the skills and confidence to communicate successfully in English.
授業方法と留意点	Students will be encouraged to use and practice their newly acquired English speaking listening and comprehension skills in pairs or small groups. 毎回修得した英語の表現などを積極的に使用することが望まれる。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC のスコアアップ

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	Introduction	Review Activity based on the material from Semester 1.	Students should study the content of the days lesson
	2	Review of summer holiday	Discussion of summer holiday activities.	Students should study the content of the days lesson
	3	Shopping for clothes	Talking about clothes. Making comparisons. Comparing opinions.	Students should study the content of the days lesson
	4	Describing People 1	Vocabulary to describe physical appearance. Describing friends and family members.	Students should study the content of the days lesson
	5	Describing People 2	Vocabulary to describe personality types. Describing a persons personality.	Students should study the content of the days lesson
	6	Talking about Cities	Discussing Local Attractions. Giving Advice. Giving a mini presentation on a city	Students should study the content of the days lesson
	7	Midterm Review and Assessment Exercises	Review of Units 7-9	Students should study the content of the days lesson
	8	Places Around Town 1	Giving Directions. Asking for directions Speaking Strategy: Confirmation Checks	Students should study the content of the days lesson
	9	Places Around Town 2	Role Play	Students should study the content of the days lesson
	10	Making Clarification Checks	Students will learn how to make clarification checks during conversation to help their understanding. Group work Activities.	Students should study the content of the days lesson
	11	Vacation Activities	Students will describe past vacations as well as future vacation plans in small groups. Eye contact and body posture will be emphasised.	Students should study the content of the days lesson
	12	The economy	Students will discuss various companies, and learn vocabulary and word families necessary to describe their business activities.	Students should study the content of the days lesson
	13	Speech Preparation	Draft of students speech will be checked. Presentation skills will be practiced.	Students should study the content of the days lesson
	14	Speech	Students will make a speech to the class on a topic related to the Japanese economy, industry, or a company.	Students should study the content of the days lesson
	15	Final Review and Assessment Exercises	Review of Units 10-12	Students should study the content of the days lesson

関連科目	英語基礎会話 b
------	----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Smart Choice 1 2nd Edition ISBN 978-0-19-440737-3	Ken Wilson	Oxford University Press
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	スピーチ練習・・・20% 毎回の授業で行う小テスト・・・20% 宿題・・・40% 学習到達度確認テスト・・・20%
学生への メッセージ	Prepare for your future by studying today.
担当者の 研究室等	7号館2階(非常勤講師室)
備考	

科目名	英語基礎会話 b	科目名 (英文)	Basic English Conversation b
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	4
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	アレン ニール
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	学生は会話型英語の基本的な技術を開発する。 Students will develop basic skills in conversational English.			
到達目標	学生は教師のワークシートを使用する。 Students will use teacher worksheets. 組およびチーム仕事は使用される。 Pair and team work will be used.			
授業方法と留意点	出席および活動的な仕事は基本条件である。 Attendance and active work are the basic requirements. すべてのクラスの活動は英語で行なわれる。 All class activities will be conducted in English.			
科目学習の効果 (資格)				
授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	Exercises	Translation and group work	Students should study the content of the day's lesson
	2	Exercises	Translation and group work	Students should study the content of the day's lesson
	3	Exercises	Translation and group work	Students should study the content of the day's lesson
	4	Exercises	Translation and group work	Students should study the content of the day's lesson
	5	Exercises	Translation and group work	Students should study the content of the day's lesson
	6	Exercises	Translation and group work	Students should study the content of the day's lesson
	7	Exercises	Translation and group work	Students should study the content of the day's lesson
	8	Exercises	Translation and group work	Students should study the content of the day's lesson
	9	Exercises	Translation and group work	Students should study the content of the day's lesson
	10	Exercises	Translation and group work	Students should study the content of the day's lesson
	11	Exercises	Translation and group work	Students should study the content of the day's lesson
	12	Exercises	Translation and group work	Students should study the content of the day's lesson
	13	Exercises	Translation and group work	Students should study the content of the day's lesson
	14	Exercises	Translation and group work	Students should study the content of the day's lesson
	15	Exercises	Translation and group work	Students should study the content of the day's lesson
関連科目	英語基礎会話 a			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Handouts distributed in class		
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	30% speech, 30% participation, 40% weekly quiz			
学生へのメッセージ				
担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室			
備考				

科目名	英語基礎会話 b	科目名 (英文)	Basic English Conversation b
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	5
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	ブライアン スレーター
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	The class will cover speaking and listening skills. Students will work in pair and small groups practicing realistic everyday and complex English conversation. 基本的な英会話力の向上をめざす。ペアワークやグループワークなどを通じて、よりリアルな英会話ができるように毎回の授業で練習する。
到達目標	The aim of this course will be to provide an opportunity for students to practice and improve their everyday basic English communication skills.
授業方法と留意点	Students will be encouraged to use and practice their newly acquired English speaking listening and comprehension skills in pairs or small groups. 毎回覚えたことを積極的に使用していくことが望まれる。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC などのスコアアップ

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	Introduction and review of semester I	Students will all skills studied in the first semester.	Students should study the content of the days lesson
	2	Review of summer holiday	Discussion of summer holiday activities.	Students should study the content of the days lesson
	3	Likes	Expressing preferences.	Students should study the content of the days lesson
	4	Dislikes	Expressing preferences.	Students should study the content of the days lesson
	5	The future	Discussing future jobs, lifestyles and dreams.	Students should study the content of the days lesson
	6	The Past	Discussing past experiences and leisure activities.	Students should study the content of the days lesson
	7	Mid semester review and test	Review and consolidation of all skills studied and a short test.	Students should study the content of the days lesson
	8	Describing people	Giving and receiving personal descriptions.	Students should study the content of the days lesson
	9	Eating out and food	Discussing skills used in eating out and food types.	Students should study the content of the days lesson
	10	Restaurant role play	Students practicing eating out in a restaurant situation.	Students should study the content of the days lesson
	11	Review	Review and consolidation of all skills studied in the semester.	Students should study the content of the days lesson
	12	What's that?	Review and consolidation of all skills studied in the semester.	Students should study the content of the days lesson
	13	Dreams	Students will have an oral written and listening test.	Students should study the content of the days lesson
	14	Review	Review	Students should study the content of the days lesson
	15	Summer Holiday Plans	Discussing summer holiday plans	Students should study the content of the days lesson

関連科目	英語基礎会話 b
------	----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	English Firsthand 'Success' - The NEW English Firsthand Series (textbook) 978-988-00-3058-1		PEARSON Longman
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	辞書(英和・和英)を必ず持参すること Dictionary - book or electronic		
	2			
	3			

評価方法 (基準)	スピーチ練習・・・20% 毎回の授業で行う小テスト・・・20% 宿題・・・40% 学習到達確認テスト・・・20%
-----------	---

学生へのメッセージ	Prepare for your future by studying today.
-----------	--

担当者の研究室等	7号館2階(非常勤講師室)
備考	

科目名	英語基礎会話 b	科目名 (英文)	Basic English Conversation b
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	6
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	アイビス ウイリアム
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	<ul style="list-style-type: none"> 英語を聞き・話す力をバランスよく伸ばす 150語程度で経済に関するスピーチができるようになる
到達目標	
授業方法と留意点	<p>授業方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ソロ/ペア/グループでのトレーニングが中心 <p>留意点</p> <ul style="list-style-type: none"> 辞書を必ず持ってくること。 毎回の授業初めにQuiz (小テスト) を実施する。遅刻すると受けられなくなるので、注意すること。
科目学習の効果 (資格)	<ul style="list-style-type: none"> 複雑な内容でも、簡単な語句の組み合わせで表現できるようになる TOEICの問題形式に慣れ、受験に備える

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	Unit 7 part I	Quiz01 基礎演習	授業内に指示
3	Unit 7 part II	Quiz02 応用演習	授業内に指示
4	Unit 8 part I	Quiz03 基礎演習	授業内に指示
5	Unit 8 part II	Quiz04 応用演習	授業内に指示
6	Unit 9 part I	Quiz05 基礎演習	授業内に指示
7	Unit 9 part II	Quiz06 応用演習	授業内に指示
8	中間テスト
9	Unit 10 part I	Quiz 07 応用演習 スピーチ準備 1	授業内に指示
10	Unit 10 part 2	Quiz08 基礎演習 スピーチ準備 2	授業内に指示
11	Unit 11 part I	Quiz9 応用演習 スピーチ準備 3	授業内に指示
12	Unit 11 part II	Quiz10 基礎演習 スピーチ準備 4	授業内に指示
13	スピーチ発表 1日	...	授業内に指示
14	スピーチ 第2日	...	授業内に指示
15	復習と学習到達確認のチェック	これまで修得した表現を復習し、学習到達度のチェックを行う。	...

関連科目	特になし
------	------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	English In Common 1		
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	出席は単位取得の必要条件とする。最終的な成績は、単語テスト 20%、スピーチ評価 20%、授業への貢献度及び宿題 20%、学習到達度チェック 40% を目安に評価する。
学生へのメッセージ	資格試験 (TOEIC など) について 資格試験は語学習得のための手段に過ぎず、目的ではない。目的はあくまでも「英語が使えるようになる」こと。小手先の受験テクニックに走るのではなく、英語の力をつけるための本道を進もう。
担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
備考	

科目名	英語基礎会話 b	科目名 (英文)	Basic English Conversation b
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	7
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	ブルース ライリー
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的 This class will allow students to learn and apply the fundamentals of basic English conversation. The focus of this class is on practical application.

到達目標

授業方法と留意点 学生は毎回の授業にテキスト、ワークブック、ノートを持参すること。

科目学習の効果 (資格) 英会話スキル

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	Orientation		学生は毎回の授業にテキスト、ワークブック、ノートを持参すること。
2	Unit 7 part I	Text and Pairwork Activities	学生は毎回の授業にテキスト、ワークブック、ノートを持参すること。
3	Unit 7 part II	Text and Pairwork Activities	学生は毎回の授業にテキスト、ワークブック、ノートを持参すること。
4	Unit 8 part I	Text and Pairwork Activities	学生は毎回の授業にテキスト、ワークブック、ノートを持参すること。
5	Unit 8 part II	Text and Pairwork Activities	学生は毎回の授業にテキスト、ワークブック、ノートを持参すること。
6	Unit 9 part I	Text and Pairwork Activities	学生は毎回の授業にテキスト、ワークブック、ノートを持参すること。
7	Unit 9 part II	Text and Pairwork Activities	学生は毎回の授業にテキスト、ワークブック、ノートを持参すること。
8	Test	Text and Pairwork Activities	学生は毎回の授業にテキスト、ワークブック、ノートを持参すること。
9	Unit 10 part I	Text and Pairwork Activities	学生は毎回の授業にテキスト、ワークブック、ノートを持参すること。
10	Unit 10 part II	Text and Pairwork Activities	学生は毎回の授業にテキスト、ワークブック、ノートを持参すること。
11	Unit 11 part I	Text and Pairwork Activities	学生は毎回の授業にテキスト、ワークブック、ノートを持参すること。
12	Unit 11 part II	Text and Pairwork Activities	学生は毎回の授業にテキスト、ワークブック、ノートを持参すること。
13	Unit 12 part I	Text and Pairwork Activities	学生は毎回の授業にテキスト、ワークブック、ノートを持参すること。
14	Unit 12 part II	Text and Pairwork Activities	学生は毎回の授業にテキスト、ワークブック、ノートを持参すること。
15	Test	Text and Pairwork Activities	学生は毎回の授業にテキスト、ワークブック、ノートを持参すること。

関連科目 英語基礎会話 b

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	English Firsthand 1	Marc Helgeses, Steven Brown, John Wiltshier	Pearson Longman
2	English Firsthand 1 Workbook	Marc Helgeses, Steven Brown, John Wiltshier	Pearson Longman
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 (基準) Student grades will be based on class participation, homework, and in-class tests.

学生へのメッセージ Please participate fully and enjoy the class.

担当者の研究室等 7号館2階 非常勤講師室

備考

科目名	英語基礎会話 b	科目名 (英文)	Basic English Conversation b
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	8
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	ショーン マクガバン
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	In this class students will be able to improve their English listening and speaking ability and gain practice in reading and writing in English. In the speaking component, students will present brief presentations about themselves and topics of interest.
到達目標	Students will use English to research, write and revise short reports. They will practice and present these 'mini reports' as short speeches. All written classwork and homework will be organised into a final comprehensive notebook report.
授業方法と留意点	Reliable attendance and active participation are the two basic requirements for success in this course.
科目学習の効果 (資格)	

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	Introduction	Course overview	Arrive to class on time. Be ready to study and learn in English.
	2	Summer activities	Preparing mini reports	Revising classwork, studying vocabulary and gathering information to write about in the next class.
	3	Summer activities Part 2	Revising and proofreading mini reports for presentations	Revising classwork, studying vocabulary and gathering information to write about in the next class.
	4	Speeches	Presentations and active listening	Revising classwork, studying vocabulary and gathering information to write about in the next class.
	5	Social topics	Researching and preparing mini reports	Revising classwork, studying vocabulary and gathering information to write about in the next class.
	6	Social topics Part 2	Revising mini reports for presentations	Revising classwork, studying vocabulary and gathering information to write about in the next class.
	7	Speeches	Presentations and active listening	Revising classwork, studying vocabulary and gathering information to write about in the next class.
	8	Review	Organizing proofreading and revising comprehensive reports	Revising classwork, studying vocabulary and gathering information to write about in the next class.
	9	Cultural topics	Researching and preparing mini reports	Revising classwork, studying vocabulary and gathering information to write about in the next class.
	10	Cultural topics Part 2	Revising mini reports for presentations	Revising classwork, studying vocabulary and gathering information to write about in the next class.
	11	Speeches	Presentations and active listening	Revising classwork, studying vocabulary and gathering information to write about in the next class.
	12	Social topics	Researching and preparing mini reports	Revising classwork, studying vocabulary and gathering information to write about in the next class.
	13	Social topics Part 2	Revising mini reports for presentations	Revising classwork, studying vocabulary and gathering information to write about in the next class.
	14	Speeches	Presentations and active listening	Revising classwork, studying vocabulary and gathering information to write about in the next class.
	15	Review	Organizing proofreading and revising comprehensive reports	...

関連科目	
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Prints and teacher-prepared materials		
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	Students will be graded on reliable attendance with active participation, 50%; comprehensive notebook 30%; speeches 20%.
-----------	--

学生へのメッセージ	All the classwork and all course assignments will be in English. Be prepared and willing to study and learn using English.
-----------	--

担当者の研究室等	7号館5階 McGovern 研究室
----------	--------------------

科目名	英語基礎会話 b	科目名 (英文)	Basic English Conversation b
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	9
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	ジョセフ シウンシ
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

基礎科目

授業概要・目的	授業は全て英語で行います。 会話力、TOEICの単語力やテクニックを、ロールプレイやスピーチによって身に付けます。
到達目標	ビジネスで英語を使用する際に、培ったリスニング力やスピーキング力で、自信を持って話せるようにします。
授業方法と留意点	講義、演習、ロールプレイ、スピーチ。 ノートを取るのので、筆記用具を持参してください。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
3	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
4	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
5	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
6	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
7	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
8	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
9	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
10	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
11	英会話の練習 スピーチ作成	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
12	英会話の練習 スピーチ作成	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
13	英会話の練習 スピーチ作成	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
14	英会話の練習 スピーチ作成	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
15	スピーチ	スピーチ	ノートの再確認 宿題

関連科目	なし
------	----

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	なし		
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	なし		
	2			
	3			
評価方法 (基準)	授業への参加（ノートを取る、スピーキング、ロールプレイ、クイズ） 80% （※欠席、遅刻、授業中の私語や居眠りなど、受講態度は成績に反映します。） スピーチ（日本の経済や産業、文化などについて1.5分間、作文と暗記） 20%			
学生への メッセージ	頑張ってください。質問があれば、いつでも来てください。 授業はマナーを守って受けてください。			
担当者の 研究室等	7号館2階（非常勤講師室）			
備考				

科目名	英語基礎会話 b	科目名 (英文)	Basic English Conversation b
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	10
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	アレン ニール
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

基礎科目

授業概要・目的	学生は会話型英語の基本的な技術を開発する。 Students will develop basic skills in conversational English.		
到達目標	学生は教師のワークシートを使用する。 Students will use teacher worksheets. 組およびチーム仕事は使用される。 Pair and team work will be used.		
授業方法と留意点	出席および活動的な仕事は基本条件である。 Attendance and active work are the basic requirements. すべてのクラスの活動は英語で行なわれる。 All class activities will be conducted in English.		
科目学習の効果 (資格)			
授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等
	1	Exercises	Translation and group work
	2	Exercises	Translation and group work
	3	Exercises	Translation and group work
	4	Exercises	Translation and group work
	5	Exercises	Translation and group work
	6	Exercises	Translation and group work
	7	Exercises	Translation and group work
	8	Exercises	Translation and group work
	9	Exercises	Translation and group work
	10	Exercises	Translation and group work
	11	Exercises	Translation and group work
	12	Exercises	Translation and group work
	13	Exercises	Translation and group work
	14	Exercises	Translation and group work
	15	Exercises	Translation and group work
事前・事後学習課題	Students should study the content of the day's lesson		
関連科目			
教科書	番号	書籍名	著者名
	1	Handouts distributed in class	
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
評価方法 (基準)	30% speech, 30% participation, 40% weekly quiz		
学生へのメッセージ			
担当者の研究室等	7号館5階メイソン研究室		
備考			

科目名	英語基礎会話 b	科目名 (英文)	Basic English Conversation b
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	11
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	ブライアン スレーター
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	The class will cover speaking and listening skills. Students will work in pair and small groups practicing realistic everyday and complex English conversation. 基本的な英会話力の向上をめざす。ペアワークやグループワークなどを通じて、よりリアルな英会話ができるように毎回の授業で練習する。
到達目標	The aim of this course will be to provide an opportunity for students to practice and improve their everyday basic English communication skills.
授業方法と留意点	Students will be encouraged to use and practice their newly acquired English speaking listening and comprehension skills in pairs or small groups. 毎回覚えたことを積極的に使用していくことが望まれる。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC などのスコアアップ

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	Introduction and review of semester I	Students will all skills studied in the first semester.	Students should study the content of the days lesson
	2	Review of summer holiday	Discussion of summer holiday activities.	Students should study the content of the days lesson
	3	Likes	Expressing preferences.	Students should study the content of the days lesson
	4	Dislikes	Expressing preferences.	Students should study the content of the days lesson
	5	The future	Discussing future jobs, lifestyles and dreams.	Students should study the content of the days lesson
	6	The Past	Discussing past experiences and leisure activities.	Students should study the content of the days lesson
	7	Mid semester review and test	Review and consolidation of all skills studied and a short test.	Students should study the content of the days lesson
	8	Describing people	Giving and receiving personal descriptions.	Students should study the content of the days lesson
	9	Eating out and food	Discussing skills used in eating out and food types.	Students should study the content of the days lesson
	10	Restaurant role play	Students practicing eating out in a restaurant situation.	Students should study the content of the days lesson
	11	Review	Review and consolidation of all skills studied in the semester.	Students should study the content of the days lesson
	12	What's that?	Review and consolidation of all skills studied in the semester.	Students should study the content of the days lesson
	13	Dreams	Students will have an oral written and listening test.	Students should study the content of the days lesson
	14	Review	Review	Students should study the content of the days lesson
	15	Summer Holiday Plans	Discussing summer holiday plans	Students should study the content of the days lesson

関連科目	英語基礎会話 b
------	----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	English Firsthand 'Success' - The NEW English Firsthand Series (textbook) 978-988-00-3058-1		PEARSON Longman
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	辞書(英和・和英)を必ず持参すること Dictionary - book or electronic		
	2			
	3			

評価方法 (基準)	スピーチ練習・・・20% 毎回の授業で行う小テスト・・・20% 宿題・・・40% 学習到達確認テスト・・・20%
-----------	---

学生へのメッセージ	Prepare for your future by studying today.
-----------	--

担当者の研究室等	7号館2階(非常勤講師室)
備考	

科目名	英語基礎会話 b	科目名 (英文)	Basic English Conversation b
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	12
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	ジョン カール
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

基礎科目

授業概要・目的	このコースにおいて、日常会話のスキルを身につけることがゴールです。基本的な語彙の会話における使用や、その他のアクティビティを学習します。また英語圏の文化、価値観、ライフスタイルなどについての知識を養います。																																																																		
到達目標	相互コミュニケーション																																																																		
授業方法と留意点	学生は毎回の授業にテキスト、ワークブック、ノートを持参すること。																																																																		
科目学習の効果 (資格)	英会話スキル																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>Essential English Review, Classroom Procedures, Summer Vacation (Topic Interview: Vacations)</td> <td>夏休みについて語る</td> <td>学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>Unit 7: Occupations</td> <td>仕事について語る</td> <td>学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>Unit 8: What's playing?</td> <td>娯楽について語る</td> <td>学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>Unit 9: What are you going to do?</td> <td>予定について語る</td> <td>学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>Topic Interview: School</td> <td>大学についてのインタビュー</td> <td>学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>Conversation Test Practice</td> <td>会話テストの練習</td> <td>学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>Conversation Test I</td> <td>会話テスト 1</td> <td>学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>Unit 10: How much is this?</td> <td>買い物について語る</td> <td>学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>Unit 11: How do you make it?</td> <td>手順を説明する</td> <td>学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>Unit 12: Opinions and Music</td> <td>好みについて語る</td> <td>学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>Topic Interview: Work</td> <td>仕事についてインタビュー</td> <td>学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>Speech: My Dream, My Future 3 minutes</td> <td>3分スピーチ、私の夢</td> <td>学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>Conversation Test Practice</td> <td>会話テストの練習</td> <td>学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>Conversation Test I I</td> <td>会話テスト 2</td> <td>学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>Achievement Test, Units 7-12</td> <td>学習到達確認</td> <td>学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	Essential English Review, Classroom Procedures, Summer Vacation (Topic Interview: Vacations)	夏休みについて語る	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。	2	Unit 7: Occupations	仕事について語る	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。	3	Unit 8: What's playing?	娯楽について語る	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。	4	Unit 9: What are you going to do?	予定について語る	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。	5	Topic Interview: School	大学についてのインタビュー	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。	6	Conversation Test Practice	会話テストの練習	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。	7	Conversation Test I	会話テスト 1	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。	8	Unit 10: How much is this?	買い物について語る	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。	9	Unit 11: How do you make it?	手順を説明する	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。	10	Unit 12: Opinions and Music	好みについて語る	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。	11	Topic Interview: Work	仕事についてインタビュー	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。	12	Speech: My Dream, My Future 3 minutes	3分スピーチ、私の夢	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。	13	Conversation Test Practice	会話テストの練習	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。	14	Conversation Test I I	会話テスト 2	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。	15	Achievement Test, Units 7-12	学習到達確認	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	Essential English Review, Classroom Procedures, Summer Vacation (Topic Interview: Vacations)	夏休みについて語る	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。																																																																
2	Unit 7: Occupations	仕事について語る	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。																																																																
3	Unit 8: What's playing?	娯楽について語る	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。																																																																
4	Unit 9: What are you going to do?	予定について語る	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。																																																																
5	Topic Interview: School	大学についてのインタビュー	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。																																																																
6	Conversation Test Practice	会話テストの練習	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。																																																																
7	Conversation Test I	会話テスト 1	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。																																																																
8	Unit 10: How much is this?	買い物について語る	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。																																																																
9	Unit 11: How do you make it?	手順を説明する	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。																																																																
10	Unit 12: Opinions and Music	好みについて語る	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。																																																																
11	Topic Interview: Work	仕事についてインタビュー	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。																																																																
12	Speech: My Dream, My Future 3 minutes	3分スピーチ、私の夢	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。																																																																
13	Conversation Test Practice	会話テストの練習	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。																																																																
14	Conversation Test I I	会話テスト 2	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。																																																																
15	Achievement Test, Units 7-12	学習到達確認	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。																																																																
関連科目	英語基礎会話 b																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>English Firsthand 1 (4th edition) Student Book ISBN 9789880030598</td> <td>Marc Helgesen</td> <td>Pearson Longman</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	English Firsthand 1 (4th edition) Student Book ISBN 9789880030598	Marc Helgesen	Pearson Longman	2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	English Firsthand 1 (4th edition) Student Book ISBN 9789880030598	Marc Helgesen	Pearson Longman																																																																
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	20%会話テスト 1 20%会話テスト 2 10%課題、ノートチェック 20%スピーチ 15%授業への取り組み 15% 学習到達確認																																																																		
学生へのメッセージ	皆さん、英語を話すことを楽しんでください。Good Luck!																																																																		
担当者の研究室等	7号館 2階 非常勤講師室																																																																		
備考																																																																			

科目名	英語基礎会話 b	科目名 (英文)	Basic English Conversation b
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	13
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	アイビス ウイリアム
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	<p>The aim of this course will be to provide an opportunity for students to practice and improve their everyday basic English communication skills. The class will cover speaking and listening skills. Students will work in pair and small groups practicing realistic everyday and complex English conversation.</p> <p>基本的な英会話力の向上をめざす。ペアワークやグループワークをしながらよりリアルな状況で英会話ができるようにする。</p>																																																																		
到達目標																																																																			
授業方法と留意点	<p>Students will be encouraged to use and practice their newly acquired English speaking listening and comprehension skills in pairs or small groups.</p> <p>毎回修得した英語の表現などを積極的に使用することが望まれる。</p>																																																																		
科目学習の効果 (資格)	TOEIC のスコアアップ																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>Introduction and review of semester I</td> <td>Students will all skills studied in the first semester.</td> <td>Students should study the content of the days lesson</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>Review of summer holiday</td> <td>Discussion of summer holiday activities.</td> <td>Students should study the content of the days lesson</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>Likes</td> <td>Expressing preferences.</td> <td>Students should study the content of the days lesson</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>Dislikes</td> <td>Expressing preferences.</td> <td>Students should study the content of the days lesson</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>The future</td> <td>Discussing future jobs, lifestyles and dreams.</td> <td>Students should study the content of the days lesson</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>The Past</td> <td>Discussing past experiences and leisure activities.</td> <td>Students should study the content of the days lesson</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>Mid semester review and test</td> <td>Review and consolidation of all skills studied and a short test.</td> <td>Students should study the content of the days lesson</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>Describing people</td> <td>Giving and receiving personal descriptions.</td> <td>Students should study the content of the days lesson</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>Eating out and food</td> <td>Discussing skills used in eating out and food types.</td> <td>Students should study the content of the days lesson</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>Restaurant role play</td> <td>Students practicing eating out in a restaurant situation.</td> <td>Students should study the content of the days lesson</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>Review</td> <td>Review and consolidation of all skills studied in the semester.</td> <td>Students should study the content of the days lesson</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>What's that?</td> <td>Review and consolidation of all skills studied in the semester.</td> <td>Students should study the content of the days lesson</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>Dreams</td> <td>Students will have an oral written and listening test.</td> <td>Students should study the content of the days lesson</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>Review</td> <td>Review</td> <td>Students should study the content of the days lesson</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>Spring Holiday Plans</td> <td>Discussing Spring holiday plans</td> <td>Students should study the content of the days lesson</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	Introduction and review of semester I	Students will all skills studied in the first semester.	Students should study the content of the days lesson	2	Review of summer holiday	Discussion of summer holiday activities.	Students should study the content of the days lesson	3	Likes	Expressing preferences.	Students should study the content of the days lesson	4	Dislikes	Expressing preferences.	Students should study the content of the days lesson	5	The future	Discussing future jobs, lifestyles and dreams.	Students should study the content of the days lesson	6	The Past	Discussing past experiences and leisure activities.	Students should study the content of the days lesson	7	Mid semester review and test	Review and consolidation of all skills studied and a short test.	Students should study the content of the days lesson	8	Describing people	Giving and receiving personal descriptions.	Students should study the content of the days lesson	9	Eating out and food	Discussing skills used in eating out and food types.	Students should study the content of the days lesson	10	Restaurant role play	Students practicing eating out in a restaurant situation.	Students should study the content of the days lesson	11	Review	Review and consolidation of all skills studied in the semester.	Students should study the content of the days lesson	12	What's that?	Review and consolidation of all skills studied in the semester.	Students should study the content of the days lesson	13	Dreams	Students will have an oral written and listening test.	Students should study the content of the days lesson	14	Review	Review	Students should study the content of the days lesson	15	Spring Holiday Plans	Discussing Spring holiday plans	Students should study the content of the days lesson
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	Introduction and review of semester I	Students will all skills studied in the first semester.	Students should study the content of the days lesson																																																																
2	Review of summer holiday	Discussion of summer holiday activities.	Students should study the content of the days lesson																																																																
3	Likes	Expressing preferences.	Students should study the content of the days lesson																																																																
4	Dislikes	Expressing preferences.	Students should study the content of the days lesson																																																																
5	The future	Discussing future jobs, lifestyles and dreams.	Students should study the content of the days lesson																																																																
6	The Past	Discussing past experiences and leisure activities.	Students should study the content of the days lesson																																																																
7	Mid semester review and test	Review and consolidation of all skills studied and a short test.	Students should study the content of the days lesson																																																																
8	Describing people	Giving and receiving personal descriptions.	Students should study the content of the days lesson																																																																
9	Eating out and food	Discussing skills used in eating out and food types.	Students should study the content of the days lesson																																																																
10	Restaurant role play	Students practicing eating out in a restaurant situation.	Students should study the content of the days lesson																																																																
11	Review	Review and consolidation of all skills studied in the semester.	Students should study the content of the days lesson																																																																
12	What's that?	Review and consolidation of all skills studied in the semester.	Students should study the content of the days lesson																																																																
13	Dreams	Students will have an oral written and listening test.	Students should study the content of the days lesson																																																																
14	Review	Review	Students should study the content of the days lesson																																																																
15	Spring Holiday Plans	Discussing Spring holiday plans	Students should study the content of the days lesson																																																																
関連科目	英語基礎会話 b																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>English In Common 1</td> <td></td> <td>Pearson</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	English In Common 1		Pearson	2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	English In Common 1		Pearson																																																																
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	<p>スピーチ練習・・・20%</p> <p>毎回の授業で行う小テスト・・・20%</p> <p>宿題・・・40%</p> <p>学習到達度確認テスト・・・20%</p>																																																																		
学生へのメッセージ	Prepare for your future by studying today.																																																																		
担当者の研究室等	7号館2階(非常勤講師室)																																																																		
備考																																																																			

科目名	英語基礎会話 b	科目名 (英文)	Basic English Conversation b
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	14
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	ダニエル マリンズ
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	In this course students will continue to develop the basic skills in vocabulary and grammar to communicate effectively in English. Students will work in pairs and small groups and practice English in a variety of realistic situations.
到達目標	
授業方法と留意点	Regular attendance and active participation are the two basic requirements for success in this course. All class activities will be conducted in English.
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	- Course orientation and review of course guidelines and assessment tasks. - Review greetings - Discuss summer holiday activities	Students will discover, practice and individualise the language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Begin online homework (http://www.sconlinepractice.com) corresponding to the next unit to be studied in class. Students must repeat each exercise until they get a score of 100% in at least nine of the ten unit exercises.
	2	Unit 7: - Understand and make complaints - Use too/not enough and too many/much - Understand conversations about shopping habits - Understand an article about online shopping	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework (http://www.sconlinepractice.com) corresponding to the unit studied in class. Students must repeat each exercise until they get a score of 100% in at least nine of the ten unit exercises.
	3	Unit 7: - Understand and make complaints - Use too/not enough and too many/much - Understand conversations about shopping habits - Understand an article about online shopping	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework (http://www.sconlinepractice.com) corresponding to the unit studied in class. Students must repeat each exercise until they get a score of 100% in at least nine of the ten unit exercises.
	4	Unit 8: - Describe preferences - Use relative clauses - Understand voicemail messages - Understand an article about dating advice	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework (http://www.sconlinepractice.com) corresponding to the unit studied in class. Students must repeat each exercise until they get a score of 100% in at least nine of the ten unit exercises.
	5	Unit 8: - Describe preferences - Use relative clauses - Understand voicemail messages - Understand an article about dating advice	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks. Units 7 & 8 test.	Complete online homework (http://www.sconlinepractice.com) corresponding to the unit studied in class. Students must repeat each exercise until they get a score of 100% in at least nine of the ten unit exercises.
	6	Unit 9: - Narrate a story about events in the past - Use the past continuous - Understand descriptions of accidents - Understand a report about a dramatic event	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework (http://www.sconlinepractice.com) corresponding to the unit studied in class. Students must repeat each exercise until they get a score of 100% in at least nine of the ten unit exercises.
	7	Unit 9: - Narrate a story about events in the past - Use the past continuous - Understand descriptions of accidents - Understand a report about a dramatic event	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework (http://www.sconlinepractice.com) corresponding to the unit studied in class. Students must repeat each exercise until they get a score of 100% in at least nine of the ten unit exercises.
	8	Review Units 7-9: Conversation: A person telling a friend about someone she met Reading: "Life is Dangerous - Indoors or Outdoors!"	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework (http://www.sconlinepractice.com) corresponding to the unit studied in class. Students must repeat each exercise until they get a score of 100% in at least nine of the ten unit exercises.
	9	Unit 10: - Make speculations about things and situations - Use may, might, could,	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar,	Complete online homework (http://www.sconlinepractice.com) corresponding to the unit studied in class. Students must repeat each exercise until they get

	can't, and must - Understand people describing extreme events - Understand an article about storm chasers	pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	a score of 100% in at least nine of the ten unit exercises.
10	Unit 10: - Make speculations about things and situations - Use may, might, could, can't, and must - Understand people describing extreme events - Understand an article about storm chasers	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks. Units 9 & 10 test.	Complete online homework (http://www.sconlinepractice.com) corresponding to the unit studied in class. Students must repeat each exercise until they get a score of 100% in at least nine of the ten unit exercises.
11	Unit 11: - Talk about past habits - Use 'used to' - Understand family histories - Understand a short biography of an actor	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework (http://www.sconlinepractice.com) corresponding to the unit studied in class. Students must repeat each exercise until they get a score of 100% in at least nine of the ten unit exercises.
12	Unit 11: - Talk about past habits - Use 'used to' - Understand family histories - Understand a short biography of an actor	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework (http://www.sconlinepractice.com) corresponding to the unit studied in class. Students must repeat each exercise until they get a score of 100% in at least nine of the ten unit exercises.
13	Unit 12: - Talk about housing options - Use if clauses with modals - Understand radio interviews about studying abroad - Understand short articles about architecture	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework (http://www.sconlinepractice.com) corresponding to the unit studied in class. Students must repeat each exercise until they get a score of 100% in at least nine of the ten unit exercises.
14	Unit 12: - Talk about housing options - Use if clauses with modals - Understand radio interviews about studying abroad - Understand short articles about architecture	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks. Units 11 & 12 test.	Complete online homework (http://www.sconlinepractice.com) corresponding to the unit studied in class. Students must repeat each exercise until they get a score of 100% in at least nine of the ten unit exercises.
15	Review Units 10-12 Conversation: A job interview Reading: "How do you survive an earthquake?"	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	...

関連科目 Drama, Skills training, English Presentation

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Smart Choice : Second Edition Level 1 Student Book with Online Practice 2,940 円 (ISBN-13: 9780194407373)	Wilson, K.	Oxford University Press
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)
Class Participation / Online homework assignments (5%)
Unit review tests (3x25%)
Speech on Japanese economy, industry or company (20%)

学生へのメッセージ
If you have any queries or need advice about your successful completion of the course, feel free to contact me anytime. I may also be able to answer your questions regarding overseas travel or 'homestays' - particularly in Australia - should you have any.

担当者の研究室等
7号館2階(非常勤講師室)

備考
<http://elt.oup.com/student/smartchoice/>
Practice grammar and vocabulary with fun games, and practice pronunciation with songs and karaoke.

科目名	海外語学研修	科目名 (英文)	Overseas Language Training
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	齋藤 安以子
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	この研修は、語学力(英語力)の向上と研修地の歴史・文化およびそこで生活する人々に触れ、国際的な知識と理解を深め、広範囲な国の人々と協力し合える国際感覚を身につけることを目的とする。研修先での授業は、月曜日から金曜日に実施し、語学力別に分けたクラス内で行われる。宿泊はホームステイ形式である。費用は40万円前後を予定(為替レートにより変動の可能性あり)。*詳細は、3月～4月の募集ガイドンスで周知する。																
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・研修先の歴史や文化を前もって調査することで、現地での研修を深められるようになる。 ・一緒に研修に行く他の学生と交流し、協力して研修を成功させる。 																
授業方法と留意点	<p>3月上旬～4月下旬 募集ガイドンス(日時等の詳細はポータルおよび掲示で連絡する)、事前学習としては事前のガイドンス出席が義務付けられている。また、事後には成果報告およびレポート提出を要請されている。</p> <p>5月 申込書の提出</p> <p>5月下旬 派遣学生の決定および履修申請</p> <p>6月～8月 事前ガイドンスを実施(全3回)</p> <p>8月上旬 結団式</p> <p><研修スケジュール> [2週間コース] 8月中旬～8月下旬(予定)</p> <p>[3週間コース] 8月中旬～9月上旬(予定)</p>																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>これまでに学んだ英語の知識を、実際に使うための練習を多角的に行う。</p> <p>事前学習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・海外渡航に関する基本的なガイドンス等 ・英語で自分から話す練習をすること。インターネット上でもたくさんの学習サイトがあるので、渡航前に自分の中の英語の出力スピードや反応を活性化させておくといい。 <p>事後学習課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・同時期に開催される他の研修参加者と共に、成果報告会でのプレゼンテーションを行う。 ・レポート作成。 																
関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法(基準)	帰国後に提出する成果報告書(20%)および研修先での成績(80%)を基に評価する。																
学生へのメッセージ																	
担当者の研究室等	国際交流センター																
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・参加学生は事前ガイドンスに必ず出席すること。欠席の場合は、事前に国際交流センターへ連絡をしてください。 ・事前に参加申込みをし、参加許可を得た者に限り履修申請をすることができる。通常の履修申請とは方法が異なるので注意。 ・各学部の期末試験等のスケジュールを確認の上、履修を検討すること。学部・学年によっては、今年度は受講できない場合もあります。 																

科目名	経済情報論	科目名(英文)	Economics of Information
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	A B C D E F G
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	岸田 未来
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	経済学を学習する上で不可欠な、パソコンによる情報処理の基礎を学び、経済学の学習や経済分析に役立つ情報リテラシーおよび実践的なデータ処理方法を身につけることを目標とする。より具体的には、①電子メール・ウェブサイトの利用法、②Microsoft Wordによる文書・レポート作成、③Microsoft Excelによる表作成・基礎的データ分析、④Microsoft PowerPointによるプレゼンテーション法、⑤ネットを活用した経済情報の収集と分析について学ぶ。
到達目標	授業で取得した情報リテラシーおよび実践的なデータ処理方法をもとに、経済情報収集と分析能力をスムーズに行い、その成果をレポートやプレゼンテーション、また卒業論文の作成などとしてまとめることができる。
授業方法と留意点	各自パソコンを実際に操作しながら授業を行う(実習形式)。
科目学習の効果(資格)	パソコンによる情報収集、レポート作成やプレゼンを通して、自分の考えを正確かつ効果的に他者に伝えることができるようになる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	大学の情報環境について。Windowsの基礎	授業後、課題の提出
2	パソコンの基礎を学ぶ①	電子メールの使い方	授業後、課題の提出
3	パソコンの基礎を学ぶ②	インターネットでの情報検索、パソコンの仕組みとファイル操作	授業後、課題の提出
4	Microsoft Word①	Wordによる文書作成	授業後、課題の提出
5	Microsoft Word②	数式の入力と表作成	授業後、課題の提出
6	Microsoft Excel①	Excelの概要とデータの作成	授業後、課題の提出
7	Microsoft Excel②	表・グラフの作成とデータベース機能	授業後、課題の提出
8	Microsoft Excel③	関数の利用とデータ分析	授業後、課題の提出
9	Microsoft PowerPoint①	PowerPointの概要とスライド作成	授業後、課題の提出
10	Microsoft PowerPoint②	プレゼンテーションの要領と資料作成	授業後、課題の提出
11	経済統計情報の利用	インターネット上から得たデータを使い、初歩的な統計データの加工を行う	授業後、課題の提出
12	論文・資料の検索	インターネット上で閲覧できる論文・資料の検索方法を学ぶ	授業後、課題の提出
13	日本の経済政策を学ぶ	政府のホームページから、経済政策に関する情報を得る	授業後、課題の提出
14	経済情報にアクセスする	インターネット上でさまざまな経済情報を取得する	授業後、課題の提出
15	レポートの作成	これまで得た情報から、レポートを作成する	授業後、課題の提出

関連科目	特になし。
------	-------

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	30時間アカデミック 情報リテラシー Office2013	杉本くみ子、大澤栄子	1,404円(本体:1,300円)
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法(基準)	期末レポート50%、授業内での課題50%を総合的に評価する
----------	-------------------------------

学生へのメッセージ	分からない点などは、遠慮なく積極的に質問するようにしてください。
-----------	----------------------------------

担当者の研究室等	1号館7階 岸田准教授室(経済学部)
----------	--------------------

備考	
----	--

科目名	経済情報論	科目名(英文)	Economics of Information
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	H I J K L M
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	牧野 邦昭
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

基礎科目

授業概要・目的	経済学を学習する上で不可欠なパソコンによる情報処理の基礎を学び、経済学の学習や経済分析に役立つ情報リテラシーおよび実践的なデータ処理方法を身につけることを目標とする。より具体的には、電子メール・ウェブサイトの利用法、Microsoft Wordによる文書・レポート作成、Microsoft Excelによる表作成・基礎的データ分析、Microsoft PowerPointによるプレゼンテーション法、ネットを活用した経済情報の収集と分析について学ぶ。																																																																		
到達目標	パソコンによる情報収集、レポート作成やプレゼンを通して、自分の考えを正確かつ効果的に他者に伝えることができるようになる。																																																																		
授業方法及び留意点	各自パソコンを実際に操作しながら授業を行う（実習形式）。																																																																		
科目学習の効果（資格）																																																																			
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>イントロダクション</td> <td>大学の情報環境について</td> <td>授業後、課題の提出</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>パソコンの基礎を学ぶ①</td> <td>電子メールの使い方</td> <td>授業後、課題の提出</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>パソコンの基礎を学ぶ②</td> <td>インターネットでの情報検索、パソコンの仕組みとファイル操作</td> <td>授業後、課題の提出</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>Microsoft Word①</td> <td>Wordによる文書作成</td> <td>授業後、課題の提出</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>Microsoft Word②</td> <td>Wordによる文書作成の続き、表作成</td> <td>授業後、課題の提出</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>Microsoft Word③</td> <td>Wordによる各種機能</td> <td>授業後、課題の提出</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>Microsoft Excel①</td> <td>Excelの概要とデータの作成</td> <td>授業後、課題の提出</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>Microsoft Excel②</td> <td>表・グラフの作成とデータベース機能</td> <td>授業後、課題の提出</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>Microsoft Excel③</td> <td>関数の利用とデータ分析</td> <td>授業後、課題の提出</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>Microsoft PowerPoint①</td> <td>PowerPointの概要とスライド作成</td> <td>授業後、課題の提出</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>Microsoft PowerPoint②</td> <td>プレゼンテーションの要領と資料作成</td> <td>授業後、課題の提出</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>論文・資料の検索</td> <td>インターネット上で閲覧できる論文・資料の検索方法を学ぶ</td> <td>授業後、課題の提出</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>日本の経済政策を学ぶ</td> <td>政府のホームページから、経済政策に関する情報を得る</td> <td>授業後、課題の提出</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>経済情報にアクセスする</td> <td>インターネット上でさまざまな経済情報を取得する</td> <td>授業後、課題の提出</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>まとめ</td> <td>期末レポートの作成、提出</td> <td>授業後、課題の提出</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	イントロダクション	大学の情報環境について	授業後、課題の提出	2	パソコンの基礎を学ぶ①	電子メールの使い方	授業後、課題の提出	3	パソコンの基礎を学ぶ②	インターネットでの情報検索、パソコンの仕組みとファイル操作	授業後、課題の提出	4	Microsoft Word①	Wordによる文書作成	授業後、課題の提出	5	Microsoft Word②	Wordによる文書作成の続き、表作成	授業後、課題の提出	6	Microsoft Word③	Wordによる各種機能	授業後、課題の提出	7	Microsoft Excel①	Excelの概要とデータの作成	授業後、課題の提出	8	Microsoft Excel②	表・グラフの作成とデータベース機能	授業後、課題の提出	9	Microsoft Excel③	関数の利用とデータ分析	授業後、課題の提出	10	Microsoft PowerPoint①	PowerPointの概要とスライド作成	授業後、課題の提出	11	Microsoft PowerPoint②	プレゼンテーションの要領と資料作成	授業後、課題の提出	12	論文・資料の検索	インターネット上で閲覧できる論文・資料の検索方法を学ぶ	授業後、課題の提出	13	日本の経済政策を学ぶ	政府のホームページから、経済政策に関する情報を得る	授業後、課題の提出	14	経済情報にアクセスする	インターネット上でさまざまな経済情報を取得する	授業後、課題の提出	15	まとめ	期末レポートの作成、提出	授業後、課題の提出
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	イントロダクション	大学の情報環境について	授業後、課題の提出																																																																
2	パソコンの基礎を学ぶ①	電子メールの使い方	授業後、課題の提出																																																																
3	パソコンの基礎を学ぶ②	インターネットでの情報検索、パソコンの仕組みとファイル操作	授業後、課題の提出																																																																
4	Microsoft Word①	Wordによる文書作成	授業後、課題の提出																																																																
5	Microsoft Word②	Wordによる文書作成の続き、表作成	授業後、課題の提出																																																																
6	Microsoft Word③	Wordによる各種機能	授業後、課題の提出																																																																
7	Microsoft Excel①	Excelの概要とデータの作成	授業後、課題の提出																																																																
8	Microsoft Excel②	表・グラフの作成とデータベース機能	授業後、課題の提出																																																																
9	Microsoft Excel③	関数の利用とデータ分析	授業後、課題の提出																																																																
10	Microsoft PowerPoint①	PowerPointの概要とスライド作成	授業後、課題の提出																																																																
11	Microsoft PowerPoint②	プレゼンテーションの要領と資料作成	授業後、課題の提出																																																																
12	論文・資料の検索	インターネット上で閲覧できる論文・資料の検索方法を学ぶ	授業後、課題の提出																																																																
13	日本の経済政策を学ぶ	政府のホームページから、経済政策に関する情報を得る	授業後、課題の提出																																																																
14	経済情報にアクセスする	インターネット上でさまざまな経済情報を取得する	授業後、課題の提出																																																																
15	まとめ	期末レポートの作成、提出	授業後、課題の提出																																																																
関連科目	特になし																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法（基準）	期末レポート50%、授業内での課題50%を総合的に評価する。4回以上欠席した人は期末レポートの採点対象外とする。																																																																		
学生へのメッセージ	分からない点などは、遠慮なく積極的に質問するようにしてください。																																																																		
担当者の研究室等	1号館7階 牧野准教授室（経済学部）																																																																		
備考																																																																			

科目名	経済情報論	科目名(英文)	Economics of Information
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	NOPQRST
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	郭 進
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	この授業の目的は、経済学の学習に役立つ情報処理の方法を身につけること。
到達目標	この授業を履修することによって、次のスキルを習得できる。①電子メールやインターネットの利用方法。とりわけ、経済に関連するデータや情報をネットワークで検索・収集する能力を習得する。② Microsoft Word を学習することによって、レポートや卒業論文などを作成に必要なスキルを身につける。③ Microsoft Excel を学習することによって、表の作成とデータ分析の基礎をマスターする。④ Microsoft PowerPoint を学習することによって簡単なプレゼンテーションができる。
授業方法と留意点	各種の応用ソフトウェアを使った演習を行う。
科目学習の効果(資格)	この授業で習得した情報処理のスキルは、大学生活だけではなく社会人として働くときにも役に立つ。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	大学の情報環境(解説); Windows の操作など(演習)	授業後、アンケートを実施。
2	コンピューターのしくみと文書入力	コンピューターのしくみや二進数と十進数など(解説); ファイル操作、日本語テキスト入力(演習)	授業後、課題の提出
3	電子メールの利用とインターネットの基礎	インターネットの利用とネチケット(解説); 電子メールの使い方(演習)	授業後、課題の提出
4	情報セキュリティと情報検索	情報セキュリティと著作権(解説); インターネットで図書、文献、経済データなどの検索方法(演習)	授業後、課題の提出
5	Microsoft Word (I)	Word の概要と書式の設定(解説); Word による文書作成(演習)	授業後、課題の提出
6	Microsoft Word (II)	図表の作成、文章の表現力アップの方法(解説); Word による文書作成(演習)	授業後、課題の提出
7	Microsoft Word (III)	大学レポートの作成方法(解説); Word による課題の提出(演習)	授業後、課題の提出
8	Microsoft Excel (I)	Excel の概要とデータの作成(解説); Excel によるデータの作成(演習)	授業後、課題の提出
9	Microsoft Excel (II)	表とグラフの作成とデータベース機能(解説); Excel による表とグラフの作成(演習)	授業後、課題の提出
10	Microsoft Excel (III)	様々な関数の利用(解説); Excel によるデータ処理(演習)	授業後、課題の提出
11	Microsoft Excel (IV)	簡単な統計分析の方法(解説); データに基づく初歩的な統計分析を行う(演習)	授業後、課題の提出
12	Microsoft PowerPoint (I)	PowerPoint の概要とスライド作成(解説); PowerPoint によるスライド作成(演習)	授業後、課題の提出
13	Microsoft PowerPoint (II)	プレゼンテーションの要領とポイント(解説); PowerPoint によるプレゼンテーション作成(演習)	授業後、課題の提出
14	経済統計情報の利用と Word、Excel、Powerpoint の連携	経済学の勉強に必要な経済データの収集方法(解説); Word、Excel、Powerpoint の連携(演習)	授業後、課題の提出
15	総まとめとプレゼンテーション	全体の総括(解説); これまでに学んだ知識に基づき、簡単なプレゼンテーションを行う(演習)	授業後、課題の提出

関連科目	特になし
------	------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	30 時間アカデミック	情報リテラシー Office2013	杉本くみ子・大澤栄子
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法(基準)	授業での提出課題 50%、期末レポート 50%の割合で総合的に評価する。ただし、無断欠席が 3 回以上ある場合には、成績評価できない。
----------	---

学生へのメッセージ	経済学を学習するには情報処理の能力が不可欠である。毎回出席してください。疑問点や不明な点は積極的に質問してください。
-----------	--

担当者の研究室等	1 号館 7 階 郭講師室(経済学部)
----------	---------------------

備考	
----	--

科目名	数学基礎 I	科目名 (英文)	Basic Mathematics I
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	A
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	高尾 尚武
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	高校でのカリキュラムの多岐化、大学入学以前の教育課程の多面化、さらに入学選抜試験も様々にわたることから、入学時点での数学習熟度にはかなりのバラツキが認められる。一方で経営・経済系科目、情報系科目の多くでは、かなりの数学的知識、力量を前提にして授業が進められる。この間隙を埋めるため、最低限必要な数学的素養を大学初年度で確実に身につけることをこの授業の目的とする。																																																																		
到達目標	(1) 式の展開・因数分解ができる。 (2) 方程式・不等式を解くことができる。 (3) 場合の数・確率の計算ができる。																																																																		
授業方法と留意点	テキストに基づいた講義が中心。理解の促進と達成の度合いをみるため演習を適時行う。																																																																		
科目学習の効果 (資格)	問題を定式化すること、定式化できれば論理的に解けることを体得する。																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>整式の計算(1)</td> <td>・計算の法則 ・因数分解</td> <td>第1章の間 課題レポート</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>整式の計算(2)</td> <td>・整式の割り算 ・剰余, 因数の定理</td> <td>第1章の間 課題レポート</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>分数式・無理式(1)</td> <td>・通分の規則</td> <td>第2章の間 課題レポート</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>分数式・無理式(2)</td> <td>・平方根、立方根 ・有理化の計算</td> <td>第2章の間 課題レポート</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>1次方程式(1)</td> <td>・等式の基本法則</td> <td>第3章の間 課題レポート</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>1次方程式(2)</td> <td>・方程式の導き方 ・解き方</td> <td>第3章の間 課題レポート</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>1次不等式(1)</td> <td>・不等式の基本法則</td> <td>第3章の間 課題レポート</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>1次不等式(2)</td> <td>・不等式の導き方 ・解き方</td> <td>第3章の間 課題レポート</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>連立1次方程式(1)</td> <td>・連立方程式の導き方</td> <td>第4章の間 課題レポート</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>連立1次方程式(2)</td> <td>・解き方 ・基本法則</td> <td>第4章の間 課題レポート</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>連立1次方程式(3)</td> <td>・消去法</td> <td>第4章の間 課題レポート</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>場合の数(1)</td> <td>・数え上げの原則</td> <td>第5章の間 課題レポート</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>場合の数(2)</td> <td>・並べ方、選び方 ・順列、組み合わせ</td> <td>第5章の間 課題レポート</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>確率(1)</td> <td>・確率の計算</td> <td>第6章の間 課題レポート</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>確率(2)</td> <td>・くりかえす試行の確率</td> <td>第6章の間 課題レポート</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	整式の計算(1)	・計算の法則 ・因数分解	第1章の間 課題レポート	2	整式の計算(2)	・整式の割り算 ・剰余, 因数の定理	第1章の間 課題レポート	3	分数式・無理式(1)	・通分の規則	第2章の間 課題レポート	4	分数式・無理式(2)	・平方根、立方根 ・有理化の計算	第2章の間 課題レポート	5	1次方程式(1)	・等式の基本法則	第3章の間 課題レポート	6	1次方程式(2)	・方程式の導き方 ・解き方	第3章の間 課題レポート	7	1次不等式(1)	・不等式の基本法則	第3章の間 課題レポート	8	1次不等式(2)	・不等式の導き方 ・解き方	第3章の間 課題レポート	9	連立1次方程式(1)	・連立方程式の導き方	第4章の間 課題レポート	10	連立1次方程式(2)	・解き方 ・基本法則	第4章の間 課題レポート	11	連立1次方程式(3)	・消去法	第4章の間 課題レポート	12	場合の数(1)	・数え上げの原則	第5章の間 課題レポート	13	場合の数(2)	・並べ方、選び方 ・順列、組み合わせ	第5章の間 課題レポート	14	確率(1)	・確率の計算	第6章の間 課題レポート	15	確率(2)	・くりかえす試行の確率	第6章の間 課題レポート
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	整式の計算(1)	・計算の法則 ・因数分解	第1章の間 課題レポート																																																																
2	整式の計算(2)	・整式の割り算 ・剰余, 因数の定理	第1章の間 課題レポート																																																																
3	分数式・無理式(1)	・通分の規則	第2章の間 課題レポート																																																																
4	分数式・無理式(2)	・平方根、立方根 ・有理化の計算	第2章の間 課題レポート																																																																
5	1次方程式(1)	・等式の基本法則	第3章の間 課題レポート																																																																
6	1次方程式(2)	・方程式の導き方 ・解き方	第3章の間 課題レポート																																																																
7	1次不等式(1)	・不等式の基本法則	第3章の間 課題レポート																																																																
8	1次不等式(2)	・不等式の導き方 ・解き方	第3章の間 課題レポート																																																																
9	連立1次方程式(1)	・連立方程式の導き方	第4章の間 課題レポート																																																																
10	連立1次方程式(2)	・解き方 ・基本法則	第4章の間 課題レポート																																																																
11	連立1次方程式(3)	・消去法	第4章の間 課題レポート																																																																
12	場合の数(1)	・数え上げの原則	第5章の間 課題レポート																																																																
13	場合の数(2)	・並べ方、選び方 ・順列、組み合わせ	第5章の間 課題レポート																																																																
14	確率(1)	・確率の計算	第6章の間 課題レポート																																																																
15	確率(2)	・くりかえす試行の確率	第6章の間 課題レポート																																																																
関連科目	数学基礎Ⅱ、統計学、経済学関連科目																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>数学基礎 (摂南大学数学研究室)</td> <td></td> <td>学術図書出版社</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	数学基礎 (摂南大学数学研究室)		学術図書出版社	2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	数学基礎 (摂南大学数学研究室)		学術図書出版社																																																																
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	演習 (30%)・期末テスト (70%) で評価する。																																																																		
学生へのメッセージ	数学については各自様々な思いを持っているでしょうが、あらためて出発する新鮮な気分です授業に参加して下さい。どのような些細なことでもかまいませんから、遠慮することなくいつでも質問してください。数学の学習は積み重ねである一方で、後になって以前不明だったことが理解できることもよくあります。続けることで充実した初年度にしましょう。																																																																		
担当者の研究室等	3号館3階 数学準備室																																																																		
備考																																																																			

科目名	数学基礎Ⅰ	科目名(英文)	Basic Mathematics I
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	イ
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	早味 俊夫
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	高校でのカリキュラムの多岐化、大学入学以前の教育課程の多面化、さらに入学選抜試験も様々にわたることから、入学時点での数学習熟度にはかなりのバラツキが認められる。一方で経営・経済系科目、情報系科目の多くでは、かなりの数学的知識、力量を前提にして授業が進められる。この間隙を埋めるため、最低限必要な数学的素養を大学初年度で確実に身につけることをこの授業の目的とする。
到達目標	(1) 式の展開・因数分解ができる。 (2) 方程式・不等式を解くことができる。 (3) 場合の数・確率の計算ができる。
授業方法と留意点	テキストに基づいた講義が中心。理解の促進と達成の度合いをみるため演習を適時行う。
科目学習の効果(資格)	問題を定式化すること、定式化できれば論理的に解けることを体得する。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	
1	整式の計算(1)	・計算の法則 ・因数分解	第1章の間	課題レポート
2	整式の計算(2)	・整式の割り算 ・剰余、因数の定理	第1章の間	課題レポート
3	分数式・無理式(1)	・通分の規則	第2章の間	課題レポート
4	分数式・無理式(2)	・平方根、立方根 ・有理化の計算	第2章の間	課題レポート
5	1次方程式(1)	・等式の基本法則	第3章の間	課題レポート
6	1次方程式(2)	・方程式の導き方 ・解き方	第3章の間	課題レポート
7	1次不等式(1)	・不等式の基本法則	第3章の間	課題レポート
8	1次不等式(2)	・不等式の導き方 ・解き方	第3章の間	課題レポート
9	連立1次方程式(1)	・連立方程式の導き方	第4章の間	課題レポート
10	連立1次方程式(2)	・解き方 ・基本法則	第4章の間	課題レポート
11	連立1次方程式(3)	・消去法	第4章の間	課題レポート
12	場合の数(1)	・数え上げの原則	第5章の間	課題レポート
13	場合の数(2)	・並べ方、選び方 ・順列、組み合わせ	第5章の間	課題レポート
14	確率(1)	・確率の計算	第6章の間	課題レポート
15	確率(2)	・くりかえす試行の確率	第6章の間	課題レポート

関連科目 数学基礎Ⅱ、統計学、経済学関連科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	数学基礎 (摂南大学数学研究室)		学術図書出版社
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法(基準) 演習(30%)・期末テスト(70%)で評価する。

学生へのメッセージ 数学については各自様々な思いを持っているでしょうが、あらためて出発する新鮮な気分です授業に参加して下さい。どのような些細なことでもかまいませんから、遠慮することなくいつでも質問してください。数学の学習は積み重ねである一方で、後になって以前不明だったことが理解できることもよくあります。続けることで充実した初年度にしましょう。

担当者の研究室等 3号館3階 数学準備室

備考

科目名	数学基礎 I	科目名 (英文)	Basic Mathematics I
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	ウ
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	高尾 尚武
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	高校でのカリキュラムの多岐化、大学入学以前の教育課程の多面化、さらに入学選抜試験も様々にわたることから、入学時点での数学習熟度にはかなりのバラツキが認められる。一方で経営・経済系科目、情報系科目の多くでは、かなりの数学的知識、力量を前提にして授業が進められる。この間隙を埋めるため、最低限必要な数学的素養を大学初年度で確実に身につけることをこの授業の目的とする。																																																																		
到達目標	(1) 式の展開・因数分解ができる。 (2) 方程式・不等式を解くことができる。 (3) 場合の数・確率の計算ができる。																																																																		
授業方法と留意点	テキストに基づいた講義が中心。理解の促進と達成の度合いをみるため演習を適時行う。																																																																		
科目学習の効果 (資格)	問題を定式化すること、定式化できれば論理的に解けることを体得する。																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>整式の計算(1)</td> <td>・計算の法則 ・因数分解</td> <td>第1章の間 課題レポート</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>整式の計算(2)</td> <td>・整式の割り算 ・剰余, 因数の定理</td> <td>第1章の間 課題レポート</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>分数式・無理式(1)</td> <td>・通分の規則</td> <td>第2章の間 課題レポート</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>分数式・無理式(2)</td> <td>・平方根, 立方根 ・有理化の計算</td> <td>第2章の間 課題レポート</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>1次方程式(1)</td> <td>・等式の基本法則</td> <td>第3章の間 課題レポート</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>1次方程式(2)</td> <td>・方程式の導き方 ・解き方</td> <td>第3章の間 課題レポート</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>1次不等式(1)</td> <td>・不等式の基本法則</td> <td>第3章の間 課題レポート</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>1次不等式(2)</td> <td>・不等式の導き方 ・解き方</td> <td>第3章の間 課題レポート</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>連立1次方程式(1)</td> <td>・連立方程式の導き方</td> <td>第4章の間 課題レポート</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>連立1次方程式(2)</td> <td>・解き方 ・基本法則</td> <td>第4章の間 課題レポート</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>連立1次方程式(3)</td> <td>・消去法</td> <td>第4章の間 課題レポート</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>場合の数(1)</td> <td>・数え上げの原則</td> <td>第5章の間 課題レポート</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>場合の数(2)</td> <td>・並べ方, 選び方 ・順列, 組み合わせ</td> <td>第5章の間 課題レポート</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>確率(1)</td> <td>・確率の計算</td> <td>第6章の間 課題レポート</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>確率(2)</td> <td>・くりかえす試行の確率</td> <td>第6章の間 課題レポート</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	整式の計算(1)	・計算の法則 ・因数分解	第1章の間 課題レポート	2	整式の計算(2)	・整式の割り算 ・剰余, 因数の定理	第1章の間 課題レポート	3	分数式・無理式(1)	・通分の規則	第2章の間 課題レポート	4	分数式・無理式(2)	・平方根, 立方根 ・有理化の計算	第2章の間 課題レポート	5	1次方程式(1)	・等式の基本法則	第3章の間 課題レポート	6	1次方程式(2)	・方程式の導き方 ・解き方	第3章の間 課題レポート	7	1次不等式(1)	・不等式の基本法則	第3章の間 課題レポート	8	1次不等式(2)	・不等式の導き方 ・解き方	第3章の間 課題レポート	9	連立1次方程式(1)	・連立方程式の導き方	第4章の間 課題レポート	10	連立1次方程式(2)	・解き方 ・基本法則	第4章の間 課題レポート	11	連立1次方程式(3)	・消去法	第4章の間 課題レポート	12	場合の数(1)	・数え上げの原則	第5章の間 課題レポート	13	場合の数(2)	・並べ方, 選び方 ・順列, 組み合わせ	第5章の間 課題レポート	14	確率(1)	・確率の計算	第6章の間 課題レポート	15	確率(2)	・くりかえす試行の確率	第6章の間 課題レポート
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	整式の計算(1)	・計算の法則 ・因数分解	第1章の間 課題レポート																																																																
2	整式の計算(2)	・整式の割り算 ・剰余, 因数の定理	第1章の間 課題レポート																																																																
3	分数式・無理式(1)	・通分の規則	第2章の間 課題レポート																																																																
4	分数式・無理式(2)	・平方根, 立方根 ・有理化の計算	第2章の間 課題レポート																																																																
5	1次方程式(1)	・等式の基本法則	第3章の間 課題レポート																																																																
6	1次方程式(2)	・方程式の導き方 ・解き方	第3章の間 課題レポート																																																																
7	1次不等式(1)	・不等式の基本法則	第3章の間 課題レポート																																																																
8	1次不等式(2)	・不等式の導き方 ・解き方	第3章の間 課題レポート																																																																
9	連立1次方程式(1)	・連立方程式の導き方	第4章の間 課題レポート																																																																
10	連立1次方程式(2)	・解き方 ・基本法則	第4章の間 課題レポート																																																																
11	連立1次方程式(3)	・消去法	第4章の間 課題レポート																																																																
12	場合の数(1)	・数え上げの原則	第5章の間 課題レポート																																																																
13	場合の数(2)	・並べ方, 選び方 ・順列, 組み合わせ	第5章の間 課題レポート																																																																
14	確率(1)	・確率の計算	第6章の間 課題レポート																																																																
15	確率(2)	・くりかえす試行の確率	第6章の間 課題レポート																																																																
関連科目	数学基礎Ⅱ、統計学、経済学関連科目																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	演習 (30%)・期末テスト (70%) で評価する。																																																																		
学生へのメッセージ	数学については各自様々な思いを持っていると思いますが、あらためて出発する新鮮な気分です授業に参加して下さい。どのような些細なことでもかまいませんから、遠慮することなくいつでも質問してください。数学の学習は積み重ねである一方で、後になって以前不明だったことが理解できることもよくあります。続けることで充実した初年度にしましょう。																																																																		
担当者の研究室等	3号館3階 数学準備室																																																																		
備考																																																																			

科目名	数学基礎 I	科目名 (英文)	Basic Mathematics I
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	エ
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	早味 俊夫
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	高校でのカリキュラムの多岐化、大学入学以前の教育課程の多面化、さらに入学選抜試験も様々にわたることから、入学時点での数学習熟度にはかなりのバラツキが認められる。一方で経営・経済系科目、情報系科目の多くでは、かなりの数学的知識、力量を前提にして授業が進められる。この間隙を埋めるため、最低限必要な数学的素養を大学初年度で確実に身につけることをこの授業の目的とする。
到達目標	(1) 式の展開・因数分解ができる。 (2) 方程式・不等式を解くことができる。 (3) 場合の数・確率の計算ができる。
授業方法と留意点	テキストに基づいた講義が中心。理解の促進と達成の度合いをみるため演習を適時行う。
科目学習の効果 (資格)	問題を定式化すること、定式化できれば論理的に解けることを体得する。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	
1	整式の計算(1)	・計算の法則 ・因数分解	第1章の間	課題レポート
2	整式の計算(2)	・整式の割り算 ・剰余, 因数の定理	第1章の間	課題レポート
3	分数式・無理式(1)	・通分の規則	第2章の間	課題レポート
4	分数式・無理式(2)	・平方根, 立方根 ・有理化の計算	第2章の間	課題レポート
5	1次方程式(1)	・等式の基本法則	第3章の間	課題レポート
6	1次方程式(2)	・方程式の導き方 ・解き方	第3章の間	課題レポート
7	1次不等式(1)	・不等式の基本法則	第3章の間	課題レポート
8	1次不等式(2)	・不等式の導き方 ・解き方	第3章の間	課題レポート
9	連立1次方程式(1)	・連立方程式の導き方	第4章の間	課題レポート
10	連立1次方程式(2)	・解き方 ・基本法則	第4章の間	課題レポート
11	連立1次方程式(3)	・消去法	第4章の間	課題レポート
12	場合の数(1)	・数え上げの原則	第5章の間	課題レポート
13	場合の数(2)	・並べ方, 選び方 ・順列, 組み合わせ	第5章の間	課題レポート
14	確率(1)	・確率の計算	第6章の間	課題レポート
15	確率(2)	・くりかえす試行の確率	第6章の間	課題レポート

関連科目 数学基礎Ⅱ、統計学、経済学関連科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	数学基礎 (摂南大学数学研究室)		学術図書出版社
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準) 演習 (30%)・期末テスト (70%) で評価する。

学生へのメッセージ 数学については各自様々な思いを持っているでしょうが、あらためて出発する新鮮な気分です授業に参加して下さい。どのような些細なことでもかまいませんから、遠慮することなくいつでも質問してください。数学の学習は積み重ねである一方で、後になって以前不明だったことが理解できることもよくあります。続けることで充実した初年度にしましょう。

担当者の研究室等 3号館3階 数学準備室

備考

科目名	数学基礎Ⅱ	科目名(英文)	Basic Mathematics II
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	ア
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	西脇 純一
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

基礎科目

授業概要・目的	高校でのカリキュラムの多岐化、大学入学以前の教育課程の多面化、さらに入学選抜試験も様々なわたることから、入学時点での数学習熟度にはかなりのバラツキが認められる。一方で経営・経済系科目、情報系科目の多くでは、かなりの数学的知識、力量を前提にして授業が進められる。この間隙を埋めるため、最低限必要な数学的素養を大学初年度で確実に身につけることをこの授業の目的とする。
到達目標	1次関数、2次関数のグラフの復習を出発点として、様々な関数の変化の様子をとらえられるようになる。
授業方法と留意点	テキストに基づいた講義が中心。理解の促進と達成の度合いをみるため演習を適時行う。
科目学習の効果(資格)	数学基礎Ⅰに引き続き、筋道をたてた論理的思考と計算技量を習得する。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	1次関数	・グラフの書き方 ・傾き, 切片	第7章の問 課題レポート
3	2次関数(1)	・グラフの書き方 ・頂点, 対称軸	第7章の問 課題レポート
4	2次関数(2)	・最大値, 最小値 ・応用例	第7章の問 課題レポート
5	無理関数	・逆関数 ・定義域	第7章の問 課題レポート
6	数列(1)	・等差数列 ・和の公式	第8章の問 課題レポート
7	数列(2)	・等比数列 ・和の公式	第8章の問 課題レポート
8	整関数の微分(1)	・変化率 ・微分係数, 接線	第9章の問 課題レポート
9	整関数の微分(2)	・導関数 ・極大値, 極小値	第9章の問 課題レポート
10	整関数の微分(3)	・関数の増加, 減少 ・関数のグラフ	第9章の問 課題レポート
11	整関数の微分(4)	・最大値, 最小値 ・応用問題	第9章の問 課題レポート
12	積分(1)	・不定積分 ・原始関数	第10章の問 課題レポート
13	積分(2)	・区分求積法 ・定積分	第10章の問 課題レポート
14	積分(3)	・微積分の基本定理 ・定積分の計算	第10章の問 課題レポート
15	積分(4)	・面積, 体積 ・応用問題	第10章の問 課題レポート

関連科目 数学基礎Ⅰ、統計学、経済学関連科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	数学基礎 (摂南大学数学研究室)		学術図書出版社
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法(基準) 演習(30%)・期末テスト(70%)で評価する。

学生へのメッセージ 数学については各自様々な思いを持っていると思いますが、あらためて出発する新鮮な気分で授業に参加して下さい。どのような些細なことでもかまいませんから、遠慮することなくいつでも質問してください。数学の学習は積み重ねである一方で、後になって以前不明だったことが理解できることもよくあります。続けることで充実した初年度にしましょう。

担当者の研究室等備考 3号館3階 数学準備室

科目名	数学基礎Ⅱ	科目名(英文)	Basic Mathematics II
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	イ
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	早味 俊夫
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	高校でのカリキュラムの多岐化、大学入学以前の教育課程の多面化、さらに入学選抜試験も様々なわたることから、入学時点での数学習熟度にはかなりのバラツキが認められる。一方で経営・経済系科目、情報系科目の多くでは、かなりの数学的知識、力量を前提にして授業が進められる。この間隙を埋めるため、最低限必要な数学的素養を大学初年度で確実に身につけることをこの授業の目的とする。
到達目標	1次関数、2次関数のグラフの復習を出発点として、様々な関数の変化の様子をとらえられるようになる。
授業方法と留意点	テキストに基づいた講義が中心。理解の促進と達成の度合いをみるため演習を適時行う。
科目学習の効果(資格)	数学基礎Ⅰに引き続き、筋道をたてた論理的思考と計算量を習得する。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	関数とグラフ	・ 座標の表し方	第7章の問 課題レポート
2	1次関数	・ グラフの書き方 ・ 傾き, 切片	第7章の問 課題レポート
3	2次関数(1)	・ グラフの書き方 ・ 頂点, 対称軸	第7章の問 課題レポート
4	2次関数(2)	・ 最大値, 最小値 ・ 応用例	第7章の問 課題レポート
5	無理関数	・ 逆関数 ・ 定義域	第7章の問 課題レポート
6	数列(1)	・ 等差数列 ・ 和の公式	第8章の問 課題レポート
7	数列(2)	・ 等比数列 ・ 和の公式	第8章の問 課題レポート
8	整関数の微分(1)	・ 変化率 ・ 微分係数, 接線	第9章の問 課題レポート
9	整関数の微分(2)	・ 導関数 ・ 極大値, 極小値	第9章の問 課題レポート
10	整関数の微分(3)	・ 関数の増加, 減少 ・ 関数のグラフ	第9章の問 課題レポート
11	整関数の微分(4)	・ 最大値, 最小値 ・ 応用問題	第9章の問 課題レポート
12	積分(1)	・ 不定積分 ・ 原始関数	第10章の問 課題レポート
13	積分(2)	・ 区分求積法 ・ 定積分	第10章の問 課題レポート
14	積分(3)	・ 微積分の基本定理 ・ 定積分の計算	第10章の問 課題レポート
15	積分(4)	・ 面積, 体積 ・ 応用問題	第10章の問 課題レポート

関連科目	数学基礎Ⅰ、統計学、経済学関連科目
------	-------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	数学基礎 (摂南大学数学研究室)		学術図書出版社
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	演習(30%)・期末テスト(70%)で評価する。
----------	--------------------------

学生へのメッセージ	数学については各自様々な思いを持っていると思いますが、あらためて出発する新鮮な気分で授業に参加して下さい。どのような些細なことでもかまいませんから、遠慮することなくいつでも質問してください。数学の学習は積み重ねである一方で、後になって以前不明だったことが理解できることもよくあります。続けることで充実した初年度にしましょう。
-----------	--

担当者の研究室等備考	3号館3階(数学準備室)
------------	--------------

科目名	数学基礎Ⅱ	科目名(英文)	Basic Mathematics II
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	ウ
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	西脇 純一
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

基礎科目

授業概要・目的	高校でのカリキュラムの多岐化、大学入学以前の教育課程の多面化、さらに入学選抜試験も様々にわたることから、入学時点での数学習熟度にはかなりのバラツキが認められる。一方で経営・経済系科目、情報系科目の多くでは、かなりの数学的知識、力量を前提にして授業が進められる。この間隙を埋めるため、最低限必要な数学的素養を大学初年度で確実に身につけることをこの授業の目的とする。
到達目標	1次関数、2次関数のグラフの復習を出発点として、様々な関数の変化の様子をとらえられるようになる。
授業方法と留意点	テキストに基づいた講義が中心。理解の促進と達成の度合いをみるため演習を適時行う。
科目学習の効果(資格)	数学基礎Ⅰに引き続き、筋道をたてた論理的思考と計算技量を習得する。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	関数とグラフ	・ 座標の表し方	第7章の問 課題レポート
2	1次関数	・ グラフの書き方 ・ 傾き、切片	第7章の問 課題レポート
3	2次関数(1)	・ グラフの書き方 ・ 頂点、対称軸	第7章の問 課題レポート
4	2次関数(2)	・ 最大値、最小値 ・ 応用例	第7章の問 課題レポート
5	無理関数	・ 逆関数 ・ 定義域	第7章の問 課題レポート
6	数列(1)	・ 等差数列 ・ 和の公式	第8章の問 課題レポート
7	数列(2)	・ 等比数列 ・ 和の公式	第8章の問 課題レポート
8	整関数の微分(1)	・ 変化率 ・ 微分係数、接線	第9章の問 課題レポート
9	整関数の微分(2)	・ 導関数 ・ 極大値、極小値	第9章の問 課題レポート
10	整関数の微分(3)	・ 関数の増加、減少 ・ 関数のグラフ	第9章の問 課題レポート
11	整関数の微分(4)	・ 最大値、最小値 ・ 応用問題	第9章の問 課題レポート
12	積分(1)	・ 不定積分 ・ 原始関数	第10章の問 課題レポート
13	積分(2)	・ 区分求積法 ・ 定積分	第10章の問 課題レポート
14	積分(3)	・ 微積分の基本定理 ・ 定積分の計算	第10章の問 課題レポート
15	積分(4)	・ 面積、体積 ・ 応用問題	第10章の問 課題レポート

関連科目 数学基礎Ⅰ、統計学、経済学関連科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	数学基礎 (摂南大学数学研究室)		学術図書出版社
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法(基準) 演習(30%)・期末テスト(70%)で評価する。

学生へのメッセージ 数学については各自様々な思いを持っていると思いますが、あらためて出発する新鮮な気分で授業に参加して下さい。どのような些細なことでもかまいませんから、遠慮することなくいつでも質問してください。数学の学習は積み重ねである一方で、後になって以前不明だったことが理解できることもよくあります。続けることで充実した初年度にしましょう。

担当者の研究室等備考 3号館3階 数学準備室

科目名	数学基礎Ⅱ	科目名(英文)	Basic Mathematics II
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	エ
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	早味 俊夫
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	高校でのカリキュラムの多岐化、大学入学以前の教育課程の多面化、さらに入学選抜試験も様々にわたることから、入学時点での数学習熟度にはかなりのバラツキが認められる。一方で経営・経済系科目、情報系科目の多くでは、かなりの数学的知識、力量を前提にして授業が進められる。この間隙を埋めるため、最低限必要な数学的素養を大学初年度で確実に身につけることをこの授業の目的とする。
到達目標	1次関数、2次関数のグラフの復習を出発点として、様々な関数の変化の様子をとらえられるようになる。
授業方法と留意点	テキストに基づいた講義が中心。理解の促進と達成の度合いをみるため演習を適時行う。
科目学習の効果(資格)	数学基礎Ⅰに引き続き、筋道をたてた論理的思考と計算技量を習得する。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	関数とグラフ	・ 座標の表し方	第7章の問 課題レポート
2	1次関数	・ グラフの書き方 ・ 傾き、切片	第7章の問 課題レポート
3	2次関数(1)	・ グラフの書き方 ・ 頂点、対称軸	第7章の問 課題レポート
4	2次関数(2)	・ 最大値、最小値 ・ 応用例	第7章の問 課題レポート
5	無理関数	・ 逆関数 ・ 定義域	第7章の問 課題レポート
6	数列(1)	・ 等差数列 ・ 和の公式	第8章の問 課題レポート
7	数列(2)	・ 等比数列 ・ 和の公式	第8章の問 課題レポート
8	整関数の微分(1)	・ 変化率 ・ 微分係数、接線	第9章の問 課題レポート
9	整関数の微分(2)	・ 導関数 ・ 極大値、極小値	第9章の問 課題レポート
10	整関数の微分(3)	・ 関数の増加、減少 ・ 関数のグラフ	第9章の問 課題レポート
11	整関数の微分(4)	・ 最大値、最小値 ・ 応用問題	第9章の問 課題レポート
12	積分(1)	・ 不定積分 ・ 原始関数	第10章の問 課題レポート
13	積分(2)	・ 区分求積法 ・ 定積分	第10章の問 課題レポート
14	積分(3)	・ 微積分の基本定理 ・ 定積分の計算	第10章の問 課題レポート
15	積分(4)	・ 面積、体積 ・ 応用問題	第10章の問 課題レポート

関連科目	数学基礎Ⅰ、統計学、経済学関連科目
------	-------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	数学基礎(摂南大学数学研究室)		学術図書出版社
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	演習(30%)・期末テスト(70%)で評価する。
----------	--------------------------

学生へのメッセージ	数学については各自様々な思いを持っていると思いますが、あらためて出発する新鮮な気分で授業に参加して下さい。どのような些細なことでもかまいませんから、遠慮することなくいつでも質問してください。数学の学習は積み重ねである一方で、後になって以前不明だったことが理解できることもよくあります。続けることで充実した初年度にしましょう。
-----------	--

担当者の研究室等備考	3号館3階 数学準備室
------------	-------------

科目名	スポーツ科学実習 I	科目名 (英文)	Practice of Sports Science I
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	河瀬 泰治
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

基礎科目

授業概要・目的	健康を基盤として生涯を通じて明るく活力のある生活を営むためには、スポーツ・身体運動は極めて重要な役割を果たします。本科目では、運動技術の習得およびスポーツの楽しさを理解するとともに、自らの生活行動の中にスポーツ・身体運動を実践する能力を育成することを目的としています。																																																																		
到達目標	① 運動技術の向上 ② 競技ルールの理解 ③ 学生相互のコミュニケーション能力の向上																																																																		
授業方法と留意点	実技形式で行う。(雨天の場合、他の種目の実技や講義形式を行う場合がある。) 授業での開講種目は、以下のとおりである。 ・体育館種目 (バドミントン・バレーボール・バスケットボール・卓球など) ・屋外種目 (サッカー・ソフトボール・テニス・ラグビーなど) ※尚、各種目の人数が多すぎる場合や少なすぎる場合は、他の種目に移動、もしくは開講しないことがあります。また、第1回目の授業はガイダンスの他、各種目のコース分けを行なうので、必ず出席すること。何らかの事情で出席できない場合は、事前に体育館事務室まで連絡するように。原則として、スポーツ科学実習 I と II で同じ種目を履修することはできない。																																																																		
科目学習の効果 (資格)	生活していくうえでの個人における基礎体力の養成、健康の保持・増進および運動技術の獲得である。																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>ガイダンス</td> <td>ガイダンス (履修上の注意やコース種目分け)</td> <td>ルールの理解</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>体力測定①</td> <td>屋外種目</td> <td>測定記録評価</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>体力測定②</td> <td>屋内種目</td> <td>測定記録評価</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>各コース別実技</td> <td>競技の概要説明、基礎技術練習</td> <td>授業内容のまとめ</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>各コース別実技</td> <td>基礎技術練習</td> <td>授業内容のまとめ</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>各コース別実技</td> <td>審法、戦術の解説、攻防技術練習、ゲームの解説</td> <td>授業内容のまとめ</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>各コース別実技</td> <td>基礎技術練習、簡易試合、解説とゲーム</td> <td>授業内容のまとめ</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>各コース別実技</td> <td>基礎技術練習、簡易試合</td> <td>授業内容のまとめ</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>各コース別実技</td> <td>基礎技術練習、簡易試合</td> <td>授業内容のまとめ</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>各コース別実技</td> <td>ゲーム (グルーピング・成績記録)</td> <td>授業内容のまとめ</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>各コース別実技</td> <td>ゲーム (グルーピング・成績記録)</td> <td>授業内容のまとめ</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>各コース別実技</td> <td>ゲーム (グルーピング・成績記録)</td> <td>授業内容のまとめ</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>各コース別実技</td> <td>ゲーム (グルーピング・成績記録)</td> <td>授業内容のまとめ</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>各コース別実技</td> <td>ゲーム (グルーピング・成績記録)</td> <td>授業内容のまとめ</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>各コース別実技</td> <td>ゲーム (グルーピング・成績記録)</td> <td>授業内容のまとめ</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	ガイダンス	ガイダンス (履修上の注意やコース種目分け)	ルールの理解	2	体力測定①	屋外種目	測定記録評価	3	体力測定②	屋内種目	測定記録評価	4	各コース別実技	競技の概要説明、基礎技術練習	授業内容のまとめ	5	各コース別実技	基礎技術練習	授業内容のまとめ	6	各コース別実技	審法、戦術の解説、攻防技術練習、ゲームの解説	授業内容のまとめ	7	各コース別実技	基礎技術練習、簡易試合、解説とゲーム	授業内容のまとめ	8	各コース別実技	基礎技術練習、簡易試合	授業内容のまとめ	9	各コース別実技	基礎技術練習、簡易試合	授業内容のまとめ	10	各コース別実技	ゲーム (グルーピング・成績記録)	授業内容のまとめ	11	各コース別実技	ゲーム (グルーピング・成績記録)	授業内容のまとめ	12	各コース別実技	ゲーム (グルーピング・成績記録)	授業内容のまとめ	13	各コース別実技	ゲーム (グルーピング・成績記録)	授業内容のまとめ	14	各コース別実技	ゲーム (グルーピング・成績記録)	授業内容のまとめ	15	各コース別実技	ゲーム (グルーピング・成績記録)	授業内容のまとめ
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	ガイダンス	ガイダンス (履修上の注意やコース種目分け)	ルールの理解																																																																
2	体力測定①	屋外種目	測定記録評価																																																																
3	体力測定②	屋内種目	測定記録評価																																																																
4	各コース別実技	競技の概要説明、基礎技術練習	授業内容のまとめ																																																																
5	各コース別実技	基礎技術練習	授業内容のまとめ																																																																
6	各コース別実技	審法、戦術の解説、攻防技術練習、ゲームの解説	授業内容のまとめ																																																																
7	各コース別実技	基礎技術練習、簡易試合、解説とゲーム	授業内容のまとめ																																																																
8	各コース別実技	基礎技術練習、簡易試合	授業内容のまとめ																																																																
9	各コース別実技	基礎技術練習、簡易試合	授業内容のまとめ																																																																
10	各コース別実技	ゲーム (グルーピング・成績記録)	授業内容のまとめ																																																																
11	各コース別実技	ゲーム (グルーピング・成績記録)	授業内容のまとめ																																																																
12	各コース別実技	ゲーム (グルーピング・成績記録)	授業内容のまとめ																																																																
13	各コース別実技	ゲーム (グルーピング・成績記録)	授業内容のまとめ																																																																
14	各コース別実技	ゲーム (グルーピング・成績記録)	授業内容のまとめ																																																																
15	各コース別実技	ゲーム (グルーピング・成績記録)	授業内容のまとめ																																																																
関連科目	生涯スポーツ実習・健康論・スポーツ科学概論・保険論・健康科学・スポーツ指導者入門・スポーツ文化論・スポーツプログラミング・発育発達論・ヘルスエクササイズ理論と実際・スポーツ教育学・スポーツの歴史・スポーツトレーニングの基礎・武道論・フィットネストレーニングの理論と実際・スポーツ医学の基礎・体力測定とスポーツ相談・スポーツ栄養学・スポーツ医学の理論と実際																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	平常点50%、態度点25%、技能点25%として、総合評価する。																																																																		
学生へのメッセージ	授業への質問などは授業前後の休憩時間または昼休みに総合体育館 1F 体育館事務室にきてください。																																																																		
担当者の研究室等	総合体育館 1F 体育館事務室																																																																		
備考	トレーニングウェア、スポーツシューズ (コースに適したもの)																																																																		

科目名	スポーツ科学実習Ⅱ	科目名(英文)	Practice of Sports Science II
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	河瀬 泰治
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	健康を基盤として生涯を通じて明るく活力のある生活を営むためには、スポーツ・身体運動は極めて重要な役割を果たします。本科目では、運動技術の習得およびスポーツの楽しさを理解するとともに、自らの生活行動の中にスポーツ・身体運動を実践する能力を育成することを目的としています。																																																																		
到達目標	① 運動技術の向上 ② 競技ルールの理解 ③ 学生相互のコミュニケーション能力の向上																																																																		
授業方法と留意点	実技形式で行う。(雨天の場合、他の種目の実技や講義形式を行う場合がある。) 授業での開講種目は、以下のとおりである。 ・体育館種目(バドミントン・バレーボール・バスケットボール・卓球など) ・屋外種目(サッカー・ソフトボール・テニス・タグラグビーなど) ※尚、各種目の人数が多すぎる場合や少なすぎる場合は、他の種目に移動、もしくは開講しないことがあります。また、第1回目の授業はガイダンスの他、各種目のコース分けを行なうので、必ず出席すること。何らかの事情で出席できない場合は、事前に体育館事務室まで連絡するように。原則として、スポーツ科学実習ⅠとⅡで同じ種目を履修することはできない。																																																																		
科目学習の効果(資格)	生活していくうえでの個人における基礎体力の養成、健康の保持・増進および運動技術の獲得である。																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>ガイダンス</td> <td>ガイダンス(履修上の注意やコース種目分け)</td> <td>ルールの理解</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>各コース別実技</td> <td>競技の概要説明、基礎技術練習</td> <td>授業内容のまとめ</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>各コース別実技</td> <td>基礎技術練習</td> <td>授業内容のまとめ</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>各コース別実技</td> <td>審法、戦術の解説、攻防技術練習、ゲームの解説</td> <td>授業内容のまとめ</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>各コース別実技</td> <td>基礎技術練習、簡易試合、解説とゲーム</td> <td>授業内容のまとめ</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>各コース別実技</td> <td>基礎技術練習、簡易試合</td> <td>授業内容のまとめ</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>各コース別実技</td> <td>基礎技術練習、簡易試合</td> <td>授業内容のまとめ</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>各コース別実技</td> <td>ゲーム(グルーピング・成績記録)</td> <td>授業内容のまとめ</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>各コース別実技</td> <td>ゲーム(グルーピング・成績記録)</td> <td>授業内容のまとめ</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>各コース別実技</td> <td>ゲーム(グルーピング・成績記録)</td> <td>授業内容のまとめ</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>各コース別実技</td> <td>ゲーム(グルーピング・成績記録)</td> <td>授業内容のまとめ</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>各コース別実技</td> <td>ゲーム(グルーピング・成績記録)</td> <td>授業内容のまとめ</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>各コース別実技</td> <td>ゲーム(グルーピング・成績記録)</td> <td>授業内容のまとめ</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>各コース別実技</td> <td>ゲーム(グルーピング・成績記録)</td> <td>授業内容のまとめ</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>各コース別実技</td> <td>ゲーム(グルーピング・成績記録)</td> <td>授業内容のまとめ</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	1	ガイダンス	ガイダンス(履修上の注意やコース種目分け)	ルールの理解	2	各コース別実技	競技の概要説明、基礎技術練習	授業内容のまとめ	3	各コース別実技	基礎技術練習	授業内容のまとめ	4	各コース別実技	審法、戦術の解説、攻防技術練習、ゲームの解説	授業内容のまとめ	5	各コース別実技	基礎技術練習、簡易試合、解説とゲーム	授業内容のまとめ	6	各コース別実技	基礎技術練習、簡易試合	授業内容のまとめ	7	各コース別実技	基礎技術練習、簡易試合	授業内容のまとめ	8	各コース別実技	ゲーム(グルーピング・成績記録)	授業内容のまとめ	9	各コース別実技	ゲーム(グルーピング・成績記録)	授業内容のまとめ	10	各コース別実技	ゲーム(グルーピング・成績記録)	授業内容のまとめ	11	各コース別実技	ゲーム(グルーピング・成績記録)	授業内容のまとめ	12	各コース別実技	ゲーム(グルーピング・成績記録)	授業内容のまとめ	13	各コース別実技	ゲーム(グルーピング・成績記録)	授業内容のまとめ	14	各コース別実技	ゲーム(グルーピング・成績記録)	授業内容のまとめ	15	各コース別実技	ゲーム(グルーピング・成績記録)	授業内容のまとめ
回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題																																																																
1	ガイダンス	ガイダンス(履修上の注意やコース種目分け)	ルールの理解																																																																
2	各コース別実技	競技の概要説明、基礎技術練習	授業内容のまとめ																																																																
3	各コース別実技	基礎技術練習	授業内容のまとめ																																																																
4	各コース別実技	審法、戦術の解説、攻防技術練習、ゲームの解説	授業内容のまとめ																																																																
5	各コース別実技	基礎技術練習、簡易試合、解説とゲーム	授業内容のまとめ																																																																
6	各コース別実技	基礎技術練習、簡易試合	授業内容のまとめ																																																																
7	各コース別実技	基礎技術練習、簡易試合	授業内容のまとめ																																																																
8	各コース別実技	ゲーム(グルーピング・成績記録)	授業内容のまとめ																																																																
9	各コース別実技	ゲーム(グルーピング・成績記録)	授業内容のまとめ																																																																
10	各コース別実技	ゲーム(グルーピング・成績記録)	授業内容のまとめ																																																																
11	各コース別実技	ゲーム(グルーピング・成績記録)	授業内容のまとめ																																																																
12	各コース別実技	ゲーム(グルーピング・成績記録)	授業内容のまとめ																																																																
13	各コース別実技	ゲーム(グルーピング・成績記録)	授業内容のまとめ																																																																
14	各コース別実技	ゲーム(グルーピング・成績記録)	授業内容のまとめ																																																																
15	各コース別実技	ゲーム(グルーピング・成績記録)	授業内容のまとめ																																																																
関連科目	生涯スポーツ実習・健康論・スポーツ科学概論・保険論・健康科学・スポーツ指導者入門・スポーツ文化論・スポーツプログラミング・発育発達論・ヘルスエクササイズ理論と実際・スポーツ教育学・スポーツの歴史・スポーツトレーニングの基礎・武道論・フィットネストレーニングの理論と実際・スポーツ医学の基礎・体力測定とスポーツ相談・スポーツ栄養学・スポーツ医学の理論と実際																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法(基準)	平常点50%、態度点25%、技能点25%として、総合評価する。																																																																		
学生へのメッセージ	授業への質問などは授業前後の休憩時間または昼休みに総合体育館1F体育館事務室にきてください。																																																																		
担当者の研究室等	総合体育館 1F 体育館事務室																																																																		
備考	トレーニングウェア、スポーツシューズ(コースに適したもの)																																																																		

科目名	専門日本語 F I	科目名 (英文)	Japanese for Specific Purposes F I
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	中岡 樹里
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

基礎科目

授業概要・目的	様々な状況・場面における作文を通し、相手との関係や文を書く目的、使用する媒体に応じた適切な文が書けるようになることを目指す。																																																																		
到達目標	相手との関係や文を書く目的、使用する媒体に応じて適切な文が書けるようになる。																																																																		
授業方法と留意点	授業は、実践と解説を中心に行う。																																																																		
科目学習の効果(資格)	相手との関係、書く内容、使用媒体に応じた適切な文章が書けるようになる。																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>オリエンテーション</td> <td>授業の説明、様々なコミュニケーションツールとその使用について学習する</td> <td>――</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>Eメールの基本1</td> <td>Eメールの基本を学習する</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>Eメールの基本2</td> <td>Eメールの基本を学習する</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>Eメール1</td> <td>近況を知らせるメール</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>Eメール2</td> <td>お知らせメール</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>Eメール3</td> <td>お誘いメール</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>Eメール4</td> <td>リマインドメール</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>Eメール5</td> <td>問い合わせ/質問メール</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>Eメール6</td> <td>依頼メール</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>Eメール7</td> <td>アポイント/日程調整メール</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>Eメール8</td> <td>お礼のメール</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>Eメール9</td> <td>断りメール</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>Eメール10</td> <td>クレームのメール</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>手紙</td> <td>お礼状を書く</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>総復習・確認テスト</td> <td>総復習、確認テスト</td> <td>復習</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	オリエンテーション	授業の説明、様々なコミュニケーションツールとその使用について学習する	――	2	Eメールの基本1	Eメールの基本を学習する	復習	3	Eメールの基本2	Eメールの基本を学習する	復習	4	Eメール1	近況を知らせるメール	復習	5	Eメール2	お知らせメール	復習	6	Eメール3	お誘いメール	復習	7	Eメール4	リマインドメール	復習	8	Eメール5	問い合わせ/質問メール	復習	9	Eメール6	依頼メール	復習	10	Eメール7	アポイント/日程調整メール	復習	11	Eメール8	お礼のメール	復習	12	Eメール9	断りメール	復習	13	Eメール10	クレームのメール	復習	14	手紙	お礼状を書く	復習	15	総復習・確認テスト	総復習、確認テスト	復習
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	オリエンテーション	授業の説明、様々なコミュニケーションツールとその使用について学習する	――																																																																
2	Eメールの基本1	Eメールの基本を学習する	復習																																																																
3	Eメールの基本2	Eメールの基本を学習する	復習																																																																
4	Eメール1	近況を知らせるメール	復習																																																																
5	Eメール2	お知らせメール	復習																																																																
6	Eメール3	お誘いメール	復習																																																																
7	Eメール4	リマインドメール	復習																																																																
8	Eメール5	問い合わせ/質問メール	復習																																																																
9	Eメール6	依頼メール	復習																																																																
10	Eメール7	アポイント/日程調整メール	復習																																																																
11	Eメール8	お礼のメール	復習																																																																
12	Eメール9	断りメール	復習																																																																
13	Eメール10	クレームのメール	復習																																																																
14	手紙	お礼状を書く	復習																																																																
15	総復習・確認テスト	総復習、確認テスト	復習																																																																
関連科目	総合日本語、日本語読解、日本語会話、日本事情																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法(基準)	授業への参加態度、課題などを総合的に評価する。																																																																		
学生へのメッセージ	相手、内容、媒体に応じた効果的な書き方を勉強しましょう。																																																																		
担当者の研究室等	7号館2階(非常勤講師室)																																																																		
備考	(1)宿題(教員へのメール送信)は、授業中に適宜指示する。 (2)授業外の質問等については、メールで対応する。 (3)授業内容は、進度等に応じて変更する場合がある。																																																																		

科目名	専門日本語 F II	科目名 (英文)	Japanese for Specific Purposes F II
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	中岡 樹里
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	ビジネス場面でのメール交換について解説しながら、実践を通し、状況・目的に応じて適切なビジネスメールが書けるようになることを目指す。			
到達目標	日本のビジネス場面やビジネス場面でのメール交換について理解し、状況や目的、相手に応じて適切なビジネスメールが書けるようになる。			
授業方法と留意点	授業は、講義と実践を中心に行う。			
科目学習の効果(資格)	状況や目的、相手に応じた適切なビジネスメールが書けるようになる。			
授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション ビジネス場面のライティング	授業の説明、 ビジネス場面でのライティングについて学習する	—————
	2	就職活動1	就職活動について学習する 履歴書を書く	復習
	3	就職活動2	自己PRを書く	復習
	4	ビジネスマナー ビジネスコミュニケーション	ビジネスマナー、ビジネス場面でのコミュニケーションについて学習する	復習
	5	ビジネスメールの基本	ビジネスメールの基本を学ぶ	復習
	6	ビジネスメール1	挨拶メール	復習
	7	ビジネスメール2	報告メール	復習
	8	ビジネスメール3	通知メール	復習
	9	ビジネスメール4	案内メール	復習
	10	ビジネスメール5	確認メール	復習
	11	ビジネスメール6	依頼メール	復習
	12	ビジネスメール7	問い合わせ/回答メール	復習
	13	ビジネスメール8	アポイントを取るメール	復習
	14	ビジネスメール9	お詫び/お礼のメール	復習
	15	総復習・確認テスト	総復習・確認テスト	復習
関連科目	総合日本語、日本語読解、日本語会話、日本事情			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法(基準)	授業への参加態度、課題などを総合的に評価する。			
学生へのメッセージ	日系企業や日本国内の会社で働く際に必要な知識やビジネスメールの書き方を勉強して、就職に備えた練習をしましょう。			
担当者の研究室等	7号館2階(非常勤講師室)			
備考	(1)宿題(教員へのメール送信)は、授業中に適宜指示する。 (2)授業外の質問等については、メールで対応する。 (3)授業内容は、進度等に応じて変更する場合がある。			

科目名	日本語会話 F I	科目名 (英文)	Japanese Conversation F I
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	高井 美徳
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	この授業では、「お金」「家族」「幸福」「労働」など、個人や社会の価値観にかかわるようなトピックについて、日本語で議論する能力を伸ばす。			
到達目標	抽象的な話題について、論理的に意見を述べるができるようになることを目指す。			
授業方法と留意点	統計数理研究所「日本人の国民性調査」の質問項目および結果について議論する。その過程で、意見を構成するために必要な語彙を学ぶ。			
科目学習の 効果 (資格)				
授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	トピック①	議論	復習
	2	トピック②	議論	復習
	3	トピック③	議論	復習
	4	トピック④	議論	復習
	5	トピック⑤	議論	復習
	6	トピック⑥	議論	復習
	7	トピック⑦	議論	復習
	8	中間テスト・復習	インタビュー形式によるテスト	復習
	9	トピック⑧	議論	復習
	10	トピック⑨	議論	復習
	11	トピック⑩	議論	復習
	12	トピック⑪	議論	復習
	13	トピック⑫	議論	復習
	14	トピック⑬	議論	復習
	15	まとめ	インタビュー形式によるテスト	復習
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	授業への取り組み、2回のテストから総合的に判断する。			
学生への メッセージ	受講生の日本語レベル等によって内容を変更することがあります。			
担当者の 研究室等	国際交流センター (3号館4階)			
備考				

科目名	日本語会話 F II	科目名 (英文)	Japanese Conversation F II
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	高井 美穂
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	日本語会話 F I と同様、個人や社会の価値観にかかわるような話題について日本語で議論する能力を伸ばす。																																																																		
到達目標	抽象的な話題について論理的に意見を述べるようになることを目指す。																																																																		
授業方法と留意点	統計数理研究所「日本人の国民性調査」の質問項目のなかから、前期に扱わなかった項目およびその結果について議論する。また、その過程で、意見を構成するために必要な語彙を学ぶ。																																																																		
科目学習の 効果 (資格)																																																																			
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td>トピック①</td><td>議論</td><td>復習</td></tr> <tr><td>2</td><td>トピック②</td><td>議論</td><td>復習</td></tr> <tr><td>3</td><td>トピック③</td><td>議論</td><td>復習</td></tr> <tr><td>4</td><td>トピック④</td><td>議論</td><td>復習</td></tr> <tr><td>5</td><td>トピック⑤</td><td>議論</td><td>復習</td></tr> <tr><td>6</td><td>トピック⑥</td><td>議論</td><td>復習</td></tr> <tr><td>7</td><td>中間テスト・復習</td><td>インタビュー形式によるテスト</td><td>復習</td></tr> <tr><td>8</td><td>トピック⑦</td><td>議論</td><td>復習</td></tr> <tr><td>9</td><td>トピック⑧</td><td>議論</td><td>復習</td></tr> <tr><td>10</td><td>トピック⑨</td><td>議論</td><td>復習</td></tr> <tr><td>11</td><td>トピック⑩</td><td>議論</td><td>復習</td></tr> <tr><td>12</td><td>トピック⑪</td><td>議論</td><td>復習</td></tr> <tr><td>13</td><td>トピック⑫</td><td>議論</td><td>復習</td></tr> <tr><td>14</td><td>トピック⑬</td><td>議論</td><td>復習</td></tr> <tr><td>15</td><td>まとめ</td><td>インタビュー形式によるテスト</td><td>復習</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	トピック①	議論	復習	2	トピック②	議論	復習	3	トピック③	議論	復習	4	トピック④	議論	復習	5	トピック⑤	議論	復習	6	トピック⑥	議論	復習	7	中間テスト・復習	インタビュー形式によるテスト	復習	8	トピック⑦	議論	復習	9	トピック⑧	議論	復習	10	トピック⑨	議論	復習	11	トピック⑩	議論	復習	12	トピック⑪	議論	復習	13	トピック⑫	議論	復習	14	トピック⑬	議論	復習	15	まとめ	インタビュー形式によるテスト	復習
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	トピック①	議論	復習																																																																
2	トピック②	議論	復習																																																																
3	トピック③	議論	復習																																																																
4	トピック④	議論	復習																																																																
5	トピック⑤	議論	復習																																																																
6	トピック⑥	議論	復習																																																																
7	中間テスト・復習	インタビュー形式によるテスト	復習																																																																
8	トピック⑦	議論	復習																																																																
9	トピック⑧	議論	復習																																																																
10	トピック⑨	議論	復習																																																																
11	トピック⑩	議論	復習																																																																
12	トピック⑪	議論	復習																																																																
13	トピック⑫	議論	復習																																																																
14	トピック⑬	議論	復習																																																																
15	まとめ	インタビュー形式によるテスト	復習																																																																
関連科目																																																																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	授業への取り組み、2回のインタビューテストから総合的に判断する。																																																																		
学生への メッセージ																																																																			
担当者の 研究室等	国際交流センター (3号館4階)																																																																		
備考																																																																			

科目名	日本語総合 F I	科目名 (英文)	Comprehensive Japanese F I
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	古川 由理子
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	<p>この授業では次の3点を目標にします。</p> <p>①まとまった内容の文章から必要な情報を読み取る ②まとまった内容の文章の大意を把握する ③できるだけ速く①と②をできるようにする</p> <p>なお、JLPT の N1 に合格していない学習者が多い場合、その対策も行ないます。</p>																																																																		
到達目標	<p>日常生活に必要な文章から、大学生活において求められるレベルのある程度専門性のある文章まで、レベルの異なる文章をできるだけ速く読み、自分に必要な情報を読み取れるようになる。</p> <p>JLPT を受験する予定の者は、それぞれ、ターゲット級に合格する (N1、N2に限る)。</p>																																																																		
授業方法と留意点	<p>この授業では、実際に日本社会で使用されている生教材を使って、速読を行ないます。テキストを一字一句、正確に、正確に、正確に読むのではなく、できるだけ速く、自分に必要な情報を読み取る練習をします。そのため、次のような手順で授業を進めます。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. キーワード・キーセンテンスを探す 2. 接続詞に注意する 3. テキストの流れに注意する 4. 予測して読む 5. テキストをまとめる 																																																																		
科目学習の効果 (資格)	<ul style="list-style-type: none"> ・日常あふれている数々の日本語の文章の中から、自分に必要な情報をより早く取り入れることができる。 ・必要ではない情報を捨て、ポイントはどこかを把握できるようにする。 ・その成果を専門の文章の読解に応用する。 <p>(・JPT N1 を持っていないものは取得を目指す。)</p>																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>ガイダンス</td> <td>授業の概要説明 ブレースメントテスト</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>指示語に注意する</td> <td>練習問題をこなす</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>キーワードに注意する</td> <td>穴埋め問題をこなす</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>文章の内容を予測する</td> <td>並べ替えの問題</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>キーセンテンスを探す (1)</td> <td>練習問題をこなす</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>キーセンテンスを探す (2)</td> <td>練習問題をこなす</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>要約をする</td> <td>全体を問う問題をこなす</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>説明文を読む (1)</td> <td>2～3 の説明文を読み、問題を解く</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>説明文を読む (2)</td> <td>2～3 の説明文を読み、問題を解く</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>論説文を読む (1)</td> <td>2～3 の論説文を読み、問題を解く</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>論説文を読む (2)</td> <td>2～3 の論説文を読み、問題を解く</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>随筆を読む</td> <td>2～3 の随筆を読み、問題を解く</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>小説を読む (1)</td> <td>2～3 の小説を読み、問題を解く</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>小説を読む (2)</td> <td>2～3 の小説を読み、問題を解く</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>期末テスト</td> <td>授業中に指示する</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	ガイダンス	授業の概要説明 ブレースメントテスト	復習	2	指示語に注意する	練習問題をこなす	授業内容を復習する	3	キーワードに注意する	穴埋め問題をこなす	授業内容を復習する	4	文章の内容を予測する	並べ替えの問題	授業内容を復習する	5	キーセンテンスを探す (1)	練習問題をこなす	授業内容を復習する	6	キーセンテンスを探す (2)	練習問題をこなす	授業内容を復習する	7	要約をする	全体を問う問題をこなす	授業内容を復習する	8	説明文を読む (1)	2～3 の説明文を読み、問題を解く	授業内容を復習する	9	説明文を読む (2)	2～3 の説明文を読み、問題を解く	授業内容を復習する	10	論説文を読む (1)	2～3 の論説文を読み、問題を解く	授業内容を復習する	11	論説文を読む (2)	2～3 の論説文を読み、問題を解く	授業内容を復習する	12	随筆を読む	2～3 の随筆を読み、問題を解く	授業内容を復習する	13	小説を読む (1)	2～3 の小説を読み、問題を解く	授業内容を復習する	14	小説を読む (2)	2～3 の小説を読み、問題を解く	授業内容を復習する	15	期末テスト	授業中に指示する	授業内容を復習する
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	ガイダンス	授業の概要説明 ブレースメントテスト	復習																																																																
2	指示語に注意する	練習問題をこなす	授業内容を復習する																																																																
3	キーワードに注意する	穴埋め問題をこなす	授業内容を復習する																																																																
4	文章の内容を予測する	並べ替えの問題	授業内容を復習する																																																																
5	キーセンテンスを探す (1)	練習問題をこなす	授業内容を復習する																																																																
6	キーセンテンスを探す (2)	練習問題をこなす	授業内容を復習する																																																																
7	要約をする	全体を問う問題をこなす	授業内容を復習する																																																																
8	説明文を読む (1)	2～3 の説明文を読み、問題を解く	授業内容を復習する																																																																
9	説明文を読む (2)	2～3 の説明文を読み、問題を解く	授業内容を復習する																																																																
10	論説文を読む (1)	2～3 の論説文を読み、問題を解く	授業内容を復習する																																																																
11	論説文を読む (2)	2～3 の論説文を読み、問題を解く	授業内容を復習する																																																																
12	随筆を読む	2～3 の随筆を読み、問題を解く	授業内容を復習する																																																																
13	小説を読む (1)	2～3 の小説を読み、問題を解く	授業内容を復習する																																																																
14	小説を読む (2)	2～3 の小説を読み、問題を解く	授業内容を復習する																																																																
15	期末テスト	授業中に指示する	授業内容を復習する																																																																
関連科目	日本語表現作文																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	<p>定期試験を実施 (試験の形式については授業中に説明する)</p> <p>出席・授業態度 + 期末テスト = 100%</p> <p>50% 50%</p>																																																																		
学生へのメッセージ	<p>受講者のニーズにより、授業内容を大幅に変更することがあります。</p> <p>出席を重視します。できるだけ欠席をしないようにしてください。</p>																																																																		
担当者の研究室等	外国語学部非常勤講師室 (7号館2階)																																																																		
備考	受講者が少人数である場合は、受講者のリクエストを優先します。																																																																		

科目名	日本語総合 F II	科目名 (英文)	Comprehensive Japanese F II
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	1 年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	古川 由理子
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	<p>この授業では次の3点を目標にします。</p> <p>①まとまった内容の文章から必要な情報を読み取る ②まとまった内容の文章の大意を把握する ③できるだけ速く①と②をできるようにする</p> <p>なお、JLPT の N1 に合格していない学習者が多い場合、その対策も行ないます。</p>																																																																		
到達目標	<p>日常生活に必要な文章から、大学生活において求められるレベルのある程度専門性のある文章まで、レベルの異なる文章をできるだけ速く読み、自分に必要な情報を読み取れるようになる。</p> <p>JLPT を受験する予定の者は、それぞれ、ターゲット級に合格する (N1、N2に限る)。</p>																																																																		
授業方法と留意点	<p>この授業では、実際に日本社会で使用されている生教材を使って、速読を行ないます。テキストを一字一句、正確に間違いに読むのではなく、できるだけ速く、自分に必要な情報を読み取る練習をします。そのため、次のような手順で授業を進めます。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. キーワード・キーセンテンスを探す 2. 接続詞に注意する 3. テキストの流れに注意する 4. 予測して読む 5. テキストをまとめる 																																																																		
科目学習の効果 (資格)	<p>・日常あふれている数々の日本語の文章の中から、自分に必要な情報をより早く取り入れることができる。</p> <p>・必要ではない情報を捨て、ポイントはどこかを把握できるようにする。</p> <p>・その成果を専門の文章の読解に応用する。</p> <p>(・JPT N1 を持っていないものは取得を目指す。)</p>																																																																		
授業計画	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 10%;">回数</th> <th style="width: 20%;">授業テーマ</th> <th style="width: 50%;">内容・方法等</th> <th style="width: 20%;">事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td>ガイダンス</td><td>授業の概要説明 プレースメントテスト</td><td>復習</td></tr> <tr><td>2</td><td>指示語に注意する</td><td>練習問題をこなす</td><td>授業内容を復習する</td></tr> <tr><td>3</td><td>キーワードに注意する</td><td>穴埋め問題をこなす</td><td>授業内容を復習する</td></tr> <tr><td>4</td><td>文章の内容を予測する</td><td>並べ替えの問題</td><td>授業内容を復習する</td></tr> <tr><td>5</td><td>キーセンテンスを探す (1)</td><td>練習問題をこなす</td><td>授業内容を復習する</td></tr> <tr><td>6</td><td>キーセンテンスを探す (2)</td><td>練習問題をこなす</td><td>授業内容を復習する</td></tr> <tr><td>7</td><td>要約をする</td><td>全体を問う問題をこなす</td><td>授業内容を復習する</td></tr> <tr><td>8</td><td>説明文を読む (1)</td><td>2~3 の説明文を読み、問題を解く</td><td>授業内容を復習する</td></tr> <tr><td>9</td><td>説明文を読む (2)</td><td>2~3 の説明文を読み、問題を解く</td><td>授業内容を復習する</td></tr> <tr><td>10</td><td>論説文を読む (1)</td><td>2~3 の論説文を読み、問題を解く</td><td>授業内容を復習する</td></tr> <tr><td>11</td><td>論説文を読む (2)</td><td>2~3 の論説文を読み、問題を解く</td><td>授業内容を復習する</td></tr> <tr><td>12</td><td>随筆を読む</td><td>2~3 の随筆を読み、問題を解く</td><td>授業内容を復習する</td></tr> <tr><td>13</td><td>小説を読む (1)</td><td>2~3 の小説を読み、問題を解く</td><td>授業内容を復習する</td></tr> <tr><td>14</td><td>小説を読む (2)</td><td>2~3 の小説を読み、問題を解く</td><td>授業内容を復習する</td></tr> <tr><td>15</td><td>期末テスト</td><td>授業中に指示する</td><td>授業内容を復習する</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	1	ガイダンス	授業の概要説明 プレースメントテスト	復習	2	指示語に注意する	練習問題をこなす	授業内容を復習する	3	キーワードに注意する	穴埋め問題をこなす	授業内容を復習する	4	文章の内容を予測する	並べ替えの問題	授業内容を復習する	5	キーセンテンスを探す (1)	練習問題をこなす	授業内容を復習する	6	キーセンテンスを探す (2)	練習問題をこなす	授業内容を復習する	7	要約をする	全体を問う問題をこなす	授業内容を復習する	8	説明文を読む (1)	2~3 の説明文を読み、問題を解く	授業内容を復習する	9	説明文を読む (2)	2~3 の説明文を読み、問題を解く	授業内容を復習する	10	論説文を読む (1)	2~3 の論説文を読み、問題を解く	授業内容を復習する	11	論説文を読む (2)	2~3 の論説文を読み、問題を解く	授業内容を復習する	12	随筆を読む	2~3 の随筆を読み、問題を解く	授業内容を復習する	13	小説を読む (1)	2~3 の小説を読み、問題を解く	授業内容を復習する	14	小説を読む (2)	2~3 の小説を読み、問題を解く	授業内容を復習する	15	期末テスト	授業中に指示する	授業内容を復習する
回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題																																																																
1	ガイダンス	授業の概要説明 プレースメントテスト	復習																																																																
2	指示語に注意する	練習問題をこなす	授業内容を復習する																																																																
3	キーワードに注意する	穴埋め問題をこなす	授業内容を復習する																																																																
4	文章の内容を予測する	並べ替えの問題	授業内容を復習する																																																																
5	キーセンテンスを探す (1)	練習問題をこなす	授業内容を復習する																																																																
6	キーセンテンスを探す (2)	練習問題をこなす	授業内容を復習する																																																																
7	要約をする	全体を問う問題をこなす	授業内容を復習する																																																																
8	説明文を読む (1)	2~3 の説明文を読み、問題を解く	授業内容を復習する																																																																
9	説明文を読む (2)	2~3 の説明文を読み、問題を解く	授業内容を復習する																																																																
10	論説文を読む (1)	2~3 の論説文を読み、問題を解く	授業内容を復習する																																																																
11	論説文を読む (2)	2~3 の論説文を読み、問題を解く	授業内容を復習する																																																																
12	随筆を読む	2~3 の随筆を読み、問題を解く	授業内容を復習する																																																																
13	小説を読む (1)	2~3 の小説を読み、問題を解く	授業内容を復習する																																																																
14	小説を読む (2)	2~3 の小説を読み、問題を解く	授業内容を復習する																																																																
15	期末テスト	授業中に指示する	授業内容を復習する																																																																
関連科目	日本語表現作文																																																																		
教科書	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 10%;">番号</th> <th style="width: 40%;">書籍名</th> <th style="width: 30%;">著者名</th> <th style="width: 20%;">出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 10%;">番号</th> <th style="width: 40%;">書籍名</th> <th style="width: 30%;">著者名</th> <th style="width: 20%;">出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	<p>定期試験を実施 (試験の形式については授業中に説明する)</p> <p>出席・授業態度 + 期末テスト = 100% 50% 50%</p>																																																																		
学生へのメッセージ	<p>受講者のニーズにより、授業内容を大幅に変更することがあります。</p> <p>出席を重視します。できるだけ欠席をしないようにしてください。</p>																																																																		
担当者の研究室等	外国語学部非常勤講師室 (7号館2階)																																																																		
備考	受講者が少人数である場合は、受講者のリクエストを優先します。																																																																		

科目名	日本語読解 F I	科目名 (英文)	Japanese Reading FI
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	中岡 樹里
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	この授業では、日本人向けに書かれた一般書を読み、表面的な意見や情報だけでなく、含意された意見や立場なども理解できるようになることを目指す。		
到達目標	読んだ内容について、表面的な意見や情報だけでなく、含意された意見や立場なども理解できるようになる。		
授業方法と留意点	授業は以下のような流れで進める。 ①文章のテーマに関する知識をクラス内で共有する。②学習目標とそれを達成するために必要なスキルを確認する。③各自で文章を読み、タスクを解く。④教員による解説を行う。⑤自己評価を行う。 また、語彙力の増強のため、適宜単語テストを行う。		
科目学習の効果 (資格)	専門分野の文章を読むための基礎力		
授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等
	1	オリエンテーション 心のバリアフリー	授業の進め方の説明 読解、内容理解
	2	30代ビジネスマンの「心の病」を考える	読解、内容理解
	3	「少女マンガ家ぐらし」へ	読解、内容理解
	4	プロフィール	読解、内容理解
	5	インタビュー	読解、内容理解
	6	いつも学びがある	読解、内容理解
	7	「早朝時間」のフル活用で成功した人たち①	読解、内容理解
	8	「早朝時間」のフル活用で成功した人たち②	読解、内容理解
	9	緑のカーテン	読解、内容理解
	10	環境立国ニッポンの挑戦①	読解、内容理解
	11	環境立国ニッポンの挑戦②	読解、内容理解
	12	渡り鳥はなぜ迷わない？	読解、内容理解
	13	フリーズする脳①	読解、内容理解
	14	フリーズする脳②	読解、内容理解
	15	総復習、確認テスト	総復習、確認テスト
事前・事後学習課題			
関連科目	日本語読解II		
教科書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
評価方法 (基準)	単語テスト、確認テスト、授業への参加態度を総合的に評価します。		
学生へのメッセージ	専門分野の文章を読むための基礎力を身につけましょう！		
担当者の研究室等	7号館2階 (非常勤講師室)		
備考	(1) 授業外の質問等については、メールで対応する。 (2) 授業内容は、進度等に応じて変更する場合があります。		

科目名	日本語読解 F II	科目名 (英文)	Japanese Reading FII
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	中岡 樹里
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	この授業では、日本人向けに書かれた一般書を批判的に読むことができるようになることを目指す。			
到達目標	一般向けに書かれた文章を批判的に読むことができるようになる。			
授業方法と留意点	授業は基本的に2回で1つの文章を読む。 1回目の授業では、文章のテーマに関する知識をクラス内で共有し、学習目標とそれを達成するために必要なスキルを確認した上で各自文章を読み、教員による解説を行う。 2回目の授業では、1回目の授業で読んだ文章を批判的に読むためのタスクを行う。			
科目学習の効果 (資格)	文章を批判的に読む力が身につく。			
授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション 批判的な読み方の練習	授業の進め方の説明 批判的な読み方を練習する	復習
	2	私のニュースの読み方①	内容理解	復習
	3	私のニュースの読み方②	批判的に読む	復習 ミニレポート
	4	価値の一様性①	内容理解	復習
	5	価値の一様性②	批判的に読む	復習 ミニレポート
	6	経済学とは何か①	内容理解	復習
	7	経済学とは何か②	批判的に読む	復習 ミニレポート
	8	住まい方の思想①	内容理解	復習
	9	住まい方の思想②	批判的に読む	復習 ミニレポート
	10	ことばの構造、文化の構造①	内容理解	復習
	11	ことばの構造、文化の構造②	批判的に読む	復習 ミニレポート
	12	化粧する脳①	内容理解	復習
	13	化粧する脳②	批判的に読む	復習 ミニレポート
	14	メディアがもたらす環境変 容に関する意識調査	内容理解、 批判的に読む	復習
	15	総復習、確認テスト	総復習、確認テスト	復習
関連科目	日本語読解 I			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	ミニレポート、確認テスト、授業への参加態度を総合的に評価します。			
学生へのメッセージ	文章を批判的に読めるよう、一緒に練習しましょう。			
担当者の研究室等	7号館2階 (非常勤講師室)			
備考	(1) 授業外の質問等については、メールで対応する。 (2) 授業内容は、進捗等に応じて変更する場合があります。			

科目名	日本語表現 I	科目名 (英文)	Japanese Expression I
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1 年	クラス	ア
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	丹下 暖子
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	文章表現の基礎を学び、大学でのレポート・論文の作成、社会に出てからの文書の作成に必要な「事実を客観的に説明し、意見を論理的に記述する」力を養う。 敬語表現や手紙の書き方など、大学生として知っておきたい日本語に関する知識を身につける。
到達目標	大学生活、社会人生活に必要な文章の書き方を習得する。 敬語表現などを理解し、人前での適切な話し方を身につける。
授業方法と留意点	配布プリントにより授業を進める。授業テーマに応じたミニレポートや課題を作成し、提出する。 毎回、授業の冒頭で、語彙力を養う小テストを行う。 なお、授業には辞書を携帯することが望ましい。
科目学習の効果 (資格)	大学生活、社会人生活で必要となる「書く」「話す」力が身につく。 日本語に関する関心と知識が深まる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス	授業の目的、進め方	———
2	文章の書き方①	話し言葉と書き言葉の違いを認識する	前回の復習
3	文章の書き方②	文の構造について確認する	前回の復習
4	事実文と意見文	事実を述べる文章と意見を述べる文章の違いを学ぶ	前回の復習
5	文章の構成	段落分けについて学ぶ	前回の復習
6	課題①	ある事物について、論理的に説明する文章を書く	課題①の準備
7	課題①フィードバック グループディスカッション①	課題①の返却・講評 グループディスカッションの目的、方法を学ぶ	これまでの授業の復習
8	グループディスカッション②	あるテーマについて、グループごとにディスカッションを行う	課題①を見直す
9	敬語表現①	敬語表現の基本を確認する	前回の復習
10	敬語表現②	尊敬語と謙譲語の使い分けを身につける	前回の復習
11	手紙の書き方	フォーマルな手紙の様式を学ぶ	前回の復習
12	課題②	フォーマルな手紙を作成する	課題②の準備
13	課題②フィードバック レポート①	課題②の返却・講評 レポートを書く際の文章表現を実践的に確認する	これまでの授業の復習
14	復習テスト レポート②	小テストの復習テスト レポートを書く際の文章表現の注意点を確認する	課題②を見直す 小テストの復習
15	メールの書き方	メールの基本とマナーを学ぶ	前回の復習

関連科目	日本語表現 II
------	----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	課題 (50%)、授業への取り組み・復習テストなど (50%) により、総合的に評価する。 課題の提出は必須。場合によっては再提出を求める。
-----------	---

学生へのメッセージ	私たちが普段、当たり前のように使っている「日本語」と、あらためてじっくりと向き合ってみましょう。
-----------	--

担当者の研究室等	7 号館 2 階 非常勤講師室
----------	-----------------

備考	
----	--

科目名	日本語表現Ⅰ	科目名(英文)	Japanese Expression I
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	イ
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	松繁 弘之
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	授業内容は実用文の作文練習です。文章構成の基礎を学ぶとともに、それに基づいた実用文の作文練習を行います。また、常用漢字の練習も行います。			
到達目標	実用文を的確に作文することができるようになることが目標です。また、常用漢字の読み書きが正確にできるようになることが目標です。			
授業方法と留意点	講義と演習によって授業を行います。			
科目学習の効果(資格)	まとまりのある文章を書けるようになることで、レポートなどの作成に役立ちます。また、漢字検定2級の漢字が習得できます。			
授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	導入	授業についての説明をします。	教科書の目次を読む
	2	単一のパラグラフの文章(1)	提案文	漢字の復習
	3	単一のパラグラフの文章(2)	報告文	漢字の復習
	4	単一のパラグラフの文章(3)	勧誘文	漢字の復習
	5	単一のパラグラフの文章(4)	依頼文	漢字の復習
	6	複数のパラグラフの文章(1)	提案文	漢字の復習
	7	複数のパラグラフの文章(2)	報告文	漢字の復習
	8	複数のパラグラフの文章(3)	勧誘文	漢字の復習
	9	複数のパラグラフの文章(4)	依頼文	漢字の復習
	10	複数のパラグラフの文章(5)	エッセイ	漢字の復習
	11	待遇表現を用いる文章(1)	敬語の語法	漢字の復習
	12	待遇表現を用いる文章(2)	敬語の表現	漢字の復習
	13	待遇表現を用いる文章(3)	短い手紙	漢字の復習
	14	待遇表現を用いる文章(4)	長い手紙	漢字の復習
	15	総括	復習と確認	漢字の復習
関連科目	日本語表現Ⅱ			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	新しい国語表記ハンドブック 第7版	三省堂編修所	三省堂
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法(基準)	漢字練習 30%、提出課題 50%、授業態度(授業への集中度) 20%の割合で総合的に評価します。			
学生へのメッセージ	何事も練習しなければ上達しません。			
担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室			
備考				

科目名	日本語表現 I	科目名 (英文)	Japanese Expression I
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1 年	クラス	ウ
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	丹下 暖子
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	文章表現の基礎を学び、大学でのレポート・論文の作成、社会に出てからの文書の作成に必要な「事実を客観的に説明し、意見を論理的に記述する」力を養う。 敬語表現や手紙の書き方など、大学生として知っておきたい日本語に関する知識を身につける。
到達目標	大学生活、社会人生活で必要な文章の書き方を習得する。 敬語表現などを理解し、人前での適切な話し方を身につける。
授業方法と留意点	配布プリントにより授業を進める。授業テーマに応じたミニレポートや課題を作成し、提出する。 毎回、授業の冒頭で、語彙力を養う小テストを行う。 なお、授業には辞書を携帯することが望ましい。
科目学習の効果 (資格)	大学生活、社会人生活で必要となる「書く」「話す」力が身につく。 日本語に関する関心と知識が深まる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス	授業の目的、進め方	———
2	文章の書き方①	話し言葉と書き言葉の違いを認識する	前回の復習
3	文章の書き方②	文の構造について確認する	前回の復習
4	事実文と意見文	事実を述べる文章と意見を述べる文章の違いを学ぶ	前回の復習
5	文章の構成	段落分けについて学ぶ	前回の復習
6	課題①	ある事物について、論理的に説明する文章を書く	課題①の準備
7	課題①フィードバック グループディスカッション①	課題①の返却・講評 グループディスカッションの目的、方法を学ぶ	これまでの授業の復習
8	グループディスカッション②	あるテーマについて、グループごとにディスカッションを行う	課題①を見直す
9	敬語表現①	敬語表現の基本を確認する	前回の復習
10	敬語表現②	尊敬語と謙譲語の使い分けを身につける	前回の復習
11	手紙の書き方	フォーマルな手紙の様式を学ぶ	前回の復習
12	課題②	フォーマルな手紙を作成する	課題②の準備
13	課題②フィードバック レポート①	課題②の返却・講評 レポートを書く際の文章表現を実践的に確認する	これまでの授業の復習
14	復習テスト レポート②	小テストの復習テスト レポートを書く際の文章表現の注意点を確認する	課題②を見直す 小テストの復習
15	メールの書き方	メールの基本とマナーを学ぶ	前回の復習

関連科目	日本語表現 II
------	----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	課題 (50%)、授業への取り組み・復習テストなど (50%) により、総合的に評価する。 課題の提出は必須。場合によっては再提出を求める。
-----------	---

学生へのメッセージ	私たちが普段、当たり前のように使っている「日本語」と、あらためてじっくりと向き合ってみましょう。
-----------	--

担当者の研究室等	7 号館 2 階 非常勤講師室
----------	-----------------

備考	
----	--

科目名	日本語表現 I	科目名 (英文)	Japanese Expression I
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1 年	クラス	エ
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	松繁 弘之
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	授業内容は実用文の作文練習です。文章構成の基礎を学ぶとともに、それに基づいた実用文の作文練習を行います。また、常用漢字の練習も行います。			
到達目標	実用文を的確に作文することができるようになることが目標です。また、常用漢字の読み書きが正確にできるようになることが目標です。			
授業方法と留意点	講義と演習によって授業を行います。			
科目学習の効果 (資格)	まとまりのある文章を書けるようになることで、レポートなどの作成に役立ちます。また、漢字検定 2 級の漢字が習得できます。			
授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	導入	授業についての説明をします。	教科書の目次を読む
	2	単一のパラグラフの文章 (1)	提案文	漢字の復習
	3	単一のパラグラフの文章 (2)	報告文	漢字の復習
	4	単一のパラグラフの文章 (3)	勧誘文	漢字の復習
	5	単一のパラグラフの文章 (4)	依頼文	漢字の復習
	6	複数のパラグラフの文章 (1)	提案文	漢字の復習
	7	複数のパラグラフの文章 (2)	報告文	漢字の復習
	8	複数のパラグラフの文章 (3)	勧誘文	漢字の復習
	9	複数のパラグラフの文章 (4)	依頼文	漢字の復習
	10	複数のパラグラフの文章 (5)	エッセイ	漢字の復習
	11	待遇表現を用いる文章 (1)	敬語の語法	漢字の復習
	12	待遇表現を用いる文章 (2)	敬語の表現	漢字の復習
	13	待遇表現を用いる文章 (3)	短い手紙	漢字の復習
	14	待遇表現を用いる文章 (4)	長い手紙	漢字の復習
	15	総括	復習と確認	漢字の復習
関連科目	日本語表現 II			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	新しい国語表記ハンドブック 第 7 版	三省堂編修所	三省堂
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	漢字練習 30%、提出課題 50%、授業態度 (授業への集中度) 20%の割合で総合的に評価します。			
学生へのメッセージ	何事も練習しなければ上達しません。			
担当者の研究室等	7 号館 2 階 非常勤講師室			
備考				

科目名	日本語表現Ⅱ	科目名(英文)	Japanese Expression II
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	ア
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	丹下 暖子
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	大学生生活で必要となるレポートや論文を書く際の文章表現やルールを学ぶ。 敬語表現やエントリーシートの書き方、スピーチの方法など、社会人のたしなみとして知っておきたい日本語に関する知識を身につける。
到達目標	大学生生活、社会人生活に必要な文章(特にレポート・論文)の書き方を習得する。 敬語表現などを理解し、人前での適切な話し方を身につける。
授業方法と留意点	配布プリントにより授業を進める。授業テーマに応じたミニレポートや課題を作成し、提出する。 毎回、授業の冒頭で、語彙力を養う小テストを行う。 なお、授業には辞書を携帯することが望ましい。
科目学習の効果(資格)	大学生生活、社会人生活で必要となる「書く」「話す」力が身につく。 日本語に関する関心と知識が深まる。

	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	ガイダンス	授業の目的、進め方	———
2	資料の要約	文章を要約する方法を学ぶ	前回の復習	
3	資料の引用	資料を引用する際のルールを学ぶ	前回の復習	
4	資料の読解と説明	グラフ・図表を分析し、説明する方法を学ぶ	前回の復習	
5	レポート・論文の構成	レポートや論文などの文章構成を学ぶ	前回の復習	
6	課題①	資料を引用し、意見を述べる文章を書く	課題①の準備	
7	課題①フィードバック 敬語表現①	課題①の返却・講評 敬語表現の基本を復習する	これまでの授業の復習	
8	敬語表現②	ビジネスの場でも通用する敬語表現を身につける	課題①を見直す	
9	スピーチをする①	スピーチの目的、方法を学ぶ	前回の復習	
10	スピーチをする②	あるテーマについて、スピーチをする	スピーチの準備	
11	レポート・論文を書く	レポートや論文を書く際の注意点を確認する	前回の復習	
12	課題②	ある社会問題について、資料を引用しながら意見を述べる文章を書く	課題②の準備	
13	課題②フィードバック エントリーシートを書く①	課題②の返却・講評 企業に就職する際の第一関門であるエントリーシートを書いてみる	これまでの授業の復習	
14	復習テスト エントリーシートを書く②	小テストの復習テスト エントリーシートを書く際のポイントを確認する	課題②を見直す 小テストの復習	
15	まとめ	これまでの授業内容の再確認	これまでの授業の復習	

関連科目	日本語表現Ⅰ
------	--------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	課題(50%)、授業への取り組み・復習テストなど(50%)により、総合的に評価する。 課題の提出は必須。場合によっては再提出を求める。
----------	--

学生へのメッセージ	私たちが普段、当たり前のように使っている「日本語」と、あらためてじっくりと向き合ってみましょう。
-----------	--

担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
----------	--------------

備考	
----	--

科目名	日本語表現Ⅱ	科目名(英文)	Japanese Expression II
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	イ
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	松繁 弘之
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	授業の内容は要約文および小論文の作成です。文章の構成法を学びながら、要約文と小論文を作成する練習をします。また、常用漢字の練習も行います。																																																																		
到達目標	文章を正確に要約し、論理的な文章を作成することができるようになることが目標です。また、漢字検定2級の漢字が習得できます。																																																																		
授業方法と留意点	講義と演習によって行います。																																																																		
科目学習の効果(資格)	レポートでの文章表現や就職活動での小論文に不安なくなります。また、漢字検定2級の漢字が習得できます。																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td>導入</td><td>授業についての説明</td><td>教科書の前書きと目次を読む</td></tr> <tr><td>2</td><td>関係(1)</td><td>主語と述語</td><td>漢字の復習</td></tr> <tr><td>3</td><td>関係(2)</td><td>語順</td><td>漢字の復習</td></tr> <tr><td>4</td><td>意見文(1)</td><td>意見文の構造</td><td>漢字の復習</td></tr> <tr><td>5</td><td>意見文(2)</td><td>話題と主張</td><td>漢字の復習</td></tr> <tr><td>6</td><td>意見文(3)</td><td>理由</td><td>漢字の復習</td></tr> <tr><td>7</td><td>意見文(4)</td><td>定義と解説</td><td>漢字の復習</td></tr> <tr><td>8</td><td>意見文(5)</td><td>例示と比喻</td><td>漢字の復習</td></tr> <tr><td>9</td><td>意見文(6)</td><td>内容の点検</td><td>漢字の復習</td></tr> <tr><td>10</td><td>要約文(1)</td><td>要約</td><td>漢字の復習</td></tr> <tr><td>11</td><td>要約文(2)</td><td>吟味と提案</td><td>漢字の復習</td></tr> <tr><td>12</td><td>データ</td><td>比較と解釈</td><td>漢字の復習</td></tr> <tr><td>13</td><td>引用(1)</td><td>引用のルール</td><td>漢字の復習</td></tr> <tr><td>14</td><td>引用(2)</td><td>資料の信頼性</td><td>漢字の復習</td></tr> <tr><td>15</td><td>総括</td><td>復習と確認</td><td>漢字の復習</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	1	導入	授業についての説明	教科書の前書きと目次を読む	2	関係(1)	主語と述語	漢字の復習	3	関係(2)	語順	漢字の復習	4	意見文(1)	意見文の構造	漢字の復習	5	意見文(2)	話題と主張	漢字の復習	6	意見文(3)	理由	漢字の復習	7	意見文(4)	定義と解説	漢字の復習	8	意見文(5)	例示と比喻	漢字の復習	9	意見文(6)	内容の点検	漢字の復習	10	要約文(1)	要約	漢字の復習	11	要約文(2)	吟味と提案	漢字の復習	12	データ	比較と解釈	漢字の復習	13	引用(1)	引用のルール	漢字の復習	14	引用(2)	資料の信頼性	漢字の復習	15	総括	復習と確認	漢字の復習
回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題																																																																
1	導入	授業についての説明	教科書の前書きと目次を読む																																																																
2	関係(1)	主語と述語	漢字の復習																																																																
3	関係(2)	語順	漢字の復習																																																																
4	意見文(1)	意見文の構造	漢字の復習																																																																
5	意見文(2)	話題と主張	漢字の復習																																																																
6	意見文(3)	理由	漢字の復習																																																																
7	意見文(4)	定義と解説	漢字の復習																																																																
8	意見文(5)	例示と比喻	漢字の復習																																																																
9	意見文(6)	内容の点検	漢字の復習																																																																
10	要約文(1)	要約	漢字の復習																																																																
11	要約文(2)	吟味と提案	漢字の復習																																																																
12	データ	比較と解釈	漢字の復習																																																																
13	引用(1)	引用のルール	漢字の復習																																																																
14	引用(2)	資料の信頼性	漢字の復習																																																																
15	総括	復習と確認	漢字の復習																																																																
関連科目	日本語表現Ⅰ																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>はじめよう、ロジカル・ライティング</td> <td>名古屋大学教育学部附属中学校・高等学校国語科</td> <td>ひつじ書房</td> </tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	はじめよう、ロジカル・ライティング	名古屋大学教育学部附属中学校・高等学校国語科	ひつじ書房	2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	はじめよう、ロジカル・ライティング	名古屋大学教育学部附属中学校・高等学校国語科	ひつじ書房																																																																
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法(基準)	漢字練習30%、提出課題50%、授業態度(授業への集中度)20%の割合で総合的に評価します。																																																																		
学生へのメッセージ	何事も練習しなければ上達しません。																																																																		
担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室																																																																		
備考																																																																			

科目名	日本語表現Ⅱ	科目名(英文)	Japanese Expression II
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	ウ
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	丹下 暖子
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	大学生生活で必要となるレポートや論文を書く際の文章表現やルールを学ぶ。 敬語表現やエントリーシートの書き方、スピーチの方法など、社会人のたしなみとして知っておきたい日本語に関する知識を身につける。
到達目標	大学生生活、社会人生活に必要な文章（特にレポート・論文）の書き方を習得する。 敬語表現などを理解し、人前での適切な話し方を身につける。
授業方法と留意点	配布プリントにより授業を進める。授業テーマに応じたミニレポートや課題を作成し、提出する。 毎回、授業の冒頭で、語彙力を養う小テストを行う。 なお、授業には辞書を携帯することが望ましい。
科目学習の効果(資格)	大学生生活、社会人生活で必要となる「書く」「話す」力が身につく。 日本語に関する関心と知識が深まる。

	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	ガイダンス	授業の目的、進め方	———
2	資料の要約	文章を要約する方法を学ぶ	前回の復習	
3	資料の引用	資料を引用する際のルールを学ぶ	前回の復習	
4	資料の読解と説明	グラフ・図表を分析し、説明する方法を学ぶ	前回の復習	
5	レポート・論文の構成	レポートや論文などの文章構成を学ぶ	前回の復習	
6	課題①	資料を引用し、意見を述べる文章を書く	課題①の準備	
7	課題①フィードバック 敬語表現①	課題①の返却・講評 敬語表現の基本を復習する	これまでの授業の復習	
8	敬語表現②	ビジネスの場でも通用する敬語表現を身につける	課題①を見直す	
9	スピーチをする①	スピーチの目的、方法を学ぶ	前回の復習	
10	スピーチをする②	あるテーマについて、スピーチをする	スピーチの準備	
11	レポート・論文を書く	レポートや論文を書く際の注意点を確認する	前回の復習	
12	課題②	ある社会問題について、資料を引用しながら意見を述べる文章を書く	課題②の準備	
13	課題②フィードバック エントリーシートを書く①	課題②の返却・講評 企業に就職する際の第一関門であるエントリーシートを書いてみる	これまでの授業の復習	
14	復習テスト エントリーシートを書く②	小テストの復習テスト エントリーシートを書く際のポイントを確認する	課題②を見直す 小テストの復習	
15	まとめ	これまでの授業内容の再確認	これまでの授業の復習	

関連科目	日本語表現Ⅰ
------	--------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	課題(50%)、授業への取り組み・復習テストなど(50%)により、総合的に評価する。 課題の提出は必須。場合によっては再提出を求める。
----------	--

学生へのメッセージ	私たちが普段、当たり前のように使っている「日本語」と、あらためてじっくりと向き合ってみましょう。
-----------	--

担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
----------	--------------

備考	
----	--

科目名	日本語表現Ⅱ	科目名(英文)	Japanese Expression II
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	エ
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	松繁 弘之
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	授業の内容は要約文および小論文の作成です。文章の構成法を学びながら、要約文と小論文を作成する練習をします。また、常用漢字の練習も行います。																																																																		
到達目標	文章を正確に要約し、論理的な文章を作成することができるようになることが目標です。また、漢字検定2級の漢字が習得できます。																																																																		
授業方法と留意点	講義と演習によって行います。																																																																		
科目学習の効果(資格)	レポートでの文章表現や就職活動での小論文に不安がなくなります。また、漢字検定2級の漢字が習得できます。																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td>導入</td><td>授業についての説明</td><td>教科書の前書きと目次を読む</td></tr> <tr><td>2</td><td>関係(1)</td><td>主語と述語</td><td>漢字の復習</td></tr> <tr><td>3</td><td>関係(2)</td><td>語順</td><td>漢字の復習</td></tr> <tr><td>4</td><td>意見文(1)</td><td>意見文の構造</td><td>漢字の復習</td></tr> <tr><td>5</td><td>意見文(2)</td><td>話題と主張</td><td>漢字の復習</td></tr> <tr><td>6</td><td>意見文(3)</td><td>理由</td><td>漢字の復習</td></tr> <tr><td>7</td><td>意見文(4)</td><td>定義と解説</td><td>漢字の復習</td></tr> <tr><td>8</td><td>意見文(5)</td><td>例示と比喻</td><td>漢字の復習</td></tr> <tr><td>9</td><td>意見文(6)</td><td>内容の点検</td><td>漢字の復習</td></tr> <tr><td>10</td><td>要約文(1)</td><td>要約</td><td>漢字の復習</td></tr> <tr><td>11</td><td>要約文(2)</td><td>吟味と提案</td><td>漢字の復習</td></tr> <tr><td>12</td><td>データ</td><td>比較と解釈</td><td>漢字の復習</td></tr> <tr><td>13</td><td>引用(1)</td><td>引用のルール</td><td>漢字の復習</td></tr> <tr><td>14</td><td>引用(2)</td><td>資料の信頼性</td><td>漢字の復習</td></tr> <tr><td>15</td><td>総括</td><td>復習と確認</td><td>漢字の復習</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	導入	授業についての説明	教科書の前書きと目次を読む	2	関係(1)	主語と述語	漢字の復習	3	関係(2)	語順	漢字の復習	4	意見文(1)	意見文の構造	漢字の復習	5	意見文(2)	話題と主張	漢字の復習	6	意見文(3)	理由	漢字の復習	7	意見文(4)	定義と解説	漢字の復習	8	意見文(5)	例示と比喻	漢字の復習	9	意見文(6)	内容の点検	漢字の復習	10	要約文(1)	要約	漢字の復習	11	要約文(2)	吟味と提案	漢字の復習	12	データ	比較と解釈	漢字の復習	13	引用(1)	引用のルール	漢字の復習	14	引用(2)	資料の信頼性	漢字の復習	15	総括	復習と確認	漢字の復習
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	導入	授業についての説明	教科書の前書きと目次を読む																																																																
2	関係(1)	主語と述語	漢字の復習																																																																
3	関係(2)	語順	漢字の復習																																																																
4	意見文(1)	意見文の構造	漢字の復習																																																																
5	意見文(2)	話題と主張	漢字の復習																																																																
6	意見文(3)	理由	漢字の復習																																																																
7	意見文(4)	定義と解説	漢字の復習																																																																
8	意見文(5)	例示と比喻	漢字の復習																																																																
9	意見文(6)	内容の点検	漢字の復習																																																																
10	要約文(1)	要約	漢字の復習																																																																
11	要約文(2)	吟味と提案	漢字の復習																																																																
12	データ	比較と解釈	漢字の復習																																																																
13	引用(1)	引用のルール	漢字の復習																																																																
14	引用(2)	資料の信頼性	漢字の復習																																																																
15	総括	復習と確認	漢字の復習																																																																
関連科目	日本語表現Ⅰ																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>はじめよう、ロジカル・ライティング</td> <td>名古屋大学教育学部附属中学校・高等学校国語科</td> <td>ひつじ書房</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	はじめよう、ロジカル・ライティング	名古屋大学教育学部附属中学校・高等学校国語科	ひつじ書房	2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	はじめよう、ロジカル・ライティング	名古屋大学教育学部附属中学校・高等学校国語科	ひつじ書房																																																																
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法(基準)	漢字練習 30%、提出課題 50%、授業態度(授業への集中度) 20%の割合で総合的に評価します。																																																																		
学生へのメッセージ	何事も練習しなければ上達しません。																																																																		
担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室																																																																		
備考																																																																			

科目名	日本語表現作文F I	科目名 (英文)	Japanese Reading and Writing FI
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	中岡 樹里
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	この授業では、レポートや論文を書くための基礎を学びます。レポートや論文に必要な、論理的な文章の書き方を身に付けることを目指します。																																																																		
到達目標	レポートや論文に必要な、論理的な文章の書き方を身に付ける。																																																																		
授業方法と留意点	授業では、レポートや論文の文章の書き方について、説明と実践を行います。																																																																		
科目学習の効果 (資格)	大学で求められるレポートや論文を書く力の基礎を築く																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>オリエンテーション 日本語の文体</td> <td>授業についての説明 日本語の文体について学ぶ</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>レポート・論文の文体</td> <td>レポート・論文に使われる文体を学ぶ</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>記号の使い方</td> <td>句読点、各種記号の使い方を学ぶ</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>段落①</td> <td>段落構成について学ぶ</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>段落②</td> <td>実践練習</td> <td>復習 ミニレポート</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>経過説明①</td> <td>経過説明の書き方を学ぶ</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>経過説明②</td> <td>実践練習</td> <td>復習 ミニレポート</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>分類</td> <td>「分類」をする文の書き方を学ぶ</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>定義</td> <td>定義の書き方を学ぶ</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>分類・定義</td> <td>実践練習</td> <td>復習 ミニレポート</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>引用</td> <td>引用の書き方を学ぶ</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>要約①</td> <td>要約の書き方を学ぶ</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>要約②</td> <td>実践練習</td> <td>復習 ミニレポート</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>資料の利用</td> <td>資料の利用方法を学ぶ</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>総復習・確認テスト</td> <td>総復習、確認テスト</td> <td>復習</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	オリエンテーション 日本語の文体	授業についての説明 日本語の文体について学ぶ	復習	2	レポート・論文の文体	レポート・論文に使われる文体を学ぶ	復習	3	記号の使い方	句読点、各種記号の使い方を学ぶ	復習	4	段落①	段落構成について学ぶ	復習	5	段落②	実践練習	復習 ミニレポート	6	経過説明①	経過説明の書き方を学ぶ	復習	7	経過説明②	実践練習	復習 ミニレポート	8	分類	「分類」をする文の書き方を学ぶ	復習	9	定義	定義の書き方を学ぶ	復習	10	分類・定義	実践練習	復習 ミニレポート	11	引用	引用の書き方を学ぶ	復習	12	要約①	要約の書き方を学ぶ	復習	13	要約②	実践練習	復習 ミニレポート	14	資料の利用	資料の利用方法を学ぶ	復習	15	総復習・確認テスト	総復習、確認テスト	復習
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	オリエンテーション 日本語の文体	授業についての説明 日本語の文体について学ぶ	復習																																																																
2	レポート・論文の文体	レポート・論文に使われる文体を学ぶ	復習																																																																
3	記号の使い方	句読点、各種記号の使い方を学ぶ	復習																																																																
4	段落①	段落構成について学ぶ	復習																																																																
5	段落②	実践練習	復習 ミニレポート																																																																
6	経過説明①	経過説明の書き方を学ぶ	復習																																																																
7	経過説明②	実践練習	復習 ミニレポート																																																																
8	分類	「分類」をする文の書き方を学ぶ	復習																																																																
9	定義	定義の書き方を学ぶ	復習																																																																
10	分類・定義	実践練習	復習 ミニレポート																																																																
11	引用	引用の書き方を学ぶ	復習																																																																
12	要約①	要約の書き方を学ぶ	復習																																																																
13	要約②	実践練習	復習 ミニレポート																																																																
14	資料の利用	資料の利用方法を学ぶ	復習																																																																
15	総復習・確認テスト	総復習、確認テスト	復習																																																																
関連科目	日本語表現作文II																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	課題、確認テスト、授業への参加態度を総合的に評価します。																																																																		
学生へのメッセージ	レポートや論文の書き方を一緒に勉強しましょう。																																																																		
担当者の研究室等	7号館2階 (非常勤講師室)																																																																		
備考	(1) 授業外の質問等については、メールで対応する。 (2) 授業内容は、進度等に応じて変更する場合があります。																																																																		

科目名	日本語表現作文FⅡ	科目名(英文)	Japanese Reading and Writing FII
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	中岡 樹里
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	この授業では、レポートや論文を書くための基礎を学びます。レポートや論文の構成、適した表現、書き方のルールを身につけることを目指します。			
到達目標	レポートや論文の構成、適した表現、書き方のルールを身につける。			
授業方法と留意点	授業では、実際にテーマを決め、レポートを書き進めていきます。			
科目学習の効果(資格)	大学で求められるレポートや論文を書く力の基礎を築く			
授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション 前期の復習	授業についての説明 前期の学習内容についての復習	復習
	2	レポートの言葉と表現	レポート・論文に使われる文、言葉、表現を学ぶ	復習
	3	レポートの構成	レポートの構成を学ぶ	復習
	4	テーマ決め・資料収集	テーマの決め方・絞り方、資料の集め方を学ぶ	復習 資料を集めてくる
	5	資料を整理する	集めた資料を整理する	復習
	6	アウトライン	レポートのアウトラインを作成する	復習
	7	序論①	序論の内容と書き方(課題、目的の提示)を学ぶ	復習
	8	序論②	序論を書く	復習
	9	本論①	本論の内容と書き方(データ、意見提示)を学ぶ	復習
	10	本論②	本論の内容と書き方(考察、結論提示)を学ぶ	復習
	11	本論③	本論を書く	復習
	12	結論①	結論の内容と書き方(全体のまとめ、今後の課題)を学ぶ	復習
	13	結論②	結論を書く	復習
	14	まとめ①	レポートを推敲し、完成稿を作成する	復習
	15	まとめ②	作成したレポートを元に発表を行う	復習
関連科目	日本語表現作文Ⅰ			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法(基準)	課題、レポート、授業への参加態度を総合的に評価します。授業内で書き進めたレポートを最終的に提出してもらい、評価の対象とします。			
学生へのメッセージ	レポートや論文の書き方を一緒に勉強しましょう！			
担当者の研究室等	7号館2階(非常勤講師室)			
備考	(1)授業外の質問等については、メールで対応する。 (2)授業内容は、進度等に応じて変更する場合があります。			

科目名	日本語文法 F I	科目名 (英文)	Japanese Grammar FI
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	中岡 樹里
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	この授業では、中上級の文型を取り上げ、機能ごとにまとめて学びます。中上級の文型への理解を深め、正しく運用できるようになることを目指します。																																																																		
到達目標	中上級の文型への理解を深め、正しく運用できるようになる。																																																																		
授業方法と留意点	授業では、教員による解説と練習問題を繰り返します。																																																																		
科目学習の効果 (資格)	高度な日本語運用能力																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>オリエンテーション 文型の理解度チェック</td> <td>授業の進め方の説明 文型の理解度チェック</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>動作の対象</td> <td>文型の解説、練習</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>目的・手段・媒介</td> <td>文型の解説、練習</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>起点・終点・限界・範囲</td> <td>文型の解説、練習</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>時点・場面</td> <td>文型の解説、練習</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>時間的同时性・時間的前後性</td> <td>文型の解説、練習</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>進行・相関関係</td> <td>文型の解説、練習</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>付帯・非付帯</td> <td>文型の解説、練習</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>限定</td> <td>文型の解説、練習</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>非限定・付加</td> <td>文型の解説、練習</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>比較・最上級・対比</td> <td>文型の解説、練習</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>判断の立場・評価の視点</td> <td>文型の解説、練習</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>基準</td> <td>文型の解説、練習</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>関連・対応</td> <td>文型の解説、練習</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>総復習、確認テスト</td> <td>総復習、確認テスト</td> <td>復習</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	オリエンテーション 文型の理解度チェック	授業の進め方の説明 文型の理解度チェック	復習	2	動作の対象	文型の解説、練習	復習	3	目的・手段・媒介	文型の解説、練習	復習	4	起点・終点・限界・範囲	文型の解説、練習	復習	5	時点・場面	文型の解説、練習	復習	6	時間的同时性・時間的前後性	文型の解説、練習	復習	7	進行・相関関係	文型の解説、練習	復習	8	付帯・非付帯	文型の解説、練習	復習	9	限定	文型の解説、練習	復習	10	非限定・付加	文型の解説、練習	復習	11	比較・最上級・対比	文型の解説、練習	復習	12	判断の立場・評価の視点	文型の解説、練習	復習	13	基準	文型の解説、練習	復習	14	関連・対応	文型の解説、練習	復習	15	総復習、確認テスト	総復習、確認テスト	復習
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	オリエンテーション 文型の理解度チェック	授業の進め方の説明 文型の理解度チェック	復習																																																																
2	動作の対象	文型の解説、練習	復習																																																																
3	目的・手段・媒介	文型の解説、練習	復習																																																																
4	起点・終点・限界・範囲	文型の解説、練習	復習																																																																
5	時点・場面	文型の解説、練習	復習																																																																
6	時間的同时性・時間的前後性	文型の解説、練習	復習																																																																
7	進行・相関関係	文型の解説、練習	復習																																																																
8	付帯・非付帯	文型の解説、練習	復習																																																																
9	限定	文型の解説、練習	復習																																																																
10	非限定・付加	文型の解説、練習	復習																																																																
11	比較・最上級・対比	文型の解説、練習	復習																																																																
12	判断の立場・評価の視点	文型の解説、練習	復習																																																																
13	基準	文型の解説、練習	復習																																																																
14	関連・対応	文型の解説、練習	復習																																																																
15	総復習、確認テスト	総復習、確認テスト	復習																																																																
関連科目	日本語文法 II																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	各回の練習問題、確認テスト、授業への参加態度を総合的に評価します。																																																																		
学生へのメッセージ	中上級の文法を再確認し、苦手を克服しましょう。																																																																		
担当者の研究室等	7号館2階 (非常勤講師室)																																																																		
備考	(1) 授業外の質問等については、メールで対応する。 (2) 授業内容は、進捗等に応じて変更する場合があります。																																																																		

科目名	日本語文法 F II	科目名 (英文)	Japanese Grammar FII
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	中岡 樹里
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	この授業では、中上級の文型を取り上げ、機能ごとにまとめて学びます。中上級の文型への理解を深め、正しく運用できるようになることを目指します。																																																																		
到達目標	中上級の文型への理解を深め、正しく運用できるようになる。																																																																		
授業方法と留意点	授業では、教員による解説と練習問題を繰り返します。																																																																		
科目学習の効果 (資格)	高度な日本語運用能力																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td>オリエンテーション 前期の復習</td><td>授業の進め方の説明 前期の学習内容の確認、復習</td><td>復習</td></tr> <tr><td>2</td><td>無関係・無視・例外</td><td>文型の解説、練習</td><td>復習</td></tr> <tr><td>3</td><td>例示</td><td>文型の解説、練習</td><td>復習</td></tr> <tr><td>4</td><td>強調</td><td>文型の解説、練習</td><td>復習</td></tr> <tr><td>5</td><td>話題</td><td>文型の解説、練習</td><td>復習</td></tr> <tr><td>6</td><td>逆説・譲歩</td><td>文型の解説、練習</td><td>復習</td></tr> <tr><td>7</td><td>原因・理由</td><td>文型の解説、練習</td><td>復習</td></tr> <tr><td>8</td><td>仮定条件・確定条件</td><td>文型の解説、練習</td><td>復習</td></tr> <tr><td>9</td><td>逆説仮定条件</td><td>文型の解説、練習</td><td>復習</td></tr> <tr><td>10</td><td>不可能・可能・困難・容易</td><td>文型の解説、練習</td><td>復習</td></tr> <tr><td>11</td><td>傾向・状態・様子</td><td>文型の解説、練習</td><td>復習</td></tr> <tr><td>12</td><td>経過・結末</td><td>文型の解説、練習</td><td>復習</td></tr> <tr><td>13</td><td>否定・部分否定</td><td>文型の解説、練習</td><td>復習</td></tr> <tr><td>14</td><td>伝聞・推量</td><td>文型の解説、練習</td><td>復習</td></tr> <tr><td>15</td><td>総復習、確認テスト</td><td>総復習、確認テスト</td><td>復習</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	オリエンテーション 前期の復習	授業の進め方の説明 前期の学習内容の確認、復習	復習	2	無関係・無視・例外	文型の解説、練習	復習	3	例示	文型の解説、練習	復習	4	強調	文型の解説、練習	復習	5	話題	文型の解説、練習	復習	6	逆説・譲歩	文型の解説、練習	復習	7	原因・理由	文型の解説、練習	復習	8	仮定条件・確定条件	文型の解説、練習	復習	9	逆説仮定条件	文型の解説、練習	復習	10	不可能・可能・困難・容易	文型の解説、練習	復習	11	傾向・状態・様子	文型の解説、練習	復習	12	経過・結末	文型の解説、練習	復習	13	否定・部分否定	文型の解説、練習	復習	14	伝聞・推量	文型の解説、練習	復習	15	総復習、確認テスト	総復習、確認テスト	復習
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	オリエンテーション 前期の復習	授業の進め方の説明 前期の学習内容の確認、復習	復習																																																																
2	無関係・無視・例外	文型の解説、練習	復習																																																																
3	例示	文型の解説、練習	復習																																																																
4	強調	文型の解説、練習	復習																																																																
5	話題	文型の解説、練習	復習																																																																
6	逆説・譲歩	文型の解説、練習	復習																																																																
7	原因・理由	文型の解説、練習	復習																																																																
8	仮定条件・確定条件	文型の解説、練習	復習																																																																
9	逆説仮定条件	文型の解説、練習	復習																																																																
10	不可能・可能・困難・容易	文型の解説、練習	復習																																																																
11	傾向・状態・様子	文型の解説、練習	復習																																																																
12	経過・結末	文型の解説、練習	復習																																																																
13	否定・部分否定	文型の解説、練習	復習																																																																
14	伝聞・推量	文型の解説、練習	復習																																																																
15	総復習、確認テスト	総復習、確認テスト	復習																																																																
関連科目	日本語文法 I																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	各回の練習問題、確認テスト、授業への参加態度を総合的に評価します。																																																																		
学生へのメッセージ	中上級の文法を再確認し、苦手を克服しましょう。																																																																		
担当者の研究室等	7号館2階 (非常勤講師室)																																																																		
備考	(1) 授業外の質問等については、メールで対応する。 (2) 授業内容は、進度等に応じて変更する場合がある。																																																																		

科目名	日本事情 F I	科目名 (英文)	Japanese Culture and Society FI
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	門脇 薫
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	日本文化・社会について、日本映画を視聴して観察したり考察したりします。また、映画の台詞や使われている場面から日本語の文法や表現についても学びます。			
到達目標	日本文化・社会について観察し、自国の文化・社会及び他の受講生の国の文化・社会と比較考察し、様々なテーマについて日本語で自分の考えが表現できることを目標とします			
授業方法と留意点	各映画について次のように進めます。(1) 映画についての情報・その他背景知識について説明 (2) 映画の場面をいくつか視聴：内容理解・練習問題・その他の各種タスク問題 (3) テーマについてディスカッション (4) 「書く」練習			
科目学習の効果 (資格)	自然な日本語の表現・文法事項の習得、異文化理解、異文化に対する見方・態度			
授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	ガイダンス・日本語レベルのチェック	授業の概要・進め方について・スピーチ	テキスト予習
	2	映画1：テーマ「職業」	映画についての情報・背景解説、内容理解	テキスト予習、プリントの課題
	3	映画1：テーマ「職業」	内容理解、タスク	テキスト予習、プリントの課題
	4	映画1：テーマ「職業」	タスク、ディスカッション	テキスト予習、プリントの課題、テーマについてレポート
	5	映画2：テーマ「家族」	映画についての情報・背景解説、内容理解	テキスト予習、プリントの課題、 発表準備
	6	映画2：テーマ「家族」	内容理解、タスク	テキスト予習、プリントの課題、 発表準備
	7	映画2：テーマ「家族」	タスク、ディスカッション	プリントの課題、発表準備
	8	テーマ1・2に関する発表	発表、質疑応答、ディスカッション	テーマについてレポート
	9	映画3：テーマ「子どもと社会」	映画についての情報・背景解説、内容理解	テキスト予習、プリントの課題
	10	映画3：テーマ「子どもと社会」	内容理解、タスク	テキスト予習、プリントの課題
	11	映画3：テーマ「子どもと社会」	タスク、ディスカッション	テキスト予習、プリントの課題、テーマについてレポート
	12	映画4：「ジェンダー」	映画についての情報・背景解説、内容理解	テキスト予習、プリントの課題、 発表準備
	13	映画4：「ジェンダー」	内容理解、タスク	テキスト予習、プリントの課題、 発表準備
	14	映画4：「ジェンダー」	タスク、ディスカッション	プリントの課題、発表準備
	15	テーマ3・4に関する発表	発表、質疑応答、ディスカッション	テーマについてレポート
関連科目	日本語読解、日本語文法、日本語表現作文			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	映画で日本文化を学ぶ人のために	窪田守弘編	世界思想社
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	映画でジャパニーズ	窪田守弘編	南雲堂フェニックス
	2			
	3			
評価方法 (基準)	各課題、授業への参加度、レポート等により総合的に評価します。			
学生へのメッセージ	映画を見ながら楽しく日本語・日本文化について学びましょう！			
担当者の研究室等	7号館4階(門脇研究室)			
備考				

科目名	日本事情F II	科目名(英文)	Japanese Culture and Society FII
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	門脇 薫
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	日本文化・社会について、日本映画を視聴して観察したり考察したりします。また、映画の台詞や使われている場面から日本語の文法や表現についても学びます。
到達目標	日本文化・社会について観察し、自国の文化・社会及び他の受講生の国の文化・社会と比較考察し、様々なテーマについて日本語で自分の考えが表現できることを目標とします。
授業方法と留意点	各映画について次のように進めます。(1) 映画についての情報・その他背景知識について説明 (2) 映画の場面をいくつか視聴：内容理解・練習問題・その他の各種タスク問題 (3) テーマについてディスカッション (4) 「書く」練習
科目学習の効果(資格)	自然な日本語の表現・文法事項の習得、異文化についての理解、異文化に対する見方・態度

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	映画1：テーマ「民族」	映画についての情報・背景解説、内容理解	テキスト予習、プリントの課題
3	映画1：テーマ「民族」	内容理解、タスク	テキスト予習、プリントの課題
4	映画1：テーマ「民族」	タスク、ディスカッション	テキスト予習、プリントの課題、テーマについてレポート
5	映画2：テーマ「愛と死」	映画についての情報・背景解説、内容理解	テキスト予習、プリントの課題、発表準備
6	映画2：テーマ「愛と死」	内容理解、タスク	テキスト予習、プリントの課題、発表準備
7	映画2：テーマ「愛と死」	タスク、ディスカッション	プリントの課題、発表準備
8	テーマ1・2に関する発表	発表、質疑応答、ディスカッション	テーマについてレポート
9	映画3：テーマ「教育」	映画についての情報・背景解説、内容理解	テキスト予習、プリントの課題
10	映画3：「教育」	内容理解、タスク	テキスト予習、プリントの課題
11	映画3：テーマ「教育」	タスク、ディスカッション	テキスト予習、プリントの課題、テーマについてレポート
12	映画4：「高齢化社会」	映画についての情報・背景解説、内容理解	テキスト予習、プリントの課題、発表準備
13	映画4：「高齢化社会」	内容理解、タスク	テキスト予習、プリントの課題、発表準備
14	映画4：「高齢化社会」	タスク、ディスカッション	プリントの課題、発表準備
15	テーマ3・4に関する発表	発表、質疑応答、ディスカッション	テーマについてレポート

関連科目	日本語読解、日本語文法、日本語表現作文
------	---------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	映画で日本文化を学ぶ人のために	窪田守弘編	世界思想社
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	映画でジャパニーズ	窪田守弘編	南雲堂フェニックス
	2			
	3			

評価方法(基準)	各課題、授業への参加度、レポート等により総合的に評価します。
----------	--------------------------------

学生へのメッセージ	映画を見ながら楽しく日本語・日本文化について学びましょう！
-----------	-------------------------------

担当者の研究室等	7号館4階(門脇研究室)
----------	--------------

備考	
----	--

教 養 科 目

科目名	インターンシップ I	科目名 (英文)	Internship I
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	石井 三恵, 富岡 直美
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	インターンシップの目的は、実際の仕事現場の一員として業務を担当させていただくことで社会人の方々がどのような考え方で働かれているのか、特に 1) 仕事の社会における役割 2) 仕事の成果とは 3) 仕事の責任と充実感を直接肌で感じることである。 事前学修として、ビジネス組織のあり方、マナーや常識を習得する。
到達目標	インターンシップへ意欲的に自信を持って参加できるようになることを目標とする。
授業方法と留意点	グループワークやプレゼンテーションなどを行う参加型の授業である。 インターンシップの現場につながる講義（演習を含む）であることから、能動的に、真摯に参加することを求める。
科目学習の効果（資格）	インターンシップへ行く目的を理解し、その準備ができる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	インターンシップとは	・授業オリエンテーション ・学生と社会人の違いを理解する ・インターンシップの目的を考える	インターンシップとは何かについて考えること。
2	企業組織・ビジネスの理解	・組織の形態を知る ・ビジネスへの理解を深める	ビジネスとは何かを考えること。
3	実習参加企業について	・産業の分類を知る ・業種、内容、インターン時期等、インターン受入企業等の組織について知る	インターン受入企業等の組織のリストに目を通しておくこと。
4	効果的なプレゼンテーションとは	・効果的なプレゼンテーションの仕方、注意点などを知る	プレゼンテーションができるように準備すること。
5	課題のプレゼンテーション①	・第4回目の課題をプレゼンテーションする	第4回目の課題について、プレゼンテーションの準備をすること。
6	社会人のマナー①	・社会人としての心構えを知る ・身だしなみ	マナーがなぜ大切なのかを考えること。
7	社会人のマナー②	・文書でのコミュニケーション	授業以降は丁寧なメールを心がけ、文書での適切な発信方法を試みること。
8	社会人のマナー③	・口頭でのコミュニケーション	マナーの大切さを再度考えること。
9	履歴書を記入する	・インターンシップ用の履歴書を記入する	履歴書を書く準備をしておくこと。
10	グループワーク①	・掲示された課題について、チームで情報を集約、検証、プレゼンテーションを行う	グループ内の自分の役割を考えること。
11	グループワーク②	・掲示された課題について、チームで情報を集約、検証、プレゼンテーションを行う	グループの最大の力を出すために、自分に何ができるかを考え、プレゼンテーションの準備をして下さい。
12	事前訪問について	・事前訪問のマナーと準備について	インターン先の企業等の組織のことをもう一度調べること。
13	課題のプレゼンテーション②	・インターン先を調べて、インターンシップで何を学びたいかをプレゼンテーション	プレゼンテーションの準備をすること。
14	課題のプレゼンテーション③	・インターン先を調べて、インターンシップで何を学びたいかをプレゼンテーション	プレゼンテーションの準備をすること。
15	振り返りとまとめ	・授業を振り返る ・インターンシップの目的を再考する	インターンシップで何を身につけたいかをもう一度考えること。

関連科目 この科目を履修する学生は、「インターンシップⅡ（企業等の組織での就業体験）」を履修することが望まれる。

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法（基準） 発表（40%）、レポート等の提出物（30%）、授業態度（30%）を総合的に評価する。

学生へのメッセージ
インターンシップの流れは以下のとおりである。
※4月下旬にリスト公開→5月上旬に希望企業等の組織の絞り込み→5月下旬に就職部から受け入れ可否の回答→6月末頃に事前訪問→8月上旬からインターンシップ開始（予定）
インターン先の都合により、流れの日程等が変更する場合もある。

担当者の研究室等 7号館3階 キャリア教育推進室（富岡）、7号館5階 キャリア教育推進室（石井）

備考 教科書・・・必要に応じてレジュメを配布
参考書・・・必要に応じて推薦図書を提示
インターンシップ先の都合により、インターンシップ参加期間等の日程が変更される場合もある。

教養科目

科目名	インターンシップⅡ	科目名(英文)	Internship II
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	石井 三恵
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	インターンシップの目的は、実際の仕事現場の一員として業務を担当させていただくことで社会人の方々がどのような考え方で働かれているのか、特に社会における仕事の役割、仕事の成果、仕事に対する責任と充実感を肌で感じることである。
到達目標	インターンシップ先での実習参加の機会を最大限に活用し、自分や社会をより理解し、将来の選択肢や可能性を広げること、職業観の涵養に努めることを目標とする。
授業方法と留意点	「事前学修→インターンシップ実習→事後学修」という流れで実施するので、必ず日程を確認しておくこと。 実習中は、大学の代表、そして実習先の一員としての意識を持って参加すること。 事前学修・事後学修はすべてスーツ着用のこと。 受講態度や規則等を著しく逸脱し、注意しても改善が見られない場合は、実習参加を許可しない場合もあることを理解しておく。
科目学習の効果(資格)	就職活動や将来を考えるうえでの貴重な出会いや気づきを得ることができる。

教養科目

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	直前学修① 6月20日(土) 3限目(予定)	・インターンシップの心構え ・今後のスケジュールの確認	社会人を意識したスーツ着用のこと。身だしなみを自分なりに整えてくること。
	2	直前学修② 6月20日(土) 4限目(予定)	・報告書の書き方、注意点/マナー・身だしなみの最終確認	マナーについて考えること。
	3	直前学修③ 6月27日(土) 3限目(予定)	・プレゼンテーション①	他者に何かを伝える際に気を付けることを考えること。
	4	直前学修④ 6月27日(土) 4限目(予定)	・プレゼンテーション②	インターンシップで何を学びたいのかを考えること。
	5	インターンシップ実習	・夏季休暇中に10日間以上(原則)	実習中は毎日日誌をつけること。
	6	インターンシップ実習	・夏季休暇中に10日間以上(原則)	事前に立てた目標を意識して参加すること。
	7	体験報告書の作成・提出・指導	・報告書提出/ゼミ教員・インターンシップ担当教員における報告書のチェックと指導 (担当教員への提出と教務課へ電子データを提出)	事前学修の通りに報告書を作成する。提出前に必ず推敲を行うこと。 提出期限を厳守すること。
	8	事後学修① 9月26日(土) 3限目(予定)	・体験報告会に向けたプレゼン指導及び個人発表	個人発表用のレジメを準備し、プレゼンテーションができるように練習し、準備すること。
	9	事後学修② 9月26日(土) 4限目(予定)	・体験報告会に向けたプレゼン指導及び個人発表	個人発表用のレジメを準備し、プレゼンテーションができるように練習し、準備すること。
	10	事後学修③ 10月17日(土) 3限目(予定)	・体験報告会に向けたプレゼン指導及び個人発表	代表者はスライドを作成し、プレゼンテーションの準備をすること。
	11	事後学修④ 10月17日(土) 4限目(予定)	・体験報告会に向けたプレゼン指導及び個人発表	代表者はスライドを作成し、プレゼンテーションの準備をすること。
	12	事後学修⑤ 10月24日(土) 3限目(予定)	・インターンシップを振り返る (実習記録簿の提出)	実習記録簿を見直してこること。
	13	事後学修⑥ 10月24日(土) 4限目(予定)	・インターンシップを振り返る	実習記録簿を見直してこること。
	14	事後学修⑦ 11月14日(土) 1限目(予定)	・全体報告会 ・学生代表者の発表	学生代表者はパワーポイントで10分で報告ができるように準備すること。
15	事後学修⑧ 11月14日(土) 2限目(予定)	・全体報告会 ・受け入れ企業管理者の講演とまとめ	全員スーツ着用	

関連科目	インターンシップⅠ
------	-----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	企業による報告書(20%)、体験報告書など提出物(40%)、発表を含む授業態度(40%)を総合的に評価する。
----------	--

学生へのメッセージ	「インターンシップⅠ」を必ず履修すること。 「インターンシップⅠ」の履修には、2月のガイダンスに出席し、履修申し込み書を提出する必要がある。
-----------	---

	履修希望者が多い場合は、選考することもある。
担当者の 研究室等	7号館5階 キャリア教育推進室（石井）、7号館3階 キャリア教育推進室（富岡）
備考	教科書・・・必要に応じてレジュメを配布する。 参考書・・・必要に応じて推薦図書を提示する。

科目名	英語Ⅱb	科目名(英文)	English IIb
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	1234567
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	金原 真由美
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

教養科目

授業概要・目的	<p>この授業は英字新聞の表現に慣れ、情報や知識を得て記事を読みこなしていく力を付けることを目的とする。現在私たちはテレビや携帯電話の全盛期を過ぎ、インターネットによってはるかに早く膨大な量の情報を得ることができ、しかも「双方向性」というメディア環境を手に入れています。しかし反面、情報が氾濫し中には間違った情報や信頼に欠ける情報、悪意のある情報も潜み、振り回されることになりかねません。新聞を読む意味とは何でしょうか。情報で最も重要なのはその「信頼性」です。新聞を読み信頼性の高い情報を基に、考えて行動する習慣を身につけることはこれからの自分の将来を選択する上でとても重要になってきます。また世界のあらゆる所から情報が瞬時に得られる今、英語を理解し発信できることが大変重要になっています。</p> <p>記事はThe Japan News 紙からの抜粋で国内外の出来事を扱っている。</p> <p>統一英語単語テストに備え、毎回授業の始めに単語集から単語小テストを行う。 範囲 Level3 pp.158-200 (0917-1176)</p>		
到達目標	英字新聞の表現に慣れ、記事の背景や情報を知識として得、読みこなしていく力をつけることができる。		
授業方法と留意点	<p>毎回授業の始めに、教科書の既習語彙テストも行う。</p> <p>毎回担当者に、興味を持った記事についての内容と個人的感想、意見を発表してもらう。(約5分)</p> <p>英字新聞の書かれ方に注意しながら記事を丁寧に読む。ヘッドラインの文法と意味を理解し、記事を読んで要点を捉える。次に語彙やまとまった表現の意味と使われ方、構文を意識した並べ替え練習を行う。そして最後にその記事に関して自分の意見を述べてもらう。</p>		
科目学習の効果(資格)	英字新聞の基礎的読解力の向上、時事英語の単語力向上		
授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等 事前・事後学習課題
	1	ガイダンス、授業の説明、診断クイズ	出欠の取り方、授業の進め方、評価方法などの説明 文法確認クイズ 教科書を少し進める 事前に、教科書のはしがきと目次に目を通しておくこと
	2	座席を指定する 単語小テスト(1)pp.158-163 教科書の語彙テスト 1 観光①	シルクロード、世界遺産に追加 復習、予習、語彙学習 英字新聞や日本語の新聞を読み、背景知識、情報を得る。
	3	単語小テスト(2)pp.164-169 教科書の語彙テスト 1 観光①	シルクロード、世界遺産に追加 復習、予習、語彙学習 英字新聞や日本語の新聞を読み、背景知識、情報を得る。
	4	単語小テスト(3)pp.170-175 教科書の語彙テスト 2 法律・裁判	英国法廷、リチャード3世の埋葬先をレスターと判決 復習、予習、語彙学習 英字新聞や日本語の新聞を読み、背景知識、情報を得る。
	5	単語小テスト(4)pp.176-181 教科書の語彙テスト 3 科学技術①	遺骸、最初のアメリカ人を解明 復習、予習、語彙学習 英字新聞や日本語の新聞を読み、背景知識、情報を得る。
	6	単語小テスト(5)pp.182-187 教科書の語彙テスト 4 政治①	フランスコ法王、折りのサミットを開催 復習、予習、語彙学習 英字新聞や日本語の新聞を読み、背景知識、情報を得る。
	7	単語小テスト(6)pp.188-193 教科書の語彙テスト 5 政治②	米国、国際条約への参加を目指し、地雷を制限 復習、予習、語彙学習 英字新聞や日本語の新聞を読み、背景知識、情報を得る。
	8	単語小テスト(7)pp.194-197 教科書の語彙テスト 臨時テスト(中間) 6 災害①	既習内容の習熟度を確認 女性名のハリケーン、被害がより深刻に テスト勉強、語彙学習 英字新聞や日本語の新聞を読み、背景知識、情報を得る。
	9	単語小テスト(2周(目)) (8)pp.198-201 / 158-161 教科書の語彙テスト 6 災害①	女性名のハリケーン、被害がより深刻に 復習、予習、語彙学習 英字新聞や日本語の新聞を読み、背景知識、情報を得る。
	10	単語小テスト(9)pp.162-169 教科書の語彙テスト 7 スポーツ①	交代選手、最後の最後まで大きなインパクトを残す 復習、予習、語彙学習 英字新聞や日本語の新聞を読み、背景知識、情報を得る。
	11	単語小テスト(10)pp.170-179 教科書の語彙テスト 8 医療①	米国で注目を集めるバーチャルハウスコール 復習、予習、語彙学習 英字新聞や日本語の新聞を読み、背景知識、情報を得る。
	12	単語小テスト(11)pp.180-189 教科書の語彙テスト 9 人物	有名選手のバットを作り続けた職人、引退を発表 復習、予習、語彙学習 英字新聞や日本語の新聞を読み、背景知識、情報を得る。
	13	単語小テスト(最終) (12)pp.190-201 教科書の語彙テスト 10 災害②	南スーダン、飢餓の危機に直面 復習、予習、語彙学習 英字新聞や日本語の新聞を読み、背景知識、情報を得る。
	14	教科書の語彙テスト 10 災害②	南スーダン、飢餓の危機に直面 復習、予習、語彙学習 英字新聞や日本語の新聞を読み、背景知識、情報を得る。
	15	臨時テスト(前期期末)	既習内容の習熟度を確認 テスト勉強 英字新聞や日本語の新聞を読み、背景知識、情報を得る。

				得る。
関連科目	他の英語関連科目			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Meet the World - English through Newspapers - 2015 (『メディアで学ぶ日本と世界 2015』)	若有保彦 編	成美堂
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test	西谷恒志	成美堂
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	統一英語単語テスト 20%、臨時テスト (中間+期末) 50%、平常点 (教科書の語彙テスト、 授業態度、発表の貢献度、提出物) 30%とし、総合的に評価する。			
学生への メッセージ	日々の決まった時間、空いた時間に英字新聞と日本語の新聞を読む習慣をつけましょう。英語の記事を読む場合、日本語でその記事に関する背景知識があれば理解が容易になります。 教科書の予習が不可欠です。ページの側にある脚注の語句を参考にしながら、記事を読み、内容を一通り掴んでくること。 授業には辞書を必ず持参すること。			
担当者の 研究室等	7号館2階 (非常勤講師室)			
備考	授業の進度によって授業計画は多少変更になる可能性がある。			

科目名	英語 II b	科目名 (英文)	English IIb
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	891011121314
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	本多 善
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	英語ができれば欧米諸国に限らず、あらゆる地域の人々と交流することができます。この授業ではコミュニケーションスキルに念頭を置いた TOEIC のスコア向上が期待されます。繰り返しの聞き取りや、読解、語彙力、発声練習をすることで、生きた英語の習得を目指します。
到達目標	授業を通して短い文章を読解する能力と文法の基礎を習得できます。また会話文の発声練習や毎回行う英単語の小テストによって大学生にとって必要不可欠な英語の語彙力が強化されます。これらの能力を習得することによってコミュニケーションスキルに念頭を置いた TOEIC のスコア向上も期待されます。
授業方法と留意点	教科書を使用し演習形式で行います。 毎回の小テストは、TOEIC 受験に向けての対策も兼ねています。 1週間 で決まった分量の単語・語句を覚え、テストで達成度を確認することにより、全般的な英語力のアップにもつながります。真剣に取り組みましょう。 授業では英和辞書を使用するので、毎回必ず持参すること。
科目学習の効果 (資格)	日常生活やビジネスの場面における、英語を使ったコミュニケーションを理解することができる。 また TOEIC の得点につながる英語運用能力の向上が期待できる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス (受講にあたっての諸注意など) 発声練習、内容読解、形式演習	・授業の進め方、自己紹介、各学生の目標 ・TOEIC テスト形式演習	・次回単語小テスト (1) の対策
2	発声練習、内容読解、形式演習	・単語小テスト (1) ・TOEIC テスト形式演習	・教科書の予習、復習 ・次回単語小テスト (2) の対策
3	発声練習、内容読解、形式演習	・単語小テスト (2) ・TOEIC テスト形式演習	・教科書の予習、復習 ・次回単語小テスト (3) の対策
4	発声練習、内容読解、形式演習	・単語小テスト (3) ・TOEIC テスト形式演習	・教科書の予習、復習 ・次回単語小テスト (4) の対策
5	発声練習、内容読解、形式演習	・単語小テスト (4) ・TOEIC テスト形式演習	・教科書の予習、復習 ・次回単語小テスト (5) の対策
6	発声練習、内容読解、形式演習	・単語小テスト (5) ・TOEIC テスト形式演習	・教科書の予習、復習 ・次回単語小テスト (6) の対策
7	発声練習、内容読解、形式演習	・単語小テスト (6) ・TOEIC テスト形式演習	・教科書の予習、復習 ・次回単語小テスト (7) の対策 次回復習テストの対策
8	第1回復習テスト (TOEIC 形式) 発声練習、内容読解、形式演習	・単語小テスト (7) ・TOEIC テスト形式演習	・教科書の予習、復習 ・次回単語小テスト (8) の対策
9	発声練習、内容読解、形式演習	・単語小テスト (8) ・TOEIC テスト形式演習	・教科書の予習、復習 ・次回単語小テスト (9) の対策
10	発声練習、内容読解、形式演習	・単語小テスト (9) ・TOEIC テスト形式演習	・教科書の予習、復習 ・次回単語小テスト (10) の対策
11	発声練習、内容読解、形式演習	・単語小テスト (10) ・TOEIC テスト形式演習 (Part 1~7)	・教科書の予習、復習 ・次回単語小テスト (11) の対策
12	発声練習、内容読解、形式演習	・単語小テスト (11) ・TOEIC テスト形式演習	・教科書の予習、復習 ・次回単語小テスト (12) の対策
13	発声練習、内容読解、形式演習	・単語小テスト (12) ・TOEIC テスト形式演習	教科書の予習、復習
14	発声練習、内容読解、形式演習	・TOEIC テスト形式演習	教科書の予習、復習 復習テスト対策
15	第2回復習テスト 発声練習、内容読解、形式演習	・TOEIC テスト形式演習	これまでの復習

関連科目	英語 II d
------	---------

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Seize the Core of the TOEIC Test (TOEIC テスト コアをつかんで完全攻略)	安丸雅子 他	金星堂
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test (学校語彙で学ぶ TOEIC テスト)	西谷恒志	成美堂
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 (基準)	<ul style="list-style-type: none"> ・授業中の発表・予習… 20% ・単語小テスト (全 12 回) … 20% ・復習テスト (全 2 回) … 40% ・統一英語単語テスト (共通試験) … 20% 以上の達成度を総合評価します。 原則として、4 回以上休んだ場合 (正式な証明が可能な公休および大学指定の伝染病による欠席は除く) 単位取得の見込みはありません。 遅刻 2 回を欠席 1 回とみなします。
-----------	---

	その他詳細は、第1回目の授業で詳しく説明します。受講予定者は必ず出席してください。
学生へのメッセージ	英語と触れる機会をできるだけ持ってください。日本で英語を学ぶためには、語彙力と繰り返しの読解、英語を聞くことも効果的です。また、本授業での成果を確認する意味で、教務課主催のTOEIC団体テスト（春・秋実施）をぜひ受験してみてください。繰り返し受験し、その都度勉強することでスコアは向上するものです。
担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
備考	教科書と英和辞書を毎回必ず持参すること。

科目名	英語Ⅱc	科目名(英文)	English IIC
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	12
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	松井 智子
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	この授業では、TOEIC テスト用のテキストを使用して、TOEIC テストでのスコアアップ並びに総合的な英語運用能力の向上を目指します。TOEIC 形式の問題を実践的に解きながら、基本的な文法事項をおさらいし、頻出会話フレーズを身に付け、応用可能なリーディング・スキルを修得します。 学科の学習・教育目標との対応：[F]
到達目標	TOEIC リスニングセクションの頻出表現を学び、音声を瞬時に意味として把握できるようになる。 TOEIC リーディングセクションに頻出する基礎的な文法事項を確実にし、文法問題は高速で解答できるようになる。 TOEIC リーディングセクションの文書問題を実践的に解きながら、効率的に英文を読むスキルを身につける。 TOEIC 頻出重要単語・熟語を学び、語彙力を強化する。
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> 基本的に、2回の授業でテキスト1課分進む。補助プリントも用いる。 1課分が終わったら、確認のための小テストを行う。 リスニングの回では、ディクテーション・音読・ペアワークなども行う。 毎回、授業の冒頭で単語テストを行う（指定単語集より）。 毎回、英和辞典を必ず持参し、わからない単語を引けるようにすること。 授業時間内に、テキストの問題に実践的に取り組みながらスキルを身につけるため、予習より復習に重点をおいて自己学習すること。
科目学習の効果(資格)	英検・TOEIC テストのスコアアップなど。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	授業の内容と進め方、評価方法などについて説明する。	単語学習範囲：1177-1216
	2	Unit 7 〈Listening〉 確認	単語テスト：1177-1216 Training Point 講義、演習、解説	単語学習範囲：1217-1257 テキストの復習
	3	Unit 7 〈Reading〉 分詞	単語テスト：1217-1257 Training Point 講義、演習、解説 小テスト：Unit 7	単語学習範囲：1258-1297 テキストの復習
	4	Unit 8 〈Listening〉 留守電	単語テスト：1258-1297 Training Point 講義、演習、解説	単語学習範囲：1298-1338 テキストの復習
	5	Unit 8 〈Reading〉 スキャニング	単語テスト：1298-1338 Training Point 講義、演習、解説 小テスト：Unit 8	単語学習範囲：1339-1378 テキストの復習
	6	Unit 9 〈Listening〉 アドバイス	単語テスト：1339-1378 Training Point 講義、演習、解説	単語学習範囲：1379-1419 テキストの復習
	7	Unit 9 〈Reading〉 受動態	単語テスト：1379-1419 Training Point 講義、演習、解説 小テスト：Unit 9	単語学習範囲：1420-1459 テキスト（第1回～第7回）の復習
	8	第7回までの復習 ミニ模試	単語テスト：1420-1459 第7回までの学習項目についてふりかえり ミニ模試の実施、解説	単語学習範囲：1460-1500 テキストの復習
	9	Unit 10 〈Listening〉 誘い	単語テスト：1460-1500 Training Point 講義、演習、解説	単語学習範囲：1177-1216（番号に注意） テキストの復習
	10	Unit 10 〈Reading〉 比較	単語テスト：1177-1216（番号に注意） Training Point 講義、演習、解説 小テスト：Unit 10	単語学習範囲：1217-1257 テキストの復習
	11	Unit 11 〈Listening〉 申し出	単語テスト：1217-1257 Training Point 講義、演習、解説	単語学習範囲：1258-1297 テキストの復習
	12	Unit 11 〈Reading〉 関係詞	単語テスト：1258-1297 Training Point 講義、演習、解説 小テスト：Unit 11	単語学習範囲：1298-1338 テキストの復習
	13	Unit 12 〈Listening〉 講演者紹介	単語テスト：1298-1338 Training Point 講義、演習、解説	単語学習範囲：1339-1378 テキストの復習
	14	Unit 12 〈Reading〉 スキミング	単語テスト：1339-1378 Training Point 講義、演習、解説 小テスト：Unit 12	単語学習範囲：1379-1419 テキストの復習
	15	総復習	単語テスト：1379-1419 第14回までの学習項目についてふりかえり Post-test の実施、解説	テキスト（定期試験範囲）の復習 （Post-Test の予習は不要です。評価対象としません）

関連科目	英語Ⅱa
------	------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	THE TOEIC TEST TRAINER TARGET 470 (Revised Edition)	Masahiko Yamaguchi, George W. Pifer	CENGAGE Learning
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test: WORD BOOK (学校語彙で学ぶ TOEIC テスト【単語集】)	西谷恒志	成美堂
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	(1) 統一英語単語試験 20% (2) 定期試験 40% (3) 小テスト 30% (4) 単語テスト 10% 以上の割合で総合的に評価する。なお、授業態度は減点方式とする。
学生への メッセージ	TOEIC の得点獲得のテクニックに終わらず、ディクテーションや音読、フレーズリーディング、スキミングなどの練習を通して、トータルなコミュニケーション能力の向上を目指す内容です。TOEIC 形式の問題に実践的に取り組みながら、レベルアップを実感できるよう、一緒に学んでいきましょう。 単語学習には、単語集に付属の e-learning 教材（リンガポルタ）を使用すると効果的です。TOEIC 受験もお勧めします。
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師室
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・授業を妨げる行為や、ペアワークなどで他の受講者に迷惑をかける行為は、減点対象とします。 ・授業内容・進度は、受講生の学習状況を考慮して調整することもあります。 ・個別に質問等がある場合は、授業後すぐに教壇または7号館2階の非常勤講師室にて受け付けます。

科目名	英語Ⅱc	科目名(英文)	English IIc
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	34
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	谷脇 康子
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

教養科目

授業概要・目的	最新のニュース記事を取り扱った文献を読み、中学・高校で既習の文法事項の再確認と、基本的な読解力を身につけること。適宜リスニング演習を行い、TOEICの問題形式に慣れ、スコアアップにつながる語彙・聞き取り技能を身につけること。			
到達目標	中学・高校で既習した文法事項を再確認し、正しい語法を身につける。 まとまった文献の内容が正しく理解できる読解力を身につける。 TOEICに対応できる語彙・文法・聞き取り技能を向上させる。			
授業方法と留意点	毎回授業のはじめに単語テスト、もしくは聞き取りテストを行う。 テキスト本文は作業用紙による読解演習、練習問題は学生主体に解答を確認する。 毎回授業のおわりに授業内容の理解度を診断する確認テストを行う。 授業中は集中して作業・演習にのぞむことが求められる。辞書必携。			
科目学習の効果(資格)	TOEICスコアアップ			
授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	羽生選手、勝利後に2011年3月の震災を振り返る(1)	聞き取りテスト 作業用紙による読解演習	授業内容の復習 確認テスト
	2	羽生選手、勝利後に2011年3月の震災を振り返る(2)	単語テスト(1)N01177-1201 聞き取りテスト テキスト練習問題と解答	単語テストの準備 授業内容の復習 確認テスト
	3	日本の日常生活が観光客を魅了(1)	単語テスト(2)N01202-1224 作業用紙による読解演習	単語テストの準備 授業内容の復習 確認テスト
	4	日本の日常生活が観光客を魅了(2)	単語テスト(3)N01225-1248 聞き取りテスト テキスト練習問題と解答	単語テストの準備 授業内容の復習 確認テスト
	5	就活中の人には現実的展望が必要(1)	単語テスト(4)N01249-1272 作業用紙による読解演習	単語テストの準備 授業内容の復習 確認テスト
	6	就活中の人には現実的展望が必要(2)	単語テスト(5)N01273-1296 聞き取りテスト テキスト練習問題と解答	単語テストの準備 授業内容の復習 確認テスト
	7	ほぼ盲目の男性、「人工眼」を得る	単語テスト(6)N01297-1322 作業用紙による読解演習	単語テストの準備 授業内容の復習 確認テスト
	8	1回～7回授業の総復習 中間テスト	1回～7回授業の質問と回答 中間テスト	中間テストの準備
	9	日本製スマホ、海外へ進出(1)	単語テスト(7)N01323-1347 作業用紙による読解演習	単語テストの準備 授業内容の復習 確認テスト
	10	日本製スマホ、海外へ進出(2)	単語テスト(8)N01348-1372 聞き取りテスト テキスト練習問題と解答	単語テストの準備 授業内容の復習 確認テスト
	11	タブレット、子供にも人気、しかし専門家は懸念(1)	単語テスト(9)N01373-1395 作業用紙による読解演習	単語テストの準備 授業内容の復習 確認テスト
	12	タブレット、子供にも人気、しかし専門家は懸念(2)	単語テスト(10)N01396-1418 聞き取りテスト テキスト練習問題と解答	単語テストの準備 授業内容の復習 確認テスト
	13	新ハローワーク、若者の定職探しを支援(1)	単語テスト(11)N01419-1453 作業用紙による読解演習	単語テストの準備 授業内容の復習 確認テスト
	14	新ハローワーク、若者の定職探しを支援(2)	単語テスト(12)N01454-1500 聞き取りテスト テキスト練習問題と解答	単語テストの準備 授業内容の復習 確認テスト
	15	9回～14回授業の総復習 まとめのテスト	9回～14回授業の質問と回答 まとめのテスト	まとめのテストの準備
関連科目	他の英語科目全般			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test	西谷恒志	成美堂
	2	Meet the World English through Newspapers 2015	若有保彦	成美堂
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法(基準)	統一英語単語テスト 20%、単語テスト 10%、確認テスト 20%、中間テスト 25%、まとめのテスト 25%			
学生へのメッセージ	授業はリズムカルにテンポよく進めます。集中力をきらさず一生懸命ついてきてください。			

担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師室
備考	

科目名	英語Ⅱc	科目名(英文)	English IIc
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	56
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	ダンカン ホワイト
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	英語Ⅱaで修得した読解スキルを活用しながら、さらに読解力を高めていくとともに語彙や文法を強化していきます。 TOEIC形式の問題を実践的に解きながら、文法・読解・語彙など広く英語力の底上げをして、最終的にTOEIC400点以上取得することを目指す。 This course focuses on reading skills, TOEIC, and vocabulary enrichment.
到達目標	The course purposes are to sharpen reading skills, expand vocabulary and raise the level of scores in the TOEIC, all while enriching cultural and linguistic awareness.
授業方法と留意点	Classes will use many task-based exercises for reading, listening, TOEIC and vocabulary.
科目学習の効果(資格)	TOEICテストのスコアアップ

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	TOEIC, reading, vocabulary practice with cultural and linguistic appreciation.	Task-based exercises.	Regular in-class quizzes.
	2	TOEIC, reading, vocabulary practice with cultural and linguistic appreciation.	Task-based exercises.	Regular in-class quizzes.
	3	TOEIC, reading, vocabulary practice with cultural and linguistic appreciation.	Task-based exercises.	Regular in-class quizzes.
	4	TOEIC, reading, vocabulary practice with cultural and linguistic appreciation.	Task-based exercises.	Regular in-class quizzes.
	5	TOEIC, reading, vocabulary practice with cultural and linguistic appreciation.	Task-based exercises.	Regular in-class quizzes.
	6	TOEIC, reading, vocabulary practice with cultural and linguistic appreciation.	Task-based exercises.	Regular in-class quizzes.
	7	TOEIC, reading, vocabulary practice with cultural and linguistic appreciation.	Task-based exercises.	Regular in-class quizzes.
	8	TOEIC, reading, vocabulary practice with cultural and linguistic appreciation.	Task-based exercises.	Regular in-class quizzes.
	9	TOEIC, reading, vocabulary practice with cultural and linguistic appreciation.	Task-based exercises.	Regular in-class quizzes.
	10	TOEIC, reading, vocabulary practice with cultural and linguistic appreciation.	Task-based exercises.	Regular in-class quizzes.
	11	TOEIC, reading, vocabulary practice with cultural and linguistic appreciation.	Task-based exercises.	Regular in-class quizzes.
	12	TOEIC, reading, vocabulary practice with cultural and linguistic appreciation.	Task-based exercises.	Regular in-class quizzes.
	13	TOEIC, reading, vocabulary practice with cultural and linguistic appreciation.	Task-based exercises.	Regular in-class quizzes.
	14	TOEIC, reading, vocabulary practice with cultural and linguistic appreciation.	Task-based exercises.	Regular in-class quizzes.
	15	TOEIC, reading, vocabulary practice with cultural and linguistic appreciation.	Task-based exercises.	Regular in-class quizzes.

関連科目	なし
------	----

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	SCD Carnaval ISBN 978-4-9905671-5-6	Richard Rowat	Weissman Press
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	In-class tasks, quizzes, mini-tests 40%, Final exam 40%, Vocabulary (Level 4) 20% 100点満点中60点以上で合格。
----------	---

教養科目

学生への メッセージ	文章の目的を分析し、また組み立てや展開を理解する訓練を行ない、効率的な読みのできる読解力を養いましょう。 英語を毎日学習する習慣を身につけてください。
担当者の 研究室等	
備考	All students should make utmost efforts to attend every class.

科目名	英語Ⅱc	科目名(英文)	English IIc
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	78
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	平尾 秀実
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	ユニットごとにTOEICテスト頻出の Vocabulary や文法を学習し、無理なくTOEICテストに慣れ親しみます。単なる得点獲得のテクニックではなく、文法の基礎を確認しながらしっかりと読解力とコミュニケーション能力を身につけていきます。 学科の学習・教育目標との対応：「A」
到達目標	TOEIC 450 以上
授業方法と留意点	最初にTOEIC形式の Before Test を解いた後に、各問題のトピック、文法、語彙などを分析します。 次にもう一度 Before Test を前提とした After Test に挑戦して再度分析を行い、知識の定着を図ります。 さらに小テストとして、単語集またはテキストの指定された単語の書き取りテストを毎回行います。英語辞書必携

科目学習の効果(資格)	TOEICや英検など資格試験の得点アップにつながります。
-------------	------------------------------

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	Orientation	講義内容、授業の進め方、成績評価の説明、英文の基本構造と品詞、前期学習事項の確認	教科書全体に目を通しておくこと
	2	Unit 8 日時・数量	Listening	単語集の指定された単語(1177~1202) テキストの指定された単語
	3	Unit 8 日時・数量	Reading	単語集の指定された単語(1203~1227) テキストの指定された単語
	4	Unit 9 人物や物の状態表現	Listening	単語集の指定された単語(1228~1252) テキストの指定された単語
	5	Unit 9 人物や物の状態表現	Reading	単語集の指定された単語(1253~1227) テキストの指定された単語
	6	Unit 10 発言に対する自然な応答	Listening	単語集の指定された単語(1278~1302) テキストの指定された単語
	7	Unit 10 発言に対する自然な応答	Reading	単語集の指定された単語(1303~1327) テキストの指定された単語
	8	Unit 11 語句からの状況判断(2)	Listening	単語集の指定された単語(1328~1352) テキストの指定された単語
	9	Unit 11 語句からの状況判断(2)	Reading	単語集の指定された単語(1353~1377) テキストの指定された単語
	10	Unit 12 否定疑問文に対する応答	Listening	単語集の指定された単語(1378~1402) テキストの指定された単語
	11	Unit 12 否定疑問文に対する応答	Reading	テキストの指定された単語(1403~1427)
	12	Unit 13 位置関係を表す表現	Listening	テキストの指定された単語(1428~1452)
	13	Unit 13 位置関係を表す表現	Reading	テキストの指定された単語(1453~1477)
	14	Unit 14 英語の語順	Listening	テキストの指定された単語(1478~1500)
	15	Unit 14 英語の語順	Reading	定期試験の準備

関連科目	英語Ⅰa/b、英語Ⅱb/d、英語Ⅲa/b、TOEIC 関連科目
------	---------------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	TOEIC Bridge: Training Tips	高山芳樹	南雲堂
	2	The Core Vocabulary for the TOEIC Test		成美堂
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			成美堂
	3			

評価方法(基準)	統一英語単語テスト20%、定期試験40%、課題テスト20%、小テスト10%、レポート10%
----------	---

学生へのメッセージ	単語集の単語だけでなく、テキストの各ユニットにおける語彙は、英和辞書を使って予習しておいて下さい。語彙力が英語の上達に大きく影響します。
-----------	--

担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室、水曜日の昼休みの時間、金曜日の1と2限目の休み時間
----------	--

備考	休まず積極的に授業に参加して下さい。努力は実ります。
----	----------------------------

教養科目

科目名	英語Ⅱc	科目名(英文)	English IIc
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	910
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	松浦 茂寿
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	前期に続き、今までに学んできた基本文法知識を確認し、皆さんが受ける TOEICブリッジ受験に必要な解法テクニック、特に普段の努力を積み重ねれば必ず伸びる文法力及び読解力の更なる向上を目標とする。又、授業に平行してテスト受験に欠かせない語彙力向上も目指す。また、授業計画は進度によって変わる場合がある。 学科の学習・教育目標との対応：[C]
到達目標	「文法ルール及び語彙、毎日ちょっと覚えよう！」文法問題が解けるようになるには、1つでも多くの文法ルールを覚え、問題文にどの文法文法ルールが使われているか見抜くのが早道であり、毎日少しずつの努力が大きな結果につながる。単語と同じく、根気よく繰り返し覚え、1つでも多くの問題が解けるように頑張ろう。
授業方法と留意点	毎週、授業時に単語帳から単語テストを行う予定。今まで習ってきた語彙や文法知識を駆使し、一つでも多くの問題が解けることを望む。予習として次に進む分の練習問題を解いて授業に臨もう。特に4択問題は今まで習った文法ルール及び語彙を駆使し、「この選択肢はこう間違っているから違う」と分かる様になればしめたもの。授業で出てきた新しい単語や学んだ内容をくり返して覚えるのが上達への早道です！
科目学習の効果(資格)	TOEICブリッジ受験に必要な基本的事項の復習及び知識の養成。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	
1	前期の復習、オリエンテーション	授業方法、提出物、評価方法についての説明		
2	Unit 8 Daily Life 文法：冠詞・名詞(2)	文法、語彙の各問題演習、答え合わせ	教科書 p. 57-61	
3	Unit 8 Daily Life 文法：冠詞・名詞(2)	リーディング問題演習、答え合わせ	教科書 p. 62-64	
4	Unit 9 Office Work 文法：仮定法	文法、語彙の各問題演習、答え合わせ	教科書 p. 65-69	
5	Unit 9 Office Work 文法：仮定法	リーディング問題演習、答え合わせ	教科書 p. 70-72	
6	Unit 10 Business 文法：分詞	文法、語彙の各問題演習、答え合わせ	教科書 p. 73-78	
7	Unit 10 Business 文法：分詞	リーディング問題演習、答え合わせ	教科書 p. 79-82	
8	Unit 11 Traffic 文法：関係詞	文法、語彙の各問題演習、答え合わせ	教科書 p. 83-88	
9	Unit 11 Traffic 文法：関係詞	リーディング問題演習	教科書 p. 89-92	
10	Unit 12 Finance and Banking 文法：接続詞	文法、語彙の各問題演習、答え合わせ	教科書 p. 93-97	
11	Unit 12 Finance and Banking 文法：接続詞	リーディング問題演習、答え合わせ	教科書 p. 98-100	
12	Unit 13 Media 文法：前置詞	文法、語彙の各問題演習、答え合わせ	教科書 p.101-105	
13	Unit 13 Media 文法：前置詞	リーディング問題演習、答え合わせ	教科書 p. 106-108	
14	Unit 14 Health and Welfare	文法、語彙の各問題演習、答え合わせ	教科書 p. 109-113	
15	Unit 14 Health and Welfare	リーディング問題演習、答え合わせ	教科書 p. 114-117	

関連科目	なし
------	----

番号	書籍名	著者名	出版社名
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test 学校語彙で学ぶ TOEIC テスト (単語集)	西谷恒志	成美堂
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
2			
3			

評価方法(基準)	定期試験、提出物、単語小テスト、平常点の合計 80%に統一単語テスト 20%を足して総合評価します。TOEICブリッジ及び単語テストを受験しなかった人は評価に大きく影響します。また、日頃の授業態度も重視します。授業内容は進度により変更になることがあります。
学生へのメッセージ	「明るく、元気で、感動と発見を与える授業に！」私語をせず、マナーを守り、積極的に参加してクラス全体が一つになる様に、各自協力してもらいたい。折角、授業中に学んだことを暗記したままではすぐに忘れます。例えば英語で書かれた看板のメッセージ等を見ただけで指示が読めるように授業外で繰り返し学習するのが英語上達への早道です。教える側も学ぶ側も仲良く、楽しく、実りある半期になる事を祈る！
担当者の研究室等	7号館2階非常勤講師室
備考	なし

科目名	英語Ⅱc	科目名(英文)	English IIc
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	1112
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	有本 好一郎
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	英語力向上にはこれまでの中学高校レベルの復習も欠かすことはできません。特に、資格(TOEIC、英検など)取得には読み書き、英文法のみならず、リスニングにも重点を置く必要がありますので、毎回の授業で取り組みます。聴解力がつくのを実感できますが、前向きに学習することが大前提です。資格取得に向けて前向きに受験してください。また授業担当者がアメリカで経験したことを写真で紹介することもあります。
到達目標	基礎的なリスニング力、語彙力、文法知識を習得を目標とする。英語資格試験に積極的に挑戦すること。
授業方法と留意点	読解、文法問題集、ディクテーションなどを多用し、語彙の習得、文法力向上、聴解力向上を図る。中高で英語に苦手意識を持った学生も初心に帰り、学習して欲しい。
科目学習の効果(資格)	TOEICの得点向上が期待できるので積極的に受験して欲しい。

教養科目

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス、TOEICの説明、英語クロスワードパズルなど	授業の進め方、評価方法、企業が要求するスコアなどを説明	教科書の予習、クロスワードパズルの暗記、英単語の暗記1177-1201
2	機内放送についての文章を通して、天候や時の表現の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記、英単語の暗記1202-1226
3	空港で放送される文章を通して接続詞の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記、英単語の暗記1227-1251
4	ホテルで使われる文章を通して不定詞の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記、英単語の暗記1252-1276
5	レストランで使われる文章を通して形容詞の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記、英単語の暗記1277-1301
6	買い物で使われる文章を通して頻度を表す副詞の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記、英単語の暗記1302-1326
7	野球についての文章を通して比較級の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記、英単語の暗記1327-1351
8	中間試験	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記、英単語の暗記1352-1376
9	ミュージカル鑑賞についての文章を通して完了形の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記、英単語の暗記1400-1424
10	旅行案内についての文章を通して受動態の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記、英単語の暗記1425-1449
11	問題解決についての文章を通して受動態の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記、英単語の暗記1450-1474
12	体調不良についての文章を通して分詞の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記、英単語の暗記1475-1500
13	電話の会話についての文章を通して動名詞の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記
14	別れの手紙の文章を通してセンスグループの学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記
15	9-14回の復習とまとめ	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	期末試験の準備

関連科目 他全ての英語科目

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Forerunner to Power - Up English	JACET リスニング研究会	南雲堂
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	The Core Vocabulary for the TOEIC Test	西谷恒志	成美堂
2			
3			

評価方法(基準)	担当教員の評価80%、統一英語単語テスト20%で全体の評価を行う。
学生へのメッセージ	英語習得には普段の努力が大切である、通学時にi-Pod等の録音機、ラジオ番組、コンピューターなどを積極的に活用し学習すること。
担当者の研究室等	7号館2階(非常勤講師室)
備考	

科目名	英語Ⅱc	科目名(英文)	English IIc
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	1314
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	中本 明子
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	ユニットごとにTOEICテスト頻出の Vocabulary や文法を学習し、無理なくTOEICテストに慣れ親しみます。単なる得点獲得のテクニックではなく、文法の基礎を確認しながらしっかりとした読解力とコミュニケーション能力を身につけていきます。 学科の学習・教育目標との対応：「A」
到達目標	実践英語におけるコミュニケーション能力を身に付けます。
授業方法と留意点	最初にTOEIC形式のBefore Testを解いた後に、核問題のトピック、文法、語彙などを分析します。次にもう一度Before Testを前提としたAfter Testに挑戦して再度分析を行い、知識の定着を図ります。さらに小テストとして、単語集またはテキストの指定された単語の書き取りテストを毎回行います。
科目学習の効果(資格)	TOEICや英検など資格試験の得点アップにつながります。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	Orientation	講義内容、授業の進め方、成績評価の説明、英文の基本構造と品詞、前期学習事項の確認	教科書全体に目を通しておくこと
	2	Unit 8	受動態 Reading Section (Before Test) Part 5~7	単語集の指定された単語 (1177~1212) テキストの指定された単語
	3	Unit 8	受動態 Reading Section (After Test) Part 5~7	単語集の指定された単語 (1213~1248) テキストの指定された単語
	4	Unit 9	都会の風景 Listening Section (Before Test) Part 1~4	単語集の指定された単語 (1249~1284) テキストの指定された単語
	5	Unit 9	都会の風景 Listening Section (After Test) Part 1~4	単語集の指定された単語 (1285~1322) テキストの指定された単語
	6	Unit 10	前置詞 Reading Section (Before Test) Part 5~7	単語集の指定された単語 (1323~1360) テキストの指定された単語
	7	Unit 10	前置詞 Reading Section (After Test) Part 5~7	単語集の指定された単語 (1361~1395) テキストの指定された単語
	8	Unit 11	屋外労働者 Listening Section (Before Test) Part 1~4	単語集の指定された単語 (1396~1430) テキストの指定された単語
	9	Unit 11	屋外労働者 Listening Section (After Test) Part 1~4	単語集の指定された単語 (1431~1465) テキストの指定された単語
	10	Unit 12	自動詞と他動詞 Reading Section (Before Test) Part 5~7	単語集の指定された単語 (1466~1500) テキストの指定された単語
	11	Unit 12	自動詞と他動詞 Reading Section (After Test) Part 5~7	テキストの指定された単語
	12	Unit 13	屋外にて Listening Section (Before Test) Part 1~4	テキストの指定された単語
	13	Unit 13	屋外にて Listening Section (After Test) Part 1~4	テキストの指定された単語
	14	Unit 14	仮定法 Reading Section (Before & After Test) Part 5~7	テキストの指定された単語
	15	後期の総括	後期まとめテストと解説	テストの復習

関連科目	英語Ⅰa/b、英語Ⅱb/d、英語Ⅲa/b、TOEIC関連科目
------	--------------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Before-After Practice for the TOEIC TEST	Jonathan Lynch、山本 厚子、渡辺 香名子	センゲージ ラーニング社
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test - WORD BOOK -	西谷 恒志	成美堂
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	統一英語単語テスト20%、小テスト30%及び前期まとめテスト50%で、授業態度は減点方式とし、総合的に評価します。
学生への	単語集の単語だけでなく、テキストの各ユニットにおける語彙は、英和辞書を使って予習しておいて下さい。語彙力が英語の上達に大きく影響し

メッセージ	ます。
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師室
備考	休まず積極的に授業に参加して下さい。努力は実ります。

科目名	英語 II d	科目名 (英文)	English II d
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	1234567
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	金原 真由美
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	<p>この授業は英字新聞の表現に慣れ、情報や知識を得て記事を読みこなしていく力を付けることを目的とする。現在私たちはテレビや携帯電話の全盛期を過ぎ、インターネットによってはるかに早く膨大な量の情報を得ることができ、しかも「双方向性」というメディア環境を手に入れています。しかし反面、情報が氾濫し中には間違った情報や信頼に欠ける情報、悪意のある情報も潜み、振り回されることになりかねません。新聞を読む意味とは何でしょうか。情報で最も重要なのはその「信頼性」です。新聞を読み信頼性の高い情報を基に、考えて行動する習慣を身につけることはこれからの自分の将来を選択する上でとても重要になってきます。また世界のあらゆる所から情報が瞬時に得られる今、英語を理解し発信できることが大変重要になっています。</p> <p>記事は The Japan News 紙からの抜粋で国内外の出来事を扱っている。</p> <p>統一英語単語テストに備え、毎回授業の始めに単語集から単語小テストを行う。 範囲 Level4 pp.204-257 (1177-1500)</p>
到達目標	英字新聞の表現に慣れ、記事の背景や情報を知識として得、読みこなしていく力をつけることができる。

授業方法と留意点	<p>毎回授業の始めに、教科書の既習語彙テストも行う。</p> <p>毎回担当者に、興味を持った記事についての内容と個人的感想、意見を発表してもらう。(約5分)</p> <p>英字新聞の書かれ方に注意しながら記事を丁寧に読む。ヘッドラインの文法と意味を理解し、記事を読んで要点を捉える。次に語彙やまとまった表現の意味と使われ方、構文を意識した並べ替え練習を行う。そして最後にその記事に関して自分の意見を述べてもらう。</p>
----------	--

科目学習の効果 (資格)	英字新聞の基礎的読解力の向上、時事英語の単語力向上
--------------	---------------------------

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	診断クイズ 1 1 科学技術②	語彙確認クイズ ハッカーが FBI に協力、サイバー攻撃 300 件を阻止	予習、語彙学習 英字新聞や日本語の新聞を読み、背景知識、情報を得る。
2	単語小テスト (1) pp. 204-209 教科書の語彙テスト 1 1 科学技術②	ハッカーが FBI に協力、サイバー攻撃 300 件を阻止	復習、予習、語彙学習 英字新聞や日本語の新聞を読み、背景知識、情報を得る。
3	単語小テスト (2) pp. 210-215 教科書の語彙テスト 1 2 スポーツ②	羽生選手、勝利後に 2011 年 3 月の震災を振り返る	復習、予習、語彙学習 英字新聞や日本語の新聞を読み、背景知識、情報を得る。
4	単語小テスト (3) pp. 216-221 教科書の語彙テスト 1 2 スポーツ②	羽生選手、勝利後に 2011 年 3 月の震災を振り返る	復習、予習、語彙学習 英字新聞や日本語の新聞を読み、背景知識、情報を得る。
5	単語小テスト (4) pp. 222-227 教科書の語彙テスト 1 3 観光②	日本の日常生活が観光客を魅了	復習、予習、語彙学習 英字新聞や日本語の新聞を読み、背景知識、情報を得る。
6	単語小テスト (5) pp. 228-233 教科書の語彙テスト 1 4 文化	猛猛で愛らしい、どーもくん海外で人気者に	復習、予習、語彙学習 英字新聞や日本語の新聞を読み、背景知識、情報を得る。
7	単語小テスト (6) pp.234-239 教科書の語彙テスト 1 5 就職①	就活中の人には現実的展望が必要一企業家	復習、予習、語彙学習 英字新聞や日本語の新聞を読み、背景知識、情報を得る。
8	単語小テスト (7) pp. 240-245 臨時テスト (中間) 1 6 就職②	既習内容の習熟度を確認 ほぼ盲目の男性、「人口眼」を得る	テスト勉強、語彙学習 英字新聞や日本語の新聞を読み、背景知識、情報を得る。
9	単語小テスト (8) pp. 246-251 教科書の語彙テスト 1 6 就職②	ほぼ盲目の男性、「人口眼」を得る	復習、予習、語彙学習 英字新聞や日本語の新聞を読み、背景知識、情報を得る。
10	単語小テスト (9) pp. 252-257 教科書の語彙テスト 1 7 経済	日本製スマホ、海外へ進出	復習、予習、語彙学習 英字新聞や日本語の新聞を読み、背景知識、情報を得る。
11	単語小テスト (2 週目) (10) pp.204-221 教科書の語彙テスト 1 8 教育	タブレット、子供にも人気、しかし専門家は懸念	復習、予習、語彙学習 英字新聞や日本語の新聞を読み、背景知識、情報を得る。
12	単語小テスト (11) pp. 222-239 教科書の語彙テスト 1 9 就職②	新ハローワーク、若者の定職探しを支援	復習、予習、語彙学習 英字新聞や日本語の新聞を読み、背景知識、情報を得る。
13	単語小テスト (最終) (12) pp. 240-257 教科書の語彙テスト 2 0 就職③	ドイツ、EU 内の失業中の若者への就職支援プログラムを停止	復習、予習、語彙学習 英字新聞や日本語の新聞を読み、背景知識、情報を得る。
14	教科書の語彙テスト 2 0 就職③	ドイツ、EU 内の失業中の若者への就職支援プログラムを停止	復習、予習、語彙学習 英字新聞や日本語の新聞を読み、背景知識、情報を得る。
15	臨時テスト (後期末)	既習内容の習熟度を確認	テスト勉強 英字新聞や日本語の新聞を読み、背景知識、情報を得る。

関連科目	他の英語関連科目
教科書	

	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>Meet the World - English through Newspapers - 2015 (『メディアで学ぶ日本と世界 2015』)</td> <td>若有保彦 編</td> <td>成美堂</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test</td> <td>西谷恒志</td> <td>成美堂</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	Meet the World - English through Newspapers - 2015 (『メディアで学ぶ日本と世界 2015』)	若有保彦 編	成美堂	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test	西谷恒志	成美堂	3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1	Meet the World - English through Newspapers - 2015 (『メディアで学ぶ日本と世界 2015』)	若有保彦 編	成美堂														
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test	西谷恒志	成美堂														
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法 (基準)	統一英語単語テスト 20%、教科書の語彙テスト 15%、臨時テスト (中間+期末) 40%、平常点 (授業態度、発表の貢献度、提出物) 25%とし、総合的に評価する。																
学生への メッセージ	日々の決まった時間、空いた時間に英字新聞と日本語の新聞を読む習慣をつけましょう。英語の記事を読む場合、日本語でその記事に関する背景知識があれば理解が容易になります。 教科書の予習が不可欠です。ページの側にある脚注の語句を参考にしながら、記事を読み、内容を一通り掴んでくること。 授業には辞書を必ず持参すること。 授業への貢献度を評価します。																
担当者の 研究室等	7号館2階 (非常勤講師室)																
備考	授業の進度によって授業計画は多少変更になる可能性がある。																

科目名	英語 II d	科目名 (英文)	English II d
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	891011121314
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	本多 善
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	英語ができれば欧米諸国に限らず、あらゆる地域の人々と交流することができます。この授業ではコミュニケーションスキルに念頭を置いた TOEIC のスコア向上が期待されます。繰り返しの聞き取りや、読解、語彙力、発声練習をすることで、生きた英語の習得を目指します。
到達目標	授業を通して短い文章を読解する能力と文法の基礎を習得できます。また会話文の発声練習や毎回行う英単語の小テストによって大学生にとって必要不可欠な英語の語彙力が強化されます。これらの能力を習得することによってコミュニケーションスキルに念頭を置いた TOEIC のスコア向上も期待されます。
授業方法と留意点	教科書を使用し演習形式で行います。 毎回の小テストは、TOEIC 受験に向けての対策も兼ねています。 1週間 で決まった分量の単語・語句を覚え、テストで達成度を確認することにより、全般的な英語力のアップにもつながります。真剣に取り組みましょう。 授業では英和辞書を使用するので、毎回必ず持参すること。
科目学習の効果 (資格)	日常生活やビジネスの場面における、英語を使ったコミュニケーションを理解することができる。 また TOEIC の得点につながる英語運用能力の向上が期待できる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	発声練習、内容読解、形式演習	・単語小テスト (1) ・TOEIC テスト形式演習	・教科書の予習、復習 ・次回単語小テスト (2) の対策
3	発声練習、内容読解、形式演習	・単語小テスト (2) ・TOEIC テスト形式演習	・教科書の予習、復習 ・次回単語小テスト (3) の対策
4	発声練習、内容読解、形式演習	・単語小テスト (3) ・TOEIC テスト形式演習	・教科書の予習、復習 ・次回単語小テスト (4) の対策
5	発声練習、内容読解、形式演習	・単語小テスト (4) ・TOEIC テスト形式演習	・教科書の予習、復習 ・次回単語小テスト (5) の対策
6	発声練習、内容読解、形式演習	・単語小テスト (5) ・TOEIC テスト形式演習	・教科書の予習、復習 ・次回単語小テスト (6) の対策
7	発声練習、内容読解、形式演習	・単語小テスト (6) ・TOEIC テスト形式演習	・教科書の予習、復習 ・次回単語小テスト (7) の対策 次回復習テストの対策
8	第1回復習テスト (TOEIC 形式) 発声練習、内容読解、形式演習	・単語小テスト (7) ・TOEIC テスト形式演習	・教科書の予習、復習 ・次回単語小テスト (8) の対策
9	発声練習、内容読解、形式演習	・単語小テスト (8) ・TOEIC テスト形式演習	・教科書の予習、復習 ・次回単語小テスト (9) の対策
10	発声練習、内容読解、形式演習	・単語小テスト (9) ・TOEIC テスト形式演習	・教科書の予習、復習 ・次回単語小テスト (10) の対策
11	発声練習、内容読解、形式演習	・単語小テスト (10) ・TOEIC テスト形式演習 (Part 1~7)	・教科書の予習、復習 ・次回単語小テスト (11) の対策
12	発声練習、内容読解、形式演習	・単語小テスト (11) ・TOEIC テスト形式演習	・教科書の予習、復習 ・次回単語小テスト (12) の対策
13	発声練習、内容読解、形式演習	・単語小テスト (12) ・TOEIC テスト形式演習	教科書の予習、復習
14	発声練習、内容読解、形式演習	・TOEIC テスト形式演習	教科書の予習、復習 復習テスト対策
15	第2回復習テスト 発声練習、内容読解、形式演習	・TOEIC テスト形式演習	これまでの復習

関連科目	英語 II d
------	---------

番号	書籍名	著者名	出版社名
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test (学校語彙で学ぶ TOEIC テスト)	西谷恒志	成美堂
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 (基準)	<ul style="list-style-type: none"> ・授業中の発表・予習… 20% ・単語小テスト (全 12 回) … 20% ・復習テスト (全 2 回) … 40% ・統一英語単語テスト (共通試験) … 20% 以上の達成度を総合評価します。 原則として、4 回以上休んだ場合 (正式な証明が可能な公休および大学指定の伝染病による欠席は除く) 単位取得の見込みはありません。 遅刻 2 回を欠席 1 回とみなします。
-----------	---

	その他詳細は、第1回目の授業で詳しく説明します。受講予定者は必ず出席してください。
学生へのメッセージ	英語と触れる機会をできるだけ持ってください。日本で英語を学ぶためには、語彙力と繰り返しの読解、英語を聞くことも効果的です。また、本授業での成果を確認する意味で、教務課主催のTOEIC団体テスト（春・秋実施）をぜひ受験してみてください。繰り返し受験し、その都度勉強することでスコアは向上するものです。
担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
備考	教科書と英和辞書を毎回必ず持参すること。

科目名	英語Ⅲ a	科目名 (英文)	English IIIa
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	3年	クラス	1234
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	曾我 直隆
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	<ul style="list-style-type: none"> 英語を「勘で」理解するのではなく、構文を把握して理解できるようになる 経済に関する基礎的な英語表現を身につけよう
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 英語の構文をとらえられるようになる TOEICの問題形式に慣れる メディアリテラシーを身につけ、ものごとを多角的に見られるようになる
授業方法と留意点	<p>授業方法</p> <ul style="list-style-type: none"> CALL 教室でのパソコンを使った授業 経済に関する英文資料を教科書のひとつとして随時配布する <p>留意点</p> <ul style="list-style-type: none"> 辞書を持ってくること。 毎回の授業初めに Quiz (小テスト) を実施する。遅刻すると受けられなくなるので、注意すること。

科目学習の効果 (資格)

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業の概要説明	授業内で指示
2	多読学習法	Quiz01 Graded Readers を使った多読学習法を体験	授業内で指示
3	Unit 1 part I	Quiz02 基礎演習 カタカナ英語でも通じる発音方法	授業内で指示
4	Unit 1 part I	Quiz03 応用演習	授業内で指示
5	Unit 2 part I	Quiz04 基礎演習	授業内で指示
6	Unit 2 part II	Quiz05 応用演習	授業内で指示
7	Unit 3 part I	Quiz06 基礎演習	授業内で指示
8	Unit 3 part II	Quiz07 応用演習	授業内で指示
9	Unit 4 part I	Quiz08 基礎演習	授業内で指示
10	Unit 4 part II	Quiz09 応用演習	授業内で指示
11	Unit 5 part I	Quiz10 基礎演習	授業内で指示
12	Unit 5 part II	Quiz11 応用演習	授業内で指示
13	Unit 6 part I	Quiz12 基礎演習	授業内で指示
14	Unit 6 part II	Quiz13 応用演習	授業内で指示
15	総復習	Quiz14 期末試験対策	授業内で指示

関連科目

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Network Starter Student Book	Tom Hutchinson; Kristin Sherman	Oxford University Press
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test		成美堂
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 (基準)	<ul style="list-style-type: none"> Quiz (毎回の小テスト): 30% 課題提出: 20% 期末試験: 30% <p>なお、多読マラソンへの参加 (任意) をボーナス点とし、期末試験の得点に加算する (詳細は初回授業で)。</p> <p>以下は学部共通</p> <ul style="list-style-type: none"> 統一英語単語テスト: 20%
-----------	---

学生へのメッセージ

皆さんには、在学中にひとりで外国を旅してすることを勧めます。旅行会社のツアーではなく、すべて自分で計画して手配する個人旅行です。

若者の旅行者が集まる安宿が、どの国にもあります。

	<p>そこに泊まって、いろいろな国の人と話をしてみましょう。 今のあなたの英語力でも大丈夫。 インド英語、中国英語、ヒスパニック英語… いろいろな英語に触れれば、自分のジャパニーズ イングリッシュでも臆せず使えるようになります。</p> <p>海外一人旅は、自分のことや日本のことを見つめ直す機会にもなるでしょう。 帰国する頃には、ひとまわり大きくなった自分に気づくかもしれません。</p> <p>時間と体力と柔軟な心のある学生時代こそ、旅をする絶好のチャンスです。 お金もそんなに要りません。アルバイトで十分貯められます。 自分の英語が通じるか心配？ なんとかなります。この授業をぜひ役立ててください。</p>
<p>担当者の 研究室等</p>	<p>7号館2階 非常勤講師室</p>
<p>備考</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・辞書について 中級（TOEIC750～850点程度）になるまでは、紙の辞書を薦める。電子辞書を使うなら、ディスプレイの大きなもの（＝表示される情報量の多いもの）を。携帯端末の辞書アプリ等は、上級者以外には薦めない。 ・資格試験（TOEIC など）について 資格試験は語学習得のための手段であり、目的ではない。目的は「英語が使えるようになる」こと。小手先の受験テクニックに走らず、力をつけるための本道を進もう。

科目名	英語Ⅲ a	科目名 (英文)	English IIIa
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	3年	クラス	5678
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	谷脇 康子
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	経済に関連するトピックを取り扱った文献を読み、英語の基本的な読解力を身につけること。 実践、および TOEIC で役立つ語彙を増強すること。 経済全般についての基本的な知識をもち、自分の考えを構築すること。
到達目標	実社会で役立ち、かつ TOEIC で 400 点以上のスコアを得点できる聞き取り技能・語彙力を養うこと。 日本、および世界の経済事情を学び、建設的な意見を構築すること。
授業方法と留意点	授業の始めに単語テスト テキストの読解と担当者作成プリントの解答 適宜、TOEIC 形式のリスニング演習 授業確認テスト
科目学習の効果 (資格)	TOEIC スコアアップ

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	フリーターという生活様式	単語テスト(1) N0917-940 リスニング演習 作業用紙による読解演習	単語テストの事前勉強 確認テスト
3	自営、もしくは企業勤め?	単語テスト(2) N0941-966 リスニング演習 作業用紙による読解演習	単語テストの事前勉強 確認テスト
4	新入社員	単語テスト(3) N0967-992 リスニング演習 作業用紙による読解演習	単語テストの事前勉強 確認テスト
5	職場の回覧	単語テスト(4) N0993-1017 リスニング演習 作業用紙による読解演習	単語テストの事前勉強 確認テスト
6	初任給	単語テスト(5) N01018-10309 リスニング演習 作業用紙による読解演習	単語テストの事前勉強 確認テスト
7	銀行手数料	単語テスト(6) N01040-1063 リスニング演習 作業用紙による読解演習	単語テストの事前勉強 確認テスト
8	授業 1 回～7 回の総復習 中間テスト	1 回～7 回授業の質問と回答	中間テストの事前勉強
9	銀行 ATM で	単語テスト(7) N01064-1089 リスニング演習 作業用紙による読解演習	単語テストの事前勉強 確認テスト
10	退職計画	単語テスト(8) N01090-1112 リスニング演習 作業用紙による読解演習	単語テストの事前勉強 確認テスト
11	円高と円安	単語テスト(9) N01113-1137 リスニング演習 作業用紙による読解演習	単語テストの事前勉強 確認テスト
12	消費者心理	単語テスト(10) N01138-1161 リスニング演習 作業用紙による読解演習	単語テストの事前勉強 確認テスト
13	郵便と宅急便	単語テスト(11) N01162-1176 リスニング演習 作業用紙による読解演習	単語テストの事前勉強 確認テスト
14	定期健診	リスニング演習 作業用紙による読解演習	確認テスト
15	授業 9 回～14 回の総復習 まとめのテスト	9 回～14 回授業の質問と回答	まとめのテストの事前勉強

関連科目	なし
------	----

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Wise Choices	中山千佐子/Scott Berlin	金星堂
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test	西谷恒志	成美堂
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 (基準)	統一英語単語テスト 20%、単語テスト 10%、 確認テスト 20% 中間テスト 25%、まとめのテスト 25%
-----------	---

学生へのメッセージ	授業はリズムカルにテンポよく進めます。集中力をきらさず一生懸命ついてきてください。
-----------	---

担当者の	7号館2階 非常勤講師室
------	--------------

研究室等	
備考	



科目名	英語Ⅲ a	科目名 (英文)	English IIIa
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	3年	クラス	9101112
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	スマゼース 理恵. 担当者未定
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	In this course, students will learn reading comprehension so that English activities such as communication, discussion, summarization and presentation can take place. Specifically, students will learn how to understand the main points of a passage and summarize them effectively rather than engage in word for word translation. We also focus on shadowing and reading the material aloud in order to convey the message of the written texts with proper English pronunciation.
到達目標	(1) To learn English pronunciation; (2) To improve reading skills in English; (3) To improve communication skills in English; and (4) To improve listening skills in English.
授業方法と留意点	In every lesson, students will have to engage in English activities that promote English communication proficiency. As a result, students will need to attend every lesson with a dictionary and actively participate because they will be graded on their participation. Students will also have to take a vocabulary quiz every week, which will be 20% of their grade.
科目学習の効果 (資格)	In this course students can develop their reading, listening, and communication competence in English, so that they can acquire skills that will help them to perform better on English qualification tests such as TOEIC or Eiken.

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	Class orientation and goal setting	Explanation about this course and English activities	Nothing
2	SONY	Reading comprehension and English activity	Students should read assigned text and prepare for the vocabulary quiz.
3	GUCCI: A Family Story	Reading comprehension and English activity	Students should read assigned text and prepare for the vocabulary quiz.
4	Sam Walton: Founder of the Wal-Mart Empire	Reading comprehension and English activity	Students should read assigned text and prepare for the vocabulary quiz.
5	IKEA	Reading comprehension and English activity	Students should read assigned text and prepare for the vocabulary quiz.
6	Andrew Carnegie	Reading comprehension and English activity	Students should read assigned text and prepare for the vocabulary quiz.
7	Review Test	Review test	Students should prepare for the review test and the vocabulary quiz.
8	Anita Roddick: The Business of Bettering the World	Reading comprehension and English activity	Students should read assigned text and prepare for the vocabulary quiz.
9	Google Power!	Reading comprehension and English activity	Students should read assigned text and prepare for the vocabulary quiz.
10	Azim Premji: The Billionaire of Bangalore	Reading comprehension and English activity	Students should read assigned text and prepare for the vocabulary quiz.
11	Skype: Let's Talk!	Reading comprehension and English activity	Students should read assigned text and prepare for the vocabulary quiz.
12	Ebay: Something for Everyone	Reading comprehension and English activity	Students should read assigned text and prepare for the vocabulary quiz.
13	Starbucks Around the World	Reading comprehension and English activity	Students should read assigned text and prepare for the vocabulary quiz.
14	Lenovo: China's PC Powerhouse	Reading comprehension and English activity	Students should read assigned text and prepare for the vocabulary quiz.
15	Review test	Wrap-up and review test	Students should prepare for the review test.

関連科目	他の英語科目
------	--------

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Bottom Line Business Stories	Andrew E. Bennett / Shoji Shimabayashi / Sean A. White	成美堂
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test	NISHIYA Koji	SEIBIDO
2			
3			

評価方法 (基準)	統一英語単語テスト … 20% 平常点 (In-class activities, participation, attitude, timeliness) … 20% まとめのテスト … 60%
-----------	--

学生へのメッセージ	このコースでは実際に使える英語を習得することを目標とします。クラス内では皆さんに積極的、自発的に英語を話し、最低限のコミュニケーション・ツールとしての英語表現を確実に身につけてもらいたいと思っています。おそらくこれまであまり訓練されていないであろうアウトプットの訓練と同時に、英語を読むスピードで理解することを目標にインプットにも力を入れたいと思っています。予習は必ず必要となります。分からない単語は必ず調べてから授業に臨むようにしてください。
-----------	--

担当者の研究室等備考	7号館2階 非常勤講師控え室
------------	----------------

科目名	英語Ⅲb	科目名(英文)	English IIIb
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	3年	クラス	123456
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	曾我 直隆
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

教養科目

授業概要・目的	<ul style="list-style-type: none"> 英語を「勘で」理解するのではなく、構文を把握して理解できるようになる 経済に関する基礎的な英語表現を身につけよう 																																																																		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 英語の構文をとらえられるようになる TOEICの問題形式に慣れる メディアリテラシーを身につけ、ものごとを多角的に見られるようになる 																																																																		
授業方法と留意点	<p>授業方法</p> <ul style="list-style-type: none"> CALL教室でのパソコンを使った授業 経済に関する英文資料を教科書のひとつとして随時配布する <p>留意点</p> <ul style="list-style-type: none"> 辞書を持ってくること。 毎回の授業初めにQuiz(小テスト)を実施する。遅刻すると受けられなくなるので、注意すること。 																																																																		
科目学習の効果(資格)																																																																			
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td>オリエンテーション</td><td>授業の概要説明</td><td>授業内で指示</td></tr> <tr><td>2</td><td>Unit 7 Part I</td><td>Quiz01 基礎演習</td><td>授業内で指示</td></tr> <tr><td>3</td><td>Unit 7 Part II</td><td>Quiz02 応用演習</td><td>授業内で指示</td></tr> <tr><td>4</td><td>Unit 8 part I</td><td>Quiz03 基礎演習</td><td>授業内で指示</td></tr> <tr><td>5</td><td>Unit 8 part II</td><td>Quiz04 応用演習</td><td>授業内で指示</td></tr> <tr><td>6</td><td>Unit 9 part I</td><td>Quiz05 基礎演習</td><td>授業内で指示</td></tr> <tr><td>7</td><td>Unit 9 part II</td><td>Quiz06 応用演習</td><td>授業内で指示</td></tr> <tr><td>8</td><td>Unit 10 part I</td><td>Quiz07 基礎演習</td><td>授業内で指示</td></tr> <tr><td>9</td><td>Unit 10 part II</td><td>Quiz08 応用演習</td><td>授業内で指示</td></tr> <tr><td>10</td><td>Unit 11 part I</td><td>Quiz09 基礎演習</td><td>授業内で指示</td></tr> <tr><td>11</td><td>Unit 11 part II</td><td>Quiz10 応用演習</td><td>授業内で指示</td></tr> <tr><td>12</td><td>Unit 12 part I</td><td>Quiz11 基礎演習</td><td>授業内で指示</td></tr> <tr><td>13</td><td>Unit 12 part II</td><td>Quiz12 応用演習</td><td>授業内で指示</td></tr> <tr><td>14</td><td>Unit 13</td><td>Quiz13 総合演習</td><td>授業内で指示</td></tr> <tr><td>15</td><td>総復習</td><td>Quiz14 期末試験対策</td><td>授業内で指示</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	1	オリエンテーション	授業の概要説明	授業内で指示	2	Unit 7 Part I	Quiz01 基礎演習	授業内で指示	3	Unit 7 Part II	Quiz02 応用演習	授業内で指示	4	Unit 8 part I	Quiz03 基礎演習	授業内で指示	5	Unit 8 part II	Quiz04 応用演習	授業内で指示	6	Unit 9 part I	Quiz05 基礎演習	授業内で指示	7	Unit 9 part II	Quiz06 応用演習	授業内で指示	8	Unit 10 part I	Quiz07 基礎演習	授業内で指示	9	Unit 10 part II	Quiz08 応用演習	授業内で指示	10	Unit 11 part I	Quiz09 基礎演習	授業内で指示	11	Unit 11 part II	Quiz10 応用演習	授業内で指示	12	Unit 12 part I	Quiz11 基礎演習	授業内で指示	13	Unit 12 part II	Quiz12 応用演習	授業内で指示	14	Unit 13	Quiz13 総合演習	授業内で指示	15	総復習	Quiz14 期末試験対策	授業内で指示
回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題																																																																
1	オリエンテーション	授業の概要説明	授業内で指示																																																																
2	Unit 7 Part I	Quiz01 基礎演習	授業内で指示																																																																
3	Unit 7 Part II	Quiz02 応用演習	授業内で指示																																																																
4	Unit 8 part I	Quiz03 基礎演習	授業内で指示																																																																
5	Unit 8 part II	Quiz04 応用演習	授業内で指示																																																																
6	Unit 9 part I	Quiz05 基礎演習	授業内で指示																																																																
7	Unit 9 part II	Quiz06 応用演習	授業内で指示																																																																
8	Unit 10 part I	Quiz07 基礎演習	授業内で指示																																																																
9	Unit 10 part II	Quiz08 応用演習	授業内で指示																																																																
10	Unit 11 part I	Quiz09 基礎演習	授業内で指示																																																																
11	Unit 11 part II	Quiz10 応用演習	授業内で指示																																																																
12	Unit 12 part I	Quiz11 基礎演習	授業内で指示																																																																
13	Unit 12 part II	Quiz12 応用演習	授業内で指示																																																																
14	Unit 13	Quiz13 総合演習	授業内で指示																																																																
15	総復習	Quiz14 期末試験対策	授業内で指示																																																																
関連科目																																																																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>Network Starter Student Book</td> <td>Tom Hutchinson; Kristin Sherman</td> <td>Oxford University Press</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test</td> <td></td> <td>成美堂</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	Network Starter Student Book	Tom Hutchinson; Kristin Sherman	Oxford University Press	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test		成美堂	3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	Network Starter Student Book	Tom Hutchinson; Kristin Sherman	Oxford University Press																																																																
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test		成美堂																																																																
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法(基準)	<ul style="list-style-type: none"> Quiz(毎回の小テスト): 30% 課題提出: 20% 期末試験: 30% <p>なお、多読マラソンへの参加(任意)をボーナス点とし、期末試験の得点に加算する(詳細は初回授業で)。</p> <p>以下は学部共通</p> <ul style="list-style-type: none"> 統一英語単語テスト: 20% 																																																																		
学生へのメッセージ	<p>皆さんには、在学中にひとりで外国を旅することを勧めます。旅行会社のツアーではなく、すべて自分で計画して手配する個人旅行です。</p> <p>若者の旅行者が集まる安宿が、どの国にもあります。そこに泊まって、いろいろな国の人と話をしてみましょう。今のあなたの英語力でも大丈夫。</p>																																																																		

	<p>インド英語、中国英語、ヒスパニック英語… いろいろな英語に触れれば、自分のジャパニーズ イングリッシュでも臆せず使えるようになります。</p> <p>海外一人旅は、自分のことや日本のことを見つめ直す機会にもなるでしょう。帰国する頃には、ひとまわり大きくなった自分に気づくかもしれません。</p> <p>時間と体力と柔軟な心のある学生時代こそ、旅をする絶好のチャンスです。お金もそんなに要りません。アルバイトで十分貯められます。自分の英語が通じるか心配？ なんとかなります。この授業をぜひ役立ててください。</p>
担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
備考	<p>・辞書について 中級（TOEIC750～850点程度）になるまでは、紙の辞書を薦める。電子辞書を使うなら、ディスプレイの大きなもの（＝表示される情報量の多いもの）を。携帯端末の辞書アプリ等は、上級者以外には薦めない。</p> <p>・資格試験（TOEIC など）について 資格試験は語学習得のための手段であり、目的ではない。目的は「英語が使えるようになる」こと。小手先の受験テクニックに走らず、力をつけるための本道を進もう。</p>

科目名	英語Ⅲ b	科目名 (英文)	English IIIb
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	3年	クラス	789101112
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	谷脇 康子
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

教養科目

授業概要・目的	経済に関するトピックを取り扱った文献を読み、英語の基本的な読解力を身につけること。 実践、およびTOEICで役立つ語彙力を増強すること。 経済全般についての基本的な知識を習得し、自分の意見を構築すること。
到達目標	実社会で役立ち、かつTOEICで400点以上のスコアを得点できる聞き取り技能・語彙力を養うこと。 日本、および世界の経済事情を学び、建設的な意見を構築すること。
授業方法と留意点	I授業のはじめに単語テストを行う。 担当者作成による作業用紙に従って本文を読解する。 適宜TOEIC形式のリスニング演習を行う。 授業の終わりに確認テストを行う。
科目学習の効果 (資格)	TOEICスコアアップ

	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	消費税	リスニング演習 作業用紙による読解演習	授業内容の復習 確認テスト
2	.パラサイトシングル	単語テスト(1)N01177-1201 リスニング演習 作業用紙による読解演習	単語テストの事前勉強 確認テスト	
3	不良債権	単語テスト(2)N01202-1224 リスニング演習 作業用紙による読解演習	単語テストの事前勉強 確認テスト	
4	.貸家市場	単語テスト(3)N01225-1248 リスニング演習 作業用紙による読解演習	単語テストの事前勉強 確認テスト	
5	停電	単語テスト(4)N01249-1272 リスニング演習 作業用紙による読解演習	単語テストの事前勉強 確認テスト	
6	借金	単語テスト(5)N01273-1296 リスニング演習 作業用紙による読解演習	単語テストの事前勉強 確認テスト	
7	1ポンドいくら?	単語テスト(6)N01297-1322 リスニング演習 作業用紙による読解演習	単語テストの事前勉強 確認テスト	
8	授業1回～7回の総復習 中間テスト	授業1回～7回の質問と回答 中間テスト	中間テストの事前勉強	
9	インフレとデフレ	単語テスト(7)N01323-1347 リスニング演習 作業用紙による読解演習	単語テストの事前勉強 確認テスト	
10	住宅事情	単語テスト(8)N01348-1372 リスニング演習 作業用紙による読解演習	単語テストの事前勉強 確認テスト	
11	.賭け事	P単語テスト(9)N01373-1395 リスニング演習 作業用紙による読解演習	単語テストの事前勉強 確認テスト	
12	投資	単語テスト(10)N01396-1418 リスニング演習 作業用紙による読解演習	単語テストの事前勉強 確認テスト	
13	.フライト時間	単語テスト(11)N01419-1453 リスニング演習 作業用紙による読解演習	単語テストの事前勉強 確認テスト	
14	市内観光	単語テスト(12)N01354-1500 リスニング演習 作業用紙による読解演習	単語テストの事前勉強 確認テスト	
15	授業9回～14回の総復習 まとめのテスト	授業9回～14回の質問と回答 まとめのテスト	まとめのテストの事前勉強	

関連科目	なし
------	----

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Wise Choices	中山千佐子/Scott Berlin	金星堂
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test	西谷恒志	成美堂
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	統一英語単語テスト 20%、 単語テスト 10%、 確認テスト 20%、 中間テスト 25%、 まとめテスト 25%
-----------	--

学生へのメッセージ	授業はリズムカルにテンポよく進めます。集中力をきらさず一生懸命ついてきてください。
-----------	---

担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師室
備考	

科目名	英語で学ぶ工学入門（ものづくり編）	科目名（英文）	Introduction to Manufacturing Engineering
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	森脇 俊道
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	The lecture is intended to give fundamental knowledge of mechanical manufacturing processes, machines and systems in English to those who are not necessarily to be specialists of the subject.
到達目標	The target of the lecture is that the students can understand the general idea of manufacturing and exchange opinions with others about manufacturing in English.
授業方法と留意点	The lecture is given in English. Slides and movies will be frequently utilized to assist understanding of the contents of the lecture. The students are requested to study the contents of the subject in advance and to prepare for presentation of the home work in the class room each time.
科目学習の効果（資格）	The students will be able to understand basic manufacturing engineering and exchange ideas about manufacturing with others in English.

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	Overview of manufacturing engineering	Role of manufacturing engineering. Classification and history of manufacturing technology.	Examine typical manufacturing methods in early days.
	2	Examples of industrial products and their functions	Anatomy of industrial products, such as car, air plane, train and home appliances.	Examine structure and function of a product at hand.
	3	Engineering materials	Ferrous materials, non-ferrous metals, plastics, ceramics etc.	Name materials at hand and examine their fundamental properties.
	4	Fundamental properties of materials	Elasticity, plasticity, strength, specific weight etc.	Compare mechanical properties of materials at hand.
	5	Manufacturing of raw materials	Manufacturing processes of steel, Aluminum and other materials.	Name typical raw materials before processing.
	6	Casting	Basic and advanced casting processes and examples of casted products.	Name typical casted parts or products.
	7	Forming and forging	Basic and advanced forming and forging processes and examples of formed or forged products.	Name typical formed or forged parts or products.
	8	Welding and joining	Basic and advanced welding and joining processes and examples of welded or joined products.	Name typical welded or joined parts and products.
	9	Cutting	Metal cutting process and cutting tools. Examples of cut parts.	Name typical cut parts or products.
	10	Grinding and polishing	Grinding process and grinding methods. Examples of ground parts.	Name typical ground parts or products.
	11	Machine tools	Basic structure of machine tools. Conventional and computer controlled machine tools.	Name typical machine tools and examine their functions.
	12	Non-traditional processing	Laser processing, electro discharge machining, additive manufacturing etc.	Name typical parts or products processed by non-traditional methods.
	13	Manufacturing systems	Manufacturing systems and their components. History of manufacturing systems.	Examine functions of manufacturing systems.
	14	Industrial robots	Application of industrial robots to manufacturing and advanced robot technology.	Examine types and functions of industrial robots.
	15	Summary of manufacturing engineering	Review of the lecture.	Summarize the key points of the lecture.

関連科目	
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法（基準）	50% of the points are given based on the contribution to the lecture including presentation of the home-work in the class room. Another 50% of the points are given based on the test results at the end of the term.
----------	---

学生へのメッセージ	The lecture is not intended to give specific knowledge of manufacturing engineering, but to give rather general knowledge of manufacturing engineering so that they can broaden their minds and deepen knowledge of English.
-----------	--

担当者の研究室等	1 2 号館 6 階 森脇教授室
----------	------------------

備考	
----	--

教養科目

科目名	北河内学—摂南大学と北河内を知る—	科目名(英文)	Introduction to regional partnership between Kitakawachi area and Setsunan
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	尾山 廣
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	[授業概要]学部共通の入門科目として、摂南大学と大学が立地する「北河内地域」の地歴・環境・文化・産業や同地域内にある地方自治体の現状と課題、また、同地域に関係する各分野で活躍している団体や機関の人びとの活動を広範囲にわたって紹介する。[目的]摂南大学の学生として大学や地域に愛着を持てるようになり、学生生活の中で自分自身を見つける機会とする。また、地域貢献活動や地域社会での実践教育の動機づけとする。
到達目標	北河内地域の歴史、文化、産業、街づくりにおける摂南大学の役割を理解し、地域の一員として地域貢献活動への参画意識を身につける。
授業方法と留意点	摂南大学地域連携センター関係教員のほか、北河内地域(寝屋川市・枚方市・交野市・門真市)に関係する各分野で活躍している団体や機関の人びとが学外講師として参画し、オムニバス(リレー)形式による講義を行う。各時間内に質疑応答の時間を設け、毎回、時間内に小レポートを提出する。なお、事前学習として、北河内地域の市の広報HPを閲覧しておくこと。
科目学習の効果(資格)	自分自身が学ぶ摂南大学の歴史を知り、また、地域で活躍する人びとの人生観に触れ、大学と地域に愛着を持ち学生生活の中で自分自身を見つける機会となり地域貢献活動への関心が高まり活動への動機付けが図られる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	
		事前・事後学習課題	
1	摂南大学とこの地域を学ぶ「北河内学」	本講義のねらいと学び方について解説した後、摂南大学と本学を設置する常翔学園の歴史を紹介し、併せて摂南大学の教育の理念を紹介する。また、本学と地域社会との関わり合いについての概要を説明する。	事後学習：摂南大学の自校史集やホームページ、図書館を活用して、大学の歴史や教育の理念などについて理解を深めること。
2	北河内の地歴と文化を学ぶ(1)	北河内地域の歴史的建造物について講義する。	事後学習：建造物とその時代背景などを調べ、北河内に関する理解を深めること。
3	北河内の地歴と文化を学ぶ(2)	淀川とその流域の北河内地域の地理・歴史や文化について講義する。地元の研究家が講義を担当する。	事後学習：講義で学習した内容をもとに、図書館を活用するなど淀川とその流域の地理・歴史や文化について理解を深めること。
4	北河内の地歴と文化を学ぶ(3)	都市(寝屋川市)と地方(和歌山県すさみ町)の連携をはかる取り組みを紹介し、両者が共存共栄するための考え方と具体的な施策について地元の方が解説する。	事後学習：寝屋川市と協定を結んでいる和歌山県すさみ町との協働事業について、それぞれのホームページを参照し、調べてみる。
5	北河内のまちを知る(1)寝屋川市	寝屋川市のすがたの現状と課題、本学の学生に対する期待について講義する。市役所の幹部が講義を担当する。	事後学習：講義で学習した内容をもとに、ホームページで自分の住む街と寝屋川市を見比べるほか、図書館を活用するなど寝屋川市の現状と課題について理解を深めること。
6	北河内のまちを知る(2)枚方市	枚方市のすがたの現状と課題、本学の学生に対する期待について講義する。市役所の幹部が講義を担当する。	事後学習：講義で学習した内容をもとに、ホームページで自分の住む街と枚方市を見比べるほか、図書館を活用するなど枚方市の現状と課題について理解を深めること。
7	北河内のまちを知る(3)交野市	交野市のすがたの現状と課題、本学の学生に対する期待について講義する。市役所の幹部が講義を担当する。	事後学習：講義で学習した内容をもとに、ホームページで自分の住む街と交野市を見比べるほか、図書館を活用するなど交野市の現状と課題について理解を深めること。
8	北河内のまちを知る(4)門真市	門真市のすがたの現状と課題、本学の学生に対する期待について講義する。市役所の幹部が講義を担当する。	事後学習：講義で学習した内容をもとに、ホームページで自分の住む街と門真市を見比べるほか、図書館を活用するなど門真市の現状と課題について理解を深めること。
9	北河内で活躍する人びとや団体を知る(1)	本学との交流関係が深い各種の団体・機関などが、地元での活動や本学学生に期待する活動内容について講義する。	事後学習：講義で学習した内容をもとに、団体・機関のホームページや図書館を活用するなどして活動を再確認し理解を深めること。
10	北河内で活躍する人びとや団体を知る(2)	本学との交流関係が深い各種の団体・機関などが、地元での活動や本学学生に期待する活動内容について講義する。	事後学習：講義で学習した内容をもとに、団体・機関のホームページや図書館を活用するなどして活動を再確認し理解を深めること。
11	北河内で活躍する人びとや団体を知る(3)	本学との交流関係が深い各種の団体・機関などが、地元での活動や本学学生に期待する活動内容について講義する。	事後学習：講義で学習した内容をもとに、団体・機関のホームページや図書館を活用するなどして活動を再確認し理解を深めること。
12	北河内で活躍する人びとや団体を知る(4)	本学との交流関係が深い各種の団体・機関などが、地元での活動や本学学生に期待する活動内容について講義する。	事後学習：講義で学習した内容をもとに、団体・機関のホームページや図書館を活用するなどして活動を再確認し理解を深めること。
13	北河内で活躍する人びとや団体を知る(5)	本学との交流関係が深い各種の団体・機関などが、地元での活動や本学学生に期待する活動内容について講義する。	事後学習：講義で学習した内容をもとに、団体・機関のホームページや図書館を活用するなどして活動を再確認し理解を深めること。
14	北河内で活躍する人びとや団体を知る(6)	本学との交流関係が深い各種の団体・機関などが、地元での活動や本学学生に期待する活動内容について講義する。	事後学習：講義で学習した内容をもとに、団体・機関のホームページや図書館を活用するなどして活動を再確認し理解を深めること。
15	北河内の産業を知る	北河内地域での産業活動の具体例について講義する。地元の北大阪商工会議所や寝屋川市工業会の役員が講義を担当する。	事後学習：講義で学習した内容をもとに、関係するホームページや図書館を活用するなどして産業活動を再確認し理解を深めること。

関連科目	地理、歴史、文化、経済、産業などに関する教養科目
------	--------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	毎回の講義の最後に行う小テストまたはレポート（75%）に加えて、講義全体に関して課せられるレポート課題（25%）を総合して評価する。			
学生への メッセージ	<p>毎回必ず出席してください。地域で活躍されている各分野のいろいろな人の話を聞くことで、摂南大学と地域が密接につながっていること、そして自分もこの地域とのつながりを大切にすることの意義がわかるようになり、自信を持って本学での勉学に励むことができるようになります。</p> <p>なお、本講義は地域で活躍されている方々の協力のもとに行われます。講師に対する礼を逸することなく、私語を慎み、遅刻、居眠り、途中退室などをしないように心がけてください。態度が悪い学生は受講を認めないことがあります。</p>			
担当者の 研究室等	1号館9階 尾山教授室			
備考	<p>学外講師の事情により、授業計画の内容及び順序が変更になります。4月の第1回の講義時に説明します。</p> <p>学外講師の関係者が聴講することがあります。</p> <p>また、授業の様子をカメラ・ビデオで撮影することがあります。</p>			

科目名	健康科学	科目名(英文)	Health Science
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	藤林 真美
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	我が国では、交通手段の発達や家事の自動化等により身体活動量が著しく低下しており、さらに食生活の欧米化等も影響して、生活習慣病にかかる人口は増加の一途をたどっている。一方で、うつ病等にかかる人口も激増しており、メンタルヘルスの保持増進も重要課題となっている。本講義では、学生諸君が在学中のみならず生涯にわたり心身の健康を維持・増進するため、健康に関して科学的な裏付けに基づいた知識を幅広く身につけ、講義内容を実践できる能力を身につけることを目的とする。 学科の学習・教育目標との対応：工学部[A]，理工学部 [I1]
到達目標	健康に関する幅広い知識を理解し、実生活に応用することができる。
授業方法と留意点	毎回の授業開始時にレジュメを配布する。授業終了後、課題を課すので次週の授業開始時に提出のこと。
科目学習の効果(資格)	

教養科目

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	日本人の健康に関する現状を把握し、本講義の意義について述べる。	授業終了時に課題を提示する。
2	健康づくりの三本柱	健康づくりのための三本柱とされている「運動」「栄養」「休養」と、その相互作用について解説する。学生諸君は自身の生活について振り返り、改善すべき点があるか検討する。	授業終了時に課題を提示する。
3	身体の生理機能	食べたものはどこへいくか？吸った酸素はどこでどんな作用をするか？生体の生理について復習する。	授業終了時に課題を提示する。
4	運動トレーニングが肥満対策になる所以	メタボリック症候群の定義、その温床にある内臓肥満について解説する。また肥満、糖尿病、脂質異常症など生活習慣病について解説し、その予防になぜ運動トレーニングが効果的なのか、最新の知見と関連させて解説する。	授業終了時に課題を提示する。
5	運動トレーニングで何が変わるか？	運動トレーニングにより、筋力増強、持久力向上、骨代謝、エネルギー代謝などが改善される。それらのメカニズムについて解説する。	授業終了時に課題を提示する。
6	どんな運動(種類・時間・頻度)が健康によいのか？	第5回で解説した運動トレーニングの効果は、運動方法によってその作用が異なる。肥満解消、筋力増大、骨の増強など目的に応じたトレーニング方法について解説する。	授業終了時に課題を提示する。
7	基礎栄養学	各栄養素の種類や機能について解説する。日ごろの食生活を振り返り、改善すべき点があるか否か検討する。	授業終了時に課題を提示する。
8	食生活と健康	前回の内容を踏まえ、望ましい食事について「食事バランスガイド」に基づいて解説する。	授業終了時に課題を提示する。
9	ダイエット計画	近年、性別や年齢による身体の見え方や中身(体重や体脂肪率など)の違いが明らかになっている。この違いを理解したうえで、望ましいダイエット方法について解説する。	授業終了時に課題を提示する。
10	女性の健康・男性の健康	性別による身体的特徴と性ホルモンの作用、さらに男女それぞれの加齢変化も踏まえて解説する。	授業終了時に課題を提示する。
11	ストレスマネジメント	近年増加しているうつ病について概説し、うつ病やメンタルヘルス、ストレス対策として運動が有効なのか、最新の知見を紹介しながら解説する。また他の精神障害についても概説する。	授業終了時に課題を提示する。
12	睡眠	睡眠がどのような役割を果たしているか解説する。日ごろの睡眠について振り返り、改善すべき点があるか否か検討する。	授業終了時に課題を提示する。
13	アルコールと喫煙、薬物、性感染症	アルコールやタバコ、薬物が身体にどのように影響を及ぼすか解説する。またHIVなど性感染症についても解説する。	授業終了時に課題を提示する。
14	高齢者の介護予防と運動	わが国は超高齢化社会となり、今後さらに高齢者人口が増大することが見込まれている。運動がなぜ介護予防に効果的なのか、解剖学・生理学の立場から解説する。	授業終了時に課題を提示する。
15	総括	本講義の総括と、健康に関する諸問題について考える。	本授業で習得した内容を総括。

関連科目	スポーツ科学実習Ⅰ・Ⅱ、生涯スポーツ実習			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名

	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	期末試験 50%、レポート 30%、授業態度 20%の割合で評価する。			
学生への メッセージ	皆さんが将来、知的職業人として社会で活躍するためには、まず心身の健康の保持増進が大切です。健康科学の基本を理解して、心身のセルフマネジメントができるようになることを希求します。			
担当者の 研究室等	総合体育館 1 階 藤林研究室			
備考	1) 毎回の課題は 1 時間以上かけて作成のこと。 2) 毎回の課題以外に、講義の予習復習として 30 分以上かけること。 3) 自主学習は試験の準備を含めて、20 時間かけること。			

科目名	公衆衛生学	科目名(英文)	Public Health Science
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	小堀 栄子
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	産業が発達して都市に人口が集中し始めた18世紀に、人々の健康を集団の健康問題として対処すべき必要性から公衆衛生の概念が生まれた。ここでは個人ではなく集団や社会を対象とした健康問題の把握・対処方法がとられ、領域も環境、地域、産業、学校など多岐にわたる。本科目では、公衆衛生の歴史、日本人の健康問題の変化と現状、及び各領域の公衆衛生について取り上げる。また、社会の変化に伴って、現在の公衆衛生制度が抱える課題について考察する。																																																																		
到達目標	私たちの健康に影響を与える環境や社会を理解し、公衆衛生の取り組みを有機的に理解する。																																																																		
授業方法と留意点	講義中心。視聴覚教材も用いる。																																																																		
科目学習の効果(資格)																																																																			
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td>公衆衛生とは</td><td>公衆衛生の歴史と概要</td><td>最新ニュースに留意</td></tr> <tr><td>2</td><td>保健統計(1)</td><td>日本の人口</td><td>最新ニュースに留意</td></tr> <tr><td>3</td><td>保健統計(2)</td><td>健康指標</td><td>最新ニュースに留意</td></tr> <tr><td>4</td><td>疫学</td><td>集団の疾病をとらえる</td><td>最新ニュースに留意</td></tr> <tr><td>5</td><td>疾病予防</td><td>予防医学の考え方</td><td>最新ニュースに留意</td></tr> <tr><td>6</td><td>感染症(1)</td><td>感染症の疫学</td><td>最新ニュースに留意</td></tr> <tr><td>7</td><td>感染症(2)</td><td>感染症と予防</td><td>最新ニュースに留意</td></tr> <tr><td>8</td><td>慢性疾患(1)</td><td>慢性疾患の疫学</td><td>最新ニュースに留意</td></tr> <tr><td>9</td><td>慢性疾患(2)</td><td>慢性疾患と予防</td><td>最新ニュースに留意</td></tr> <tr><td>10</td><td>環境保健(1)</td><td>環境が健康に及ぼす影響</td><td>最新ニュースに留意</td></tr> <tr><td>11</td><td>環境保健(2)</td><td>地球規模の環境問題と取り組み</td><td>最新ニュースに留意</td></tr> <tr><td>12</td><td>地域保健(1)</td><td>地域保健の仕組み</td><td>最新ニュースに留意</td></tr> <tr><td>13</td><td>地域保健(2)</td><td>母子保健、高齢者保健</td><td>最新ニュースに留意</td></tr> <tr><td>14</td><td>学校保健・産業保健</td><td>児童・学生・勤労者の健康</td><td>最新ニュースに留意</td></tr> <tr><td>15</td><td>国際保健</td><td>世界の健康・日本の健康</td><td>最新ニュースに留意</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	公衆衛生とは	公衆衛生の歴史と概要	最新ニュースに留意	2	保健統計(1)	日本の人口	最新ニュースに留意	3	保健統計(2)	健康指標	最新ニュースに留意	4	疫学	集団の疾病をとらえる	最新ニュースに留意	5	疾病予防	予防医学の考え方	最新ニュースに留意	6	感染症(1)	感染症の疫学	最新ニュースに留意	7	感染症(2)	感染症と予防	最新ニュースに留意	8	慢性疾患(1)	慢性疾患の疫学	最新ニュースに留意	9	慢性疾患(2)	慢性疾患と予防	最新ニュースに留意	10	環境保健(1)	環境が健康に及ぼす影響	最新ニュースに留意	11	環境保健(2)	地球規模の環境問題と取り組み	最新ニュースに留意	12	地域保健(1)	地域保健の仕組み	最新ニュースに留意	13	地域保健(2)	母子保健、高齢者保健	最新ニュースに留意	14	学校保健・産業保健	児童・学生・勤労者の健康	最新ニュースに留意	15	国際保健	世界の健康・日本の健康	最新ニュースに留意
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	公衆衛生とは	公衆衛生の歴史と概要	最新ニュースに留意																																																																
2	保健統計(1)	日本の人口	最新ニュースに留意																																																																
3	保健統計(2)	健康指標	最新ニュースに留意																																																																
4	疫学	集団の疾病をとらえる	最新ニュースに留意																																																																
5	疾病予防	予防医学の考え方	最新ニュースに留意																																																																
6	感染症(1)	感染症の疫学	最新ニュースに留意																																																																
7	感染症(2)	感染症と予防	最新ニュースに留意																																																																
8	慢性疾患(1)	慢性疾患の疫学	最新ニュースに留意																																																																
9	慢性疾患(2)	慢性疾患と予防	最新ニュースに留意																																																																
10	環境保健(1)	環境が健康に及ぼす影響	最新ニュースに留意																																																																
11	環境保健(2)	地球規模の環境問題と取り組み	最新ニュースに留意																																																																
12	地域保健(1)	地域保健の仕組み	最新ニュースに留意																																																																
13	地域保健(2)	母子保健、高齢者保健	最新ニュースに留意																																																																
14	学校保健・産業保健	児童・学生・勤労者の健康	最新ニュースに留意																																																																
15	国際保健	世界の健康・日本の健康	最新ニュースに留意																																																																
関連科目	なし																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>シンプル衛生公衆衛生学 2015</td> <td>鈴木 庄亮</td> <td>南江堂</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	シンプル衛生公衆衛生学 2015	鈴木 庄亮	南江堂	2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	シンプル衛生公衆衛生学 2015	鈴木 庄亮	南江堂																																																																
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>国民衛生の動向 2014/2015</td> <td>厚生労働統計協会</td> <td>厚生労働統計協会</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	国民衛生の動向 2014/2015	厚生労働統計協会	厚生労働統計協会	2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	国民衛生の動向 2014/2015	厚生労働統計協会	厚生労働統計協会																																																																
2																																																																			
3																																																																			
評価方法(基準)	定期試験 60%以上で合格。授業全 15 回出席が前提。出席の扱いは学生便覧のとおり(「出席状況が好ましくない場合は、単位を認めないことがあります」学生便覧より)。																																																																		
学生へのメッセージ	<ul style="list-style-type: none"> ・授業では、公衆衛生学を学んでいくうえで最低限必要な理解の枠組みと、その枠組みを理解するうえで最低限必要な知識について講義する。教科書を読むだけではわかりにくいので、毎回の授業には真剣に臨むこと。 ・授業中の私語、教室の出入りは厳禁 ・授業中であてられたとき教室にいなかった場合は欠席扱い 																																																																		
担当者の研究室等	枚方キャンパス 看護学部 3 階 24																																																																		
備考																																																																			

科目名	自然地理学	科目名(英文)	Physical Geography
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	笠原 俊則
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等	【科目】教科に関する科目(中学校 社会) 【施行規則に定める科目区分】地理学(地誌を含む。) 【教員免許状取得のための履修区分】必修 【科目】教科に関する科目(高等学校 地理歴史) 【施行規則に定める科目区分】人文地理学及び自然地理学 【教員免許状取得のための履修区分】必修		

教養科目

授業概要・目的	自然環境が人間の活動にどのような影響を与えてきたか、またそれらを我々人類はどのようにして改良し、居住地域の拡大に努めてきたかを自然地理学的視点から理解することを目的としている。その際、我々人類の生活舞台である地表について、地形・気候・土壌・植生・水文環境など、自然地理学に関する基礎的知識を習得できるよう説明していきたい。
到達目標	地理学は人間に関わる学問であり、学生諸君には、我々人類は環境改変者であり、自分自身もその一員であるという自覚を持ってもらえたら、講義の目的の半分は達成されたものといえる。さらに、この講義を通じて、地理学の入門的知識を身につけ、常に環境に配慮した行動が取れるようになってくれることを期待している。
授業方法と留意点	講義形式で行う。テキストは特に指定しない。適宜講義中にプリントを配布していく予定である。
科目学習の効果(資格)	人間活動が、我々を取り巻く環境に及ぼす影響を与えているかを、身近に感じ取ることができるようになる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	地理学および自然地理学について	地理学の歴史および自然地理学の分野	高校時代に地理A,あるいは地理Bを履修した者は、「環境」の項目を、しっかり読んでおいてください。
2	地理学と環境	人類による環境への働きかけの歴史(過去から現在まで)	配布プリントに目を通しておいて下さい。前回の講義内容を各自で確認しておいて下さい。
3	様々な地形と生活ーその1ー	谷底平野・台地・河岸段丘の地形と生活	配布プリントに目を通しておいて下さい。前回の講義内容を各自で確認しておいて下さい。
4	様々な地形と生活ーその2ー	扇状地・自然堤防帯・三角州の地形と生活	配布プリントに目を通しておいて下さい。前回の講義内容を各自で確認しておいて下さい。
5	世界の気候ーその1ー	熱帯気候・乾燥気候・高山気候	配布プリントに目を通しておいて下さい。前回の講義内容を各自で確認しておいて下さい。
6	世界の気候ーその2ー	温帯気候・冷帯気候・寒帯気候	配布プリントに目を通しておいて下さい。前回の講義内容を各自で確認しておいて下さい。
7	世界の植生と土壌	世界の気候との関連からみた植生および土壌	配布プリントに目を通しておいて下さい。前回の講義内容を各自で確認しておいて下さい。
8	都市気候	・都市気候とは ・都市気候と緑地 ・都市気候の具体的な例	配布プリントに目を通しておいて下さい。前回の講義内容を各自で確認しておいて下さい。
9	都市化にともなう水文環境の変化	・都市化の進展と水文環境の変化 ・都市化にともなう水災害の変化	配布プリントに目を通しておいて下さい。前回の講義内容を各自で確認しておいて下さい。
10	水文環境と生活ーその1ー	・水が我々の生活に及ぼす影響を与えているか	配布プリントに目を通しておいて下さい。前回の講義内容を各自で確認しておいて下さい。
11	水文環境と生活ーその2ー	・水資源と農業	配布プリントに目を通しておいて下さい。前回の講義内容を各自で確認しておいて下さい。
12	ダム上流における自然環境の変化	・ダム堆砂 ・ダム上流における河床上昇とその影響	配布プリントに目を通しておいて下さい。前回の講義内容を各自で確認しておいて下さい。
13	ダム下流における自然環境の変化	・ダム下流における河床の低下 ・日本における海岸浸食の状況	配布プリントに目を通しておいて下さい。前回の講義内容を各自で確認しておいて下さい。
14	離島における地下ダムの建設	・宮古島における地下ダムの建設	配布プリントに目を通しておいて下さい。前回の講義内容を各自で確認しておいて下さい。
15	自然地理学の役割を考える	・全体のまとめ	配布プリントに目を通しておいて下さい。前回の講義内容を各自で確認しておいて下さい。

関連科目 「環境関連科目」等

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	人間活動と環境変化	吉越昭久編	古今書院
2				
3				

評価方法(基準) 定期試験80%、授業への参加状況20%とする。なお、参加状況を把握するため、時々、チェックシートを配布し、授業内容について記入してもらうことにする。

学生へのメッセージ 地理学には地図が付きものである。講義中に出てくる地名を地図帳で確認すれば、内容がより理解しやすくなるであろう。現在の高校教育では地理が選択になっているため、履修していない人もいると思われるが、もし高校時代に用いた地図帳があれば、講義中に持参して欲しい。なお、指定テキストは後期の「地理学Ⅱ」でも使用する予定である。

担当者の研究室等 7号館2階(非常勤講師控室)

備考

科目名	社会学	科目名(英文)	Sociology
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	武田 祐佳
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等	【科目】教科に関する科目(中学校 社会) 【施行規則に定める科目区分】「社会学、経済学」 【教員免許状取得のための履修区分】選択 【科目】教科に関する科目(高等学校 公民) 【施行規則に定める科目区分】「社会学、経済学(国際経済を含む。)」 【教員免許状取得のための履修区分】選択		

授業概要・目的	身近な例をあげながら、社会学の基礎的な概念(キーワード)と社会的なものの見方について解説します。それらを通して、人が「社会的な存在」—他者から影響をうけ、また他者に対して影響を与える存在であることを理解するとともに、社会の仕組みについて学んでいきます。
到達目標	社会学の基礎的な概念を理解し、学んだ概念を使って人間関係や社会現象を解説する「社会的思考力」を身につける。
授業方法と留意点	講義は1回完結のオムニバス形式でおこないます。教科書は使用せず、レジュメ・資料を配布します。参考書は授業中に適宜紹介します。時には視聴覚資料を用いることもあります。なお、講義の内容・順序が若干変更されることがあります。
科目学習の効果(資格)	社会的なものの見方を学ぶことによって、これまであたりまえと感じていた日常生活や社会現象に対する見方が多少なりとも変わるようになります。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	講義をはじめるにあたって	オリエンテーション	授業の進め方・目標を理解する
2	社会学における基礎的知識と発想	社会的存在としての人間(1)—社会化	配布レジュメをもとに授業内容に関する復習
3	社会学における基礎的知識と発想	社会的存在としての人間(2)—役割	配布レジュメをもとに授業内容に関する復習
4	社会学における基礎的知識と発想	社会的存在としての人間(3)—社会秩序	配布レジュメをもとに授業内容に関する復習
5	社会学における基礎的知識と発想	社会的存在としての人間(4)—自己	配布レジュメをもとに授業内容に関する復習
6	社会学における基礎的知識と発想	集団・組織のなかの人間(1)	配布レジュメをもとに授業内容に関する復習
7	社会学における基礎的知識と発想	集団・組織のなかの人間(2)	配布レジュメをもとに授業内容に関する復習
8	社会学における基礎的知識と発想	集団・組織のなかの人間(3)	配布レジュメをもとに授業内容に関する復習
9	社会学における基礎的知識と発想	ラベリング	配布レジュメをもとに授業内容に関する復習
10	社会学における基礎的知識と発想	予言の自己成就	配布レジュメをもとに授業内容に関する復習
11	社会学における基礎的知識と発想	社会的ジレンマ	配布レジュメをもとに授業内容に関する復習
12	社会学における基礎的知識と発想	ジェンダー	配布レジュメをもとに授業内容に関する復習
13	社会学における基礎的知識と発想	相対的はく奪	配布レジュメをもとに授業内容に関する復習
14	社会学における基礎的知識と発想	アノミー	配布レジュメをもとに授業内容に関する復習
15	講義を終えるにあたって	まとめ	配布レジュメをもとに授業内容に関する復習

関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>なし</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	なし			2				3			
	番号	書籍名	著者名	出版社名													
	1	なし															
	2																
3																	

参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>なし</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	なし			2				3			
	番号	書籍名	著者名	出版社名													
	1	なし															
	2																
3																	

評価方法(基準)	期末試験…70%、授業参加度(授業中に提出してもらったリアクション・ペーパーの内容を評価)…30%
----------	---

学生へのメッセージ	「社会学」は高校までにはなかったカリキュラムなので、学問のイメージが浮かびにくいと思います。社会学では普段私たちがあたりまえと信じていたり、気にもとめないことがらを「見よう」「理解しよう」とするので、難しいことばが出てきますが、授業では身近な例をあげ、できるだけ平易に解説していきます。なお、授業中は私語を慎み、それなりの意欲をもって授業に臨んでください。
-----------	--

担当者の研究室等	
備考	

科目名	社会と人権	科目名(英文)	Human rights and Society
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	有馬 善一, 林田 敏子, 松島 裕一
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	<p>本科目は、人間が人間として尊重されるということの意味を、具体的な生活や行動と関わらせて考えること、またそのような思索の成果を実際の生活や行動に反映させることを目的とし、そのための知識や見方・考え方を受講生に提示する。</p> <p>本年度は、有馬(倫理学)、林田(西洋史)、松島(法哲学)を専門する教員が、それぞれ4ないし5回ずつ授業を行う。</p>
到達目標	<p>本授業を履修した学生は、次の項目について一定水準に達することが期待されます。</p> <p>① 社会と人権にかかわる事柄について倫理的観点から説明できる ② 社会と人権にかかわる事柄について西洋史的観点から説明できる ③ 社会と人権にかかわる事柄について法哲学的観点から説明できる ④ 社会と人権にかかわる事柄について、具体的な自分の生活と行動の場面に即して考えることができる</p>
授業方法と留意点	(有馬担当分) 板書・配付資料による講義形式。 (林田担当分) 板書・配布資料による講義形式。少人数であればディスカッションもおこないます。
科目学習の効果(資格)	人権問題について、印象論ではなく、正確な知識に基づいた理解を得ることができる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	「社会と人権について考える」ことを考える	担当者:松島、有馬、林田 ・授業内容・評価方法についての確認 ・社会と人権について履修生がどのような考え方をもっているかの確認	【事後学習】 人権にかかわるニュースを幅広く収集する(1時間)
2	自由と自己決定	担当者:松島 日本国憲法にはさまざまな自由権が規定されていますが、そもそも「自由」とは何でしょうか? J・S・ミルやI・バーリンらの議論を手掛かりにしなが、人権概念の根幹をなす「自由」というものの本質について考えてみます。	【事後学習】 パターナリズムにかんする具体的な設問を提示しますので、授業中にその問題について皆で議論し、後日レポート1000字程度を提出してください。(4時間)
3	表現の自由とその限界	担当者:松島 近年日本で社会問題になっているヘイトスピーチは、そもそも表現の自由(憲法21条)で保障される発言なのでしょうか? アメリカとドイツの法規制の違いを手がかりにして、表現の自由の限界について考えてみたいと思います。	【事後学習】 ヘイトスピーチにかんする具体的な設問を提示しますので、授業中にその問題について皆で議論し、後日レポート1000字程度を提出してください。(4時間)
4	格差社会における「平等」	担当者:松島 「自由」と並び、「平等」は人権概念の根幹をなす重要な概念ですが、そもそも平等とは何なのでしょう? J・ロールズやR・ドゥオーキンらの議論を手がかりにして、平等の本質について考えてみたいと思います。	【事後学習】 積極的差別是正措置にかんする具体的な設問を提示しますので、授業中にその問題について皆で議論し、後日レポート1000字程度を提出してください。(4時間)
5	動物の権利	担当者:松島 人権とはもちろん「人」に保障される権利ですが、それでは、人以外の「動物」にはいっさい権利が認められないのでしょうか? ビーター・シンガーの議論を手がかりにして、「動物の権利」について考えてみたいと思います。	【事後学習】 動物実験の是非にかんする具体的な設問を提示しますので、授業中にその問題について皆で議論し、後日レポート1000字程度を提出してください。(4時間)
6	人工妊娠中絶の是非をめぐって(1)	担当者:有馬 ・人工妊娠中絶をめぐる「プロ・ライフ」(中絶反対派)と「プロ・チョイス」(中絶擁護派)の論争とその社会的背景について解説をする。 ・トムソンの論文について解説をした上で、トムソンの主張について周囲の学生とディスカッションをする。	【事前学習】 「プロ・ライフ」、「プロ・チョイス」という言葉の意味を調べておく。 【事後学習】 トムソンの主張についての自分の考えをまとめて、レポートを提出する。(合計4時間)
7	人工妊娠中絶の是非をめぐって(2)	担当者:有馬 ・前回のディスカッションのまとめ。 ・パーソン論と人工妊娠中絶問題とのつ	【事前学習】 パーソンという言葉の意味を調べてくる。 【事後学習】 トゥーリの主張について自分の考えをまとめて、レ

			ながりを説明する。 ・トゥーリの論文について解説をした上で、トゥーリの主張についてディスカッションをする。	ポートを提出する。 (合計4時間)																
8	安楽死をめぐる(1)	担当者:有馬 ・前回のディスカッションのまとめ ・終末期医療における人権問題の概要 ・日本における「尊厳死」の問題について解説をする。		【事前学習】 日本尊厳死協会のホームページを読んでおく。 「安楽死」、「尊厳死」という言葉の意味を調べておく。 【事後学習】 安楽死と尊厳死の違いについて、概念整理をして、レポートを提出する。 (合計4時間)																
9	安楽死をめぐる(2)	担当者:有馬 ・前回のディスカッションのまとめ ・「死ぬ権利」に対するオランダやベルギーの考え方を紹介する。 ・安楽死の是非についてディスカッションをする。		【事前学習】 安楽死に関係する海外のニュースを調べておく。 【事後学習】 安楽死についてのオランダ、ベルギーの考え方について、自分なりの意見をまとめて、レポートを提出する。 (合計4時間)																
10	生きることと善く生きること	担当者:有馬 「善く生きる」とはどのようなことを考えます。		【事前学習】 『ソクラテスの弁明』を通読しておく。 (3時間)																
11	女性と人権	担当者:林田 ・差別と区別 ～女性専用車両をめぐる～ ・「女らしさ」と「男らしさ」		【事前学習】 「女性と人権」という言葉から連想する社会問題を列挙し、もっとも興味のあるものについて自分の意見をまとめてくる。(4時間)																
12	人権宣言の歴史的背景	担当者:林田 ・人権概念の歴史的生成過程～アメリカ独立宣言を中心に～ ・もう一つのフランス革命～オランブ・ドゥ・グージュの「女性の人権宣言」～		【事後学習】 人権宣言の画期的な点と、「残された問題」についてまとめる。(4時間)																
13	女性は戦争をどう「戦った」か	担当者:林田 ・犠牲者としての女性 ・戦いを鼓舞する女性		【事後学習】 「戦争があぶりだすジェンダー問題」についてまとめる。(4時間)																
14	戦場における女性	担当者:林田 ・「戦う」女性～募兵運動、兵器製造、従軍～ ・女性兵士をめぐる		【事後学習】 「女性兵士」の是非をめぐる議論の要点をまとめてくる。(4時間)																
15	「ジェンダー・フリー」の罨	担当者:林田 セクシュアル・ハラスメント、ドメスティック・バイオレンスから女性専用車両にいたるまで、身近にあるジェンダー問題を通して、ジェンダー・フリーへ向けた取り組みが抱える問題について考える(ディスカッションもしくは、小発表形式)。		【事前学習】 3回の授業内容を踏まえ、ディスカッション(もしくは小発表)の内容を踏まえて、自分の考えをまとめる。(4時間)																
関連科目	法学などのさまざまな科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2																				
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2																				
3																				
評価方法(基準)	3名の担当者が課す課題を100点満点で評価し、その平均点で評価します。 それぞれの担当者の評価方法については、授業計画で確認ください。																			
学生へのメッセージ	教室に来て、座って聞いているだけでも、もちろんためになります。それだけではなく、自分で考えてもらうための作業をたくさん行います。																			
担当者の研究室等	有馬(7号館4階) 林田(7号館4階) 松島(11号館9階)																			
備考	有馬担当 参考図書 加藤・飯田編 『バイオエシックスの基礎』、東海大学出版会 三井美奈 『安楽死のできる国』 新潮新書																			

科目名	就職実践基礎	科目名(英文)	Preparation Program for Employment Examination
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	亀田 峻宣
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	就職活動時の筆記試験対策(算数・数学)について学び、筆記試験を通過する実力をつけることを目標とする授業です。この講義では、3回生で実際の出題レベルの対策を行うために必要な、算数・数学の基礎を固めるための授業です。就職活動では、筆記試験で算数・数学に苦勞する学生がとて多いですので、早めに対策をしておきましょう。算数・数学が苦手な学生や、大学に入って(もしくはそれ以前から)算数・数学に触れていない学生は特にお勧めします。
到達目標	就職活動に必要な筆記試験の実力を身につけること
授業方法と留意点	授業は実践形式で行います。問題を解き、解説するという流れになります。就職活動の筆記試験を通過する実力をつけることが目的です。講義に集中して参加し、毎回の講義問題や教科書の復習を行うことが必要になります。
科目学習の効果(資格)	就職活動に必要な数学力のうち、特に基礎的な部分を身につける

教養科目

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	テスト	実力確認テスト	シラバス熟読
	2	方程式	方程式	方程式を復習しておくこと
	3	速度算	速度の基礎	文章題による速度算について復習しておくこと
	4	割合	割合の基礎・濃度算	文章題による割合について復習しておくこと
	5	分数問題	仕事算・分割払い	文章題による仕事算・分割払いについて復習しておくこと
	6	金銭問題	損益算	文章題による損益算について復習しておくこと
	7	場合の数・確率	場合の数・確率	文章題による場合の数・確率を復習しておくこと
	8	テスト	中間テスト	2~7回目の範囲を事前に勉強しておくこと
	9	集合・領域	集合の基礎・領域	集合・領域を復習しておくこと
	10	表の読み取り	表の読み取り	表の読み取り問題を復習しておくこと
	11	論理	命題・推論①	命題について復習しておくこと
	12	論理	推論②	推論について復習しておくこと
	13	論理	ブラックボックス・物の流れ	ブラックボックス・物の流れについて復習しておくこと
	14	総復習	総復習①	全ての範囲を事前に勉強しておくこと
	15	テスト	最終テスト	全ての範囲を事前に勉強しておくこと

関連科目: キャリアデザインⅡ、インターンシップⅠ・Ⅱ

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	オリジナル教材を使用します。また適宜 Smart SPI の活用を指示します。		
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	その他 SPI や玉手箱関連の問題集		
	2			
	3			

評価方法(基準): 小テスト 40%、中間テスト・最終テスト 50%、SmartSPI 10%
その他授業態度などで加減します。

学生へのメッセージ: 7~8割の企業が就職活動で筆記試験を課すと言われています。早めの対策しておくこと、受けることのできる会社が広がります。その一方、毎年多くの3回生が秋・冬から筆記試験対策を始め、他の就職活動が忙しく時間を勉強できないままです。早めに対策をしておきましょう。受講する以上は、講義に集中し、毎回復習して確実に問題を解けるようになってください。

担当者の研究室等備考: 7号館3階 キャリア教育推進室

科目名	就職実践基礎	科目名(英文)	Preparation Program for Employment Examination
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	亀田 峻宣
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	就職活動時の筆記試験対策(算数・数学)について学び、筆記試験を通過する実力をつけることを目標とする授業です。この講義では、3回生で実際の出題レベルの対策を行うために必要な、算数・数学の基礎を固めるための授業です。就職活動では、筆記試験で算数・数学に苦勞する学生がとて多いですので、早めに対策をしておきましょう。算数・数学が苦手な学生や、大学に入って(もしくはそれ以前から)算数・数学に触れていない学生は特にお勧めします。
到達目標	就職活動に必要な筆記試験の実力を身につけること
授業方法と留意点	授業は実践形式で行います。問題を解き、解説するという流れになります。就職活動の筆記試験を通過する実力をつけることが目的です。講義に集中して参加し、毎回の講義問題や教科書の復習を行うことが必要になります。
科目学習の効果(資格)	就職活動に必要な数学力のうち、特に基礎的な部分を身につける

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	テスト	実力確認テスト	シラバス熟読
	2	方程式	方程式	方程式を復習しておくこと
	3	速度算	速度の基礎	文章題による速度算について復習しておくこと
	4	割合	割合の基礎・濃度算	文章題による割合について復習しておくこと
	5	分数問題	仕事算・分割払い	文章題による仕事算・分割払いについて復習しておくこと
	6	金銭問題	損益算	文章題による損益算について復習しておくこと
	7	場合の数・確率	場合の数・確率	文章題による場合の数・確率を復習しておくこと
	8	テスト	中間テスト	2~7回目の範囲を事前に勉強しておくこと
	9	集合・領域	集合の基礎・領域	集合・領域を復習しておくこと
	10	表の読み取り	表の読み取り	表の読み取り問題を復習しておくこと
	11	論理	命題・推論①	命題について復習しておくこと
	12	論理	推論②	推論について復習しておくこと
	13	論理	ブラックボックス・物の流れ	ブラックボックス・物の流れについて復習しておくこと
	14	総復習	総復習①	全ての範囲を事前に勉強しておくこと
	15	テスト	最終テスト	全ての範囲を事前に勉強しておくこと

関連科目	キャリアデザインⅡ、インターンシップⅠ・Ⅱ
------	-----------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	オリジナル教材を使用します。また適宜 Smart SPI の活用を指示します。		
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	その他 SPI や玉手箱関連の問題集		
	2			
	3			

評価方法(基準)	小テスト 40%、中間テスト・最終テスト 50%、SmartSPI 10% その他授業態度などで加減します。
----------	---

学生へのメッセージ	7~8割の企業が就職活動で筆記試験を課すと言われています。早めの対策しておくこと、受けることのできる会社が広がります。その一方、毎年多くの3回生が秋・冬から筆記試験対策を始め、他の就職活動が忙しく時間を勉強できないままです。早めに対策をしておきましょう。受講する以上は、講義に集中し、毎回復習して確実に問題を解けるようになってください。
-----------	--

担当者の研究室等備考	7号館3階 キャリア教育推進室
------------	-----------------

科目名	就職実践基礎	科目名(英文)	Preparation Program for Employment Examination
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	西座 由紀
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	就職活動時の筆記試験対策(算数・数学)について学び、筆記試験を通過する実力をつけることを目標とする授業です。この講義では、3回生で実際の出題レベルの対策を行うために必要な、算数・数学の基礎を固めるための授業です。就職活動では、筆記試験で算数・数学に苦勞する学生がとて多いですので、早めに対策をしておきましょう。算数・数学が苦手な学生や、大学に入って(もしくはそれ以前から)算数・数学に触れていない学生は特にお勧めします。
到達目標	就職活動に必要な筆記試験の実力を身につけること
授業方法と留意点	授業は実践形式で行います。問題を解き、解説するという流れになります。就職活動の筆記試験を通過する実力をつけることが目的です。講義に集中して参加し、毎回の講義問題や教科書の復習を行うことが必要になります。
科目学習の効果(資格)	就職活動に必要な数学力のうち、特に基礎的な部分を身につける

教養科目

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	テスト	実力確認テスト	シラバス熟読
	2	方程式	方程式	方程式を復習しておくこと
	3	速度算	速度の基礎	文章題による速度算について復習しておくこと
	4	割合	割合の基礎・濃度算	文章題による割合について復習しておくこと
	5	分数問題	仕事算・分割払い	文章題による仕事算・分割払いについて復習しておくこと
	6	金銭問題	損益算	文章題による損益算について復習しておくこと
	7	場合の数・確率	場合の数・確率	文章題による場合の数・確率を復習しておくこと
	8	テスト	中間テスト	2~7回目の範囲を事前に勉強しておくこと
	9	集合・領域	集合の基礎・領域	集合・領域を復習しておくこと
	10	表の読み取り	表の読み取り	表の読み取り問題を復習しておくこと
	11	論理	命題・推論①	命題について復習しておくこと
	12	論理	推論②	推論について復習しておくこと
	13	論理	ブラックボックス・物の流れ	ブラックボックス・物の流れについて復習しておくこと
	14	総復習	総復習①	全ての範囲を事前に勉強しておくこと
	15	テスト	最終テスト	全ての範囲を事前に勉強しておくこと

関連科目: キャリアデザインⅡ、インターンシップⅠ・Ⅱ

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	オリジナル教材を使用します。また適宜 Smart SPI の活用を指示します。		
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	その他 SPI や玉手箱関連の問題集		
	2			
	3			

評価方法(基準): 小テスト 40%、中間テスト・最終テスト 50%、SmartSPI 10%
その他授業態度などで加減します。

学生へのメッセージ: 7~8割の企業が就職活動で筆記試験を課すと言われています。早めの対策しておくこと、受けることのできる会社が広がります。その一方、毎年多くの3回生が秋・冬から筆記試験対策を始め、他の就職活動が忙しく時間を勉強できないままです。早めに対策をしておきましょう。受講する以上は、講義に集中し、毎回復習して確実に問題を解けるようになってください。

担当者の研究室等備考: 7号館3階 キャリア教育推進室

科目名	就職実践基礎	科目名(英文)	Preparation Program for Employment Examination
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	橋本 朗子
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	就職活動時の筆記試験対策(算数・数学)について学び、筆記試験を通過する実力をつけることを目標とする授業です。この講義では、3回生で実際の出題レベルの対策を行うために必要な、算数・数学の基礎を固めるための授業です。就職活動では、筆記試験で算数・数学に苦勞する学生がとて多いですので、早めに対策をしておきましょう。算数・数学が苦手な学生や、大学に入って(もしくはそれ以前から)算数・数学に触れていない学生は特にお勧めします。
到達目標	就職活動に必要な筆記試験の実力を身につけること
授業方法と留意点	授業は実践形式で行います。問題を解き、解説するという流れになります。就職活動の筆記試験を通過する実力をつけることが目的です。講義に集中して参加し、毎回の講義問題や教科書の復習を行うことが必要になります。
科目学習の効果(資格)	就職活動に必要な数学力のうち、特に基礎的な部分を身につける

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	テスト	実力確認テスト	シラバス熟読
	2	方程式	方程式	方程式を復習しておくこと
	3	速度算	速度の基礎	文章題による速度算について復習しておくこと
	4	割合	割合の基礎・濃度算	文章題による割合について復習しておくこと
	5	分数問題	仕事算・分割払い	文章題による仕事算・分割払いについて復習しておくこと
	6	金銭問題	損益算	文章題による損益算について復習しておくこと
	7	場合の数・確率	場合の数・確率	文章題による場合の数・確率を復習しておくこと
	8	テスト	中間テスト	2~7回目の範囲を事前に勉強しておくこと
	9	集合・領域	集合の基礎・領域	集合・領域を復習しておくこと
	10	表の読み取り	表の読み取り	表の読み取り問題を復習しておくこと
	11	論理	命題・推論①	命題について復習しておくこと
	12	論理	推論②	推論について復習しておくこと
	13	論理	ブラックボックス・物の流れ	ブラックボックス・物の流れについて復習しておくこと
	14	総復習	総復習①	全ての範囲を事前に勉強しておくこと
	15	テスト	最終テスト	全ての範囲を事前に勉強しておくこと

関連科目	キャリアデザインⅡ、インターンシップⅠ・Ⅱ
------	-----------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	オリジナル教材を使用します。また適宜 Smart SPI の活用を指示します。		
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	その他 SPI や玉手箱関連の問題集		
	2			
	3			

評価方法(基準)	小テスト 40%、中間テスト・最終テスト 50%、SmartSPI 10% その他授業態度などで加減します。
----------	---

学生へのメッセージ	7~8割の企業が就職活動で筆記試験を課すと言われています。早めの対策しておくこと、受けることのできる会社が広がります。その一方、毎年多くの3回生が秋・冬から筆記試験対策を始め、他の就職活動が忙しく時間を勉強できないままです。早めに対策をしておきましょう。受講する以上は、講義に集中し、毎回復習して確実に問題を解けるようになってください。
-----------	--

担当者の研究室等備考	7号館3階 キャリア教育推進室
------------	-----------------

科目名	就職実践基礎	科目名(英文)	Preparation Program for Employment Examination
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	松田 剛典
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	就職活動時の筆記試験対策(算数・数学)について学び、筆記試験を通過する実力をつけることを目標とする授業です。この講義では、3回生で実際の出題レベルの対策を行うために必要な、算数・数学の基礎を固めるための授業です。就職活動では、筆記試験で算数・数学に苦勞する学生がとて多いですので、早めに対策をしておきましょう。算数・数学が苦手な学生や、大学に入って(もしくはそれ以前から)算数・数学に触れていない学生は特にお勧めします。
到達目標	就職活動に必要な筆記試験の実力を身につけること
授業方法と留意点	授業は実践形式で行います。問題を解き、解説するという流れになります。就職活動の筆記試験を通過する実力をつけることが目的です。講義に集中して参加し、毎回の講義問題や教科書の復習を行うことが必要になります。
科目学習の効果(資格)	就職活動に必要な数学力のうち、特に基礎的な部分を身につける

教養科目

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	テスト	実力確認テスト	シラバス熟読
	2	方程式	方程式	方程式を復習しておくこと
	3	速度算	速度の基礎	文章題による速度算について復習しておくこと
	4	割合	割合の基礎・濃度算	文章題による割合について復習しておくこと
	5	分数問題	仕事算・分割払い	文章題による仕事算・分割払いについて復習しておくこと
	6	金銭問題	損益算	文章題による損益算について復習しておくこと
	7	場合の数・確率	場合の数・確率	文章題による場合の数・確率を復習しておくこと
	8	テスト	中間テスト	2~7回目の範囲を事前に勉強しておくこと
	9	集合・領域	集合の基礎・領域	集合・領域を復習しておくこと
	10	表の読み取り	表の読み取り	表の読み取り問題を復習しておくこと
	11	論理	命題・推論①	命題について復習しておくこと
	12	論理	推論②	推論について復習しておくこと
	13	論理	ブラックボックス・物の流れ	ブラックボックス・物の流れについて復習しておくこと
	14	総復習	総復習①	全ての範囲を事前に勉強しておくこと
	15	テスト	最終テスト	全ての範囲を事前に勉強しておくこと

関連科目	キャリアデザインⅡ、インターンシップⅠ・Ⅱ
------	-----------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	オリジナル教材を使用します。また適宜 Smart SPI の活用を指示します。		
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	その他 SPI や玉手箱関連の問題集		
	2			
	3			

評価方法(基準)	小テスト 40%、中間テスト・最終テスト 50%、SmartSPI 10% その他授業態度などで加減します。
----------	---

学生へのメッセージ	7~8割の企業が就職活動で筆記試験を課すと言われていいます。早めの対策しておくこと、受けることのできる会社が広がります。その一方、毎年多くの3回生が秋・冬から筆記試験対策を始め、他の就職活動が忙しく時間を勉強できないままです。早めに対策をしておきましょう。受講する以上は、講義に集中し、毎回復習して確実に問題を解けるようになってください。
-----------	---

担当者の研究室等備考	7号館3階 キャリア教育推進室
------------	-----------------

科目名	就職実践基礎	科目名(英文)	Preparation Program for Employment Examination
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	松田 剛典
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	就職活動時の筆記試験対策(算数・数学)について学び、筆記試験を通過する実力をつけることを目標とする授業です。この講義では、3回生で実際の出題レベルの対策を行うために必要な、算数・数学の基礎を固めるための授業です。就職活動では、筆記試験で算数・数学に苦勞する学生がとて多いですので、早めに対策をしておきましょう。算数・数学が苦手な学生や、大学に入って(もしくはそれ以前から)算数・数学に触れていない学生は特にお勧めします。
到達目標	就職活動に必要な筆記試験の実力を身につけること
授業方法と留意点	授業は実践形式で行います。問題を解き、解説するという流れになります。就職活動の筆記試験を通過する実力をつけることが目的です。講義に集中して参加し、毎回の講義問題や教科書の復習を行うことが必要になります。
科目学習の効果(資格)	就職活動に必要な数学力のうち、特に基礎的な部分を身につける

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	テスト	実力確認テスト	シラバス熟読
	2	方程式	方程式	方程式を復習しておくこと
	3	速度算	速度の基礎	文章題による速度算について復習しておくこと
	4	割合	割合の基礎・濃度算	文章題による割合について復習しておくこと
	5	分数問題	仕事算・分割払い	文章題による仕事算・分割払いについて復習しておくこと
	6	金銭問題	損益算	文章題による損益算について復習しておくこと
	7	場合の数・確率	場合の数・確率	文章題による場合の数・確率を復習しておくこと
	8	テスト	中間テスト	2~7回目の範囲を事前に勉強しておくこと
	9	集合・領域	集合の基礎・領域	集合・領域を復習しておくこと
	10	表の読み取り	表の読み取り	表の読み取り問題を復習しておくこと
	11	論理	命題・推論①	命題について復習しておくこと
	12	論理	推論②	推論について復習しておくこと
	13	論理	ブラックボックス・物の流れ	ブラックボックス・物の流れについて復習しておくこと
	14	総復習	総復習①	全ての範囲を事前に勉強しておくこと
	15	テスト	最終テスト	全ての範囲を事前に勉強しておくこと

関連科目	キャリアデザインⅡ、インターンシップⅠ・Ⅱ
------	-----------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	オリジナル教材を使用します。また適宜 Smart SPI の活用を指示します。		
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	その他 SPI や玉手箱関連の問題集		
	2			
	3			

評価方法(基準)	小テスト 40%、中間テスト・最終テスト 50%、SmartSPI 10% その他授業態度などで加減します。
----------	---

学生へのメッセージ	7~8割の企業が就職活動で筆記試験を課すと言われています。早めの対策しておくこと、受けることのできる会社が広がります。その一方、毎年多くの3回生が秋・冬から筆記試験対策を始め、他の就職活動が忙しく時間を勉強できないままです。早めに対策をしておきましょう。受講する以上は、講義に集中し、毎回復習して確実に問題を解けるようになってください。
-----------	--

担当者の研究室等備考	7号館3階 キャリア教育推進室
------------	-----------------

科目名	就職実践基礎	科目名(英文)	Preparation Program for Employment Examination
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	西座 由紀
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	就職活動時の筆記試験対策(算数・数学)について学び、筆記試験を通過する実力をつけることを目標とする授業です。この講義では、3回生で実際の出題レベルの対策を行うために必要な、算数・数学の基礎を固めるための授業です。就職活動では、筆記試験で算数・数学に苦勞する学生がとて多いですので、早めに対策をしておきましょう。算数・数学が苦手な学生や、大学に入って(もしくはそれ以前から)算数・数学に触れていない学生は特にお勧めします。
到達目標	就職活動に必要な筆記試験の実力を身につけること
授業方法と留意点	授業は実践形式で行います。問題を解き、解説するという流れになります。就職活動の筆記試験を通過する実力をつけることが目的です。講義に集中して参加し、毎回の講義問題や教科書の復習を行うことが必要になります。
科目学習の効果(資格)	就職活動に必要な数学力のうち、特に基礎的な部分を身につける

教養科目

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	テスト	実力確認テスト	シラバス熟読
	2	方程式	方程式	方程式を復習しておくこと
	3	速度算	速度の基礎	文章題による速度算について復習しておくこと
	4	割合	割合の基礎・濃度算	文章題による割合について復習しておくこと
	5	分数問題	仕事算・分割払い	文章題による仕事算・分割払いについて復習しておくこと
	6	金銭問題	損益算	文章題による損益算について復習しておくこと
	7	場合の数・確率	場合の数・確率	文章題による場合の数・確率を復習しておくこと
	8	テスト	中間テスト	2~7回目の範囲を事前に勉強しておくこと
	9	集合・領域	集合の基礎・領域	集合・領域を復習しておくこと
	10	表の読み取り	表の読み取り	表の読み取り問題を復習しておくこと
	11	論理	命題・推論①	命題について復習しておくこと
	12	論理	推論②	推論について復習しておくこと
	13	論理	ブラックボックス・物の流れ	ブラックボックス・物の流れについて復習しておくこと
	14	総復習	総復習①	全ての範囲を事前に勉強しておくこと
	15	テスト	最終テスト	全ての範囲を事前に勉強しておくこと

関連科目: キャリアデザインⅡ、インターンシップⅠ・Ⅱ

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	オリジナル教材を使用します。また適宜 Smart SPI の活用を指示します。		
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	その他 SPI や玉手箱関連の問題集		
	2			
	3			

評価方法(基準): 小テスト 40%、中間テスト・最終テスト 50%、SmartSPI 10%
その他授業態度などで加減します。

学生へのメッセージ: 7~8割の企業が就職活動で筆記試験を課すと言われています。早めの対策しておくこと、受けることのできる会社が広がります。その一方、毎年多くの3回生が秋・冬から筆記試験対策を始め、他の就職活動が忙しく時間を勉強できないままです。早めに対策をしておきましょう。受講する以上は、講義に集中し、毎回復習して確実に問題を解けるようになってください。

担当者の研究室等備考: 7号館3階 キャリア教育推進室

科目名	就職実践基礎	科目名(英文)	Preparation Program for Employment Examination
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	亀田 峻宣
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	就職活動時の筆記試験対策(算数・数学)について学び、筆記試験を通過する実力をつけることを目標とする授業です。この講義では、3回生で実際の出題レベルの対策を行うために必要な、算数・数学の基礎を固めるための授業です。就職活動では、筆記試験で算数・数学に苦勞する学生がとて多いですので、早めに対策をしておきましょう。算数・数学が苦手な学生や、大学に入って(もしくはそれ以前から)算数・数学に触れていない学生は特にお勧めします。
到達目標	就職活動に必要な筆記試験の実力を身につけること
授業方法と留意点	授業は実践形式で行います。問題を解き、解説するという流れになります。就職活動の筆記試験を通過する実力をつけることが目的です。講義に集中して参加し、毎回の講義問題や教科書の復習を行うことが必要になります。
科目学習の効果(資格)	就職活動に必要な数学力のうち、特に基礎的な部分を身につける

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	講座の目的・意義	シラバス熟読
	2	テスト	実力確認テスト	シラバス熟読
	3	方程式	方程式	方程式を復習しておくこと
	4	速度算	速度の基礎	文章題による速度算について復習しておくこと
	5	割合	割合の基礎・濃度算	文章題による割合について復習しておくこと
	6	分数問題	仕事算・分割払い	文章題による仕事算・分割払いについて復習しておくこと
	7	金銭問題	損益算	文章題による損益算について復習しておくこと
	8	場合の数・確率	場合の数・確率	文章題による場合の数・確率を復習しておくこと
	9	テスト	中間テスト	2~8回目の範囲を事前に勉強しておくこと
	10	集合・領域	集合の基礎・領域	集合・領域を復習しておくこと
	11	表の読み取り	表の読み取り	表の読み取り問題を復習しておくこと
	12	論理	命題・推論①	命題について復習しておくこと
	13	論理	推論②	推論について復習しておくこと
	14	総復習	総復習①	全ての範囲を事前に勉強しておくこと
	15	テスト	最終テスト	全ての範囲を事前に勉強しておくこと

関連科目	キャリアデザインⅡ、インターンシップⅠ・Ⅱ
------	-----------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	オリジナル教材を使用します。また適宜 Smart SPI の活用を指示します。		
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	小学校6年間の算数が6時間でわかる本	間地 秀三	PHP 研究所
	2			
	3			

評価方法(基準)	小テスト 40%、中間テスト・最終テスト 50%、SmartSPI 10% その他授業態度などで加減します。
----------	---

学生へのメッセージ	7~8割の企業が就職活動で筆記試験を課すと言われています。早めの対策しておくこと、受けることのできる会社が広がります。その一方、毎年多くの3回生が秋・冬から筆記試験対策を始め、他の就職活動が忙しく時間を勉強できないままです。早めに対策をしておきましょう。受講する以上は、講義に集中し、毎回復習して確実に問題を解けるようになってください。
-----------	--

担当者の研究室等備考	7号館3階 キャリア教育推進室
------------	-----------------

科目名	人文地理学	科目名(英文)	Human Geography
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	木本 浩一
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等	【科目】教科に関する科目(中学校 社会) 【施行規則に定める科目区分】地理学(地誌を含む。) 【教員免許状取得のための履修区分】必修 【科目】教科に関する科目(高等学校 地理歴史) 【施行規則に定める科目区分】人文地理学及び自然地理学 【教員免許状取得のための履修区分】必修		

教養科目

授業概要・目的	現代社会は空間の時代であると言っても過言ではない。グローバル化が進展するとされる一方で、地域分権やコミュニティの再生などが喧伝される。これまで知識の学としてみられていた地理学は、改めて現代社会における空間や地域の学として期待されている。本講義では、位置、場所(空間)、スケール、交通、地域などのキーワードを手がかりとして、地理学的な考え方について概説したい。		
到達目標	1) 地理学の中で人文地理学の位置づけを行えるようになる。 2) 人文地理学の考え方・方法について理解できる。 3) 諸事象を人文地理学の観点から考察できる。		
授業方法と留意点	高校時の地図帳を持参して下さい。		
科目学習の効果(資格)			
授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等 事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	・人文地理学とは何か? ・系統地理学としての人文地理学 ・社会現象の「空間化」 【事前】人文地理学について、自分の考えをまとめておく。 【事後】課題をまとめる。
	2	地理学の位置づけ	・科学史の中に地理学を位置づける。 ・近代地理学と地誌学との関係について整理する。 【事前】授業で提示したキーワードについて調べておく。 【事後】課題をまとめる。
	3	社会現象の地理的側面(1)	・具体例を取り上げて、概説する。 【事前】授業で提示したキーワードについて調べておく。 【事後】課題をまとめる。
	4	社会現象の地理的側面(2)	・前回の続き 【事前】授業で提示したキーワードについて調べておく。 【事後】課題をまとめる。
	5	社会現象の地理的側面(3)	・前回の続き 【事前】授業で提示したキーワードについて調べておく。 【事後】課題をまとめる。
	6	位置とスケール(1)	・地理学の主要概念を取り上げ、説明する。 【事前】授業で提示したキーワードについて調べておく。 【事後】課題をまとめる。
	7	位置とスケール(2)	・前回の続き 【事前】授業で提示したキーワードについて調べておく。 【事後】課題をまとめる。
	8	場所と空間(1)	・場所論を概説する。 【事前】授業で提示したキーワードについて調べておく。 【事後】課題をまとめる。
	9	場所と空間(2)	・前回の続き 【事前】授業で提示したキーワードについて調べておく。 【事後】課題をまとめる。
	10	都市と農村(1)	・集落地理学の歴史を整理する。 ・都市と農村を対比しながら、地域をみる仕方を学ぶ。 【事前】授業で提示したキーワードについて調べておく。 【事後】課題をまとめる。
	11	都市と農村(2)	・前回の続き 【事前】授業で提示したキーワードについて調べておく。 【事後】課題をまとめる。
	12	地域論(1)	・形式地域と実質地域 ・中心地理論 ・地域構造論 【事前】授業で提示したキーワードについて調べておく。 【事後】課題をまとめる。
	13	地域論(2)	・前回の続き 【事前】授業で提示したキーワードについて調べておく。 【事後】課題をまとめる。
	14	空間論・空間整備論(1)	・地域開発と空間論 ・計画と予測 ・時間地理学 【事前】授業で提示したキーワードについて調べておく。 【事後】課題をまとめる。
	15	空間論・空間整備論(2)	・前回の続き 【事前】授業で提示したキーワードについて調べておく。 【事後】課題をまとめる。
関連科目	「地誌学」		
教科書	番号	書籍名	著者名 出版社名
	1		
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名 出版社名
	1		
	2		
	3		

評価方法 (基準)	コメント、小テスト、レポートを総合して評価する。
学生への メッセージ	
担当者の 研究室等	木本研究室 (7号館5階)
備考	

科目名	心理学 I	科目名 (英文)	Psychology I
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	山本 雅代
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等		【科目】教科に関する科目 (高等学校 公民) 【施行規則に定める科目区分】「哲学、倫理学、宗教学、心理学」	【教員免許状取得のための履修区分】選択必修

授業概要・目的	心理学とは、我々が周囲のさまざまな環境とのかかわりの中で行う行動やその背景にある心を客観的に理解しようとする学問である。授業では人間の心と行動に関して科学的に認められる傾向性や法則性について検討し、心理学における専門的基礎知識を学習することを目的とする。特に心理学 I では、個人に焦点をあて、かつ社会的現実と対比した日常での問題を取り上げ人間の理解を目指す。
到達目標	1) 心理学についての基礎知識を習得する。2) 人間の行動を理解する。3) 社会の中の自己を確認する。4) 実生活と心理学のかかわりを理解し、日常生活に生かす。
授業方法と留意点	基本的に講義形式。より理解を深めるため必要に応じて VTR を使用する。また簡単な心理学実験や自己分析などを行う。その際、課題、レポートの提出を求めることがある。
科目学習の効果 (資格)	教養としての心理学を学ぶ。 人間の行動を科学的に理解することによって実社会でおこる問題に適応的に行動できるようになる。

教養科目

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	心理学とはどのような学問か	授業の進め方、注意点について説明する。心理学、心理学研究の考え方、今までの歩みについて概説する。	心理学の印象について自分なりの考えをまとめておいて下さい。
2	生物学的基礎	他の動物が行う行動と比較しながら、生得的行動とは何か、初期経験が人間に与える影響について説明する。	関連文献を紹介するので読んでおくこと。
3	初期学習	人間はいかに学ぶのか、また愛着について説明する。	関連文献を紹介するので読んでおくこと。
4	条件づけ	条件づけとは何か、古典的条件づけ、オペラント条件づけについて説明する。	前回の授業で紹介した VTR について A4 にまとめ提出する。
5	社会的学習	学習とは学校での勉強のことではなく、経験のことをいう。人間における経験や、環境がいかに大切であるかまた学習効果について説明する。	関連する文献を紹介するので読んでおくこと。
6	両側性転移	心理学実験「両側性転移」を行い学習についての理解を深めるとともに心理学の研究方法について理解を深める。	実験の概要について確認しておくこと。
7	ポジティブな学習とネガティブな学習	実験結果から読み取れる問題、人間の傾向についての検討。学習全般のまとめを行なう。	実験結果から何が読取れるか A4 用紙にまとめ提出する。
8	動機づけ (1)	人間が行動に駆り立てられる状況、様々な動機、動機の階層について説明する。	関連文献を紹介するので読んでおくこと。
9	動機づけ (2)	生物学的動機、内発的動機の違いについて説明する。	授業の中で紹介した人物の動機について自分なりの考えを A4 用紙にまとめ提出する。
10	動機づけ (3)	社会的動機について説明する。人間がどのような動機を持つか、社会環境に影響受ける動機について事例や実験を通して解説する。	関連文献を紹介するので読んでおくこと。
11	パーソナリティ (1)	パーソナリティがどのようなものであるのか概説する。	パーソナリティについて自分なりの考えを A4 用紙にまとめ提出する。
12	パーソナリティ (2)	パーソナリティのとらえ方。パーソナリティの形成について説明する。	関連文献を紹介するので読んでおくこと。
13	パーソナリティ (3)	実際に使用されている様々なパーソナリティテストについて解説する。	関連文献を紹介するので読んでおくこと。
14	パーソナリティ (4)	パーソナリティについて自己分析を行う。	パーソナリティテストの結果について自分なりに解釈し A4 用紙にまとめ提出する。
15	まとめ	授業全体のまとめを行う。	疑問点がどこであるのか考えておく。

関連科目 心理学 II と併せて履修することが望ましい。

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	教科書は特になし。講義内で資料配布する。		
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	心理学の基礎	今田寛、宮田洋、賀集寛共編	培風館
2				
3				

評価方法 (基準) 定期試験、講義内で行う小テストやレポート課題等を総合的に評価する。
【定期試験 50%、レポート課題 30%、小テスト 20%】

学生へのメッセージ 心理学は、みなさんが大学で初めて学ぶ学問の一つです。講義では、今まで想像していた心理学へのイメージとは違う印象を持たれることでしょう。心理学は科学であり、扱う研究対象は様々です。その中から、理解を深められるようできるだけ事例をあげて解説していきます。講義を通じ、自己の行動を振り返り、取り巻く社会と自己を結びつけ、適応的に社会で生きていく手段について理解を深めて下さい。

担当者の研究室等 11 号館 6 階 (経営学部事務室)

備考

科目名	心理学Ⅱ	科目名(英文)	Psychology II
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	山本 雅代
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等		【科目】教科に関する科目(高等学校 公民) 【施行規則に定める科目区分】「哲学、倫理学、宗教学、心理学」	【教員免許状取得のための履修区分】選択必修

授業概要・目的	心理学とは、我々が周囲のさまざまな環境とのかかわりの中で行う行動やその背景にある心を客観的に理解しようとする学問である。講義では人間の心と行動に関して科学的に認められる傾向性や法則性について検討し、心理学における専門的基礎知識を学習することを目的とする。特に心理学Ⅱでは、社会的現実と対比した日常での問題を多く取り上げ現実社会における対人間、集団関係でおこる心理状況の理解を目指す。
到達目標	1) 心理学の知識を幅広く習得する。2) 社会と個人の関係を理解する。3) 集団におけるコミュニケーションの特質を理解する。4) 状況に左右される人間の心理や意思決定について理解する。
授業方法と留意点	基本的に講義形式。より理解を深めるため必要に応じてVTR等を使用する。また簡単な心理学実験や自己分析などを行う。その際、課題、レポートの提出を求めることがある。
科目学習の効果(資格)	教養としての心理学を学ぶ。 人間の行動を科学的に理解することによって実社会でおこる問題に適応的に行動できるようになる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	心理学とは何か、社会、集団の中でおこる心理	授業の進め方、注意点について説明する。心理学、心理学研究の考え方について説明する。後期において取り扱うトピックの概要説明。	VTRについて自分なりの考えをA4用紙にまとめ提出する。
2	知覚(1)	人間理解につながる「見えのしくみ」について概説する。	関連文献を紹介するので読んでおくこと。
3	知覚(2)	知覚の種類や見えに及ぼす社会的影響について説明する。	関連文献を紹介するので読んでおくこと。
4	知覚(3)	心理学の基礎実験の1つである「ミュラーリヤーの錯視」実験を実施する。心理学におけるデータの取り扱い方、考え方や人間の知覚行為についての理解を深める。	実験結果について読み取れる問題をA4用紙にまとめ提出する。
5	対人関係(1)	人はどのように他者を認知し自分を呈示していくものなのか、対人認知や印象形成について説明する。	関連文献を紹介するので読んでおくこと。
6	対人関係(2)	人はどのような事をきっかけに親しくなったり、愛したりしていくものなのか、対人魅力について説明する。	対人魅力について自分なりの考えをA4用紙にまとめ提出する。
7	対人関係(3)	人が態度を変えるとき、説得されるときとはどのようなときなのか、態度変容について説明する。	関連文献を紹介するので読んでおくこと。
8	対人関係(4)	集団の持つ影響力として「同調」や「服従」について説明する。	関連文献を紹介するので読んでおくこと。
9	対人関係(5)	リーダーシップについて説明する。	自己のリーダーシップのあり方についてA4用紙にまとめ提出する。
10	うわさ	うわさによるパニック行動、うわさの分類、社会的機能、発生、消滅のメカニズム等について、実際に世界でおきた事件を例に説明する。	授業で体験した伝達現象について自分なりの考えをA4用紙にまとめ提出する。
11	攻撃行動(1)	人間の攻撃行動について概説する。	VTRについて自分なりの考えをA4用紙にまとめ提出する。
12	攻撃行動(2)	人間が行なう攻撃行動の機能性について様々な実験例とともに説明する。またドメスティックヴァイオレンスなどについて説明を行なう。	関連文献を紹介するので読んでおくこと。
13	援助行動(1)	援助行動の形成や発達の仕方について、また援助行動が行われる状況、行われない状況とはどのような状況か、意思決定はどのように行われるのか、実際のニュースなどを例に説明する。	関連文献を紹介するので読んでおくこと。
14	援助行動(2)	援助行動と対人ネットワークの重要性について説明する。ソーシャルサポートの重要性について解説する。	関連文献を紹介するので読んでおくこと。
15	まとめ	授業全体のまとめを行う。	疑問点がどこであるのか考える。

関連科目	心理学Ⅰ
------	------

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	特になし。講義内で資料配布する。		
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	心理学の基礎	今田寛、宮田洋、賀集寛共編	培風館
2			
3			

評価方法(基準)	定期試験、講義内で行う小テストやレポート課題等を総合的に評価する。 【定期試験50%、レポート課題30%、小テスト20%】
----------	--

学生への メッセージ	心理学は、みなさんが大学で初めて学ぶ学問の一つです。講義では、今まで想像していた心理学へのイメージとは違う印象を持たれることでしょう。 心理学は科学であり、扱う研究対象は様々です。その中から、理解を深められるようできるだけ実例をあげて解説していきます。講義を通じ、自己の行動を振り返り、取り巻く社会と自己を結びつけ、適応的に社会で生きていく手段について理解を深めて下さい。
担当者の 研究室等	11号館6階(経営学部事務室)
備考	

科目名	政治学	科目名 (英文)	Political Science
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	森 康一
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等		【科目】教科に関する科目 (高等学校 公民) 【施行規則に定める科目区分】「法学 (国際法を含む。)、政治学 (国際政治を含む。)」 【教員免許状取得のための履修区分】必修	

授業概要・目的	日々ニュースで報じられる政治の動きを、政治学という学問的な裏付けを基礎にしてとらえることを目標とする。政治体制・政党制など、政治学の理論的な整理を試みるとともに、国際政治についても目を向けていきたい。
到達目標	政治学の基本的な項目について習得することを目標とする。
授業方法と留意点	プリントと板書により授業を進める。自分のまとめノートを作るつもりで、よく講義を聞いてほしい。
科目学習の効果 (資格)	政治学の基本となる知識を習得できるようにしたい。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	講義の目的と内容・成績評価について	講義の内容全体について	新聞の政治目・国際面を読む習慣をつける
	2	「政治」とはなにか	「政治」の概念について	政治学に関する参考文献を読んでおく
	3	近代国家の誕生	近代国家とはなにか、またその誕生について	政治学に関する参考文献を読んでおく
	4	国家の政治体制 (1)	政治体制とは何か、および政治体制の分類について	政治学に関する参考文献を読んでおく
	5	国家の政治体制 (2)	自由民主主義体制の分類について	政治学に関する参考文献を読んでおく
	6	国家の政治体制 (3)	非自由民主主義体制の分類について、および体制変動について	政治学に関する参考文献を読んでおく
	7	政治と経済・福祉 (1)	政治と経済の関わりについて	政治学に関する参考文献を読んでおく
	8	政治と経済・福祉 (2)	戦後の福祉国家について	政治学に関する参考文献を読んでおく
	9	政治制度と政治過程	国民代表・利益代表の政治過程について	政治学に関する参考文献を読んでおく
	10	政策と行政	政策過程について	政治学に関する参考文献を読んでおく
	11	政党制	政党とはなにか、また政党システムの類型について	政治学に関する参考文献を読んでおく
	12	集権と分権	分権と連邦主義、国際統合について	政治学に関する参考文献を読んでおく
	13	近代の国際政治と現代の国際政治 (1)	近代の国際体系＝ウェストファリア体制について	国際政治に関する参考文献を読んでおく
	14	近代の国際政治と現代の国際政治 (2)	現代の国際政治の特色について	国際政治に関する参考文献を読んでおく
	15	まとめ	講義のまとめと、試験について	試験に向けたノート作りをしておく

関連科目	国際関係論、外交史および政治学
------	-----------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	期末の試験 (論述式) の結果によって評価を行います。持ち込みは認めません。
-----------	--

学生へのメッセージ	日々ニュースや新聞にふれて、世界で起こっていることに関心を持ってください。そして、その出来事の原因や由来が何であるのか、常に問題意識を持つようにしてください。共に勉強しましょう。
-----------	---

担当者の研究室等	11号館5階 法学部資料室 (法学部非常勤講師室)
----------	---------------------------

備考	出席をとる予定です。
----	------------

科目名	政治学概論 I	科目名 (英文)	Introduction to Political Science I
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	森 康一
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等		【科目】教科に関する科目 (高等学校 公民) 【施行規則に定める科目区分】「法律学 (国際法を含む。)、政治学 (国際政治を含む。)」 【教員免許状取得のための履修区分】必修	

授業概要・目的	日々ニュースで報じられる政治の動きを、政治学という学問的な裏付けを基礎にしてとらえることを目標とする。政治体制・政党制など、政治学の理論的な整理を試みるとともに、国際政治についても目を向けていきたい。
到達目標	政治学の基本的な項目について習得することを目標とする。
授業方法と留意点	プリントと板書により授業を進める。自分のまとめノートを作るつもりで、よく講義を聞いてほしい。
科目学習の効果 (資格)	政治学の基本となる知識を習得できるようにしたい。

教養科目

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	講義の目的と内容・成績評価について	講義の内容全体について	新聞の政治目・国際面を読む習慣をつける
	2	「政治」とはなにか	「政治」の概念について	政治学に関する参考文献を読んでおく
	3	近代国家の誕生	近代国家とはなにか、またその誕生について	政治学に関する参考文献を読んでおく
	4	国家の政治体制 (1)	政治体制とは何か、および政治体制の分類について	政治学に関する参考文献を読んでおく
	5	国家の政治体制 (2)	自由民主主義体制の分類について	政治学に関する参考文献を読んでおく
	6	国家の政治体制 (3)	非自由民主主義体制の分類について、および体制変動について	政治学に関する参考文献を読んでおく
	7	政治と経済・福祉 (1)	政治と経済の関わりについて	政治学に関する参考文献を読んでおく
	8	政治と経済・福祉 (2)	戦後の福祉国家について	政治学に関する参考文献を読んでおく
	9	政治制度と政治過程	国民代表・利益代表の政治過程について	政治学に関する参考文献を読んでおく
	10	政策と行政	政策過程について	政治学に関する参考文献を読んでおく
	11	政党制	政党とはなにか、また政党システムの類型について	政治学に関する参考文献を読んでおく
	12	集権と分権	分権と連邦主義、国際統合について	政治学に関する参考文献を読んでおく
	13	近代の国際政治と現代の国際政治 (1)	近代の国際体系＝ウェストファリア体制について	国際政治に関する参考文献を読んでおく
	14	近代の国際政治と現代の国際政治 (2)	現代の国際政治の特色について	国際政治に関する参考文献を読んでおく
	15	まとめ	講義のまとめと、試験について	試験に向けたノート作りをしておく

関連科目	国際関係論、外交史および政治学
------	-----------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	期末の試験 (論述式) の結果によって評価を行います。持ち込みは認めません。
学生へのメッセージ	日々ニュースや新聞にふれて、世界で起こっていることに関心を持ってください。そして、その出来事の原因や由来が何であるのか、常に問題意識を持つようにしてください。共に勉強しましょう。
担当者の研究室等	11号館5階 法学部資料室 (法学部非常勤講師室)
備考	出席をとる予定です。

科目名	政治学概論Ⅱ	科目名(英文)	Introduction to Political Science II
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	森 康一
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等	【科目】教科に関する科目(中学校 社会) 【施行規則に定める科目区分】「法学、政治学」 【教員免許状取得のための履修区分】必修 【科目】教科に関する科目(高等学校 公民) 【施行規則に定める科目区分】「法学(国際法を含む。)、政治学(国際政治を含む。)」 【教員免許状取得のための履修区分】必修		

授業概要・目的	この講義では、第二次世界大戦後から現在までの国際関係についてとりあげる。前半では米ソを中心とする冷戦時代の国際政治を説明し、後半では冷戦後の国際関係と個別的な時事問題を考える。歴史をふまえた上で、現在の国際政治を理解する土台を作ることが目的とする。
到達目標	第二次世界大戦後の国際政治の流れについて習得し、現在の国際関係を正確に理解することを目標とする。
授業方法と留意点	プリントと板書により授業を進める。自分のまとめノートを作るつもりで、よく講義を聞いてほしい。
科目学習の効果(資格)	現在の世界情勢を理解するうえで必要な知識を習得できるようにしたい。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	冷戦時代の国際関係(1)	ヤルタ体制および冷戦初期の国際政治について	国際政治に関する参考文献を読んでおく
3	冷戦時代の国際関係(2)	第三世界の台頭、ヨーロッパ統合の理想と現実について	国際政治に関する参考文献を読んでおく
4	冷戦時代の国際関係(3)	多極化とデタントについて	国際政治に関する参考文献を読んでおく
5	冷戦時代の国際関係(4)	「新冷戦」と冷戦の終焉について	国際政治に関する参考文献を読んでおく
6	ポスト冷戦時代の世界秩序のゆくえ(1)	冷戦終結後の国際政治全般について	国際政治に関する参考文献を読んでおく
7	ポスト冷戦時代の世界秩序のゆくえ(2)	ヨーロッパを中心とした冷戦終結後の国際政治について	国際政治に関する参考文献を読んでおく
8	グローバルな問題群	核・食料・環境問題について	国際政治に関する参考文献を読んでおく
9	同時テロと「イラク戦争」後の世界秩序	「9.11」以後の国際政治について	国際政治に関する参考文献を読んでおく
10	米ロの核軍縮	核問題をめぐる米ロ関係について	国際政治に関する参考文献を読んでおく
11	米中関係のゆくえ	アメリカと中国の外交関係について	国際政治に関する参考文献を読んでおく
12	中東問題のゆくえ	中東問題の経緯と「中東和平」の展望について	イスラエル、パレスチナ問題について調べておく
13	緊迫する朝鮮半島情勢	韓国・北朝鮮をめぐり国際関係について	最近の朝鮮半島情勢について調べておく
14	日本の安全保障	現在の日本がかかえる国際問題について	最近の日本の外交に関して調べておく
15	まとめ	講義のまとめと試験について	試験に向けたノート作りをする

関連科目 国際関係論、国際関係史など、国際関係の科目

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法(基準)	期末の試験(論述式)の結果によって評価を行う。持ち込みは認めません。
学生へのメッセージ	日々ニュースや新聞にふれて、世界で起きていることに関心を持ってください。そして、その出来事の原因や由来が何であるのか、常に問題意識を持つようになしてください。共に勉強しましょう。
担当者の研究室等	11号館5階 法学部資料室(法学部非常勤講師室)
備考	出席をとる予定です。

科目名	青少年育成ファシリテーター養成講座	科目名(英文)	Facilitator Training Program
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	浅野 英一
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	教養特別講義「青少年育成ファシリテーター養成講座」は、サービスマニエールの授業であり、青少年育成ファシリテーターとして、知識・野外活動の方法を習得し実習を通して学びと成長を得ることができる実践型学習プログラム。実践は単なる擬似的体験ではなく、人々のために役立ったという現実的な体験を得ることを目的としている。																		
到達目標	到達目標として自己の振り返りと自己発見、責任感、価値観・技能や知識の獲得、リスクマネジメント、社会問題の理解を果たす体験を同時に得るものである。																		
授業方法と留意点	大学の授業後や、授業の無い日を利用して学外活動する。週に1度、90分の活動が基本となっているが、夏休み・冬休みなど長期の休み期間中に集中して活動することも可能。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>活動受入機関は、寝屋川市内の小学校、寝屋川市教育委員会関連団体、共学センター、交野市役所、門真市役所、すさみ町役場、寝屋川青年会議所等の主催・共催事業である。</p> <p>① 活動についての心構え、授業内容の徹底周知、ファシリテーターについて ② 守秘義務：活動に伴って知った情報を漏らしてはならない義務を学ぶ ③ 安全管理スキル：活動に伴って発生しうる事故を未然に防ぐ方法を学ぶ ④ 救命救護スキル：命の大切さ、命を助ける方法、AEDの使用法を学ぶ ⑤ 安全対策スキル：安全。衛生管理、危険予知、責任について学ぶ ⑥ コミュニケーションスキルA：対象者理解、人とのかかわり方を学ぶ ⑦ コミュニケーションスキルB：報告、連絡、相談（ホウ・レン・ソウ）の重要性を学ぶ ⑧ コミュニケーションスキルC：アイスブレイキング手法を学ぶ ⑨ コミュニケーションスキルD：指導者のあるべき姿、リーダーシップの取り方 ⑩ 活動プログラミング・スキル：課題設定・企画立案・実施・評価方法 ⑪ 受入機関において青少年育成ファシリテーター活動実践 ⑫ 青少年育成ファシリテーター活動実践のふりかえり</p> <p>履修上の注意： 学外団体との連携と信頼関係構築が必要であることから、履修希望者は事前（2015年1月・2月に実施済）に授業担当者（外国語学部・浅野教授）から、説明を受け、活動内容を確認し履修許可を受けた学生のみ履修可能となる。</p> <p>事前・事後学習課題： 学外での活動に際し、各種活動（各受入れ団体によって異なる）の事前準備および活動後の報告書（日報等）の作成に各1時間程度行う。</p>																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法(基準)	①参加日数、②実習報告書、③最終報告書、④受入機関からの調書、以上の4点を総合的に判断して評価する。																		
学生へのメッセージ	青少年育成活動を通して、責任感・忍耐力・協調性・創造力を養うことで、自分のかけがえのない財産形成を行ってください。																		
担当者の研究室等	7号館5階（浅野研究室）																		
備考																			

科目名	生物学	科目名(英文)	Biology
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	尾崎 清和
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	生物学のうちで最も身近な対象である人体の構造・生理を中心に解説し、併せて最近話題となっているトピックスについて解説する。
到達目標	人体の構造・生理にくわえて、感染症などの基礎的な知識を得ることが出来る。
授業方法と留意点	ノート・講義方式。教科書およびビデオ教材を用い、ビジュアルに解りやすくやっていきたい。授業中に理解してしまえば、特に新たな勉強は必要ない。
科目学習の効果(資格)	一般教養の充実。生物・医学関連に関する記事あるいは専門書を読む際の助けとなるような知識の向上をめざす。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業中のルール説明・試験方法についてアンケート・生物の基礎知識を問う	—————
2	神経系の構造と機能	中枢神経と末梢神経、神経の運動の妙	該当する項目について教科書をもとに予習・復習を行うこと
3	神経系の構造と機能	大脳と感情 ビデオ「人体 愛について」	該当する項目について教科書をもとに予習・復習を行うこと
4	消化管の構造と機能	食べ物は、どのように通過し吸収されるのか	該当する項目について教科書をもとに予習・復習を行うこと
5	消化管の構造と機能	ビデオ「人体-消化吸収の妙」	該当する項目について教科書をもとに予習・復習を行うこと
6	肝臓の構造と機能	栄養と毒物はどのように全身にいきわたるのか	該当する項目について教科書をもとに予習・復習を行うこと
7	肝臓の構造と機能	ビデオ「人体-壮大な化学工場・肝臓」	該当する項目について教科書をもとに予習・復習を行うこと
8	骨の構造と機能	骨の種類と数を実感してみる	該当する項目について教科書をもとに予習・復習を行うこと
9	筋肉の構造と機能	随意筋と不随意筋とは。	該当する項目について教科書をもとに予習・復習を行うこと
10	骨格系の構造と機能	ビデオ「人体・筋肉と骨」	該当する項目について教科書をもとに予習・復習を行うこと
11	免疫系の構造と機能	外敵への抵抗	該当する項目について教科書をもとに予習・復習を行うこと
12	免疫系の構造と機能	ビデオ「人体・免疫系」	該当する項目について教科書をもとに予習・復習を行うこと
13	泌尿器系の構造と機能	尿はどのようにつくられるのか	該当する項目について教科書をもとに予習・復習を行うこと
14	総括質問	すべての授業内容に関する質問について答えるとともに、難解だった部分を詳細に解説する。	—————
15	まとめと習熟度試験	まとめと習熟度を確認する。	—————

関連科目	なし
------	----

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	ニューステージ新生物図表	浜島書店編集部	浜島書店
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法(基準)	小テストを50%、習熟度試験を40%および受講態度10%により判断する
----------	-------------------------------------

学生へのメッセージ	私語、携帯電話、メール、食事などの授業中の妨害行為は許さない。複数回注意されたものは受講資格および試験の受験資格を失う。
-----------	--

担当者の研究室等	枚方 6号館3階 病理学研究室(薬学部)
----------	----------------------

備考	
----	--

科目名	世界の政治	科目名(英文)	Politics in the World
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	森 康一
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等	【科目】教科に関する科目(中学校 社会) 【施行規則に定める科目区分】「法学、政治学」 【教員免許状取得のための履修区分】必修 【科目】教科に関する科目(高等学校 公民) 【施行規則に定める科目区分】「法学(国際法を含む。)、政治学(国際政治を含む。)」 【教員免許状取得のための履修区分】必修		

教養科目

授業概要・目的	この講義では、第二次世界大戦後から現在までの国際関係についてとりあげる。前半では米ソを中心とする冷戦時代の国際政治を説明し、後半では冷戦後の国際関係と個別的な時事問題を考える。歴史をふまえた上で、現在の国際政治を理解する土台を作ることを目的とする。			
到達目標	第二次世界大戦後の国際政治の流れについて習得し、現在の国際関係を正確に理解することを目標とする。			
授業方法と留意点	プリントと板書により授業を進める。自分のまとめノートを作るつもりで、よく講義を聞いてほしい。			
科目学習の効果(資格)	現在の世界情勢を理解するうえで必要な知識を習得できるようにしたい。			
授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	講義の目的と内容・成績評価について	講義の内容全体について	新聞の国際面を読む習慣をつける
	2	冷戦時代の国際関係(1)	ヤルタ体制および冷戦初期の国際政治について	国際政治に関する参考文献を読んでおく
	3	冷戦時代の国際関係(2)	第三世界の台頭、ヨーロッパ統合の理想と現実について	国際政治に関する参考文献を読んでおく
	4	冷戦時代の国際関係(3)	多極化とデタントについて	国際政治に関する参考文献を読んでおく
	5	冷戦時代の国際関係(4)	「新冷戦」と冷戦の終焉について	国際政治に関する参考文献を読んでおく
	6	ポスト冷戦時代の世界秩序のゆくえ(1)	冷戦終結後の国際政治全般について	国際政治に関する参考文献を読んでおく
	7	ポスト冷戦時代の世界秩序のゆくえ(2)	ヨーロッパを中心とした冷戦終結後の国際政治について	国際政治に関する参考文献を読んでおく
	8	グローバルな問題群	核・食料・環境問題について	国際政治に関する参考文献を読んでおく
	9	同時テロと「イラク戦争」後の世界秩序	「9.11」以後の国際政治について	国際政治に関する参考文献を読んでおく
	10	米ロの核軍縮	核問題をめぐる米ロ関係について	国際政治に関する参考文献を読んでおく
	11	米中関係のゆくえ	アメリカと中国の外交関係について	国際政治に関する参考文献を読んでおく
	12	中東問題のゆくえ	中東問題の経緯と「中東和平」の展望について	イスラエル、パレスチナ問題について調べておく
	13	緊迫する朝鮮半島情勢	韓国・北朝鮮をめぐる国際関係について	最近の朝鮮半島情勢について調べておく
	14	日本の安全保障	現在の日本がかかえる国際問題について	最近の日本の外交に関して調べておく
	15	まとめ	講義のまとめと試験について	試験に向けたノート作りをする
関連科目	国際関係論、国際関係史など、国際関係の科目			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法(基準)	期末の試験(論述式)の結果によって評価を行う。持ち込みは認めません。			
学生へのメッセージ	日々ニュースや新聞にふれて、世界で起きていることに関心を持ってください。そして、その出来事の原因や由来が何であるのか、常に問題意識を持つようになしてください。共に勉強しましょう。			
担当者の研究室等	11号館5階 法学部資料室(法学部非常勤講師室)			
備考	出席をとる予定です。			

科目名	世界の歴史	科目名(英文)	World History
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	村上 司樹
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等	【科目】教科に関する科目(中学校 社会) 【施行規則に定める科目区分】日本史及び外国史 【教員免許状取得のための履修区分】必修 【科目】教科に関する科目(高等学校 地理歴史) 【施行規則に定める科目区分】外国史 【教員免許状取得のための履修区分】必修		

授業概要・目的	「都市」と聞いて私たちが思い浮かべるのは、経済・産業の中心であり、自由な活動の場といったイメージではなからうか。経済と自由、この2つの特徴の歴史的ルーツをたどっていけば、ヨーロッパ中世都市に行き着く。高校世界史において、商業の復活がヨーロッパ中世都市を生み出し、市民の自治がこれを発展させたことと教わった人も少なくないだろう。古代や中国の例なども広く視野に入れることで、一種、常識となっているこのような通説を疑い、考えなおす。そのようにして、都市を窓口にして歴史を展望する。以上が本講義の目的である。支配と消費の中心ではなく、周辺の自然環境や地域社会と共存できる都市のあり方など、現代的な問題を解決するためのヒントも探りたい。
到達目標	学んだことを結論・理由・具体例に分けて、簡潔に説明できるようにする。
授業方法と留意点	暗記は必要ない。教科書も必要ない。図や表もできるだけ多く使って授業する。ただ内容を理解するためには、以下3点を守る必要がある。①授業前には、プリントにあらかじめ目を通しておくこと。②授業後には、プリントを読み返すこと。③授業中に資料を読む際は、線を引くなり印をつけるなり、必ず手を動かすこと。
科目学習の効果(資格)	商業や市民に限られない、中世都市の多様なあり方とダイナミズムを中心として、経営を学ぶための基礎体力となる幅広い教養と具体的思考の習慣を身に付ける。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	はじめに	授業のルール・方針・全体計画	必ず出席するよう予定を調整する。
2	都市を窓に世界史を見る	文明はさまざまでも共通点がある	授業前に資料に目を通す。授業後に資料を読み返す。
3	都市を窓に世界史を見る	日本史の特徴は世界史のなかで初めて分かる	授業前に資料に目を通す。授業後に資料を読み返す。
4	イスラーム都市	世界で最も先進的な文明	授業前に資料に目を通す。授業後に資料を読み返す。
5	イスラーム都市	活発な経済と快適な生活の両立	授業前に資料に目を通す。授業後に資料を読み返す。
6	イスラーム都市	都市文明と相性の良い宗教	授業前に資料に目を通す。授業後に資料を読み返す。
7	イスラーム都市	ヨーロッパはイスラームに学んだ	同上の課題に加えて「レポートの手引き」を熟読する。
8	中国都市	「同じことばかりくり返している」というウソ	同上の課題に加えて「レポートの手引き」を熟読する。
9	中国都市	1000年前の大転換	同上の課題に加えて小レポート。
10	中国都市	現代を先取りした流通と消費	授業前に資料に目を通す。授業後に資料を読み返す。
11	中国都市	エンターテインメント産業や外食産業も出現	授業前に資料に目を通す。授業後に資料を読み返す。
12	ヨーロッパ都市	アジア都市は大きくヨーロッパ都市は小さい	授業前に資料に目を通す。授業後に資料を読み返す。
13	ヨーロッパ都市	農業中心の経済と政治的な分裂のなかで	授業前に資料に目を通す。授業後に資料を読み返す。
14	ヨーロッパ都市	巨大化したのは200年前	授業前に資料に目を通す。授業後に資料を読み返す。
15	ヨーロッパ都市	小さな都市への回帰	授業前に資料に目を通す。授業後に資料を読み返す。

関連科目 特になし

番号	書籍名	著者名	出版社名
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
2			
3			

評価方法(基準)	暗記は必要ない。テストは持ち込み可。具体的には以下3点で評価。①定期試験(40点)、②小レポート(30点)、③レスポンスペーパー(30点+α)。①～③すべてに共通する評価基準は、具体的に書けているかどうか。減点主義はとらないので、積極的に書いてマイナスになることは絶対ない。ただし、消極的に受講してプラス評価されることも絶対ない。例えば出席点はいつさいない。
学生へのメッセージ	一方通行にならない授業、集中しやすい授業を心がけています。レスポンス・ペーパー、小レポート、そして試験答案を書いてもらいますが、「やること多い」などとネガティブに考えず、「単位取得のチャンスが多い」とポジティブに捉えることをお勧めします。それにものごを説明したり、説得的な文章を作成する経験と能力は、他のあらゆる学問にも、さらに大学卒業後の長い人生にも欠かせません。積極的に取り組んで、「単位以上のもの」を得てほしいと思います。
担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
備考	【教職科目】教科に関する科目(中学校 社会) 【施行規則に定める科目区分】日本史及び外国史 【履修区分】必修

科目名	ダイバーシティとコミュニケーション	科目名(英文)	Diversity and Communication
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	石井 三恵
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	グローバル社会では、日本人の従来の常識では予測のつかない疑問点が溢れている。「境界線」も一つの視野では理解できない。さまざまな差異を理解するためには、ダイバーシティ(多様性)を尊重し、受け入れ、積極的に活かすことが大切であることを事例を通して学ぶ。ジェンダーの基本的理解はもちろん、ビジネスにおけるダイバーシティ・マネジメントをジェンダー視点で俯瞰することが目的である。
到達目標	ダイバーシティ理解に欠かせないコミュニケーション手法の一つであるアサーティブネス論を中心に理解を促進させ、そのスキルを学ぶことによって社会生活に活かすことを目標とする。
授業方法及び留意点	第一に学問的探究をもち、偏見なく学ぶ姿勢が必要であり、第二に積極的に参画する意識を持つことを求める。

科目学習の効果(資格)	ダイバーシティ・マネジメントにおける社員教育の在り方を理解することができる。
-------------	--

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	・ダイバーシティの世界へようこそ	ダイバーシティをイメージしてみましょう。
2	ダイバーシティと境界線	・ウチとソトの感覚	私たちの周りにある伝統や習慣について考えてみましょう。
3	ジェンダー視点	・フェミニズム×女性学+男性学=人間学	フェミニズムの歴史的背景を理解し、近年話題のエコフェミニズムについて考えてみましょう。
4	日本の近代化	・明治の落とし物	明治・大正・昭和の世相と時代を文学の世界から垣間見ることによって、現代にも残存している慣習とは何かを考えてみましょう。
5	国際統計比較①	・ジェンダーエンパワーメント指数	国際的な統計から、日本の置かれた位置を確認し、何が問題であるか考えてみましょう。
6	性役割の形成①	・発達段階における「刷り込み」	性役割を理解し、幼児期から振り返ってみましょう。
7	性役割形成②	・結婚と母性信仰	共同作業である結婚の意味を見直すと同時に、親役割に関して考えてみましょう。
8	「らしさ」とセクシャル・ポリティクス	・M字型労働力率曲線とビジネスマインドの形成	日本と世界を比較しながら、女性労働について考えてみましょう。
9	ワークライフバランスとビジネス組織	・ジェンダー・マネジメント	ワークライフバランスとは何か、政府の見解を調べてみましょう。
10	アサーティブネス理論①	・世界中でアサーティブネスが用いられる理由	アサーティブネス理論を学びましょう。
11	アサーティブネス理論②	・スキルを身に付ける	スキルを身に付けることで、実生活に活かしてみましょ。
12	国際統計比較②	・男女共同参画社会とは	男女共同参画社会に関して調べましょう。
13	ダイバーシティ・マネジメント①	・企業比較	発展している企業が必ず取り入れているダイバーシティ・マネジメントについて、事例研究してみましょ。
14	ダイバーシティ・マネジメント②	・プレゼンテーション	事例研究した内容をプレゼンテーションできるようにしましょう。
15	まとめ		

関連科目	
------	--

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	共に学ぶ女性学 ー明日を共に生きるためにー	石井三恵	泉文堂
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法(基準)	ロールプレイ(30%)、プレゼンテーション(30%)、レポート(40%)を総合的に評価する。
----------	--

学生へのメッセージ	皆さんの身近に存在している不思議を解き明かすカギが女性学、フェミニズム、ジェンダー論にあります。私たちは生まれも育ちも異なることから考え方も異なるように、外国の方にもそれが当てはまり、みな同じ問題を抱えています。事例を通して体験しながら、人としての生きる権利とは何かを考えてみませんか。
-----------	---

担当者の研究室等	7号館5階 キャリア教育推進室(石井)
----------	---------------------

備考	予習・復習に毎回2時間以上取り組むこと。ロールプレイ、プレゼンテーション、レポート作成のための学習時間を含め、総時間数で60時間程度を目安とする。
----	---

教養科目

科目名	地域連携教育活動 I	科目名 (英文)	Community-Based Education Support Activities I
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	浅野 英一
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	本授業はサービラーニングの授業であり、実践型学習プログラムである。大学近隣の幼稚園・小学校・中学校で教育現場の教育補助、課外活動を幅広く体験し、自己の適正を把握する機会を持ち、人間的成長や社会意識の向上を目指す。活動内容は、授業運営補助、「総合的な学習」の補助、学校行事運営補助、クラブ・サークル活動の補助、図書室運営の補助、放課後学習の補助などを組み合わせ年間を通じた活動を大学授業の空き時間を利用して週1回90分行う。																
到達目標	物事を多面的に考察できること、社会的倫理観の確立、相手に理解できるように論理的かつ的確なコミュニケーション能力を持つこと。																
授業方法と留意点	原則として、履修申請が可能な学生は、本年1月に行なわれた特別事前履修相談会で受け入れ校の校長・教頭・園長との相談結果によって受入れ許可を得た学生で、「地域連携教育活動I」を初めて履修する学生を対象とする。																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>事前教育1 (4月8日水曜日6時限目:1134教室) 活動についての心構え、内容の徹底周知、年間活動計画作成準備</p> <p>事前教育2 (4月15日水曜日6時限目:1134教室) マナー講座・小中学校の教育現場について(学外講師を含む)</p> <p>事前教育3 (4月22日水曜日6時限目:1134教室)「守秘義務」の意味とその内容について(教育委員会からの学外講師)</p> <p>活動準備 受け入れ校と協議し、年間活動計画を作成する</p> <p>活動1~25 受け入れ校にて活動(活動業務日報・活動時間票の提出)</p> <p>最終報告会 (1月中旬・スカイラウンジにおいて)各自活動報告をする。</p> <p>※注意事項 事前教育1~3のみ水曜日6時限目に教室で授業。事前教育授業に1回でも欠席した場合は、履修取り消しにします。</p> <p>事前・事後学習課題 学外での活動に際し、各種活動(各受け入れ団体によって異なる)の事前準備および活動後の報告書(日報等)の作成に各1時間程度行う。</p>																
関連科目	教職課程を履修していない学生でもこの科目を履修することができる。																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法(基準)	①年間活動計画書 ②活動業務日報・活動時間数(出席数)票 ③活動進捗状況報告書 ④最終活動報告書の全てを提出し、発表会で活動報告した場合のみ、それらを総合的に判断して評価する。																
学生へのメッセージ	大学の授業と授業の合間を有効利用して、大学近隣の幼稚園、小・中学校の教育現場の教師をサポートしながら、責任感・忍耐力・協調性・創造力を養うことで、自分のかけがえのない財産形成を行ってください。																
担当者の研究室等	7号館5階(浅野研究室) 7号館4階(浦野研究室) 7号館3階(鳥居研究室)																
備考	事前授業を4月8日 第6時限目1134教室で行います。必ず出席してください。																

科目名	地域連携教育活動Ⅱ	科目名(英文)	Community-Based Education Support Activities II
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	浅野 英一
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	本授業はサービラーニングの授業であり、実践型学習プログラムである。大学近隣の幼稚園・小学校・中学校で教育現場の教育補助、課外活動を幅広く体験し、自己の適正を把握する機会を持ち、人間的成長や社会意識の向上を目指す。活動内容は、授業運営補助、「総合的な学習」の補助、学校行事運営補助、クラブ・サークル活動の補助、図書室運営の補助、放課後学習の補助などを組み合わせ年間を通じた活動を大学授業の空き時間を利用して週1回90分行う。																		
到達目標	物事を多面的に考察できること、社会的倫理観の確立、相手に理解できるように論理的かつ的確なコミュニケーション能力を持つこと。																		
授業方法と留意点	原則として、履修申請が可能な学生は、本年1月に行なわれた特別事前履修相談会で受け入れ校の校長・教頭・園長との相談結果によって受け入れ許可を得た学生で、昨年度「地域連携教育活動Ⅰ」を履修した学生のみが登録できる。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>事前教育1 (4月8日水曜日6時限目:1134教室) 活動についての心構え、内容の徹底周知、年間活動計画作成準備</p> <p>事前教育2 (4月15日水曜日6時限目:1134教室) マナー講座・小中学校の教育現場について(学外講師を含む)</p> <p>事前教育3 (4月22日水曜日6時限目:1134教室)「守秘義務」の意味とその内容について(教育委員会からの学外講師)</p> <p>活動準備 受け入れ校と協議し、年間活動計画を作成する</p> <p>活動1~25 受け入れ校にて活動(活動業務日報・活動時間票の提出)</p> <p>最終報告会 (1月中旬・スカイラウンジにおいて)各自活動報告をする。</p> <p>※注意事項 事前教育1~3のみ水曜日6時限目に教室で授業。事前教育授業に1回でも欠席した場合は、履修取り消しにします。</p> <p>事前・事後学習課題 学外での活動に際し、各種活動(各受け入れ団体によって異なる)の事前準備および活動後の報告書(日報等)の作成に各1時間程度行う。</p>																		
関連科目	教職課程を履修していない学生でもこの科目を履修することができる。																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法(基準)	①年間活動計画書 ②活動業務日報・活動時間数(出席数)票 ③活動進捗状況報告書 ④最終活動報告書の全てを提出し、発表会で活動報告した場合のみ、それらを総合的に判断して評価する。																		
学生へのメッセージ	大学の授業と授業の合間を有効利用して、大学近隣の幼稚園、小・中学校の教育現場の教師をサポートしながら、責任感・忍耐力・協調性・創造力を養うことで、自分のかけがえのない財産形成を行ってください。																		
担当者の研究室等	7号館5階(浅野研究室) 7号館4階(浦野研究室) 7号館3階(鳥居研究室)																		
備考	事前授業を4月8日 第6時限目1134教室で行います。必ず出席してください。																		

科目名	チームビルディング	科目名 (英文)	Team Building
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	水野 武
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	成熟社会においては個人の力を集合させてプロジェクトを作り上げる「チームビルディングの思考や技術」を学ぶことが重要である。本科目はチームビルディングの理論を学び、様々なアクティビティを通してチームに貢献する方法を考えられるようになるための授業である。2回生以降に摂南大学 PBL プロジェクトを履修する際にも役立つ。
到達目標	学科の学習・教育目標との対応：工学部[A]，理工学部 [I1] チームで物事を進める際に必要な知識が理解出来るようになり、技能を身につけることを目標とする。
授業方法と留意点	講義は受講生によるアクティビティ・プレゼンテーション・グループワークなどを織り交ぜて進める。
科目学習の効果 (資格)	チームで物事を進める際の基礎知識が身につく。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	チームビルディングとは何か	・自己紹介ワーク ・チームビルディングの理論を学ぶ ・チームビルディングのための技能を知る	チームにどのように貢献できるかを考える。
3	チームビルディング体験	・ペーパータワーワーク (予定) ・チームの 10 カ条 などに取り組み、チームビルディングを体験する	チームでの取り組みを振り返る。
4	チームを機能させるために必要なこと	・チームを機能させるために必要な要素を学ぶ	配布資料を精読する。
5	チームビルディングを身につけるためのアクティビティ①	・チームでワークに取り組み、情報の読み取りと活用、合意形成を学ぶ	配布資料を精読する。
6	チームビルディングを身につけるためのアクティビティ②	・チームでワークに取り組み、情報の読み取りと活用、合意形成を学ぶ	配布資料を精読する。
7	ビジネス記事を活用したディスカッション①	記事を活用して情報の読み取りと活用、自分ならどうするかを考える	チームでのディスカッションを振り返る。
8	メンバーを支援する	・質問だけで話し合いを進める ・ヒーローインタビュー	入学から今までを振り返って「最も達成した事柄」を思い出しておく。
9	チームでプロジェクトを企画する	・第二回チーム分け ・自己紹介ワーク ・チームでプロジェクトを企画する	チームにどのように貢献できるかを考える。
10	摂南大学 PBL プロジェクトの紹介	本学で開講されている摂南大学 PBL プロジェクトの紹介	興味を持ったプロジェクトについて調べる。
11	摂南大学 PBL プロジェクトの紹介	本学で開講されている摂南大学 PBL プロジェクトの紹介	興味を持ったプロジェクトについて調べる。
12	工程管理を意識したチームビルディング	ビジネスゲームを題材にリソースとコスト、工程管理を意識したワークに取り組む	工程管理に関して調べる。
13	プロジェクトのプレゼンテーション	第 9 回目の課題の報告プレゼンテーション	プレゼンテーションの際に留意することを考える。
14	チーム力を上げる	・メンバーの力でチーム全体の力を上げる方法を考える	講義後日常生活で活かせるような箇所を実践する。
15	講義のまとめと振り返り	講義のおさらいと振り返りを行う	提出物などの出し忘れがないか確認する。

関連科目: キャリアデザイン I・II、摂南大学 PBL プロジェクト

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 (基準): チームでの提出物 30%、ワーク後の振り返りシート 20%、授業態度 20%、最終レポート 30% で総合的に評価する。

学生へのメッセージ: ワークやアクティビティを織り交ぜる授業となるので、主体性を持って講義に挑むこと。

担当者の研究室等: 7号館3階 キャリア教育推進室 (水野研究室)

備考:

科目名	地誌学	科目名(英文)	Regional Geography
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	木本 浩一
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等		【科目】教科に関する科目(中学校 社会) 【施行規則に定める科目区分】地理学(地誌を含む。) 【教員免許状取得のための履修区分】必修 【科目】教科に関する科目(高等学校 地理歴史) 【施行規則に定める科目区分】地誌 【教員免許状取得のための履修区分】必修	

授業概要・目的	地理学の特徴的な考え方・領域である「地誌学」の特性を理解し、グローバル化の時代における地誌学の意義について検討する。
到達目標	1) 地理学の中で地誌学の位置づけが行えるようになる。 2) 地誌学的な考え方を身につけることができる。 3) 社会教育、地域活動などの要素を加味して、地誌学を応用できる。
授業方法と留意点	講義形式で進めるが、地誌学という学問の性格上、地図を多用します。高校の時の地図帳を持参して下さい。
科目学習の効果(資格)	経済、政治、社会などさまざまな事象を、様々なスケールをもつ「地域」という視点で理解することができるようになる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション ー地誌学とは何か?ー	・授業の進め方について説明する。 ・地誌学という学問の特徴を説明する。	【事前】地誌とは何か、について自分の考えをまとめておく。 【事後】課題をまとめる。
2	地理学と地誌学	・地理学史の中で「地誌学」の位置づけを行う。	【事前】授業で提示したキーワードについて調べておく。 【事後】課題をまとめる。
3	日本における地誌学の歴史	・「地誌教育」を中心として、日本における地誌学の位置づけを検討する。	【事前】授業で提示したキーワードについて調べておく。 【事後】課題をまとめる。
4	新しい地理学と地誌学(1)	・場所論を中心とした新しい地理学と地誌学の関係について概説する。	【事前】授業で提示したキーワードについて調べておく。 【事後】課題をまとめる。
5	新しい地理学と地誌学(2)	・前回の続き	【事前】授業で提示したキーワードについて調べておく。 【事後】課題をまとめる。
6	新しい地誌学(1) ー地政学ー	・地誌学の新しい動向を、いくつかの注目すべきトピックと関連づけながら検討する。 ・地政学	【事前】授業で提示したキーワードについて調べておく。 【事後】課題をまとめる。
7	新しい地誌学(2) ー境界ー	・前回の続き ・地誌学の基本となるフィールドワーク	【事前】授業で提示したキーワードについて調べておく。 【事後】課題をまとめる。
8	新しい地誌学(3) ー場所ー	・前回の続き	【事前】授業で提示したキーワードについて調べておく。 【事後】課題をまとめる。
9	フィールドワーク(1)	・地誌学の基本となるフィールドワークの方法 ・フィールドワークから見えてくる地域を、具体的な事例に則して検討する。	【事前】授業で提示したキーワードについて調べておく。 【事後】課題をまとめる。
10	フィールドワーク(2)	・前回の続き	【事前】授業で提示したキーワードについて調べておく。 【事後】課題をまとめる。
11	フィールドワーク(3)	・前回の続き	【事前】授業で提示したキーワードについて調べておく。 【事後】課題をまとめる。
12	フィールドワーク(4) ー実践ー	・具体的な例をもとに、フィールドワークを実践する。 #受講生の人数によっては内容を変更する。	【事前】授業で提示したキーワードについて調べておく。 【事後】課題をまとめる。
13	フィールドワーク(5) ー実践ー	・前回の続き	【事前】授業で提示したキーワードについて調べておく。 【事後】課題をまとめる。
14	国家を単位とした地誌(1)	・マクロ地誌の実践として	【事前】授業で提示したキーワードについて調べておく。 【事後】課題をまとめる。
15	国家を単位とした地誌(2)	・前回の続き	【事前】授業で提示したキーワードについて調べておく。 【事後】課題をまとめる。

関連科目	
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			

教養科目

	3		
評価方法 (基準)	コメント、小テスト、レポートを総合して評価する。		
学生への メッセージ	非常に広い内容を講義する。授業では端緒に触れる程度で終わるものも多い。コメントペーパーなどを利用して、内容の理解に努めてほしい。		
担当者の 研究室等	木本研究室 (7号館5階)		
備考			

科目名	地理学 I	科目名 (英文)	Geography I
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	笠原 俊則
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等	【科目】教科に関する科目 (中学校 社会) 【施行規則に定める科目区分】地理学 (地誌を含む。) 【教員免許状取得のための履修区分】必修 【科目】教科に関する科目 (高等学校 地理歴史) 【施行規則に定める科目区分】人文地理学及び自然地理学 【教員免許状取得のための履修区分】必修		

授業概要・目的	自然環境が人間の活動にどのような影響を与えてきたか、またそれらを我々人類はどのようにして改良し、居住地域の拡大に努めてきたかを自然地理学的視点から理解することを目的としている。その際、我々人類の生活舞台である地表について、地形・気候・土壌・植生・水文環境など、自然地理学に関する基礎的知識を習得できるよう説明していきたい。
到達目標	地理学は人間に関わる学問であり、学生諸君には、我々人類は環境改変者であり、自分自身もその一員であるという自覚を持ってもらえたら、講義の目的の半分は達成されたものといえる。さらに、この講義を通じて、地理学の入門的知識を身につけ、常に環境に配慮した行動が取れるようになってくれることを期待している。
授業方法と留意点	講義形式で行う。テキストは特に指定しない。適宜講義中にプリントを配布していく予定である。
科目学習の効果 (資格)	人間活動が、我々を取り巻く環境にいかなる影響を与えているかを、身近に感じ取ることができるようになる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	地理学および自然地理学について	地理学の歴史および自然地理学の分野	高校時代に地理 A、あるいは地理 B を履修した者は、「環境」の項目を、しっかり読んでおいてください。
	2	地理学と環境	人類による環境への働きかけの歴史 (過去から現在まで)	配布プリントに目を通しておいて下さい。前回の講義内容を各自で確認しておいて下さい。
	3	様々な地形と生活ーその 1ー	谷底平野・台地・河岸段丘の地形と生活	配布プリントに目を通しておいて下さい。前回の講義内容を各自で確認しておいて下さい。
	4	様々な地形と生活ーその 2ー	扇状地・自然堤防帯・三角州の地形と生活	配布プリントに目を通しておいて下さい。前回の講義内容を各自で確認しておいて下さい。
	5	世界の気候ーその 1ー	熱帯気候・乾燥気候・高山気候	配布プリントに目を通しておいて下さい。前回の講義内容を各自で確認しておいて下さい。
	6	世界の気候ーその 2ー	温帯気候・冷帯気候・寒帯気候	配布プリントに目を通しておいて下さい。前回の講義内容を各自で確認しておいて下さい。
	7	世界の植生と土壌	世界の気候との関連からみた植生および土壌	配布プリントに目を通しておいて下さい。前回の講義内容を各自で確認しておいて下さい。
	8	都市気候	・都市気候とは ・都市気候と緑地 ・都市気候の具体的な例	配布プリントに目を通しておいて下さい。前回の講義内容を各自で確認しておいて下さい。
	9	都市化にともなう水文環境の変化	・都市化の進展と水文環境の変化 ・都市化にともなう水災害の変化	配布プリントに目を通しておいて下さい。前回の講義内容を各自で確認しておいて下さい。
	10	水文環境と生活ーその 1ー	・水が我々の生活にいかなる影響を与えているか	配布プリントに目を通しておいて下さい。前回の講義内容を各自で確認しておいて下さい。
	11	水文環境と生活ーその 2ー	・水資源と農業	配布プリントに目を通しておいて下さい。前回の講義内容を各自で確認しておいて下さい。
	12	ダム上流における自然環境の変化	・ダム堆砂 ・ダム上流における河床上昇とその影響	配布プリントに目を通しておいて下さい。前回の講義内容を各自で確認しておいて下さい。
	13	ダム下流における自然環境の変化	・ダム下流における河床の低下 ・日本における海岸浸食の状況	配布プリントに目を通しておいて下さい。前回の講義内容を各自で確認しておいて下さい。
	14	離島における地下ダムの建設	・宮古島における地下ダムの建設	配布プリントに目を通しておいて下さい。前回の講義内容を各自で確認しておいて下さい。
	15	自然地理学の役割を考える	・全体のまとめ	配布プリントに目を通しておいて下さい。前回の講義内容を各自で確認しておいて下さい。

関連科目 「環境関連科目」等

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	人間活動と環境変化	吉越昭久編	古今書院
	2			
	3			

評価方法 (基準) 定期試験 80%、授業への参加状況 20%とする。なお、参加状況を把握するため、時々、チェックシートを配布し、授業内容について記入してもらうことにする。

学生へのメッセージ 地理学には地図が付きものである。講義中に出てくる地名を地図帳で確認すれば、内容がより理解しやすくなるであろう。現在の高校教育では地理が選択になっているため、履修していない人もいると思われるが、もし高校時代に用いた地図帳があれば、講義中に持参して欲しい。なお、指定テキストは後期の「地理学Ⅱ」でも使用する予定である。

担当者の研究室等 7号館2階 (非常勤講師控室)

備考

教養科目

科目名	地理学Ⅱ	科目名(英文)	Geography II
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	木本 浩一
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等		【科目】教科に関する科目(中学校 社会) 【施行規則に定める科目区分】地理学(地誌を含む。) 【教員免許状取得のための履修区分】必修 【科目】教科に関する科目(高等学校 地理歴史) 【施行規則に定める科目区分】人文地理学及び自然地理学 【教員免許状取得のための履修区分】必修	

授業概要・目的	現代社会は空間の時代であると言っても過言ではない。グローバル化が進展するとされる一方で、地域分権やコミュニティの再生などが喧伝される。これまで知識の学としてみられていた地理学は、改めて現代社会における空間や地域の学として期待されている。本講義では、位置、場所(空間)、スケール、交通、地域などのキーワードを手がかりとして、地理学的な考え方について概説したい。
到達目標	1) 地理学の中で人文地理学の位置づけを行えるようになる。 2) 人文地理学の考え方・方法について理解できる。 3) 諸事象を人文地理学の観点から考察できる。
授業方法と留意点	高校時の地図帳を持参して下さい。
科目学習の効果(資格)	

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	・人文地理学とは何か? ・系統地理学としての人文地理学 ・社会現象の「空間化」	【事前】人文地理学について、自分の考えをまとめておく。 【事後】課題をまとめる。
2	地理学の位置づけ	・科学史の中に地理学を位置づける。 ・近代地理学と地誌学との関係について整理する。	【事前】授業で提示したキーワードについて調べておく。 【事後】課題をまとめる。
3	社会現象の地理的側面(1)	・具体例を取り上げて、概説する。	【事前】授業で提示したキーワードについて調べておく。 【事後】課題をまとめる。
4	社会現象の地理的側面(2)	・前回の続き	【事前】授業で提示したキーワードについて調べておく。 【事後】課題をまとめる。
5	社会現象の地理的側面(3)	・前回の続き	【事前】授業で提示したキーワードについて調べておく。 【事後】課題をまとめる。
6	位置とスケール(1)	・地理学の主要概念を取り上げ、説明する。	【事前】授業で提示したキーワードについて調べておく。 【事後】課題をまとめる。
7	位置とスケール(2)	・前回の続き	【事前】授業で提示したキーワードについて調べておく。 【事後】課題をまとめる。
8	場所と空間(1)	・場所論を概説する。	【事前】授業で提示したキーワードについて調べておく。 【事後】課題をまとめる。
9	場所と空間(2)	・前回の続き	【事前】授業で提示したキーワードについて調べておく。 【事後】課題をまとめる。
10	都市と農村(1)	・集落地理学の歴史を整理する。 ・都市と農村を対比しながら、地域をみる仕方を学ぶ。	【事前】授業で提示したキーワードについて調べておく。 【事後】課題をまとめる。
11	都市と農村(2)	・前回の続き	【事前】授業で提示したキーワードについて調べておく。 【事後】課題をまとめる。
12	地域論(1)	・形式地域と実質地域 ・中心地理論 ・地域構造論	【事前】授業で提示したキーワードについて調べておく。 【事後】課題をまとめる。
13	地域論(2)	・前回の続き	【事前】授業で提示したキーワードについて調べておく。 【事後】課題をまとめる。
14	空間論・空間整備論(1)	・地域開発と空間論 ・計画と予測 ・時間地理学	【事前】授業で提示したキーワードについて調べておく。 【事後】課題をまとめる。
15	空間論・空間整備論(2)	・前回の続き	【事前】授業で提示したキーワードについて調べておく。 【事後】課題をまとめる。

関連科目	「地誌学」
------	-------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	コメント、小テスト、レポートを総合して評価する。
学生への メッセージ	
担当者の 研究室等	木本研究室 (7号館 5階)
備考	

科目名	哲学 I	科目名 (英文)	Philosophy I
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	濱 良祐
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等	【科目】教科に関する科目 (中学校 社会) 【施行規則に定める科目区分】「哲学、倫理学、宗教学」 【教員免許状取得のための履修区分】必修 【科目】教科に関する科目 (高等学校 公民) 【施行規則に定める科目区分】「哲学、倫理学、宗教学、心理学」 【教員免許状取得のための履修区分】選択必修		

授業概要・目的 「哲学」と聞くとひどく難しい学問であると感じられるかもしれないし、ひとによっては役に立たない、自分には関係ない、と思うかもしれない。しかし、私たち人間は人生において誰もが必ず「私とは何か」、「他者とは何か」、「幸せとは何か」など、人間存在・人間関係に根本的に関わる難問に出会うことになる。この授業は、そうした人生における難問に自ら向き合えるようになるための準備である。そのためにこの授業では近代の西洋哲学史をたどりながら、人間存在や社会に関わる諸問題に取り組み、そのことを通して現代という時代を生きる私たち自身のあり方について考察していく。

到達目標 (1) 哲学に関する基礎的な知識を習得すること。
(2) 人間存在や社会の問題に対する哲学的な洞察力と、主体的な思考力を身につけること。

授業形式 講義形式
授業時に講義内容に関するレジュメを配布する。参考文献は必要に応じて授業中に適宜紹介する。
授業方法と留意点 受講者には、授業で紹介される哲学思想を単に学習するだけでなく、それらについて自らで思考し、批判的に吟味するように求めたい。
前の回までの内容をふまえて講義することになるので、各授業後にしっかりと復習を行い、ノートや資料の整理をしておくこと。病気などやむをえない事情で欠席した場合には、その回の資料を入手し、目を通しておくこと。
授業期間中に数回、授業の理解度を試す小レポートを実施する。

科目学習の効果 (資格) 現代社会の一員として主体的に生きるための、思考力と幅広い見識と教養を身につけることができる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーションとイントロダクション	授業の進め方、目的について説明する。「哲学」することの意義について考察する。	〈復習〉ノート・資料の整理。
2	近代科学の方法と哲学 (1)	西洋近代における自然観・人間観の変化と、それに基づく近代科学の発生などについて考察する。	〈予習〉ノート・資料の読み直し。〈復習〉授業後のノート・資料の整理。
3	近代科学の方法と哲学 (2)	近代科学の方法論とその限界を、哲学的視点から考察する。	〈予習〉ノート・資料の読み直し。〈復習〉授業後のノート・資料の整理。
4	近代的自我の確立——デカルト (1)	デカルトの思想を紹介し、近代的自我の意義について考察する。	〈予習〉ノート・資料の読み直し。〈復習〉授業後のノート・資料の整理。
5	合理主義の世界観——デカルト (2)	デカルトの思想から、哲学における「神」と「世界」の意義について考察する。	〈予習〉ノート・資料の読み直し。〈復習〉授業後のノート・資料の整理。
6	経験主義の認識論 (1)	ロックの認識論を紹介し、人間がどのようにして物事を正しく認識することができるのかを考察する。	〈予習〉ノート・資料の読み直し。〈復習〉授業後のノート・資料の整理。
7	経験主義の認識論 (2)	ロックの思想から、確実な「知識」と蓋然的な「信念」の違いについて考察する。	〈予習〉ノート・資料の読み直し。〈復習〉授業後のノート・資料の整理。
8	経験主義の認識論 (3)	ヒュームの認識論を取り上げ、人間はなぜ不確実なものを確実だと信じるのか、という問題について考察する。	〈予習〉ノート・資料の読み直し。〈復習〉授業後のノート・資料の整理。
9	経験主義と合理主義の総合——カント (1)	カントによる認識論の「コペルニクス的転回」を紹介し、人間の認識の限界について考察する。	〈予習〉ノート・資料の読み直し。〈復習〉授業後のノート・資料の整理。
10	理性の二律背反——カント (2)	カント哲学における自然と自由の二元論と、それに基づく人間観について考察する。	〈予習〉ノート・資料の読み直し。〈復習〉授業後のノート・資料の整理。
11	自立としての自由——カント (3)	カントの道徳論を紹介し、人間の「自由」とは何であり、人間はどのように自分の生き方を決めるべきなのかを考察する。	〈予習〉ノート・資料の読み直し。〈復習〉授業後のノート・資料の整理。
12	社会と幸福 (1)	ベンサムと J. S. ミルの功利主義思想を紹介し、「幸福」の追求とはどのようなべきかを考察する。	〈予習〉ノート・資料の読み直し。〈復習〉授業後のノート・資料の整理。
13	社会と幸福 (2)	前回は引き続き、ベンサムと J. S. ミルの功利主義思想から、「幸福」の追求とはどのようなべきかを考察する。	〈予習〉ノート・資料の読み直し。〈復習〉授業後のノート・資料の整理。
14	反理性と価値の創造	ニーチェによる生の哲学を紹介し、絶対的な「価値」が崩壊した時代をどう生きるべきなのかを考察する。	〈予習〉ノート・資料の読み直し。〈復習〉授業後のノート・資料の整理。
15	総括と展望	これまでの学習内容を概観し、その成果を確認すると同時に残された課題についての展望を示唆する。	〈予習〉ノート・資料の読み直し。〈復習〉授業後のノート・資料の整理。

関連科目 哲学 II、社会学、経済倫理、社会と人権

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	平常点(受講態度、授業後の質問、小レポートなど)を40%、期末定期試験の結果を60%として総合的に評価する。			
学生への メッセージ	授業中の私語、携帯の使用などで授業を妨害した者には退席を命じ、欠席扱いとします。大学生にふさわしい態度で授業に臨んでください。			
担当者の 研究室等	非常勤講師控室(授業日のみ入室)			
備考	授業担当者メールアドレス： xhamaryo@edu.setsunan.ac.jp			

科目名	哲学Ⅱ	科目名(英文)	Philosophy II
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	池田 清
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等	【科目】教科に関する科目(中学校 社会) 【施行規則に定める科目区分】「哲学、倫理学、宗教学」 【教員免許状取得のための履修区分】必修 【科目】教科に関する科目(高等学校 公民) 【施行規則に定める科目区分】「哲学、倫理学、宗教学、心理学」 【教員免許状取得のための履修区分】選択必修		

授業概要・目的	哲学という語の元にある「愛知」的探究の態度は、真理の原理だけでなく正義や善などの倫理的価値によって支えられていた。このような知的パラダイムは「倫理的パラダイム」と呼ぶことができるが、この講義を通じて倫理的パラダイムを理解しそのパラダイムに基づいて思考する思考力を身につける。
到達目標	哲学に関する基礎的知識を獲得することができる。
授業方法と留意点	教科書に即して講義し、それに基づいて現代社会に生じている諸問題を実際読み解く。テーマとなるのは、人間論としての哲学、倫理的パラダイム、近代啓蒙主義の回顧、リベラル・デモクラシーと科学的思考の諸問題、理想主義からニヒリズムへ、ポストモダンの生活世界、コスモスの世界像と幸福、教養教育と人間論などである。
科目学習の効果(資格)	哲学的・倫理的言語を学習し身につけることによって、日常生活を見る眼つまり世界観が変わる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	講義の概略と見直し	オリエンテーション	—————
	2	人間論としての哲学について	人間のあり方の問題と哲学の可能性	シラバスの熟読
	3	倫理的パラダイムとは何であるのか	テクノロジーの専制と生きる目的の喪失、そして倫理の復権	前回のノートの見直し
	4	近代啓蒙主義の回顧(1)	カントと理想主義 啓蒙の理性	前回のノートの見直し
	5	近代啓蒙主義の回顧(2)	歴史と社会の哲学と自由主義 カントそしてヘーゲル	前回のノートの見直し
	6	理想主義からニヒリズムへ	ヘーゲル、マルクス、ニーチェ	前回のノートの見直し
	7	数学的世界像と科学の世界	理性の危機と科学の客観性の問題	前回のノートの見直し
	8	真理の共同体と科学的パラダイム	真理の客観性と時間性	前回のノートの見直し
	9	ポストモダンの生活世界—複製技術の世界に抗して	大量生産とオリジナルの喪失	前回のノートの見直し
	10	手仕事技術の復権と生活の確かさを求めて	道具連関と生活の確かさ	前回のノートの見直し
	11	実存から構造主義へ、そして歴史の終焉	人間存在の主体性あるいはその解体	前回のノートの見直し
	12	ポストモダンの到来と末人たちの最後の国	ポストモダンとは何か。	前回のノートの見直し
	13	コスモスの世界像と幸福追求のために	共同体の存在可能性を求めて。	前回のノートの見直し
	14	徳と異種混合の知について考えてみる	幸福を求めて。	前回のノートの見直し
	15	まとめ	何が問題であったのか。	これまでの授業ノートの見直し。

関連科目 思想系の科目。

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	ポストモダン時代の倫理	石崎嘉彦他	ナカニシヤ出版
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準) 「レポート」(50%)、「定期試験」(50%)で評価する。

学生へのメッセージ 積極的に授業に参加して下さい。

担当者の研究室等 7号館2階(非常勤講師室)

備考

科目名	日本国憲法	科目名(英文)	Constitutional Law
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	大仲 淳介
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	概要：日本国憲法の基本的な内容を理解できるように、授業テーマと関連する憲法上の問題をとりあげ、これと関わりのある基本事項、判例、学説を解説・検討します。目的：身近に生じる憲法上の問題を通して憲法の基本的な考え方を理解してもらうこと。
到達目標	憲法の基本的な知識を修得し、身近に生じる憲法上の問題を憲法の視点から考えるようになることを目指します。
授業方法と留意点	教科書と配布プリントを用いて講義形式で行います。小テストは授業中に、適宜、行います。なお小テストを実施した回に欠席した者のための再試験は行いませんので注意して下さい。

科目学習の効果(資格)	各種公的資格試験の法学科目の基礎知識の取得になると思います。
-------------	--------------------------------

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	日本国憲法とは1	憲法の意味、憲法の最高法規性、違憲審査制などについて説明します。	事前に教科書9頁から18頁を読んでください。事後においては、配布プリントの問題を解いて下さい。
2	日本国憲法とは2	日本国憲法の基本原理、国民主権の原理、平和主義の原理(第9条)について説明します。	事前に教科書17頁から18頁、211から228頁を読んでください。事後においては、配布プリントの問題を解いて下さい。
3	基本的人権の保障1	人権歴史、人権の分類、人権の限界について説明します。	事前に教科書19頁から25頁を読んでください。事後においては、配布プリントの問題を解いて下さい。
4	基本的人権の保障2	人権の享有主体、人権規定の私人間効力について説明します。	事前に教科書25頁から46頁を読んでください。事後においては、配布プリントの問題を解いて下さい。
5	基本的人権の保障3	幸福追求権と法の下での平等について説明します。	事前に教科書47頁から66頁を読んでください。事後においては、配布プリントの問題を解いて下さい。
6	基本的人権の保障4	信教の自由と政教分離について説明します。	事前に教科書67頁から78頁を読んでください。事後においては、配布プリントの問題を解いて下さい。
7	基本的人権の保障5	表現の自由の保障とその限界について説明します。	事前に教科書79頁から90頁を読んでください。事後においては、配布プリントの問題を解いて下さい。
8	基本的人権の保障6	表現活動の規制(検閲と事前抑制)について説明します。	事前に教科書91頁から100頁を読んでください。事後においては、配布プリントの問題を解いて下さい。
9	基本的人権の保障7	職業選択の自由とその規制を中心に経済的自由権について説明します。	事前に教科書101頁から110頁を読んでください。事後においては、配布プリントの問題を解いて下さい。
10	基本的人権の保障8	生存権を中心に社会権について説明します。	事前に教科書111頁から129頁を読んでください。事後においては、配布プリントの問題を解いて下さい。
11	基本的人権の保障9	刑罰、刑事手続と憲法について説明します。	事前に教科書131頁から140頁を読んでください。事後においては、配布プリントの問題を解いて下さい。
12	統治機構1	立法の委任を中心に国会と立法権について説明します。	事前に155頁から166頁を読んでください。事後においては、配布プリントの問題を解いて下さい。
13	統治機構2	議院内閣制、内閣の組織と権能について説明します。	事前に教科書167頁から178頁を読んでください。事後においては、配布プリントの問題を解いて下さい。
14	統治機構3	司法権、違憲立法審査権について説明します。	事前に教科書179頁から200頁を読んでください。事後においては、配布プリントの問題を解いて下さい。
15	統治機構4	地方自治の本旨、条例制定権、住民投票について説明します。	事前に教科書201頁から210頁を読んでください。事後においては、配布プリントの問題を解いて下さい。

関連科目	法学入門
------	------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	はじめての憲法学(第2版)	中村睦男、岩本一郎、大島佳代子、木下和朗、齊藤正彰、佐々木雅寿、寺島壽一	三省堂
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法(基準)	定期試験(60%)、小テスト(40%)の割合で評価します。小テストは、適宜、行います。
----------	---

学生への	授業で生じた疑問は必ず質問して下さい。
------	---------------------

教養科目

メッセージ	
担当者の 研究室等	11号館5階 法学部資料室(法学部非常勤講師室)
備考	

科目名	日本語上級会話F I	科目名(英文)	Advanced Japanese Speaking FI
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	高井 美徳
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	この授業では、「お金」「家族」「幸福」「労働」など、個人や社会の価値観にかかわるようなトピックについて、日本語で議論する能力を伸ばす。																																																																		
到達目標	抽象的な話題について、論理的に意見を述べるができるようになることを目指す。																																																																		
授業方法と留意点	統計数理研究所「日本人の国民性調査」の質問項目および結果について議論する。その過程で、意見を構成するために必要な語彙を学ぶ。																																																																		
科目学習の 効果(資格)																																																																			
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td>トピック①</td><td>議論</td><td>復習</td></tr> <tr><td>2</td><td>トピック②</td><td>議論</td><td>復習</td></tr> <tr><td>3</td><td>トピック③</td><td>議論</td><td>復習</td></tr> <tr><td>4</td><td>トピック④</td><td>議論</td><td>復習</td></tr> <tr><td>5</td><td>トピック⑤</td><td>議論</td><td>復習</td></tr> <tr><td>6</td><td>トピック⑥</td><td>議論</td><td>復習</td></tr> <tr><td>7</td><td>トピック⑦</td><td>議論</td><td>復習</td></tr> <tr><td>8</td><td>中間テスト・復習</td><td>インタビュー形式によるテスト</td><td>復習</td></tr> <tr><td>9</td><td>トピック⑧</td><td>議論</td><td>復習</td></tr> <tr><td>10</td><td>トピック⑨</td><td>議論</td><td>復習</td></tr> <tr><td>11</td><td>トピック⑩</td><td>議論</td><td>復習</td></tr> <tr><td>12</td><td>トピック⑪</td><td>議論</td><td>復習</td></tr> <tr><td>13</td><td>トピック⑫</td><td>議論</td><td>復習</td></tr> <tr><td>14</td><td>トピック⑬</td><td>議論</td><td>復習</td></tr> <tr><td>15</td><td>まとめ</td><td>インタビュー形式によるテスト</td><td>復習</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	トピック①	議論	復習	2	トピック②	議論	復習	3	トピック③	議論	復習	4	トピック④	議論	復習	5	トピック⑤	議論	復習	6	トピック⑥	議論	復習	7	トピック⑦	議論	復習	8	中間テスト・復習	インタビュー形式によるテスト	復習	9	トピック⑧	議論	復習	10	トピック⑨	議論	復習	11	トピック⑩	議論	復習	12	トピック⑪	議論	復習	13	トピック⑫	議論	復習	14	トピック⑬	議論	復習	15	まとめ	インタビュー形式によるテスト	復習
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	トピック①	議論	復習																																																																
2	トピック②	議論	復習																																																																
3	トピック③	議論	復習																																																																
4	トピック④	議論	復習																																																																
5	トピック⑤	議論	復習																																																																
6	トピック⑥	議論	復習																																																																
7	トピック⑦	議論	復習																																																																
8	中間テスト・復習	インタビュー形式によるテスト	復習																																																																
9	トピック⑧	議論	復習																																																																
10	トピック⑨	議論	復習																																																																
11	トピック⑩	議論	復習																																																																
12	トピック⑪	議論	復習																																																																
13	トピック⑫	議論	復習																																																																
14	トピック⑬	議論	復習																																																																
15	まとめ	インタビュー形式によるテスト	復習																																																																
関連科目																																																																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	授業への取り組み、2回のテストから総合的に判断する。																																																																		
学生への メッセージ	受講生の日本語レベル等によって内容を変更することがあります。																																																																		
担当者の 研究室等	国際交流センター(3号館4階)																																																																		
備考																																																																			

科目名	日本語上級会話FⅡ	科目名(英文)	Advanced Japanese Speaking FII
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	高井 美穂
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	日本語会話FⅠと同様、個人や社会の価値観にかかわるような話題について日本語で議論する能力を伸ばす。																																																																		
到達目標	抽象的な話題について論理的に意見を述べるようになることを目指す。																																																																		
授業方法と留意点	統計数理研究所「日本人の国民性調査」の質問項目のなかから、前期に扱わなかった項目およびその結果について議論する。また、その過程で、意見を構成するために必要な語彙を学ぶ。																																																																		
科目学習の効果(資格)																																																																			
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td>トピック①</td><td>議論</td><td>復習</td></tr> <tr><td>2</td><td>トピック②</td><td>議論</td><td>復習</td></tr> <tr><td>3</td><td>トピック③</td><td>議論</td><td>復習</td></tr> <tr><td>4</td><td>トピック④</td><td>議論</td><td>復習</td></tr> <tr><td>5</td><td>トピック⑤</td><td>議論</td><td>復習</td></tr> <tr><td>6</td><td>トピック⑥</td><td>議論</td><td>復習</td></tr> <tr><td>7</td><td>中間テスト・復習</td><td>インタビュー形式によるテスト</td><td>復習</td></tr> <tr><td>8</td><td>トピック⑦</td><td>議論</td><td>復習</td></tr> <tr><td>9</td><td>トピック⑧</td><td>議論</td><td>復習</td></tr> <tr><td>10</td><td>トピック⑨</td><td>議論</td><td>復習</td></tr> <tr><td>11</td><td>トピック⑩</td><td>議論</td><td>復習</td></tr> <tr><td>12</td><td>トピック⑪</td><td>議論</td><td>復習</td></tr> <tr><td>13</td><td>トピック⑫</td><td>議論</td><td>復習</td></tr> <tr><td>14</td><td>トピック⑬</td><td>議論</td><td>復習</td></tr> <tr><td>15</td><td>まとめ</td><td>インタビュー形式によるテスト</td><td>復習</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	トピック①	議論	復習	2	トピック②	議論	復習	3	トピック③	議論	復習	4	トピック④	議論	復習	5	トピック⑤	議論	復習	6	トピック⑥	議論	復習	7	中間テスト・復習	インタビュー形式によるテスト	復習	8	トピック⑦	議論	復習	9	トピック⑧	議論	復習	10	トピック⑨	議論	復習	11	トピック⑩	議論	復習	12	トピック⑪	議論	復習	13	トピック⑫	議論	復習	14	トピック⑬	議論	復習	15	まとめ	インタビュー形式によるテスト	復習
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	トピック①	議論	復習																																																																
2	トピック②	議論	復習																																																																
3	トピック③	議論	復習																																																																
4	トピック④	議論	復習																																																																
5	トピック⑤	議論	復習																																																																
6	トピック⑥	議論	復習																																																																
7	中間テスト・復習	インタビュー形式によるテスト	復習																																																																
8	トピック⑦	議論	復習																																																																
9	トピック⑧	議論	復習																																																																
10	トピック⑨	議論	復習																																																																
11	トピック⑩	議論	復習																																																																
12	トピック⑪	議論	復習																																																																
13	トピック⑫	議論	復習																																																																
14	トピック⑬	議論	復習																																																																
15	まとめ	インタビュー形式によるテスト	復習																																																																
関連科目																																																																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法(基準)	授業への取り組み、2回のインタビューテストから総合的に判断する。																																																																		
学生へのメッセージ																																																																			
担当者の研究室等	国際交流センター(3号館4階)																																																																		
備考																																																																			

科目名	日本語上級作文F I	科目名 (英文)	Advanced Japanese Writing FI
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	中岡 樹里
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	様々な状況・場面における作文を通し、相手との関係や文を書く目的、使用する媒体に応じた適切な文が書けるようになることを目指す。																																																																		
到達目標	相手との関係や文を書く目的、使用する媒体に応じて適切な文が書けるようになる。																																																																		
授業方法と留意点	授業は、実践と解説を中心に行う。																																																																		
科目学習の効果(資格)	相手との関係、書く内容、使用媒体に応じた適切な文章が書けるようになる。																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>オリエンテーション</td> <td>授業の説明、様々なコミュニケーションツールとその使用について学習する</td> <td>———</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>Eメールの基本1</td> <td>Eメールの基本を学習する</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>Eメールの基本2</td> <td>Eメールの基本を学習する</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>Eメール1</td> <td>近況を知らせるメール</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>Eメール2</td> <td>お知らせメール</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>Eメール3</td> <td>お誘いメール</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>Eメール4</td> <td>リマインドメール</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>Eメール5</td> <td>問い合わせ/質問メール</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>Eメール6</td> <td>依頼メール</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>Eメール7</td> <td>アポイント/日程調整メール</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>Eメール8</td> <td>お礼のメール</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>Eメール9</td> <td>断りメール</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>Eメール10</td> <td>クレームのメール</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>手紙</td> <td>お礼状を書く</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>総復習・確認テスト</td> <td>総復習、確認テスト</td> <td>復習</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	オリエンテーション	授業の説明、様々なコミュニケーションツールとその使用について学習する	———	2	Eメールの基本1	Eメールの基本を学習する	復習	3	Eメールの基本2	Eメールの基本を学習する	復習	4	Eメール1	近況を知らせるメール	復習	5	Eメール2	お知らせメール	復習	6	Eメール3	お誘いメール	復習	7	Eメール4	リマインドメール	復習	8	Eメール5	問い合わせ/質問メール	復習	9	Eメール6	依頼メール	復習	10	Eメール7	アポイント/日程調整メール	復習	11	Eメール8	お礼のメール	復習	12	Eメール9	断りメール	復習	13	Eメール10	クレームのメール	復習	14	手紙	お礼状を書く	復習	15	総復習・確認テスト	総復習、確認テスト	復習
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	オリエンテーション	授業の説明、様々なコミュニケーションツールとその使用について学習する	———																																																																
2	Eメールの基本1	Eメールの基本を学習する	復習																																																																
3	Eメールの基本2	Eメールの基本を学習する	復習																																																																
4	Eメール1	近況を知らせるメール	復習																																																																
5	Eメール2	お知らせメール	復習																																																																
6	Eメール3	お誘いメール	復習																																																																
7	Eメール4	リマインドメール	復習																																																																
8	Eメール5	問い合わせ/質問メール	復習																																																																
9	Eメール6	依頼メール	復習																																																																
10	Eメール7	アポイント/日程調整メール	復習																																																																
11	Eメール8	お礼のメール	復習																																																																
12	Eメール9	断りメール	復習																																																																
13	Eメール10	クレームのメール	復習																																																																
14	手紙	お礼状を書く	復習																																																																
15	総復習・確認テスト	総復習、確認テスト	復習																																																																
関連科目	総合日本語、日本語読解、日本語会話、日本事情																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法(基準)	授業への参加態度、課題などを総合的に評価する。																																																																		
学生へのメッセージ	相手、内容、媒体に応じた効果的な書き方を勉強しましょう。																																																																		
担当者の研究室等	7号館2階(非常勤講師室)																																																																		
備考	(1)宿題(教員へのメール送信)は、授業中に適宜指示する。 (2)授業外の質問等については、メールで対応する。 (3)授業内容は、進捗等に応じて変更する場合がある。																																																																		

科目名	日本語上級作文FⅡ	科目名(英文)	Advanced Japanese Writing FII
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	中岡 樹里
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	ビジネス場面でのメール交換について解説しながら、実践を通し、状況・目的に応じて適切なビジネスメールが書けるようになることを目指す。			
到達目標	日本のビジネス場面やビジネス場面でのメール交換について理解し、状況や目的、相手に応じて適切なビジネスメールが書けるようになる。			
授業方法と留意点	授業は、講義と実践を中心に行う。			
科目学習の効果(資格)	状況や目的、相手に応じた適切なビジネスメールが書けるようになる。			
授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション ビジネス場面のライティング	授業の説明、 ビジネス場面でのライティングについて学習する	—————
	2	就職活動1	就職活動について学習する 履歴書を書く	復習
	3	就職活動2	自己PRを書く	復習
	4	ビジネスマナー ビジネスコミュニケーション	ビジネスマナー、ビジネス場面でのコミュニケーションについて学習する	復習
	5	ビジネスメールの基本	ビジネスメールの基本を学ぶ	復習
	6	ビジネスメール1	挨拶メール	復習
	7	ビジネスメール2	報告メール	復習
	8	ビジネスメール3	通知メール	復習
	9	ビジネスメール4	案内メール	復習
	10	ビジネスメール5	確認メール	復習
	11	ビジネスメール6	依頼メール	復習
	12	ビジネスメール7	問い合わせ/回答メール	復習
	13	ビジネスメール8	アポイントを取るメール	復習
	14	ビジネスメール9	お詫び/お礼のメール	復習
	15	総復習・確認テスト	総復習・確認テスト	復習
関連科目	総合日本語、日本語読解、日本語会話、日本事情			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法(基準)	授業への参加態度、課題などを総合的に評価する。			
学生へのメッセージ	日系企業や日本国内の会社で働く際に必要な知識やビジネスメールの書き方を勉強して、就職に備えた練習をしましょう。			
担当者の研究室等	7号館2階(非常勤講師室)			
備考	(1)宿題(教員へのメール送信)は、授業中に適宜指示する。 (2)授業外の質問等については、メールで対応する。 (3)授業内容は、進度等に応じて変更する場合がある。			

科目名	日本語上級読解 F I	科目名 (英文)	Advanced Japanese Reading FI
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	古川 由理子
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	<p>この授業では次の3点を目標にします。</p> <p>①まとまった内容の文章から必要な情報を読み取る ②まとまった内容の文章の大意を把握する ③できるだけ速く①と②をできるようにする</p> <p>なお、JLPTのN1に合格していない学習者が多い場合、その対策も行ないます。</p>																																																																		
到達目標	<p>日常生活に必要な文章から、大学生活において求められるレベルのある程度専門性のある文章まで、レベルの異なる文章をできるだけ速く読み、自分に必要な情報を読み取れるようになる。</p> <p>JLPTを受験する予定の者は、それぞれ、ターゲット級に合格する(N1、N2に限る)。</p>																																																																		
授業方法と留意点	<p>この授業では、実際に日本社会で使用されている生教材を使って、速読を行ないます。テキストを一字一句、正確に、正確に、正確に読むのではなく、できるだけ速く、自分に必要な情報を読み取る練習をします。そのため、次のような手順で授業を進めます。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. キーワード・キーセンテンスを探す 2. 接続詞に注意する 3. テキストの流れに注意する 4. 予測して読む 5. テキストをまとめる 																																																																		
科目学習の効果(資格)	<ul style="list-style-type: none"> ・日常あふれている数々の日本語の文章の中から、自分に必要な情報をより早く取り入れることができる。 ・必要ではない情報を捨て、ポイントはどこかを把握できるようにする。 ・その成果を専門の文章の読解に応用する。 <p>(・JPT N1を持っていないものは取得を目指す。)</p>																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>ガイダンス</td> <td>授業の概要説明 ブレースメントテスト</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>指示語に注意する</td> <td>練習問題をこなす</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>キーワードに注意する</td> <td>穴埋め問題をこなす</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>文章の内容を予測する</td> <td>並べ替えの問題</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>キーセンテンスを探す(1)</td> <td>練習問題をこなす</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>キーセンテンスを探す(2)</td> <td>練習問題をこなす</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>要約をする</td> <td>全体を問う問題をこなす</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>説明文を読む(1)</td> <td>2~3の説明文を読み、問題を解く</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>説明文を読む(2)</td> <td>2~3の説明文を読み、問題を解く</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>論説文を読む(1)</td> <td>2~3の論説文を読み、問題を解く</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>論説文を読む(2)</td> <td>2~3の論説文を読み、問題を解く</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>随筆を読む</td> <td>2~3の随筆を読み、問題を解く</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>小説を読む(1)</td> <td>2~3の小説を読み、問題を解く</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>小説を読む(2)</td> <td>2~3の小説を読み、問題を解く</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>期末テスト</td> <td>授業中に指示する</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	1	ガイダンス	授業の概要説明 ブレースメントテスト	復習	2	指示語に注意する	練習問題をこなす	授業内容を復習する	3	キーワードに注意する	穴埋め問題をこなす	授業内容を復習する	4	文章の内容を予測する	並べ替えの問題	授業内容を復習する	5	キーセンテンスを探す(1)	練習問題をこなす	授業内容を復習する	6	キーセンテンスを探す(2)	練習問題をこなす	授業内容を復習する	7	要約をする	全体を問う問題をこなす	授業内容を復習する	8	説明文を読む(1)	2~3の説明文を読み、問題を解く	授業内容を復習する	9	説明文を読む(2)	2~3の説明文を読み、問題を解く	授業内容を復習する	10	論説文を読む(1)	2~3の論説文を読み、問題を解く	授業内容を復習する	11	論説文を読む(2)	2~3の論説文を読み、問題を解く	授業内容を復習する	12	随筆を読む	2~3の随筆を読み、問題を解く	授業内容を復習する	13	小説を読む(1)	2~3の小説を読み、問題を解く	授業内容を復習する	14	小説を読む(2)	2~3の小説を読み、問題を解く	授業内容を復習する	15	期末テスト	授業中に指示する	授業内容を復習する
回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題																																																																
1	ガイダンス	授業の概要説明 ブレースメントテスト	復習																																																																
2	指示語に注意する	練習問題をこなす	授業内容を復習する																																																																
3	キーワードに注意する	穴埋め問題をこなす	授業内容を復習する																																																																
4	文章の内容を予測する	並べ替えの問題	授業内容を復習する																																																																
5	キーセンテンスを探す(1)	練習問題をこなす	授業内容を復習する																																																																
6	キーセンテンスを探す(2)	練習問題をこなす	授業内容を復習する																																																																
7	要約をする	全体を問う問題をこなす	授業内容を復習する																																																																
8	説明文を読む(1)	2~3の説明文を読み、問題を解く	授業内容を復習する																																																																
9	説明文を読む(2)	2~3の説明文を読み、問題を解く	授業内容を復習する																																																																
10	論説文を読む(1)	2~3の論説文を読み、問題を解く	授業内容を復習する																																																																
11	論説文を読む(2)	2~3の論説文を読み、問題を解く	授業内容を復習する																																																																
12	随筆を読む	2~3の随筆を読み、問題を解く	授業内容を復習する																																																																
13	小説を読む(1)	2~3の小説を読み、問題を解く	授業内容を復習する																																																																
14	小説を読む(2)	2~3の小説を読み、問題を解く	授業内容を復習する																																																																
15	期末テスト	授業中に指示する	授業内容を復習する																																																																
関連科目	日本語表現作文																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法(基準)	<p>定期試験を実施(試験の形式については授業中に説明する)</p> <p>出席・授業態度 + 期末テスト = 100%</p> <p>50% 50%</p>																																																																		
学生へのメッセージ	<p>受講者のニーズにより、授業内容を大幅に変更することがあります。</p> <p>出席を重視します。できるだけ欠席をしないようにしてください。</p>																																																																		
担当者の研究室等	外国語学部非常勤講師室(7号館2階)																																																																		
備考	受講者が少人数である場合は、受講者のリクエストを優先します。																																																																		

科目名	日本語上級読解FⅡ	科目名(英文)	Advanced Japanese Reading FII
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	古川 由理子
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	<p>この授業では次の3点を目標にします。</p> <p>①まとまった内容の文章から必要な情報を読み取る ②まとまった内容の文章の大意を把握する ③できるだけ速く①と②をできるようにする</p> <p>なお、JLPTのN1に合格していない学習者が多い場合、その対策も行ないます。</p>																																																																		
到達目標	<p>日常生活に必要な文章から、大学生活において求められるレベルのある程度専門性のある文章まで、レベルの異なる文章をできるだけ速く読み、自分に必要な情報を読み取れるようになる。</p> <p>JLPTを受験する予定の者は、それぞれ、ターゲット級に合格する(N1、N2に限る)。</p>																																																																		
授業方法と留意点	<p>この授業では、実際に日本社会で使用されている生教材を使って、速読を行ないます。テキストを一字一句、正確に、正確に読めばいいのではなく、できるだけ速く、自分に必要な情報を読み取る練習をします。そのため、次のような手順で授業を進めます。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. キーワード・キーセンテンスを探す 2. 接続詞に注意する 3. テキストの流れに注意する 4. 予測して読む 5. テキストをまとめる 																																																																		
科目学習の効果(資格)	<ul style="list-style-type: none"> ・日常あふれている数々の日本語の文章の中から、自分に必要な情報をより早く取り入れることができる。 ・必要ではない情報を捨て、ポイントはどこかを把握できるようにする。 ・その成果を専門の文章の読解に応用する。 <p>(・JPT N1を持っていないものは取得を目指す。)</p>																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>ガイダンス</td> <td>授業の概要説明 ブレースメントテスト</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>指示語に注意する</td> <td>練習問題をこなす</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>キーワードに注意する</td> <td>穴埋め問題をこなす</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>文章の内容を予測する</td> <td>並べ替えの問題</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>キーセンテンスを探す(1)</td> <td>練習問題をこなす</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>キーセンテンスを探す(2)</td> <td>練習問題をこなす</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>要約をする</td> <td>全体を問う問題をこなす</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>説明文を読む(1)</td> <td>2～3の説明文を読み、問題を解く</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>説明文を読む(2)</td> <td>2～3の説明文を読み、問題を解く</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>論説文を読む(1)</td> <td>2～3の論説文を読み、問題を解く</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>論説文を読む(2)</td> <td>2～3の論説文を読み、問題を解く</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>随筆を読む</td> <td>2～3の随筆を読み、問題を解く</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>小説を読む(1)</td> <td>2～3の小説を読み、問題を解く</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>小説を読む(2)</td> <td>2～3の小説を読み、問題を解く</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>期末テスト</td> <td>授業中に指示する</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	1	ガイダンス	授業の概要説明 ブレースメントテスト	復習	2	指示語に注意する	練習問題をこなす	授業内容を復習する	3	キーワードに注意する	穴埋め問題をこなす	授業内容を復習する	4	文章の内容を予測する	並べ替えの問題	授業内容を復習する	5	キーセンテンスを探す(1)	練習問題をこなす	授業内容を復習する	6	キーセンテンスを探す(2)	練習問題をこなす	授業内容を復習する	7	要約をする	全体を問う問題をこなす	授業内容を復習する	8	説明文を読む(1)	2～3の説明文を読み、問題を解く	授業内容を復習する	9	説明文を読む(2)	2～3の説明文を読み、問題を解く	授業内容を復習する	10	論説文を読む(1)	2～3の論説文を読み、問題を解く	授業内容を復習する	11	論説文を読む(2)	2～3の論説文を読み、問題を解く	授業内容を復習する	12	随筆を読む	2～3の随筆を読み、問題を解く	授業内容を復習する	13	小説を読む(1)	2～3の小説を読み、問題を解く	授業内容を復習する	14	小説を読む(2)	2～3の小説を読み、問題を解く	授業内容を復習する	15	期末テスト	授業中に指示する	授業内容を復習する
回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題																																																																
1	ガイダンス	授業の概要説明 ブレースメントテスト	復習																																																																
2	指示語に注意する	練習問題をこなす	授業内容を復習する																																																																
3	キーワードに注意する	穴埋め問題をこなす	授業内容を復習する																																																																
4	文章の内容を予測する	並べ替えの問題	授業内容を復習する																																																																
5	キーセンテンスを探す(1)	練習問題をこなす	授業内容を復習する																																																																
6	キーセンテンスを探す(2)	練習問題をこなす	授業内容を復習する																																																																
7	要約をする	全体を問う問題をこなす	授業内容を復習する																																																																
8	説明文を読む(1)	2～3の説明文を読み、問題を解く	授業内容を復習する																																																																
9	説明文を読む(2)	2～3の説明文を読み、問題を解く	授業内容を復習する																																																																
10	論説文を読む(1)	2～3の論説文を読み、問題を解く	授業内容を復習する																																																																
11	論説文を読む(2)	2～3の論説文を読み、問題を解く	授業内容を復習する																																																																
12	随筆を読む	2～3の随筆を読み、問題を解く	授業内容を復習する																																																																
13	小説を読む(1)	2～3の小説を読み、問題を解く	授業内容を復習する																																																																
14	小説を読む(2)	2～3の小説を読み、問題を解く	授業内容を復習する																																																																
15	期末テスト	授業中に指示する	授業内容を復習する																																																																
関連科目	日本語表現作文																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法(基準)	<p>定期試験を実施(試験の形式については授業中に説明する)</p> <p>出席・授業態度 + 期末テスト = 100%</p> <p>50% 50%</p>																																																																		
学生へのメッセージ	<p>受講者のニーズにより、授業内容を大幅に変更することがあります。</p> <p>出席を重視します。できるだけ欠席をしないようにしてください。</p>																																																																		
担当者の研究室等	外国語学部非常勤講師室(7号館2階)																																																																		
備考	受講者が少数である場合は、受講者のリクエストを優先します。																																																																		

科目名	日本の歴史	科目名(英文)	Japanese History
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	赤澤 春彦
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等	【科目】教科に関する科目(中学校 社会) 【施行規則に定める科目区分】日本史及び外国史 【教員免許状取得のための履修区分】必修 【科目】教科に関する科目(高等学校 地理歴史) 【施行規則に定める科目区分】日本史 【教員免許状取得のための履修区分】必修		

教養科目

授業概要・目的	歴史学は人々の営為を様々な角度から検証する学問です。その中でも「時間」と「空間」という視点は歴史学の大きな特徴といえるでしょう。政治、経済、宗教、生活、文化など様々な要素が、「時間」の流れの中で、互いに関係を持ちながらどう変化してゆくのか。ここに歴史学のおもしろさがあります。本講義では日本の歴史を「流れ」にそって理解することを目的とします。
到達目標	日本の歴史にかかる基本的な知識を習得し、政治、経済、宗教、文化など多角的な要素を複合的に叙述できる能力を養えます。
授業方法と留意点	板書により講義を進めますが、プリント・スライドも用います。
科目学習の効果(資格)	今後の講義や演習で一つの事象を様々な視角から考察、叙述できるようになります。また、中学社会・高等学校地理歴史の教員免許を取得する際の科目でもあります。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	講義の進め方、評価方法などについて説明します。日本史の時代区分について考えます。	復習
2	古代国家の形成	ヤマト国家から律令国家形成までの歴史を学びます。	復習
3	摂関政治と貴族社会	平安時代の政治と社会について学びます。	復習
4	武士の登場と成長	中世以降の日本の歴史を考える上で鍵となる武士の登場、成長について学びます。	復習
5	鎌倉幕府	鎌倉幕府とは何か。成立にかかる歴史と特質について学びます。	復習
6	室町時代の政治と文化	室町時代の政治・文化の特質について学びます。	復習
7	戦国時代と天下統一	戦国時代から織豊期までの動向と統一政権誕生の歴史的意義を学びます。	復習
8	古代・中世の宗教	神祇・仏教・道教などを素材に宗教と政治・社会の関係について学びます。	復習
9	幕藩体制の成立	江戸時代の国家や地域社会の枠組みについて学びます。	復習
10	近世社会と民衆	江戸時代の民衆の生活や文化について学びます。	復習
11	近代国家への道	幕末から明治政府樹立までの歴史を学びます。	復習
12	近代の思想と文化	明治から昭和初期の文化や思想について学びます。	復習
13	戦争と国家	日清戦争、日露戦争、第一次大戦、第二次大戦が与えた影響について考えます。	復習
14	戦後から現代へ	敗戦と戦後の日本の歴史について学び、私たちの「今」について考えます。	復習
15	まとめ	論述試験を行います。	今までの講義ノートをまとめておくこと。

関連科目

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法(基準)	講義最終日に行う論述試験(持ち込み可)、講義中に課す小レポートなどをもとに総合的に評価します。詳しくは講義第1回目に説明します。
学生へのメッセージ	年号や用語を暗記する必要はまったくありません。「これとあれは実はつながっていたんだ」とか「この布石があったからこういう事件が起きたんだ」といった「つながり」の面白さを発見してください。
担当者の研究室等	7号館4階(赤澤研究室)
備考	事前・事後学習は総時間60時間を目安とする。

科目名	犯罪被害者と法的救済	科目名(英文)	Legal Remedies for Victims of Crime
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	小野 晃正
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	<ul style="list-style-type: none"> ・日常的な人間関係や医療過誤を通じて、何らかの犯罪の被害者となった場合、犯罪被害者はどのような対処をとることができるだろうか。 ・たとえば、医療機関における医療ミス、交友関係をめぐって生じるストーカーやデートDVの被害、近親者からの精神的・肉体的な虐待、学生をカモにする巧妙な儲け話から起因する詐欺被害(マルチ商法)、とりわけ男子学生が陥りやすい出会い系を通じた美人局被害、あるいは、家族が犯罪に遭うことによる経済的損失ないし被害など、事例を挙げればきりがない。 ・近年、わが国でも犯罪被害に遭った者を支援する制度が構築されつつある。しかし、わが国ではこうした支援ないし救済策が講じられてこなかった期間が長すぎたため、多くの国民にその内容が浸透していない。そのため、依然として被害者は泣き寝入りするか、何も打つ手をとらずに最悪の結果を招来することもある。 ・本講義では、自身や家族が犯罪被害者となってしまった場合、どのような救済策があるのかをわかりやすく解説し、被害を最小限度にとどめ、さらには犯罪被害者に対する理解を深めることを目的とする。 ・犯罪被害者を論ずる前に、講義の教回を用いて、まず「加害者」の法的責任、「犯罪者」刑事責任、「犯罪者」の処遇、刑罰の正当化根拠、厳罰化をめぐる諸問題など、犯罪被害者を講じる前提となる伝統的な刑事学の講義を行う。 ・法的知識は、時代を生き抜く上での一種の「転ばぬ先の杖」(教養)でもあるため、文系や理系を問わず、幅広い学生を履修対象とする。
---------	--

到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・「被害者」概念について説明できるようになる。 ・犯罪被害者の救済制度を挙げ、これを説明できるようになる。 ・犯罪被害者の支援制度について理解する。
------	--

授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・原則として講義形式で行うが、教員からの一方通行的な講義にならぬよう、学生と教員双方の理解を深めるため、質疑応答も随時行いたい。
----------	--

科目学習の効果(資格)	<ul style="list-style-type: none"> ・万が一に犯罪の被害に遭ったとしても、泣き寝入りすることなく、正当な手法による被害回復や救済手段を身につけることができる。 ・公務員や法律事務所などへの就職に役立つ。
-------------	--

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス 「加害者」と「犯罪者」 「被害者」と「犯罪被害者」	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の進め方と文献紹介 ・「加害者」の法的責任 ・「加害者」と「犯罪者」 ・「被害者」の意義 ・「犯罪被害者」の意義 	事前: 「犯罪被害者」について調べてみよう 事後: 重要事項をまとめる
2	「犯罪者」をめぐる諸問題	<ul style="list-style-type: none"> ・「犯罪者」の刑事責任 ・刑罰の正当化根拠 ・厳罰化をめぐる諸問題 	事前: 前回の復習 事後: 重要事項をまとめる
3	犯罪被害の告訴・告発と証拠収集 犯罪捜査への対応	<ul style="list-style-type: none"> ・告訴と告発の方法 ・証拠保全 ・犯罪被害者に対するメディアスクラム ・報道による被害(テレビ、ラジオ、新聞、雑誌、ネット) ・被害者連絡制度 ・被害者側からの問い合わせ ・被害者からの事情聴取 ・警察と検察によるカウンセリング体制 	事前: 前回の復習 事後: 重要事項をまとめる
4	加害者との示談	<ul style="list-style-type: none"> ・示談の意義 ・示談が与える影響 ・示談慰謝料の算定 	事前: 前回の復習 事後: 重要事項をまとめる
5	加害者の不起訴と検察審査会	<ul style="list-style-type: none"> ・検察審査会 ・検察審査員 ・審査申立手続 ・検察審査会と被害者 ・起訴議決制度 	事前: 前回の復習 事後: 重要事項をまとめる
6	刑事公判と被害者	<ul style="list-style-type: none"> ・被害者による裁判傍聴 ・被害者による記録の閲覧と謄写 ・被害者の意見陳述 ・被害者等特定事項の非公開 	事前: 前回の復習 事後: 重要事項をまとめる
7	犯罪被害者参加制度	<ul style="list-style-type: none"> ・対象犯罪 ・被害者に認められる行為 ・参加の申出と参加時期 ・公判前整理手続への参加 ・被害者の証人尋問 ・被告人質問と意見陳述 	事前: 前回の復習 事後: 重要事項をまとめる
8	小テスト	第7回目までの理解度確認	事前: 前回までの復習 事後: わからなかった箇所を再確認
9	損害賠償命令制度	<ul style="list-style-type: none"> ・制度の趣旨 ・対象犯罪 ・遺族による申立 ・請求対象とその範囲 ・管轄裁判所と申立期間 	事前: 「犯罪被害者への経済支援」を調べよう 事後: 重要事項をまとめる
10	被害者通知制度 犯罪被害者等給付金制度	<ul style="list-style-type: none"> ・加害者の施設内処遇と社会内処遇 ・加害者の仮釈放 ・犯罪被害者への経済支援制度 ・受給資格 ・支給要件と支給額 ・不服申立 	事前: 前回の復習 事後: 重要事項をまとめる

	11	その他の経済的支援制度	<ul style="list-style-type: none"> ・犯罪被害者救護基金 ・交通事故犯罪 ・犯罪による精神被害 	事前：前回の復習 事後：重要事項をまとめる																
	12	少年事件における被害者保護	<ul style="list-style-type: none"> ・少年法と犯罪被害者救済 ・少年事件における記録閲覧 ・少年審判の傍聴 ・少年事件での意見陳述 ・少年とその親に対する損害賠償 ・少年法と犯罪被害者救済 	事前：前回の復習 事後：重要事項をまとめる																
	13	DV被害	<ul style="list-style-type: none"> ・DVとは何か ・配偶者による犯罪 ・DV被害者の保護と支援 ・保護命令 	事前：前回の復習 事後：重要事項をまとめる																
	14	ストーカー被害	<ul style="list-style-type: none"> ・いわゆる「ストーカー規制法」の概要 ・ストーカーへの行政処分 ・ストーカー犯罪の類型 ・ストーカーへの対応策 	事前：前回の復習 事後：重要事項をまとめる																
	15	修復的司法	<ul style="list-style-type: none"> ・修復的司法の意義 ・わが国における修復的司法の展望 	事前：前回の復習 事後：重要事項をまとめる																
関連科目	各学部開講の教養科目・・・法学入門、現代社会と法、日本国憲法 法学部開講の専門科目・・・刑事法概論、刑法総論、刑法各論、経済刑法、刑事訴訟法、刑事政策、少年法、民法、民事訴訟法ほか																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>刑事政策</td> <td>川出 敏裕＝金 光旭</td> <td>成文堂</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	刑事政策	川出 敏裕＝金 光旭	成文堂	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	刑事政策	川出 敏裕＝金 光旭	成文堂																	
2																				
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>その他の専門文献は開講時に紹介する。</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	その他の専門文献は開講時に紹介する。			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	その他の専門文献は開講時に紹介する。																			
2																				
3																				
評価方法 (基準)	・小テストおよび期末試験の成績を総合評価する。なお、質疑応答を交えた場合は、その応答内容をプラスの方向でのみ評価する。																			
学生への メッセージ	・事件報道やその後の話、あるいは社会の問題に関心のある学生が受講することをおすすめします。知って得をすることがあっても、損はさせない内容です。																			
担当者の 研究室等	11号館10階 小野准教授室																			
備考	事前学習：内容に記載した事項につき、毎回0.5時間以上の予習に取り組む。 事後学習：講義内容についてノートにまとめるなど、毎回1時間以上の復習に取り組む。																			

科目名	ビジネスイングリッシュ I	科目名 (英文)	Business English I
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	3年	クラス	123
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	中野 華子
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	ビジネスに関するさまざまな場面と文章を想定した英語を学ぶ。
到達目標	英語力の向上とビジネス英語への理解を深めることを目標とする。
授業方法と留意点	積極的な授業参加を期待する。発話により英語力を身につけるため、大きな声を出して下さい。辞書を持参のこと。
科目学習の効果 (資格)	ビジネスの場で必要とされる読解力、語彙力をつける。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	unit1 来客応対	ビジネスシーンにおける基本表現、会話文、書類の書き方を学び、問題を解く。	復習
3	Unit3 電話応対	ビジネスシーンにおける基本表現、会話文、書類の書き方を学び、問題を解く。	復習
4	Unit5 ビジネスエチケットとプロトコール (1)	ビジネスシーンにおける基本表現、会話文、書類の書き方を学び、問題を解く。	復習
5	Unit6 ビジネスエチケットとプロトコール (2)	ビジネスシーンにおける基本表現、会話文、書類の書き方を学び、問題を解く。	復習
6	Unit7 ビジネスエチケットとプロトコール (3)	ビジネスシーンにおける基本表現、会話文、書類の書き方を学び、問題を解く。	復習
7	Unit8 プレゼンテーション (1)	ビジネスシーンにおける基本表現、会話文、書類の書き方を学び、問題を解く。	復習
8	中間テスト	Unit1, 3, 5, 6, 7, 8 のテスト	テストに備えての学習
9	Unit9 プレゼンテーション (2)	ビジネスシーンにおける基本表現、会話文、書類の書き方を学び、問題を解く。	復習
10	Unit11 ビジネスメール (1)	ビジネスシーンにおける基本表現、会話文、書類の書き方を学び、問題を解く。	復習
11	Unit12 ビジネスメール (2)	ビジネスシーンにおける基本表現、会話文、書類の書き方を学び、問題を解く。	復習
12	Unit13 ビジネスレター	ビジネスシーンにおける基本表現、会話文、書類の書き方を学び、問題を解く。	復習
13	Unit14 就職活動 (1) - 英語による面接 -	ビジネスシーンにおける基本表現、会話文、書類の書き方を学び、問題を解く。	復習
14	Unit15 就職活動 (2) - 英文履歴書の書き方 -	ビジネスシーンにおける基本表現、会話文、書類の書き方を学び、問題を解く。	復習
15	テスト	Unit9, 11, 12, 13, 14, 15 のテスト	テストに備えての学習

関連科目	ビジネスイングリッシュ II
------	----------------

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Business English for Beginners : はじめてのビジネス・イングリッシュ	吉野総子、植竹由美子、遊佐重樹	三修社
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 (基準)	授業参加30%、テスト70%
学生へのメッセージ	ビジネスメールや履歴書など、必ず皆さんが直面する事態を英語で学びます。プロトコールやマナーは共通なので将来役に立つでしょう。
担当者の研究室等	7号館非常勤講師室
備考	

科目名	ビジネスイングリッシュ I	科目名 (英文)	Business English I
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	3年	クラス	456
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	グランド パーシム
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	The main educational objective will be for the students to learn and become familiar with business and office practices using English as the primary language. 主たる目的は、学生がビジネス現場で使用される英語を学習し、慣れること。
到達目標	Students will be able to have a basic predictable business conversation. Understand announcements normal business conversations. Read and understand normal business documents, letters, notices and memos. Be able to understand the reading section of the TOEIC examination.
授業方法と留意点	Students will experience many varied writing, listening and speaking tasks in pairs and small groups, using the English language. 学生は、英語を使用し、ペアや小グループで、ライティング、リスニング、スピーキングなどの様々なタスクを行う。
科目学習の効果 (資格)	The students will study some basic business and office practices with associated skills in English, with the objective of learning how an business office functions using English. 学生はビジネス現場でどのように英語が機能しているかを学習するという目的のもと、ビジネス英語に関する基本的なスキルを勉強する。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	Orientation and self introduction	Exchanging personal information and pair work.	Review class. Study sheets will be provided.
	2	Talking about your job	Read unit and pair work,	Review class. Study sheets will be provided.
	3	Untroucing people	Listening and pairwork	Review class. Study sheets will be provided.
	4	Giving instructions	Listening and pair work	Review class. Study sheets will be provided.
	5	Making arrangements	Listening and pair work	Review class. Study sheets will be provided.
	6	Review and Quiz		-
	7	Talking about travel.	Read, listen, write and pair work	Review class. Study sheets will be provided.
	8	Offering help & apologizing	Listening and pair work	Review class. Study sheets will be provided.
	9	Talking about sales Large numbers	Listening and pair work	Review class. Study sheets will be provided.
	10	Messages. Checking information	Listening and pair work	Review class. Study sheets will be provided.
	11	Discussing future plans	Listening and pair work	Review class. Study sheets will be provided.
	12	Review Quiz	Listening and pair work	Review class. Study sheets will be provided.
	13	Intensive Listening to business situation	Listening	Review class. Study sheets will be provided.
	14	Intensive Listening to business situation	Listen, write and pair work	Review class. Study sheets will be provided.
	15	Review and achievement check		

関連科目	Not required.
------	---------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Passport to Work	Angela Buckingham and Norman Whitney	OXFORD
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	Short quizzes 30%, Homework 20% Preperation for class 15% Lisening ing class 15% Clear accurate Speaking in class 15% In class participation & Efforts 5%
-----------	--

学生へのメッセージ	Plan for your future, study English now. Business English will be VERY USEFUL when you go JOB HUNTING in the near future ! (1) 講義中にきちんとノートを取り、問題意識を持って講義に臨むこと。 (2) 講義に積極的に参加すること。
-----------	--

担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
備考	

教養科目

科目名	ビジネスイングリッシュ I	科目名 (英文)	Business English I
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	3年	クラス	789
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	松浦 茂寿
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	ビジネスをするに当たって必要となる専門用語を始め、ありがちな場面の英会話、電子メール及び手紙の読み方、海外郵便の出し方などを学ぶ。新出単語や電子メールや注文書、案内などの書式に慣れれば、基本知識としてだけでなく TOEIC リーディングを解く際に役立つし、海外郵便の出し方を学べば将来、海外で仕事するだけでなく留学する時にも大変重宝するので、この際をしっかり覚えよう！
到達目標	取引、商談は日本語でできれば良いが、海外相手だとそうもいかない。英語で書かれた書類や手紙、広告に目を通す際、誤解を生じないように様々な用語を覚えつつ、英語を英語でわかるように頑張ろう。
授業方法と留意点	毎週、授業時に教科書の新出単語から単語テストを行う予定。ただ教科書に書かれてある内容を読んで暗記するだけでなく、実際に新出単語を書き、練習問題を解きながら繰り返し手と頭で覚えていこう。こうした1つ1つの地味な努力が、将来、海外と取引、商談の際に必要な作業に生かされます。半期の短い間だが、頑張ろう！
科目学習の効果 (資格)	海外ビジネスの際に必要な読解力、語彙力の養成。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	Part I ビジネス通信の基本 1. 手紙、2. ファックス	新出単語と読解の演習問題	P. 8-13
3	Part I ビジネス通信の基本 3. 電子メール、4. 電話	新出単語と読解の演習問題	p. 14-21
4	Part II 社交関係の英語 5. 面会の申し入れ、6. ホテルの予約	新出単語と読解の演習問題	p. 22-29
5	Part II 社交関係の英語 7. オフィスの移転通知、8. 支店の開設案内	新出単語と読解の演習問題	p. 30-33
6	Part II 社交関係の英語 9. レセプションへの招待、 10. アンケートの回答依頼	新出単語と読解の演習問題	p. 34-42
7	Part II 社会関係の英語 11. 資料の送付依頼、12. 慶弔	新出単語と読解の演習問題	p. 43-51
8	Part III 社内の英語 13. 会議の通知、14. 議事録	新出単語と読解の演習問題	p. 52-59
9	Part III 社内の英語 15. 物品の購入、16. 社内研修の案内	新出単語と読解の演習問題	p. 60-63
10	Part III 社内の英語 17. 社内研修の報告、18. 日程の中間報告	新出単語と読解の演習問題	p. 64-71
11	Part IV 取引関係の英語 19. 引合い(1)、20. 引合い(2)、21. 注文	新出単語と読解の演習問題	p. 72-85
12	Part IV 取引関係の英語 22. 代金の回収、23. クレームと調整	新出単語と読解の演習問題	p. 86-95
13	Part V 雇用関係の英語 24. 履歴書、25. 応募の手紙、26. 推薦状	新出単語と読解の演習問題	p. 96-106
14	Part V 雇用関係の英語 27. 面接、28. 面接結果の通知、29. 退職願	新出単語と読解の演習問題	p. 107-115
15	総復習	前期試験範囲のおさらい	

関連科目	ビジネスイングリッシュ I
------	---------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Essentials of Global Business English ビジネス英語エッセンシャルズ	豊田暁	南雲堂
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準)	平常点、小テスト、提出物、定期試験の点数を総合評価する。また、日頃の授業態度も重視する。
-----------	--

学生へのメッセージ	「明るく、元気で、感動と発見を与える授業に！」私語をせず、マナーを守り、積極的に参加してクラス全体が一つになる様に、各自協力してもらいたい。折角、授業中に学んだことを暗記したままではすぐに忘れます。例えば英語で書かれた看板のメッセージ等を見ただけで指示が読めるように授業外で繰り返し学習するのが英語上達への早道です。教える側も学ぶ側も仲良く、楽しく、実りある半期になる事を祈る！
-----------	---

担当者の	7号館非常勤講師室
------	-----------

研究室等	
備考	



科目名	ビジネスイングリッシュ I	科目名 (英文)	Business English I
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	3年	クラス	101112
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	谷脇 康子
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	オフィスでの対話を想定したテキストに基づき、実社会で役立つビジネス英語の総合力を向上させる。
到達目標	各種ビジネス文書の必要な情報がつかめる。 簡単なビジネス文書が作成できる。
授業方法と留意点	毎回リスニング演習と作業用紙による読解演習を通して、ビジネス文書の情報をつかむ訓練をする。 モデル文書に倣い、各自で文書を作成する訓練をする。 毎回授業の終わりに確認テストを行う。 授業中は集中して作業・演習にのぞむことが求められる。辞書必携。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC テスト得点アップ、ビジネス英語の基本の習得。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	履歴書を書く	リスニング演習 作業用紙による読解と英作	授業内容の復習 確認テスト
2	応募用紙を書く	リスニング演習 作業用紙による読解と英作	授業内容の復習 確認テスト
3	面接の準備	リスニング演習 作業用紙による読解と英作	授業内容の復習 確認テスト 関連文書提出
4	面接を受ける	リスニング演習 作業用紙による読解と英作	授業内容の復習 確認テスト
5	大学と職場の語彙まとめ	リスニング演習 作業用紙による読解と英作	授業内容の復習 確認テスト
6	初仕事	リスニング演習 作業用紙による読解と英作	授業内容の復習 確認テスト 関連文書提出
7	仕事の準備	リスニング演習 作業用紙による読解と英作	授業内容の復習 確認テスト
8	1回～7回授業の総復習 中間テスト	1回～7回授業の質問と回答 中間テスト	中間テストのための事前勉強
9	消耗品一覧語彙まとめ	リスニング演習 作業用紙による読解と英作	授業内容の復習 確認テスト
10	電話応対	リスニング演習 作業用紙による読解と英作	授業内容の復習 確認テスト 関連文書提出
11	伝言を承る	リスニング演習 作業用紙による読解と英作	授業内容の復習 確認テスト
12	アポをとる	リスニング演習 作業用紙による読解と英作	授業内容の復習 確認テスト
13	電話応対語彙まとめ	リスニング演習 作業用紙による読解と英作	授業内容の復習 確認テスト 関連文書提出
14	顧客を訪問する	リスニング演習 作業用紙による読解と英作	授業内容の復習 確認テスト
15	9回～14回授業の総復習 まとめのテスト	9回～14回授業の質問と回答 まとめのテスト	まとめのテストのための事前勉強

関連科目	
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Business Talk	城由紀子/島田拓司/Edward J. Schaefer	成美堂
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準)	確認テスト 20%、 提出物 20%、 中間テスト 30%、 まとめテスト 30%
-----------	---

学生へのメッセージ	授業はリズムカルにテンポよく進めます。集中力をさらさず一生懸命ついてきてください。
-----------	---

担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
----------	--------------

備考	
----	--

科目名	ビジネスイングリッシュⅡ	科目名(英文)	Business English II
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	3年	クラス	123456
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	谷脇 康子
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	オフィスでの対話を想定したテキストに基づき、実社会で役立つビジネス英語の総合力を向上させる。
到達目標	各種ビジネス文書の必要な情報がつかめる。 簡単なビジネス文書が作成できる。
授業方法と留意点	毎回リスニング演習と作業用紙による読解演習を通して、ビジネス文書の情報をつかむ訓練をする。 モデル文書に倣い、各自で文書を作成する訓練をする。 毎回授業の終わりに確認テストを行う。 授業中は集中して作業・演習にのぞむことが求められる。辞書必携。
科目学習の効果(資格)	TOEICのスコアアップ、ビジネス英語の基本の習得。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	顧客の招待準備	リスニング演習 作業用紙による読解と英作	授業内容の復習 確認テスト
2	顧客出迎え	リスニング演習 作業用紙による読解と英作	授業内容の復習 確認テスト
3	顧客との昼食	リスニング演習 作業用紙による読解と英作	授業内容の復習 確認テスト 関連文書提出
4	顧客の工場案内	リスニング演習 作業用紙による読解と英作	授業内容の復習 確認テスト
5	顧客の観光付き添い	リスニング演習 作業用紙による読解と英作	授業内容の復習 確認テスト
6	国際見本市の準備	リスニング演習 作業用紙による読解と英作	授業内容の復習 確認テスト 関連文書提出
7	海外出張の準備	リスニング演習 作業用紙による読解と英作	授業内容の復習 確認テスト
8	1回～7回授業の総復習 中間テスト	質問と回答 中間テスト	質問をまとめておく。 中間テストの事前勉強
9	海外出張へ出発	リスニング演習 作業用紙による読解と英作	授業内容の復習 確認テスト
10	海外出張語彙まとめ	リスニング演習 作業用紙による読解と英作	授業内容の復習 確認テスト 関連文書提出
11	海外出張の歓迎会	リスニング演習 作業用紙による読解と英作	授業内容の復習 確認テスト
12	海外出張でのプレゼン	リスニング演習 作業用紙による読解と英作	授業内容の復習 確認テスト
13	お礼状	リスニング演習 作業用紙による読解と英作	授業内容の復習 確認テスト 関連文書提出
14	オフィス対話語彙まとめ	リスニング演習 作業用紙による読解と英作	授業内容の復習 確認テスト
15	9回～14回授業の総復習 まとめのテスト	質問と回答 まとめのテスト	質問をまとめておく。 まとめのテストの事前勉強

関連科目	
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Business Talk	城由紀子/島田拓司/Edward J. Schaefer	成美堂
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法(基準)	確認テスト 20%、提出物 20%、 中間テスト 30%、 まとめテスト 30%
----------	--

学生へのメッセージ	授業はリズムカルにテンポよく進めます。集中力をさらさず一生懸命ついてきてください。
-----------	---

担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
----------	--------------

備考	
----	--

教養科目

科目名	ビジネスイングリッシュⅡ	科目名(英文)	Business English II
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	3年	クラス	789101112
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	グランド パーシム
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	The main educational objective will be for the students to learn and become familiar with business and office practices using English as the primary language. 主たる目的は、学生がビジネス現場で使用される英語を学習し、慣れること。
到達目標	Students will be able to have a basic predictable business conversation. Understand basic announcements and business conversations. Read and understand basic business documents, letters, notices and memos. Be able to understand the reading section of the TOEIC examination.
授業方法と留意点	Students will experience many varied writing, listening and speaking tasks in pairs and small groups, using the English language. 学生は、英語を使用し、ペアや小グループで、ライティング、リスニング、スピーキングなどの様々なタスクを行う。
科目学習の効果(資格)	The students will study some basic business and office practices with associated skills in English, with the objective of learning how an business office functions using English. 学生はビジネス現場でどのように英語が機能しているかを学習するという目的のもと、ビジネス英語に関する基本的なスキルを勉強する。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	Orientation and self introduction	Exchanging personal information and pair work.	Review class. Study sheets will be provided.
	2	Talking about your occupation.	Read unit and pair work, TOEIC test	Review class. Study sheets will be provided.
	3	Business introductions,	Listening and pairwork	Review class. Study sheets will be provided.
	4	Explaining office layout.	Listening and pair work	Review class. Study sheets will be provided.
	5	Making invitations and discussing arrangements	Listening and pair work	Review class. Study sheets will be provided.
	6	Review and Quiz		-
	7	Discussing corporate travel plans.	Read, listen, write and pair work	Review class. Study sheets will be provided.
	8	Offering help & apologizing	Listening and pair work	Review class. Study sheets will be provided.
	9	Sales reports.	Listening and pair work	Review class. Study sheets will be provided.
	10	Business telephone conversations.	Listening and pair work	Review class. Study sheets will be provided.
	11	Discussing business abroad and future plans	Listening and pair work	Review class. Study sheets will be provided.
	12	Review Quiz	Listening and pair work	Review class. Study sheets will be provided.
	13	Intensive Listening to business situation	Listening	Review class. Study sheets will be provided.
	14	Intensive Listening to business situation	Listen, write and pair work	Review class. Study sheets will be provided.
	15	Review and achievement check		

関連科目	Not required.
------	---------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Passport to Work	Angela Buckingham and Norman Whitney	OXFORD
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	Short quizzes 30%, Homework 20% Preparation for class 15% Listening in class 15% Clear accurate Speaking in class 15% In class participation and effort 5%
----------	---

学生へのメッセージ	Plan for your future, study English now. Business English will be VERY USEFUL when you go JOB HUNTING in the near future ! (1) 講義中にきちんとノートを取り、問題意識を持って講義に臨むこと。 (2) 講義に積極的に参加すること。
-----------	--

担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
備考	

科目名	ビジネスマナー	科目名(英文)	Business Manners
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	富岡 直美
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

教養科目

授業概要・目的	<p>目的： 社会人としてふさわしい行動・態度をとることができるようになるために、人との共感的態度を身につけ、信頼関係を醸成し、さらに生涯にわたってそれらを向上させる習慣を身につける。</p> <p>授業概要： ビジネスの現場で顧客、同僚、地域社会との信頼関係を確立できるようになるために、相手の心理、立場、環境を理解するために必要となるの基本的知識、技能、態度を修得する。</p>																																																																		
到達目標	<p>【自分を客観視する力】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 自分を客観視することの必要性を説明できる。 2) 自分をとりまく環境と自己の関係を認識して行動を選択する。 3) 自分の考えをまとめて伝える。 <p>【コミュニケーション】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 言語的および非言語的コミュニケーションの方法を概説できる。 2) 意思、情報の伝達に必要な要素を列挙できる。 3) 相手の心理状態とその変化に配慮し、適切に対応する。 4) 対立意見を尊重し、協力してよりよい解決法を見出すことができる。 <p>【チームワーク】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) チームワークの重要性を例示して説明できる。 2) チームに参加し、協調的態で役割を果たす。 3) 自己の能力の限界を認識し、必要に応じて他者に援助を求める。 																																																																		
授業方法と留意点	<p>グループワーク、ケーススタディ、ロールプレイなどを取り入れます。</p> <p>授業の参加者として、積極的に授業に参加してください。</p>																																																																		
科目学習の効果(資格)	<p>社会人になるための目標を見つけ、自信をもってそれに向かってください。</p>																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>オリエンテーション ビジネスマナーの必要性</td> <td>授業オリエンテーション 社会人として仕事をすること 組織の仕組み</td> <td>受講目的が言えるようにしておいてください。</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>第一印象</td> <td>第一印象の重要性 第一印象をよくする方法</td> <td>第一印象コントロールの実践とレポート</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>身だしなみと態度</td> <td>社会人に必要な身だしなみ あいさつ、姿勢、表情</td> <td>敬語確認テスト</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>言葉づかいの基本</td> <td>言語コミュニケーションにおける心得 敬語の特徴と、基本の使い方を知る 敬語の仕組みと使い方</td> <td>敬語の応用問題</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>言葉づかいの応用</td> <td>複雑な関係性を意識した敬語の使い方</td> <td>ビジネスマナーの知識に関する常識問題</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>指示の受け方</td> <td>仕事の事例を用いたケーススタディ 組織の仕組み 指示の受け方 ホウレンソウの重要性 ビジネス文書の書き方</td> <td>企業、組織に関する一般常識</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>優先順位、スケジューリング</td> <td>優先順位の立て方 スケジューリングの方法</td> <td>自分のスケジュールを立てる</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>電話のマナー</td> <td>電話のかけ方、受け方 電話対応の事例をもちいた実践練習</td> <td>ビジネスマナーの知識に関する一般常識問題</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>電子メール</td> <td>電子メールの書き方と注意点 事例のメールでの対応ケースを用いた練習</td> <td>実際にメールを送る</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>ビジネス文書</td> <td>社外文書の基本、社外文書と社外文書 事例の文書での対応ケースを用いた練習</td> <td>ビジネスマナーの知識に関する一般常識問題</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>ホウレンソウ</td> <td>報告・連絡・相談の仕方</td> <td>ビジネスマナーの知識に関する一般常識問題</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>訪問</td> <td>会社訪問事例を用いて訪問の仕方を考える アポイントメントの取り方、訪問準備、 席次、名刺交換、事後処理など</td> <td>ビジネスマナーの知識に関する一般常識問題</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>接遇</td> <td>受付、案内、お茶出し、見送りなど</td> <td>レポート課題</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>情報の取り扱い</td> <td>ファイリング 環境整備 情報共有の重要性 コンプライアンス</td> <td>未提出のレポート等がないか確認をして下さい。</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>振り返りとまとめ</td> <td>授業の振り返り まとめ</td> <td>レポート課題の提出</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	オリエンテーション ビジネスマナーの必要性	授業オリエンテーション 社会人として仕事をすること 組織の仕組み	受講目的が言えるようにしておいてください。	2	第一印象	第一印象の重要性 第一印象をよくする方法	第一印象コントロールの実践とレポート	3	身だしなみと態度	社会人に必要な身だしなみ あいさつ、姿勢、表情	敬語確認テスト	4	言葉づかいの基本	言語コミュニケーションにおける心得 敬語の特徴と、基本の使い方を知る 敬語の仕組みと使い方	敬語の応用問題	5	言葉づかいの応用	複雑な関係性を意識した敬語の使い方	ビジネスマナーの知識に関する常識問題	6	指示の受け方	仕事の事例を用いたケーススタディ 組織の仕組み 指示の受け方 ホウレンソウの重要性 ビジネス文書の書き方	企業、組織に関する一般常識	7	優先順位、スケジューリング	優先順位の立て方 スケジューリングの方法	自分のスケジュールを立てる	8	電話のマナー	電話のかけ方、受け方 電話対応の事例をもちいた実践練習	ビジネスマナーの知識に関する一般常識問題	9	電子メール	電子メールの書き方と注意点 事例のメールでの対応ケースを用いた練習	実際にメールを送る	10	ビジネス文書	社外文書の基本、社外文書と社外文書 事例の文書での対応ケースを用いた練習	ビジネスマナーの知識に関する一般常識問題	11	ホウレンソウ	報告・連絡・相談の仕方	ビジネスマナーの知識に関する一般常識問題	12	訪問	会社訪問事例を用いて訪問の仕方を考える アポイントメントの取り方、訪問準備、 席次、名刺交換、事後処理など	ビジネスマナーの知識に関する一般常識問題	13	接遇	受付、案内、お茶出し、見送りなど	レポート課題	14	情報の取り扱い	ファイリング 環境整備 情報共有の重要性 コンプライアンス	未提出のレポート等がないか確認をして下さい。	15	振り返りとまとめ	授業の振り返り まとめ	レポート課題の提出
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	オリエンテーション ビジネスマナーの必要性	授業オリエンテーション 社会人として仕事をすること 組織の仕組み	受講目的が言えるようにしておいてください。																																																																
2	第一印象	第一印象の重要性 第一印象をよくする方法	第一印象コントロールの実践とレポート																																																																
3	身だしなみと態度	社会人に必要な身だしなみ あいさつ、姿勢、表情	敬語確認テスト																																																																
4	言葉づかいの基本	言語コミュニケーションにおける心得 敬語の特徴と、基本の使い方を知る 敬語の仕組みと使い方	敬語の応用問題																																																																
5	言葉づかいの応用	複雑な関係性を意識した敬語の使い方	ビジネスマナーの知識に関する常識問題																																																																
6	指示の受け方	仕事の事例を用いたケーススタディ 組織の仕組み 指示の受け方 ホウレンソウの重要性 ビジネス文書の書き方	企業、組織に関する一般常識																																																																
7	優先順位、スケジューリング	優先順位の立て方 スケジューリングの方法	自分のスケジュールを立てる																																																																
8	電話のマナー	電話のかけ方、受け方 電話対応の事例をもちいた実践練習	ビジネスマナーの知識に関する一般常識問題																																																																
9	電子メール	電子メールの書き方と注意点 事例のメールでの対応ケースを用いた練習	実際にメールを送る																																																																
10	ビジネス文書	社外文書の基本、社外文書と社外文書 事例の文書での対応ケースを用いた練習	ビジネスマナーの知識に関する一般常識問題																																																																
11	ホウレンソウ	報告・連絡・相談の仕方	ビジネスマナーの知識に関する一般常識問題																																																																
12	訪問	会社訪問事例を用いて訪問の仕方を考える アポイントメントの取り方、訪問準備、 席次、名刺交換、事後処理など	ビジネスマナーの知識に関する一般常識問題																																																																
13	接遇	受付、案内、お茶出し、見送りなど	レポート課題																																																																
14	情報の取り扱い	ファイリング 環境整備 情報共有の重要性 コンプライアンス	未提出のレポート等がないか確認をして下さい。																																																																
15	振り返りとまとめ	授業の振り返り まとめ	レポート課題の提出																																																																
関連科目	<p>キャリアデザイン、インターンシップ、エンプロイメントデザイン</p>																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書																																																																			

	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	提出物・授業態度 40 点、レポート 20 点、期末テスト 40 点で総合評価する。100 点満点中 60 点以上で合格。			
学生への メッセージ	マナーを身に付けることは社会人に仲間入りする第一歩です。何のためにそれをするのかを考え、積極的に参加してください。また、必要になってすぐできるものではありません。日頃から実践するように意識してください。			
担当者の 研究室等	寝屋川キャンパス 7号館3階 キャリア教育推進室 富岡直美			
備考				

科目名	武道論	科目名(英文)	Budo-ron (Theory of Japanese Martial Arts)
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	横山 喬之
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	「武道とは何か」、「なぜ今武道なのか」等、現代における武道の特性などを概説し、現状と課題について検討していく。また、武道の特性が理解でき、日本人の行動様式やものの考え方についても知ることができることを一般的な目標とする。学科の学習・教育目標との対応：工学部[A], 理工学部 [I1]																																																																		
到達目標	日本伝統文化である武道(意味・種類)についての理解を深める。 日本人の精神を「武士道」より学び、道徳についての理解を深める。																																																																		
授業方法と留意点	講義形式で授業を進める。																																																																		
科目学習の効果(資格)	武道の特性を理解することができる。また、伝統的な行動様式を学ぶ中から現代にない思考力が育まれることを期待する。																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>ガイダンス</td> <td>授業内容の説明と武道について</td> <td>武道について調べてくる</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>武道とは何か</td> <td>武道の意味や言語について概説する</td> <td>武道にはどのような種類があるのか調べる</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>武道と武術について</td> <td>武道と武術の違いについて</td> <td>武芸十八般について調べてくる</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>武道(柔道)</td> <td>柔道について</td> <td>柔道について調べ内容をまとめる</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>武道(剣道)</td> <td>剣道について調べ内容をまとめる</td> <td>剣道について調べ内容をまとめる</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>武道(弓道・相撲)</td> <td>弓道・相撲について</td> <td>弓道・相撲について調べ内容をまとめる</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>武道(空手・合気道)</td> <td>空手・合気道について</td> <td>空手・合気道について調べ内容をまとめる</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>武士道から見る日本人の道徳心①</td> <td>武士道とは何か</td> <td>著者・著作にいたる背景を調べまとめる</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>武士道から見る日本人の道徳心②</td> <td>武士道の道徳心について</td> <td>武士はどのような道徳を持ち生活していたか調べまとめる</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>武士道から見る日本人の道徳心③</td> <td>武士道の道徳心について</td> <td>武士はどのような道徳を持ち生活していたか調べまとめる</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>武道と修行</td> <td>武道における修行について</td> <td>修行とは何かを調べまとめる</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>武道の国際化</td> <td>武道の国際化について</td> <td>武道がどのように世界に普及したか調べまとめる</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>武道の身体技法①</td> <td>武道特有の身体技法について</td> <td>武道の身体技法とは何か調べまとめる</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>武道の身体技法②</td> <td>実際の身体技法を行う(総合体育館)</td> <td>武道の身体技法とは何か調べまとめる</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>武道論総括(テスト)</td> <td>1-4回まで行った授業の内容に関してテストを行う</td> <td>これまでの授業の復習</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	ガイダンス	授業内容の説明と武道について	武道について調べてくる	2	武道とは何か	武道の意味や言語について概説する	武道にはどのような種類があるのか調べる	3	武道と武術について	武道と武術の違いについて	武芸十八般について調べてくる	4	武道(柔道)	柔道について	柔道について調べ内容をまとめる	5	武道(剣道)	剣道について調べ内容をまとめる	剣道について調べ内容をまとめる	6	武道(弓道・相撲)	弓道・相撲について	弓道・相撲について調べ内容をまとめる	7	武道(空手・合気道)	空手・合気道について	空手・合気道について調べ内容をまとめる	8	武士道から見る日本人の道徳心①	武士道とは何か	著者・著作にいたる背景を調べまとめる	9	武士道から見る日本人の道徳心②	武士道の道徳心について	武士はどのような道徳を持ち生活していたか調べまとめる	10	武士道から見る日本人の道徳心③	武士道の道徳心について	武士はどのような道徳を持ち生活していたか調べまとめる	11	武道と修行	武道における修行について	修行とは何かを調べまとめる	12	武道の国際化	武道の国際化について	武道がどのように世界に普及したか調べまとめる	13	武道の身体技法①	武道特有の身体技法について	武道の身体技法とは何か調べまとめる	14	武道の身体技法②	実際の身体技法を行う(総合体育館)	武道の身体技法とは何か調べまとめる	15	武道論総括(テスト)	1-4回まで行った授業の内容に関してテストを行う	これまでの授業の復習
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	ガイダンス	授業内容の説明と武道について	武道について調べてくる																																																																
2	武道とは何か	武道の意味や言語について概説する	武道にはどのような種類があるのか調べる																																																																
3	武道と武術について	武道と武術の違いについて	武芸十八般について調べてくる																																																																
4	武道(柔道)	柔道について	柔道について調べ内容をまとめる																																																																
5	武道(剣道)	剣道について調べ内容をまとめる	剣道について調べ内容をまとめる																																																																
6	武道(弓道・相撲)	弓道・相撲について	弓道・相撲について調べ内容をまとめる																																																																
7	武道(空手・合気道)	空手・合気道について	空手・合気道について調べ内容をまとめる																																																																
8	武士道から見る日本人の道徳心①	武士道とは何か	著者・著作にいたる背景を調べまとめる																																																																
9	武士道から見る日本人の道徳心②	武士道の道徳心について	武士はどのような道徳を持ち生活していたか調べまとめる																																																																
10	武士道から見る日本人の道徳心③	武士道の道徳心について	武士はどのような道徳を持ち生活していたか調べまとめる																																																																
11	武道と修行	武道における修行について	修行とは何かを調べまとめる																																																																
12	武道の国際化	武道の国際化について	武道がどのように世界に普及したか調べまとめる																																																																
13	武道の身体技法①	武道特有の身体技法について	武道の身体技法とは何か調べまとめる																																																																
14	武道の身体技法②	実際の身体技法を行う(総合体育館)	武道の身体技法とは何か調べまとめる																																																																
15	武道論総括(テスト)	1-4回まで行った授業の内容に関してテストを行う	これまでの授業の復習																																																																
関連科目	スポーツ科学Ⅰ・Ⅱ 生涯スポーツ実習 健康論 保健論																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>今、なぜ武道か</td> <td>中村 民雄</td> <td>日本武道館</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>武道を知る</td> <td>田中 守/藤堂 良明/東 憲一/村田 直樹</td> <td>不昧堂</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	今、なぜ武道か	中村 民雄	日本武道館	2	武道を知る	田中 守/藤堂 良明/東 憲一/村田 直樹	不昧堂	3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	今、なぜ武道か	中村 民雄	日本武道館																																																																
2	武道を知る	田中 守/藤堂 良明/東 憲一/村田 直樹	不昧堂																																																																
3																																																																			
評価方法(基準)	出席率75%以上のものを試験資格者とする。遅刻は2回で1回の欠席と同等とみなす。(遅刻は授業開始から30分以内に入室したことをいう)武道論総括(15回目)におけるテストを100%の割合で評価を行う。(ただし、上記の出席率を満たした者のみを評価対象とする。)																																																																		
学生へのメッセージ	質問等がある場合には、横山講師室に来てください。																																																																		
担当者の研究室等	総合体育館1F横山講師室																																																																		
備考																																																																			

科目名	法学入門	科目名(英文)	Introduction to Jurisprudence
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	大仲 淳介
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等	【科目】教科に関する科目(中学校 社会) 【施行規則に定める科目区分】「法学、政治学」 【教員免許状取得のための履修区分】必修 【科目】教科に関する科目(高等学校 公民) 【施行規則に定める科目区分】「法学(国際法を含む。)、政治学(国際政治を含む。)」 【教員免許状取得のための履修区分】必修		

授業概要・目的	授業概要：私たちの日常生活は多くの法律と関わります。この講義では、法学の基礎から始め、身近な具体的事例をとりあげ、民法、商法、会社法、刑法、民事訴訟法、刑事訴訟法などの基礎を解説します。目的：日常生活から生じる法律問題を通して、法学の基礎的な知識を修得してもらうこと。
到達目標	日常生活において必要、有益な法律の知識を得て、身近な法律問題を法的な立場から考えるようになることを目指します。
授業方法と留意点	教科書と配布プリントを用いて講義形式で行います。なお小テストは授業中に、適宜、行います。また小テストを行った回の授業を欠席した者のための再試験は行いませんので注意して下さい。
科目学習の効果(資格)	各種公的資格試験の法学科目の基礎知識の取得になると思います。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	法学の基礎 1	法とは何か。法の種類、法の優劣関係について説明します。	事前に教科書 236 頁から 240 頁と 243 頁から 244 頁を読んでおいて下さい。事後においては、配付プリントの問題を解いて下さい。
2	法学の基礎 2	法律の条文の構造、法律の解釈について説明します。	事前に教科書 241 頁から 242 頁を読んでおいて下さい。事後においては、配付プリントの問題を解いて下さい。
3	日常生活と契約 1	民法の特徴、契約の成立について説明します。	事前に教科書 1 頁から 8 頁を読んでおいて下さい。事後においては、配付プリントの問題を解いて下さい。
4	日常生活と契約 2	意思表示と契約の主体について説明します。	事前に教科書 8 頁から 18 頁を読んでおいて下さい。事後においては、配付プリントの問題を解いて下さい。
5	日常生活と契約 3	契約自由原則、契約の種類について説明します。	事前に教科書 18 頁から 24 頁を読んでおいて下さい。事後においては、配付プリントの問題を解いて下さい。
6	日常生活と契約 4	不動産取引と民法について説明します。	教科書 24 頁から 30 頁を読んでおいて下さい。事後においては、配付プリントの問題を解いて下さい。
7	日常生活とアクシデント	交通事故、欠陥商品による被害、医療事故について説明します。	事前に教科書 42 頁から 60 頁を読んでおいて下さい。事後においては、配付プリントの問題を解いて下さい。
8	家族関係 1	結婚、離婚と民法について説明します。	事前に教科書 105 頁から 129 頁を読んでおいて下さい。事後においては、配付プリントの問題を解いて下さい。
9	家族関係 2	親子、扶養と民法について説明します。	事前に教科書 129 頁から 145 頁を読んでおいて下さい。事後においては、配付プリントの問題を解いてください。
10	家族関係 3	相続と民法について説明します。	事前に教科書 145 頁から 153 頁を読んでおいて下さい。事後においては、配付プリントの問題を解いて下さい。
11	企業と法 1	商法・会社法を手がかりに企業とはどのようなものかについて説明します。	事前に教科書 154 頁から 166 頁を読んでおいて下さい。事後においては、配付プリントの問題を解いて下さい。
12	企業と法 2	企業の所有と経営の分離と株式会社について説明します。	事前に教科書 167 頁から 202 頁を読んでおいて下さい。事後においては、配付プリントの問題を解いて下さい。
13	紛争の解決 1	日常生活で生じる紛争と裁判制度について説明します。	事前に教科書 203 頁から 214 頁、245 頁から 246 頁を読んでおいて下さい。事後においては、配付プリントの問題を解いて下さい。
14	紛争の解決 2	裁判のしくみ、裁判以外の紛争の解決(和解、調停、仲裁)について説明します。	事前に教科書 214 頁から 235 頁を読んでおいて下さい。事後においては、配付プリントの問題を解いて下さい。
15	まとめ	授業全体のまとめ	第 1 回から第 14 回までの配付プリントの問題を確認して下さい。

関連科目	日本国憲法
------	-------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	法の世界へ (第 6 版)	池田真朗、犬伏由子、野川忍、大塚英明、長谷部由紀子	有斐閣
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法(基準)	定期試験(60%)と小テスト(40%)の割合で評価します。小テストは、適宜、授業中に行います。
学生への	授業中に生じた疑問は必ず質問して下さい。

メッセージ	
担当者の 研究室等	11号館5階 法学部資料室（法学部非常勤講師室）
備考	

科目名	マーケティングと歴史	科目名(英文)	Marketing and History
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	武居 奈緒子
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	この講義では、マーケティングを歴史的に考察することを目的としています。特にマーケティングの発想を踏まえ、呉服商の経営活動について説明していきます。 学科の学習・教育目標との対応：[II]
到達目標	マーケティングと歴史に関する基本的知識を修得し、活用できることを目指します。
授業方法と留意点	講義形式を基本としますが、実態分析にも力を入れます。
科目学習の効果(資格)	マーケティング的発想で社会を見る眼が養えます。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス	マーケティングについて解説していきます。	文献や新聞で、関連する内容を読みましよう。
2	製品政策	ヒット商品はどのようにして作られるのかについて考えます。	文献や新聞で、関連する内容を読みましよう。
3	価格政策	価格の設定方法について考えます。	文献や新聞で、関連する内容を読みましよう。
4	流通チャネル政策	商品はどのような経路をたどって販売されるのかについて考えます。	文献や新聞で、関連する内容を読みましよう。
5	販売促進政策	商品のアピールの仕方について考えます。	文献や新聞で、関連する内容を読みましよう。
6	マーケティングのSTPアプローチ	市場細分化について考えます。	文献や新聞で、関連する内容を読みましよう。
7	消費行動	消費者の購買意思決定過程について考えます。	文献や新聞で、関連する内容を読みましよう。
8	マーケティングの歴史的研究と三井越後屋	マーケティングにおける歴史的研究と三井越後屋の商法について説明していきます。	文献や新聞で、関連する内容を読みましよう。
9	呉服商の流通機構	呉服商の流通機構について、概説していきます。	文献や新聞で、関連する内容を読みましよう。
10	越後屋の仕入機構(1)	三井越後屋の絹の仕入機構について、説明していきます。	文献や新聞で、関連する内容を読みましよう。
11	越後屋の仕入機構(2)	三井越後屋の木綿の仕入機構について、説明していきます。	文献や新聞で、関連する内容を読みましよう。
12	いとう松坂屋、大丸屋の仕入機構	いとう松坂屋や大丸屋の仕入機構について、概説していきます。	文献や新聞で、関連する内容を読みましよう。
13	呉服商から百貨店へ	呉服商から百貨店への変遷について概説します。	文献や新聞で、関連する内容を読みましよう。
14	百貨店業態の成立	百貨店について、説明していきます。	文献や新聞で、関連する内容を読みましよう。
15	まとめ	全体のまとめをします。	文献や新聞で、関連する内容を読みましよう。

関連科目	マーケティング論
------	----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	期末テストの成績 70%、授業内課題 30%
----------	------------------------

学生へのメッセージ	授業で提示される問題・課題に真摯に取り組みましよう。
-----------	----------------------------

担当者の研究室等	武居教授室
----------	-------

備考	
----	--

科目名	身近な犯罪から自分、家族、まちを守る	科目名 (英文)	Neighborhood Crime Prevention
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	中沼 丈晃
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	私は、地域における防犯を研究し、自分自身も、研究室の学生とともに、青パト（青色回転灯をつけた自主防犯パトロールカー）で毎日、子どもの見守り活動を行っている。そうした研究者として、普段一番接する学生に、犯罪の実態を知ってもらい、少しの注意と手間で犯罪から身を守れることをわかってほしくて、この講義を開講することとした。加えて、それほど気負わなくても、防犯ボランティアとして社会貢献できる方法があることも紹介したいと考えている。 学科の学習・教育目標との対応：工学部[A]，理工学部 [I1]
到達目標	自分と家族の身近でどんな犯罪が起きているか知り、どのような対策が必要かわかるようにする。防犯ボランティアへの参加の動機づけが大きくなればなおよいと考える。
授業方法と留意点	とにかく実際の事件を取り上げて、加害者の視点、被害者の視野、発生した場所・時間の特徴、警察や行政、学校、ボランティアの動きを具体的に説明する。そして、いま推奨されている防犯対策を紹介する。警察の防犯実務者や、活躍する防犯ボランティア団体の世話役の方をお招きしたインタビュー講義も交えていく。
科目学習の効果 (資格)	各自が自分で、家庭で防犯対策をして、犯罪から身を守れるようになってもらうのが第一である。防犯ボランティア参加の動機づけにもなるだろう。職業では、当然、警察官の仕事の視点がわかる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	昨年起きた犯罪はどのような特徴があったのか？	昨年起きた具体的な犯罪例を取り上げて、どのような人・物が、どういう理由でねらわれているのか探る。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地域の防犯状況を見てみる。
	2	犯罪にはどのような種類があり、どうやって数えるのか？	刑法上は同じ窃盗でも、ひったくり、自転車盗、車上ねらいなどさまざまな手口がある。1件の窃盗でも、起きた数、警察に届けられた数、検挙された数がある。こうした手口の分け方や数の教え方を説明する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地域の防犯状況を見てみる。
	3	犯罪はなぜ起こるのか？ どうやって減らすのか？	悪い人がいるから犯罪が起こるのか、すきがある人がいるから犯罪が起こるのか、犯罪が起きやすい場所・時間があるから犯罪が起こるのか、それぞれの理屈を確かめてみる。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地域の防犯状況を見てみる。
	4	大阪の治安はどのくらい悪いのか？ どのように防犯対策を進めているのか？	大阪府は、他の都道府県に比べてどのような犯罪が多いのか、人口の多さを考慮するとどうなのか説明する。「オール大阪」で街頭犯罪ワースト1を返上する取り組みを紹介する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地域の防犯状況を見てみる。
	5	街頭犯罪ーひったくり、自転車盗、車上・部品ねらいを中心に	一番身近な街頭犯罪について、どういう人・物が、どういった状況でねらわれているのか、どういう人が犯罪を行っているのか説明する。ついで、ひったくり防止カバー、シリンダー錠などの防犯対策の効果について紹介する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地域の防犯状況を見てみる。
	6	住宅への空き巣、忍び込み、居空き	泥棒は、空き巣に入る家をどのように物色し、どうやって侵入し、何を盗んでいくのか解説する。最近の防犯住宅、防犯マンションの取り組みを紹介する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地域の防犯状況を見てみる。
	7	性犯罪ー街頭での強制わいせつ、痴漢、公然わいせつ	大阪府は性犯罪が深刻な自治体である。犯罪者は、どんな人・場所をねらって性犯罪に及ぶのか説明する。女性の学生が今日からすべき防犯対策を紹介する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地域の防犯状況を見てみる。
	8	子どもをねらった犯罪	子どもに対する犯罪について、過去に大きな社会問題になった殺傷事件から、日常的に起きているわいせつ、声かけ、つきまといまで、実態を具体的に説明する。そして、子どもの安全を守るために各地で行われている取り組みを紹介する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地域の防犯状況を見てみる。
	9	ストーカー、DV (配偶者からの暴力)	ストーカーやDVは、個人間の問題に関わるので、対応の判断が難しい。しかし、大きな事件につながれば、対応の遅さ、まずさが批判されやすい。過去の事件の経緯を紹介して、深刻な問題への展開を防ぐために現在行われている対策を説明する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地域の防犯状況を見てみる。
	10	詐欺ー高齢者をねらった振り込め、オレオレ、リフォーム詐欺など	昨年、急激に増え、手口が次々と変わる高齢者をねらった詐欺を取り上げる。背景にどのような組織があるのか、どうして防犯が難しいのか、実例に即して説明する。若い私たちにできる協力も紹介する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地域の防犯状況を見てみる。
	11	サイバー犯罪ー子どもや学生が巻き込まれるネット犯罪	子どもが巻き込まれる出会い系サイトやネットゲームでのなりすまし、大学生も被害を受けている偽サイトでのショッピング詐欺、ネットバンクでのID、パスワード盗難など、身近なサイバー犯罪を取り上げる。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地域の防犯状況を見てみる。
	12	違法ドラッグの実態と対策	違法ドラッグについて、その危険性、販	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識

			売の実態、取締の方法を紹介する。	を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。																
	13	防犯カメラの普及と効果	急速に普及した防犯カメラについて、普及の背景と経緯、技術の進歩、個人情報・プライバシーとの関係、防犯効果の考え方を説明する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。																
	14	防犯ボランティアの活動	近年の犯罪対策の最大の特徴は、民間のボランティア団体の活性化である。地域での子ども見守り隊、青バト活動、学生防犯ボランティアなど、最近の各地、各世代の防犯ボランティアの活動を紹介する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。																
	15	警察官の仕事の実際	犯罪が起きれば捜査し検挙する。犯罪が起きないように市民や企業に防犯をうながす。それを職業とする警察官の仕事の実際を紹介する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。																
関連科目	法学部「刑事政策」「経済刑法」「少年法」																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2																				
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2																				
3																				
評価方法 (基準)	定期試験 60%、講義毎回の確認ペーパー30%、受講態度（投げかける質問に対する発言など）10%で総合的に評価する。																			
学生への メッセージ	勉強以前に、自分、家族、まちを身近な犯罪から守るために、ぜひこの講義を受講してほしいと願っている。そして、できるところからでよいので、講義で知った防犯対策をしてもらいたい。警察官志望者には、近年、警察でも人気の仕事になりつつある防犯の実務がわかるという意味で、興味を持ってもらえらると思う。																			
担当者の 研究室等	11号館9階 中沼研究室																			
備考																				

科目名	ものづくりインターンシップ基礎	科目名(英文)	Internship for Manufacturing Basics
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	奥野 竜平
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	これから就職活動を始める学生(大学3年)を対象に、社会人として必要とされる規律やマナー、製造業など企業で働く上での基礎知識、課題を発見して解決する方法などを習得することを目的とする。履修後には、社会人・企業人としての役割および責任、仕事への情熱、創造的態度、自己の能力向上意欲が喚起されることを期待する。
到達目標	(1)社会人としてのマナーを身につける。(2)仕事の基本に関する知識を修得する。(3)環境問題/意識についての体験をする。(4)企業における品質問題を体験する。(5)原価管理の基礎知識を修得する。(6)PDCAサイクルによる課題解決を体験する。 学科の学習・教育到達目標との対応:工学部[A],理工学部 [II]
授業方法と留意点	パナソニック(株)より講師を招き、社会人・企業人としての基礎である知識と心がまえについて、パナソニック(株)の新入社員研修の方式に従い、講義に加えて具体事例演習を通じて体得させる。摂大教員も教室に常駐し、授業の補助と成績評価を分担する。授業は挨拶に始まり、挨拶で終わるので遅刻は厳禁です。なお、1~5回目までは120分授業とする。
科目学習の効果(資格)	社会が学生に何を求めているのかを体得し、職業意識を高め、自発的に能力向上を行えるようになる。就職後ただちに、社会人・企業人としての適切な行動が取れるようになる。

教養科目

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	企業・製造業・仕事の基本とは① 4月9日(木)	社会人としてのマナー、仕事に取り組む基本姿勢の習得、および5S・安全・環境教育を通じて、社会人としての基礎知識を習得する	企業・製造業・仕事に基本①の講義終了後、レポートを提出のこと(書式は別途)
	2	企業・製造業・仕事の基本とは② 4月16日(木)	社会人としてのマナー、仕事に取り組む基本姿勢の習得、および5S・安全・環境教育を通じて、社会人としての基礎知識を習得する	-----
	3	企業・製造業・仕事の基本とは③ 4月23日(木)	社会人としてのマナー、仕事に取り組む基本姿勢の習得、および5S・安全・環境教育を通じて、社会人としての基礎知識を習得する	企業・製造業・仕事の基本②~③の講義終了後、レポートを提出のこと(書式は別途)
	4	企業・製造業・仕事の基本とは④ 5月7日(木)	社会人としてのマナー、仕事に取り組む基本姿勢の習得、および5S・安全・環境教育を通じて、社会人としての基礎知識を習得する	-----
	5	企業・製造業・仕事の基本とは⑤ 5月14日(木)	社会人としてのマナー、仕事に取り組む基本姿勢の習得、および5S・安全・環境教育を通じて、社会人としての基礎知識を習得する	企業・製造業・仕事の基本④~⑤の講義終了後、レポートを提出のこと(書式は別途)
	6	品質教育① 5月21日(木)	企業活動の命運をにぎる品質問題について、品質管理の基礎からQC7つ道具の活用・具体実習等により、品質の重要性を体得する(座学と実習)	-----
	7	品質教育② 5月28日(木)	企業活動の命運をにぎる品質問題について、品質管理の基礎からQC7つ道具の活用・具体実習等により、品質の重要性を体得する(座学と実習)	-----
	8	品質教育③ 6月4日(木)	企業活動の命運をにぎる品質問題について、品質管理の基礎からQC7つ道具の活用・具体実習等により、品質の重要性を体得する(座学と実習)	品質教育①~③の講義終了後、レポートを提出する(書式は別途)
	9	原価・コスト教育① 6月11日(木)	企業活動の根幹を成す原価についての基礎概念と原価管理の基礎知識を習得する	-----
	10	原価・コスト教育② 6月18日(木)	企業活動の根幹を成す原価についての基礎概念と原価管理の基礎知識を習得する	-----
	11	原価・コスト教育③ 6月25日(木)	企業活動の根幹を成す原価についての基礎概念と原価管理の基礎知識を習得する	原価・コスト教育①~③の講義終了後、レポートを提出する(書式は別途)
	12	課題解決教育① 7月2日(木)	PDCAサイクルを回すことの重要性の習得により、課題形成力・問題解決力を強化する	-----
	13	課題解決教育② 7月9日(木)	PDCAサイクルを回すことの重要性の習得により、課題形成力・問題解決力を強化する	-----
	14	課題解決教育③ 7月16日(木)	PDCAサイクルを回すことの重要性の習得により、課題形成力・問題解決力を強化する	課題解決教育①~③の講義終了後、レポートを提出のこと(書式は別途) また、14回目までの講義を総括して、最終回での質問事項を考えておくこと
	15	全体討議・質疑応答 7月23日(木)	14回の講義を総括しての討議・質疑応答を実施する	最終報告として受講レポートを提出する。

関連科目 『ものづくりインターンシップ実践』または『ものづくり海外インターンシップ』を履修する学生は、必ずこの科目を履修すること。

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	課題レポート(6回)と受講レポート50%、授業姿勢(積極性)20%、全体討議(プレゼンテーション)10%、期末試験20%とした総合評価を行う。			
学生への メッセージ	日本を代表する企業であるパナソニック(株)と共同で実施する研修を受講して、社会と企業は学生に何を求めているのかを知り、職業人としての基礎知識を身につけ、社会人になるための意識転換をしましょう。この科目を履修する学生は、この科目と「ものづくりインターンシップ実践」または「ものづくり海外インターンシップ」を同時に受講することが前提です。			
担当者の 研究室等	1号館4階 奥野教授室			
備考	<p>毎回の講義内容を振り返りのための学習毎回1時間程度。 レポート各回3時間程度、プレゼン準備と期末試験のための学習20時間程度。ものづくり海外インターンシップ履修予定者については別途定める授業計画に沿って進める場合がある。</p> <p>【担当者】 パナソニック講師：佐藤哲志、山下秀行、福田祥一、高岡清</p>			

科目名	ものづくりインターンシップ基礎	科目名(英文)	Internship for Manufacturing Basics
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	川野 常夫
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

教養科目

授業概要・目的	本科目は、夏期の「ものづくり海外インターンシップ(川野ほか担当)」で、実際に海外に渡航し、海外で実習を受けるために必要な英語力やマナーなどを身につけるための講義である。日本の企業がますますグローバル化する中で、国際的視野と素養を身に付けた人材はますます必要となっている。本科目では、将来グローバルに活躍できる人材の育成を視野に入れ、海外事情や企業のグローバル化の実態を学ぶほか、英語によるコミュニケーション力や海外での企業や大学の人たちと交流する際の社会人としてのマナーなどについて養成する。
到達目標	(1)海外事情が理解できる。(2)海外渡航の手順や手続きが理解できる。(3)グローバル企業の現状が理解できる。(4)海外インターンシップ先の事情が理解できる。(5)英語による基本的なコミュニケーションができる。(6)社会人としてのマナーが身につく。
授業方法と留意点	講義名称が「ものづくり」であるが、専門知識は特に必要としないので、参加学生は専門分野も、文系・理系も問わない。また男女も問わない。本講義は、夏期の「ものづくり海外インターンシップ(川野ほか担当)」の準備のための講義とする。夏期の実習先の受け入れ人数に制限があるため、希望者多数の場合は理工学部インターンシップ委員会において選定する。
科目学習の効果(資格)	英語による基本的なコミュニケーション力が身につく。TOEICや英検などを受験する契機となる。また、社会人としてのマナーが身につく。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス、海外渡航手続き概要	パスポート、チケット予約(航空機、ホテル)、保険、海外渡航準備	今回の課題レポート作成 次回の予習プリントの学習
2	海外事情、日系企業のグローバル化	海外の文化、経済、グローバル化事情	今回の課題レポート作成 次回の予習プリントの学習
3	研修先 事前調査	文化、歴史、経済事情、企業・大学	今回の課題レポート作成 次回の予習プリントの学習
4	社会人基礎力	社会人として必要な基礎力	今回の課題レポート作成 次回の予習プリントの学習
5	英語コミュニケーション実習1	海外渡航、海外生活	今回の課題レポート作成 次回の予習プリントの学習
6	英語コミュニケーション実習2	自己紹介、大学紹介、日本紹介	今回の課題レポート作成 次回の予習プリントの学習
7	英語コミュニケーション実習3	専門科目の紹介	今回の課題レポート作成 次回の予習プリントの学習
8	英語コミュニケーション実習4	海外研修を想定したグループ実習1	今回の課題レポート作成 次回の予習プリントの学習
9	英語コミュニケーション実習5	海外研修を想定したグループ実習2	今回の課題レポート作成 次回の予習プリントの学習
10	英語コミュニケーション実習6	海外研修を想定したグループ実習3	今回の課題レポート作成 次回の予習プリントの学習
11	マナー実習1	挨拶、礼儀、服装	今回の課題レポート作成 次回の予習プリントの学習
12	マナー実習2	ミーティング、質疑、懇親会	今回の課題レポート作成 次回の予習プリントの学習
13	マナー実習3	感謝、気配り、機転	今回の課題レポート作成 次回の予習プリントの学習
14	海外渡航、海外生活	渡航準備、入出国、習慣、食生活、健康管理	今回の課題レポート作成 次回の予習プリントの学習
15	英語による成果発表?	まとめ	成果発表の準備、反省

関連科目	ものづくり海外インターンシップ
------	-----------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	日本企業が欲しがらる「グローバル人材」の必須スキル	内永ゆか子	朝日新聞出版
2	旅の英会話伝わるフレーズ集	ニック・ウィリアムソン	ナツメ社	
3	さすが!と言われる ビジネスマナー 完全版	高橋書店編集部	高橋書店	

評価方法(基準)	課題レポート60%、取組み姿勢20%、成果発表20%として評価を行う。
----------	-------------------------------------

学生へのメッセージ	これまでに「ものづくり海外インターンシップ」を受講した学生は、海外実習後に顕著な成長が認められるので、大いにチャレンジしてほしい。授業方法、留意点にも記載のとおり、参加学生は専門分野も、文系・理系も問わない。また男女も問わない。
-----------	--

担当者の研究室等	1号館4階 川野教授室 12号館7階 白鳥准教授室 8号館3階 加嶋教授室 12号館7階 榑准教授室
----------	---

備考	【事前事後学習】 レポート作成、復習の学習時間：20時間程度 【共同担当者】 白鳥准教授、加嶋教授、榑准教授、理工学部インターンシップ委員会委員
----	---

科目名	ものづくりインターンシップ実践	科目名 (英文)	Internship for Manufacturing Practice
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	奥野 竜平
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	『ものづくりインターンシップ基礎』の実践コースである。『ものづくりインターンシップ基礎』で学んだ内容をパナソニックのモノづくり現場で具体実習・実践することにより、更なる理解を進め、習得して自らの強みとすることを目的とする。																		
到達目標	(1)生産革新・改善を体験する。(2)製造業の成り立ち・仕組みを体験する。(3)チームワーク・QCD問題を体験する。(4)パナソニックの工場を見学する。(5)研修成果を発表する。 学科の学習・教育到達目標との対応：[II]																		
授業方法と留意点	『ものづくりインターンシップ基礎』で学んだ内容を体験するため、パナソニック(株)人材開発カンパニーで、計7日間の宿泊実習を行なう。また、事前指導として『ものづくりインターンシップ基礎』のまとめを行い、事後指導として実習で得られた成果の定着をはかるためにプレゼンテーションによる報告を行う。																		
授業テーマ・内容・方法・事前・事後学習課題	<p>直前指導</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1回目 ものづくりインターンシップ基礎のまとめ、インターンシップⅡの準備 7/9(木) 6限目 ・2回目 ものづくりインターンシップ基礎全体討議プレゼンテーション指導 7/16(木) 6限目 <p>宿泊実習(パナソニック人材開発カンパニー)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1～3日目 【授業テーマ】 生産革新演習 【内容・方法等】 1個流しセル生産のロールプレイを通じて、生産革新実践・方法等を体得する。(グループ演習) 【事前・事後学習課題】 演習終了後、レポートを提出のこと ・4～5日目 【授業テーマ】 モノづくりシュミレーション演習 【内容・方法等】 四角錐製作を通じて、製造業の成り立ち・しくみを習得(設計～生産)し、目標達成のためのチームワーク・QCD問題意識の重要性を体得する。(グループ演習) 【事前・事後学習】 演習終了後、レポートを提出のこと ・6日目 【授業テーマ】 工場見学 【内容・方法等】 パナソニックのモノづくりを工場見学を通じて体得する。(2工場) 【事前・事後学習課題】 見学終了後、レポートを提出のこと ・7日目 【授業テーマ】 研修成果報告会 【内容・方法等】 研修成果報告会の実施。(グループ単位) 【事前・事後学習課題】 グループ単位でプレゼン資料をまとめておくこと <p>実習中指導</p> <ul style="list-style-type: none"> ・8月29日(土) 2～5限目 プレゼンテーション指導 <p>実習後指導</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1回目 体験報告書の添削指導 ・2回目 研修成果報告会(2回目)に向けたプレゼンテーション指導 ・3回目 研修成果報告会(2回目)に向けたプレゼンテーション指導 ・4回目 研修成果報告会(2回目)に向けたプレゼンテーション指導 ・5回目 研修成果報告会(2回目) ・6回目 全体報告会 学生代表者の発表・質疑 ・7回目 全体報告会 企業管理者の講演と講評 																		
関連科目	ものづくりインターンシップ基礎																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法(基準)	実習成果 40%、研修成果報告会(2回) 20%、実習最終レポート 10%、体験報告書 10%、実習・授業態度 20%とした総合評価を行なう。																		

学生への メッセージ	この科目は「ものづくりインターンシップ基礎」を同時に受講することが前提です。
担当者の 研究室等	奥野教授室 (1号館4階)
備考	<p>期間：2015年8月24日(月)～8月28日(金)、8月31日(月)～9月1日(火) パナソニック(株)人材開発カンパニーでの宿泊研修です。8月29日(土)には撰大でプレゼン資料を作成します。その間、パナソニック㈱社員の、朝礼、ランニングにも参加します。ジーンズ、スリッパは禁止。ランニングできる履物、着替えが必要です。学生負担金・食費等は別途徴収します。</p> <p>【事前事後学習】 レポート作成、プレゼン準備としての学習時間：20時間程度。</p> <p>【担当者】 パナソニック講師：佐藤哲志、高岡清、熊本義久、西尾幹夫</p>

科目名	ものづくり海外インターンシップ	科目名 (英文)	International Internship for Manufacturing
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	川野 常夫
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	日本の企業がますますグローバル化の中で、国際的視野と素養を身に付けた人材はますます必要となる。本科目は、「ものづくり海外インターンシップ」と呼び、世界展開をしている「ものづくり企業」の海外工場において具体的に実習体験をすることにより、グローバル企業の現状を理解するとともに、自らの視野と経験を広げることを目的とする。業種は製造業（機械・電気系）、または建設業（建築・デザイン系）とする。研修先はとりわけ東南アジアとする。?研修先によっては、海外の大学でワークショップ体験も含める。																		
到達目標	(1)グローバル企業の現状が理解できる。(2)英語による基本的なコミュニケーションができる。(3)海外でのものづくりの工程を体験できる。(4)チームワークを体験できる。(5)国際的視野を広げられる。(6)研修成果が発表できる。																		
授業方法と留意点	東南アジアは、フィリピン2箇所とタイ1箇所（合計3箇所）を予定している。受講者はいずれかの企業において、本学の夏休み中に往復を含めて約10日間（予定）の現場実習を行う。実習後にレポート作成および海外実習の成果報告会を行う。講義名称が「ものづくり」であるが、専門知識は特に必要としないので、参加学生は専門分野も、文系・理系も問わない。また男女も問わない。実習先の受け入れ人数に制限があるため、希望者多数の場合は理工学部インターンシップ委員会において選定する。なお、本講義を受講する学生は、前期の「ものづくりインターンシップ基礎（海外班、川野ほか担当）」の受講を必須とする。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>直前指導 ものづくり海外インターンシップ基礎の全体報告会に向けたプレゼンテーションの指導、海外実習の準備など</p> <p>海外実習 ・1～2日目 【授業テーマ】移動、オリエンテーション 【内容・方法等】研修先の概要、オリエンテーション、語学（英語）研修など 【事前・事後学習課題】実習終了後、レポートを提出のこと</p> <p>・3日目 【授業テーマ】企画・設計部門実習／ワークショップ 【内容・方法等】ものづくり工程の川上である企画・設計部門、または建築・デザイン部門。（グループ演習） 【事前・事後学習】実習終了後、レポート、アイデアスケッチなどを提出のこと</p> <p>・4～5日目 【授業テーマ】製造工場見学、建築・デザイン作品見学、交流会 【内容・方法等】関連工場、施設、建築、デザイン作品の見学、現地従業員、大学生との交流会に参加する。交流会では、英語によるコミュニケーションを行う。 【事前・事後学習課題】交流会終了後、レポート、アイデアスケッチなどを提出のこと</p> <p>・6～8日目 【授業テーマ】製造系実習、または建設系のワークショップなど 【内容・方法等】製造系の加工、組立、検査・品質管理など、または建設系の建築・デザインワークショップなど。（グループ演習） 【事前・事後学習課題】実習終了後、レポートを提出のこと</p> <p>・9～10日目 【授業テーマ】研修成果報告会、移動 【内容・方法等】グループ単位でPPTでプレゼン、または部分模型やその他手法を用いてプレゼンしてもよい。 【事前・事後学習課題】実習終了後、最終レポート、または各グループで研究成果ポスター、または梗概作成を提出のこと</p> <p>実習後指導 ・1回目 最終レポート（体験報告書）の添削指導 ・2回目 成果報告会に向けたプレゼンテーション指導 ・3回目 全体報告会 学生代表者の発表・質疑 ・4回目 全体報告会 企業管理者の講演と講評</p>																		
関連科目	ものづくりインターンシップ基礎																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>「日本企業が欲しがらる「グローバル人材」の必須スキル</td> <td>内永ゆか子</td> <td>朝日新聞出版</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>旅の英会話伝わるフレーズ集</td> <td>ニック・ウィリアムソン</td> <td>ナツメ社</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>さすが!と言われる ビジネスマナー 完全版</td> <td>高橋書店編集部</td> <td>高橋書店</td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	「日本企業が欲しがらる「グローバル人材」の必須スキル	内永ゆか子	朝日新聞出版	2	旅の英会話伝わるフレーズ集	ニック・ウィリアムソン	ナツメ社	3	さすが!と言われる ビジネスマナー 完全版	高橋書店編集部	高橋書店
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	「日本企業が欲しがらる「グローバル人材」の必須スキル	内永ゆか子	朝日新聞出版																
2	旅の英会話伝わるフレーズ集	ニック・ウィリアムソン	ナツメ社																
3	さすが!と言われる ビジネスマナー 完全版	高橋書店編集部	高橋書店																
評価方法（基準）	海外現地研修 60%（実習記録簿 20%、実習・授業態度 20%、実習成果プレゼン 20%）、実習前後の学習 5%、実習最終レポート 10%、体験報告書 10%、成果報告会（2回）15%として評価を行う。																		
学生へのメッセージ	これまでに受講した学生は、海外実習後に顕著な成長が認められるので、大いにチャレンジしてほしい。授業方法、留意点にも記載のとおり、参加学生は専門分野も、文系・理系も問わない。また男女も問わない。実習先の受け入れ人数に制限があるため、希望者多数の場合は理工学部インターンシップ委員会において選定する。本講義を受講する学生は、前期の「ものづくりインターンシップ基礎（海外班、川野ほか担当）」の受講を必須とする。																		
担当者の研究室等	1号館4階 川野教授室 1号館3階 伊藤教授室 1号館7階 白鳥准教授室 8号館3階 加嶋教授室																		
備考	【注意事項】研修予定期間：2015年8月中旬（研修先の都合により変更する場合があります。） 航空運賃、宿泊費、保険代などは自己負担となります。 【事前事後学習】レポート作成、復習の学習時間：20時間程度																		

【共同担当者】 伊藤教授, 白鳥准教授, 加嶋教授、理工学部インターンシップ委員会委員

科目名	役立つ金融知力	科目名(英文)	Financial Literacy
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	陸川 富盛
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	自ら考えて決断し行動する「賢い経済主体」となるためには、まずは市場経済や契約社会の仕組みを実感覚として理解し、様々なリスクや不確実性に果敢に立ち向かっていく必要があります。経済や法律そして金融に関する正しい知識を得てそれらを日常的に活用していくことは、単にお金の問題に役立つだけでなく、より良い人生や社会の実現に欠かせないのです。 本講義の目的は、人生のさまざまな局面で的確に決断し行動できるよう、金融知識を活用する実践的な金融インテリジェンスの基本を身に付けることです。
到達目標	実践的な金融インテリジェンスの基本を身に付け、経済生活やビジネスライフにおいて適宜的確に行動できるようになることを目指します。
授業方法と留意点	教科書を使用した講義形式の授業により、次の三つのステップで進めます。 ① まずは経済主体としての視点で、社会の仕組みの全体観を把握し、様々な課題や対処法を認識します。 ② 次に、金融の基礎知識を、大学で学ぶ様々な専門知識と関連付けながら、実践的に学んでいきます。 ③ 更に、それらを統合的に活用する能力(=金融インテリジェンス)を、社会生活に応用する方法を学びます。
科目学習の効果(資格)	経済生活やビジネスライフに必要な意思決定を適宜適切に行えるよう、金融知識を活用する実践的な金融インテリジェンスの基本を身に付けていきます。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	「金融知力の必要性」	テキスト<P4~15> ・私たちの暮らしと経済 ・戦後の社会発展 ・パラダイムシフト ・変革の必要性
2	経済・金融の基礎知識 ①	「国際経済と国家財政」	テキスト<P38~49> ・国際経済 ・国家の財政
3	経済・金融の基礎知識 ②	「市場経済と金融の役割」	テキスト<P16~29> ・金融の役割 ・市場経済のしくみと意義 ・金融の役割と銀行
4	法律の基礎知識	「契約の基本」	テキスト<P147~149・152~159> ・契約社会 I ・ローン・クレジット ・契約社会 II
5	リスクと向き合う ①	「リスクマネジメント」	テキスト<P74~81・150~152・159~161> ・リスクマネジメント ・契約社会 III
6	リスクと向き合う ②	「リタイアメント」	テキスト<P82~91> ・年金制度 ・老後生活資金
7	投資の基礎知識	「投資とは何か」	テキスト<P92~98> ・投資とは ・投資意思決定プロセス
8	経済活動と金融市場	「景気・株価」	テキスト<P30~37・50~53> 景気 景気と株価
9	金融商品の基礎知識 ①	「代表的な金融商品(株式等)」	テキスト<P118~129> ・株式 ・投資信託 ・外貨建て商品 ・保険商品 ・デリバティブ
10	金融商品の基礎知識 ②	「代表的な金融商品(債券他)」	テキスト<P111~118> ・預貯金 ・信託 ・債券
11	金融商品の基礎知識 ③	「金融市場と金融商品の性格」	テキスト<P99~111> ・直接金融と間接金融 ・金融商品の性格
12	投資のリスク管理	「資産分散と時間分散」	テキスト<P130~146> ・分散投資 ・時間分散 ・長期投資
13	ライフプランニング ①	「ライフプランニング表」	テキスト<P54~63> ・ライフプランニング
14	ライフプランニング ②	「ライフイベントごとの課題」	テキスト<P64~73> ・キャッシュフロー表の見直し ・ライフイベントごとの課題
15	最終まとめ 試験 及び レポート提出	「講義のまとめ」 課題レポート提出 試験	全体まとめ 講義で得た金融インテリジェンスの確認と応用

関連科目	民法、会社法、経済学、国際経済、経営学、経営戦略、会計学 など			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	『今日から役に立つ、経済の読み方と投資の基礎』		金融知力普及協会

		ISBN：978-4-907341-00-8（必須。授業では毎回この教科書を使用しますので、必ず購入してください。）		
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	<p>下記のとおり、本科目への取り組み姿勢や理解度等を総合的に評価します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・試験 : 20% (知識の正確性) ・レポート : 50% (自分で考え、問題解決する能力) ・平常点 : 30% (受講状況、質疑応答、課題・討議など) 			
学生への メッセージ	<p>本講義でより高い成果を得るためには、下記の二点が非常に重要なポイントです。</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 受講内容の復習を行い、身近な経済・時事問題などに疑問を持って考えること。 ② 最終回までに表計算ソフト「エクセル」(講義では教えません)で簡易な表を作成し、内容を精査すること。 			
担当者の 研究室等	11号館1階(教務課)			
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・この授業は、SMBC日興証券グループによる「寄附講座」です。 ・「事前・事後学習課題」について 予習(シラバス記載の教科書該当ページを事前に読む):30分程度 復習(講義の内容を振り返り、自分の言葉で整理する):30分程度 当然の前提として、単位取得するには全講義を静かに聴講すること。 			

科目名	歴史学 I	科目名 (英文)	History I
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	赤澤 春彦
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等	【科目】教科に関する科目 (中学校 社会) 【施行規則に定める科目区分】日本史及び外国史 【教員免許状取得のための履修区分】必修 【科目】教科に関する科目 (高等学校 地理歴史) 【施行規則に定める科目区分】日本史 【教員免許状取得のための履修区分】必修		

授業概要・目的	歴史学は人々の営為を様々な角度から検証する学問です。その中でも「時間」と「空間」という視点は歴史学の大きな特徴といえるでしょう。政治、経済、宗教、生活、文化など様々な要素が、「時間」の流れの中で、互いに関係を持ちながらどう変化してゆくのか。ここに歴史学のおもしろさがあります。本講義では日本の歴史を「流れ」にそって理解することを目的とします。
到達目標	日本の歴史にかかる基本的な知識を習得し、政治、経済、宗教、文化など多角的な要素を複合的に叙述できる能力を養えます。
授業方法と留意点	板書により講義を進めますが、プリント・スライドも用います。
科目学習の効果 (資格)	今後の講義や演習で一つの事象を様々な視角から考察、叙述できるようになります。また、中学社会・高等学校地理歴史の教員免許を取得する際の科目でもあります。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	講義の進め方、評価方法などについて説明します。日本史の時代区分について考えます。	復習
2	古代国家の形成	ヤマト国家から律令国家形成までの歴史を学びます。	復習
3	摂関政治と貴族社会	平安時代の政治と社会について学びます。	復習
4	武士の登場と成長	中世以降の日本の歴史を考える上で鍵となる武士の登場、成長について学びます。	復習
5	鎌倉幕府	鎌倉幕府とは何か。成立にかかる歴史と特質について学びます。	復習
6	室町時代の政治と文化	室町時代の政治・文化の特質について学びます。	復習
7	戦国時代と天下統一	戦国時代から織豊期までの動向と統一政権誕生の歴史的意義を学びます。	復習
8	古代・中世の宗教	神祇・仏教・道教などを素材に宗教と政治・社会の関係について学びます。	復習
9	幕藩体制の成立	江戸時代の国家や地域社会の枠組みについて学びます。	復習
10	近世社会と民衆	江戸時代の民衆の生活や文化について学びます。	復習
11	近代国家への道	幕末から明治政府樹立までの歴史を学びます。	復習
12	近代の思想と文化	明治から昭和初期の文化や思想について学びます。	復習
13	戦争と国家	日清戦争、日露戦争、第一次大戦、第二次大戦が与えた影響について考えます。	復習
14	戦後から現代へ	敗戦と戦後の日本の歴史について学び、私たちの「今」について考えます。	復習
15	まとめ	論述試験を行います。	今までの講義ノートをまとめておくこと。

関連科目

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 (基準)	講義最終日に行う論述試験 (持ち込み可)、講義中に課す小レポートなどをもとに総合的に評価します。詳しくは講義第 1 回目に説明します。
学生へのメッセージ	年号や用語を暗記する必要はまったくありません。「これとあれは実はつながっていたんだ」とか「この布石があったからこういう事件が起きたんだ」といった「つながり」の面白さを発見してください。
担当者の研究室等	7 号館 4 階 (赤澤研究室)
備考	事前・事後学習は総時間 60 時間を目安とする。

科目名	歴史学Ⅱ	科目名(英文)	HistoryⅡ
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	村上 司樹
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等	【科目】教科に関する科目(中学校 社会) 【施行規則に定める科目区分】日本史及び外国史 【教員免許状取得のための履修区分】必修 【科目】教科に関する科目(高等学校 地理歴史) 【施行規則に定める科目区分】外国史 【教員免許状取得のための履修区分】必修		

教養科目

授業概要・目的	「都市」と聞いて私たちが思い浮かべるのは、経済・産業の中心であり、自由な活動の場といったイメージではなからうか。経済と自由、この2つの特徴の歴史的ルーツをたどって行けば、ヨーロッパ中世都市に行き着く。高校世界史において、商業の復活がヨーロッパ中世都市を生み出し、市民の自治がこれを発展させたことと教わった人も少なくないだろう。古代や中国の例なども広く視野に入れることで、一種、常識となっているこのような通説を疑い、考えなおす。そのようにして、都市を窓口にして歴史を展望する。以上が本講義の目的である。支配と消費の中心ではなく、周辺の自然環境や地域社会と共存できる都市のあり方など、現代的な問題を解決するためのヒントも探りたい。
到達目標	学んだことを結論・理由・具体例に分けて、簡潔に説明できるようにする。
授業方法と留意点	暗記は必要ない。教科書も必要ない。図や表もできるだけ多く使って授業する。ただ内容を理解するためには、以下3点を守る必要がある。①授業前には、プリントにあらかじめ目を通しておくこと。②授業後には、プリントを読み返すこと。③授業中に資料を読む際は、線を引くなり印をつけるなり、必ず手を動かすこと。
科目学習の効果(資格)	商業や市民に限られない、中世都市の多様なあり方とダイナミズムを中心として、経営を学ぶための基礎体力となる幅広い教養と具体的思考の習慣を身に付ける。

	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	はじめに	授業のルール・方針・全体計画	必ず出席するよう予定を調整する。
2	都市を窓に世界史を見る	文明はさまざまでも共通点がある	授業前に資料に目を通す。授業後に資料を読み返す。	
3	都市を窓に世界史を見る	日本史の特徴は世界史のなかで初めて分かる	授業前に資料に目を通す。授業後に資料を読み返す。	
4	イスラーム都市	世界で最も先進的な文明	授業前に資料に目を通す。授業後に資料を読み返す。	
5	イスラーム都市	活発な経済と快適な生活の両立	授業前に資料に目を通す。授業後に資料を読み返す。	
6	イスラーム都市	都市文明と相性の良い宗教	授業前に資料に目を通す。授業後に資料を読み返す。	
7	イスラーム都市	ヨーロッパはイスラームに学んだ	同上の課題に加えて「レポートの手引き」を熟読する。	
8	中国都市	「同じことばかりくり返している」というウソ	同上の課題に加えて「レポートの手引き」を熟読する。	
9	中国都市	1000年前の大転換	同上の課題に加えて小レポート。	
10	中国都市	現代を先取りした流通と消費	授業前に資料に目を通す。授業後に資料を読み返す。	
11	中国都市	エンターテインメント産業や外食産業も出現	授業前に資料に目を通す。授業後に資料を読み返す。	
12	ヨーロッパ都市	アジア都市は大きくヨーロッパ都市は小さい	授業前に資料に目を通す。授業後に資料を読み返す。	
13	ヨーロッパ都市	農業中心の経済と政治的な分裂のなかで	授業前に資料に目を通す。授業後に資料を読み返す。	
14	ヨーロッパ都市	巨大化したのは200年前	授業前に資料に目を通す。授業後に資料を読み返す。	
15	ヨーロッパ都市	小さな都市への回帰	授業前に資料に目を通す。授業後に資料を読み返す。	

関連科目 特になし

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法(基準)	暗記は必要ない。テストは持ち込み可。具体的には以下3点で評価。①定期試験(40点)、②小レポート(30点)、③レスポンスペーパー(30点+α)。①～③すべてに共通する評価基準は、具体的に書けているかどうか。減点主義はとらないので、積極的に書いてマイナスになることは絶対ない。ただし、消極的に受講してプラス評価されることも絶対ない。例えば出席点はいつさいない。
学生へのメッセージ	一方通行にならない授業、集中しやすい授業を心がけています。レスポンス・ペーパー、小レポート、そして試験答案を書いてもらいますが、「やること多い」などとネガティブに考えず、「単位取得のチャンスが多い」とポジティブに捉えることをお勧めします。それにものごを説明したり、説得的な文章を作成する経験と能力は、他のあらゆる学問にも、さらに大学卒業後の長い人生にも欠かせません。積極的に取り組んで、「単位以上のもの」を得てほしいと思います。
担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
備考	【教職科目】教科に関する科目(中学校 社会) 【施行規則に定める科目区分】日本史及び外国史 【履修区分】必修

キャリア形成科目



科目名	エンプロイメントデザイン I	科目名 (英文)	Employment Design I
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	石井 三恵, 水野 武
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	大学での学生生活の過ごし方、学修に対する姿勢、大学を卒業するにあたってどのような進路を選択し、またどのような職業へと導かれたかの3つのテーマに沿って本学の教職員から多様な生き方を聴く。大教室での多くの学生と共に話を聴くという態度を養い、4年間の学生生活をプランニングし、自分の意見を持つことを主な目的とする。
到達目標	講師の意見を聴き、自身のキャリア（職業生活）を通したライフプランニング（人生設計）を必ず描いてみることを、またそのための試行錯誤することを学ぶことが目標である。
授業方法と留意点	人生の先輩方のお話を真摯な態度で聴く姿勢をもつことを心がける。また、話を聴くことが主となり、内容に関して調べ、まとめることを課題とするため、メモを取る習慣を身に付ける。
科目学習の効果（資格）	大学生生活の過ごし方や将来への目標の設定の仕方から、職業人として働くことや人・社会とかがかわることについて考える契機となる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	学生生活① 未来の自分に何を渡すか！ ～大学生活を充実させる方法～（担当：教務課 係長 古屋豊吾）	大学生活で熱中できるものを見つけ、粘り強く取り組めば、働くことも怖くない！ みなさんと同じ摂大生としてラグビー部で身に付けた力を社会で活かせる経験をもとにお話しします。	・講義を振り返る
3	学生生活② 成功曲線を描くために！ ～諦めないコツ教えます～ （担当：入試部 田中恵三）	学生時代の経験を活かして、いかに自分自身の力を養えるか。目標達成へのプロセスとそれが将来の自分にどのように繋がるか。自身の経験と現在を合わせて伝えます。	・講義を振り返る
4	学生生活③ 講義の中間まとめ（担当：キャリア教育推進室講師 富岡直美）	・第2回、3回までの講義のまとめ ・レポートの書き方	・講義を振り返る
5	学修① 大学生活における学習への動機づけ（担当：経営学部 准教授 牧野幸志）	大学での学習における様々な動機づけについて考える機会を提供する。大学の勉強とは？この席に座っている人が成績は良いのか？やる気はあるのか？など。また、どのように学習が大学では効率的かを心理学的に解説する。	・講義を振り返る ・第1回「学生生活」に関するレポート締切
6	学修② チャンスだらけの摂南大学-学生時代に飛躍する方法- （担当：経営学部 准教授 久保貞也）	(1) 摂南大学をうまく活かした先輩たち（事例紹介） (2) チャンスを失う典型的な学生（注意喚起） (3) 摂大でチャンスを得る方法	・講義を振り返る
7	学修③ 基礎科学における大学院進学と研究職への道（担当：理工学部 講師 東武大）	本講義では基礎科学分野での大学院での研究の在り方、及びポストドクター問題等研究職に就くまでの様々な現実について解説します。	・講義を振り返る
8	学修④ 講義の中間まとめ（担当：キャリア教育推進室 教授 石井三恵）	・第5回から7回までの講義のまとめ ・第1回「学生生活」レポートからの反省と第2回レポートに向けて	・講義を振り返る
9	キャリアパス① 法律とスポーツと将来の職 （担当：法学部 准教授 石井信輝）	法とスポーツとの関係性は見出しにくい、様々な関係性を有する。したがって、その関係性を解説しながら、担当者が研究に取り組むに至った経緯や大学における学習に向かう心構え等について講義する。	・講義を振り返る ・第2回「学修」に関するレポート締切
10	キャリアパス② グローバル人材ってどんな人？留学したらグローバル人材？英語ができればグローバル人材？（国際交流センター 長谷川来夢）	グローバルに活躍する人が持っている能力とは何か。メキシコでの留学経験、国際交流センターでの業務を通して感じた「グローバル人材とは何か」という疑問について、みなさんと一緒に考えていきます。	・講義を振り返る
11	見えないものを見にいこう～山登りとダイビングが教えてくれた人生で大事なこと～ （担当：就職部 部長 伊藤勝彦/キャリア教育推進室 講師 水野武）	山と海を趣味とする講師両名の経験談をもとに「人生に向き合う姿勢」や「社会人としての生き方」のヒントを探ります。	・講義を振り返る
12	キャリアパス④ 「私のキャリア」 キャリアアップを考える（担当：経済学部 教授 持永政人）	30年間の民間企業でのキャリアアップ経験を披露することによってキャリアアップとは何かを考えてもらう。パワーポイントによる講義形	・講義を振り返る

キャリア形成科目

			式で行います。	
	13	キャリアパス⑤ 自分の履歴を残す (担当: キャリア教育推進室 水野武)	自分の取り組んでいる事柄と結果に関してしっかりと『履歴を残す』ことの大事さを学ぶ。	・講義を振り返る
	14	キャリアパス⑥ 私 (藤林) の失敗談と、健康保持促進の秘訣 (担当: スポーツ振興センター保健体育教室 講師 藤林真美)	前半は、担当教員のこれまでの人生における数々の失敗のお話しをします。何かを学んでください。キャリアパスの基本条件はまず、心身共に健康であること！ 授業後半では、健康を保持増進するための秘訣をお話しします。	・講義を振り返る
	15	講義のまとめ (担当: キャリア教育推進室 講師 水野武)	・キャリアパスを中心としたエンプロイメントデザインⅠの振り返り ・まとめのワークシート ・まとめのレポート書き方指導	・講義を振り返る ・講義のまとめのレポート
関連科目	キャリアデザインⅠ・キャリアデザインⅡ・エンプロイメントデザインⅡ			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	毎回のミニッツペーパー (30%)、レポート3回 (60%)、まとめワークシート (10%) を総合的に判断する。			
学生へのメッセージ	学生生活4年間を以下に有意義に過ごすかをプランニングし、社会人・職業人としてのライフスタイルを考えるために、人生の先輩のお話を真摯な態度で聴いてほしい。また、自ら考え、選択し、決定していくプロセスを大切に、行動へ繋ぐ大切を学んでほしい。			
担当者の研究室等	7号館5階 (石井) 7号館3階 (富岡・水野)			
備考	教科書: 各回の講師が必要に応じ、プリント配布。 参考書: 各回の講師が必要に応じ、授業中に示す。 講師・内容は都合により変更することもある。			

科目名	エンプロイメントデザインⅡ	科目名(英文)	Employment Design II
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	石井 三恵、水野 武
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	外部講師(本学卒業生を含む)をお招きし、仕事・職業観・人生経験やキャリア・パス等についてのお話を聴く。質疑応答の時間を設けているので、勇気を持って講師に質問をするだけでなく、質問時の態度や表現の仕方を学ぶ。 また、さまざまな職業について理解し、多様な仕事術についての知識を得ること、さらには仕事観や人生観の涵養を目的とする。
到達目標	さまざまな職業についての知識を得て、多様な仕事術を理解できるようになることを講義の目標とする。
授業方法と留意点	話を聴くことが主となり、社会人としての真摯な態度での話の聴き方やメモを取り、積極的に質問をする習慣を身に付ける。
科目学習の効果(資格)	人や社会に関わること、仕事力の伸ばし方について考えるきっかけとなる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション(キャリア教育推進室)	・講義のオリエンテーション ・ゲスト講義の際の注意点(特に聴く態度)について	・講義の感想を提出
2	今から養う社会人に必要な「考える＝生み出す力」(摂南OB/小売・アパレル)	社会人4年目現在で直面した体験談を基に「考える＝生み出す力」の必要性を具体例と共に皆様と共有します。	・講義の感想を提出
3	警察官の仕事-なくてはならない正義を守る仕事(警察官)	警察官の仕事を体験談や映像を交えて説明します。	・講義の感想を提出
4	スタープログラマーになれなかった男がNPO法人を設立するまで(摂大OB/NPO法人代表)	理系学部でプログラマーを目指しながらもスタープログラマーになれなかった男が、「公共性」を武器にNPO法人を設立するまでのキャリアアップをお話します。	・講義の感想を提出
5	衣料業界の概要と繊維専門商社について。ビジネスとは何か?(商社 営業)	1. ファッション業界・繊維商社業界概要 2. ビジネス感覚を養うために必要なことって何だろう? 3. さて、新しい可能性を考えよう! 4. その時、何を考え行動するか?(まとめ)	・講義の感想を提出
6	企業人の私が経験した摂大OBとしての歩み方(摂南大学OB・メーカー/営業管理職)	キャリアデザインへのアプローチ方法の観点から、先輩、同期、後輩のユニークなキャリアを紹介しつつ、在学中に人とのつながりを多く持ち、卒業後も自信を持って摂南大学卒業OBといえる人物であってほしい願いを込めてお話しします。	・講義の感想を提出
7	転職5回で鍛えられたつなげる力:正解の無い時代だからやってこれた(広告企画・制作/経営者)	納得解を導く要素(ディベート力・プレゼン力・コミュニケーション力)を意識して働いてきた経験から身に付けた「つなげる力」について解説します。また広告制作の仕事を紹介します。	・講義の感想を提出
8	新卒での就職活動で全てが決まる!?(摂南大学OG・旅行代理店/カウンター業務)	・講義の中間まとめ ・講師の学生生活、キャリア形成のプロセスなどを実体験を交えてお話しします。	・講義の感想を提出 ・中間レポート
9	「ビジネス創造に必要な力」を実例から学ぶ(IT/役員)	現役のビジネスパーソンが日々実践している「ビジネスに必要な力」を事例を通じて解説します。	・中間レポートを提出 ・講義の感想を提出
10	「先人(企業家)に学ぶ～仕事への心構え」(商工会議所/管理職)	企業家から学ぶ、仕事の心構えについてお話しします	・講義の感想を提出
11	高校教師の仕事(摂大OB/高校教員)	高校の教師の仕事についてお話しします。	・講義の感想を提出
12	「仕事のやりがい、生きがいを見出すために(民間企業と国家公務員の仕事を体験して)」(摂南大学OB・公務員)	摂南大学(薬)一期卒業生として民間企業と国家公務員で26年間勤務してきた経験を通して、仕事のやりがい、生きがいをお話します。	・講義の感想を提出
13	成り上がり(摂南大学OB・経営者)	摂南大学卒業後新卒で入社し、平社員が社長に成るまでの道のりを、経験談をもとにお話しします。	・講義の感想を提出
14	今求められる公務員像(摂南大学OB/市役所職員)	安定・厚遇という言葉だけが独り歩きする職業としての公務員。経験談を通して、公務員になりたい自分を再度見つめ直していただきます。	・講義の感想を提出
15	講義のまとめ	・エンプロイメントデザインⅡのまとめ	・最終レポートを提出

キャリア形成科目

	・まとめのワークシート			
関連科目	キャリアデザインⅠ、キャリアデザインⅡ、エンプロイメントデザインⅠ			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	毎回の感想 (30%)、レポート2回 (60%)、まとめワークシート (10%) を総合的に判断する。			
学生への メッセージ	講師の多様な仕事に対する意識や成果の上げ方等を聴くことで、職業観の形成に役立ててほしい。また、摂大生として誠実な態度で質疑応答に臨んでほしい。			
担当者の 研究室等	教務部 キャリア教育推進室 (7号館5階/石井、7号館3階/富岡・水野)			
備考	講師・内容は都合により変更することもある。 教科書：各回の講師が必要に応じ、プリント配布する。 参考書：各回の講師が必要に応じ、授業中に示す。			

科目名	キャリアデザイン	科目名 (英文)	Career Design
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	水野 武
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	現代社会で生じているさまざまな事象を氾濫する情報からの確にとらえ、それらを起点に思考し、自らの活かし方、伸ばすべきポイントについて考える。
到達目標	将来、就きたい職業を模索し、そのために今何を行うべきかを自ら考え、宣言できるようになることである。
授業方法と留意点	講義だけでなく、グループワークや個人で考えるワークを織り交ぜて進行するので、能動的な態度で受講すること。
科目学習の効果 (資格)	来るべき就職活動に向けて、自分に必要な能力を自覚し、計画的に実行に移すことを等と考えられるようになる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	・講義の目的・内容の解説 ・評価の方法	大学生生活 1 年目で経験したことを思い出ししておくこと。
2	就活体験①	・特性と心がけ、自己 PR の組み立て方を学ぶ	キャリアデザインⅡのテキスト P33～P41 を熟読すること。
3	就活体験②	・学生生活を振り返る ・学生生活で自分を高めるための提案から自分を振り返る	キャリアデザインⅡのテキスト P42～P44 を熟読すること。
4	自分を高める①	・今までの習慣を見直し、自分を高める必要性を認識する	講義を踏まえ、これからの大学生生活において何に取り組むかを考える。
5	自分を高める②	・リーダーシップ開発 ・リーダーのタイプを知る ・リーダーシップコミュニケーションを学ぶ	講義の内容を日常生活で実践してみる。
6	社会を知る①	・なぜ仕事をするのか ・仕事観について考える ・仕事の成果とは他者への貢献であることを学ぶ	キャリアデザインⅡテキストの P9～P17 を熟読すること。
7	社会を知る②	・講義 4 と講義 5 の実践報告 ・課題「働く人を取材してレポート」のグループ討議	グループで討議する準備をする。
8	社会を知る③	・ライフイベントを考える ・他者受容力を磨く ・ライフイベントにかかる費用を考える	キャリアデザインⅡのテキスト P45～P55 を熟読すること。
9	社会を知る④	・講義 7 の課題プレゼンテーション	プレゼンテーションの準備をする。
10	社会を知る⑤	・業種・職種概念を理解する ・川上～川下の概念の理解 ・付加価値について考える	キャリアデザインⅡのテキスト P59～P79 を熟読すること。
11	社会を知る⑥	・視点/視座/視野の使い方事例を知る ・会社・業種・職種の発見の仕方を学ぶ	キャリアデザインⅡのテキスト P59～P79 を熟読すること。
12	社会を知る⑦	・ニッポンの課題について考える ・未来の働き方を考える	キャリアデザインⅡのテキスト P55 を熟読すること。
13	社会を知る⑧	・グループプレゼンテーション	グループにおける役割を考える。
14	社会を知る⑨	・グループプレゼンテーション	ここまでの講義を振り返る。
15	授業のおさらい	講義のおさらいと期末レポートの振り返り	自分の学生生活と就職活動への思いを宣言する。

関連科目	キャリアデザインⅠ・Ⅲ、インターンシップⅠ・Ⅱ
------	-------------------------

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	キャリアデザインⅡ	摂南大学キャリア教育推進委員会	
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 (基準)	グループワーク (20%)、授業参加度 (30%)、レポート (50%) を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	来たるべき就職活動に向けて日々の生活を振り返り、準備することを第一とし授業を行うので、卒業後の「あなた」になるために積極的に参加すること。
担当者の研究室等	7号館3階 キャリア教育推進室 (水野)
備考	

キャリア形成科目

科目名	キャリア特別講義	科目名(英文)	Special Career Design
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	郭 進
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	オリックス・バファローズの球団職員を講師に招き、実体験を交えた野球ビジネスを解説いただくとともに、球団へのヒアリング調査を実施。そして、京セラドームでの球場調査も実施するなどして、プロ野球に関する情報の収集と分析を行う。
到達目標	プロ野球球団社員によるレクチャーや球場でのフィールド調査の実施を通して現実の球団による生きた経済活動を体験し、それによって経済学を実践的に理解することを目標とする。
授業方法と留意点	プロ野球球団社員による球団経営に関するレクチャーの後、実際のオリックス・バファローズの試合でグループ別にフィールド調査を行い、その結果をレポートにまとめ、球団等に対してプレゼンテーションし、その内容を評価する。 講義内容の性格上、履修学生数は限定する。
科目学習の効果(資格)	プロ野球球団の現実の経済活動に直接触れることによる経済学学習への動機付けと、就業力の向上

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	イントロダクション	授業概要、授業のすすめ方、評価方法を説明する	
	2	プロ野球球団経営Ⅰ	プロ野球ビジネス全体、球団経営状況を把握・理解する (球団社員によるレクチャー)	事前：球団イヤープックの熟読
	3	プロ野球球団経営Ⅱ	プロ野球ビジネス全体、球団経営状況を把握・理解する (球団社員によるレクチャー)	事前：球団イヤープックの熟読
	4	プロ野球球団経営Ⅲ	プロ野球ビジネス全体、球団経営状況を把握・理解する (球団社員によるレクチャー)	事前：球団イヤープックの熟読
	5	研究テーマの設定	グループに分かれ研究テーマを設定する	事前：これまでの講義を復習したうえ、研究テーマを考える
	6	球場でのフィールド調査準備	グループに分かれフィールド調査に向けての準備	
	7	球場でのフィールド調査準備	グループに分かれフィールド調査に使用するアンケートの完成	事前：アンケートの完成
	8	球場でのフィールド調査実施 【6月21日(日)】	「京セラドーム大阪」でのアンケート調査実施	事後：アンケートの集計
	9	アンケート結果のチェックと集計	全体でのアンケート結果の集計作業と整理	
	10	アンケート結果のチェックと集計	全体でのアンケート結果の集計作業と整理	事後：作業の完成
	11	グループ別アンケート結果の分析	グループごとのアンケート結果の集計作業と整理	事後：作業の完成
	12	グループ別アンケート結果の分析	グループに分かれての分析作業	事後：作業の完成
	13	プレゼンテーション準備	グループに分かれレポート・プレゼンテーション資料作成	事後：資料修正
	14	プレゼンテーション準備	グループに分かれプレゼンテーションのリハーサル	事後：資料完成
15	プレゼンテーション	グループ別発表会	事前：発表準備	

関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	プレゼンテーション評価50%、授業、フィールド調査への参加態度50%を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	経済学を生々の事例を通して実践的に学ぶユニークな授業です。変則的な授業日程でも参加する意思があり、また、集計・分析、プレゼンテーションのためにエクセル、パワーポイントに習熟していることが望ましい。
担当者の研究室等備考	1号館7階 郭講師室(経済学部)

キャリア形成科目

科目名	経済キャリア入門	科目名 (英文)	Introduction to Career Design for Economics Students
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	A B C D E F G H I J
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	野村 佳子
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	キャリアを考えることは、将来どんな職業に就きたいかということだけでなく、どのような生き方をしたいかということに連なる問題です。人生の大半を占める職業生活を充実したものにするためには、自分の適性や価値観を知ったうえで職業についての理解を深め、進路を選択していく必要があります。この授業では、講義だけでなく、演習等も取り入れ、自分のキャリア形成に主体的に取り組んでいく力を身につけることを目的とします。
到達目標	観光経済、地域経済および国際経済に関連する職業について理解を深めること、社会で求められる人材像を理解すること、生涯にわたるキャリアを主体的に考えていく能力を涵養することを目標とします。
授業方法と留意点	授業は配布資料を用いた講義が中心になりますが、映像資料なども取り入れてわかりやすく進めていきます。学生が主体となるグループディスカッション（演習）も行いますので、積極的に参加してください。
科目学習の効果（資格）	地域経済と観光経済、および国際経済に関連する職業について理解を深めます。また、授業を通して自分自身の価値観や適性を知り、将来像に向かって大学生生活を有意義に送るための主体性を身に着けます。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	授業の概要と進め方および大学で学ぶこととキャリアとの関係を講義する	事後：配布資料の復習
2	働くということ	働くとはどういうことかを考え、多様な働き方について理解を深める	事後：配布資料の復習
3	学生と社会人の違いについて	社会人として求められるマナーや態度について講義する	事後：レポート提出
4	自己理解のための「キャリア・マップ」	「キャリア・マップ」を使って自分の性格や適性を知る	事後：出題問題の復習
5	職業理解（1）	観光経済、地域経済および国際経済に関連する職業について理解を深める	事後：感想文提出
6	職業理解（2）	観光経済、地域経済および国際経済に関連する職業について理解を深める	事後：感想文提出
7	職業理解（3）	観光経済、地域経済および国際経済に関連する職業について理解を深める	事後：感想文提出
8	SPIに挑戦！	就職活動の中で実施されることが多いSPIの模擬試験を受験する	事後：出題問題の復習
9	先輩の体験から学ぶ	経済学部の上級生による大学生活や就活の体験談を聴講する	事後：感想文提出
10	人材と教育	企業が理想とする人材とその育成について理解を深める	事後：感想文提出
11	社会で求められる人材について（1） （演習：グループディスカッション）	社会で求められる人材についてグループディスカッションを行う	事後：レポート準備
12	社会で求められる人材について（2） （演習：グループディスカッション）	グループディスカッションの結果をレポートにまとめる	事後：レポート提出
13	社会で求められる人材について	社会で求められる人材について講義する	事後：レポート提出
14	採用とキャリア	企業の採用と社員のキャリアについて講義する	事後：配布資料の復習
15	まとめ	授業全体を通してのまとめと補足	事後：レポート提出

関連科目 観光学入門

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法（基準） 定期試験（50%）と課題提出・演習への参加・受講態度等による平常点（50%）を総合的に評価します。

学生へのメッセージ 本授業を通して自分自身の価値観や適性を理解し、将来の目標を持って有意義な大学生活を送ってほしいと思います。皆さんの授業への積極的な参加を期待しています。

担当者の研究室等 1号館7階 野村准教授室（経済学部）

備考

キャリア形成科目

科目名	経済キャリア入門	科目名 (英文)	Introduction to Career Design for Economics Students
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	K L M N O P Q R S T
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	田井 義人
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	<ul style="list-style-type: none"> ・キャリアを考えることは、将来どんな職業に就きたいかということだけでなく、「どのような生き方をしたいか。」を考えることが重要です。 ・時間の余裕がある大学生の時期に、職業に対する自分の適性や価値観を知ることが重要です。 ・本講義では、以下の3つの内容の修得を目的とします。(1) 礼儀、個々人のコミュニケーション力、集団での意志表現力。(2) 目標管理とスケジュール作成力。(3) 観光関連、地域関連および国際経済関連産業の職業とそこで求められる人材像の理解。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・授業概要・目的の講義内容から、自分のキャリアを主体的に考える習慣を身につけること ・決められた課題を期限内に達成する習慣を身につけること ・経済学部学生としてのキャリア形成に必要な考える習慣を身につけること以上を到達目標とします。
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・講義は、教科書を用いた講義を中心に進めますが、必ず参加が必要なコミュニケーションの実践やグループディスカッション(演習)も行います。 ・参加意欲、積極的な意思表示、真摯な受講態度を重視します。 ・他の受講生に迷惑になる行為に対しては、厳格に対応します。 ・授業目的を達成するため、毎回のレポート提出を重視します。
科目学習の効果(資格)	<p>地域、観光および国際経済産業の仕事を理解することと自分自身の価値観や適正を知ることおよび主体的に行動することの重要性を知ること、大学生活を有意義に過ごし、将来像を描ける学習効果を修得します。</p>

キャリア形成科目

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	・イントロダクション 教科書内容： ・潜在能力を引き出す3つの力。 ・意志力の本能	<ul style="list-style-type: none"> ・講義内容と進め方を講義する。 ・教科書で講義する内容を説明する。 	事前：教科書第1章、第2章の熟読と自己体験の比較 事後：レポート提出①
2	【外部講師講演】 ・民間企業の代表取締役社長の講演 ・働くために必要なこと。働き方を考える	<ul style="list-style-type: none"> ・働くとはどういうことかを考え、多様な働き方について理解を深める。 ・積極的かつ自立した学外活動の必要性の理解を深める。 	事後：配布資料の復習。アンケート回答②
3	教科書内容： ・自制心が筋肉と似ている理由。 ・「人は間違った衝動」を信用する。 ・欲求と幸せと勘違いする理由	教科書内容に沿って講義する。	事前：教科書第3章、第4章、第5章の熟読と自己体験の比較 事後：レポート提出③
4	【演習】 自己理解のための「キャリアマップ」	「キャリアマップ」を使って、自分の性格や適正を知る。	事後：出題問題の復習 レポート提出④
5	【職業理解(1)】	観光、地域経済及び国際経済関係の仕事について理解を深める。	事後：感想文提出⑤
6	【職業理解(2)】	観光、地域経済及び国際経済関係の仕事について理解を深める。	事後：感想文提出⑥
7	【職業理解(3)】	観光、地域経済及び国際経済関係の仕事について理解を深める。	事後：感想文提出⑦
8	【試験体験】 SPIに挑戦!	<ul style="list-style-type: none"> ・就職活動の中で実施されることが多いSPIの模擬試験を受験する。 ・知識レベルの確認と対策の認識。 ・学習支援センター、資格サポートセンターの活用方法の紹介。 	事後：出題問題の復習
9	【職業理解(3)】 国際経済	国際経済の仕事について理解を深める。	事後：感想文提出⑧
10	【演習】 社会で求められる人材について(1) (演習：コミュニケーション能力)	社会で求められる人材能力としてのコミュニケーション演習を行う。	事後：レポート提出⑨
11	【演習】 社会で求められる人材について(2)-1 (演習：グループディスカッション能力)	社会で求められる人材能力としてのグループディスカッション演習を行う。	事後：グループ毎に第12回目発表のグループワークをまとめる 感想文提出⑩
12	【演習】 社会で求められる人材について(2)-2 (演習：グループディスカッション能力)	第11回で実施したグループディスカッション演習の内容をグループワークにまとめる。	事後：グループワークの内容復習 感想文レポート提出⑪
13	教科書内容： ・気分の落ち込みが挫折に繋がる。 ・快樂の経済学 ・意志力はうつる。	教科書内容に沿って講義する。	事前：教科書第6章、第7章、第8章の熟読と自己体験の比較 事後：レポート提出⑫
14	【講演】 スケジュールリングの重要性	<ul style="list-style-type: none"> ・目標設定と目標に向かうスケジュールリングの重要性を知る。 ・スケジュールリングの実践を行う。 	事後：配布資料の復習 感想文提出⑬
15	教科書内容：	・教科書内容に沿って講義する。	事前：教科書第9章、第10章の熟読と自己体験の

	<ul style="list-style-type: none"> ・「やらない力」の限界 ・自分自身をじっとみつめる。 ・まとめ 	<ul style="list-style-type: none"> ・講義全体を通してのまとめと補足 	比較 事後：レポート提出⑩																
関連科目	観光学入門 地方自治論																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>スタンフォードの自分を変える教室</td> <td>ケリー・マクゴニカル</td> <td>大和書房</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	スタンフォードの自分を変える教室	ケリー・マクゴニカル	大和書房	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	スタンフォードの自分を変える教室	ケリー・マクゴニカル	大和書房																
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>適宜指示または配付する</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	適宜指示または配付する			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	適宜指示または配付する																		
2																			
3																			
評価方法 (基準)	<ul style="list-style-type: none"> ・後期試験として受講内容を踏まえた 800 文字以上の「自己キャリアシート」を作成する。 ・講義内容について、適宜レポートの作成や感想文を求める。 ・定期試験 (50%) レポート (20%) 受講態度 (30%) で総合評価する。 ・本講義は、説明だけでなく演習などの参加型の場合もあるので、その習熟度結果報告であるレポート、感想文提出を含めた受講態度を重視する。 																		
学生への メッセージ	<ul style="list-style-type: none"> ・大学生活ほど多くの時間を有する時間は無い。人生のこの時期に「考える習慣」や「社会と関わる術」などを取得して欲しいと思います。 ・大学生活を有意義に過ごす行動指針に活用して欲しいと思います。 ・提出物に質問や意見を記載する自由記入欄を必ず設けますので、意見がある場合は、そこに記入してください。 ・講義に出席しないと評価を受ける方法がないので注意してください。 																		
担当者の 研究室等	1号館7階 田井准教授室 (経済学部)																		
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・講義の進捗に関わらず、選定した教科書を熟読し、自己体験と比較する習慣を勧める。 ・納得できる内容とそうでない内容について、しっかりと認識し、表現できることを目指します。 ・騒ぐなど他の受講生に迷惑を及ぼす場合は、退席などを求める。 																		

科目名	数的能力開発	科目名(英文)	Development of Arithmetic Ability
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	西座 由紀
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	<p>中学・高校の授業の中で数学が嫌い・苦手だったという人は多いと思います。この授業では社会人として必要とされる基礎的な数学力を身につけることを目的としています。社会人として算数・数学を使う場面は意外と多く、就職活動でも筆記試験で算数・数学はよく使われます。そのために、現段階から算数・数学を学習することで、数学の問題が解けるようになります。</p>																																																																		
到達目標	<p>社会人として必要とされる基礎的な数学力が身につけていること</p>																																																																		
授業方法と留意点	<p>授業はオリジナル教材を元に行います。講義を自力で解く→解説→類題を解くという流れで、問題を確実に理解し、解けるようにしていきます。授業に集中して望むことで、社会で必要とされる算数・数学の力が向上するでしょう。また、毎回小テストをするので講義で取り扱った問題の復習、宿題は必ず行うようにしてください。</p>																																																																		
科目学習の効果(資格)	<p>大学生・社会人として必要最低限の数学の素養を身につける。</p>																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>実力テスト</td> <td>講義概要説明、実力テストの実施</td> <td>実力テストの復習</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>算数・数学の基礎</td> <td>方程式の基礎</td> <td>講義で取り扱った問題の復習</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>算数・数学の文章題①</td> <td>速度算の文章題</td> <td>講義で取り扱った問題の復習</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>算数・数学の文章題②</td> <td>割合の文章題</td> <td>講義で取り扱った問題の復習</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>算数・数学の文章題③</td> <td>分数の文章題</td> <td>講義で取り扱った問題の復習</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>算数・数学の文章題④</td> <td>金銭問題の文章題</td> <td>講義で取り扱った問題の復習</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>算数・数学の文章題⑤</td> <td>場合の数の文章題</td> <td>講義で取り扱った問題の復習</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>中テスト</td> <td>中テスト</td> <td>今まで学習した問題全てを事前に復習</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>社会で使う算数・数学①</td> <td>集合問題・領域問題</td> <td>講義で取り扱った問題の復習</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>社会で使う算数・数学②</td> <td>図表問題</td> <td>講義で取り扱った問題の復習</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>社会で使う算数・数学③</td> <td>論証問題</td> <td>講義で取り扱った問題の復習</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>社会で使う算数・数学④</td> <td>推理問題①</td> <td>講義で取り扱った問題の復習</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>社会で使う算数・数学⑤</td> <td>推理問題②</td> <td>講義で取り扱った問題の復習</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>復習</td> <td>復習</td> <td>全ての問題を事前に復習</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>最終テスト</td> <td>最終テスト</td> <td>全ての問題を事前に復習</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	実力テスト	講義概要説明、実力テストの実施	実力テストの復習	2	算数・数学の基礎	方程式の基礎	講義で取り扱った問題の復習	3	算数・数学の文章題①	速度算の文章題	講義で取り扱った問題の復習	4	算数・数学の文章題②	割合の文章題	講義で取り扱った問題の復習	5	算数・数学の文章題③	分数の文章題	講義で取り扱った問題の復習	6	算数・数学の文章題④	金銭問題の文章題	講義で取り扱った問題の復習	7	算数・数学の文章題⑤	場合の数の文章題	講義で取り扱った問題の復習	8	中テスト	中テスト	今まで学習した問題全てを事前に復習	9	社会で使う算数・数学①	集合問題・領域問題	講義で取り扱った問題の復習	10	社会で使う算数・数学②	図表問題	講義で取り扱った問題の復習	11	社会で使う算数・数学③	論証問題	講義で取り扱った問題の復習	12	社会で使う算数・数学④	推理問題①	講義で取り扱った問題の復習	13	社会で使う算数・数学⑤	推理問題②	講義で取り扱った問題の復習	14	復習	復習	全ての問題を事前に復習	15	最終テスト	最終テスト	全ての問題を事前に復習
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	実力テスト	講義概要説明、実力テストの実施	実力テストの復習																																																																
2	算数・数学の基礎	方程式の基礎	講義で取り扱った問題の復習																																																																
3	算数・数学の文章題①	速度算の文章題	講義で取り扱った問題の復習																																																																
4	算数・数学の文章題②	割合の文章題	講義で取り扱った問題の復習																																																																
5	算数・数学の文章題③	分数の文章題	講義で取り扱った問題の復習																																																																
6	算数・数学の文章題④	金銭問題の文章題	講義で取り扱った問題の復習																																																																
7	算数・数学の文章題⑤	場合の数の文章題	講義で取り扱った問題の復習																																																																
8	中テスト	中テスト	今まで学習した問題全てを事前に復習																																																																
9	社会で使う算数・数学①	集合問題・領域問題	講義で取り扱った問題の復習																																																																
10	社会で使う算数・数学②	図表問題	講義で取り扱った問題の復習																																																																
11	社会で使う算数・数学③	論証問題	講義で取り扱った問題の復習																																																																
12	社会で使う算数・数学④	推理問題①	講義で取り扱った問題の復習																																																																
13	社会で使う算数・数学⑤	推理問題②	講義で取り扱った問題の復習																																																																
14	復習	復習	全ての問題を事前に復習																																																																
15	最終テスト	最終テスト	全ての問題を事前に復習																																																																
関連科目	<p>キャリアデザインⅡ</p>																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>オリジナル教材を別途指示します。Smart SPI も利用します。</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	オリジナル教材を別途指示します。Smart SPI も利用します。			2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	オリジナル教材を別途指示します。Smart SPI も利用します。																																																																		
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>「仕事」に使える数学</td> <td>深沢 真太郎</td> <td>ダイヤモンド社</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	「仕事」に使える数学	深沢 真太郎	ダイヤモンド社	2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	「仕事」に使える数学	深沢 真太郎	ダイヤモンド社																																																																
2																																																																			
3																																																																			
評価方法(基準)	<p>授業態度・出席状況・小テスト・テストなどから判断します</p>																																																																		
学生へのメッセージ	<p>算数や数学を楽しんで学習してください。また、質問はどんなことでも遠慮なく質問すること。</p>																																																																		
担当者の研究室等	<p>7号館3階 キャリア教育推進室</p>																																																																		
備考																																																																			

教 職 科 目



科目名	教育課程論	科目名(英文)	Studies of Curriculum Development
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	大野 順子
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等		【科目】教職に関する科目(中学校・高等学校) 【施行規則に定める科目区分】教育課程及び指導法に関する科目 【各科目に含めることが必要な事項】・教育課程の意義及び編成の方法 【教員免許状取得のための履修区分】必修	

授業概要・目的	(1) 教育課程(カリキュラム)とは何かについて考える。教育課程(カリキュラム)はどのような目的から、どのような内容で編成されているのかについての歴史的経緯を考察する。また、同時に学校教育システムとの関わりから、その意義や役割を理解する。 (2) わが国における学習指導要領の変遷や戦前・戦後のカリキュラムの実践的開発を知ると共に、これからのカリキュラム開発の課題について考える。
到達目標	本講義の到達目標は以下の通りである。 (1) 学校教育における教育課程の意義について理解できる。 (2) 将来、教職に就いた際、適切な教育課程(カリキュラム)を計画でき、かつ、実践できる資質が身につく。
授業方法と留意点	テキストや資料を中心に授業を進めるが、そのほとんどは学生主体の発表(プレゼンテーション)を行うなど、学生一人一人の授業への主体的な参加が求められる。各自が取得する免許教科の中学校・高等学校の教科書を複数概観しておくことが望ましい。
科目学習の効果(資格)	教員免許(中学校・高等学校)取得上必修科目である。 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教育課程及び指導法に関する科目 各科目に含める必要事項：教育課程の意義及び編成の方法

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	教育課程とは何か/オリエンテーション	学校教育のもつ機能について。	課題：シラバスに挙げているテキストの該当する分を読んでおくこと。
2	日本における教育課程の歴史的変遷Ⅰ	戦前から戦後(経験主義～系統主義：高度経済成長期)の教育課程変遷について。	課題：テキストの該当部分と授業(第1回目)で配布する資料に目を通しておくこと。
3	日本における教育課程の歴史的変遷Ⅱ	1970年代以降、「ゆとり」への標榜から「生きる力」、そして現在までの教育課程変遷について。	課題：テキストの該当部分と授業(第1回目)で配布する資料に目を通しておくこと。
4	教育課程(カリキュラム)の概念と構造、および教育課程編成について	教育課程の編成要素(内部要因と外部要因)について。	課題：シラバスに挙げているいずれかのテキストの該当部分を読んでおくこと。
5	教育評価	発達段階にふさわしい評価の方法とその特質について。	課題：事前に配布した資料を読んでおくこと。
6	『総合的な学習の時間』について	・導入の背景とそのねらいについて(学生グループによる発表を予定)	課題：本時テーマについて調べてくる(A4一枚程度、詳細は授業で伝える)。
7	学校化された社会	「隠れたカリキュラム」について(学生グループによる発表を予定)。	課題：本時テーマについて調べてくる(A4一枚程度、詳細は授業で伝える)。
8	新しい教育課程 その1	「キャリア教育」について(学生グループによる発表を予定)。	課題：本時テーマについて調べてくる(A4一枚程度、詳細は授業で伝える)。
9	新しい教育課程 その2	「人権教育/平和教育」について(学生グループによる発表を予定)。	課題：本時テーマについて調べてくる(A4一枚程度、詳細は授業で伝える)。
10	新しい教育課程 その3	「シティズンシップ」教育について(学生グループによる発表を予定)。	課題：本時テーマについて調べてくる(A4一枚程度、詳細は授業で伝える)。
11	教育課程と教育改革 その1	特色のある学校づくり＝小中編(学生グループによる発表を予定)。	課題：本時テーマについて調べてくる(A4一枚程度、詳細は授業で伝える)。
12	教育課程と教育改革 その2	特色のある学校づくり＝高校編(学生グループによる発表を予定)。	課題：本時テーマについて調べてくる(A4一枚程度、詳細は授業で伝える)。
13	教育課程と教育格差 その1	学力格差と学力低下問題について(学生グループによる発表を予定)。	課題：本時テーマについて調べてくる(A4一枚程度、詳細は授業で伝える)。
14	教育課程と教育格差 その2	教育格差に抗する学校の取り組みについて(学生グループによる発表を予定)。	課題：本時テーマについて調べてくる(A4一枚程度、詳細は授業で伝える)。
15	総括：教育課程をめぐる諸問題	海外の学校教育課程の動向と国内の問題について。	課題：事前に配布した資料を読んでおくこと。

関連科目 教職科目全般と関連がある。他の教職科目と重なる所や特徴点を整理していくことが重要。

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	新しい時代の教育課程	田中耕治・水原克敏・三石初雄・西岡加名恵	有斐閣アルマ
2			
3			

評価方法(基準) 定期試験、レポート及び授業態度や授業への貢献度(発表を含む)など総合的に評価を行う。特に、試験の結果は成績評価に大きく影響することから、日頃からしっかりと予習復習を怠らないこと。また、欠席が多い者については成績評価の対象から外すので注意すること(全回出席すること)。

学生へのメッセージ 第一回目欠席者に対しては別途課題を課すので担当者(大野)に直接問い合わせること。問い合わせのない場合、成績評価から外すことがあるので注意すること。
教職科目の特質をよく理解し、実践的理解を深めることが大切である。そのため、各自の中学校・高等学校での体験をふりかえり、学ぶことの視点に立った、計画的学習を考えること。また「教育実習」を視野に入れた授業計画を考えることが重要。

担当者の 7号館3階(大野順子研究室)

研究室等	
備考	2009 年度以前入学生は、(高校) 教免取得上選択

科目名	教育経営論	科目名(英文)	Studies of Educational Administration
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	朝日 素明
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等		【科目】教職に関する科目(中学校・高等学校) 【施行規則に定める科目区分】教育の基礎理論に関する科目 【各科目に含めることが必要な事項】・教育に関する社会的、制度的又は経営的事項 【教員免許状取得のための履修区分】 選択必修	

授業概要・目的	本科目では、公教育システムに関してなじみの深い事例を参照し、そこから政策や法制、機構、理論や論争、現実や実態を明らかにし、検討していきます。これを通して、私たちにってはあたりまえで意識することもないような、学校教育を中心とした公教育システムのしくみやはたらきについて理解します。
到達目標	例えば「何をどう教えるのか」という内容的・技術的な事柄も実はさまざまな制度やその運用の仕方などによって規定されている様子がわかるなど、教育の環境や条件についての関心が高まり、直接的な行為だけに回収されない教育の奥行きや広がり理解できるようになります。
授業方法と留意点	プレゼンテーションソフトを用いた講義のほか、テキスト・資料の事前学習に基づくディスカッション(LTD; Learning Through Discussion)等のグループワークも織り交ぜて授業を進めます。事前学習は必須です。ウェブ上で資料配布、課題提示・レポート提出をするほか、掲示板機能を使用しディスカッションもします。「事前・事後学習課題」はすべて事前学習課題です。事後学習課題については別途、指示します。
科目学習の効果(資格)	教員免許取得上選択必修であり、可能な限り修得することが望ましい科目 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教育の基礎理論に関する科目 各科目に含める必要事項：教育に関する社会的、制度的又は経営的事項

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション 公教育とは	授業概要、方法としてのLTD、「未来ポートフォリオ」の使用について説明 公教育の成立前史 教育における「公」と「私」	「未来ポートフォリオ」のリマインダを設定しておく。
2	教育権の構造	「教育をする権利」「教育を受ける権利」 「学習する権利」 教育権論争について簡単なグループワーク	テキスト第3章1節を読んでくる。
3	教育を受ける権利の保障	教育の制度原理 「義務制」「無償制」にかかわって簡単なグループワーク	テキスト第3章2節を読んでくる。
4	学校体系のしくみ	段階性、系統性 学校体系の類型 学校の種類と設置者	テキスト第7章1・2節を読んでくる。
5	学校体系の現代的課題	選別・分離と接続・統合 「選抜・選別」について簡単なグループワーク	テキスト第3章3節を読んでくる。 学校の機能に関する配布資料を読んでくる。
6	教育条件整備の法制度と新しい動向	公教育を支える諸条件とは 条件整備はどのようになされるか 学校の「適正規模」「適正配置」にかかわって簡単なグループワーク	テキスト第7章2・3節を読んでくる。 学校統廃合に関する配布資料を読んでくる。
7	学校の組織管理	教職員配置と組織編制	テキスト第4章1・2節を読んでくる。
8	学校経営の新しい動向	「開かれた学校」 学校評議員制度、学校運営協議会制度 地域運営学校について簡単なグループワーク	テキスト第4章3・4節を読んでくる。 コミュニティスクールまたは学校参加に関する配布資料を読んでくる。
9	教育課程経営	学習指導要領の性質と特徴の変遷 学力論争と教育評価論 学力低下論争をめぐって簡単なグループワーク	テキスト第10章1・2節を読んでくる。 学力低下論争に関する配布資料を読んでくる。
10	教科書制度と指導行政	教科書検定 教科書採択 制度をめぐって簡単なグループワーク	テキスト第10章3・4節を読んでくる。 教科書検定または教科書採択制度に関する配布資料を読んでくる。
11	社会教育行政	社会教育と生涯学習 社会教育の理念と展開	テキスト第8章1・2節を読んでくる。
12	生涯学習社会への移行と生涯学習振興	社会教育行政の運営原則 社会教育の諸制度 社会教育不要論をめぐって簡単なグループワーク	テキスト第8章3・4節を読んでくる。 社会教育不要論に関する配布資料を読んでくる。
13	教育行政のはたらきと地方教育行政組織	教育行政の原則 教育委員会のしくみとはたらき 教育委員会制度論の新動向に関して簡単なグループワーク	テキスト第2章1節を読んでくる。 教育委員会制度の動向に関する配布資料を読んでくる。
14	国の教育行政と地方との関係	国の教育行政を動かす組織のしくみとはたらき 教育行政関係の新しい動向	テキスト第2章2・3節を読んでくる。
15	教育費と教育財政	教育財政の考え方 国・地方の教育費と教育財政 義務教育費国庫負担制度とその改革 学校財務	テキスト第6章を読んでくる。

関連科目 教職科目全般、とりわけ「教育原理」「教育社会学」「教師論」「教育課程論」に関連する事項を含みます。

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	教育行政学 改訂版	勝野正章・藤本典裕編	学文社
	2			
	3			

教職科目

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1		適宜指示します。	
	2			
	3			
評価方法 (基準)	定期試験 60%、レポート内容 30%、受講に係る積極的態度 10%の割合で総合的に評価します。定期試験を受験しなかった場合は成績評価をしません。			
学生への メッセージ	教員採用試験で頻出の教育法規については授業中に折に触れ解説しますが、採用試験ではそれを基本としてさらに幅広い知識、深い理解と応用力が要求されます。本科目は採用試験対策のための講義ではありませんので、各自が自主的に採用試験受験準備に取り組んでください。遅刻・早退等は厳禁です。専門職業人・教師としての資質が問われます。			
担当者の 研究室等	7号館3階 朝日研究室			
備考	「未来ポートフォリオ」のリマインダを、すべてを受信するよう設定し、情報を確実に受け取ることができるようにしておきましょう。			

科目名	教育原理	科目名(英文)	Educational Principles
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	小山 裕樹
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等		【科目】教職に関する科目(中学校・高等学校) 【施行規則に定める科目区分】教育の基礎理論に関する科目 【各科目に含めることが必要な事項】・教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想 【教員免許状取得のための履修区分】必修	

授業概要・目的	「そもそも、「教育」とはいったい何なのだろう、このような問いを立てたことはありませんか。例えば、「教育を受けることで、自分は本当に「善く」なったのだろうか。「いやむしろ、教育を受けることで、何らかの「型」にはめられてしまったのではないか。「教育には、今あるいわゆる「学校教育」のようなあり方しか存在しないのだろうか」……などなど。この授業では、以上のような素朴な、とはいえ重要な問いを大切にしながら、「教育」という営みについてももう一度丁寧に考え直してみることを目的とします。なお、その際に参考にするのは、「教育」に対して真摯に向き合った思想家たちの思索や、「教育」の歴史です。これらの思索や歴史を踏まえることで、受講者たちがそれぞれに「教育」について自分なりの考えを深めることができますようにします。
到達目標	「教育」をめぐる思想や歴史に関する基礎的な知識や考え方を身に付けたうえで、受講者たちがそれぞれに「教育」について自分なりの考えを深めることを目標とします。
授業方法と留意点	授業のスケジュールはおおよそ下記の通りで、基本的には講義形式で行います。なお、授業では、折に触れて受講者にコメントペーパーを書いてもらって皆で関心を共有し合うとともに、その都度のテーマに対して多角的な視点から検討し合えるように配慮します。
科目学習の効果(資格)	(1) 高等学校教諭1種免許状 (2) 中学校教諭1種免許状の取得 (3) 学芸員資格の取得に必要です。 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教育の基礎理論に関する科目 各項目に含める必要事項：教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	ガイダンス:教育を原理的に考察すること	教育を原理的に考察することの意味を考える。	「自分にとって教育とは何か」を考えておく。
	2	動物と人間の違い①	「野生児」の例から教育について考える。	授業の内容を踏まえたうえで、「野生児」は教育されるべきであったかについて、考える。
	3	動物と人間の違い②	「野生児」の例から教育について引き続き考察を深める。	二回分の授業の内容を踏まえたうえで、もう一度「野生児」は教育されるべきであったかについて、改めて考える。
	4	教育をめぐる諸論①:「教える」と「学ぶ」	①教育という営みを構成している二大要因である「教える」と「学ぶ」の関係について考える。 ②ヘレン・ケラーの「学び」を事例として、「学び」を形成している諸側面について検討する。	「教える」と「学ぶ」の違いや関係について、授業後にもう一度整理しておく。
	5	教育をめぐる諸論②:「子ども」観の歴史の変遷と「子どもの権利」	①「子ども」観や親子関係に対する見方が、古代から現代まで歴史的にどのように変遷してきたのかを概観する。 ②「子ども」観の歴史の変遷を踏まえたうえで、「子どもの権利条約」が制定されるまでの経緯を確認する。	自分の「子ども」一般に対するイメージを思い起こしておく。さらに、授業の内容を踏まえたうえで、もう一度自分の「子ども」観について考えてみる。
	6	教育をめぐる諸論③:「発達」と「生成」	いわゆる「発達」論と「生成」論に含まれている「教育」(あるいは「人間形成」)観の質的な違いについて考える。	「発達」と「生成」の考え方の違いを、授業後にもう一度整理しておく。
	7	教育の思想の歴史①	ロック、ルソーらの教育思想について概観し、考察を加える。	授業のなかで扱った教育思想の特色を、授業後にもう一度整理しておく。
	8	教育の思想の歴史②	カント、ペスタロッチらの教育思想について概観し、考察を加える。	授業のなかで扱った教育思想の特色を、授業後にもう一度整理しておく。
	9	教育の思想の歴史③	ヘルバルト、デューイらの教育思想について概観し、考察を加える。	授業のなかで扱った教育思想の特色を、授業後にもう一度整理しておく。
	10	日本の教育の歴史①	明治期の日本における近代学校制度の成立と展開の過程について概観する。	授業のなかで扱った内容を授業後に復習しておく。
	11	日本の教育の歴史②	大正自由教育運動から、大戦中の教育、そして戦後教育改革へと歴史の展開過程について概観する。	授業のなかで扱った内容を授業後に復習しておく。
	12	教育と権力①	ミシェル・フーコーの規律訓練論について概観し、教育を権力論との関わりから捉え直す。	教育と権力との関わりについて、授業後にもう一度考えてみる。
	13	教育と権力②	①権力論の新たな展開の例として「環境管理型権力」の問題について扱う。 ②いわゆる「教育空間論」について考えを深める。	「教育空間論」の可能性について、授業後にもう一度考えてみる。
	14	媒介者としての教師	様々な困難のなかに立たされつつも、極めて重要な役割を与えられる教師のあり方を、「過去と未来の媒介者」という観点から考える。	「自分がどのような教師になりたいか」を考えておく。
	15	まとめと補足	授業に関してまとめの考察を行う。	授業時に指示する。

関連科目 教職科目全体と関連がありますので、他の授業で学習した内容と関連づけて考えてみるのが大切です。

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	教科書は特に指定せず、授業中にレジュメと資料を配布します。		
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名

	1	参考書に関しては、授業中に適宜紹介します。		
	2			
	3			
評価方法 (基準)	授業中に折に触れて書いてもらうコメントペーパーや、学期末試験の結果などをもとに、総合的に評価します。			
学生への メッセージ	受講者の皆さんの積極的な参加を期待しています。			
担当者の 研究室等	7号館3階(小山研究室)			
備考				

科目名	教育実習 I	科目名 (英文)	Teaching Practice I
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	3年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	朝日 素明
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等		【科目】教職に関する科目 (中学校・高等学校) 【施行規則に定める科目区分】教育実習 【教員免許状取得のための履修区分】必修	

授業概要・目的	教育実習に関する実践的なテキストや視聴覚教材を用いて、またディスカッションや模擬授業を通して、教育実習に必要な教育実践の基本を理解します。
到達目標	(1)教育実習の現状と課題についての認識を深めるとともに、教育実習生としての基本的な姿勢・態度を身につけます。(2)教科の有効な指導計画を立案し、授業を効果的に展開できるようになります。(3)生徒指導の実践についての有効な指導計画を立案できるようになります。
授業方法と留意点	視聴覚教材を有効に活用し、演習・実習形式あわせて授業を進めます。 ウェブ上で資料配布、課題提示・レポート提出、ディスカッションをします。 欠席や遅刻・早退等は厳禁です。
科目学習の効果 (資格)	教員免許取得上必修 【免許法施行規則に定める科目区分】 教育実習

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション 教員養成・免許制度と教育実習の意義	科目概要・「未来ポートフォリオ」の使用について 教員養成カリキュラムにおける教育実習の位置 教育実習の意義と目的	教育実習校開拓報告書の提出 テキスト pp. 12-28
2	教育実習の実際 (1)	教育実習の内容・形態	テキスト pp. 29-37
3	教育実習の実際 (2)	実習中の勤務の要領 教育実習の1日 (視聴覚教材の視聴、意見交換)	テキスト pp. 78-103 実習生の立場についてレポート提出
4	教育実習への準備 (1)	事前準備と心がまえについて	テキスト pp. 46-77
5	教育実習への準備 (2)	生徒指導・生徒理解について	テキスト pp. 140-163
6	学校における人権教育等について	人権教育とは 人権教育の現状と課題について 学校保健と安全指導について	授業時に指示する
7	特別支援教育の現状と課題	特別支援教育とは 障害の種類と配慮事項 障害児理解と交流教育について	授業時に指示する
8	教育実習における学習指導	教育実習生の授業 (視聴覚教材の視聴、意見交換)	授業分析に関する配布資料
9	教材研究と学習指導案の作成 (1)	授業の準備と配慮事項	テキスト pp. 104-139
10	教材研究と学習指導案の作成 (2)	指定された分野・単元の教材研究 (グループワーク) 指導計画・学習指導案の作成 (グループワーク)	指定された分野・単元の教材研究 (個人ワーク)
11	教材研究と学習指導案の作成 (3)	指導計画・学習指導案の作成 (個人ワーク) 板書計画の作成 (グループワーク)	板書計画の作成 (個人ワーク)
12	模擬授業 (1)	作成した学習指導案に沿った模擬授業	学習指導案・板書計画案の提出
13	授業分析 (1)	模擬授業の逐語記録による分析批評	逐語記録の作成
14	模擬授業 (2)	作成した学習指導案に沿った模擬授業	学習指導案・板書計画案の提出
15	授業分析 (2)	模擬授業の逐語記録による分析批評	逐語記録の作成

関連科目 教職科目全般。既習内容を復習、整理しておいてください。

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	新編 教育実習の常識―事例にもとづく必須66項	教育実習を考える会	蒼丘書林
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1		適宜指示する。	
	2			
	3			

評価方法 (基準) レポート、模擬授業の成果、授業や教育実習関連行事への参加に係る積極的態度等により、総合的に成績を判定します。

学生へのメッセージ 教育実習において生徒を指導するに際しては、いかに微細であっても不明点があってはなりません。教育実習はこれまでのあらゆる学習の総まとめであることを自覚して、十分に準備を整えていきましょう。
専門職業人・教師としての適格性が問われます。指示されたこと・決まりごとは守りましょう。

担当者の研究室等 7号館3階 朝日研究室

備考 年度内に開かれる教育実習体験発表会、教育実習総括講義には原則として必ず出席してください。
「未来ポートフォリオ」のリマインダを、すべてを受信するよう設定し、情報を確実に受け取ることができるようにしておきましょう。

科目名	教職実践演習 (中・高)	科目名 (英文)	Practicum in Prospective Teachers
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	4年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	吉田 佐治子
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等		【科目】教職に関する科目 (中学校・高等学校) 【施行規則に定める科目区分】教職実践演習 【教員免許状取得のための履修区分】必修	

授業概要・目的	<p>○教育実習を終え、各自の問題点を明確化しながら今後の自らの実践課題をグループワーク等を通して再認識し、教員としての適性や実践的な力量について確認する。</p> <p>○中学・高校での現場体験学習を基に、現職・元教員、教育委員会指導主事等と研究交流し、生徒理解を通して生徒指導・進路指導ができることを確認する。</p> <p>○教科に関する科目の担当者や科目の指導主事・現職教員と連携協議し、専門科目・教職科目の学習を深め、授業実践ができることを確認する。</p> <p>○教員としての適性や力量、特に「授業を創造する意欲と能力」「対人関係能力と社会性・協調性」「使命感・責任感」「学校教育活動におけるリーダーシップ」等を有していることを確認する。</p>
到達目標	免許教科に関する学習、中学校での学習、今日的な教育問題に関する学習など、様々な学習を通して自身の課題を見つめ直し、教員としての適性や力量について確認することができる。
授業方法と留意点	<p>○教職課程の専任教員5名による全体指導と、各専任教員毎のグループ学習を中心に進める。1グループは15～20名。さらに、長年の実践経験を有する教員から実践を通して見えてくる学校現場の諸課題を知り、自己の実習経験と重ねる中で、新たな課題を探り、かつ全体でも共有していく。</p> <p>○大学の教科に関する科目の担当者・指導主事・現職教員と連絡協議し、教科指導・生徒指導・進路指導等ができることを確認していく。</p>
科目学習の効果 (資格)	<p>○教職実践演習は、当該演習を履修する者の教科に関する科目及び教職に関する科目 (教職実践演習を除く) の履修状況を踏まえ、教員として必要な知識技能を修得したことを確認するもの。</p> <p>○教職課程の必修科目。免許資格取得と同時に即学校現場で生かせる実践力を身に付けることが求められる。</p>

教職科目

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	「教職実践演習」のガイダンス	<ul style="list-style-type: none"> ・科目の目的、内容方法についての確認 ・各自の教育実習後の課題についての確認 ・3回以降のグループ学習の各課題の確認 	・教育実習ノートの点検と再確認
	2	専攻科目に於ける実践上の課題	・専攻科目ごとに分かれ、その科目の専門分野に関する個々の課題について教科担当教員が指導。	・専攻教科における分野ごとの課題を整理
	3	専攻科目に於ける実践上の課題	・専攻科目ごとに分かれ、その科目の専門分野と実践上の課題について、教科担当教員が指導。その上で、研究交流する。	・専攻教科における分野ごとの課題を整理
	4	生徒指導・進路指導 (中学校現場での実地学習)	地元市教委との連携協力を基に、中学校現場を全体で参観し、生徒指導・進路指導上の実践課題を知る。	中学生における集団づくりと個別指導 (生徒指導・進路指導のあり方) についてレポートにまとめる
	5	生徒指導・進路指導 (中学校現場での実地学習)	地元市教委との連携協力を基に、中学校現場をグループ毎に参観し、教科指導上の実践課題を知る。	中学生における集団づくりと個別指導 (教科指導のあり方) についてレポートにまとめる
	6	いじめの現状	問題行動のなかから特に「いじめ」を取り上げ、その多様性、メカニズム、深刻さを理解する。 配布資料の事前学習に基づき、グループワークを行う。	(事前) 配布資料の熟読 (事後) 小レポートの提出
	7	いじめ問題への取り組み	日常の些細な出来事がどのように「いじめ」に発展するのか、教師がいじめを見抜くのはどうして困難なのかを考える。 配布資料の事前学習に基づき、グループワークを行う。	(事前) 配布資料の熟読 (事後) 小レポートの提出
	8	ジェンダーと教育	近現代社会は「個人の尊重」という理念のもと成り立っている。しかしながら、その背後には伝統的な価値規範を内包していることも忘れてはならない。 近代国家によって制度化されてきた学校教育も現在では自由や個性の尊重を掲げながら、一方では伝統的な価値観を強制している部分があるのではないかと。そうしことを考えるきっかけとして「ジェンダー」という視点をを用い、学校教育を改めて考えてみたい。 特に、身近なところからジェンダーについて考え、学校教育や社会について検討していく。	第一回目の授業で配布する資料を読み、A4サイズの用紙1?2枚程度にその要約と感想を書き、講義当日に持参する。
	9	学校の中のマイノリティ: 外国にルーツをもつ子どもたち	1990年代以降、日本の入国管理政策の転換により、多くの外国人が家族とともに渡日するようになった。 それに伴い多くの外国人の子どもたちは日本の学校へ通うことになったが、彼らは日本語の問題や日本特有の学校文化など様々な問題に直面することとなった。 ここでは外国にルーツをもつ子どもたちの視点から日本の学校教育制度について講義、およびディスカッションを通して考えていく。	第一回目の授業で配布する資料を読み、A4サイズの用紙1?2枚程度にその要約と感想を書き、講義当日に持参する。
10	教師の「自律性」、あるいは「市民」としての教師	皆さんは、教師という職業について、どのように生きていきたいだろうか。教師は、職業人としては教師であるが、同	(事前) 自分は教師としてどのように生きていきたいかを考えてみる。 (事後) 小レポートの提出。	

			時に「人間」であり、「自律した市民」でもある。ここでは、こうした二重の生を送ることになる教師のあり方を、哲学的に考えていく。																	
	11	「学び続ける教員像」再考	昨今、社会の急激な変化に伴い、知識・技能の絶えざる刷新が不可欠であることから、政府の側からも「学び続ける教員像の確立」が求められてきている。ここでは、教師が学び続けることの意味、さらには、学ぶこと一般の意味について、改めて考えていく。	(事前) 自分にとって学ぶことの意味とは何かを考えてみる。 (事後) 小レポートの提出。																
	12	生活背景を視野に入れた生徒支援	貧困や虐待等、生活背景に課題のある生徒に対する支援のあり方について事例研究及びグループ討議を行う。	「子供の貧困対策に関する大綱」を一読しておくこと。授業後にミニレポートを課す。																
	13	コミュニケーション能力のとらえ方とその育成	生徒間の相互関係を深め、共感しながら人間関係やチームワークを形成する方策についての事例研究及びグループ討議を行う。	文部科学省コミュニケーション教育推進会議審議経過報告「子どもたちのコミュニケーション能力を育むために」を一読しておくこと。授業後、ミニレポートを課す。																
	14	カウンセリングマインドと生徒対応	カウンセリングの技法を生徒への対応、保護者への対応に応用する。	(事前) カウンセリングマインドについての復習。中学生あるいはその親のもつ“悩み”を3つあげる。 (事後) 小レポート																
	15	「自分」を知る	教育職における「自己を知る」ことの重要性を知り、そのための1方法としてのエゴグラム作成を行う。	(事前) 「自分」について考える。 (事後) 小レポート																
関連科目	全ての教職課程必修科目、取得予定免許状に関わる各教科毎の必修科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2																				
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2																				
3																				
評価方法 (基準)	グループ学習が中心であり、それぞれについて課題が出される。それらの評価を総合し、最終的な評価とする。																			
学生への メッセージ	教育実習を終えた時点で各自が自らの実習を省察すること。その中で、問題点を見出し、諸課題を自ら設定し、この科目を軸にしなが、全体講義やグループワークを通して課題克服を目指しながら、さらなる実践的力を身に付けること。																			
担当者の 研究室等	7号館3階 朝日素明、大野順子、小山裕樹、林茂樹、吉田佐治子																			
備考																				

科目名	教育社会学	科目名(英文)	Sociology of Education
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	大野 順子
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等	【科目】教職に関する科目(中学校・高等学校) 【施行規則に定める科目区分】教育の基礎理論に関する科目 【各科目に含めることが必要な事項】・教育に関する社会的、制度的又は経営的事項 【教員免許状取得のための履修区分】選択必修		

授業概要・目的
近年、学校教育現場では様々な問題を抱えるようになってきました。一般的に私たちはそうした問題に対し、学校教育内部のみで対処し解決しようとする傾向があります。しかしながら、そうした問題の多くは、時に関係のないような社会的、経済的、政治的、そして文化的なシステムと密接な関係をもっていることが多々あります。そこで本講義では、教育現場で生じている諸問題を、特に社会学的観点からとらえ、検討していくことを目標とします。皆さんがこれまでの学校生活で直接経験してきた身近な教育問題から地域や国の政策レベルでの取り組み、そして海外における事例等を扱いながら、体系的に現代社会と教育の関係性を学び、教育社会学の理論や概念を学んでいきます。

到達目標
本講義の到達目標は以下の通りです。
1. 教育社会学の基礎理論と概念について学習する。
2. 現代社会における様々な教育問題について理解する。
3. 教育に関わる諸問題を社会学的観点からとらえ、論理的に思考し、分析し、検討する力が養える。
4. 様々な教育問題に対して、それぞれ意見を表現し、他者と議論し、解決の方向を見出せる力をつける。

授業方法と留意点
講義形式を中心としますが、適時、受講生全員で講義で取り扱う教育問題についてどのように考えているかそれぞれ発表してもらい、問題解決に向け議論する手法を取り入れるなど、演習(ゼミ)方式を取り入れ、受講生の皆さんの主体的な参加の機会を多く提供します。そこで、よりよい議論の時間を保証するためにも、毎時、取り扱うテーマに関する文献等を読み(事前配布かテキスト使用)、それを講義日までに要約してきてもらいます(毎回それを提出してもらおうことになります。提出が不十分な学生は成績対象から外す。)
○準備学習の具体的な方法
指定しているテキストを購入し、講義で扱うテーマに該当する部分を要約しておいて下さい。そして日頃から新聞・雑誌等で教育に関する記事を読み、どのような問題が教育界では話題になっているのかについて情報を収集しておいてください。また、履修する学生の皆さんには本講義用に1冊ノートを作成してもらいます。そのノートに上記、予習や新聞等の切り抜き等を貼り付けるなど利用して下さい(まとめかたは自由)。※ノートは提出してもらっても構いません。

科目学習の効果(資格)
(1) 高等学校教諭1種免許状 (2) 中学校教諭1種免許状の取得に必要です。
【免許法施行規則に定める科目区分】
科目: 教育の基礎理論に関する科目
各科目に含める必要事項: 教育に関する社会的、制度的又は経営的事項

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション 教育社会学とは	教育社会学という学問の特質、及び、その課題を知る。	事前課題: 教科書の序章を読み、疑問点についてまとめてくる。
2	近代学校教育制度	近代国民国家が求めた「学校教育制度」の意義や性格について考える。	事前課題: 教科書の第1章、第2章の要約。
3	教師と子ども	「教師-生徒の関係性」という視点から学校における教育活動全般を考えていく。	事前課題: 教科書の第3章、第4章の要約。
4	校則・体罰・校内暴力	学校が抱える諸問題(体罰等)が発生する背景や要因について考える。	事前課題: 事前に配布する論文資料を読み、要約する。
5	いじめ	学校病理問題の一つである「いじめ」について社会学的観点からいじめが発生する構造について明らかにする。	事前課題: 事前に配布する論文資料を読み、要約する。
6	不登校	学校病理問題の一つである「不登校」問題について社会学的観点から迫り、解釈する。	事前課題: 事前に配布する論文資料を読み、要約する。
7	教育格差・階層問題Ⅰ	貧困と格差が子どもたちにもたらす影響について考える。	事前課題: 教科書の第7章の要約。
8	教育格差・階層問題Ⅱ	格差解消に向けた学校、家庭、地域社会等の取り組みについて。	事前課題: 事前に配布する論文資料を読み、要約する。
9	国の教育政策: 海外との比較	教育政策、教育費、制度等の観点から日本の教育と海外の教育について比較検討する。	事前課題: 事前に配布する論文資料を読み、要約する。
10	地域と学校Ⅰ	地域社会の変容、それに伴う、学校のあり方について検討する。	事後課題: 事前に配布する論文資料を読み、要約する。
11	地域と学校Ⅱ	地域連携、学社融合の取り組みについての事例研究を行う。	事後課題: 事前に配布する論文資料を読み、要約する。
12	ジェンダーと教育	学校や家庭、社会に潜むジェンダーに関わる問題について考える。	事後課題: 事前に配布する論文資料を読み、要約する。
13	国家と教育	教育の政治化と学校現場において子どもたちや教師たちが直面する問題について考える。	事後課題: 教科書の第9章、及び事前に配布する論文資料を読み、要約する。
14	在日外国人の子どもたち	学校の中におけるマイノリティとしての「外国にルーツのある子どもたち」の状況について考える。	事後課題: 事前に配布する論文資料を読み、要約する。
15	総括	「教育改革」をキーワードにこれからの教育のあり方について考える。	事後課題: 教科書の第10章の要約。

関連科目
「教育原理」「教育社会学」「道徳教育の研究」「教育心理学」「生徒指導論」「教育相談」「教育経営論」「教育実習Ⅰ」「教職実践演習」「各教科教育法」

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	『[教師教育テキストシリーズ5] 教育社会学』	久富善之・長谷川裕編	学文社
2			
3			

参考書

教職科目

	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	出席・授業参加度、試験、課題・ノートにより総合的に評価（予定） ※欠席が80%に満たない場合は成績評価の対象外とします。			
学生への メッセージ	本講義を履修する者は、学校現場での活動経験（学習支援、授業支援、部活指導等内容は問わない無償・有償ボランティア活動）をしている（過去に長期間にわたり経験したことがある）ことが望ましい。活動経験のない者、現在、学校等において活動していない者は活動することを義務づけることがあるのでよく考えて履修することを決めること。			
担当者の 研究室等	7号館3階(大野順子研究室)			
備考				

科目名	教育心理学	科目名(英文)	Educational Psychology
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	吉田 佐治子
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等		【科目】教職に関する科目(中学校・高等学校) 【施行規則に定める科目区分】教育の基礎理論に関する科目 【各科目に含めることが必要な事項】・幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程(障害のある幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程を含む。) 【教員免許状取得のための履修区分】必修	

授業概要・目的	学校での教育活動において、教師の果たす役割は大きい。学習の質を高めるために、教師が学習者を理解し、様々な形で援助していくためにはどうすればよいのか、それを考えていくにあたって必要な、基礎的な知識を身につけることを目標とし、特に、認知的な側面に焦点を当てて議論していく。具体的には、教育について考える際に、ある意味基本となる「発達と学習」、学習者が主体的に学ぶための「学習意欲」、個人差の理解、障害の理解と特別支援教育について考える「個に応じた教育」を中心とする。また、学校を学習の場としてとらえたときの「人間関係」についてもふれることとする。
到達目標	教育心理学の基本的な考え方、基礎的な知識を得ることができる。そのことにより、日常生活の中で行われている学習活動や学校等における問題について、心理学的に説明し、考えることができるようになる。
授業方法と留意点	講義形式で行う。

科目学習の 効果(資格)	教員免許状取得上必修、免許法施行規則に定められた「教育の基礎理論に関する科目」6単位のうち2単位を充足。 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教育の基礎理論に関する科目 各科目に含める必要事項：幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程(障害のある幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程を含む。)
-----------------	--

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	発達と教育と心理学と	教育に対して心理学ができること、発達と教育	—————
2	教育を支える認知機能1	思考(1)……人間の思考の特徴	テキスト第8章、第9章を読む
3	教育を支える認知機能2	思考(2)……思考の発達、メタ認知	テキスト第7章の1、第8章、第9章を読む
4	教育を支える認知機能3	言語(1)……言語の機能、言語の発達	テキスト第9章の2、第11章を読む
5	教育を支える認知機能4	言語(2)……文章理解	テキスト第11章を読む
6	教育を支える認知機能5	記憶(1)……記憶のメカニズム	テキスト第4章、第5章を読む
7	教育を支える認知機能6	記憶(2)……記憶の発達	テキスト第4章、第5章を読む
8	こどもの学び1	様々な学習(1)……学習とは何か、古典的条件づけ	テキスト第1章を読む
9	こどもの学び2	様々な学習(2)………道具的条件づけ、観察学習	テキスト第1章を読む
10	学習を支える動機づけ1	意欲とは何か……動機づけ過程、期待×価値理論、学習性無力感	テキスト第2章、第3章を読む
11	学習を支える動機づけ2	さまざまな学習意欲(1)……外発的動機づけ	テキスト第2章、第3章を読む
12	学習を支える動機づけ3	さまざまな学習意欲(2)……内発的動機づけ	テキスト第2章、第3章を読む
13	学習を支える動機づけ4	学習意欲を育むために……報酬と罰、評価、目標、教師の対応	テキスト第0章の2、第2章、第3章を読む
14	個に応じた教育1	個人差の理解と教育……ATI、学習方略	テキスト第0章の3、第6章を読む
15	個に応じた教育2	「障害」の理解と特別支援教育	テキスト第13章を読む

関連科目	心理学
------	-----

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	絶対役立つ教育心理学—実践の理論、理論を实践—	藤田哲也(編著)	ミネルヴァ書房
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	小テスト30% 期末試験70%
----------	-----------------

学生へのメッセージ	これまで受けてきた教育を思い出してください。また心理学の用語の中には、日常的に遣われているのとやや異なる意味で用いられるものがあることに留意してください。
-----------	---

担当者の研究室等	7号館3階(吉田研究室)
----------	--------------

備考	
----	--

教職科目

科目名	教育相談	科目名(英文)	School Counseling
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	吉田 佐治子
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等		【科目】教職に関する科目(中学校・高等学校) 【施行規則に定める科目区分】生徒指導、教育相談及び進路指導等に関する科目【各科目に含めることが必要な事項】・教育相談(カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。)の理論及び方法 【教員免許状取得のための履修区分】必修	

授業概要・目的	教育相談の考え方や進め方についての理解を深め、生徒が成長する過程に生じるさまざまな課題や問題に対処するための援助の考え方や実際、カウンセリングの基礎知識と教育相談の技法を身につけることを目標とする。学校における教育相談に焦点を当て、教師が行う教育相談活動の基本的な考え方や教育相談に必要なスキルを身につけるために、教育相談のもつ今日的な意義を解説し、カウンセリングの基礎知識およびその実践的な手法を紹介する。併せて、「問題」に悩む児童・生徒への実践的な取り組み方を考える。
到達目標	教育相談の基本的な考え方や、カウンセリングの基礎、生徒理解と「問題」への対応についての知識を得ることができる。その上で、生徒を援助するための具体的な方法について考えることができる。
授業方法と留意点	講義と演習を組み合わせで行う。
科目学習の効果(資格)	教員免許状取得上必修、免許法施行規則に定められた「生徒指導、教育相談及び進路指導等に関する科目」4単位のうち2単位を充足。 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：生徒指導、教育相談及び進路指導等に関する科目 各科目に含める必要事項：教育相談(カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。)の理論及び方法

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	授業内容、授業の進め方、評価基準等について	—————
2	カウンセリングの基礎	カウンセリングの基本的な考え方や、教師としての立場、カウンセリングマインド	テキスト第1章、第2章を読む
3	グループ発表の準備	グループワーク	—————
4	学校教育相談の全体像	校内での役割分担と協力体制、専門機関との連携とその方法	テキスト第12章、第13章を読む
5	学校におけるカウンセリング活動1	カウンセリング活動のいろいろ(1)……治療的カウンセリング活動、予防的カウンセリング活動	テキスト第10章を読む
6	学校におけるカウンセリング活動2	カウンセリング活動のいろいろ(2)……開発的カウンセリング活動	テキスト第10章を読む
7	パーソナリティ理解	パーソナリティを理解するために、パーソナリティ理解をゆがめるもの	—————
8	問題の理解と対応1	問題とは何か、その原因・背景と対応、適応過程	テキスト第3章を読む
9	問題の理解と対応2	ストレス、欲求不満、葛藤	テキスト第3章、第4章を読む
10	心の発達と危機	認知の発達、自己意識の発達、道徳性の発達、仲間関係の発達	教育心理学の復習
11	相談援助活動の実際1	不登校……その理解と対応(学生グループ発表)	テキスト第5章を読む
12	相談援助活動の実際2	いじめ……その理解と対応(学生グループ発表)	テキスト第6章を読む
13	相談援助活動の実際3	学級崩壊・授業崩壊……その理解と対応(学生グループ発表)	テキスト第7章を読む
14	相談援助活動の実際4	反社会的行動……その理解と対応(学生グループ発表)	テキスト第8章を読む
15	教員のメンタル・ヘルス	教員自身が健康であるために、教員への対応	テキスト第14章を読む

関連科目 教育方法論、生徒指導論、教育心理学、教育社会学など。

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	学校教育相談	一丸藤太郎・菅野信夫	ミネルヴァ書房
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法(基準)	グループ発表 50% 期末試験 50%
学生へのメッセージ	これまでの学校での「困った」経験を思い出してみてください。
担当者の研究室等	7号館3階(吉田研究室)
備考	

科目名	教育方法論	科目名(英文)	Studies of Educational Method
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	林 茂樹
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等		【科目】教職に関する科目(中学校・高等学校) 【施行規則に定める科目区分】教育課程及び指導法に関する科目 【各科目に含めることが必要な事項】・教育の方法及び技術(情報機器及び教材の活用を含む。) 【教員免許状取得のための履修区分】必修	

授業概要・目的	(1) 自己の被教育体験を出発点に、学習観・授業観・学校観を問い直す作業を経て、今日の教師に求められる多様な資質・能力についての理解を深める。 (2) 生徒の生活背景を把握し、生徒の声を聴き取り、生徒どうしをつなぎ、教室での出来事に柔軟かつ的確に対処しつつ、教室を学びの場に変えていくことをめざす授業を構想、構成する。 (3) 教育実践の質を向上させるためには、個々の教師の専門性を向上させることだけでなく、相互に学び合うことを可能にする同僚性を構築すること、及び教育学研究の新しい知見を摂取し続けることが重要であることを理解する。
到達目標	(1) 指導目標を適切に設定し、多角的な視点から教材研究を行い、学習指導案を作成するとともに、チーム内での協議を踏まえて指導案を改善することができる。 (2) 豊富な事例研究を通して、教育実践を対象として分析、批判、省察、再構成できる力を養う。
授業方法と留意点	講義が中心となるが、インタラクティブな授業となるよう努める。また、学習指導案の作成に向けて、個人ワーク、グループワーク、グループ討議を適宜織り交ぜる。
科目学習の効果(資格)	教員免許(中学校・高等学校)取得上必修科目である。 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教育課程及び指導法に関する科目 各項目に含める必要事項：教育の方法及び技術(情報機器及び教材の活用を含む。)

教職科目

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション 教育方法の実践的探求にむけて	学習観・授業観・学校観の問い直し、教育方法学の学際的性格、多様な学びのあり方、学校教育における教師の役割	教科書第1章を読んでおく。学習内容を振り返り整理する。
2	学校とは何か	学校観の変遷、教室の観察、授業の会話分析、なぜ勉強するのか、現代社会における学校の役割	教科書第2章及び配布プリントを読んでおく。学習内容を振り返り整理する。
3	学習の再定義	学習の理論、新しい学力観、学びのメカニズム、学習の方法、客観主義的知識観と構成主義知識観	配布プリントをよく読んでおく。学習内容を振り返り整理する。
4	教室という空間	教師・生徒関係、授業のルール、授業のめあてと流れ、隠れたカリキュラム、生徒の生活背景・文化的背景を視野に入れる	第5章、第8章4以下をよく読んでおく。学習内容を振り返り整理する。
5	カリキュラムの編成	学習指導要領と教育課程、カリキュラムの構造と類型、教科学習と総合的な学習、トラッキングと社会的再生産	教科書第3章を読んでおく。学習内容を振り返り整理する。
6	情報化社会と教育	デジタル教材、ICTを活用した授業、情報活用能力の育成、情報リスクへの対応、校務事務処理の情報化	教科書第4章を読んでおく。学習内容を振り返り整理する。
7	学習の組織化	学習のスタイル、教授のスタイル、教材とメディアの活用	配布プリントをよく読んでおく。学習内容を振り返り整理する。
8	授業の設計	生徒の実態把握、目標の設定、授業方法の決定、指導案の作成、授業、評価活動	配布プリントをよく読んでおく。学習内容を振り返り整理する。
9	学力調査と学力の構造	学力低下論争、学力調査の実施、学力格差の拡大、キー・コンピテンシー	配布プリントをよく読んでおく。学習内容を振り返り整理する。
10	教育評価	教育測定、相対評価と絶対評価、診断的評価、形成的評価と総括的評価、指導と評価の一体化、授業評価アンケート	教科書第6章を読んでおく。学習内容を振り返り整理する。
11	対話的・協同的な学びと学級づくり	学習意欲低下の背景、授業崩壊、不登校・高校中退、関係づくり、学び合い	配布プリントをよく読んでおく。学習内容を振り返り整理する。
12	教育思想の歴史と教育方法	コメンテュスからエンゲストロームまで近代学校に影響を与えた教育思想を振り返る	教科書第8章3までを読んでおく。学習内容を整理する。
13	授業研究の現状と課題	公開授業・研究授業、授業観察、校内授業研究、校種間連携、キャリア・アップ	配布プリントをよく読んでおく。学習内容を振り返り整理する。
14	教員間の協力協働	課題意識と実践の共有、協同的同僚性、バーンアウト、教員文化・学校組織文化の変革	配布プリントをよく読んでおく。学習内容を振り返り整理する。
15	学び続ける教員像	教師のライフサイクル、情報技術の革新、反省的实践家、学びの専門家、各種研修	教科書第7章を読んでおく。学習内容を振り返り整理する。

関連科目 教職科目全般と関連性をもつ。特に、「教師論」「教育原理」「教育心理学」での既習内容と関連させて理解を深めることが大切である。

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	教育の方法・技術	岩川直樹編	学文社
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	子どもに向き合う授業づくり	生田孝至	図書文化
2			
3			

評価方法 (基準)	定期試験 (50%)、レポート (30%)、コメントペーパー (20%) により総合的に評価する。
学生への メッセージ	「授業に出席するだけ」という受動的な構えを取るのではなく、日々、メディアで取り上げられる教育諸課題に敏感に反応し、教育の方法的視点でどのように対処すべきかを常に考える癖をつけるようにしてください。
担当者の 研究室等	7号館3階(林研究室)
備考	

科目名	教師論	科目名(英文)	Teacher Education
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	朝日 素明
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等	【科目】教職に関する科目(中学校・高等学校) 【施行規則に定める科目区分】教職の意義等に関する科目 【各科目に含めることが必要な事項】・教職の意義及び教員の役割 ・教員の職務内容(研修、服務及び身分保障等を含む。) ・進路選択に資する各種機会の提供等 【教員免許状取得のための履修区分】必修		

授業概要・目的	教職に関する理解を深め、自己の適性を見つめ直し、最終的に教職をめざすことについて主体的な進路選択を行うための判断材料を提供します。具体的には、「教職の意義とは何か」「教師の役割や責任は何か」「教師の職務とはどのようなものか」「教師として生きるとはどのようなことか」などについて基礎的な知識を講義し、これに基づいてグループワークを行います。
到達目標	学生は、教職に関する基礎的な知識を獲得し、「自分は教師に向いているのか」「自分はどのような教師をめざすのか」などについて判断できるようになります。また、グループワークを通じ、視野を広め、コミュニケーション力を向上させることができます。
授業方法と留意点	講義を中心に、テキスト・資料の事前学習に基づくディスカッション(LTD; Learning Through Discussion)等のグループワークも織り交ぜて授業を進めます。事前学習は必須です。 課題提示・レポート提出をするほか、掲示版機能を使用しディスカッションもします。 「事前・事後学習課題」はすべて事前学習課題です。事後学習課題については別途、指示します。
科目学習の効果(資格)	教員免許取得上必修 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教職の意義等に関する科目 各科目に含める必要事項：教職の意義及び教員の役割・教員の職務内容(研修、服務及び身分保障等を含む。)・進路選択に資する各種の機会の提供等

教職科目

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション 教職への道	科目概要・「未来ポートフォリオ」の使用について説明 自らの学校・生徒体験、心に残る教師等についてのふりかえり 教職課程の履修動機 教師になることの意味	「未来ポートフォリオのリマインダ設定」 本科目のシラバスの熟読
	2	教職の成立とその意義	公教育の成立 教職の誕生 戦前の教員養成	テキスト第1章
	3	教師教育と教職の専門性(1)	教員への道 戦後教員養成の原則と制度 教員免許制度の確立	テキスト第10章
	4	教師教育と教職の専門性(2)	教員免許制度の新たな展開 教員採用の動向と採用試験	テキスト第4章・第12章
	5	教師教育と教職の専門性(3)	教員の研修の意義 教員の研修の種類と体系	テキスト第3章
	6	教師教育と教職の専門性(4)	法定研修 教員の自己研修	教員研修体系に関する配布資料 テキスト第11章
	7	さまざまな教師像(1)	戦前・戦後の教師像 憧れの教師	テキスト第2章・終章
	8	さまざまな教師像(2)	「不良教師」(文献・映像に基づく教師像の探究) レポートに基づくグループワーク	「不良教師」に関する配布資料を読みレポート提出
	9	さまざまな教師像(3)	「熱血教師」(文献・映像に基づく教師像の探究) レポートに基づくグループワーク	「熱血教師」に関する配布資料を読みレポート提出
	10	さまざまな教師像(4)	「人間教師」(文献・映像に基づく教師像の探究) レポートに基づくグループワーク	「人間教師」に関する配布資料を読みレポート提出
	11	さまざまな教師像(5)	「プロ教師」(文献・映像に基づく教師像の探究) レポートに基づくグループワーク	「プロ教師」に関する配布資料を読みレポート提出
	12	教員の役割・職務(1)	教室における指導者の視点からみた教員の役割・職務	テキスト第5章・第8章
	13	教員の役割・職務(2)	学校組織の構成員の視点からみた教員の役割・職務	テキスト第7章 教職員の構成と校務分掌に関する配布資料
	14	教員の役割・職務(3)	教員の任用と身分 教員の服務と身分保障 教員の勤務条件	教員の任用・服務等に関する配布資料
	15	教員の役割・職務(4)	教員のメンタルヘルス、バーンアウト 教育改革と教員	テキスト第9章

関連科目 教職科目全般、とりわけ「教育原理」「教育経営論」「教育課程論」「教育方法論」「生徒指導論」に関連する事柄を含みます。

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	新版 教職論―「よい教師」への扉を開く―	佐島群已・小池俊夫編	学文社
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1		適宜指示します。	
	2			
	3			

評価方法 (基準)	定期試験を実施します。その他、レポートの内容、受講に係る積極的態度も成績判定の資料とします。
学生への メッセージ	教職について考えることは教育について考えることであり、「教え」「学び」「育ち」を含む「生き方」について考えることになります。教養をもとに、広い視野で物事を捉える習慣を身につけましょう。 遅刻・早退等は厳禁です。教師を目指す者としての資質が問われます。
担当者の 研究室等	7号館3階 朝日研究室
備考	「未来ポートフォリオ」のリマインダを、すべてを受信するよう設定し、情報を確実に受け取ることができるようにしておきましょう。

科目名	社会科・公民科教育法 I	科目名 (英文)	Civic Education Method I
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	大野 順子
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等		【科目】教職に関する科目 (中学校・高等学校) 【施行規則に定める科目区分】教育課程及び指導法に関する科目 【各科目に含めることが必要な事項】各教科の指導法 【教員免許状取得のための履修区分】選択必修	

授業概要・目的	本授業は、中学校社会科、及び、高校公民科の学習指導ができるようになるための基礎的素養を学ぶことを目的としています。そのため、できるかぎり実践的な観点から授業を進めていきます。まず、学習指導要領の内容を理解し、授業展開のポイントを解説します。また、わかりやすい授業を行うためのさまざまな方法を実践的に考えます。具体的には指導案の書き方の指導、模擬授業の実践を中心に参加型の授業法を取り入れて、皆さん自身が教師としての心構えを磨き上げていけるよう、互いに刺激し、批評しあう機会をもうけます。まずは「教育実習」で生徒を失望させないきちんとした授業ができるよう、意欲と責任をもって授業に参加してください。
到達目標	本講義の到達目標は以下の通りです。 (1) 中学社会科 (地理、歴史、公民分野)、高校公民科の教師として必要な知識を確実に身につける。 (2) 中学社会科、高校公民科の教師として、高い授業実践力をつける。 (3) 地授業を実践していくうえで最も重要な「教材研究」の力がつく。
授業方法と留意点	まず社会科、公民科教育の理論の整理、そして、可能な範囲で履修者全員に模擬授業を実践してもらうような「実践的・参加型の授業」を目指します。よって、履修者は各回の授業テーマについてのレポート作成が課せられます。また模擬授業の実践では、それぞれの模擬授業終了後は必ず全員で意見交換を行い、問題点と課題点を整理します。ここでのコメント力を鍛えることも重要な目標です。指示した授業準備は必ず行ってください。教師としての自覚もあわせて養成するため、遅刻・無断欠席は認めません。
科目学習の効果 (資格)	中学校1種「社会」、高校1種「公民」の教育職員免許を取得するために必要である。 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教育課程及び指導法に関する科目 各科目に含める必要事項：各教科の指導法

教職科目

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス：社会科・公民科教育の意義	日本における社会科教育の歴史と現状について学び、社会科・公民科教育の意義について考える。	社会科教育の課題について考えてくること。 ※該当するテキスト部分の要約
2	中学校指導要領 (社会)、高校指導要領 (公民) にみる授業の目的	学習指導要領の概要について学ぶ。	各自事前に入手した学習指導要領 (中学：社会科、高校：公民科) の事前読了。 ※該当するテキスト部分の要約
3	中学校社会科、高校公民科の授業展開のポイント (1)	中学社会科・高校公民科での優れた授業実践の解説と批評。	※該当するテキスト部分の要約
4	中学校社会科、高校公民科の授業展開のポイント (2)	中学社会科・高校公民科での優れた授業実践の解説と批評。	※該当するテキスト部分の要約
5	中学校社会科、高校公民科の授業展開のポイント (3)	中学社会科・高校公民科での優れた授業実践の解説と批評。	※該当するテキスト部分の要約
6	教育方法と技術 (1)：ミニ模擬授業	板書・話し方・参考資料の作り方・新聞記事の利用のしかたなど、教育実践の基本的技術について。コンピューター (パワーポイントやインターネット) を用いた授業のやり方。パワーポイントを用いた授業をミニ模擬授業で実演する。	新聞記事の検索。
7	教育方法と技術 (2)：ミニ模擬授業	ディベートを取り入れた授業の工夫について。公民に関わるテーマで模擬ディベートを行いながら学ぶ。調査の意義と方法、研究発表の指導について。ディベートを取り入れたミニ模擬授業を実演する。	ディベート準備。
8	学習指導案の書き方 (1)：ミニ模擬授業	学習指導案の作成指導 (1)：各自が作成した学習指導案のうち、もっとも力を入れるべき箇所をミニ模擬授業として実演する。	学習指導案の作成。
9	学習指導案の書き方 (2)：ミニ模擬授業	学習指導案の作成指導 (2)：各自が作成した学習指導案のうち、もっとも力を入れるべき箇所をミニ模擬授業として実演する。	学習指導案の作成。
10	模擬授業 (1)	模擬授業の実践と指導 (1)	模擬授業の準備。
11	模擬授業 (2)	模擬授業の実践と指導 (2)	模擬授業の準備。
12	模擬授業 (3)	模擬授業の実践と指導 (3)	模擬授業の準備。
13	模擬授業 (4)	模擬授業の実践と指導 (4)	模擬授業の準備。
14	成績評価の方法について	成績評価にあたって重要となる事柄の概要を知り、さまざまな成績評価の方法を学ぶ。	※該当するテキスト部分の要約
15	総括—社会科指導について	授業全体をふりかえって討論し、社会科教師としての課題と責務を確認する。	社会科教師としての自分の課題について考えてくること。

関連科目 社会科・公民科教育法1、社会科・公民科教育法2は連続して受講することが望ましい。

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 (基準)	出席 (全 15 回出席することを目指すこと。成績評価については少なくとも 80%以上は必要)、レポート (レポート提出の締め切りは厳守すること)、平常点 (授業への貢献度、模擬授業等)、及び、最終試験により総合的に評価する。遅刻も欠席とする。
学生への メッセージ	本講義は学生の皆さんの主体的な授業への関与が求められます。一般的な講義に見られるような、教員が一方的に授業を進めていくスタイルではありません。学生の皆さんが授業をつくっていくことになります。ですので、宿題やレポート作成など、授業運営に欠かせない作業を怠ると自分自身はもちろんのこと、周囲に多大な迷惑がかかります。毎時間、責任と意欲を持って講義に出席して下さい。
担当者の 研究室等	7号館3階 大野順子研究室
備考	授業計画は、授業の進捗状況等により変更することがあります。あらかじめご了承ください。

科目名	社会科・公民科教育法Ⅱ	科目名(英文)	Civic Education Method II
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	大野 順子
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等		【科目】教職に関する科目(中学校・高等学校) 【施行規則に定める科目区分】教育課程及び指導法に関する科目 【各科目に含めることが必要な事項】各教科の指導法 【教員免許状取得のための履修区分】選択必修	

授業概要・目的	本授業は、中学校社会科、及び、高校公民科の学習指導ができるようになるための基礎的素養を学ぶことを目的としています。そのため、できるかぎり実践的な観点から授業を進めていきます。まず、学習指導要領の内容を理解し、授業展開のポイントを解説します。また、わかりやすい授業を行うためのさまざまな方法を実践的に考えます。具体的には指導案の書き方の指導、模擬授業の実践を中心に参加型の授業法を取り入れて、皆さん自身が教師としての心構えを磨き上げていけるよう、互いに刺激し、批評しあう機会をもうけます。まずは「教育実習」で生徒を失望させないきちんとした授業ができるよう、意欲と責任をもって授業に参加してください。
到達目標	本講義の到達目標は以下の通りです。 (1) 中学社会科(地理、歴史、公民分野)、高校公民科の教師として必要な知識を確実に身につける。 (2) 中学社会科、高校公民科の教師として、高い授業実践力をつける。 (3) 地授業を実践していくうえで最も重要な「教材研究」の力がつく。
授業方法と留意点	まず社会科、公民科教育の理論の整理、そして、可能な範囲で履修者全員に模擬授業を実践してもらうような「実践型・参加型の授業」を目指します。よって、履修者は各回の授業テーマについてのレポート作成が課せられます。また模擬授業の実践では、それぞれの模擬授業終了後は必ず全員で意見交換を行い、問題点と課題点を整理します。ここでのコメント力を鍛えることも重要な目標です。指示した授業準備は必ず行ってください。教師としての自覚もあわせて養成するため、遅刻・無断欠席は認めません。
科目学習の効果(資格)	中学校1種「社会」、高校1種「公民」の教育職員免許を取得するために必要である。 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教育課程及び指導法に関する科目 各科目に含める必要事項：各教科の指導法

教職科目

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス：社会科・公民科教育の意義	日本における社会科教育の歴史と現状について学び、社会科・公民科教育の意義について考える。	社会科教育の課題について考えてくること。 ※該当するテキスト部分の要約
2	中学校指導要領(社会)、高校指導要領(公民)にみる授業の目的	学習指導要領の概要について学ぶ。	各自事前に入手した学習指導要領(中学：社会科、高校：公民科)の事前読了。 ※該当するテキスト部分の要約
3	中学校社会科、高校公民科の授業展開のポイント(1)	中学社会科・高校公民科での優れた授業実践の解説と批評。	※該当するテキスト部分の要約
4	中学校社会科、高校公民科の授業展開のポイント(2)	中学社会科・高校公民科での優れた授業実践の解説と批評。	※該当するテキスト部分の要約
5	中学校社会科、高校公民科の授業展開のポイント(3)	中学社会科・高校公民科での優れた授業実践の解説と批評。	※該当するテキスト部分の要約
6	教育方法と技術(1)：ミニ模擬授業	板書・話し方・参考資料の作り方・新聞記事の利用のしかたなど、教育実践の基本的技術について。コンピューター(パワーポイントやインターネット)を用いた授業のやり方。パワーポイントを用いた授業をミニ模擬授業で実演する。	新聞記事の検索。
7	教育方法と技術(2)：ミニ模擬授業	ディベートを取り入れた授業の工夫について。公民に関わるテーマで模擬ディベートを行いながら学ぶ。調査の意義と方法、研究発表の指導について。ディベートを取り入れたミニ模擬授業を実演する。	ディベート準備。
8	学習指導案の書き方(1)：ミニ模擬授業	学習指導案の作成指導(1)：各自が作成した学習指導案のうち、もっとも力を入れるべき箇所をミニ模擬授業として実演する。	学習指導案の作成。
9	学習指導案の書き方(2)：ミニ模擬授業	学習指導案の作成指導(2)：各自が作成した学習指導案のうち、もっとも力を入れるべき箇所をミニ模擬授業として実演する。	学習指導案の作成。
10	模擬授業(1)	模擬授業の実践と指導(1)	模擬授業の準備。
11	模擬授業(2)	模擬授業の実践と指導(2)	模擬授業の準備。
12	模擬授業(3)	模擬授業の実践と指導(3)	模擬授業の準備。
13	模擬授業(4)	模擬授業の実践と指導(4)	模擬授業の準備。
14	成績評価の方法について	成績評価にあたって重要となる事柄の概要を知り、さまざまな成績評価の方法を学ぶ。	※該当するテキスト部分の要約
15	総括—社会科指導について	授業全体をふりかえって討論し、社会科教師としての課題と責務を確認する。	社会科教師としての自分の課題について考えてくること。

関連科目 社会科・公民科教育法1、社会科・公民科教育法2は連続して受講することが望ましい。

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 (基準)	出席(全15回出席すること。成績評価については少なくとも80%以上は必要)、レポート(レポート提出の締め切りは厳守すること)、平常点(授業への貢献度、模擬授業等)、及び、最終試験により総合的に評価する。遅刻も欠席とする。
学生への メッセージ	本講義は学生の皆さんの主体的な授業への関与が求められます。一般的な講義に見られるような、教員が一方的に授業を進めていくスタイルではありません。学生の皆さんが授業をつくっていくことになります。ですので、宿題やレポート作成など、授業運営に欠かせない作業を怠ると自分自身はもちろんのこと、周囲に多大な迷惑がかかります。毎時間、責任と意欲を持って講義に出席して下さい。
担当者の 研究室等	7号館3階 大野順子研究室
備考	授業計画は、授業の進捗状況等により変更することがあります。あらかじめご了承ください。

科目名	社会科・地歴科教育法Ⅱ	科目名(英文)	Geography and History Education Method II
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	井上 正英
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等		【科目】教職に関する科目(中学校・高等学校) 【施行規則に定める科目区分】教育課程及び指導法に関する科目 【各科目に含めることが必要な事項】各教科の指導法 【教員免許状取得のための履修区分】選択必修	

授業概要・目的	学習指導要領を元に具体的に授業展開を行う基本的知識・技能を習得する。全員が模擬授業を実践し将来の教員として必要な授業技術の向上を目指す。
到達目標	将来の教員として必要な知識・方法論を習得する。
授業方法と留意点	講義と学生諸君の模擬授業実践発表や討論を中心として行うので、積極的な発表、発言が望まれる。
科目学習の効果(資格)	中学・高校教員免許(社会科、地歴科) 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教育課程及び指導法に関する科目 各科目に含める必要事項：各教科の指導法

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	
			事前	事後
1	学習指導要領歴史的分野の内容等の確認。	歴史的分野の時代区分と基礎的事項の確認	事前 学習指導要領の通読	事後 講義後指示する
2	学習指導要領地理的分野の内容等の確認。	世界と日本の地理的分野での基礎的事項の確認	事前 学習指導要領の通読	事後 講義後指示する
3	各個人による模擬授業実践発表と批評 1	各個人が地理・歴史科学習指導案を元に模擬授業を実施し、内容を批評検討する。	事前 各自模擬授業指導案を作成	事後 授業での様々な意見を元に再度授業案を作成、提出する
4	各個人による模擬授業実践発表と批評 2	各個人が地理・歴史科学習指導案を元に模擬授業を実施し、内容を批評検討する。	事前 各自模擬授業指導案を作成	事後 授業での様々な意見を元に再度授業案を作成、提出する
5	各個人による模擬授業実践発表と批評 3	各個人が地理・歴史科学習指導案を元に模擬授業を実施し、内容を批評検討する。	事前 各自模擬授業指導案を作成	事後 授業での様々な意見を元に再度授業案を作成、提出する
6	各個人による模擬授業実践発表と批評 4	各個人が地理・歴史科学習指導案を元に模擬授業を実施し、内容を批評検討する。	事前 各自模擬授業指導案を作成	事後 授業での様々な意見を元に再度授業案を作成、提出する
7	各個人による模擬授業実践発表と批評 5	各個人が地理・歴史科学習指導案を元に模擬授業を実施し、内容を批評検討する。	事前 各自模擬授業指導案を作成	事後 授業での様々な意見を元に再度授業案を作成、提出する
8	各個人による模擬授業実践発表と批評 6	各個人が地理・歴史科学習指導案を元に模擬授業を実施し、内容を批評検討する。	事前 各自模擬授業指導案を作成	事後 授業での様々な意見を元に再度授業案を作成、提出する
9	各個人による模擬授業実践発表と批評 7	各個人が地理・歴史科学習指導案を元に模擬授業を実施し、内容を批評検討する。	事前 各自模擬授業指導案を作成	事後 授業での様々な意見を元に再度授業案を作成、提出する
10	各個人による模擬授業実践発表と批評 8	各個人が地理・歴史科学習指導案を元に模擬授業を実施し、内容を批評検討する。	事前 各自模擬授業指導案を作成	事後 授業での様々な意見を元に再度授業案を作成、提出する
11	各個人による模擬授業実践発表と批評 9	各個人が地理・歴史科学習指導案を元に模擬授業を実施し、内容を批評検討する。	事前 各自模擬授業指導案を作成	事後 授業での様々な意見を元に再度授業案を作成、提出する
12	各個人による模擬授業実践発表と批評 10	各個人が地理・歴史科学習指導案を元に模擬授業を実施し、内容を批評検討する。	事前 各自模擬授業指導案を作成	事後 授業での様々な意見を元に再度授業案を作成、提出する
13	各個人による模擬授業実践発表と批評 11	各個人が地理・歴史科学習指導案を元に模擬授業を実施し、内容を批評検討する。	事前 各自模擬授業指導案を作成	事後 授業での様々な意見を元に再度授業案を作成、提出する
14	授業実践発表の年間総括 1	後期授業全体についての総括と反省点を討論する。	事前 全員の授業計画案を再度確認	事後 レポート作成、提出
15	授業実践発表の年間総括 2	後期授業全体についての講義担当者からの総括。	事後	レポート作成、提出

関連科目	社会科・地歴科教育法Ⅰ
------	-------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	レポート及び講義での発表・発言をもとに総合的に判定する。
----------	------------------------------

学生へのメッセージ	教職科目であり、教職に就くあるいは教育に高い関心を持っていることが受講の前提となります。その上で社会の変化とそれに対応する教育の動きを理解し、志高く理想的な社会科・地歴科を創造する基礎を養いませんか。
-----------	--

担当者の研究室等	11号館 1階 教務課
----------	-------------

教職科目

科目名	社会科・地歴科教育法 I	科目名 (英文)	Geography and History Education Method I
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	井上 正英
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等		【科目】教職に関する科目 (中学校・高等学校) 【施行規則に定める科目区分】教育課程及び指導法に関する科目 【各科目に含めることが必要な事項】・各教科の指導法 【教員免許状取得のための履修区分】選択必修	

授業概要・目的	近代教育制度の変遷を考察する中で、社会科・地歴科が果たすそれぞれの使命と責任を理解する。そのうえで具体的に授業展開を行う基本的知識・技能を習得する。このほか現場で起こる各種の問題についても適宜説明する。
到達目標	将来の教員として必要な知識・方法論等を習得する。
授業方法と留意点	講義と学生諸君の発表や討論を中心として行うので、積極的な発言が望まれる。
科目学習の効果 (資格)	中学・高校教員免許 (社会科、地歴科) 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教育課程及び指導法に関する科目 各科目に含める必要事項：各教科の指導法

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	
			事前	事後
1	ガイダンスと年間計画	年間講義内容の概略・受講上の注意点・成績評価について	事前 既修の「教師論」「教育原理」を復習しておく。	事後 授業終了時に指示する。
2	近代学校教育制度の変遷と社会科教育 1	江戸末期から明治の学制の発布について学ぶ。	事前 江戸末期から明治期の教育問題について調べておく。	事後 授業終了時に指示する。
3	近代学校教育制度の変遷と社会科教育 2	明治期の教育制度の変遷について学ぶその1。	事前 明治期教育の大まかな変遷について調べておく。	事後 授業終了時に指示する。
4	近代学校教育制度の変遷と社会科教育 3	明治期の教育制度の変遷について学ぶその2。	事前 明治期教育の大まかな変遷について調べておく。	事後 授業終了時に指示する。
5	近代学校教育制度の変遷と社会科教育 4	大正自由教育から国民科の成立について学ぶ。	事前 大正期から昭和初期の教育について調べておく。	事後 授業終了時に指示する。
6	近代学校教育制度の変遷と社会科教育 5	戦時下教育から占領下での民主化、および社会科の成立までを学ぶ。	事前 戦時下教育から占領下での教育の変遷を調べておく	事後 授業終了時に指示する。
7	学習指導要領について 1	戦後の学力観の変化と指導要領改訂の変遷を学ぶ。	事前 中高学習指導要領解説社会編・地理歴史編を読んでおく。	事後 授業終了時に指示する。
8	学習指導要領について 2	戦後の学力観の変化と指導要領改訂の変遷を学ぶ。	事前 中高学習指導要領解説社会編・地理歴史編を読んでおく。	事後 授業終了時に指示する。
9	学習指導案の作成と活用を学ぶ 1	地理・歴史科学習指導案作成の基礎を身に付け、授業への活用方法を学ぶ。	事前 学習指導案とは何かを調べておく。	事後 授業終了時に指示する。
10	学習指導案の作成と活用を学ぶ 2	地理・歴史科学習指導案作成の基礎を身に付け、授業への活用方法を学ぶ。	事前 与えられたテーマで各自学習指導案を作成し発表に備える。	事後 授業終了時に指示する。
11	学習指導案のプレゼンテーション 1	グループ毎に同一テーマでの学習指導案を作成・発表し、問題点について討議する。	事前 グループ内で指導案を作成しておくこと。	事後 授業終了時に指示する。
12	学習指導案のプレゼンテーション 2	グループ毎に同一テーマでの学習指導案を作成・発表し、問題点について討議する。	事前 グループ内で指導案を作成しておくこと。	事後 授業終了時に指示する。
13	学習指導案のプレゼンテーション 3	グループ毎に同一テーマでの学習指導案を作成・発表し、問題点について討議する。	事前 グループ内で指導案を作成しておくこと。	事後 授業終了時に指示する。
14	授業記録について	社会科教員として授業を見る目を鍛える為の授業記録の形式や方法について学ぶ。	事前 どのような授業記録方法があるかを考えておく。	事後 授業終了時に指示する。
15	評価の方法と理論	生徒の学習成果を検証するための視点と評価方法について学ぶ。	事前 評価方法の種類について考えておく。	事後 評価は自己の教育技術の反映であることを考える。

関連科目 社会科・地歴科教育法 II

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準) レポート及び講義での発表・発言をもとに総合的に判定する。

学生への 教職科目であり、教職に就くあるいは教育に高い関心を持っていることが受講の前提となります。その上で社会の変化とそれに対応する教育の動

メッセージ	きを理解し、志高く理想的な社会科・地歴科を創造する基礎を養いませんか。
担当者の 研究室等	11号館 1階 教務課
備考	

科目名	生徒指導論	科目名(英文)	Studies of Guidance and Counseling
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	朝日 素明
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等	【科目】教職に関する科目(中学校・高等学校) 【施行規則に定める科目区分】生徒指導、教育相談及び進路指導等に関する科目【各科目に含めることが必要な事項】・生徒指導の理論及び方法 ・進路指導の理論及び方法【教員免許状取得のための履修区分】必修		

授業概要・目的	生徒指導、進路指導は、学校教育をすすめるうえで重要な役割を占めています。非行、いじめ、不登校、学級崩壊、受験競争、進路のミスマッチなど、生徒指導・進路指導上の諸問題については、その解決の重要性が認識されています。本科目では、多くの具体的な問題事象に通底する基本的で普遍的な原理について学びます。
到達目標	学生は、生徒指導、進路指導の意義や指導の方法に関する基本的な事柄について必要最低限の知識を獲得し、さまざまな問題事象を適切に捉え対処する基礎力を身につけることができます。
授業方法と留意点	プレゼンテーションソフトを用いた講義を中心に、内容をめぐるディスカッション等も織り交ぜて授業を進めます。また時折、レポートを課します。「事前・事後学習課題」はすべて事前課題です。事後課題については別途、指示します。
科目学習の効果(資格)	教員免許取得上必修 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：生徒指導、教育相談及び進路指導に関する科目 各科目に含める必要事項：生徒指導の理論及び方法、進路指導の理論及び方法

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	生徒指導の実践	生徒指導の実践課題と領域	テキスト pp. 10-24
3	生徒指導の理論(1)	理論の重要性 発達に関する理論	テキスト pp. 32-39
4	生徒指導の理論(2)	生徒指導における治療的支援に関する理論 相談理論など	テキスト pp. 39-42
5	生徒理解の進め方(1)	生徒理解の意義と目的	テキスト pp. 43-46
6	生徒理解の進め方(2)	生徒理解の方法 生徒の自己理解の支援	テキスト pp. 46-56
7	生徒理解の進め方(3)	教師の生徒認知のありよう	テキスト pp. 56-61
8	中間試験	これまでの授業内容についての試験	前回までの復習
9	学級経営の進め方(1)	学級経営の意義 学級集団の役割・機能	テキスト pp. 63-68
10	学級経営の進め方(2)	学級集団の力学 学級経営の方法	テキスト pp. 68-74
11	学級経営の進め方(3)	教師のリーダーシップ	テキスト pp. 74-79
12	生徒指導上の諸問題の理解と対応	生徒指導上の諸問題とは 最近の諸問題の動向 諸問題にどう対応するか	生徒指導上の諸問題に関する配布資料
13	進路指導の意義と課題	進路指導の意義と課題 進路指導に関する諸理論	テキスト pp. 135-159
14	勤労観・職業観の形成と変容	青少年の勤労観・職業観 勤労観・職業観の形成と変容	テキスト pp. 176-195
15	学校教育における進路指導の実践展開	進路指導における「ガイダンスの機能」 進路指導実践の展開モデル	テキスト pp. 215-234

関連科目 教職科目全般、とりわけ「教育原理」「教師論」「教育心理学」「特別活動の理論と方法」「教育経営論」に関連する事柄を含みます。

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	生徒指導・進路指導	高橋超・石井真治・熊谷信順編	ミネルヴァ書房
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			適宜指示します。
2				
3				

評価方法(基準)	中間試験、定期試験の得点の他、レポートの内容、受講に係る積極的態度により、総合的に成績を判定します。定期試験を受験しなかった場合、成績判定はしません。
学生へのメッセージ	生徒指導、進路指導を学ぶ原資になる自らの体験は大事です。さらに自らの体験を対象化して考える習慣をつけましょう。そのために、基礎的な知識をしっかりと身につけてください。授業への遅刻、無断欠席・早退等は厳禁です。生徒指導を行おうとする者としての適格性が問われます。
担当者の研究室等	7号館3階 朝日研究室
備考	「未来ポートフォリオ」のリマインダを、すべてを受信するよう設定し、情報を確実に受け取ることができるようにしましょう。

科目名	道德教育の研究	科目名(英文)	Studies of Moral Education
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	小山 裕樹
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等		【科目】教職に関する科目(中学校) 【施行規則に定める科目区分】教育課程及び指導法に関する科目 【各科目に含めることが必要な事項】・道德の指導法 【教員免許状取得のための履修区分】必修 【科目】教科又は教職に関する科目(高等学校) 【施行規則に定める科目区分】教科又は教職に関する科目 【教員免許状取得のための履修区分】選択	

授業概要・目的	この授業では、日本の道德教育に関する基礎的な知識や考え方(日本の道德教育の歴史、道德教育の内容を構成する諸概念、道德性の発達理論、等)について解説を加え、実際に学校でどのように道德教育を行えばよいのかを考えていきます。
到達目標	受講者が日本の道德教育に関する基礎的な知識や考え方を身に付けながら、道德教育に関する具体的な授業計画を立案することができるようになることを目標とします。
授業方法と留意点	授業のスケジュールはおおよそ下記の通りで、基本的には講義形式で行います。なお、授業では、折に触れて受講者にコメントペーパーを書いてもらって皆で関心を共有し合うとともに、その都度のテーマに対して多角的な視点から検討し合えるように配慮します。
科目学習の効果(資格)	中学校教諭1種免許状の取得に必要です。 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目:教育課程及び指導法に関する科目 各項目に含める必要事項:道德の指導法

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス:道德教育をどのように考えるか	①現在、道德教育がどのように考えられているかを、確認する。 ②読み物教材の分析を通して、道德教育に対するアプローチ法を考える。	自分が受けてきた道德教育がどのようなものだったか思い出しておく。
2	日本の道德教育の歴史①:戦前の道德教育	①明治から昭和初期にかけての道德教育の歴史を概観する。 ②「個人主義」について多角的に考える。	授業の内容を踏まえたうえで、「個人主義」についてより深く考える。
3	日本の道德教育の歴史②:戦後の道德教育	道德教育に関する戦後すぐの教育改革の動向と、それに対するいわゆる保守反動的な動きについて考える。	政治的・経済的状況との関わりから、道德教育の歴史の変遷を整理する。
4	日本の道德教育の歴史③:現代の道德教育	①近年の道德教育をめぐる教育改革の動向を概観する。 ②道德教育推進論の論拠の一つともなっている「いじめ」問題について考えを深める。	自分の周囲で起こった「いじめ」体験について思い出しておく。さらに、その体験について授業の内容を踏まえたうえで再考する。
5	諸外国の道德教育	①諸外国の道德教育の状況について概観する。 ②諸外国の道德教育を事例として、道德教育と「宗教教育」との関係について考える。	諸外国の道德教育と自分の受けてきた道德教育とを比較検討し、共通点と相違点を整理する。
6	道德教育の内容①:自我	学習指導要領において道德教育の内容の一つを成すとされている「主として自分自身に関すること」をめぐり、「自我」(=「私」)について道德教育の視点から考える。	普段の生活や授業の内容を振り返り、「私」のあり方についてより深く考える。
7	道德教育の内容②:他者	学習指導要領において道德教育の内容の一つを成すとされている「主として他の人とのかわりに関すること」をめぐり、道德教育の視点から「他者」との関わりの中で「私」を捉え直す。	普段の生活を振り返り、そこでの「私」と「他者」との関わりについて考えておく。さらに、授業を踏まえたうえで、それについて再考する。
8	道德教育の内容③:自然	学習指導要領において道德教育の内容の一つを成すとされている「主として自然や崇高なものとのかわりに関すること」をめぐり、道德教育(とりわけ「いのちの教育」)の実践例を検討する。	「いのちの教育」の実践例について、授業の内容を踏まえたうえで、より深く考える。
9	道德教育の内容④:美と崇高	学習指導要領において道德教育の内容の一つを成すとされている「主として自然や崇高なものとのかわりに関すること」をめぐり、道德教育をいわゆる「情操教育」との関わりの中で考える。	自分が受けてきた「情操教育」について思い出しておく。さらに、授業の内容を踏まえたうえで、「情操教育」の可能性について再考する。
10	道德教育の内容⑤:社会	①学習指導要領において道德教育の内容の一つを成すとされている「主として集団や社会とのかわりに関すること」をめぐり、道德教育の視点から「社会」との関わりの中で「私」を捉え直す。 ②いわゆる「スクールカースト」について考える。	自分の周囲に生じた「スクールカースト」の体験について思い出しておく。さらに、その体験について授業の内容を踏まえたうえで再考する。
11	道德性の発達	①コールバーグおよびギリガンによる道德性の発達理論を検討する。 ②道德性の発達理論を応用したいいわゆる「モラル・ジレンマ授業」について理解を深める。	「モラル・ジレンマ授業」について構想するための準備をする。
12	道德の授業の位置づけ	①教育課程編成上の道德教育の位置づけを確認する。 ②教科教育のなかで行われた道德教育の実践例をもとに、道德教育の幅広い可能性について考える。	各教科教育と道德教育との関わりについて整理する。
13	学習指導案の作成と授業の展開①	①学校における道德教育の「要」とされている「道德の時間」の位置づけについて	授業時に指示する。

			て考える。 ②「道徳の時間」を計画的に進めるための学習指導案の書き方について具体的に考えていく。	
	14	学習指導案の作成と授業の展開②	「道徳の時間」の学習指導案の書き方について、引き続き具体的に考えていく。	授業時に指示する。
	15	まとめ:道徳教育と教師の責任	①道徳教育についてまとめとして考えるために、ある実験授業の記録を扱う。 ②この実験授業において生じた結果から、道徳教育が有する「可能性」や「限界」等について考察する。	授業時に指示する。
関連科目	教職科目全体と関連がありますので、他の授業で学習した内容と関連づけて考えてみるのが大切です。			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	教科書は特に指定せず、授業中にレジュメと資料を配布します。		
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	中学校学習指導要領解説：道徳編	文部科学省	日本文教出版
	2	その他の参考書に関しては、授業中に適宜紹介します。		
	3			
評価方法 (基準)	授業中に折に触れて書いてもらうコメントペーパーや、学期末試験の結果などをもとに、総合的に評価します。			
学生への メッセージ	受講者の皆さんの積極的な参加を期待しています。			
担当者の 研究室等	7号館3階(小山研究室)			
備考				

科目名	特別活動の理論と方法	科目名(英文)	Theories and Methods for Special Activities
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	林 茂樹
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等		【科目】教職に関する科目(中学校・高等学校) 【施行規則に定める科目区分】教育課程及び指導法に関する科目 【各科目に含めることが必要な事項】・特別活動の指導法 【教員免許状取得のための履修区分】必修	

授業概要・目的	(1)学級活動(ホームルーム活動)、生徒会活動、学校行事についての指導目標や内容に関する基礎的・基本的な知識を整理する。(2)学校現場では、望ましい集団活動が生徒の個人的な資質と社会的な資質を育むとともに、学習活動を統合し補完する役割をも果たしていることについて理解を深める。(3)「学級づくり」に焦点をあてて、教師と生徒の関係づくり、生徒どうしとの関係づくりが課題の解決にどのように作用しているかについて、事例をもとに考察する。
到達目標	学級担任として、集団活動を育て、教育諸課題に対応するとともに、安心して学校生活を送ることができる学級をつくる実践的な方法を身に付ける。
授業方法と留意点	テキストやプリント教材、視聴覚教材をもとに講義をすすめる予定である。特別活動は「自主的実践的な態度を育む場づくり」を目標とし、「為すことによって学ぶ」スタイルが求められている。そのことを踏まえ、集団をファンリテートすることができるよう、自身の「自己存在感」「共感的な人間関係」「自己決定」の充実を図るために、グループワークやグループ討議への積極的な参加を求める。
科目学習の効果(資格)	教員免許(中学校・高等学校)取得上必修科目である。 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教育課程及び指導法に関する科目 各科目に含める必要事項：特別活動の指導法

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	特別活動と学級づくり	学級づくりとは何か、なぜ学級づくりなのか、「いじめ」「子どもの荒れ」「学級崩壊」「進路の壁」について	教科書第9章をよく読んでおく。学習事項を整理し感想をまとめておく。
3	特別活動の歴史、領域、方法	学習指導要領における位置づけの変遷、課題の変化、目標の変化、学校種別の目標のちがひ	教科書第2・3章をよく読んでおく。学習事項を整理し感想をまとめておく
4	特別活動と生徒指導	生徒指導との関連、積極的生徒指導に果たす役割、自己指導能力の育成	教科書第10章をよく読んでおく。学習事項を整理し感想をまとめておく。
5	学級活動	学級活動の目標・内容、年間計画、課題、実践的手法	教科書第4章をよく読んでおく。学習事項を整理し感想をまとめておく。
6	生徒会・学校行事	生徒会活動の歴史・目標・内容、学校行事の歴史・種類・内容・視点	教科書第5・6章をよく読んでおく。学習事項を整理し感想をまとめておく。
7	学習指導要領における位置づけと改定の要点	教育課程における位置づけ、現行学習指導要領における課題、改定の要点、言語能力の重視について	教科書資料編をよく読んでおく。学習事項を整理し感想をまとめておく。
8	特別活動の評価	評価の対象、機能、方法、評価結果の活用	配布プリントをよく読んでおく。
9	特別活動と総合的な学習の時間・道徳教育	総合的な学習の時間・道徳教育との関連とそれぞれの教育的意義	教科書第7・8章をよく読んでおく。学習事項を整理し感想をまとめておく。
10	特別活動と教育課題①いじめ・不登校	事例をもとにグループワーク、グループ討議を行う。	当該教育課題に関する報道内容等をチェックしておく。ミニレポートを作成し提出する。
11	特別活動と教育課題②体罰・非行	同上	同上
12	特別活動と教育課題③ジェンダー・マイノリティ	同上	同上
13	特別活動と教育課題④キャリア教育・進路選択支援	同上	同上
14	指導計画・指導案の作成	全体計画・年間指導計画の作成と内容の取り扱い、配慮事項等、指導案の作成	配布プリントをよく読んでおく
15	まとめ～子どもの自尊感情を高めるということ	集団的な自尊感情を育むことの重要性について	全学習事項について再度振り返り整理する。

関連科目 すべての教職科目と関連するが、特に、「教師論」「教育原理」「教育心理学」で学習したことと関連づけるとともに、「教育方法論」「生徒指導論」「教育社会学」などの学習につなげることが大切である。

番号	書籍名	著者名	出版社名
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
2			
3			

評価方法(基準) 定期試験(50%)、レポート(30%)、コメントペーパー及び授業への参加状況(20%)を総合的に評価する。

学生へのメッセージ 学級はもともと「ある」ものではなく、つくって「なる」ものだと言われる。学級づくりには多様な方法論が存在するが、要は子どもどうしがつながりあって、心地よい関係の中で育つことができる環境をつくり、維持するために努力するというところに尽きる。それは、どのような時代にあっても教師であることの醍醐味である。

担当者の研究室等 7号館3階(林研究室)